# RADICAL 紙のプロレス

No.18
1999



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!
## 桜庭和志

オイオイオイオイ!
ホントに襲撃三昧だよ!
衝撃のE-mailインタビュー敢行!
## 小川直也

奈落の底から這いあがる!
## 髙田延彦

バトラーツ
甦らせた
札幌磁場
レジェンド

MEN'Sテイオー、杉作J太郎の
青空アメリカンプロレス道場

どうするどうなる「W井上」
## 井上京子

待望の復活「S多重アリバイ」
祝当選! 芦別市議会議員
## 将軍KYワカマツ

ノリにのる絶好調格闘家登場!
## 小路晃&宇野薫

こりゃ
「強くて・凄くて・面白い」
でしょ

トンダ! オコッタ! ワラッタ!
# サクラバ七変化!!

徹底検証!
原始猿人
ヴァーゴン!!

「生きる400戦無敗」に
遂に『紙プロ』がアクセス!
## ヒクソン・グレイシー

ガイジンさん、いらっしゃい!
## フランク・シャムロック
## ゲーリー・グッドリッジ

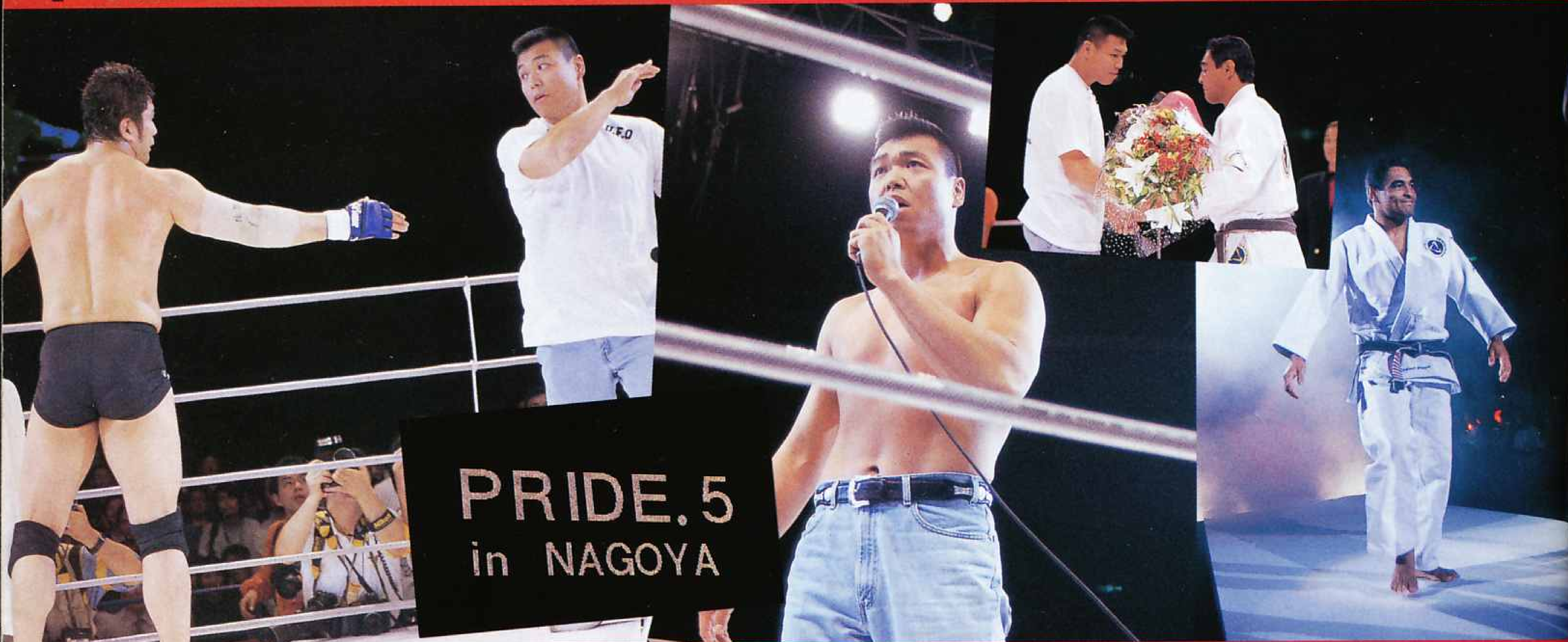
熱き血の鎖!! 初の兄弟揃い踏み
## エンセン井上／イーゲン井上

紙のプロレス RADICAL No.18
発売元：(株)ソニー・マガジンズ 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188



PlayStation
ファイヤープロレスリングG
全てが、
ここにある…
登場レスラーおよそ300人!!
充実のエディット機能、多彩なモードで遊び方は無限大!!
ワンナイトマッチ
最大4人同時プレイで楽しめるフリー対戦モード。団体、種目、階級の壁を超えた自由な対戦が可能。エディットレスラーの使用もO.K.
FIGHT
ファイティングロード
道場入門からトップレスラーになるまでの軌跡を描くストーリーモード。
闘い方や結果によって展開が変化するぞ!?
・受け身
・バックの取り合い
・ロープワーク
エディット機能
『ファイプロG』はエディット機能大充実!
レスラーエディットでは、名前、ビジュアル、技などの設定が可能。団体エディットでは、団体名、シンボルマーク、所属選手を自由に設定し、夢の団体を設立することもできるぞ!
エディットランキング
自分の作ったレスラーを使ってコンピュータVSコンピュータで行なう真剣勝負。技の連携、試合運び等を考えながら思考ロジックを設定し、究極の格闘理論を完成させろ!
29位 山田 作造
30位 片寄 泰蔵
ランキング戦
レスラーエディット
セーブ
上位のランキングの選手と試合をします。
タイトルマッチ
『ファイプロG』には、17種類のチャンピオンベルトが存在する。獲得したベルトを賭けての'ダブルタイトルマッチ'等も可能。すべてのベルトを手に入れろ!!
03:55
多彩なプレイモード
3~16人(組)まで参加可能な'ワンナイトトーナメント'、'バトルロイヤル'、'デスマッチ'、'グルーサムファイティング'等々、様々なプレイモードを用意。
ポケットステーション対応
ポケステでは、「バーベル上げ」などのミニゲームをプレイ可能。その成績はエディットレスラーのパラメータに還元することもできるぞ!これで24時間'ファイプロ漬け'だ!
1999年6月24日発売
定価¥5,800(disc 1枚・税別)
●1~4人用(4人同時プレイ可能)
●ポケットステーション、マルチタップ、デュアルショック(振動)対応
●メモリーカード10ブロック、ポケットステーション5ブロック使用
PocketStation対応
アナログコントローラ(SCPH 1200) DUAL SHOCK 対応
HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN
ヒューマン株式会社 〒180-8555 東京都武蔵野市吉祥寺南町4-4-13
■ヒューマンテレホン通信 0422-70-7796 ■ホームページアドレス http://www.human.co.jp
"PS"マークおよび"PlayStation"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標、"DUAL SHOCK"および"PocketStation"は同社の商標です。
©HUMAN 1999

# 『新・四角いジャングル』に地殻変動!!




# 『PRIDE』のマグマが



# 蠢き始めた——!!

桜庭和志が“怒りのエネルギー”でカーウソン・グレイシー一派を壊滅させ、高田延彦は約10ヶ月ぶりの勝ち名乗りを受けた。マーク・ケアー戦を逃したエンセン井上はその怒りを右拳に込め、小路晃は“北の最終兵器”相手にひるむことなく向き合った。アレクサンダー大塚&村上一成を従えた小川直也と、柔術のデモンストレーションを行ったヒクソン・グレイシーは第一次接近遭遇をはたした。そして、その小川がメイン終了後に高田に噛みつく!
『PRIDE.』のプレートが地底に蠢く見えないマグマによって地殻変動を起こしている。「熱狂」できるのと同時に「観察」もできる贅沢な“場”として転がる『PRIDE.』は、新しいジャンルの息吹なのか？　それとも究極のプロレスの進化形なのか？——。もはやプレートの変動から一時たりとも目が離せない

一条の光か闇からの使者か？ 聖か邪か？ 正義か悪か？ 目覚めるか眠るか？




# 小川直也

## E-mail INTERVIEW

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／森鷹博
photographs by Takahiro "andy" Mori

ヤンチャ坊主、もといヤンチャ宇宙人・ナオヤオガワがUFOに乗って4・29『PRIDE.5』のリングに飛来した！ 一瞬ヒヤリとしたものの、何事もなく平和に終わったヒクソン＆ホイラー・グレイシー兄弟への花束贈呈。しかし、それだけで済むわけがなく、ヤンチャ宇宙人はメイン終了直後に高田延彦を挑発し、リングを侵略するという暴挙or快挙に出た！ "格闘技"という厳格なイメージの場に舞い降りたUFOは、賛否両論渦巻く中、非常に漫画チックで無軌道で、それでいてオんモシレェ飛びっぷりを見せ始めたというわけである。

「強い」からどんな行為も許されるのか？ 何をやっても許されるということが「強い」ということなのか？ ナオヤオガワは一体何を考えているのか？ ナオヤオガワとは一体何者なのか？ 7・4横浜の『6』から、そのナオヤオガワが本格参戦を果たす『PRIDE.』は、これからどんな方向に転がっていくのか――？ 様々な問題提起を含んだUFOの襲撃三昧はマット界にどんな影響を与えるのだろうか――。

現在、アメリカ防衛戦サーキットに出ているNWA世界王者に、出発直前、『PRIDE.』の話題とPRIVATEな話題の両面から30の質問をE-mailでぶつけてみました。答えは直筆（直メール）。原文ママです。

PRIDE.のリングにUFO飛来！ 襲撃三昧本格化!!

【E-mailインタビュー／PRIDE編】

# 『PRIDE.5』での小川直也



とてつもなく長い休憩の後、「『PRIDE.』のリングに、遂にこの男が登場！」のアナウンスとともに、かつてはハリー・レイス、リック・フレアーらが使用していたNWA世界ヘビー級王者のテーマ、『ギャラクシー・エクスプレス』に乗ってオーちゃんが花道から入場！　もちろん肩には燦然と輝くNWAのベルトがかかっていた





マイクを握った小川は、「次回の『PRIDE.』より参戦します。まだ相手は決まってませんが、『いつ、何時、誰の挑戦でも受ける』というＵＦＯのスタイルを貫いていきたいと思います」と多少照れながら挨拶した。その後、「今日はボクだけじゃありません」と、先日ＵＦＯに入団した村上一成、そして、『PRIDE.４』でマルコ・ファスを破ったバトラーツ・アレクサンダー大塚の２人を「出てこ～い！」（声が裏がえりバージョン）と叫びながら呼び込んだ。マイクを握ったアレクは「今回は出なかったんですけども、UFOとか参戦して、考え方、進む道というものが、少し共通するものがあるのでここに来ました」。続いて村上は「今後UFOとしてこのPRIDEのリングに帰って来たいと思います」と決意表明。その後、３人のUFOユニットは、フェンス前のリングサイドに陣取り、ヒクソンの柔術デモンストレーション以降の試合を観戦した



## 【E-mailインタビュー／PRIDE編】

**Q1** なぜPRIDE.のリングに上がる決意をしたのか？

**A** UFOはPRIDE.に限らず、いろいろな団体に上がることができる（テレビ局の縛りがないから）団体。だから、ファンの気持ちになって、ファンに面白いカードを提供することでファンに夢を与えていく団体。だから、その方向を目指した第1弾ってことですよね～。

**Q2** 4・29名古屋では、アレクサンダー大塚、村上一成両選手を呼び込む際、「出てこい！」と叫びました。あのとき、声が裏がえってしまったのは、PRIDE.初登場の緊張があったのか？

**A** ん～、あの場面を思い出すと恥ずかしいね～。ヘンにカッコつけようとしたら、アララ！……と。たぶん、天罰でしょう。

**Q3** 4・29名古屋では、メイン終了後にリング・ジャックし、高田延彦選手に噛みつきましたが、なぜ高田選手を標的にするのですか？

**A** なぜ？って、おいおいおいおい、ちょっと待った！　皆さん、ちょっといいですか～？　ここは冷静になって振り返ってみてくださいよ～。標的も何も……事の発端は、あっち（高田選手）から東スポを通じて、3度目のヒクソンとの対決へのステップとして、船木（誠勝選手と俺を指名したからよ。『紙プロ』さん、この部分の記事を東スポから取り寄せて載っけてくださ～い。そうすれば、すべてが解決するはずですよ。

※問題の東スポは次ページに

**Q4** 高田選手の久しぶりの勝利に酔っていたファンからは「チンピラみたいな真似するな」という声や、「帰れコール」「ブーイング」も上がっていたが？

**A** ん～、いろいろなご声援ありがとうございま～す。ん？　ってことは、PRIDE.ファンの皆様、俺ってヒールなんですか？　教えてくださ～い。

**Q5** 高田選手と闘ったら勝てる自信はあるのか？

**A** モチロン！……あっ！　いや～、やってみないとわかりませ～ん！

**Q6** 同じく4・29名古屋では、ヒクソン・グレイシーに花束を渡したが、ヒクソンに噛みつかなかった理由が「PRIDE.側に止められていたから」というのは本当か？　本当ならPRIDE.側は何を恐れて止めたのか？

**A** ん～、これはマジっすヨ！　PRIDE.側が「ヒクソンはこういったことが理解できない選手ですから、とにかくここは抑えてください。もしやったらエキシビションやらずに帰ってしまい大変なことになりますから。それにPRIDE.はスポーツライクな爽やかなイメージが売りですから！」と、言われました。ということは、俺って少なくとも爽やかではないし、俺よりヒクソンの方が大事なんだろうな～……い、いけねっ！　俺はヒクソンに嫉妬してるかも……。余談だけど、ヒクソンに花束贈呈してる時、皆さんの期待（ヒクソンに絡むこと）が、俺の背中にビンビン伝わってきました。期待した人！　申し訳ありませんでした。俺も行きたかったよ～！

**Q7** 当日は「参考にならんでしょ」と言っていたが、ヒクソンとホイラー・グレイシーの柔術デモンストレーションを間近で見て、ヒクソンの動き、たたずまいといったものに何か肌で感じる部分はなかったのか？

**A** ないよ～だ。

**Q8** ヒクソン戦が実現したら勝つ自信はあるか？

**A** も・ち・ろ・ん……ウフッ♥

**Q9** 『PRIDE.5』を観戦して一番印象に残ったのはどの試合？

**A** ないっス！

**Q10** 新日本、PRIDE.意外で乗り込みたいリングは？

**A** ん〜、どこにしようかな〜。……そっ、そうだ！ いいこと思いついたぞぉー！「紙プロファンの皆様、どこがいいですか〜？」投票で決めましょう！

**Q11** アマチュア、プロに限らず、UFOに上げたい選手は誰ですか？

**A** そうね〜。まず私と同じく柔道界からいきましょう。古賀稔彦選手。この人のキャラクターは言うまでもないでしょう。それと、マイク・タイソン（ボクシング）、ん〜、あとは噂の曙（大相撲）、アレキサンダー・カレリン（レスリング）は、シドニー・オリンピック後に期待しましょう。

**Q12** 6・8にカムバックが決まった橋本真也選手が再生する一番の近道は？

**A** （交通事故で病院に運ばれた患者を治療した担当医風に）申し訳ありませんが手遅れです。ハイッ！（すいませ〜ん、芸が細かくて）


GP買い合ったかつての宿敵にゲキ
高田
4・29再起戦決定
橋本よ立て!!
そして小川を潰せ
小川、船木とやってもいい

これがQ3で問題になった東スポ（2／18付）。確かに紙面には「実績を積みあげるうえで小川とか船木とやる、という選択肢はもちろんある」という高田の発言があるものの、高田本人は否定している（P65〜参照）

**【投票オープン選手権】**

Q10のオーちゃんの回答にあるように、小川直也が乗り込んでほしいリングはどこがいいか募集します！

1. 小川直也が乗り込んでほしいリング
2. そのリングで誰と闘ってほしいか
3. その理由

●以上3点を書いて送ってください。送り先はP143の読者プレゼントの募集要項参照。

**Q13** 5月下旬からサーキットするNWA王座防衛ロードのテーマは？

**A** 臨機応変に！ まあ、UFOをアピールできれば。

**Q14** NWA王座防衛ロードに関して、アントニオ猪木からどんなアドバイスを受けた？

**A** 思う存分自由に暴れてくれ、と。

**Q15** 歴代NWA王者で尊敬するレスラーは誰か？

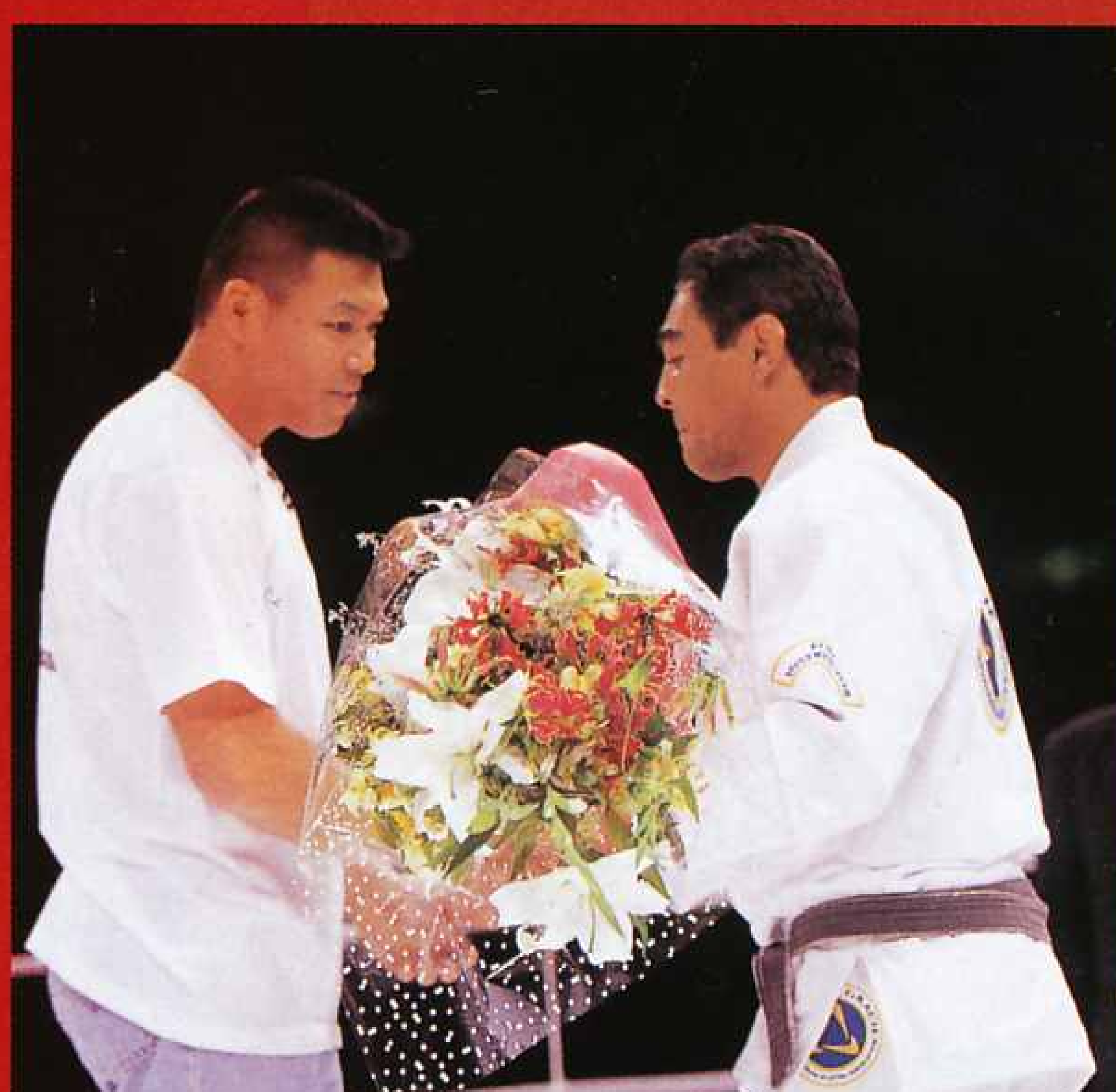
**A** ん〜、リック・フレアーとハリー・レイスかな？

**Q16** 小川選手にとっての「プライド」（大会名ではない）とはなんですか？

**A** 一言では書き切れないし、自分で書くとなると大変なので、次回の『紙プロ』の取材でね。

**Q17** プロレス以外でもけっこうです。ズバリ言って、小川選手にとっての「夢」は？

**A** 「プロレス」と「格闘技」の色分けをなくし、ゴールデンタイムで放映され、逆に子どもたちに夢を与えてやれる立場になること。それと、この頃、ゲームセンターやコンビニで夜な夜なたむろってる茶髪のニーチャンたちに、「がんばってください！」と礼儀正しく言われるので、そういう人たちから期待されてるものに応えるように。まぁ、裏切らないためにもかな。とにかく、ちょっと「道」からはずれそうな若者たちにも夢を与えてやりたい（シリアス調）。







ヒクソン（右下）と実弟ホイラー（左下）のグレイシー兄弟による柔術デモンストレーションの前に、オーちゃんが両名に花束を贈呈。小川とヒクソンの超接近遭遇ということで、館内は緊張に包まれたが、ここでは何も起こらず。両者とも笑顔で握手を交わした。「何も起こらなかった」という失望感と「何も起こらなくてよかった」という安堵感が複雑に絡み合った瞬間だった。しかし！ デモンストレーションを終えたヒクソンが引き揚げる際にも両者はリング下で軽く握手。その時、座ったままだったため、ヒクソンを見上げる形になったオーちゃんの目が、めちゃ怖い！ 「小川の目は闘う目だ」

## 【E-mailインタビュー／PRIVATE編】

**Q18** 一番好きな食べ物は？

**A** 去年、食事改善するまでは肉類（ステーキ、焼肉）が好きで毎日でもOKでした。改善以降は納豆、魚類、特に納豆にオメガ3オイルを入れて食べるのが好きです。

**Q19** 一番嫌いな食べ物は？

**A** チーズケーキ。某店（チーズケーキファ●ト●ー）の食べ放題で、スキっ腹に思いきり食べたら気持ち悪くなり、それ以来見るだけで具合が悪くなる。

**Q20** お酒は飲みますか？

**A** 基本的には大好きですでも、プロになってからは、飲んでも、時々ワインか焼酎。

**Q21** 食生活で気にしてること、心がけてることは何ですか？

**A** ご飯をまめに摂取（規則正しい食生活）する。揚げ物や脂身を摂らないようにして、和食を摂るようにしてる。

**Q22** NIKE、TVドラマ意外で凝ってるものは何ですか？

**A** 車（昔から）、健康食品全般（19歳から）。

**Q23** プロレスに入らなかったら何をやっていましたか？

**A** JRAの職員。

**Q24** 奥さんとの結婚記念日はいつ（何月何日）ですか？

**A** 95年……ん～、秘密。

**Q25** 足のサイズはいくつですか？

**A** USの14インチ。

**Q26** 町で素人に喧嘩を売られたらどうしますか？

**A** ん～、まず土下座して謝りま～す。そして、金額を要求（かつあげ）されたら素直に従っちゃうでしょう。ウフフ。

**Q27** CMに出るとしたら、何の、どんなCMがいいか？

**A** 「デカビタ」と「am／pm」。これは、CM出演をかけて高田選手と対決するつもりです。逃がさないぞぉー！　高田！

**Q28** 世の中で一番尊敬する人は誰ですか？

**A** 私の人生の先生3人。故・小野実先生（高校時代の柔道の先生。この先生がいなかったら、いまの私はいないでしょう）と原吉実先生（大学時代の先生。マンツーマンで鍛えに鍛えられました。大学時代から96年のアトランタ五輪まで二人三脚で柔道界と闘っ……いや、ガッ、ガンバリました、ハイッ！）。そして最後に、アントニオ猪木師匠！　これは言うまでもないでしょう。

**Q29** 世の中で一番嫌いな人は誰ですか？

**A** 何人かいるので秘密。

**Q30** 総帥・アントニオ猪木から教わった言葉で一番強烈だったのは、どんな言葉ですか？

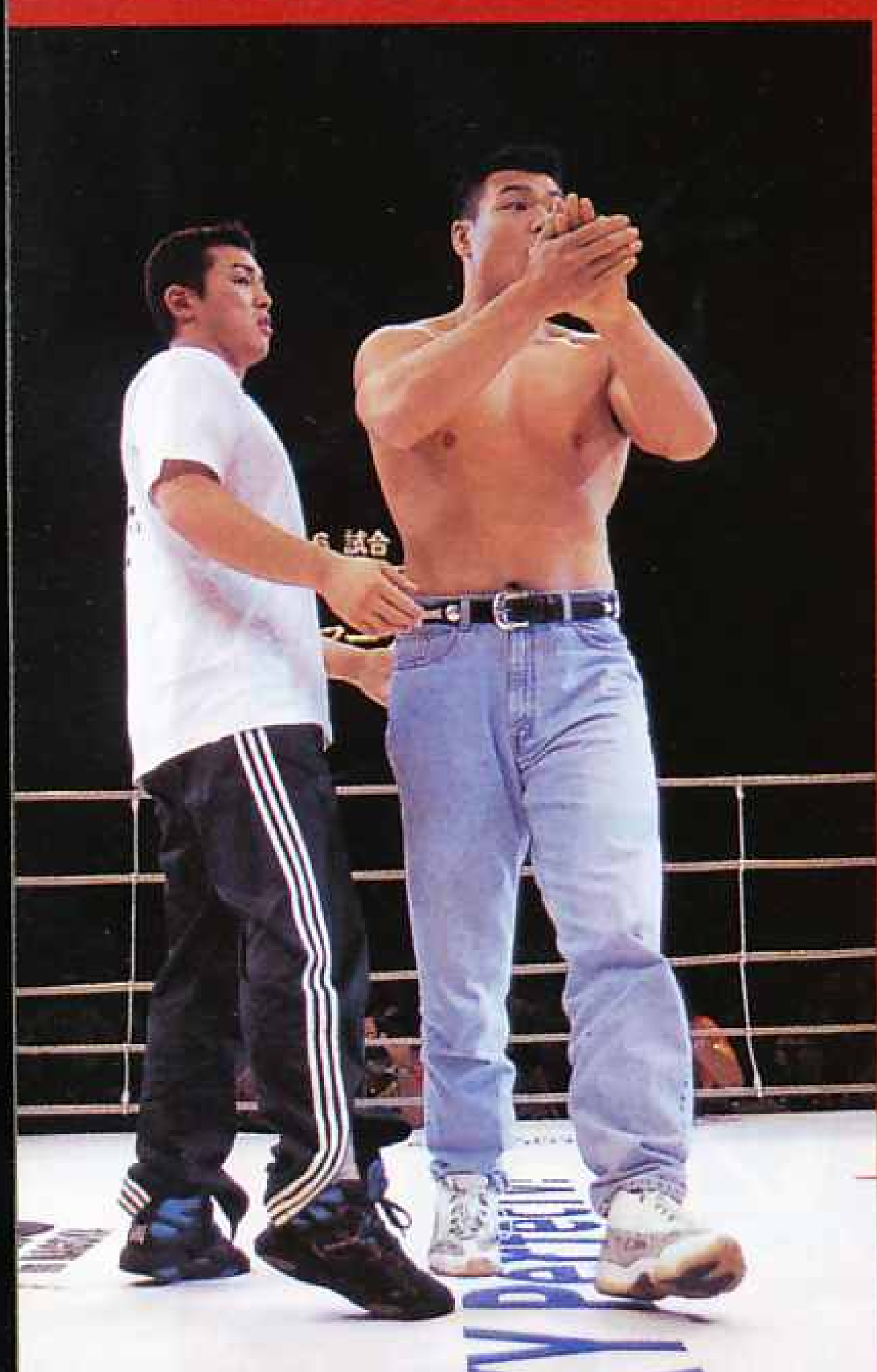
**A** 『道』の意味です。

おいおいおいおい、冗談じゃねえよ！　もう終わりかよ！　と思われたかもしれませんが、まずは小川選手、御協力どうもありがとうございました。読者の皆様におきましては、この少ない文字数の中からUFOの飛びっぷりを予想していただきたく思います。というわけで、アメリカ防衛戦サーキットを終えた6・29大阪では久々のUFO自主興行、7・4には『PRIDE.』本格参戦を果たすオーちゃん。ズバリ言って、どんな渦を巻き起こすのか非常に注目である。『紙プロ』読者の皆さま、小川直也&UFOの動向からは、決して目を離さないでくださ～い！



ヒクソンに対しては、何もアクションを起こさなかった小川だが（なぜかはQ６を参照）、高田vsコールマンのメイン終了後に驚天動地の行動に出た！　高田の久しぶりの勝利に熱狂するファンを尻目に、マイクを片手にリング・ジャック!!　おいおいおいおい!!


「人を名指ししといて逃げるなよ」と言い放った小川は、リング中央にNWAのベルトを放り投げた。ベルトを賭けて俺と闘え、というアピールに対し、高田はそのベルトを拾い上げ、「はい」という感じで素っ気なく小川に返した。小川も高田から差し出された手を払いのけた！


小川はTシャツを脱ぎ捨て、高田に「向かって来い」とナメきった笑顔で挑発。コールマン戦というシンドイ闘いを終えたばかりの高田はバカ負けした表情でサッサと引き揚げる。その背中に向かって小川は「逃げるのか、根性なし!!」という痛烈な言葉を投げかけた後、「必ず実現させたいと思います」と高田戦をアピールした。やり方に賛否両論巻き起こるものの、このまま高田戦へと向かうのか、それともファン待望のヒクソン戦へと向かうのか、オーちゃんの飛びっぷりへの期待は高まるばかりだ！




次はブラジル勢のボスキャラ倒しか!?



『PRIDE.5』でビクトー・ベウフォートを完封!!
カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
VIVA! スーパーサイヤ人!!

# 桜庭和志

## VIVAVIVA LONG INTERVIEW

格闘 STAR WARS
PRIDEとは何か?






# 「もうちょっと強い相手とやってみたいと思います」



サクラバード・キック！　ローリング・ソバット！　フェイント・パンチ！　怒る！　殴る！　蹴りまくる！――知恵を使って「固定観念」をことごとく崩していく桜庭の闘いぶりに、見ている者の細胞が叩き起こされた!!　みなさん、4・29『PRIDE.5』で桜庭和志がまたまたやってくれちゃいました。

この日の桜庭は、カーウソン・グレイシー一派の〝最後の砦〟、「ヒクソンにも勝てる」と豪語したビクトー・ベウフォートを完封！　そして、「今度こそ危ない」と言われた相手に何もさせずに勝った後、リング上でこう言い放った。

「えっと、もうちょっと強い相手とやってみたいと思います」――いつものように、ガクッと力の抜けるしゃべりながら、皮肉とトンチと頼もしさがシッカリと伝わるマイクに、館内は心の芯から「桜庭コール」と賞賛の声を送った。

97・12・21、『UFC―J』。日本人として初めてUFCヘビー級トーナメントを制した桜庭は、「プロレスラーはホントは強いんです」の名言とともに、〝プロレス界の救世主〟となった。そしてこの4・29では、ブラジル・ショックを完全に吹き飛ばし、バーリ・トゥードでも面白い闘いができるということを見せつけ、「プロ格闘技」の可能性の枠をグッと広げた。

桜庭和志は、プロレス界、格闘技界両方を救う、〝マット界の救世主〟となったのだ。

それにしても、どう見ても強そうに見えない桜庭和志は、なぜこんなにも強いのか？　読者の皆さまも、そのあたりを知恵を使って解きほぐしてほしいものである。

桜庭和志のVIVAVIVA90分、スタートです（ニコニコ）。

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

——ビクトー戦ではバチンバチン蹴りまくってましたけど、いまは足、痛くないんですか？

**桜庭**　痛いです!!（キッパリ）。

——（アラン・）ゴエス戦で蹴りまくって痛めたのも治ってないのに（笑）。

**桜庭**　だから、両足痛いんですよ。くるぶしに体液みたいな……血みたいなのが溜まって、固まっちゃってるみたいで。

——お爺ちゃんになったら、「この両足はブラジル勢を蹴りまくって痛めたんだぞ」って孫に言えますよ（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ。言うかもしれないですねぇ（笑）。

——でも、またなんで、あそこまで蹴りまくったわけですか？

**桜庭**　もう、（試合の）前の日からなんでもかんでもムカついたんで！　当日もマウスピースしなきゃいけないのを知ってて、わざと外したりしてぇ。

——前日は減量問題で、ビクトーの体重を落とす、落とさないでモメたわけですよね。90キロ契約だったのに、向こうが落としてこなかったということでしたね。

**桜庭**　ええ。彼が計量しないんですよ。時間になっても全然連絡来ないし。で、実はまだ体重がオーバーしてたんですよ、彼の。それで夜にもう一度計ることにして、それまでに落とすってことになったんです。結局落ちたんですけど……300〜400グラムオーバーしてたけど、ま、いいかって感じで。

——体重を90キロ契約にしたのは、なんでなんですか？

**桜庭**　もともと彼ってデカいじゃないですか？　100キロ以上あって。話がきたときはボクが82キロぐらいしかなかったし、そんな体重の人とやらされたらボクもかなわないんで（ニコニコ）。

——というよりは、桜庭さんの中でつまんない試合になるってことですよね。

KAZUSHI SAKURABA

## そういえば、スーパーサイヤ人になるためにも、“怒りのエネルギー”が必要だって思いました

**桜庭**　はい。噛み合わないような試合になるし。体重差があると、パンチとかあんまりウマくなくても、「ラッキー！」って感じの勝ち方するときってあるじゃないですか。ボクはそんな負け方をしたら納得いかないんですよ。だから同じ体重でやりたいと思ったんです。計量のとき、「体重なんか何キロでもいいじゃないか」って言ってたみたいなんですけど、だったら契約すんなって！

——それでムカついたと（笑）。しかし、ビクトーって、リングに上がると、ホント若くてカッコよかったですね。

**桜庭**　ヴァーッ!!（絶叫）。お、おすから……。

——なに、いきなりデカい声出してるんですか！（笑）。

**桜庭**　だって、「あ、『押忍!!空手部』だ！」って思って。あんな頭してきたから。顔もそっくりじゃないッスか！……高木！　主人公のヤツ。

——『押忍!!空手部』（笑）。どっかで見た顔だなって感じでしたよね。

**桜庭**　頭の形からなにからそっくりだったじゃないですかぁ。

——リングインして、向かい合ったときはどんな印象を持ちました？

**桜庭**　やっぱり上半身がデカかったんで、「力が強そうだな」と思いましたね。

——威圧感はあった？

**桜庭**　少し（ささやくように）。

——ちょっと（笑）。でも見事にあの試合では桜庭和志に尻尾が生えましたね。見事にスーパーサイヤ人化しましたからね。

**桜庭**　あ！　スーパーサイヤ人になるには〝怒りのエネルギー〟が必要ですからね。前（号）の『紙プロ』で、猪木さんが「怒りのエネルギーが必要だ」って言ってたじゃないですか？

——「ズバリ言って、怒りをエネルギーに変えていければ」と言ってましたね。

**桜庭**　それ読んで、〝そういえばスーパーサイヤ人になるためにも怒りが必要なんだ……〟って思いましたね。

——その〝怒りのエネルギー〟を出すには図らずも、ビクトーは絶好の相手だったというわけですね。

**桜庭**　そういうボクの怒りがコミ上げてくるような流れだったんですよねぇ。

※昨年10・11『PRIDE4』では、ビクトーと同じカーウソン・グレイシー一派のアラン・ゴエスと対戦した桜庭。1R目こそ見事な〝サク・マジック〟で場内を沸かせたが、2R目からは、ゴエスが強いくせに勝負に出てこずに、今回のビクトーと同じく「寝たきり戦法」に出る。しかし、ドローなのに歓喜するブラジル勢の、潔くない〝サムライ〟らしからぬ姿勢に桜庭は悔し涙を流した（桜庭はいまだに〝サク・スマイル〟でごまかすが）。そのカーウソン一派にひと泡吹かす情念をくすぶらせつつ臨んだのが、今回のビクトー戦だったというわけだ。

**桜庭**　でも、あの試合終わって、ホテルの下でカーウソンのオッサンとかに会ったんですけど、そのときはちゃんと挨拶して、カミさんまで紹介しましたよ（ニコニコ）。

——律儀ですね（笑）。

**桜庭**　腹ん中にはいろいろありますけど、挨拶とかはしっかりしなきゃいけないなと思って……。

——高田道場の課長として、一児の父として（笑）。

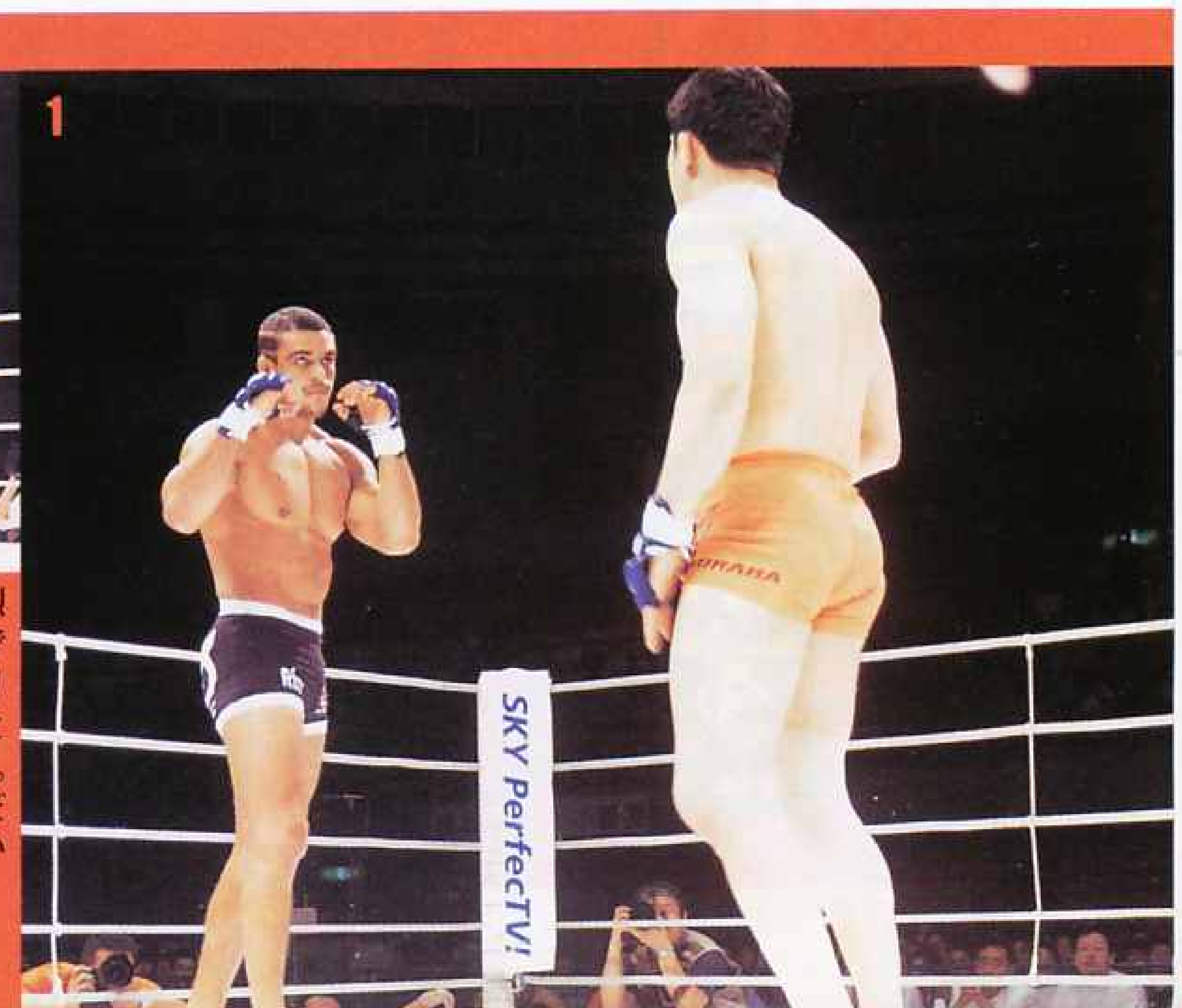
**桜庭**　はい（ニコニコ）。

——でも、正直言って、あそこまで〝怒りのエネルギー〟を出すとは　思わなかったですけどね。

**桜庭**　な〜んか、わかんないけど、いろいろ溜まってる部分プラス、「また寝やがった！」っていうのがね。カチッと……。

——スイッチが入っちゃった（笑）。1R





❶五輪代表候補、プロボクシングデビュー、『UFC』では、あのタンク・アボットにも殴り勝ったこともあるビクトーの強烈無比なパンチをかいくぐり、桜庭がタックルに入れるか？　緊張感溢れる立ち上がりだった。❷昨年6月のニュートン戦では試合中盤にムチ打つようなハイキックを打っていき、ニュートンと観客のド肝を抜いた桜庭。この試合では、立ち上がりからいきなり威嚇のハイキックをかましていった。❸序盤戦、タックルを切られタコ殴りに合う！「ヤバイぞ、サク！」と誰もがヒヤリとした場面だが、「頭の固い部分だったのでヘーキだった」と語る桜庭は、冷静にアッパーもガードしていた。力まかせに殴っていったビクトーは、これで拳を痛めたらしい。❹見ている者が肝を冷やしたビクトーのタコ殴りを凌いだ桜庭は、足を取ってひっくり返す。“怒りのエネルギー”が充填しまくっている桜庭は、珍しく顔面と腹にパンチを打っていった！　怖いぞ、サク！　行け、サク！

が始まってすぐに、タックル切られて、タコ殴りにあいましたよね。あれは全然大丈夫だったそうですね。

**桜庭**　あれは大丈夫でしたね。殴られたのは頭のテッペンの固い部分ですから。アッパーも顔の前に手を置いてたんで、あんまり入ってないんですよ。

——テレビの画面で見るとそれがわかるけど、会場で見てると実にヒヤヒヤしましたよ。「頼むぞ、サク！」って祈りましたね（笑）。ビジョンとか、遠くから見てたから、実際どこにヒットしてるのか、わかんないから。

**桜庭**　ああ、そうか。でも、ボクやられながら、「こいつ、こんな固いとこ殴って、拳とかヘーキなのかな？」と思いましたけどね。

——こっちが桜庭さんの心配してるときに、相手の心配してた、と。さすがですね（笑）。

**桜庭**　だって、相手のパンチが効かないから。あと、ビデオで見たんですけど、（ビクトーは）踏ん張りの効かないところで、ただ数を打ってるだけだったじゃないですか。

——無理に殴って、ビクトーは拳を骨折したらしいですね。

**桜庭**　でも、試合で骨折しても関係ないと思うんですよ。拳を骨折したらグラウンドでもキックでも勝負すればいいし。

——他に勝負する方法はあるのに相手は勝負に出てこない。そこでまた始まるわけですね、"怒りのエネルギー"の充填が（笑）。

**桜庭**　（ニコニコ）。

——タコ殴りをかいくぐって、足首取ってひっくり返して、顔面と腹にパンチを浴びせたりとか、普段あまりやらないことをやってましたね。









**桜庭**　普段は練習で、よく冗談でやったりしてるんですけど……ただムカつくから!!　だいたいボクが殴るときは、ムカついたときですね。

——いままでだと、ゴエス戦と、このビクトー戦ですね（笑）。

**桜庭**　（カーロス・）ニュートンとやったときはそんなに殴らなかったですよね。

——あれはテクニック的に、ポジション取りやら関節を取りに行くために殴るって感じでしたからね。

**桜庭**　そうですそうです。今回はホンッッット、ムカついたから殴ったんですけど！

——ガハハハ。それだけムカついてて、よく我を忘れずに、頭を回転させられますね。

**桜庭**　やっぱり殴っても単発で終わるからじゃないですか。「ウォー、この野郎！」って思って、バーン！って打って、もう冷めちゃいますから、一瞬で。それで、またただんだんムカついてくる。波があるんですよ。

——ダイナミックですよね、波が。寝っ放しのビクトーを蹴りまくってるときは、どういう思いで蹴ってるわけですか？

**桜庭**　「立ってこないんだったらそのまま寝てればいいよ。そのかわり、蹴りまくってやる、この野郎！」って。

——前号では、「試合中に相手から返事が返ってこないと面白くない」って言ってましたけど、「コイツからは返事が返ってこないな」っていうのは序盤でわかったんですか？

**桜庭**　まずグラウンドはやる気ないな、と思いましたね。だったら蹴りまくってやれ！　と。

——そうすると当然、途中で足が痛くなるわけですよね（笑）。

**桜庭**　まぁ、足が痛くなったらパンチやればいいし、膝もあるじゃないですか。あとはフグ・トルネードでもやろうかなと思ったんですけど（笑）。

——蹴りまくった1Rが終わって、インターバルでは笑顔を見せてましたよね。そのときにもう、「イケる」っていう感触はあったわけですか。

**桜庭**　いや、ないですよ。インターバル置いてスタンドになったら、相手はパンチがあるから、初めは気をつけなきゃいけないなぁと思いましたね。

——2Rの立ち上がりでは、プロデビューもして、五輪候補にまでなったこともあるボクサー相手にフェイント・パンチ出してましたよね（笑）。あれは驚きましたね。

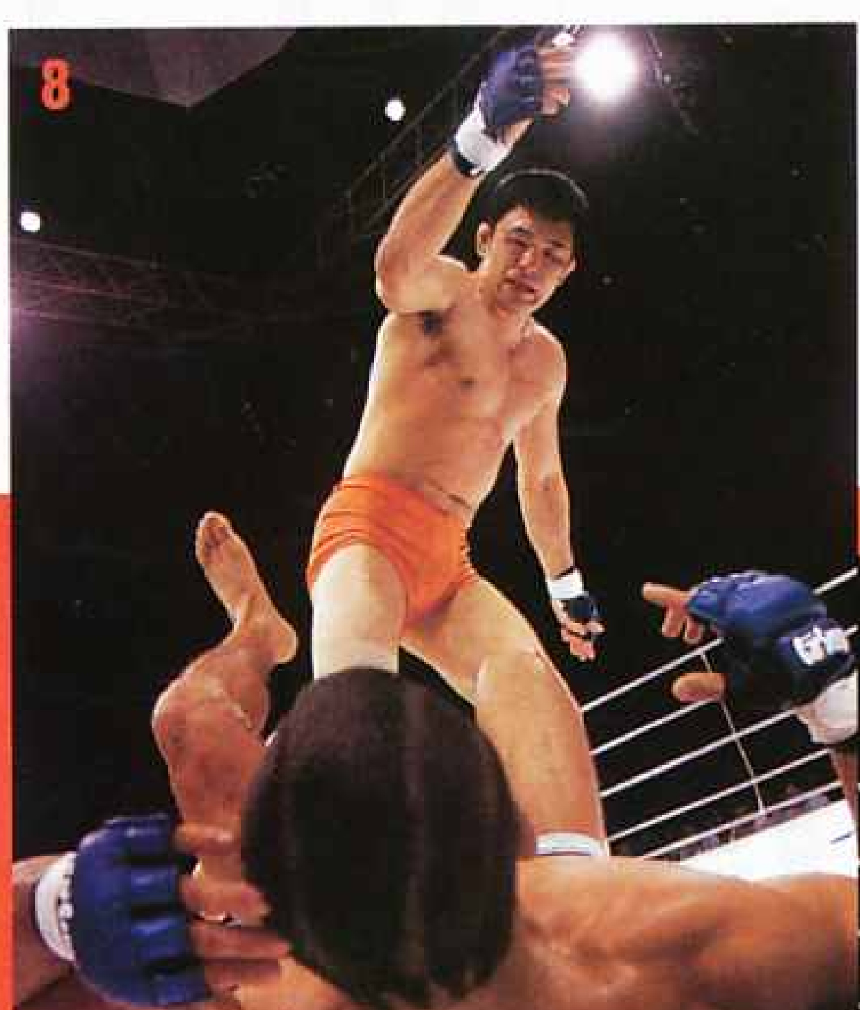
**桜庭**　ヒャハハハ。そうですか？

——頼もしいと思うと同時に、"ボクサー相手になにやってんだ、この人"と笑っちゃいましたよ（笑）。

**桜庭**　アハハハ。いや〜、当たっちゃったから、気分よくなっちゃって（笑）。"なんだ、当たるんだ"と思って。使えるところはみんな使いたいじゃないですか。

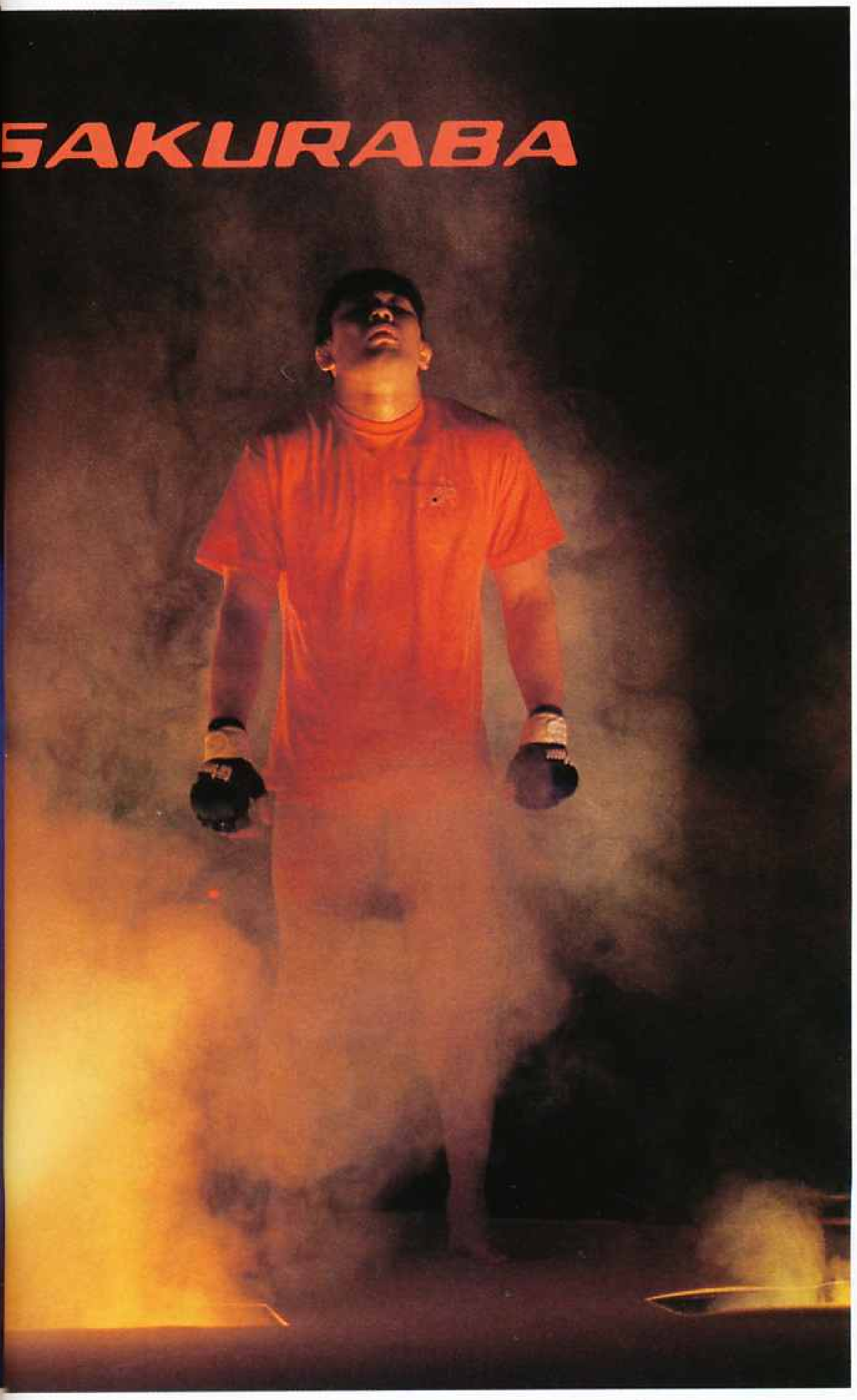
——だいたい2Rはフェイントだらけですよね。寝てるビクトーの太ももに、蹴りにいくと見せかけてパンチ、っていうのもありましたし（笑）。



❺寝たきり戦法に出るビクトー。ゴエス戦の悪夢再びか？　グラウンドで勝負したい桜庭は、なんとかゴエスを飛び越える突破口を見つけようと頭をフルに回転させる。❻足クセの悪いビクトーは、桜庭を中に入れようとさせない。この日の桜庭は、何発か効果的に腹にパンチを叩き込んだ。❼なんとか越えようとする桜庭と、入らせないビクトーの神経戦が続く。ビクトーは、下から蹴りを数発打っていく。１発いいのが入ったが、あとは桜庭が顔を引いて力を逃がしていたのでノー問題。桜庭の"怒りのエネルギー"のメーターは、さらに上昇！❽桜庭は「立ってこないんだったら蹴りまくってやれ！」と、ビクトーの太ももをバッチンバッチン蹴りまくる！　１R中盤にはビクトーの太ももがド紫色に腫れ上がっていった。蹴る！　怒る！　落ち着く！　行け、サク！　ビクトーの足を越えて顔面をタコ殴りに行ったところで、１Rのタイムアップのゴングが鳴った！

桜庭　あれ、自分のほうが痛かったですね。拳でやらなかったんですよ。拳はグローブしてるから、あんまりやっても効かねぇかなと思って、中指を立てたゲンコツで殴ったら腫れましたよ。
——自分の中指が（笑）。
桜庭　はい（笑）。お父さんが子ども叱るときに「ハァー」ってやって、スナップ効かせてカツンとやるじゃないですか。
——はいはい。
桜庭「お父さんの怒りパンチ」ですね。あれの要領でガーンッて殴ったら、自分の指が腫れちゃいました。
——お父さん、間抜けですねぇ（笑）。そして、バーリ・トゥードのリングでホントにローリングソバットを出しちゃいましたね！　リスクの高い。あれは、贅沢な瞬間でしたよ。いいもん見させてもらいました。
桜庭　あれはズバリ入りましたねぇ。
——一発目がボディに入ったら、ビクトーは自分から寝にいきましたよね。あれは相当効いてましたね。ダウンですよ。
桜庭　でも、彼も凄い気持ちが強くて、表情に出ないんですよ。表情がマンガのまんまで。
——ガハハハ！　高木のまんま（笑）。気持ちが強いっていうのは伝わってくるんですか？
桜庭　そうですね、苦しい顔しないし。
——あとは寝てる相手にカカト落とし、というのもありましたね。
桜庭　あれもよく、練習で「これって効くかなぁ？」って言いながら冗談でやってるんですけどね。
——そして2R終了間際には、フライング・フットスタンプ！　別名「サクラバード・キック」が出ました（笑）。
桜庭　アハハハ。あれは金原（弘光）さんの指示で飛びました（ニコニコ）。
——え、そうなんですか⁉




## 「飛べ飛べ!」って金原(弘光)さんが言ってるから、だったら飛んじゃえと思って

桜庭「ラスト1分だから飛んじゃえ、飛んじゃえ！」って金原さんに言われたんで、飛びました。な〜んか、飛んだら当たるような感じがしたんですよね。「飛べ、飛べ！」とか金原さんが言ってるから、だったら飛んじゃえ！　と思って。
——スッ転んだりとか、失敗したとしても、まったく不安はなかったんでしょうね。
桜庭　あ、そうですか？
——いや、ボクに聞かないでください（笑）。
桜庭　で〜も、ボクは絶対転ばないと思いましたよ。だから飛んだんですよぉ。
——そういえば、パンクラスの船木誠勝選手とノールールで闘ったエベンゼール・ブラガ（4・18横浜）もフット・スタンプをやったんですよ。鳥人対決も見てみたいですね。その試合は見ました？
桜庭　……。確か見たと思います……ね。
——確かってなんですか（笑）。
桜庭　いや、申し訳ないですけど、なんか他のことしながら見てたんですよね。ちょっと、よく覚えてないんですよ。その飛んだのも見てなかったですね。あとで雑誌で見て、「あ、飛んでるんだ！」と思いましたけど。
——ビクトー戦を見て、凄ェなぁと思ったのは、桜庭さんの頭の回転のさせ方ですよね。頭脳戦では何本も取ってますよ。
桜庭　まぁ、ウソをつくことを得意としてますから（ニコニコ）。
——ガハハハ！　大したウソつき野郎！って感じですね（笑）。その上、ハートの部分でも上回り、肉体的にも痛めつけ、と。完璧じゃないですか。
桜庭　そうですかね（照）。
——相手は、ボクらに見えないようなところで、意外な戦法をしてこなかった？
桜庭　ないんじゃないですかね。待って待って、相手が出てきたところにストレート狙ってるって感じでしたからね。
——素朴な疑問なんだけど、ビクトーはどうやって勝つ気だったんですかね？　そのカウンター入れてっていうのはわかりますけど、実際、自分から寝ちゃったら、それもできないじゃないですか。
桜庭　う〜ん、いま思うとわかんないですねぇ（微笑）。
——勝てなくていいんですかね？
桜庭　負けなければいいんじゃないですか。自らの意思で「マイりました」っていうのを言わなければいいんじゃないですかね？　判定で負けてもいいんじゃないですか（あきれ顔）。
——ゴエス戦と違って、試合が終わったあとは、桜庭さんはすぐに両手を挙げてましたね。
桜庭　あれも金原さん……。
——へ？
桜庭　金原さんが、「お前、ガッツポーズしてそのへんグルグル回ってろ！」って言うから。
——ガハハハ！　それでグルグル回ってた。そこまで指示するもんなんですか、セコンドって。初耳ですね（笑）。
桜庭「お前、もうここで勝ったつもりでいなきゃダメだよ！」って。でも、判定ってそんなもんじゃないですか。
——いや、あれは両手挙げなくても文句なし。むしろ途中でレフェリーストップでもいいくらいですよ。それにしても、金原弘光恐るべし！　ですね。
桜庭　だって『UFC』のときも、金原さんが「負けてないって言え」って。それでボクがマイク持って「負けてない」って言ったんですよ。

※97・12・21の『UFC―J』でマーカス・コナン・シウヴェイラと対戦した桜庭は、パンチのラッシュをかいくぐり、超低空足首タックルに行ったところが、それがダウンとみなされ、一度は"レフェリー・ストップ負け"というミス・ジャッジが下っ

てしまう。桜庭サイドは20分以上、オクタゴンに居座り抗議。そのかいあって、コナンと再戦。見事に逆十字でタップを奪い、日本人として初めてUFCヘビー級トーナメントを制した。

——じゃあ金原さんがそう言わなかったら、あのまま引っ込んでた可能性もある?

**桜庭**　う～ん、「負けてない」なんて言ってなかったかもしれないですねぇ。

——桜庭さんも、悔しさからマウスピース投げたのはいいけど、金網にはまってましたからね（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ。それで、金原さんに、「絶対ここ（オクタゴン）から出るなよ！　お前、ここから出たら負けを認めたことになるから！」って言われて。

——セコンドの達人・金原弘光！（笑）。ビクトー戦が終わって花道を引き揚げるときは、いつにも増してファンの歓声に応えてましたね。

**桜庭**　あの試合は、お客さんがワーッと盛り上がってくれたんで、あれはあれで嬉しかったんですよ（微笑）。

——沸騰する桜庭コールは聞こえました?

**桜庭**　試合後のは。ああいうのは……まぁいいや。

——なんで！　そこでやめない（笑）。

**桜庭**　いや、ああいう声援は、『ドラゴンボール』に出てくる〝元気玉〟っていう技があるんですけど、みんなの力をもらうヤツ。ああいう力になりますね。

——なるほど、桜庭コールは〝元気玉〟（笑）。試合後にビクトーのコーナーに行ってなんかしゃべってましたよね。

**桜庭**　英語ができないので「サンキューベリーマッチ」だけ。やっぱり試合が終わったあとはセコンドに挨拶に行かないと。アマレスって行かなきゃいけないんですよ。そういうクセがついてるから。で、カーウソンのオヤジと握手して。

——あんまり向こうは気持ちよく握手に応えなかったですよね。

**桜庭**　やっぱり、自分で納得した試合ができなかったからじゃないですか?

——あれで納得されたらたまりませんけどね（笑）。試合後もコメントで、「判定勝ちで、関節を極められなかったから勝ったとは思えない」って言ってましたね。あれは皮肉?（笑）。

**桜庭**　う～ん、ボクも試合してて、「どう見てもオレの勝ちじゃねぇか」って思いはありましたけどね。完全に勝ったとは思ってないっていうことですね。完全に相手に「マイッタ」させてないんで。

——でもあれで、なんて言い訳するんですかね?　「拳を痛めた」とか?

**桜庭**　あと、「マウスピースはめてた」。

——ガハハハ！「マウスピースはめちゃったから闘いにくかったんだ！」。

**桜庭**　息苦しいから（笑）。そういえば、試合終わってから向こうの控え室に挨拶に行ったんですけど、そのときに「写真撮ってくれ」とか、「ピクチャー、ピクチャー」とか言ってましたよ。

——ビクトーがですか?

**桜庭**　いや、他のブラジルの人が。

——へぇ～。面白い人たちですね（笑）。マイク・アピールですけど、まさかあれも……。

**桜庭**　あれも金原さんの指示です（ニコニコ）。

——ガハハハ！　それは絶対違う！

**桜庭**　え、え、ホントですよ！　金原さんが「もっと強いヤツとやりたいって言え！　お前、言わないとダメだよ！　ここでアピールしないとダメだ!!」って言ったんで、ボクは迷いながら「もうちょっと強いヤツ」にしてみたんです。「もっと強いヤツ」って言ったらビクトーが弱いことになっちゃうんで、彼も十分強いと思いますんで（微笑）。

——いま笑いながら言ってませんでした?（笑）。

**桜庭**　アハハハ。いや、彼も強いと思いますんで（微笑）。

——昔だと、「もっと強い相手連れてこい、コノヤロー！」でしょ。それにリアリティーをビンビンに感じてた時代もあったんだけど、「もうちょっと強い相手とやりたいです」と照れながら言っちゃうところが、いまの時代のリアリティーなのかなぁって感じもしますね。桜庭和志の照れ方と相手のナメ方はバツグンですよ（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ。ボク的には気を使ったんですけどね。

——気を使いつつ、皮肉とトンチも込めて（笑）。ところで桜庭さんは、Uインター、キングダム、『PRIDE』と辿ってきて、『UFC―J』を含めてバーリ・トゥードを5戦やったことになりますね。

**桜庭**　わかりません。

——は?

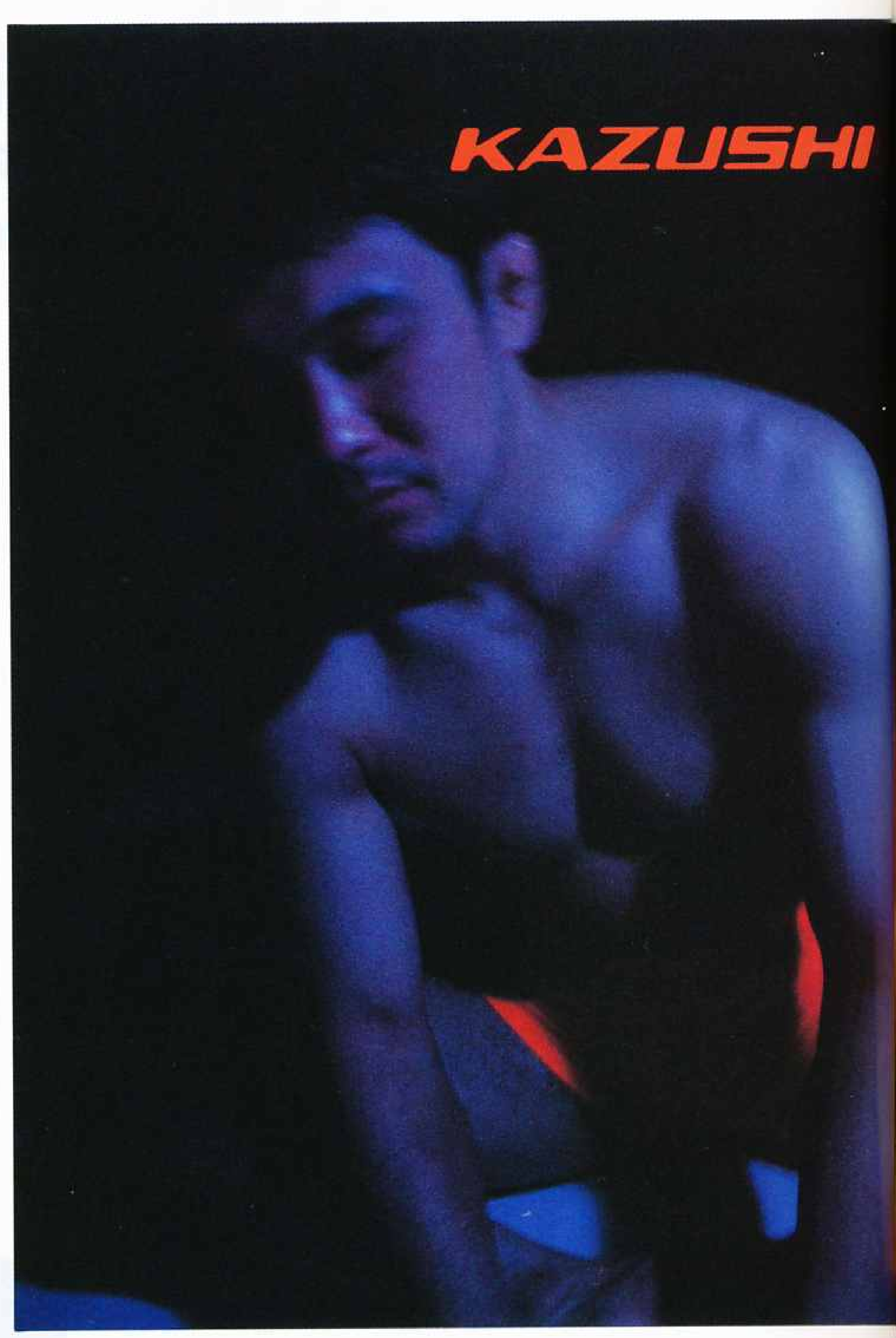
**桜庭**　わかりま戦（笑）。

——（無視して）コナン、ヴァーノン（・タイガー・ホワイト）、ニュートン、ゴエス、ビクトーとバーリ・トゥードは5戦ですよね。

**桜庭**　わかりま戦（自分で言ってツボに入ったのか、しばらく「わかりません、わかりません」と小声で呟く）。

——もしもし?

**桜庭**　あ、5戦ですね。う～ん、バーリ・トゥードって怖いイメージありますから、そこで5回試合したということで、やっぱり試合前の緊張感とかを乗り越える心の強さとかは、少しずつですけど強くなってきたかなと。やっぱ顔をグーで殴ら



れるのは怖いっていうのはありますから。それがだんだん怖くなくなってきてますね。だから、ボクサーにパンチ出したり（笑）。

——試合を通して打撃の楽しさを知っていってる。

**桜庭** そうですね。「なんだ、オレのパンチ入るじゃないか」とか思いながら、「終わってから打撃の練習しようかな」と思うんですけど。



——試合中に（笑）。普段、打撃の練習してないってホントにホントなんですか？

**桜庭** 本格的にミットを蹴ったり、サンドバック蹴ったりとかは、ほとんどないッスね。遊びの中で覚える。遊びながら覚えるっていうのはいいことですよ。変にミットを叩くよりも、遊びながら相手の隙があるところを狙ってパンチしたりするんですよ。だからボクの打撃って軌道が決まってない。ミットとか何回も何回もやると、どうしてもクセがつくっていうか、軌道が決まってきちゃうじゃないですか。そういう練習をやらないから、な～んか入っちゃうんですよね。

——というか、隙があると、そこになんか入れたくなるわけですね（笑）。

**桜庭** そうです。空いてるところに入れたいんですよね。

——要は、桜庭和志の好奇心と冒険心が打撃に対応させてるということですね。

**桜庭** はい。そうすると入っちゃいますもんね。だから、やっぱりプロのパンチじゃなく、素人のパンチなんで、どっから来るかわかんないんじゃないですか？ 相手は。

——桜庭さんの闘いぶりって、知恵を使って「固定観念」を崩していく作業ですよね。実に見てて面白いですよ。

**桜庭** それで入っちゃうのかもしれないですね。でも所詮素人のパンチだからKOはできない。

## KAZUSHI SAKURABA

# お客さんが楽しければ、たぶんボクも面白い。ボクが面白ければ、お客さんも面白いと思う

——KOする気ないでしょ（笑）。なんか相手を嫌がらせてやろうとか、挑発してやれとか。

**桜庭** そういう意味も込めて（笑）。

——頼もしいなぁ、ホント。桜庭さんは「バーリ・トゥードでも面白い闘いをしたい」って言ってますから、「プロの闘い」の定義を持ってるわけですよね。

**桜庭** ええ、一応。

——やっぱり、自分が面白がりたいのが一番ですか？

**桜庭** 自分が面白がりたいけど、お客さんが楽しければ、たぶんボクも面白いと思いますよ。で、ボクが面白ければ、お客さんも面白いと思いますよ。

——ああ、なるほど。「自分が面白くなければお客さんも面白くない」という言い方をする選手はけっこういますよね。でも「お客さんが面白ければ自分も面白い」って言う人は、恐らく初めてです（笑）。

**桜庭** お客さんが「ワーッ」て沸いてるときはボクも面白い。ジャンプしたヤツ（フット・スタンプ）とかあるじゃないですか。あれも自分でやってて面白かったですからね。

——ファンが沸くのが〝元気玉〟（笑）。桜庭さんはお客さんがいないところで誰かと闘ってみたい気持ちはないんですか？



**桜庭** う～ん、練習としてやるんだったらいいですけどね。正式な試合としてお客さんのいないところでやるのは…

…誰も見てないとこですよね？

——例えば、巌流島で1 vs 1でゴエスとやりたいとか（笑）。

**桜庭** イヤです！ だ～って、面白くないじゃないですかぁ。やっぱり、技をかけて「ウワーッ」って言ってくれないと、ボクもやる気しないですよ。

——客席からも返事が返ってこないとイヤなんですね。なんとなく、桜庭さんの「プロフェッショナル」の定義のヒントが掴めましたね。試合後に「ビクトーは負けないための闘いをしたから、それはそれで悪いことじゃない」と言ってましたよね。この発言の真意はなんなんですか？

**桜庭** それはルールの問題で、ボクはアマレスやってたけど、アマレスって積極性がないと注意を受けて、3回やると失格負けなんですよ。そういうルールが柔術にはないから。そういうルール的なことで積極的じゃなくてもいい部分って柔術にあるんじゃないですか。それが試合に出てるだけで。

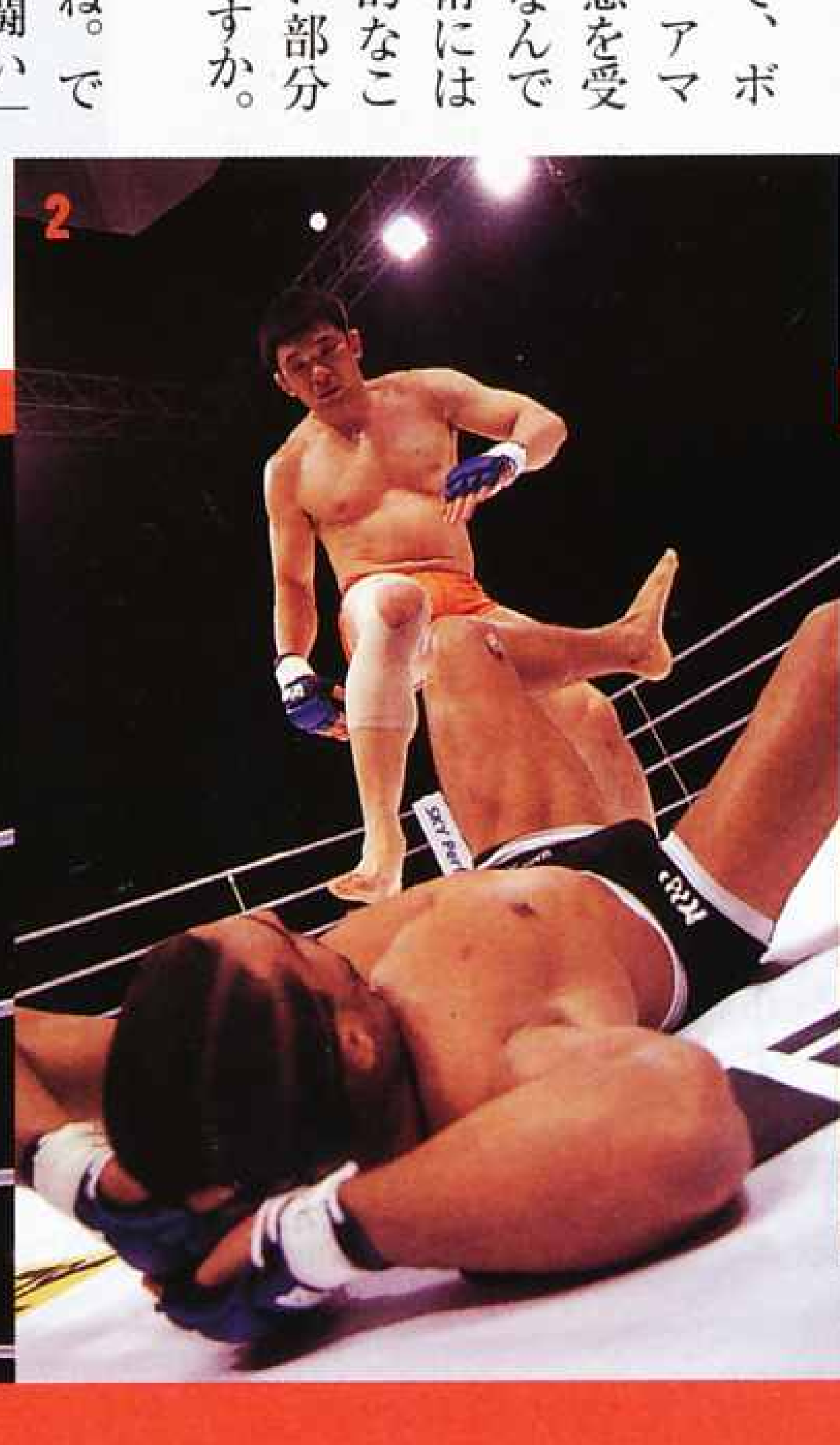
——出身母体の違いですかね。でも、ズバリ言って、「プロの闘い」としては面白くないですよね。ミクロな技術の攻防に、顕微鏡の焦点を合わせてくれるファンばっかりじゃないから。

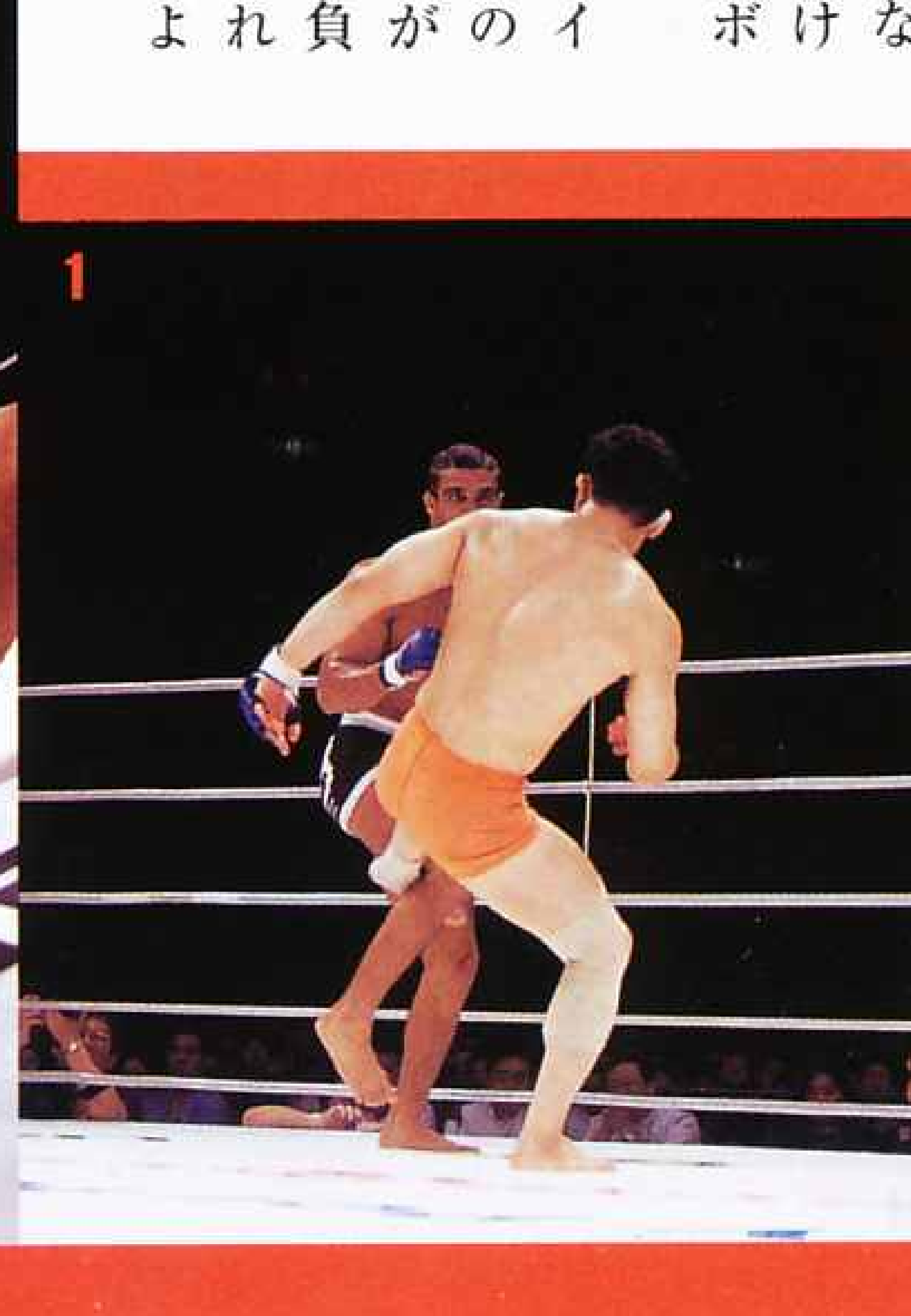
**桜庭** そうですね。プロとしてはよくないんじゃないですか。粘って粘って、最後にキッチリ極めるんだったらいいんだけど、粘って粘って、粘るだけだったらダメですよね。納豆じゃないんだから。

——ガハハハ！ 納豆の本場は日本なんですけどねぇ（笑）。

**桜庭** ボクも負けたくないって気持ちはありますけど、十字でもスリーパーでもスパーン！と極められたら、潔く「あなたの勝ちですよ」って認めますよ。で、負けて悔しい気持ちを自分の肥


3


2


1

やしにして、また練習して、今度やったときに勝てばいいと思うんですけどねぇ。

—看板を背負ってるのはお互いさまですからね。向こうは、負けないための闘い方をして、それで何を得てるのかっていうのが不思議に思えますよね。

**桜庭** どうなんでしょうね……（微笑）。

—いまルールの話が出たから聞きますけど、桜庭さんは、この先ズッとバーリ・トゥード・ルールでやっていくのか、俗にいうU系の顔面パンチなしのルールを整備していくのがいいのか、どう考えてます。



**桜庭** やっぱり最終的にはバーリ・トゥードでも、他のルールでも、極めるかKOするか、同じじゃないですか。だから、どっちでも同じだと思うんですけどね。ただ、エスケープありのルールだと疲れるなぁと。

—バーリ・トゥード熱が広がってきてから、「エスケープ・ルールはイヤだ」って言う選手が多いですよね。

**桜庭** 試合はホントの殺し合いじゃないですけど、実際にホントの殺し合いだったら、関節取ったりKOした時点で止めなければ、その後もボコボコに殴られ、蹴られ、関節バキバキやられ、ってズッと続くわけじゃないですか。だから、エスケープは……疲れるなぁ。

—でも、エスケープ・ルールで、ポイントや技のシーソーゲームを堪能したいファンもいるわけですよね。

**桜庭** う～ん、エスケープがないと、やっぱり緊張感があるじゃないですか。だから、どっちもどっちじゃないですかね。

—どっちもどっち(笑)。でもエスケープ・ルールは面倒臭いと。

**桜庭** 疲れるんですよ（笑）。せっかく極めたと思ったのにエスケープされると、「また初めからだぁ」って。そこでゲームみたく1回極めたらグゥーッて相手の体力メーターが減ってればいいんですけど、技を掛けたほうが疲れてたりする場合もありますからね。

—そういうルール問題は、これからどうなると思います？ 一本勝ちの方向に向かうのか、それともエスケープ・ルールはエスケープ・ルールとして存続していくのか。

**桜庭** エスケープの数が少なくなっていくんじゃないですかね？ あんまり深く考えたことがないんでわかんないですけど。「1回だけは（エスケープを）許してやるゼ」とか。

—なるほど。リングスとかパンクラスも「プロレス」と捉えた場合、各団体によってルールが細かい部分で違うとか、その辺の面倒臭さってありますよね。

**桜庭** ありますねぇ。

—もうそろそろ統一ルールを作ったほうがいいんじゃないかと思うんですけど。

**桜庭** あ、反則は5秒以内とか？

—ガハハハ。元に戻りますか（笑）。

**桜庭** 反則5秒以内は怖いですよねぇ。目ん玉に指突っ込んで「ワン、ツー、スリー、フォー」「オー、ノー、ノー」って。怖いですよぉ。

—ガハハハ！ そっちに戻してみますか。

**桜庭** アハハハ、それもいいかもしれないですねぇ。でも、なんだかんだ言って、細かい部分は変わってきてるんじゃないですか。

—そのへんに対しては、桜庭さんは言わないだけで、「こうしたほうがいい」っていうのを持ってるんじゃないかと思うんだけど、もうそろそろU系って言われてる団体で……。

**桜庭** U系って、しゃべる系ですか？

—は？ ああ、「言う系」ってことですか。いまひとつキレがないですね（笑）。

**桜庭** （小声で）ダメだ、全っ然、面白くねぇや。

—だから、バーリ・トゥード、修斗とかも含めて、統一ルールを作る動きが出てもいいですよね。そうしたら自然と選手層も広がるんだし。

**桜庭** 『PRIDE』のルールでいいんじゃないですか？

—『PRIDE』のルールが一番いい？

**桜庭** 自分がいまやってるのが『PRIDE』のリングなんで。『PRIDE』ルールが一番問題ないんじゃないですかねぇ。問題ありますか？

—だから、ボクに聞かないでください（笑）。ボクは選手じゃないんで、見てて面白ければノー問題ですよ（笑）。

**桜庭** やっぱり自分でやってるとこのルールが一番いいんでしょうね。だからボクは『PRIDE』ルールだし。

—実際に統一ルールを作っちゃえば、選手も行き来できるし、いろんな問題が解決していくんじゃないかと思うんですけどね。それが一番難しいんでしょうけど。

**桜庭** だから、反則は5秒以内！ それが一番簡単なルールじゃないですか。「なにをやってもいい、そのかわり反則は5秒以内だ！」って（笑）。

—ホントにそれでやります？

**桜庭** アウッ！

—「反則は5カウントまで」っていうのは、プロレス特有の文化を生んできたし、プロレスらしいルールなんだけど、い



❶２Ｒの立ち上がり。ボクサー相手に、フェイントをかけて顔面にパンチを打っていく桜庭。ローに行くと見せかけてパンチ、タックルに行くと見せかけてパンチ、パンチに行くと見せかけて蹴りなど、幻惑殺法が炸裂しまくった。❷再び「猪木—アリ状態」になってからは、桜庭は鬼神の表情で蹴りを放っていく。❸❹この試合のハイライト、宮戸優光直伝の（ウソ）ローリング・ソバットを打っていく桜庭！ バーリ・トゥードの試合ではリスクの高い技ながら、桜庭の中では「イケル！」という感覚が働いたのだろう。１発目が見事にミゾオチにヒットし、ビクトーは自分から寝に行った。完全なダウン！ しかしダウンのないのが『PRIDE.』ルール。寝たきり戦法を繰り返すビクトーにはブーイングが飛び、桜庭はそのビクトーの太ももを蹴りまくる！ 会場は完全にヒートアップ！ 続いてサクは太ももにパンチ、寝てる相手にカカト落としなど、冒険心溢れる攻撃を見せる。そして極めつけは２Ｒ終了間際のサクラバード・キック（フット・スタンプ）だ！ サク、完全試合、完封、完投！ VIVAサク！❺試合後のビクトーの太ももは、ご覧のように紫を通り越してド又黒＆ド紫に変色し、腫れ上がっていた。無惨、「オスカラ」


5


4

ま桜庭さんたちがやってることが、「新しいプロレス」なんですよね、恐らく。

**桜庭** そうだと思いますよ。誰かが、「小さい頃に見たプロレスのイメージが、いまボクらがやってるようなものだった」って言ってましたね。

——でも、いま現実にある、別の方向の「プロレス」と一緒にされると嫌な人たちから、「格闘技」っていう言い方が出てきた。でも実際には「格闘技」っていう言い方も曖昧なんですよね。立ち技、寝技一緒にすんのか？ とか、プロとアマの区別はどうすんだ、とかね。

**桜庭** ああ、そうかもしれないですね。

——だから、桜庭さんたちがやってる「総合系」は、「プロレス」とか「格闘技」とか「プロ格」とかじゃない名称を、そろそろ作り出す時期に来てるのかなぁって感じはありますよね。

**桜庭** 並べ方を替えちゃえばいいんじゃないですか？

——「プレスロ」とか？

**桜庭** そうそう（笑）。

——ガハハハ。こないだ面白いこと言う人がいて、「桜庭さんは"プロレス界の救世主"って言われてるけど、従来のプロレスで実績がないじゃないか」って言うんですよ。それは新しい意見だな、と思って。

**桜庭** ないですよ。そっちの「プロレス」やってたのは、かなり前の話ですからね。

——「だから"プロレス界の救世主"っていう言い方はおかしい。桜庭さんはプロレスラーじゃない」って言うわけです。

**桜庭** ああ〜、それはそれでいいんじゃないですか？ ボクらがやってることを「プロレス」だって認めないんだったら、その人はそれに閉じこもっちゃってるんだから、別にそれを無理矢理こじ開ける必要もないし。ボクは「レスリング」ができる人だったら、どんなスタイルでも認めますから。ただ、「レスリング」ができない人には、あーだこーだ言われたくはないですけど。

KAZUSHI SAKURABA

# ヒクソンは誘いがウマい それがボクに掛かるのか 興味がありますね！



——「プロレス」ってホントに広いですよね。いろんな人の考え方、趣味指向があるし。

**桜庭** だから、ルール統一、反則5秒以内！（ニコニコ）。

——ガハハハ！ ところで『PRIDE.5』全体を見渡して目についた試合とか、面白かった選手とかいましたか？

**桜庭** う〜ん、やっぱりエンセンさんは、キレたら怖いですねぇ。

——怖いですねぇ。西田操一選手は面白かったですね。

**桜庭** ファールカップ忘れちゃって。

——マウスピースも忘れたみたいですよ。

**桜庭** べ！ そりゃあ怒りますよぉ！

——そういえば、エンセンさんも拳を骨折しちゃいましたね。それでも勝ちましたけど。他に目についた試合は？

**桜庭** やっぱり自分の道場の選手ですね。

——豊永（稔）選手と高田（延彦）さんですね。まず高田vsマーク・コールマン戦はどう見ました？

**桜庭** ボク、あとでビデオ見て発見したんですけど、あの人（コールマン）、モミアゲないですね。な〜んか抜けてるような感じするなってズーッと思ってたんですよ。そしたら、モミアゲがなかった！ それを発見しました！（ニコニコ）。

——ガハハハ！ 誰が第一印象話せって言ったんですか（笑）。当日の高田さんはどうでしたか？

**桜庭** リラックスしてましたね。1Rのあの袈裟固めはキツそうでしたね。アマレスとか柔道やってた人っていうのは、ああいう体勢になると強いですからね。あれを逃げることができた高田さんも凄いと思います。メインが締まればお客さんも気持ちよく帰れると思うんで、勝ってよかったです。



——豊永選手の試合は？

**桜庭** なにやってんの？って感じ。「さんざん偉そうに言っといて、なんだこの試合は！」って感じです。「これは終わってから説教してやる」と思いましたね。

——どの部分に対して説教しようと思ったんですか？

**桜庭** 「この野郎！」って気持ちがないんですよ！

——相手がイーゲン（井上）選手、しかも"あのエンセン井上の兄"っていうのに飲まれすぎたってことですかね。

**桜庭** 前日にエンセンさんが「ワタシのお兄さんはスポーツマンだけど、キレたらワタシより凄いヨ」とか、散々言ってましたからね（笑）。豊永もそれでビビッちゃって。

——そういう心理戦も含めて闘いですからね。桜庭さんはそういう相手のイメージの消し方がウマいんですよ。

**桜庭** ボクは試合になったらパッと切り替えますから。最初は怖いなぁと思っても、試合になると自然と切り替わるんですよ。

——圧倒的に本番に強いタイプですよね。いざとなったら強いタイプ。

**桜庭** 高校のときも、練習で全然勝てない相手を、本番で30秒ぐらいでフォールしたことありますからね。「オレって本番強いのかなぁ？」って思ったりしたんですけど。

——この"ホンバン王"って感じですね（笑）。『PRIDE.5』を非常に簡単に振り返ってもらいましたけど、MVPは文句なく桜庭選手ですよ。これは誰も文句つけられないでしょう。

**桜庭** そうですか？ じゃあ、なんかください！

——じゃあ、ウチ特製のTシャツあげます（笑）。

**桜庭** アハハハ、ありがとうございます（さっそく着てもらう）。

——ところで『レガイヤ伝説』は終わったんですか？

**桜庭** 終わりましたよぉ！ あれはねぇ、最後のボスキャラみたいのが出てきて、「こいつが最後だ！」と思って倒したとたんにぃ、「経験値」と「お金」もらっちゃって。そのあと、もう二匹ぐらい強いのが出てくるんですよぉ（実に悔しそうに）。終わりましたけど。

——ブラジル勢にもボスキャラいるじゃないですか。ヒクソン・グレイシーという。ビクトーを倒して一面の終わりに向かいつつありますけど、そろそろボスキャラ倒




『PRIDE.5』MVP賞として差し上げた『紙プロ』オリジナルTシャツをさっそく桜庭選手に着ていただきました（宣伝含む）。本当は桜庭NEW Tシャツで撮影するはずだったのですが、サクが忘れました（いや、これホント）

格闘 STAR WARS PRIDEとは何か？


しに行ってもいいんじゃないですか？
**桜庭**　ボクですか？　う〜ん、まぁ、できたらやってみたいとは思いますけど、いろんな選手も高田さんも「やりたい」って言ってるし……。
――高田さんは「もうヒクソンは対象として興味ない」って言ってましたよ。「また別の目標に向かっていきたい」って。
**桜庭**　そうなんですか？　ボクはハクソン（ヒクソンの息子）かなんかでいいです（ニコニコ）。
――ガハハハ！　ハクソン君に「お父さんの怒りパンチ」出しますか（笑）。でもヒクソンだったら体重がちょうど合うじゃないですか。ボスキャラ行っちゃいますか、この際。
**桜庭**　ああ〜、そうですか？
――いや、ボクに聞かないでくださいって（笑）。興味ないんですか？
**桜庭**　いや〜、やれたらいいなとは思いますけどね。
――選手としてどう見てるんですか？
**桜庭**　ヒクソンは誘いがウマいじゃないですか。誘って、来たところをバーンッて懐に入るのがウマいんで、それがボクにも掛かるのかな〜っていう興味ですね。「その前にお前を誘ってやる」とか思いますけどね。
――オオ！　実に見てみたいですねぇ。日本人選手でやってみたい人は特にいないんですか？
**桜庭**　試合してみたい人はいっぱいいますけどね。
――小川直也選手はどうですか？
**桜庭**　あの人、強そうですね。
――メインエベントの高田vsコールマン戦のあとに〝襲撃〟されたわけですけど、あれについては率直なところ、どういう感想を持ってますか？
**桜庭**　派手なベルトしてるなぁ、と思いましたね（微笑）。
――ガハハハ！　ベルトに目がいきましたか。小川選手はNWA世界チャンピオンですからね。
**桜庭**　そうかぁ、凄いッスねぇ。
――ああいった乱入劇とかはどうなんですか？
**桜庭**　あんまり気持ちよくないですね。別のプロレスと一緒になっちゃうんで。
――自分の試合のあとに、ああいうことをやられたら桜庭さんはどうなりますか？
**桜庭**　ボクは……そのまま帰っちゃいます！　疲れてるから。
――ガハハハ。実に見事にかわしますねぇ（笑）。では、最後に。たまには抱負をバシッと言ってください。
**桜庭**　ホーフ・グレイシー！　そういう人がいるかもしれないんで、その人とやってみたいですねぇ。これ、漢字で書いといてくださいね、抱負・グレイシーって。ウヒャヒャヒャ。いそうな名前じゃないですか？
――本日は桜庭和志選手に目いっぱい抱負を語っていただきました（笑）。『PRIDE』にもチャンピオンベルトとか欲しいですか？
**桜庭**　ベルト欲しいッスねぇ！　マルコ（・ファス）さんの家に遊びに行ったときに、UFCのベルトが並んでてカッコよかったんですよ。「ボクがUFC―Jのトーナメントで優勝したときはメダルだった」って言ったら、マルコさんが腹抱えて大笑いしてましたけどね。
――U系の中で統一チャンピオン決めるのも面白いですね。
**桜庭**　一億円積んでやりゃあいいんじゃないですか？
――ガハハハ！　懐かしのUインター方式で。そしたらみんな来ないですよ。
**桜庭**　ウヒャヒャヒャ。
――アラブの王子クラスの大金持ちがいればいいんですけどね。
**桜庭**　いいですねぇ。お金持ち募集！　あ、『紙プロ』で募集したらいいじゃないですか！　お金持ち!!（ニコニコ）。
――そうしますか。「もうちょっとお金持ちの人と会ってみたいです」と書いておきます。どうもありがとうございました。
**【5月11日／東京・六本木アートセンターにて収録】**

**前号のインタビューでは、「強さの部分ではなくて、ウマさの部分で勝負する」というようなことを言っていた桜庭だが、結果的にビクトー戦では〝強さ〟も〝ウマさ〟も〝凄味〟も全部出る形となった。**
**能力という意味でのパフォーマンスを存分に発揮したにも関わらず、「マイッタさせてないから完全に勝ったとはいえない」というサクの飽くなき闘志。試合における好奇心と冒険心。そして頭脳と肉体の両輪を転がし、試合を楽しむキャパシティ。桜庭の〝広さ〟と〝深さ〟は確実にこの一戦から伝わったはずだ。**
**世界で一番頼りなさそうで、世界で一番頼りになる男――素敵なサクの次なる相手は誰になるのか？　出場予定の『PRIDE. 6』は7月4日。もうちょっと強い相手を期待したいと思います（ニコニコ）。**

**※高田道場では、来たる6月20日に新人テストを行う。応募要項は、P102〜参照。**





♪エ～ンセン　WE CAN SEE
YOUR 大和魂
YOUR 大和魂　す～ばらしい
♪いのうえ～　いのうえ　がんばってだよ
いつも信じてるぅ～　いつも信じてるぅ～
♪さ～いしょから　さ～いごまで　お～とこだよ
さ～いしょから　さ～いごまで　お～とこだよ
♪いのうえ～　いのうえ　がんばってだよ
いつもがんばってるぅ～
いつも倒せるぅ～
いつも信じてるぅ～

作詞：エンセン井上

## 自分の手の骨が折れても、相手の心は折った!!

# ENSON INOUE
# エンセン井上


聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
試合撮影／森鷹博
Photographs by Takahiro Mori

**世紀のスーパーファイトと言われていたエンセン井上vsマーク・ケアーの中止が決定したのは、大会の直前でギリギリもいいところ。エンセンはひどく落胆していたそうだが、ムリもない。オマケに代打の西田操一選手相手に手の骨を骨折、さらには週刊誌の記事、修斗コミッションとの関係などなど、ここに来てエンセンの周りには問題が一気に吹き出してきた。さあ、どうする、エンセン!?　頑張れ、エンセン!!**

――さっそくなんですがエンセンさん、『週刊ポスト』の記事、読みました?

**エンセン**　ひどく書くネ！　でも、ワタシも有名になったかな?　アハハハ！

――そんな記事よりも、こっちの記事の方がいいんじゃないですか?　エンセンさんが好きだったヨネ原人は引退しちゃいましたけど、凄いヤツが現れたんですよ。ちょっと見てください（と写真を見せる）。

**エンセン**　ウワァ〜！　これな〜に!?

――原始猿人ヴァーゴンです。エンセンさんとヴァーゴンで対決してほしいですね！

**エンセン**　アハハハ！　すごい！　面白いヨ〜。野蛮人vs原始猿人の対決ネ、アハハハ！

――なんだか『PRIDE.5』での骨折に続いて、災難続きですねえ。そういえばギブスはもう外してるんですか?

**エンセン**　いや、これはちょっと……医者には怒られると思うんだけど（笑）、昨日むりやりカットしてウェイトトレーニングできるようにしたの。

――え！　もう練習してるんですか?

**エンセン**　ギブスのままだったら絶対掴めないからネ。ギブスを外せば手を使えるから、（筋肉が）落ちないネ。手のトレーニングはしてるヨ。ぶつけるとちょっと痛いけど。

――全治2か月という話ですが。

**エンセン**　医者が言ってるのは普通の人ならという話。俺は普通の人じゃないから（笑）。特別のプロ格闘屋だから1か月半くらいで大丈夫だと思う。普通の人ならギブスしたらもうしょうがないから何もしないと思う。汗かかないように走らないとか。俺は違うネ。汗かくのが当たり前のこと。今は一生懸命、筋肉落ちないように、皮膚が死なないように、臭くもならないように（笑）。そればっかり考えてるネ。





（上）マーク・ケアーはヒジの関節ネズミ除去手術を受け、夢のカードは延期となってしまった。残念！　（下）ホーガンポーズを決めながら入場してきた西田だが、ファールカップの着用を忘れるという大失態を演じた。いい味のキャラだけに、何らかの形で再登場希望。

# 試合前の雰囲気はムカついたヨ　フザケる試合みたいになったネ

――7月4日の『PRIDE.』には間に合いそうですか?

**エンセン**　筋肉が落ちなければネ……「出ません」とは言わないけど、絶対「闘えます」とも言えない。今月の終りの方にギブス外して、闘えれば闘うから。

――もしケアーとじゃなくてもですか?

**エンセン**　いや、多分それはないネ。ホントは西田さんと闘うつもりはなかったネ。でも、『PRIDE.』はいろいろ助けてくれた。ホントはケアーとの試合がなかったら、契約のお金の半分しかもらえないはずだったのに、『PRIDE.』はちゃんと払ってくれたヨ。心感じたネ。エンセンも考えた、「『PRIDE.』からケアーとエンセンが消えたら、大変だろう」って。ファンのことも考えたら、試合やらなくちゃと思ったネ。でも、もうケアーとじゃないと試合をやるつもりはないネ。

――入場の時は西田さんがファールカップとマウスピースを忘れて、おいしいところを持っていきましたよね。

**エンセン**　あれはムカついたよ！　スモークだらけのところで、5分も待たされたし。自分の試合の前に笑い声聞こえたネ。ワタシのテーマ曲でもみんな笑ってたでしょ。

――衝撃的なテーマ曲でしたからね。

**エンセン**　怒ったヨ！　フザケる試合みたいな雰囲気になったでしょ?　お客さんじゃない、西田選手じゃない、あの会場の雰囲気に怒った。余計に殺したくなったヨ。

――エンセンさんがただよわせていた緊張感は怖ろしかったですよ。で、やってみたら殴り勝ちでした。

**エンセン**　彼はずっと空手ルールの試合やってきてたから顔面パンチには慣れてない。だからむりやり寝技に持ち込むより、台風のような感じでガーッと攻めれば用意ができないだろうと思った。空手の試合はポーン、ポーンと（間合いを計りながらを）やるでしょ?

――エンセンさんのような感じでは攻めないですね。

**エンセン**　そう、もう「死亡OK！」と思ってたから（笑）、試合開始でバーッと行ったらレフェリーに止められて、タイミングがずれた感じになったヨ。彼が用意できないように、ゴングが鳴ったらもう彼の目の前にいてやる感じにしたかった。でも一回目は止められたから、ちょっと用意させちゃったかな。きれいにアゴに決めて気絶させたかった！

――でも、その一発目で逆にエンセンさんが骨折しちゃったんですよね。

# 格闘のリングにプロレス的やり方を持ち込まないでほしいヨ!!

**エンセン**　アハハハ、そうそう。みんな「そこまでやらなくてもよかったじゃん」って言うんだけど、逆に軽くやって大変な試合になって、もし負けちゃったりしたら「もっと本気でやればよかった」って言うじゃん（笑）。格闘技だから骨折とかそういうことはあるネ。しょうがないと思うヨ。でも空手の選手を立ち技で倒してやればいいな〜と。

——アハハハ、おいしいですからね。

**エンセン**　やっぱりマウント取って寝技で決めたんだけど、それは納得いかなかったネ。もっと殴りたかった！

——もっと殴りたかった（笑）。エンセンさんは、殴るの好きですよね。

**エンセン**　首は絞めれば、誰でも気絶する。関節極めれば、誰でも折れる。殴ってタップを奪うのは心を潰すこと。極めない、気絶しない、顔だけボコボコにされるから、怖くてタップするネ。心を潰すのは気持ちいいネ、ハハハ。

——残酷ですよね、エンセンさんは。

**エンセン**　（佐藤）ルミナとかマッハ（桜井速人）はきれいな技を使う選手ネ。その中で、ワタシは失礼な勝ち方したい！

——失礼な勝ち方（笑）。ところで、今回の『PRIDE.』の他の試合は見てましたか？

**エンセン**　全部見ましたヨ。

——第1試合でイーゲンさんも勝ちましたね。ちょっとレフェリーストップが早かった気もしたんですが。

**エンセン**　あれはイーゲンがダメ。最後の1発が効いて、もう豊永（稔）はやる気はなかったかもしれないけど、イーゲンがどうしよう、どうしようって迷ってたら審判がストップかけた。イーゲンはあのとき審判を見てたもの。1発目が入ったとき、右、左、右と入れる時間があったのに。中途半端だヨ！

——相手が強ければつけこまれる、と。



怖ろしい形相で入場してきたエンセン。ゴングが鳴った瞬間に右のパンチを顔面にブチこんだが、これでエンセンは骨折。その後も頭部に集中的にパンチを打ち下ろし、最後はチョークでタップを奪った。何もさせずに24秒で勝ち名乗りを受けた。野球でいうところの完全試合だった



**エンセン**　それより、自分を強く見せれないと思う。相手が桜庭のレベルだったらイーゲンはやらない方がいいヨ。やばいヨ。負ける可能性あるっていうか……勝ってないと思うヨ。

——豊永選手をどう思いました？

**エンセン**　うれしかったヨ、彼の闘い。彼は恐れず、逃げないで、技を合わせてきて、マウントとかチョーク取られそうでも逃げて、また立って……頑張ったヨ、彼。

——小路（晃）選手の試合は、けっこう興味を引いたんじゃないかと思うんですけど、体格差を考えたら、小路選手はよく頑張りましたよね。

**エンセン**　小路はちょっと負ける方を心配しすぎてると思ったネ。判定狙うより、KOするかされるか、どっちかの勝負をすればよかったと思う。最後だけちょっとガッカリしたネ。

——なるほど。でも、小路さんは『PRIDE.』に参戦し続けて評価が上がってますよね。対戦は考えませんか？

**エンセン**　彼がヘンゾ（・グレイシー）とやった時に、「あ、いいな、やりたいな」と思ったネ。でも今は断る。彼のこと応援してるから。一緒に練習はしたいけど、戦う気は全くない。彼の考え方とか、生き方とか、好きだネ。ワタシ、小路のファンだヨ。同じ名前だしね（笑）。

——エンセン・正二・井上ですからね（笑）。さあ、話を進めましょう。桜庭（和志）選手の試合はいかがでした？

**エンセン**　スバラシイ！　素晴らし過ぎた！　オレ、あそこまでできないと思った。認めるヨ。オレより上だヨ（笑）。オレはヘビー級で頑張るから、ミドル級でガイジン倒して下さい（笑）。ホント読めない選手だヨ。

——読めない？

**エンセン**　立ち技でくるのか寝技でくるのか……彼は試合中でも頭が回転してる選手ネ。冷静、野蛮人、冷静、野蛮人……うまいヨ！　プロだヨ、彼。

——技術的にすごいなと思ったところはありますか？

**エンセン**　立ち技のコンビネーション！　立ち技とか考えてないはずなのに、足が上がって蹴っちゃう。寝技的にも問題ないしネ。オレが彼から試合前に聞いた作戦と、試合が違うんだヨ！

——聞いた作戦って、どんな感じだったんですか？

**エンセン**　あたりまえの作戦ヨ。最初の立ち技のパンチを避けて寝技で長く勝負して、スタミナ切れたら極める感じ。まさかアリ状態でも蹴るとはネ！　ベウフォートの作戦の中に入って、その中で倒した感じ？　いや〜、素晴らしい！　立ち技でも行けるヨ！

——金原さんが試合中セコンドについていろいろ桜庭さんに言ってましたが。

**エンセン**　きっと金原さん余計なこと言ってるはずだよ（笑）。でも他の高田道場の人より『PRIDE.』ルールをわかってるから、いいと思うよ。



試合が終わってもエンセンの鬼の形相は崩れなかったが、マーク・ケアーに挨拶したときだけはようやく表情が崩れた。次こそは実現してくれ！

——桜庭さんと金原さんって試合中にしゃべってたらしいですね。金原さんが「そこで蹴って！」とか言うと、桜庭さんが「出来ません！」とか（笑）。

**エンセン** 冷静だね。桜庭はプロレスラーだけど、格闘屋として素晴らしい。格闘技のファンも認めてほしいネ。桜庭は「男」とか「大和魂」とかの言葉は使わないけど、完全にその気持ち入ってるからね。完全にわかるよ、彼の気持ち。

——では、メインの高田（延彦）選手の試合内容はいかがでした？

**エンセン** ……私のやってる試合とは違う。私や桜庭、小路、イーゲンのやってる内容とは違うネ。違うリングだったら素晴らしい試合だった。同じリングなら……「しょうがない」の感じ。高田さんはすごい人気者だし、彼がいなかったらチケットの売り上げも減っちゃうと思うし。ただ、これから高田さんにお願いしたいのは、これから『PRIDE.』とかUFCとかシューティングのリングに上がるなら、ちゃんと俺たちのような内容の試合をしてほしい。弱さとか強さをさらして本当に男らしく……勝負する。

——試合後には小川（直也）選手が来て、マイクアピールをしましたよね。

**エンセン** 最後に小川さんが高田さんに文句言ったから、プロレスっぽい試合になっちゃった。自分が認めて試合に出たけど、同じ大会で違うやり方の試合があるかもしれないってことがわかったヨ。でも、格闘のリングに、『PRIDE.』のリングにプロレスのやり方を持ち込むのはやめてほしい。『PRIDE.』は世界では格闘技のリングとして認められてるんだから。一番最後でサーカスみたいになっちゃった。あの試合をTVで観たら、格闘がメインなのかプロレスがメインなのかわからないと思う。

——そうですね。

**エンセン** 今度の『PRIDE.』に最初からそんなことがあったら出ない。断ります。もし「ない」と最初に約束してもらっても結局、プロレスのマイクアピールなんかやられたら俺は出ていくヨ!! やった人を力づくでも、殴ってでもリングから出す。

——おおっ！

**エンセン** 『PRIDE.』にもお願いしたヨ。「2度とこういうことはしないで下さい」って……小川さんも強いんだから、ああいうことしないで格闘の試合で見せればいいじゃない！ Tシャツ脱いで「高田来い！」なんてさ、もう高田さんは試合も終わってるんだから闘うわけない、そのぶんもファイトマネーも出ないんだし（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。

**エンセン** ちゃんと宣伝して、2人がフレッシュなときに闘えばいいじゃん？ わけわかんない。村上（一成）さんはいるし、横に、村上（一成）さんはいるし、でも最後に高田さんが出て行かなくてよかったヨ!! ことが大きくなってないのは、高田さんの大人の態度のおかげヨ。前田（日明）さんだったらヤバいよ！ 前田さんだったら、3時間4時間の試合やった後だったとしても倒しに行っちゃうだろうネ（笑）。

——絶対行きますね（笑）。

**エンセン** 小川さん、次は前田さんのところに行って試合してほしいヨ。私はプロレスファン的にはすごく小川さんを応援してるヨ。

——「日本で最強じゃないか？」って言われてますよね。

**エンセン** ちゃんとした試合を見たことないからわからないけど、柔道の日本チャンピオンだし、やったら強いと思うネ。

——そういえば最近、修斗コミッションが発行している会報で、名前は挙げずにエンセンさんや『PRIDE.』と思われることを批判していましたね。

**エンセン** いいヨ！『PRIDE.』にはまた出るヨ！ もし今度『PRIDE.』に出て私のベルトを剥奪するんだったら、別にいいヨ！ 修斗コミッションが俺に生活の金払ってるんじゃないんだし、そんなこと言えないはずだヨ！

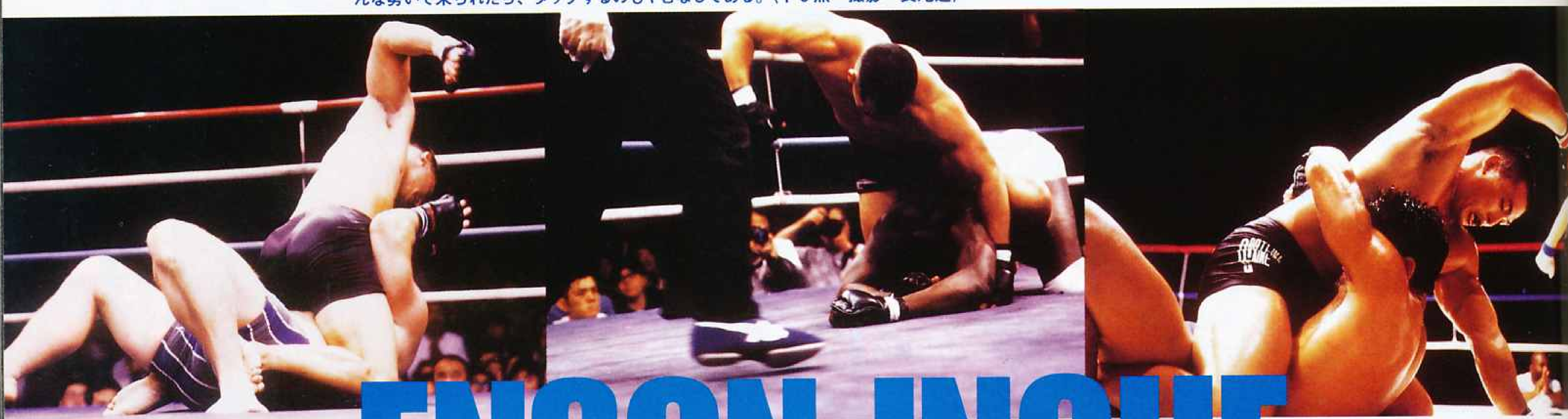
——「修斗コミッションのライセンスを交付された選手が出場したり（中略）こうした動きに対して、正直不快感を抱いています」ということみたいです。

**エンセン** もし私が八百長の試合してるなら悪いかもしれないけど、ちゃんと試合してるヨ。コミッションは怒らなくてもいいようなことをすごい力で話すヨ！ コミッションは私にそれを言える立場じゃないヨ！ そういう不公平なことというんだったら、ワタシ辞めますヨ！ オファーがきた時に不正があるかないかなんて判んないじゃない。確認できない。俺にとってはいいファイトマネーがもらえて、世界のトップと闘えるんだから、それにダメと言うなら……あの言葉が出るヨ！

——「くたばれ!!」ですか（笑）。

**エンセン** 「ふざけるな!!」の方がいいかな（笑）。

左からvsジョー・エステス（97・10・12）、vsズール（97・10・12）、vsフランク・シャムロック（97・11・29）と並べてみるとわかるようにエンセンの試合では打撃が非常に重要。とにかく潰すことを目的とした怖ろしいものだ。そんな勢いで来られたら、タップするのもやむなしである。（下３点　撮影・長尾迪）



# ENSON INOUE

（ここで「ヨォ!!　エンセン!!」と言いながら日ごろエンセンと仲の良いリングスの金原弘光&全日で活躍中の高山善廣が入室）

**エンセン**　あっ、金原さん！　アナタの話してたよ。桜庭の試合はナイス・セコンドだったネ。

**金原**　誰がやっても一緒だよ（笑）。

**エンセン**　今度、ワタシのセコンドにもついてください（笑）。

**金原**　マネー次第だね（笑）。あっ、そういえば『PRIDE.』のパンフレットでエンセンは「嫌いな格闘家　金原弘光」って書いただろ!?

**エンセン**　ア～ッハッハッハッ、いいじゃん。いい宣伝になったでしょ？

──金原さんはエンセンさんの試合はどう見ました？

**金原**　まあまあかな。

**エンセン**　アハハハハ、ひどいネ。

──エンセンさん、金原vs田村戦は見ましたか？

**エンセン**　初めの1分間は金原さん、かっこ良かったけどスイッチオンで金魚になった。ハァハァハァって（笑）。

**金原**　エンセンは年1試合か2試合しかしないでしょ？　ボクは年間15試合だよ。身体がダメなときだってあるよ！

**エンセン**　いいじゃん。今日は『PRIDE.』のファイトマネーで今日はパーティーできるし（笑）。

**金原**　ところで入場テーマ曲は何だったの？　歌えるよ、オレ。♪エ～ンセン、ウィ～・キャン・シ～……。

**エンセン**　あの歌詞はいまのオレの気持ちを全部言葉にしたものネ。ただ、試合の前に女の声を聞くと……ヤリたくなっちゃう（笑）。

**金原**　じゃあ、オレが歌うよ！

**エンセン**　金原さんの顔を思い出して、怖くなっちゃうからダメ（笑）。

──入場テーマ曲の歌はCD化しないんですか？

**エンセン**　でも、自分では歌いたくないヨ。ワタシ、金原さんより歌上手いんだけど（笑）。パンクラスがCD出したでしょう？　その話を聞いた時「なに？　ふざけるな！」と思った。歌が上手いのかも知れないヨ。ただ、歌手じゃないのにプロレスの力でCD出すなんてよくないと思った。だからワタシはコーラスの一言も歌ってないヨ。CDが出たら、ワタシは歌ってないと言いたい（笑）。

──ルミナ選手の入場テーマもCDになってますよね。

**エンセン**　あぁ、もし彼が歌ってたら殺しに行くヨ（笑）。朝日さんとかマッハとかがCD出してても殺しに行くヨ！

──でも、佐山（聡）さんは自分で歌ってCD出してましたよね。

**エンセン**　あぁ、彼は遊びすぎネ（笑）。

──アハハハ、じゃあ、そろそろパーティーも始まりそうなんで、最後に金原さんもエンセンにコメントをお願いします。

**金原**　♪が～んば～ってだよ～（笑）。ケアーをボコボコにしてほしいです！

──高山さんもお願いします。

**高山**　エンセンならね、ケアーにも勝てると思いますよ。

──ぜひケガを完治させて、次こそはマーク・ケアーに勝ってください！

**エンセン**　そうネ！

**【'99年5月9日、埼玉・シューティング大宮ジムにて収録】**

ENSON INOUE



## 驚愕事実、発覚!!　本誌独占取材!!
## エンセン、『PRIDE.5』の翌々日にラケットボールの試合に出ていた?

『PRIDE.5』で、不運にも右手を骨折してしまったエンセンが、その2日後にラケットボールの試合に出ていたという、とんでもない事実が発覚した。

そもそも『PRIDE』の試合前から「こんどのラケットボールの大会、出場するヨ」と言っていたエンセンだったが、いくら何でも骨折したら普通は大事をとってキャンセルするところ。しかし、エンセンは遊び心がそうさせるのか、「大丈夫ネ」と右利きのところを左手でラケットを握って強行出場！　しかし、いくらかつては世界的なラケットボール・プレイヤーだったエンセンでも、2年ぶりにラケットを握っての試合ということもあり格闘技用の身体になってしまったエンセンには、少しキツかったようだ。

結果、エンセンは一回戦負け。試合後には何事かを審判に突っかかっていったが判定はくつがえらず。曰く「だって、揉めないとつまらないでしょ？　ハハハハ！」だって。エンセン、元気！　「ラケットボールのお陰で、日本に来れたから。ラケットに『ありがとう』の感じ。今後も楽しんで、試合に出るつもりだヨ」ということなので、これからエンセンが試合に出るときは随時告知する予定。エンセンファンなら、一度はこっちのエンセンも見ておこう！

### 西田操一の次は、この男が相手だ!
### ラケットボール歴15年のツワモノ
### 羽生詠惣氏プチ・インタビュー

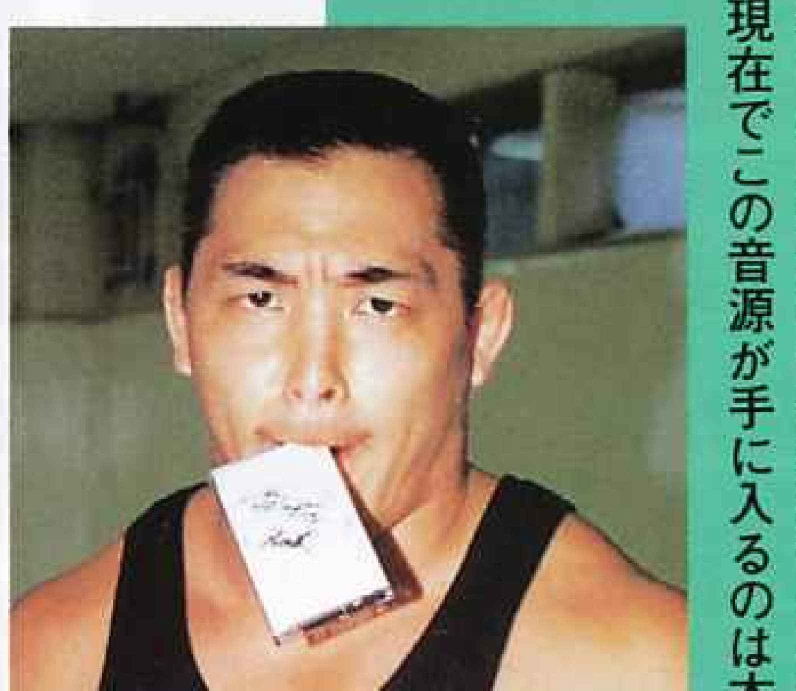
「一昨日、試合やったのは知ってます、もちろん格闘技の方のエンセンさんも大ファンですから（笑）。ラケットボールという檻の中でやる競技ですから、エンセンさんの殺気は感じましたね。怖かったです。いやぁ、凄いですよ。エンセンさんは、全日本王者にもなったことあるんですよね。お兄さんのイーゲンさんは、世界王者になったこともあって、世界最速の球を打った記録も持ってますからね。いやあ、ホントに素晴らしい兄弟ですね。さすがに左手だったらワタシも勝たないとね（笑）」



本誌にエンセンのこぼれ話を連載中のプナ二酒井は昨年の全日本チャンピオンだったが、今年はベスト8で敗退。残念！

### 本誌独占!!『PRIDE.5』で大反響のエンセン入場テーマ曲を1名様にプレゼント！

素敵なハワイアンにのって、エンセンが作詞したカタコトの日本語（扉ページを参照）を女性ボーカルで歌い上げる奇跡のような一曲、エンセン入場テーマ『PRIDE.5』バージョン。原曲はVTJ'98のときの入場テーマ曲の冒頭部分。自分の曲を自分で作る、そんなDIYな発想に脱帽！　CD化するかもという話があるらしいが、5月16日現在でこの音源が手に入るのは本誌のみ！　応募方法は、P143ページを参照してください。



### Kill or Be killed?（殺るか、殺られるか?）
### PUREBREDシューティング大宮ジムに入って、大和魂を身につけよう!

エンセン井上、朝日昇、池田久雄、加藤鉄史、アンソニー・ネツラーと、修斗のトップクラスで活躍する選手たちが多く在籍する大宮ジム。エンセンが教える柔術クラス、朝日昇が教えるトータル・ファイティング、関節技のクラスなどなど、目的にあわせてコースが選べるので、初心者や女の子からプロ志望の人まで目的に合わせて選べるぞ！　お問い合せは下記まで。

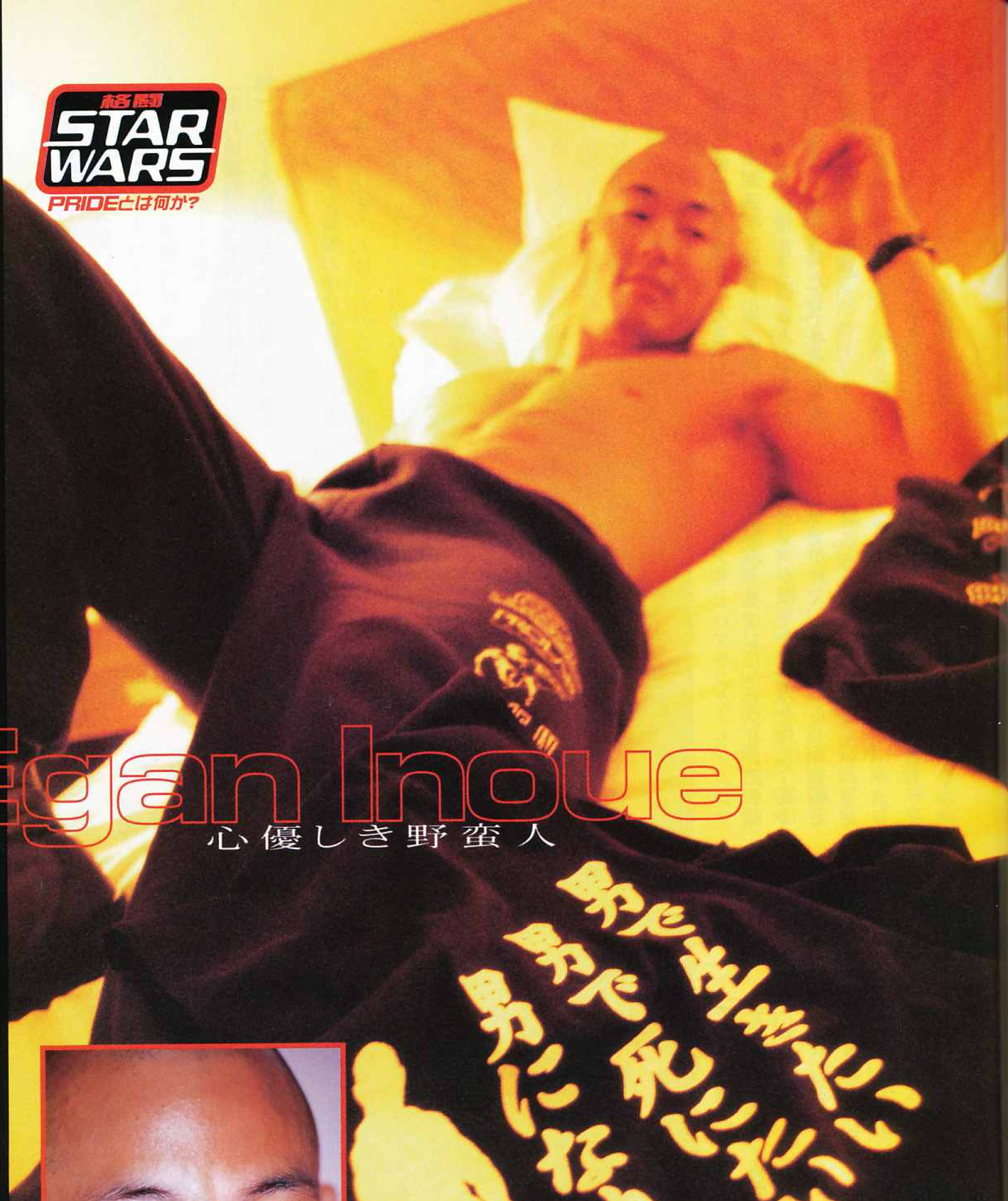


**埼玉県大宮市丸ヶ崎2919-1**
**PUREBRED**
**シューティング大宮ジム**
**TEL.**
**048-686-3328**

格闘 STAR WARS
PRIDEとは何か?

# 野蛮人(エンセン井上)を弟に持つ イーゲン井上

## Egan Inoue
### 心優しき野蛮人





**弟のエンセン井上が野蛮人なら兄のイーゲン井上は紳士。だが、リングスでの成瀬昌由戦での一触即発のキナ臭い試合や、『バーリトゥード・ジャパン'97』におけるエンセンvsフランク・ジャムロック戦におけるリング乱入など"ヤル時にはきっちりヤル"井上家の長男なのだ。プロ格闘技の世界ではエンセンほど注目されてはいないが、今年の『アブダビ・コンバット』ではヘンゾ・グレイシーに快勝し、『PRIDE 5』では髙田道場の豊永稔もTKOにくだしている。バーリトゥード界の遅れてきた超新星、本誌初登場!!**

構成／中村カタブツ君(36歳)
Text by Katabutsukun Nakamura
撮影／森鷹博
Photographs by Takahiro Mori
通訳／アンソニー・ネツラー
Interpretation by Shooto-Fighter

『PRIDE5』では髙田道場の豊永稔を相手に5分53秒でTKO勝ちしたイーゲン井上だが、試合後の記者会見では〝豊永選手は非常にタフで技術を持った選手〟とコメントして実に紳士的。さらには桜庭和志に判定負けしたビクトー・ベウフォートの柔術の腕前に関しても、ある意味紳士的にこう語っている。

**「柔術をやってる場面を見たことがないからどれだけうまいかはわかりません」**

え!? ちょっと待てよ。『PRIDE5』のリングで柔術の技を一切出してないのか、ビクトーは?

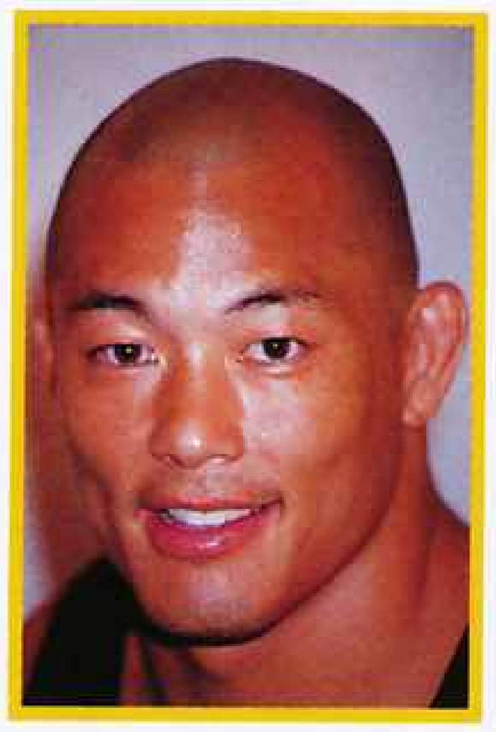
**「あれは寝転がっていただけです(微笑)。ガードポジションとも言えませんね」**

ジェントルな物腰の中にもピリッと辛口(本人にはその気はないだろうが)の言葉が心地いいイーゲン井上は非常に温厚な男であるが、だけどやっぱりエンセン井上の兄だけに野蛮人の血は流れているわけだ。

96年8・24リングスでの成瀬昌由戦では目に指が入ったと怒り、マウントを取ると同時に反則の顔面パンチを入れるという殺伐とした試合を展開しているのだ。

**「危険な時には必要なことを絶対にやります。成瀬選手はワザとではないんでしょうが、目に指を3回も入れてきました。あとで雑誌を見たら、そういう写真も載ってましたから」**

一方、成瀬は試合直後の記者会見で〝指が入ったんじゃなくて掌底が目に当たったのだ〟と否定し、逆に反則を犯したイーゲンに激怒しているわけだが、真偽のほどをここで問うつもりはまったくない。重要なのは最近になって成瀬が「これからはバーリトゥードをやっていきたい。そうなればいずれイーゲン選手とも対戦することになると思うので楽しみにしています」と語っていることだろう。リング上で起きたことはリング上で決着をつけければいいこと。ぜひとも再戦が望まれるところだ。



ちなみに、試合についてはイーゲンが顔面パンチを入れ始めると即座にエンセンがリングに乱入して山本宜久に掴みかかるなど、兄がキレれば弟もキレるという見事な〝ブチ切れ〟の連鎖っぷりをみせてくれて抜群。

さて、弟が乱入すれば兄も負けてはいない。翌年11月の『バーリトゥード・ジャパン』ではエンセン井上vsフランク・シャムロック戦の最中、ダウンしたエンセンにさらにフランクが殴りかかるのを見て今度はイーゲンが乱入したのだ。ルールを超えた素晴らしい兄弟愛に脱帽。

これらの件でもわかる通り、イーゲンがキレてしまうのは自分自身もしくは家族に危険が及んだ時。それが如実に顕れたのが98年2月ハワイで行われた『ブラジリアン柔術大会』での乱闘事件だろう。

## ビクトーの柔術の腕前?『PRIDE』では寝転がっていただけだからまったくわかりません(微笑)

## Egan Inoue

この大会にエントリーしたイーゲンは、大会の主催者側であるヘウソン・グレイシー一派から再三のいやがらせを受けたらしい。この場にいわせたエンセンは98年4月号の『ゴング格闘技』で「試合の日、イーゲンの名前が3回ぐらい呼ばれたけど試合場に行ってみると相手がいなかった」と語っている。

普通は試合時間に相手がいなければ不戦勝になるはずだがそうはならず、ようやく相手が現れると今度はイーゲンの道着が規定のものとは違うと言われてイーゲンがすっかりやる気をなくしてしまったというもの。それがもとでエンセンとセキュリティーガードがモメ始め、それを止めようとした井上兄弟の父にまで手を出されてイーゲンも激怒。200キロもある、そのセキュリティーガードを締め落としたのだ。凄ぇぜ、イーゲン!

**「バウンサー(用心棒)みたいな人が手を出してきたんですよ。結局、あの直後は単なるネガティブ・トラブルでしたけど、いまではポジティブな結果がでています。あの場面を実際に目撃したヘウソンの生徒たちがヘウソンの道場を辞めて私の道場『グラップリング・アンリミテッド』に移ってきているからです」**

事の善悪については当事者双方の言い分があるだろうが、ヘウソンの弟子たちはそう判断したということだ。実際のところ、ヘウソン道場のトップ選手であるバレット吉田までイーゲンのもとに移ってきているのだ。ただ、それによって、

4・29『PRIDE5』では豊永稔と対戦したイーゲン。グラウンドでもスタンドでもまったく危なげなく、5分53秒、グラウンドでのパンチを連打したところでTKO勝利となった。



さらに抗争の火はデカくはならないのだろうか。

**「でも、人の心はコントロール出来ませんから。彼らがそう望んだわけですし、私の問題ではないです。ヘウソンはまだバレットに怒っていますよ（微笑）。でも、ヘウソンよりも私の方がバレットをヘルプしてあげられることは多いですから。バレットはヘウソンから何も習っていませんよ。ヘウソンのところに来たブラジル人柔術家に習っていたに過ぎませんから。ヘウソンが持ってる技術はもうオールド・スタイルなんですよ。ホイラーなどは試合をしているので現在の柔術の進歩にも付いていけるんです」**



井上軍団集合だ！　中央のイーゲンの左どなりが井上兄弟の父。つまり"大和魂"の生みの親だ

なんかトラブルの根は一層深くなってるような気もするが、まあ、互いにいがみ合うのは柔術界ではよくある気もするし。それよりもイーゲンの柔術の師匠はヘウソンだったんじゃないのか？　師匠とそういう形でトラブルを起こしたままというのはいかがなもんであろうか？

**「いいえ。私はヘウソンの道場には3ヵ月しかいません。私の柔術の技術はほとんどエンセンに教わったものです」**

そもそもイーゲンが柔術に興味を持ったのもエンセンの喧嘩を見てからだ。

**「車での事故がきっかけだったんですけど車に乗ってた人たちが降りてきて喧嘩になってしまったんです。エンセンはマウントをとって数発殴るとすぐにチョークで相手を締め落としてしまったんです（微笑）。大きな男二人が相手だったんですけど時間にして1分ぐらいでしたね。その時、私はエンセンが何をやって相手にダメージを与えたのか、まったくわからなかったんです」**

イーゲンいわく、**「まさに芸術だった」**というほど素早く滑らかに相手を仕留めた格闘芸術を路上で展開したエンセン。この闘いを見て柔術を習おうと思ったイーゲンなのだが、実はそれ以前に柔術を見てはいるのだ。

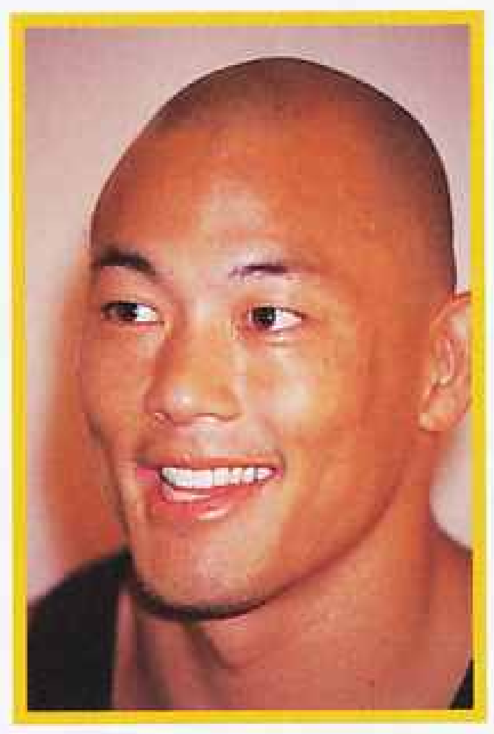
**「エンセンのストリートファイトを見る以前に柔術の試合は見たことがあります。それは『PRIDE5』でヒ**




'95年の『トーナメント・オブ・J』ではアレクサンダー大塚を下し、決勝では高坂と対戦（写真右）。腕十字を極めたかに見えたが、抜けられ判定負け。今年の『アブダビコンバット』ではヘンゾ・グレイシーにポイント勝利（写真左）。（写真　長尾迪）

**クソンとホイラーがデモンストレーションで使った技とは少し違いますけど、柔術が実戦でも有効だとは思えるようなものではありませんでした。だけど、実際に喧嘩してる場面を見たら役に立つと思いましたね（微笑）。だってあの当時3ヵ月しか柔術を練習してないエンセンが勝ったんですよ、凄いじゃないですか（笑）」**

確かに凄い。たったの3ヵ月しか習っていない技を喧嘩に使おうと思うその度胸も、簡単に勝ってしまう基礎的な運動能力の高さも驚愕の一言。



柔術の実戦性を弟が展開した喧嘩によって納得したイーゲンはすぐに自分も柔術を習い始める。

**「でも、しばらくは練習してもフラストレーションが溜まる一方でしたね。エンセンの教え方は凄い厳しいものでしたから。1日に100回も逆十字を取る練習をしたりするんですから（笑）」**

だが、現在エンセンが主催する『ピュアブレッド大宮』の練習に比べればどおってことないでしょ。なにしろ、試合間近になると気合いが入りすぎるほど気合いが入るエンセンはスパーリングでも相手をボコボコにしてしまうわけだから。

## エンセンの教え方はすごい厳しいものでした。1日に100回も逆十字を取る練習をするんですよ

# Egan Inoue

**「その時は柔術のトレーニングだから、そこまではしなかったですね。まず最初にいくつかの技を教わってスパーリングになるんです。ですが、このスパーリングが一番イライラしたんですよ（笑）」**

いくら柔術では先生とはいえ、弟に負けるのはやはり嫌なものだろう。

**「子供の頃から何をやっても私が勝っていましたからね（笑）」**

だが、そんなちょっと切ないこともすべて自分の肥やしにしたイーゲンは今年のアブダビ・コンバットでヘンゾ・グレイシーから勝利を奪い、一気に名を挙げた。

**「たぶん私の作戦が良かったんじゃないんですか？　あのトーナメントは世界で一流の人たちが集まったトーナメントだから、もしかすると他の誰かもヘンゾに勝っていたかも知れません（微笑）」**

やっぱりあくまで謙虚なのだ。

彼には基本的にプロ格闘家という意識はあまりない。自分が主催する『グラップリング・アンリミテッド』で柔術を教えながら、機会があればバーリトゥードに出るというスタンスだという。

**「バーリトゥードの輪はこれからもっと大きくなると思いますし、それによって満足のいくファイトマネーが貰えるんだったら是非闘いたいです。でも、それが叶わないんだったら、このまま柔術を教え続けてもいいと思ってます。私には守らなければいけない家庭があります。だから、ケガをするかもしれないバーリトゥードに出場するリスクに見合うだけの保証というかお金は当然必要になってきます。今日の『PRIDE』でも、少し拳を痛めてしまったので柔術のスクールも少し休まなくてはいけません。やはり私も子供に何か買ってあげたいんです（微笑）」**

イーゲンの次の試合は6月1日ハワイで行われる『スーパーブロウル』である。子供へは勝利のプレゼントと同時にぜひとも物欲も満たしてあげてほしい。

無邪気な笑顔の中にも野蛮な血を秘めた〝人懐っこい野獣〟。それがイーゲン井上なのである。

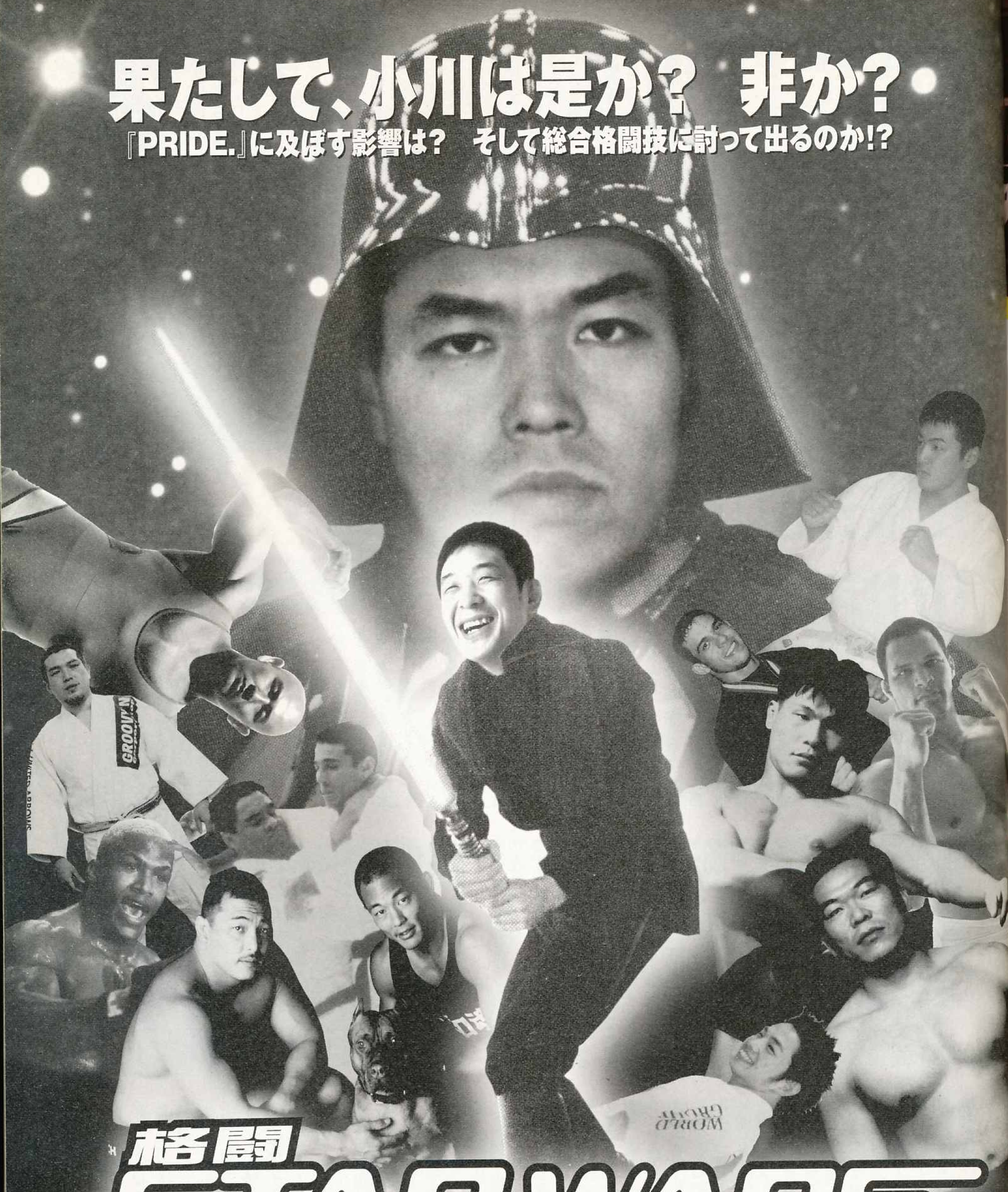
**【'99・4・29　名古屋ヒルトンホテルにて収録】**



1965年6月4日ハワイ生まれ。ラケットボールのプロ選手としては世界選手権を2度も制している名選手。エンセン仕込みの柔術の腕も一流で'96年に青帯で世界選手権優勝、97年には紫帯でも優勝している。98年10月号の『ゴング格闘技』では現夫人＆前夫人と仲良くスリーショットしている写真が掲載され、女に対しては野獣まる出しかと思ってたが、実は前夫人とは"フレンドリーな関係なんだ"とのこと。やっぱりかなりの人格者。

# 果たして、小川は是か？　非か？

## 『PRIDE.』に及ぼす影響は？　そして総合格闘技に討って出るのか!?



# 格闘 STAR WARS

## 総合格闘技の未来を占う超スペクタクル座談会

座談会出席者　花くまゆうさく/椎名基樹/吉田豪/山口日昇

# 高田選手の試合を面白いと思っているボクのどこが変なの？・（山口）

**高田の復活、桜庭激勝などさまざまなドラマを見せてくれた、4・29『PRIDE.5 in NAGOYA』。そのクライマックスで小川が高田を襲撃!! これに対して一部ファンは大絶賛、一部は大ブーイングと、その評価が真っ二つに割れている。一方、高田の試合内容に関しても、インターネット上でバッシングが巻き起こるなど、『PRIDE.5』は、多くの波乱を含んだ、非常に注目すべき大会であった。**

**というわけで、今回の座談会はゲストに花くまゆうさく氏＆椎名基樹氏を迎えてお届けする。みずから柔術を習い、ハワイ遠征までしてしまう花くま氏と、リングス・オランダ大会やUFCニューオリンズ大会にまで自腹で足を運んでしまうアクティブな格闘技ファンの椎名氏。比較的〝格闘技側〟に近い両氏の見方と、本誌の黄金コンビ（代々木タワーズ）の目に映ったものが大激突する形となった今回の座談会。プロレスと格闘技の未来を考える上での重大な問題提起を投げかける、危険球ギリギリの格闘スターウォーズ座談会、いよいよ封切りです！**

## ●まず『PRIDE.5』のどこが面白かったのか？

**山口** え〜、今日は、『PRIDE.』に関する座談会だっつーことで、まずは「男のプライド」をテーマに、二瓶組長の逮捕のことから話しましょうか（笑）。

**豪** なるほど、それで今回は事情通の方が2名来てるわけなんですね（笑）。

**山口** そういうわけで事情通の花くまゆうさくさんと、椎名基樹さんをお招きしています（笑）。二瓶組長の逮捕に関してはどう思います？

**椎名** 勲章でしょう（笑）。朝のニュースで八木亜希子に読み上げられてたんで、これこそ「プロレス市民権だ」と思った。

**山口** あ、八木ちゃんに読まれたから（笑）。

**椎名** そうそう（笑）。

**花くま** 二瓶組長は、会ったとき、めちゃめちゃ腰が低くていい人でしたよ……。

**山口** ま、その話題はまたにしますか（笑）。『PRIDE.5』は率直なところはどうでしたか？

**椎名** 大会自体は面白かったんですけど……面白かったのは、桜庭（和志）選手（の試合）まで!!

**山口** うわぁ、嫌な展開になりそうだなぁ、これ（笑）。花くまさんはどうでした？

**花くま** ボクはねぇ……今回の自分のコラムでもうすべてを吐き出したというか。それでスッキリしちゃいました。

**山口** じゃあ、『リングの汁』（P92に掲載）を読んでもらえばわかる、と。まあたぶん一部絶賛、一部ボロクソの内容でしょうけどね（笑）。それで椎名さんの桜庭選手までっていうのは、メインがつまんなかったってことですか？

**椎名** つまんなかった。もうねぇ、『PRIDE.』のリングにプロレスラーのプロレス的なメインはいらないと思いませんか!?

**豪** いや、メイン面白かったですよ！ あれはあれで（笑）。

**山口** ボクも、メチャメチャ面白かったですよ。

**椎名** いや、全然面白くなかったですよ！ しょんぼりしちゃいました。逆にどう面白かったんですか？ そこが聞きたい。

**豪** だから……いい「プロレス」の試合を見たなっていう（笑）。

**椎名** いいプロレス（笑）。

**山口** いや、逆に高田（延彦）選手の試合を面白いと言ってるボクのどこが変なのか聞いてみたい。いいキッカケだから（笑）。

**椎名** ヒドすぎじゃないですか？ 技術的にも桜庭選手と比べたらお話しになりませんよ。運が悪いことに「ヒール・ホールドで決着がついたらイヤだなあ」と思ってたら、案の定ヒール・ホールドだったし。ど、どこがいったい面白かったんですか？

**山口** 単純に興奮しました（笑）。

**椎名** 「どっちが勝つかなぁ、ドキドキ〜ッ」って!?

**山口** そういうことです（笑）。高田選手が勝つにしても、一体どういう勝ち方をするんだろうなぁっていう。

**豪** 1ラウンド目なんかメチャクチャ面白かったですけどね。面白いくらいなにもできなかった、高田選手が（笑）。

**山口** 花くまさんは、あの日の高田選手に対して言いたいことはないですか？

**花くま** 高田選手はどうでもいいんですけど、この日は小川（直也）選手と桜庭選手が最高でしたよね。小川選手は強いからいいんですよ。強い人がみんなでやるんならいいんですけど、そのなかで順番の違う人がトップやってるから、嫌なんです。



4月16日、UFO小川直也の『PRIDE.』参戦が発表されたのだが、その席で小川は「聞いていない」と激怒！ その場で島田氏と口論になった。プロレス風味たっぷりの展開に、頭のカタい格闘技マニアからは、反発の声も上がった

**山口** ああ、メインを張ってるから。

**花くま** でも、高田選手が勝ったあと、また「最強」とか言ってたらボクも怒ってたけど、しみじみと「誰もオレのこと見たら、最強だなんて思ってないでしょ」って書いてあって。アレを見て、もう怒るのやめようと思いました（しみじみ）。

**山口** ボクはいまこそ高田選手に「最強！」ってやってもらいたいですけどね（笑）。

**花くま** そしたら怒ります（笑）。

**山口** ガハハハハ！ いまそれやったらスゴイ精神力だと思いますよ。ファンがグタグタ何を言っても関係ねえです！ それくらい精神力を見せつけてほしいですね。

**豪** 本人もその看板は背負いたくないと思いますよ（笑）。

**山口** でも、高田選手がヒクソンとやったからこういう場が続いてるんですよ。高田選手のおかげですよ!! 会場にいた客も盛り上がってたし。

**豪** あれはすごかったですねぇ!! 高田選手が勝った瞬間に、アリーナ総立ちになりましたからね。

**山口** 「なんだ？ 格闘技って言ったって、この会場はプロレスファンしかいねぇじゃん！」って思いましたけどね（笑）。そこになんかが潜んでる気がしますね。

## ●小川直也は是か？ 否か？

**花くま** でも、メインの後に乱入した小川選手にブーイングするのは、わからないですよね。

**山口** ま、あの乱入のタイミングのせいもありましたよ。ファンが久しぶりの高田選手の勝利に酔っている最高潮のときに入っちゃいましたからね、よりによって（笑）。

**豪** 「高田があんなに苦労して勝ったのに、なんでオマエが邪魔するんだ」っていう意味のブーイングです。

**椎名** 高田選手の勝ちで、大団円したかったんでしょうね。

**山口** 「帰れー！」「オマエはチンピラかぁ！ ゴロツキかぁ！ ウリャ〜！」っていう感じで大ブーイングが飛んでたからね。

**花くま** はぁ〜、そういう人の方が多かったんですか？

**山口** その野次はいまボクが作りましたけどね（笑）。でも、ホントに小川選手に対しては怒号が飛び交ってましたよ。ヒール・オーちゃんですよ。

**豪** 予想以上の一体感でしたね。

**花くま** Uインター時代みたいな雰囲気に戻っちゃったんだ。

**椎名** でも、何千人収容できるアリー

格闘 **STAR WARS** PRIDEとは何か?

ナの中で、ワーッつってるだけだよ。しかも客席はまばらだったし。

**豪** 少なかったですねぇ、客は。

**山口** 思ったより少ない客しか来ていないのにプロレスファンしかいないっていうのが、ゆゆしき問題ですね。いわゆる〝格闘技側〟にとっては。

**椎名** 総合格闘技の大会が盛り上がるのは、東京だけってことでしょう。

**山口** 「格闘技ブームは東京だけのもの」っていうのは当たってるかもしれないですよね。総合系というものは地方にまで届いていない。でも、K-1は確実に地方まで届いているんですよ。花くまさん！ この事態をどう思います!?

**花くま** いや～、どうしようって言われても……難しいですねぇ。

**山口** プロレスファンしかいない会場であそこまで小川選手にブーイングが飛ぶっていうのも意外でしたね。ということで、「小川直也は是か？ 否か？」を考えてみたいんですけど。今回、小川選手が登場したのは初めはヒクソンに突っかけるっていうつもりだったからなんですよ。でも、それを『PRIDE.』側が「それだけはやめてくれ」って止めたらしいですね（笑）。「じゃあ高田にしてやる」っていうことで、ああいうふうになったらしいですね。なんだかヤンチャでいいですよね（笑）。

**椎名** そうなんですか？ そういうのも見えずに、ボクは小川選手が怒った『PRIDE.』参戦記者会見から始まってるんで、とにかく嫌だったんですよ。「また、こんなことやっても、誰の夢も叶えないんでしょ？」と思って引いちゃった。桜庭vsヒクソンは見たいけど、小川vsヒクソンは見たくない。

**花くま** どうせなら、ヒクソンは現役最後の試合で小川選手とやってほしいなあと思いますけどね。でも、小川vs高田でもいいですよ。誰がトップなのかハッキリするんじゃないですか？

**山口** 小川選手と高田選手のバーリ・トゥードって見たいですか？

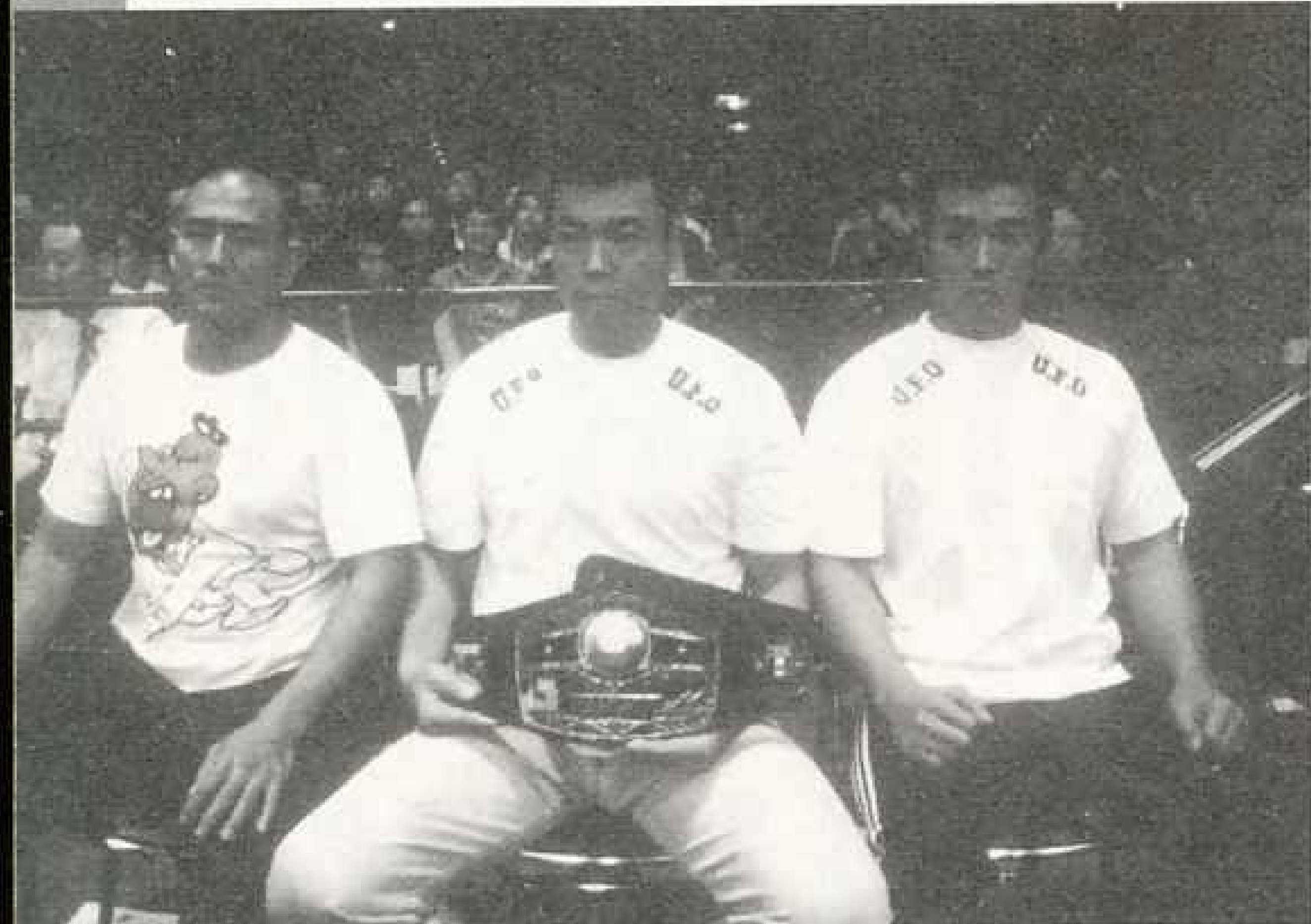
**豪** 高田選手がかわいそうな気はしますよね。これも体重差はあるし。

**山口** 「そこまでコキ使わなくてもいいんじゃない？」って感じですよ。

**椎名** イジメられたくなかったら上がるな！っていうことですよ。

**山口** うわぁ、熱い（笑）。じゃあ、花くまさんはメインのあとの小川選手のマイクはどうでしたか？





（右）NWAのベルトを片手に入場する小川。その存在感は、一線級の格闘家たちの中でも引き立っていた。（左）アレクサンダー大塚＆村上一成も『PRIDE.』のリングに帰ってきた！

**花くま** あれは面白いです（笑）。

**山口** 椎名さんはどうですか？

**椎名** 小川選手もコレが売りじゃあしょうがねえなぁって感じ（笑）。2回あったでしょ。1回目（ヒクソンに花束を渡す前にアレク＆村上を呼び込んだとき）の声が裏返るのは最高でしたね（笑）。

**山口** 「デテコ～ヒッ!!」ってヤツ（笑）。

**椎名** オマエが試合に「デテコ～ヒッ!!」って思いましたけど（笑）。あれもねぇ？ 人前で照れる姿は見たくないですよ。芸人としてダメ。

**山口** そうですか？ ボクも猪木さんのマイクで育った世代だから根本的には椎名さんと同じなんだけど、逆にああいうテレてしまう部分が、逆にいまの時代のリアリティーなのかなぁとも思いますけどね。桜庭選手の試合後の「もうちょっと強い相手とやりたいですね」っていう、あの「もうちょっと」っていう部分とかね（笑）。

**椎名** でも、そういう意味では、（ザ・グレート・）サスケが最強！ サスケ社長と比べちゃうと、小川選手はしょせん声が裏返っちゃうヤツなんですよ！ 特に2回目のマイクはウンザリでしたね。

**山口** じゃあ、プロレス的要素を排して純粋にリアルファイトだけで成り立てばいいというところでは一緒のお2人でも、意見が違うわけですね。ファンの嗜好さえもハッキリしてない。もう、バラバラで「これが見たいぜ！」っていう方向性もファンのなかで一体化してないですよね。

**椎名** 『PRIDE.』の客で？

**山口** というか、総合格闘技と呼ばれているもののファンの中でね。オレはプロレスでも格闘技でも、面白くなければダメっていうスタンスなんで。桜庭vsビクトーがメインで締めてくれるならいいんだけど、例えば菊田（早苗）vsヘンゾ（・グレイシー）がメインだったら、絶対に成り立たないでしょう。プロとしての意識の持ち方の問題なんですよ。それなのにいま、業界や格闘技ファンは、「プロとしての意識の持ち方」と「プロレス的」なものとを混同して、派手に盛り上げようとするのを拒絶するじゃないですか。

**椎名** でも、いまの総合格闘技にそういうやり方はいらないと思いますよ。

**山口** 小川選手は、「プロレスと格闘技の壁をなくしたい」って言ってるんですよ。

**椎名** 総合格闘技のリングにプロレス的要素が入るって……ねえ？（笑）。

**山口** じゃあ、小川選手がああやってプロレス的にやるのはダメですか？

**椎名** 全然ダメ！ ボクはもう、思い入れちゃってるから『PRIDE.』に。だって名古屋まで密航してるんですよ（笑）。

**山口** また古い言葉だね（笑）。

**椎名** だってリアルファイトだけの興行は、第一次UWFのときから見たかったんだから。もう嬉しくて仕方ないんですよ。

**山口** それはわかりますよ。進化の過程を知ってるからなおさら嬉しいんじゃないんですか？

**花くま** 進化してたんだけど、また歴史を戻すのが嫌なんですよ。

**山口** いや、それは同感。せっかく『PRIDE.』っていう場ができて、いろんな面白くて、凄くて、強い人間たちが集まれる場が出来つつあるんだから。でも、どう転ぶかわからないっていうところに『PRIDE.』の面白さはあると思うんですよ。これからUFOが『PRIDE.』乗っ取りに走るかもしれないしね（笑）。

**椎名** そうなったら、腹立ちますね。

**豪** そうするとUFOと『PRIDE.』を股に掛ける島田（裕二）レフェリーがA級戦犯ですかね（笑）。

**花くま** そうなったら、『PRIDE.』を見る感覚が変わってしまうでしょうね。なんかUFOを見に行く感覚に近いかもしれないですね。

**椎名** UFOって、猪木が来た第一次UWFって感じだもんなあ。試合の感想は……まあ、いいです。どうでもいいやって感じ！

**花くま** でも、小川選手ってこういうリングに上がる中では、日本ではトップ級じゃないですか。

**豪** 練習では、メチャクチャ強いって噂ですけど。

**椎名** 練習でどうのっていう噂って、「なんだそりゃっ？」っていうのも多いじゃないですか。じゃあ、極限状態になったとき、どうなんだっていう話になったら、小川選手が「キャン！」っていうタイミングは早いだろうなっていう気はしますね。

**豪** 北尾（光司）選手みたいなタイプってことですか？

**椎名** 田村（潔司）選手と小川選手を比べたら、田村選手の方が絶対に「キャン！」って言わないと思う。

**山口** それはハートの部分での問題？

**椎名** ハートの部分で。だからどこまでやるのかオレはわかんない。耳を噛みちぎってでも勝つのは小川選手じゃないなって思うなあ。だからそのルー

**椎名基樹**■本誌で『ザ・検証』を好評連載中。熱烈なU系＆修斗＆フリー・ファイトのファン。「単なるケンカ（見る）好き」とは本人の弁

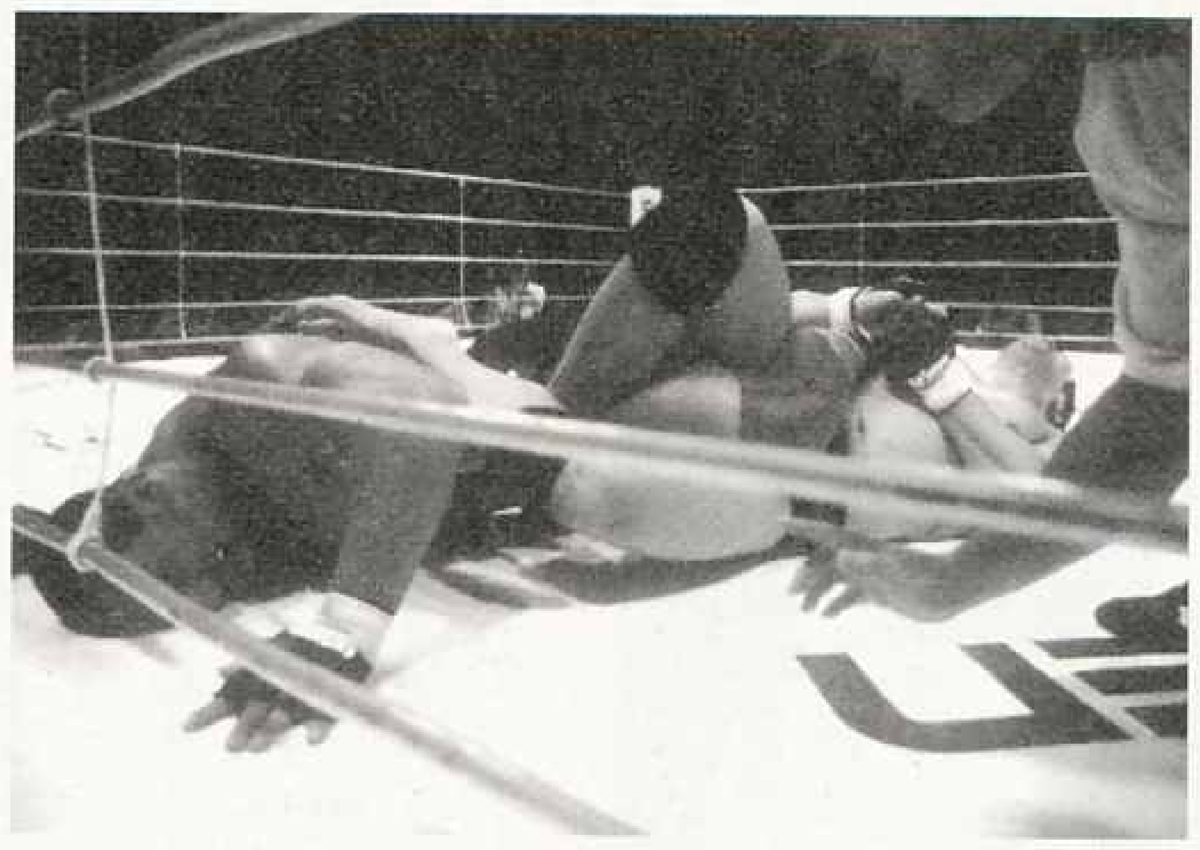
ルでも1番強いのはサスケじゃないかなって思います（笑）。

**山口**　ガハハハハ!!　サスケはヴァーゴンの試合も裁きましたからねぇ（笑）。ヴァーゴンは怖かったもんなぁ。やっぱりこれからはリアリティーのあるものしか面白くないですよね。やっぱり、ヴァーゴンはリアリティーあったもんね。

**椎名**　バカのリアリティー!?（笑）

**山口**　そうそう。「これはバカだ！」っていうね（笑）。





桜庭vsビクトーの余韻を引きずりながらのメインイベント。高田vsコールマンを目当てに来ているファンが大多数だっただけに、高田の勝利の瞬間にはドォーッという歓声が沸き上がった

## ●高田延彦は是か？　否か？

**豪**　今回の『PRIDE.』には「高田復活」っていうテーマがあったから客もあれだけ沸いたんですよね。

**山口**　だけど、高田選手の場合は焦点がボケちゃってるところがあるでしょう。「もし（マーク・）コールマンに勝っても、次どうすんだ!?」っていう展望が見えませんでしたからね。次の対戦相手、目標も決まってないし。

**椎名**　そこが一番今日聞きたかったことなんですよ、どうすんですか？

**山口**　い、いや、それはオレ、高田延彦じゃないんでわからない（笑）。高田選手自身は「ヒクソンにはそんなに興味がなくなった」みたいなことを発言してましたけどね。

**椎名**　仮に「高田選手が（マーク・）ケアーに勝ってヒクソンと対戦！」っていう展開があったとしても、東京ドームが満員になるのかなぁって思いますよ。もうだから……さっぱりわかんなくなっちゃったんですよ。

**山口**　最終目標が見えないというか？

**椎名**　どっちが勝とうが負けようが、その先には何もないじゃないですか？　高田vsコールマンだって、誰も得しないのにあんな試合内容だったし……それって、もうウンザリじゃないですか？　ボクが『PRIDE.』で見たい未来はあれじゃないです!!

**山口**　今日の椎名さんはシリアスだなぁ、熱いなぁ（笑）。

**花くま**　さっきも言ったようにボクがいいなと思ったのは、小川選手が来て高田選手をトップから引きずり下ろすっていう展開ですね。それだったらスッキリするじゃないですか？　高田選手がいなくなったら、あとに残ってるのはスゴイ人たちだけなんだから。

**山口**　おいおいおいおい、ちょっと待て待て（笑）。なんでみんな、そんなに高田選手が嫌いなんですか!?　いや、確かにオレも昔は嫌いだったことあるけどさ。〝格闘技側〟からいろいろ言われてるけど、高田選手の功績をみんな忘れてるよ。あれだけのものを背負って出ていけないよ、普通。

**椎名**　でも、高田選手には未来が見えないですよ。

**花くま**　『PRIDE.5』のメインにしても、あれじゃあ昔のUインターの頃に逆戻りじゃないですか。

**豪**　ボクらが1番嫌いだったころの高田選手にね（笑）。でも、『PRIDE.3』（98・6）の高田はまだ許せましたよね。

**椎名**　あれはまだ、ヒクソンとやるっていうのがあったからね。

**豪**　いまの『PRIDE.』の流れだと、メインが桜庭vsビクトーなのが、理想だとは思うんですよ。でも、それだと興行の規模がいまよりは縮小しちゃいますよね。実際、会場にあれだけ高田ファンがいましたからねえ。

**山口**　う〜ん……話が高田選手のことになると、好き嫌いの感情が出ちゃうから難しいなぁ。さっきから話がずっと平行線ですよ。

**椎名**　でも、高田選手はうまく時代の最先端にスポスポってハマって、そのクジ運ってすごいですねぇ。

**山口**　運は強いですよ。この不景気に2本もCM出てるんですから！（笑）。

**椎名**　しかも深田恭子と！（笑）。

## ●これが『PRIDE.』の生きる道

**山口**　とはいえ高田選手にとっても大変な時代なことは確かですよ。Uインター時代から時代が変わってますから。すごいリアルな時代じゃないですか。ただ、リアルファイトでも、「強いんだからつまんなくていい」「リアルファイトだからつまんなくていい」っていう試合を見つづける能力はないですね、オレには。

**花くま**　じゃあ「見ないでいい」ってなっちゃう（笑）。

**山口**　いや、そういうわけにはいかない（笑）。でも、「見たくない人は見ないでいい」っていうと、ドンドン規模が縮小される方向にいっちゃいませんか？

**椎名**　いや！　オレは全試合リアルファイトでやって、集められる選手を片っ端から集めて大会をやれば、物凄いブームになると思います。K-1を超えられると思います。

**花くま**　そうなってほしいです。というか、『PRIDE.』も日本で儲けようとしてるからおかしくなるんで、試合の映像を海外で放送したりすれば、十分元は取れると思うんです。そうすれば別に、高田vsコールマンに頼る必要はなかったんじゃないですか。

**山口**　いま花くまさんは『PRIDE.』の経営のこと考えて意見してくれたんですよね？　一応、こう見えてもボクも『PRIDE.』が存続できる道を考えてたんですよ（笑）。最終的には試合内容で見せた、桜庭vsビクトーで超満員になってくれればいいんですよね。

**椎名**　最終的にそうなってくれればいいですよ、別に。

**山口**　ただし、それには条件があって、桜庭レベルの選手がたくさんいなきゃダメだってことですよ。プロとしての意識を持った選手がどれくらいいるか。それにはプロレスというものでプロ意識を叩き込まれた選手に学ぶところは多いと思う。

**花くま**　でも、逆にアメリカはポンとやって成立しちゃったじゃないですか、UFCが。

**山口**　うん、およそプロレスと関係のないところから出てきて成立しましたよね。

**花くま**　アメリカであれだけいけたんだから、日本でも成立すると思いますよ。でも、日本は大会場じゃないとダメだっていう先入観が主催者側にあるから、「メインは高田じゃないと」って考え方になっちゃうんだろうけど。

**山口**　でも、日本だとPPVが発達してないからねぇ。

**豪**　それにしても『PRIDE.5』はルールがよくなってましたよね、膠着させないし。テレビで生中継観てももう、じゅうぶんに耐えられるレベルですよ。

**山口**　でも桜庭選手の面白さは、ルールを超えたところにあったよね。強い上に、プロとしての闘い方を心の奥底で理解してるから。アマチュアチックな選手だと、膠着する試合が多くなりますよね。でもね、将来的にブラジル勢だろうと修斗勢だろうと、プロとしてキチンと食っていこうとしたら、桜庭選手みたいな面白い試合をしないとダメなんじゃないですか。

**椎名**　そうですよね〜。ボクシングでも、レノックス・ルイスよりマイク・タイソンの方が人気あるのと同じですよ。

## ●プロか？　アマチュアか？　それが問題だ!!

**山口**　ちょっと話は変わるんですけど、今後の日本のマット界はどうなると思います？　アメリカみたいにエンター

**山口日昇**■本誌鬼畜編集長。最近は「椎名林檎はいい！」が口癖。宇多田ヒカルとプロレスのどっちを取るかで悩む友人を持つ、飼い犬殺し！

# 田村選手と小川選手を比べたら、田村選手は絶対に「キャン！」と言わない（椎名）

テインメント路線のWWFと総合格闘技の究極形ともいえるUFC。その両極が栄えていくのがいいわけですか？

**花くま** それが平和ですねぇ（笑）。

**豪** いま、WWFがどんどんバーリ・トゥードとかアマチュア・スポーツの実績ある人たちを取り込んでるじゃないですか。ああいうのはどう思いますか？

**花くま** う〜ん……そういうのよりも、単純にWWFを見るとメチャクチャ面白いじゃないですか？ 自分でスティーブ・オースチンになりたいと思うくらいに。

**山口** ガハハハハハ！ 花くまゆうさく衝撃発言！「スティーブ・オースチンになりたい！」（笑）。

**花くま** あんな生き方が出来たら最高ですよね（笑）。

**豪** ひさびさにプロレスラーに憧れましたか（笑）。

**花くま** 昨日見た映像でも、すごいデカい車に乗って、他人の車を潰してましたからね（笑）。だから格闘家が、あそこにいくのはわからないでもないですよ、スカウトされたら。

**豪** で、吹っ切っちゃった世界だからってのもあるんですかね。問題はU系ですよね。プロレスと格闘技のグレーゾーンというか。

**山口** U系の存在はイヤなんですか、花くまさんとしては？

**花くま** なにも『PRIDE.』でやることないだろうっていうのがあるんですよね。UWFみたいなものを。

**山口** じゃあ、花くまさんの中ではU系が進化した『PRIDE.』のルールが、いま一番頂点にあるものという認識ですか？

**花くま** 頂点というか……ちゃんとできちゃってますよね、UWFを飛び越えて。なのに、それを戻そうとしなくてもいいと思うんですよ。

**山口** でも、オレはUWFがなかったら日本の総合格闘技はここまで来てないと思いますよ。それをご破算して先に進もうとしたら、『PRIDE.』自体がテーマというか、方向性を見失ってしまうんじゃない？ 2人からしてみると、『PRIDE.』は格闘技イベントっていう認識があるんだろうけど、オレからしてみると、プロレスと格闘技の混合イベントだからね。その綱引きも含めて楽しんでるから。

**椎名** でもボクは単純に総合格闘技の団体もWBAとかWBCになってほしいだけなんですよ!! 誰が1番強いのか見てぇ！っていう。誰が1番強いのか納得できる団体とルールがいいです。

**豪** ボクシング化っていうのは修斗が目指してるんですよね。でも、修斗コミッションの人なんかは「ボクらはボクシング化を目指してるのに、客がまだそこまできてない」と言っている。つまり修斗はプロレス的なものを散々切り捨てて新しい客層を作ってきたのに、その新しい客層が望んだものはボクシング的なものより、ルミナが6秒で勝っちゃうような派手なものだったということなんですよね。

**椎名** でも、それって普通の志向ですよね。

**豪** 当たり前の話です。結局、派手なものをプロレス的なものに求めるか、格闘技のなかの偶然生まれるものに求めるか、それだけのことなんですけど。

**椎名** でも最後にボクシング化に向かうのがいまの修斗のルールかどうかは、それはわからない。前にも『ザ・検証』で書いたけど、グラウンド・パンチがあるルールかどうかはわからない。

**山口** まあ、ルールはどんどん変わっていくでしょうね。

**椎名** 一番わかりやすかったのは、リングスの大阪大会でやった田村（潔司）vsフランク・シャムロックの試合かな？ リングスルールだけど、オレのなかで「勝った方が強い」って言っていい試合だったし、いい内容だったんですよ。グラウンドでの極め合いだったじゃないですか。要するにUスタイルですよね。バーリ・トゥードじゃなくても「勝った方が強い」って言える試合だし、展望が見える試合だった。

**山口** それはお互いにプロとしての技術と意識があるからですね。花くまさんはどうですか？ 将来、修斗ルールやバーリ・トゥードルールが競技化、ボクシング化していくなかで、顔面パンチなしのUWFルール化していく可能性もあるってことなんですが。

**椎名** まあ、なにをもってU系というかっていう問題はありますけどね。

**山口** ロープエスケープ5本っていうのは多いかもなぁ。

**花くま** 第二次UWFの頃はロープエスケープ15本でしたからねぇ。

**山口** いま考えると出血大サービスですね。エスケープの大安売り（笑）。

**花くま** あれこそ底抜け脱線ゲームですよ。

**山口** ガハハハハ！ 辛辣だなあ。

**花くま** でも、いまはU系選手の方から「エスケープ多いなあ」とか「いらない」とか発言して、いい時代になってきましたね。

**山口** だから、そのエスケープ15本から進化を重ねてるわけですよ。TKも「バーリ・トゥード熱が冷めたら、もう一回サブミッションスタイルが浮かび上がってくる」って言ってましたし、そういう可能性もありますよね。なにもバーリ・トゥードだけが最高のものじゃないし、バーリ・トゥードも試行錯誤はこれからあるでしょ。

## ●U系団体の未来

**椎名** でも、いまのU系団体がそれを浮かび上がらせるだけのルール整備をしているようには見えないんですよ。

**山口** じゃあ、U系団体が、統一ルール作っちゃえばいいのかな？

**椎名** そうですね。でも……そのU系であるパンクラスは、どうかなあ。

**花くま** ボクは船木（誠勝）vs（エベンゼール・）ブラガ（4・18横浜）については文句ないんですよ。でも、船木選手は、バーリ・トゥードを否定する発言をしておきながら、結局は客が来ないからバーリ・トゥードをやって客を入れてんじゃないですか。それなのに「パンクラチオンルールの試合でつまんなかったら、ブーイングしてくれ」って言いますよね。だったら「パンクラスルールでもつまんなかったらブーイングしてくれ」って言ってみろって思いますよ。

**椎名** それに……パンクラチオンルールっていうのは最低ですね！

**山口** いや、今日はオレ、2人の熱さに完璧に押されっぱなしですよ！ がんばれプロレス！ ファイト、U系！（笑）。

**豪** 悪い見本のバーリ・トゥードをやって、「ほら、バーリ・トゥードって、こんなにつまんないでしょ」って、逆説的に自分のところのルールを高めて

立ってよし、寝てよし、極めてよし、打撃よし、非の打ち所のない芸術的な「プロレス」を見せた桜庭に会場中が気持ちよく酔いしれた。華麗に、大胆に、それでいて勝つのが桜庭流だ







**吉田豪■**本誌ではほとんど仕事をしない、名ばかりのスーパーバイザー。プロレスも格闘技もろくに観戦しない男だが、『PRIDE.』はこれで3度目の観戦。よっぽど思い入れがあるのかと思えば、古本屋巡りのついでだった様子。

# エンターテインメント系のプロレスが総合系の再就職先になりますね（花くま）

るわけなんですかね（笑）。

**椎名** だからエンセンが「バーリ・トゥードの敵は、バーリ・トゥードっぽいプロレス」って言ってたけど、それよりもパンクラチオンルールだと思いますよ。

**花くま** 普通のパンクラスルールのときでさえ、あまりポジショニングとか重要じゃない感じだし、別にブン殴るわけでもないじゃないですか。それをパンクラチオンルールにしたんだけど、今度はヒジとか頭突きとか全部ありにしちゃってるから、上になってただ殴ればいいっていう試合になっちゃってる。パスガードする気もないように見えるし。それが試合をつまんなくしちゃってる。

**豪** リングスのバーリ・トゥードはいいんですか？

**椎名** もし差別化をはかるためにやってるんなら、印象的だったのは田村選手が「Uスタイルを守ります！」って言った日のバーリ・トゥードですね。

**豪** あの日の金原（弘光）vsヒカルド・モラエスと坂田（亘）vsショーン（・アルバレス）はつまんなかったですね。

**椎名** で、客が「やっぱリングスルールじゃなきゃダメだよ」とか「リングススタイルが1番だ」とか言ってるんですよ。「お前らバカか!?」って。「お前らが見てるのはUFCでも『PRIDE.』でもなく、リングスだぞ、やってるのはリングスじゃねえか！」って思いましたよ。なんか、みんなで他人のせいにし合って、おかしいですよ。だからUWFを競技化するにはあんなこと言ってる客が一番の障害!!

**山口** 熱い！ 熱いっていうか危ないよ、この2人！ 格闘技にゾッコンって感じ（笑）。

**椎名** でも単純に総合格闘技の未来がどうなっていくかって考えたら、オレはパンクラスが面白いと思いますね。明らかに最強でしょう、ジムとして。

**山口** ジムの設備が最強？（笑）。

**椎名** いやメンバーも（笑）。いま10vs10でやったらパンクラスが一番強いだろうって思うから。アマチュアで活躍した選手集めて、メシ食わせて、純粋培養してるわけでしょ……狂ったことやってるなぁって思いますね（笑）。

**山口** 一歩間違えば宗教ですね（笑）。

**椎名** 「せーの！」で試合やったら、パンクラスはすごいことになると思うし、とにかくジムは日本最強だと思うんですよ。それを興行会社に言うのは失礼かなとも思うけど。

**山口** リングスはどうなんですか？

**椎名** リングスは中だけ見たらスゴイですよ、外国人含めて。一番スゴイですよ。

**花くま** 埋もれてますねぇ、人材が。

**椎名** もったいないですよぉ。フィギュアも出してください！（笑）

**山口** フィギュアの話か！（笑）。でもグッズはなんとかしてほしいね、リングスは。リングスグッズ・ネットワークもつくってほしい（笑）。

**椎名** （ビターゼ・）タリエルから出して欲しいんです（笑）。だけどスゴイですよ、あのメンバーを集められるのは。リングスの可能性はそこですよ。あの外国人も含めたリングスネットワーク！

**山口** ボクは、パンクラスもリングスも興行会社じゃなくていいと思うんですよ。極論しちゃえば。興行会社は別にあって、客呼べる選手だけ集めればいい。

**椎名** それを誰が仕切るんですか？

**山口** 椎名さん、あなたですよ（笑）。興行と新人育成と経営と全部やろうとしなくてもいい。競技として選手層拡大を標榜するなら、団体という概念に固執しなくてもいいと思う。

## ●プロレスがメイン？・格闘技が前座!?

**椎名** とどのつまり、K-1みたくドーンといくには、高田vsコールマン的なものがあった方がいいと思います？

**山口** 客呼べるんだったら、やった方がいいですよ。でも、やって呼べないのが最悪なんだよねぇ（笑）。

**豪** それが今回の『PRIDE.5』だったと（笑）。

**山口** そう考えると、修斗は、後楽園ホールレベルの会場でやって、ビッグマッチはたまにやるだけ。しかも底辺拡大していく環境もしっかりつくってるでしょ。でもそれは軽量級だからできる。『PRIDE.』みたいにヘビー級集めていこうとしたら、日本では底辺拡大なんてありえないじゃないですか。

**椎名** ありえない！

**山口** TKも「UFCみたいなバーリ・トゥードのルールが、今後競技化していくのはありえない」って言ってますからね。



怒りにまかせて殴ったら拳を骨折してしまったエンセン。西田の再出場も希望したい。次回7月大会でvsケアー戦があるかどうかは微妙な段階だ

**花くま** ボクは前から言ってるんですけどね、チャンピオンだけ大金をもらえるシステムにしないとダメだと思います。ボクシングみたいに。そうしないと修斗も菊田（早苗）みたく、重いクラスの人は試合が組めなかったりして、プロレスに行っちゃうと思うんです。

**椎名** お金の話が出て思ったのはね、名誉も必要なんだなってことですよ。選手にいいお金渡してるはずですよね、『PRIDE.』って。でも、『PRIDE.2』の（ブランコ・）シカティックvsケアーだとか、『PRIDE.1』の（ダン・）スバーンvsキモみたく、お金だけ渡して「ホラ、闘えって」いっても試合にならない場合もある。そこで勝つことに価値がないと試合にならない場合も出てきますよね。

**山口** 椎名さん、今日はとことんシリアスですね（笑）。

**椎名** ホント、そう思っただけだけですけど（笑）。

**山口** でも、試合のテーマっていうのは重要ですよ。どれくらい意味あいのあるカードが組めるかっていう。





**豪** それがないと、ただやっただけになっちゃう。

**椎名** だから、そういうシステムにしないとダメなんだなって思いました。で、桜庭vsビクトーとかああいう試合は、どうなんですかね？ 世間には伝わるんですか？

**山口** 試合からテーマが見えるから。その点、桜庭vsビクトーには、日本vsブラジルとか、プロレスvsグレイシー一派とか、プロレスvs柔術とか、どっちの寝技が上なんだとか、桜庭がカーウソン（・グレイシー）のオヤジに腹立ってるとか、見えやすいテーマとこれまでの流れがあったから、ボクらをはじめ、客も燃えたんですよ。桜庭自身もやる気になるだろうし。

**豪** 『PRIDE.4』で引き分けたアラン・ゴエスと同じカーウソン派っていう因縁もあるし。

**山口**　あとは、見えない部分でvs格闘技マスコミ。カーウソン派も去年、ゴエスが、ああいうカタチになったから、なんとかビクトーで雪辱を狙ってたんだろうし。桜庭選手には闘う意味があって、それを客もわかってたよね。

**花くま**　心打たれますよ、あの姿には。今日の話題のプロレスだとか格闘技だとかのワクを突き抜けちゃってる。だから素晴らしい。急なオファーがあっても自然に出て勝つじゃないですか。そこが素晴らしいですよね。船木選手はだいぶ差をつけたなと思います。

**椎名**　でも、いまの『PRIDE.』も、高田選手がいないと対世間的な話題はないですよね。

**豪**　もともと『PRIDE.』って、高田vsヒクソンを実現させるための舞台だったわけでしょう?

**椎名**　そう考えると、プロレスとグレイシーの一番最初の接点は安生（洋二）選手の道場破りが始まりですよね。

**山口**　全部Uインターが発端となってるのは間違いないんですよ（笑）。

**豪**　である以上、『PRIDE.5』のメインがUインターに戻るのもしょうがないんですよ、きっと（笑）。

**椎名**　そこへもっていくか!?（笑）

**山口**　ガハハハ！　でもまあ、オレはUFCみたいな総合格闘技と、もうひとつのWWFみたいなエンターテイメントの二極分化の方向性は、日本ではどうなんだろうという気もするね。微妙な部分が好きだから、日本人は。

**花くま**　ああいうエンターテインメント的なプロレスが総合系の再就職先にはなりますよね。そうなればスッキリするし。

**山口**　プロレスが再就職先だけになっちゃうの!?　嫌だなあ。

**豪**　でも、もともとプロレスは相撲なり、柔道なり、いろんな格闘技の再就職先だったじゃないですか？　それはいいんですよ。でも、プロレスに再就職することが悪く言われるようになっちゃってるからおかしい状況なんですよね。

**椎名**　とりあえず格闘技からプロレスに行ったら上がり（笑）。昇級と言った方がいいのかな。

**山口**　たしかにギャラも上がりますからね（笑）。もうUWF以降、プロレスは前座を切り離しちゃってるから。プロレスの前座を格闘技にやってもらう。

**椎名**　ということは、格闘技はプロレスの前座扱いですか？　そりゃヒデェな（笑）。そうするとカドが立ちますよね。これって、新日本のせいですよね？

**山口**　結局、前座という概念をなくした団体がいけないんですよ。本来、プロレスがやるべき一部分を〝格闘技側〟がやってくれてるんだよね。でも、プロレスの格闘技的な部分を根こそぎ持っていったのは、佐山聡の謀略という説もあるね。

**椎名**　ヒャハハハ。

**山口**　これは冗談だけど。

**椎名**　でも、実際の話、プロレスと格闘技の二極分化せざるを得ない状況にきてると思う。そうなっちゃってるし。

**山口**　そうしますか（笑）。

**椎名**　でも、そうなったらオレが気になるのはマサ斉藤の本に書いてあった「WWFはやろうと思えばなんでもできるよ」っていうセリフなんだけど（笑）。たしかに「せーの！」で攻めこまれたら勝てないかなって思っちゃいますよね（笑）。

**山口**　ケン・シャムロックからなにから、人間離れした、ザ・ジャイアントまでいますからね（笑）。

**椎名**　そう考えると新日本は日本の中では何でもできる団体ですよね。

**豪**　ドン・フライからケンドー・カシンまで、総合格闘技にも対応できる選手がいっぱいいますもんね。

**椎名**　鍛えて藤田（和之）選手を総合方面に進ませることもできるし。もし完全に二極分化したとして、総合格闘技がドンドン大きくなっていって、そこにプロレス側から新日が「潰せ！」って乗り込めば面白いなあ。

**山口**　逆により一層、エンターテイメントに磨きをかけるかもしれないですよ。

**花くま**　そうなったら、それも楽しいですよね。

**豪**　サスケ周辺がいま面白いことになってるじゃないですか、今度サスケ組に村浜（武洋）選手とか平（直行）選手が入ったりして。もしかすると格闘技方面で爆発が起きるかもしれませんね（笑）。

**山口**　修斗は最近、ファッション誌とかにも頻繁に取り上げられてますけど、そっち方面で爆発するのかね？

**椎名**　う〜ん、修斗もねえ……〝佐藤ルミナ専務〟とかが、何をやりたいのかわかんないですよね。

**豪**　ワールド修斗が解体して新会社サステインになったんですよね（笑）。

**椎名**　そう、そこのルミナ専務（笑）。

**山口**　修斗がこのままブームに入るようなら、分裂騒動みたいなのが起きると思うよ、オレ。プロレスと同じで。どこまでいっても歴史は繰り返すじゃないけど、分かれた先でちょっとずつルールが違ってって、そうなったら元のもくあみですよ。

**花くま**　だったら、アブダビの王子みたいのが現れればいいんですよ。

**山口**　いや、総合格闘技のSWSができればいいんですよ（笑）。

**豪**　総合・ワールド・スポーツ（笑）。

**花くま**　アブダビの王子が総合格闘技の協会つくっちゃえばいいんですよ。

**豪**　アブダビ修斗協会とかね（笑）。あと興行を全部アブダビでやるってどうですか（笑）。ビッグマッチだけ日本でやればいいんですよ。

**山口**　いいのか、それで？（笑）。いや〜、今日はなんかシリアスな話になっちゃいましたねぇ……。ま、くだらないことはまた次にやりましょう。じゃあ、最後にひと言づつなにかあれば。

**豪**　強引なシメですねぇ（笑）。

**椎名**　とりあえずオレは、1試合でもいいから、桜庭vsビクトーのような試合を見せてくれた選手には一生ついていくってこと。ただそれだけですね。

**花くま**　ボクは、いま『PRIDE.』に集まってる面白い選手で試合をやってくれってことです。

**山口**　投げやりだなぁ（笑）。

**花くま**　あと、つき抜けた桜庭とスティーブ・オースチンは素晴らしい。

**椎名**　サスケはどうですか？

**花くま**　サスケもですね（笑）。

**椎名**　あと桜井〝マッハ〟速人、佐藤ルミナ専務（笑）。

**豪**　サスケ、桜庭、スティーブ・オースチン、桜井、佐藤専務。みんなSですね（笑）。

**山口**　時代はSだね（笑）。

**【99年5月12日、東京・『紙プロ』編集部にて収録】**



『PRIDE.5』では弟・ホイラーと柔術エキシビションを披露したヒクソン。この男への挑戦権を巡って、豪華なメンバーを集めてのトーナメント開催が噂されているが…。




## 時価3億円以上！！（推定）の『紙プロ』本誌&『紙プロ』公式読本リスト



**いまより格段にプロレスの話題が少ない**
**5号:特集「たたかいグランプリ」**
特別寄稿:鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣！高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



**『噂の真相』に怒られちゃった**
**8号:特集「さらば新日本プロレス」**
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勲／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



**「『紙プロ』史上最高傑作!!」との呼び声も高い**
**11号:特集「狂気とは何か?」**
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



**笑顔が素敵な絶対ジャケ買い!!の**
**12号:特集「色気とは何か?」**
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所で説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場



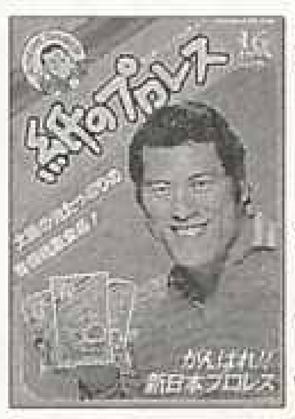
**すべてはここから始まった**
**13号:特集「道場破りとは何か?」**
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画　山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」S・デルフィン登場



**神秘のベールに包まれた**
**14号:特集「神秘とは何か?」**
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



**某インディー団体が激怒した**
**15号:特集「インディペンデントの逆襲」**
インディーレスラー10人斬り十大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



**某メジャー団体も怒ってしまった**
**16号:特集「新日本凸凹大学校」**
『紙プロ』的昭和新日総力検証　マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談



**現・パトラーツの面々が果てしない暴走を繰り返す**
**17号:特集「実況パワフル北朝鮮」**
猪木×永島のナマハゲ対談(©大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?　ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」



**某U系団体まで激怒したらしい**
**18号:特集「高田延彦さんへ愛をこめて」**
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



**ついに!?　『紙プロ』が廃刊危機!?**
**19号:特集「さようなら紙のプロレス」**
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会／ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



**退屈なヤツは格闘技で遊べ!!**
**20号:特集「劇的格闘技」**
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念　ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



**ファンタジー溢れる古武道とプロレスした**
**21号:特集「幻的格闘技」**
古武道を通じてプロレスを考えよう!　前田日明も登場!　スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場



**巨大なる謎かけを残した、いまのところ最後の「紙プロ」**
**22号:特集「この人が喝っ!!」**
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号



**プロレス界に波紋を投げかけた**
**猪木とは何か?:**スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃!　どうってことねえよ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場!　新間のPKO発言を誌上再録



**押して忍んだ激烈インタビュー集な**
**極真とは何か?:**不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリォ、黒澤浩樹、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



**故・長谷川悟史選手の**
**ロングインタビューも掲載した**
**パンクラス公式読本〜矛〜**
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!



**故・ジャイアント馬場がパンクラスを**
**語った衝撃のインタビューも掲載した**
**パンクラス公式読本〜盾〜**
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／偶然か、必然か?G馬場がパンクラスを語る

※現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、大山倍達とは何か?　猪木とは何か?　キラー編　は完売しました。チッ!!
※定価は　紙のプロレス　5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。
※　猪木とは何か?　は1320円、極真とは何か?　は1530円、パンクラス公式読本　矛　盾　は1260円となります。
※送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。
※10号、大山倍達とは何か?　は書店やプロレスショップで探せは若干残っているはずです。頑張りましょう。
※念のため、この広告はフィクションです。

**〈　申　し　込　み　方　法　〉**

**●現金書留**
**〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで**
**●郵便振替**
**00130-3-769154　（株）ダブルクロス**
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。

# 紙のプロレス RADICAL

1999 no.18

マット界に衝撃!!
SASUKE組解散!
「オレは一人でもSASUKE組を
名乗るよぉ〜(涙)」(山口日昇・談)

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS



## ●NO.18 MAIN-EVENT

カーウソン・グレイシー一族を壊滅!!



※ピンポンパンポーン。愚乱様、愚乱様。バーリー・トゥードゥーではなくバーリ・トゥードです。直すのめんどくさいので気をつけてくださ〜い。ピンポンパンポーン。

**RADICAL特製**
**★ピンナップ★**
解凍&みちプロ参戦記念
蘇った原始猿人
ヴァーゴン

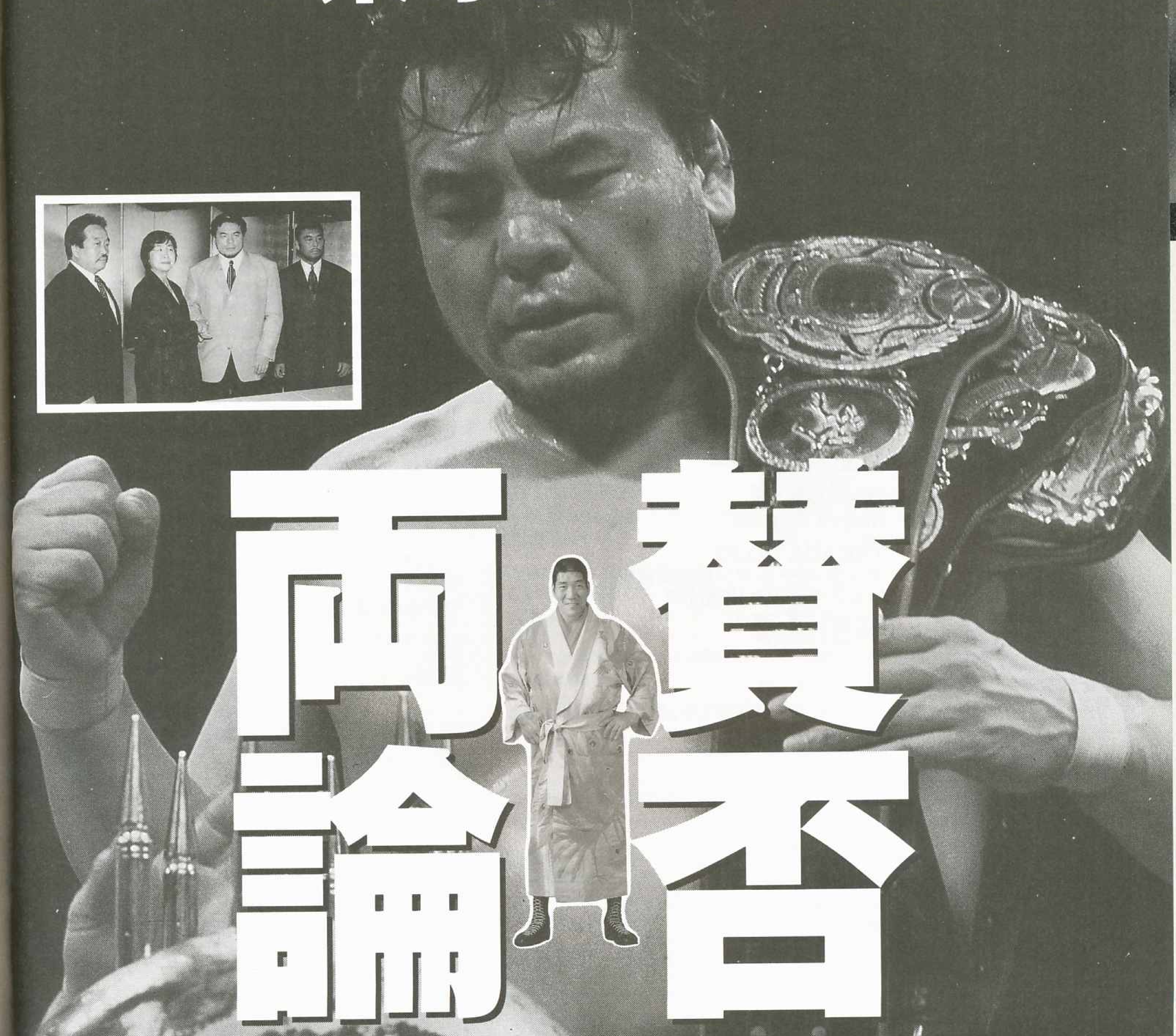
**RADICAL特製**
**★ポートレート★**
『PREDE.』殴り込み記念
小川直也&
アレクサンダー大塚&村上一成


Art Director
出田さん●San Ideta
Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
セッキー&グッチー●Sekky&Gutty
saotome no jimusyo
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

表紙モデル/桜庭和志
撮影/森鷹博
スタイリング/Kazushi Sakuraba
ヘア&メイク/Kazushi Sakuraba


※「RADICALとは何か?」教えるぞ!!(首をカキ斬るポーズ)「根源的」、「根本的」って意味だよ、バカヤローッ!

# 全日本プロレス
# 5・2東京ドーム大会



# 賛否両論

**5月2日、ジャイアント馬場『引退』記念興行――『紙のプロレスRADICAL』は初めて全日本プロレスからプレスパスの発行を受け、記者席から取材を行うことが出来た。ジャイアント馬場という一時代を支えたレスラーの最期、そして三沢光晴が引っ張っていく新生・全日本プロレスの門出に立ち会えたのは、全日本の懐の深さのお陰である。**

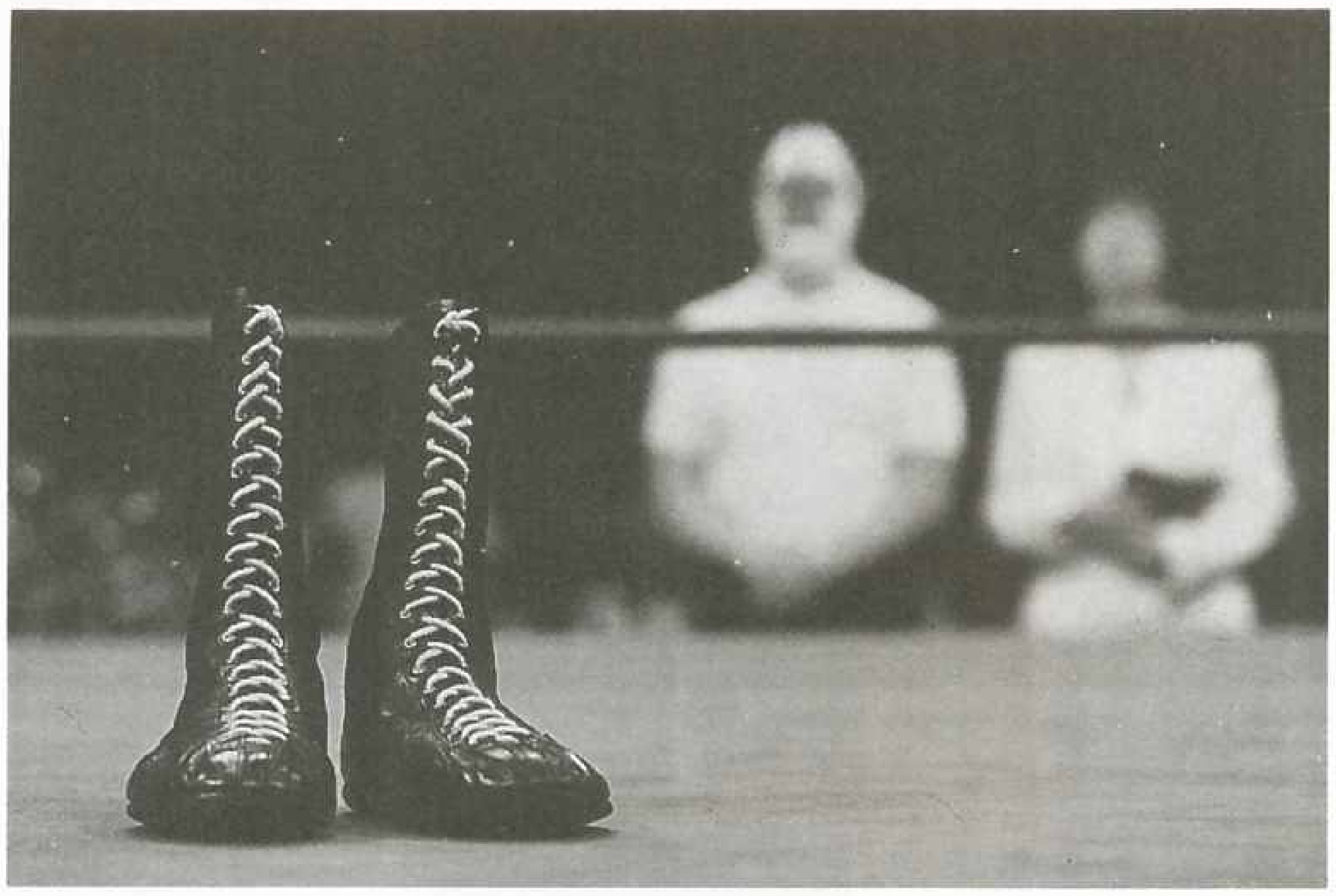
**個人的にはベイダー戦の後の、三沢のひどく疲れ果てた表情はやたらと印象的だった。試合だけに専念していられるレスラーではいられなくなってしまったために余計な体力まで使ってしまった、そんな印象を受けた。事実、ドーム大会前の『週刊プレイボーイ』誌では「精神的にまいるよ」と三沢にしては意外すぎるほど弱気なことを語っていたほどだ。**

**たしかに、この大会にはひとつの時代の終わりと始まりがごちゃ混ぜになった、混沌とした空気が流れていた。賛否両論様々な意見が挙がっている。もちろん批判もあった。が、それ以上に変わりゆく全日本プロレスの今後を予感させる“兆候”を目撃することが出来たのは大きな収穫である!!　もの凄い勢いで動き出した全日に乗るのはいましかない!!**

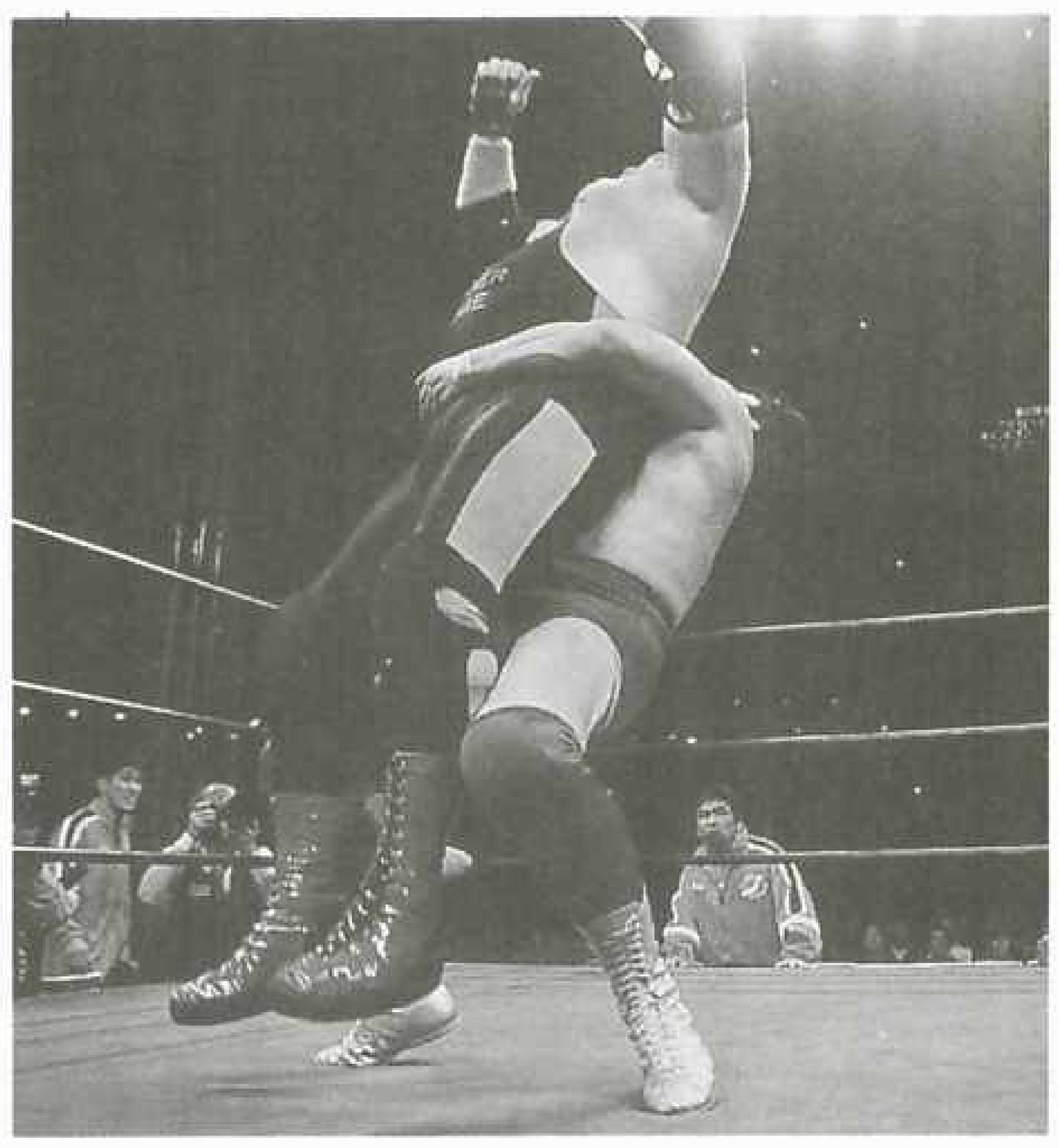
**本誌では全日本プロレス東京ドーム大会を目撃した方々に“賛”の意見はもちろんだが、“否”の意見を両方をうかがってみた。これは馬場・全日本と三沢・全日本の境界線にあった、混沌とした空気の向こう側を見つめる全日本プロレス論である!!（坂井ノブ）**

# 否

## ターザン山本（『プロレス激本』スーパーバイザー）



　非常に重要ですよ、これから僕が語る『5・2東京ドーム』は。なぜかと言うと僕はプロデューサーだから。現代という時代のなかでのプロデューサーという立場だからね。この視点で語るとしたら全日本のあの興行はまったくの0点だぁぁぁ!!（バンバン！）
　あの5・2に行った人で心を動かされたというか満足したのは、馬場さんの引退試合のところだけだと思うんだよな。あとの試合とかはほとんど目をつぶってあげてるわけですよ。しかし、真のプロデューサーというものはそういう切り札に頼るんじゃなくて、興行のすべての試合の細やかなディテールまで詰めていかなければいけないんだよ。そう考えるとなにも色づけされてない！　イベントとしてハード面の努力を何もしてない！　全日本にはイベント感覚がゼロだよ!!
　ウォリアーズを呼んだり、ウィリアムスを呼び戻したりしてるっていったってね、ウォリアーズなんて格的には下も下、お話にならないぐらい下（失礼）のバトラーツでさえ呼んでるんだよォォ！　馬場さんは格というものを重んじる人だったんだから!!　バトラーツが呼んでしまったものを全日本が呼ぶかぁぁ!?　二番煎じもいいところですよォォォ!!（バンバンバン！）
　馬場さんがいたときはイベントとしての興行をやらなくっても許されたけれど、これからはそれをやらなかったら時代から取り残されるだけですよ。
　だってねぇ、メジャーと呼ばれてる団体の興行ならいい音響設備を使わなきゃぁいかんよ。音は割れてるし、集音マイクは使ってないし。
　つまりイベントでファンを満足させるのは視覚！　それに聴覚でしょ！　映像と音声は二大要素なわけですよ、現代では。それに対してお金もかけてなければ、工夫もしてないんじゃ、ハッキリ言って全日本プロレスはドームでやる資格なしですよォォ!!
　ま、この先プロデューサー的立場になる三沢がそういうことを考えているかどうかだね。だって、馬場さんがいなくなってしまったら、馬場さんの神通力はなくなってしまうんだよ!?　じゃあ、これからは馬場ワールドに変わってイベント的にだとか、別のことでいかにすごいことをやってお客を満足させられるかどうかですよ。この仕事はね〝サービス業〟なんですから。そのサービスの部分が5・2ではゼロだったんですよ。
　全日本の一っっ番よくないところはねぇ、試合内容さえよければいいという考えで、他の要素が一切見えていないところなんだよ。
　馬場さんの功績は誰もが認めてるわけですよ。でも、三沢や他のレスラーは自分たちで新しいことをやっていくしかないんだよぉ。札はもう入れ替わってるわけだから。
　そこでじゃあ、新日本との交流ですよ。これはねぇ、やり方なんだよ。いままでの新日本のやり方だとUインターのときみたいに一気にやって一気に短期間で終わらせちゃうわけよ。だけど、あれは「Uだから潰してしまえ」でよかったけど全日本と新日本との交流となればお互いがお互いを生かしながら、なおかつ緊張感のある戦いをしなければならないわけでしょ？　レベルの高いものを要求される。テンションの高いものを要求されて、なおかつ持続性のあるものにしなければいけない。そうなるとこれはもう、三沢が優秀なブレーンを持てるかどうかにかかってくるわけだよな。
　要するに、レスラーがレスラー族じゃない人を引っ張ってきてそれをブレーンにできるかどうか。レスラー族だけでやったら完全にジリ貧になる。これは断言しとくよ。才能のある第三者を外側から呼んで初めて改革は成功するよ。それ以外の改革はありえないッッ!!
　もう馬場的世界はファンも求めていないし、求められない。いや、求めたってうまくいきませんよ。だから、馬場さん的世界を求めないっていうのがこれからのコンセプトなんだから。それは別に馬場さんを無視したことじゃなくてね、馬場さんをきちんと別扱いしたことだからいいんだよ。リスペクトして別のものにして、それから現実を生きるために頭を切り替えることなんですよ。だって大山倍達がいないから松井（章圭）館長は松井館長のペースでやっているでしょ？　これは至極普通のことですよ。松井館長は、大山総裁が最も嫌がっていたK―1に選手を送ったでしょ。松井館長が偉かったのはそこですよ！　大山総裁だったらK―1に選手を上げるはずありませんよぉ。でも松井館長は新しい時代のなかで選手をK―1に上げたでしょ？　フィリォは勝ったり負けたりしたけれど、極真の株自体は上がってるでしょう!!　これを三沢がやれるかどうかですよぉぉぉ!!（また炎上）



　オレは別に全日本をバッシングしているわけじゃあないよ。言いたいことを言っているだけだから。全日本は言いたいことを言いにくい団体ってイメージがあるけれども、いまこそ言うべきですよ!!　いまこそ言わないと、全日本プロレスはダメになっちゃうよ!!
　これ言えるのオレだけなんですよォォォォ!!
　大仁田が昨年の新日本プロレス京都大会で大暴れして物凄く客が入ったけど、彼はFMWから追われて、たった独りの浪人になったから自分の好きなことを本当にやるようになったんだよ。アレといっしょですよ。オレも大仁田も浪人なんですよ。背負うものがなくなったから大暴れできるわけですよ！　いいんですよ、オレだけ悪者になればぁぁぁぁ!!（談）

## 否 井上義啓（元『週刊ファイト』編集長）

5・2のドームはもっとセレモニー的なものに力を入れても良かったんじゃないかなと。途中に30分くらいのトークショーを入れてたりして馬場さんの思い出を語ったりしてもよかったんじゃないかと思ってる。セレモニーに出てきたデストロイヤーやキニスキーにしても、挨拶するのはいいんだけど、通訳も何もないというのは不親切ですよ。あとは、馬場さんの写真を展示したり、形見分けじゃないけど馬場さんのものをオークションに掛けるとか、ハッキリと形になるもので、馬場さんを見せていかないと。そういう意味ではいろいろ注文を言いたくなる部分はあったね。

ハッキリ言って、試合はちょっと長すぎたね。まあ、長くても馬場さんを弔うような名勝負であれば問題はないんですけれども、あの三沢vsベイダーが記憶に残る名勝負だったかどうかというと、う〜ん……三沢vsベイダーで東京ドームを埋めようというのは、いまになっては確認のしようもないけれども、馬場さんが考えていたことだろうと思うんです。でも、猪木vsロビンソンや猪木vs藤波といった、ああいう試合とまではいかなかったからねえ。ああいうホントの意味での名勝負というのは、たとえば猪木vsロビンソンだったら「昭和50年の12・11」、猪木vs藤波だったら「昭和60年の9・19」と、私みたいな〝プロレス・オタクじゃない人間〟の記憶に日付まで覚えさせてしまう。そういうインパクトがなきゃいかんのだけれど。あと数年経ってみなさい、何人が「5・2」のことを記憶してることか？　「あっ、馬場の引退試合の日でしょう？」という答えは返って来ると思うけれども、「三沢vsベイダーの日でしょ」とはならんと思いますね。そういう意味では、あの試合自体は心に残らなかったなあ。

ジョニー・エースと暴走戦士のタッグを6人タッグに入れるというのも、いかがなものかと思いますよ。なぜ、あそこで小橋＆秋山組を暴走戦士にぶつけなかったのか？　やはり6人タッグというのは、試合の焦点がぼやけてしまうというか、そういうところがあるからね。純粋な意味で、どっちが勝つんだろうという勝敗の興味は、あまり6人タッグにはないでしょうが。それじゃいかんのです。



（猪木が来なかったことについては？）

これはね、いまとなっては馬場さんの気持ちがどうであったか、来て欲しかったのか、欲しくないのか、本当のところはわからないですよ。それが馬場さんのためになったのか、というのはわからない。馬場さんもああいう性格の人でしたからね。そう判断で、元子さんが呼ばなかったのかもわからない。実際、来て欲しくないだろうという判断で、元子さんが呼ばなかったのかもわからないし、真相はわかりません。

でも、あそこに猪木が来てだね、ひとこと挨拶をして、馬場さんのことを話せば、それはもう最高のセレモニーに成り得たんですよ！　プロレス史に残る名シーンに成り得たはずなんです。これこそが、ファンも見たい、私もそれを心のどこかで望んでいたけど、それは叶わなかった。猪木が「馬場さんの遺志を尊重する」ということで、遠慮したのかもわからない。

あるいは猪木が周囲の意見を振り切って無理矢理やってきたということにして、それを全日本が受け入れるという展開が一番良かったのか

## 賛 中田潤（フリーライター）

三沢光晴は偉い。しみじみ偉いと思う。

少なくとも、そう思わせてくれる。「三沢の試合は良かった。文句はない。強い。」して語らせてくれる。「別格」と

三沢とベイダーの試合がもし万が一なかったとしたら……。そう考えると恐怖である。ドームはお化け屋敷になってしまう。それでも65000人が揃って「ウィー！」とか、「キョーへー！」とか「オオモリー！」（これは6万人全員じゃないか）、やってしまうわけでしょ。第1試合から延々と飛んだり跳ねたりをやってるのに、「馬場イズムは継承された」と誰もが信じて疑わないわけでしょ。

パソコン通信の全日本プロレスフォーラムを開いてみて目を疑った。

プロレス観戦2度目という人がこんなことを書き込んでいる。

「65000人がまとまっていることに驚いた。客が『落とせ』『折れ』『飛べ』と言わない。汚い野次がない。笑いが起こらない。ブーイングもない。全日本はあったかい」

これはいい。そういう感想があってもいい。しかし、それを受けてもう1人がこう書く。

「素晴らしいのは、入場時の声のまとまりです」

少なくても、わしの居場所はすでにないみたいだな。「声のまとまり」って、ここは朝鮮民主主義人民共和国か。

ここまでくるともう「信頼縛り」である。客席とステージが信頼で結ばれている……？　よく考えてみたら、そんなこと、ショービジネスの世界では当たり前田の大前提だろう。客はパフォマーを信頼してゼニを払う。それをことさら……「信頼全体主義」とでも呼びたくなる。

そんなありさまを文字通り「天上の人」となったジャイアント馬場が見下ろしている。

「プロレスラーはお客さんを裏切ってはいけない。リングの中だけで勝負しろ。容易な話題作り、その場限りのウソはすぐにばれる」

故人を揶揄する気持ちは毛頭ない。私も記者席で泣いた。しかし、この会場が馬場さんの夢見た理想の場所と言えるのだろうか。

しかも、この日、私はジン・キニスキーの風格に改めて圧倒された。一目見ただけで「彼こそプロレスラー」と万人が納得するであろうあの風格は、客席の憎悪を一身に浴びることで形作られたものではなかったか。

そんなうそ寒い場所で、格闘する個としての輝きを放っていたのは三沢光晴とベイダーだけだった。

あとの試合（レスリングの天性を存分に見せつけた馳浩をのぞいて）に対する批評は「雑だ」の一言で十分なのではないか。キマラが被ってきた「長い人」の仮面とか（それを取ると団子の二男。なぜだ？）金村の世界一の観衆を前にした世界一イージーなダンスとか（中川は真顔。なぜだ？）、キャラクターお披露目合戦は確かに楽しかったけど。

特に6人タッグに組み込まれた千両役者外人がまったく働かない。いくらなんでも、ロード・ウォリアーズの唯我独尊暴走世界にエース君をまぎれこましちゃいけねえでしょう。私、世界最高峰の豪華外人の実労時間を計って時給計算したくなってしまったぞ。

そもそも、このドーム興行のテーマとはなんだったのか。推察するまでもなく、パンフレットにこう書いてある（ちゃんと明文化する、というものもいわゆるひとつの三沢革命、民主化闘争の成果なのかもしれない）。

もしれない。そうすればどちらもファンの支持を得ましたよね、これ。やはり猪木と馬場がいたから力道山以降のプロレスは形作られていったんですよ。

どういった形であるにせよ、馬場さんの追悼セレモニーに猪木は絶対必要だったと思うんです。やっぱり、遺恨というものは精算しなきゃいけないんですよ。遺恨と呼べるものだったのか、2人は本当に仲が悪かったのか、それは分からないけれども、2人の関係を考えれば、そうするべきでしたね。一番の名シーンですよ。それをやれない、できない、というのであれば、セレモニーももう少しいろいろな工夫があっても良かったんじゃないのかとは思いますね。

そういう意味で、あの5・2東京ドーム大会というのは、馬場さんの四十九日の法要だったわけです。（談）

## 賛 篠泰樹（ネオ・レディース代表）

ドームの馬場さんの引退試合のときにリングの上にシューズが置かれたじゃないですか？　あの時、ボクには馬場さんが見えたんですよぉ。一緒にいた京子は全然信用してくれないんだけど、本当なんですよぉ。ボクは猪木信者なんですけど、馬場さんも大スキだったんで、もぅ、涙があふれてきちゃうんですね、ほんとに。

これは団体の社長という立場よりも、いちファンとしての意見なんですが、馬場さんの引退試合は映像だけでもいいから〝猪木 vs 馬場戦〟を実現してほしかったですね。

オーロラビジョンにその映像が流れて「引退です……」って言ったときに猪木さんがマイク持って「馬場さんは引退しません！」って言ってほしかったなぁ。やっぱり、馬場さんはボクの心の中では永遠に現役レスラーなんですよ。



だけど、あのセレモニーはあれで良かったのかもしれませんね。もう、涙とまんなくて、涙うるうるで東京ドームから出てきましたよ。外でネオ・レディースのビラを配らなくちゃならないから、京子と一緒に涙ながら配ってました。

そして、その夜は飲まずにいられなくて、仲間を電話で呼び出して、もちろん飲むといえば京子も一緒です（笑）。芸能人やら、スポーツ選手やら、DDTの高木三四郎まで呼び出して、馬場さんについて語りましたよ、ほんと。なんか人を呼びすぎて、気が付いたら大変な騒ぎになってました（笑）。とにかく徹底的に飲んで、馬場さんが提唱していた『明るく、楽しく、激しいプロレス』を継承するぞぉ！と暴れてましたね（笑）。

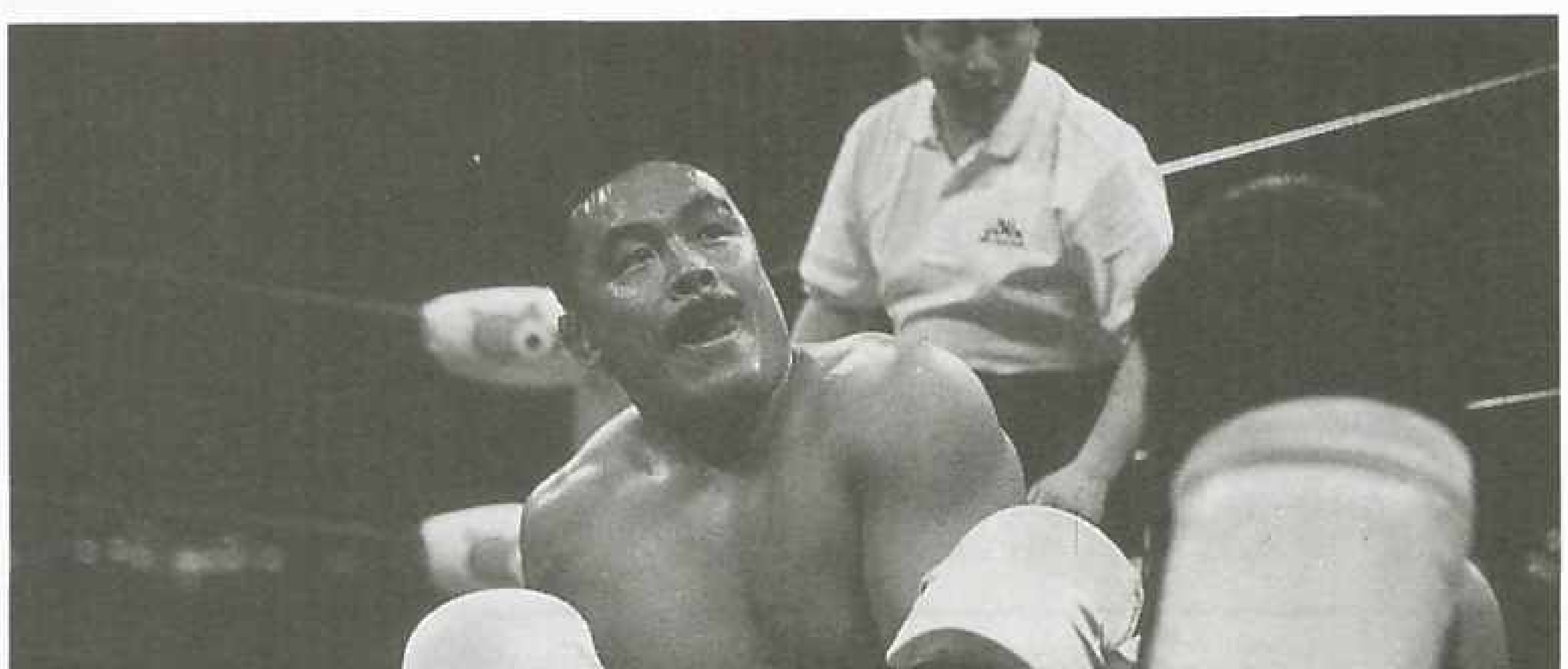
ちなみに、プレイステーション対応のゲームで『全日本プロレス～王者の魂～』というのが最高に熱いです。これはプロレスファンなら買わなきゃダメです。ボクなんかウチの選手の分も買ってます（笑）。ただ勝つだけではなくて、見せ場をつくりながら、プロレスをシュミレーションしながら、心に残る試合をしなきゃダメです。例えゲームでも馬場さんにホメられる試合をしないとダメです。このゲーム、ボクは1日1時間は必ずやっています。（談）

# 賛否両論【全日本プロレス5・2東京ドーム大会】

〈また、セミファイナルの6人タッグマッチでは、80年代後半の全日本マットを席巻したザ・ロード・ウォリアーズが、約10年ぶりにカムバック。現・世界タッグ王者の小橋健太&秋山準と激突いたします。メインイベントのベイダー対三沢戦とともに、この「日本人対外国人」2試合を通じて、馬場選手の全盛時代、昭和40年～50年代の雰囲気をご堪能いただければ幸いです。〉

（全日本プロ・レスリング株式会社　レスラー・社員一同）

そういうことがやりたいのなら、「絶対負けてはいけない日本人」が三沢光晴一人ではお話にならない。これって、力道山の伝説を蘇らせたい、ってことでしょ。今のお客さんは愛国心よりも、客席とリングを取り結ぶあやうい「信頼」を守るためにジョニー・エースに声援を送っている。どうすりゃいいのよ。石原慎太郎が都知事選を圧勝するご時世、「アンチ・アメリカ」の風潮は世間にあふれかえっているのに……。



あの日、東京ドームで危機感を持って闘っていたのは三沢光晴ただ一人だった。三沢光晴だけは、「声のまとまりが素晴らしい」大観衆の向こうにさらに茫洋と広がっている世間を見ていた。

三沢光晴はこう言った。

「客層の〝顔〟を変えたい」

「全日本コール？　いつのまにかそうなってしまったんだよね。俺がマスク脱いだときは、声援は俺個人に来ていた。小橋のファン、川田のファン、個人目当てのファンだったのが、いつのまにか全日本になっちゃった。不思議だよね」

「変わっていかなければ、全日本、いや、プロレスというジャンル自体がメジャーになれない。オタクって言っちゃあ悪いけど、初めて来た人に『異様な世界』と思われてもね。とにかく、よそ者を受け入れない体制っていけないですよ」

わかっているのである。わかっているエースが全日本プロレスの社長に就任した。もちろん、さまざま「束縛」が三沢光晴の肉体に絡み付いている。まっとうすぎる馬場さんの遺言。奇妙な客席からの「信頼縛り」……。

期待したい。期待したいんだけど、三沢の苦悩は、たとえば、アメリカ南部で「俺は日本人である以前に自由人だからさ」と真顔で言い切った武藤敬司にはわかるまい。

狂乱の猪木満喫ツアー参加者が「俺にも言わせろ!!」と『紙プロRADICAL』に殴り込み!!

# 闘魂猪木塾とは何か？

## 〈迷わず行って、行けばわかった！〉

## 「第3回闘魂猪木塾　INアメリカ大自然自己発見の旅」報告リポート

ツアー参加者◎谷田俊太郎（『フロムA』編集部浅草キッド連載担当）



**元気ですかーッ！　えー、みなさんは「闘魂猪木塾」なるツアーの存在をご存じでしょうか？　世界でもまだ約100人程度しかその実態を知らないという、謎に満ちたこの旅に参加してきました。もちろん自腹です！　ズバリ言って、あまりにも楽しすぎたというか、いい時間を過ごさせていただいたので、みなさんにこのツアーの中身をご報告します。少しでもこの旅の愉快さを知っていただき、次回参加するかどうかの、よい「気づき」になれば幸いということで。じゃあ、いきますかーッ！**

闘魂猪木塾！　この魅力的な存在を初めて知ったのは、3・16UFO横浜アリーナ大会の帰り道。ドリーが吹いた笛の余韻がまだ残る新横浜の宵の口、僕が手にしたそのチラシには、なんとも胸踊るコピーが並んでいました。

『猪木塾長とアメリカの旅！　猪木とハイキング！　猪木とサンセット・ディナークルーズ！　猪木と眺めるグランドキャニオンの日没＆雄大な日の出！　猪木とバーベキュー＆人生を語る会！　猪木と闘魂棒トレーニング！』…などなど。これはもうズバリ言って、天の声を聞いたというか、一歩踏み出す勇気を炸裂させる時が来たというか、有給とるしかないというかね。そういうわけで、迷わず行ってまいりました、第3回闘魂猪木塾。

さて第3回ということは当然、第1回も2回もあったわけで、聞いた話では、1回目はパラオ、つまりは猪木アイランド（行きてー！）、2回目はロスでヒクソンやホイスの柔術道場巡りなどをしたとのこと。まったくジュージツしたラインナップです！

そして、この第3回は、USAの大自然が舞台！　ラスベガスからグランドキャニオンまでの、…何マイルだったかは忘れましたが、まあ忘れるのもひとつの才能というか…、ともかく日本列島を端から端まで横断する距離とほぼ同じという、途方もない距離をバスに乗って移動しながら、猪木と遊び、猪木と語り、猪木とメシを食う…という、猪木信者にとっては正に夢としか言いようがない超豪華フルコースなわけです！

主催は近畿日本ツーリスト。日程は1999年5月4日から9日までの4泊6日、料金は一人24万8000円、その他諸経費含めれば約27万円也。今回の参加者は28名。上は50過ぎのおじさんから下は10才の小学生男子まで。平均年齢は34才くらいでしたかね、適当ですが。なんと新婚旅行を兼ねているというカップルもいて、まあユニークな顔触れでした。ちなみに気になる女性参加者は、新妻を含めて3名、ちと少ないというか…いや、そんなことはどーでもいーんです！　なにしろ、あの世界のアントンと4日間もずっと一緒に過ごせるんですから！

そーゆうわけで、猪木塾長（以下、塾長）と共に巡ったこのツアーがどんな旅だったのか、駆け足で振り返ってミル・マスカラス！

### 1日目　ラスベガス

成田に大集合した我々は、まずは大韓空港でロスへ。そしてロスから砂漠の不夜城ラスベガスへ。塾長はお住まいになられてるサンタモニカから直接ラスベガスに合流とのこと。海外旅行は人生2度目、もちろんアメリカは初めて（1度目はロシア。リングス・エカテリンブルグ大会見物）の僕としては、たまげましたね実際。ラスベガスという街は、本当に果てしなく続く砂漠の中に突如ぽつーん！と存在するんです。こんなところに街を作ろうと考えたバグジーさんという人は、塾長に負けず劣らずのズバ抜けた発想の持ち主ですよ！　とりあえず、ラスベガスに着いた我々は、塾長を迎える夜のウェルカム・レセプションまで、街をぶらぶら。昼間のラスベガスは、巨大なハリボテに囲まれたハリウッド映画のセットみたいで、どことなく空虚な印象。街全体がディズニーランド状態というか。といっても、そのスケールはアンドレ級にバカデカいんですが。地上300メートルのビルの上にフリーフォールがあったり、ホテル前のラグーンに浮かぶ海賊船と英国船が火を吹くバトルを始めたり。

で、夜。いよいよ塾長と初対面です！　我々が宿泊するホテル・ニューフロンティアの大広間で、塾長を迎えます。

いのーき。いのーき。いのーき。

…小型ラジカセから流れる「猪木ボンバイエ」に合わせて、28名の参加者が大合唱。とはいえ日常空間では、少々まぬけ気味にも聞こえる猪木コールでしたが、ドアが開くと、塾長です！　本物です！　笑顔です！　開口一番「元気ですかーッ！」です！　感激だーッ！

少々遅刻してやってきた我らが塾長は「ちょっとカジノに寄ったら、2000ドルほど勝ってしまいまして、なかなか抜けられなかったというかね、ダハハハハ！」と豪快なアントン・スマイル。生で見ると、ますますイイ！　と思わずジュン。

この後は、ツアー参加者（以下、塾生）一人ずつ自己紹介。塾生一同、緊張しまくりでしどろもどろと話している間、塾長はずっと何か書いてます。我々の稚拙なトークに退屈して落書き？　不安に襲われましたが、この謎は翌日、明らかになります。

自己紹介タイムも終わり、塾長による元気なウェルカムメッセージ。「みなさんこの旅で私から何か学びたいと言ってましたが、私の方こそ皆さんから勉強させていただきたいというかね。ともかく、いい時間を過ごしましょうーッ！」もちろん、もっと長くタメになる話だったわけだが、ここでは割愛。しかし、「アントニオ猪木」にも拘わらず、素晴らしく謙虚な塾長にまたまた、ジュン！

### 2日目　ザイオン国立公園→レイクパウエル

5時半起床。はえー。バスに乗り込み、最初の目的地〝岩と芸術の宝庫〟ザイオン国立公園に出発です。塾長の愛娘・寛子さんとその旦那さんであり、UFO・USA代表のサイモンさんも合流しました。幼少の頃、月刊プロレスのグラビアで見たあの寛子ちゃんが、こんなにも大きく…と大感激！

とりあえず3時間はかかるこの移動、塾長の近くの席を確保すれば、ずっとお話できるわけですが、席取りに失敗。やむなく延々と続く砂漠を眺めながら、遠くから洩れ聞こえる楽しそうな塾長達の語らいに耳を傾けていました。それにしても、この広大さ！　アメリカはスゲーリー・グッドリッチ！

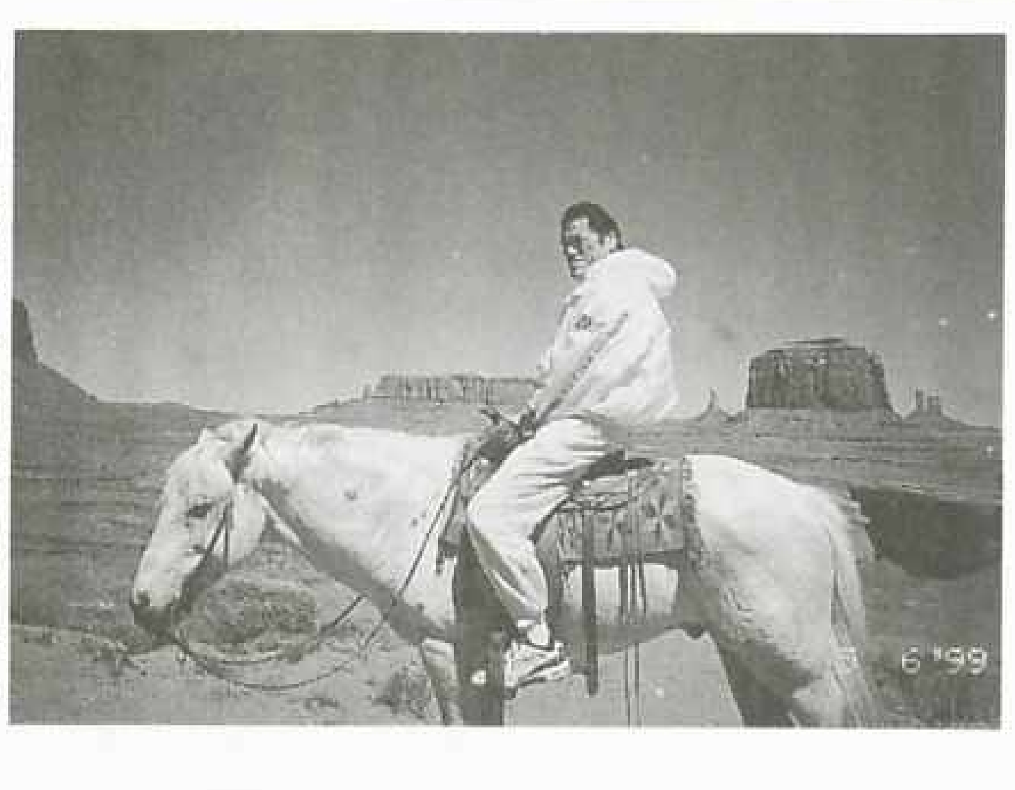
そうこうしてるうちに、ザイオン国立公園に到着。ザ・ジャイアント改めポール・ワイト級の岩山がいくつもそびえまくっています。

そんな大自然を塾長とハイキング。すると道端で出会ったイタリア人が「オー！　アントニオ！　カンゲキ！」と、記念撮影をお願いしてきました。もちろん気さくに応じる塾長。それにしても、イタリアでも有名という話はホントだったんです！

途中の便所タイムで、僕は塾長と並んで小便！　という好機会にも恵まれました。思わず、モンゴリアン・ストンパーの人参ジュースで三日三晩立ちっぱなしだったという、伝説のムスコをノゾきたい衝動にかられたことを告白しておきます。自粛しましたけど。

そこから少しバスで移動し、岩山の斜面で昼ごはん。メニューは「闘魂ランチ」！　塾長の好きなものばかりという、この弁当はサバ、シャケ、各種フライとケタ外れのボリューム。しかも弁当の包み紙には、筆で書かれた塾長直筆の「闘魂」の文字！　またまた大感激！

移動は続きます。今度は2時間半かけて〝砂漠のオアシス〟レイクパウエルへ。この砂漠の湖で船に乗り、ディナー・クルーズを楽しむのです。今度も席取りに失敗し、塾長のテーブルとは別になってしまった僕です



5月6日　白いジャージの塾長には白馬が似合いすぎる。モニュメント・バレーにて。



5月5日　「ピンク色の砂漠」と呼ばれる場所でくつろぐ塾長。実際にはピンク色ではなかったが。



5月6日　レイクパウエルに程近い「Uポイント」なる場所で次回UFOのパンフレット撮影をされる塾長



「ホーガン」と呼ばれる住居内でナバホインディアンのみなさんと国際交流する塾長。



5月6日　グランドキャニオンでのバーベキューの後、塾生たちの人生相談に乗る塾長。



5月7日　ルート66にある、ドン・フライ・ファミリーが経営するバーガー屋で記念撮影する塾長（ウソ）。

ついに卒業式です。迷わず行って、行けばわかった！






絶景をバックに闘魂注入される筆者

が、塾長が一人でデッキに出た一瞬のチャンスを逃しませんでした。

待ちに待ったツーショット。さっそく近寄っていくと、なんと塾長「今はどんなのを書いてるの？」と逆に質問してきてくれたのです。

これがどういうことかというと、前日の自己紹介で、僕が『フロム・エー』という雑誌の編集部で働いていると話したことを覚えていてくれたということで、昨日メモっていたことはそういうことだったわけです！なにしろ28人も参加者がいるわけで、名前はもちろん誰が何してるかなんてツアー参加者同士ですら全然把握してないというのに、あのアントニオ猪木が、「忘れることもひとつの才能というか」がログセの、そして実際過去の試合の記憶をほとんど持たないと言われる塾長が、我々単なる一般人のことをわざわざ覚えていてくれるなんて、モーレツに大感激！

それからは、『紙プロ』インタビューでもおなじみのライオンタマリンの話から、アマゾンに環境大学を！の夢、さらには知られざる北朝鮮情報まで、様々な話をしていただきました。船上でレイクパウエルの風を浴び、コロラド高原の沈む夕日を眺めながら、アントニオ猪木と世界的スケールのトーク。ズバリ言って、至福の時間でした。

その後は、塾長をみんなで囲んで、大質問大会。佐山脱退の真相、現在の新日に関する不満、小川vs橋本の再戦の可能性について、大仁田あるいはWWFの人気をどう考えるか、ヒクソンに対する評価など話は多岐に及び、その質問ひとつひとつに真剣に、そして実に正直すぎるほど答える塾長。こんなこと俺たちに話していいの？と思える話も続出で、飾らないというか心のフルチン状態というか、ともかく素敵すぎる塾長にまたまた大感激！

すっかり話が盛り上がり、ロッジに戻ってからも、塾長自らの提案で2次会に突入。しかも酒はすべて塾長のオゴリ。もう素晴らしすぎます！

## 3日目 モニュメントバレー→グランドキャニオン

5時起床。はえー。この日は、まず「Uポイント」とかいう、日本人はまだ誰も来たことがないらしい絶壁に寄ってから（ちなみにこの「Uポイント」で撮った写真が、次回UFOのパンフの表紙になるかも、なんて話もでていたので注目してみてください）、2時間かけて、モニュメントバレーへ。

今回のバスでは、塾長にまあまあ近い席を確保。おかげで、お腹いっぱいアントン・ジョークを満喫させていただきました。

フクロウに見えるという岩塔が見えると「フクロウというより、地球のチンチンだね！　ダハハハハ」。ほんとですねボクもそう思ったんですよ、なんて声が出ると「以心伝心・ジェット・シン、なんてな！　ダハハハハハ」

そして、モニュメントバレーに到着し、僕らが「ファイトォ一発！」のイメージで写真撮影していると、「若いんだから、3発ぐらいしないとね！　ンムフフフ」。

こんな具合。まったくゴキゲンです！

モニュメントバレーは、映画「駅場所」などの撮影場所として知られるという、奇妙な形の岩山が無数に点在する砂漠で、ここをジープで散策したり、ナバホインディアンのみなさんと国際交流したりとまたまた充実のプログラム。ナバホのみなさんが住んでいるという竪穴式住居風な家は「ホーガン」と呼ばれるそうで、これも何かの因縁か？　なんてちょっとだけ思いました。

ここのレストランで食事したのですが、塾長から「サンドイッチが9ドル、バーガーが6ドル、ではタコスはいくらでしょう？　ンフフフ」という謎かけもされたことも報告しておきます。（答は8ドル。タコハチ）

そして、いよいよグランドキャニオンへ。所用時間は約4時間。なんというかまあ、感覚が麻痺するくらい圧倒的な景色を見続けているこの旅なんですが、アメリカ人なら必ず行くという観光スポット、グランドキャニオンの迫力は、やはり格別でした。

断崖絶壁の岩場に座って眺める夕日は、神秘的としか言いようがなく、塾長も座禅のポーズで何かを考えておられました。

この旅では、塾生はもちろん、通りすがりの日本人、外国人みんなが塾長と何度となく記念撮影していたのですが、ただ1回、ここで塾長自身がカメラを構える光景を目にしました。風景を撮るわけではなく、娘の寛子さん夫婦を撮ってあげようとしていたのです。しかし、何度シャッターを押しても撮れない様子。挙句には「壊れてるよ、これ」。

本当に塾長はステキすぎます！

この夜は、野外でバーベキュー大会。ステーキにかじりつきながら、塾長を囲んで「塾長カルトクイズ」が催されました。塾長にまつわる様々なマニアックな問題が出題されたわけですが、ここで改めてハッキリしたのは、塾長は自分の過去の試合をほとんど何も覚えていない、ということでした。たとえば「新日本の旗揚げ戦、猪木vsゴッチのレフリーはユセフ・トルコだった？」という問題でも、塾長本人だけが「違う」と答えていたり、万事そんなかんじ。やっぱりステキ！

そんなわけで塾長が必ず正解を知ってるだろうということで出題された「引退試合の最後の花道で、塾長はオナラをした？」では、塾長、元気に「こたえはマル！　…さよオナラ、ってね、ダハハハハハ！」。

もうひとつ、海賊男にまつわるクイズが出された後に、塾長なんと自らクイズを出題！「最初の海賊男の正体は誰でしょう？　ンムフフフ…」…これにはみんな回答に困りました。

この後は、人生相談コーナーになり、僕も含めてみんな非常に個人的すぎる悩みを、塾長に相談させていただきました。でも省略。

## 4日目 グランドキャニオン→ラスベガス

この日は4時起き！　はえー。アッという間に最後の日になってしまいました。グランドキャニオンの日の出を見に行くのです。何度書いたかわかりませんが、これももう素晴しくて大感激。その後は、リムを下ったり、険しい山道で念願の気合いを入れられたり、闘魂棒を使ったトレーニングを伝授されたりとまたまた充実のプログラム。

そしてグランドキャニオンを後にし、ラスベガスに向かいました。この車中では、遂に塾長の隣を獲得！ガイドさんによる「アメリカには税金がかからない州がある」という話があると、塾長すかさず出題。「風呂代がかからない州はどこでしょう？…ニューヨーク！　ダハハハハハ」。ルート66に入り、名物兄弟がやっている床屋がある、という話を聞くと「背が高いんだって？……ジャイアント・バーバー！　…ンムフフフ」。

まったくステキすぎます！

この車中では、塾長のジャンボ鶴田観や、全日5・2東京ドームに出場要請の話もあったという話、ボックヤルスカがいかに強かったかという話、はたまたアミン大統領戦について、そして例のスキャンダルにまつわる話など、実にいろんな話が聞け、機会があったら、またみなさんに報告できればと思います。

ラスベガスに着き、闘魂猪木塾終了証授与式になってしまいました。この会では、一人ずつ色紙にサインをもらい、最後にまた一人ずつ修了証書をもらいます。

この場面でもそうだったんですが、この旅路でどんな場面でも常に塾長は、みんなと記念撮影に応じてました。一人とすると、必ず28人分しなくちゃいけないわけです。他の観光客に頼まれても必ずそれに応じていました。しかし、どんなに疲れていても塾長は絶対に元気な笑顔を絶やしませんでした。この文章ではほとんど割愛してますが、誰かが真面目な相談をすると、必ず真剣に答えてくれました。この会でのサインは、一人で何枚かお願いする人もいて何人分したかわかりません。めんどくせーな、正直そう思うこともあったはずです。サインの最後の方では、さすがに疲れが見えました。

しかし、全員分し終わるとまたあの太陽のような、元気な笑顔に戻るのです。そんな塾長を見ていたら、「終生、大衆に尽くす」というあの塾長の言葉を思いだし、あれは本物の言葉だったんだ、と胸が熱くなりました。

最後に、塾長の「道」を聞き、1、2、3、ダー！でお別れしました。最後のダーは、声が震えてうまく言えませんでした。

塾長はそのまま今度はキューバに向かい、我々は翌日、日本に帰国。成田でもう一度ダーをやって、闘魂猪木塾は修了です。

今回参加した唯一のマスコミ関係者ということで、浅草キッドの水道橋博士さんに勧められ、紙プロにこの文を書くキッカケをいただきました。この文章で、どれだけ「闘魂猪木塾」の魅力をお伝えできたかわかりませんが、「闘魂猪木塾」は猪木ファンなら、ますます猪木さんが大好きになる催しであることは間違いありません。次回は、「ブラジルでライオンタマリンを見る」というウワサ（塾長、または我々の希望）ですが、とりあえず、塾長自身が「お金のかからないようにやりたいね」ということで、都内でセミナーを！と提案してくれました。実現した暁には、みなさんもぜひ。

この道を行けば　どうなるものか
危ぶむなかれ　危ぶめば道はなし
踏み出せば　その一足が道となる
迷わず行けよ　行けばわかるさ
アリガトーーーーーーーーーッ！

# 5・5川崎にて遺恨決着!!

## さあ今度は……

聞き手／吉田豪
interview by Go Yosida
撮影／北岡一浩（W井上のみ）、坂井ノブ
photographs by Kazuhiro Kitaoka, Nobu Sakai




# 蘇れ!! W井上伝説

# 井上京子INTERVIEW with 篠ネオレディース社長

W井上――この2人の天性の邪悪さにホレ込んだ本誌（というか旧『紙プロ』）は「W井上の毒舌人生相談」という連載企画で、その2人のシャレにならない毒舌ぶりをいかんなく発揮してもらったものだった。それから幾年月――W井上は一昨年の夏に起きた全女分裂騒動によって袂を分かち別々の道を歩むこととなる。そして、お互いを罵り合ってきた経緯については、本誌がどこよりも踏み込んで、他誌が書かないような過激な発言まで書いてきた。

そして、迎えた今年の5月5日。この2人が因縁を精算すべく一騎打ちで闘い、京子が勝利を挙げて一応の決着がついた。雨降って地固まるではないが、決着がついた以上は本格的にタッグ再結成に向けて動き出そうじゃないか！　さあ、蘇れ!!　最も邪悪で最も素敵なタッグチーム、W井上よ!!

# 面白かった？ みんなホントに仲が悪いのを知ってるからね（笑）

――なんか今日は元気がないですね。

**京子** そう、飲み過ぎなのよぉ（笑）。昨日J，dの試合に出たんだけど、その前日にジャガー（横田）さんとご一緒させていただいて。そこでアタシ一升飲んじゃってさぁ！（笑）。死ぬかと思った（笑）。だから、二日酔いで試合するもんじゃないと思ったよ。

――いまさら気付きましたか（笑）。

**京子** （気にせず、こちらが持参した闘龍門のパンフレットを見るなり）あ～、マグマグだぁ♥

――マグナムTOKYO選手がお好きなんですよね。ちなみに、どこがお気に入りなんですか？

**京子** 腰（キッパリ）！ アハハハハ！ 腰のラインがもぉうっ!! 「ははあぁ、たまらないぃぃぃ!!」って（笑）。

――はあ……。じゃあレスラーとしてっていうより、男として……。

**京子** ライクじゃなくてラブなの！

――だけど腰振りは京子さんもけっこうやってたじゃないですか？

**京子** 全然違うもん、セクシーさが。んもうカッッッコいいよねぇ～、マグマグ……。でも、これくらいにしとこう（笑）。取材があるからね。

――当然です（笑）。とりあえず、5月5日のビッグマッチのお話からお聞きしたいんですが。

**京子** 前の日は寝れなかったのね。

――また飲んでたんですか？

**京子** アハハハ、違うよ！ 川崎（市体育館）って広いじゃない？ で、やっぱりお客さん入るかなっていうのが一番心配で。全女vsLLPWの国立代々木第二競技場があって、GAEAの横浜文化体育館があって、どっちもいっぱいになって。そういうのがポンポンポ～ンってきて、女子がなんかけっこうきてるぞ～みたいな感じだったでしょ？



5月5日、川崎市体育館で行われたW井上対決。この好カードに川崎市体育館もほぼ満員。京子が一方的に攻め込んで勝つかと思われたが、ボクシング特訓の成果を引っ提げて、意外にも攻め込む貴子。さらにはキム・ドクばりのスタンガン攻撃で、京子を半失神に追い込んだ。いかにも貴子らしいというか、「何だってやるわよ」的なしたたかさをいかんなく発揮。しかし、京子は底力を発揮してナイアガラ・ドライバーで貴子をピン！　試合後は抱き合い、コメントでは両者ともにお互いを認める発言を残した。これにて決着？

――ネオの川崎大会の当日はFMWもあった（横浜文化体育館）んですよね。

**京子** で、もうすごいプレッシャーでさ。宣伝の部分ではまだまだだって思うの、ネオって。だから、そんなことも含めて、「お客さん入るかな？」って思ったんだけど、当日フタを開けてみたら、ほんとにいまのネオだったらほんとにバンバンザイ！

――今回のW井上対決は、最近では一番ドラマがあるカードでしたからね。

**京子** なんだろね。井上京子vs井上貴子なんてカードが実現不可能だと思っていたから……そんな、お客さんが観に来てくれる興味のあるカードだと思ってなかったから。最初は自分が「アイツ、嫌いだ！」って言って始まったことなんだけど、逆にお客さんにのせられちゃったかな。実際にそんときはちょっと貴子のことを認めるじゃないけど、そういう気持ちがどっかにあったかもしれない。だってアタシと試合するなんてすごい勇気がいることでしょ？

――まあ、リング上じゃあ何が起きるかわかりませんものねぇ。

**京子** うん。面白いよプロレスって（笑）。

――面白いですよ。試合内容自体はいかがでしたか？ 一部のファンは怒ってたみたいですけど。

**篠社長** あんな決着は期待してないって声もありましたね。

**京子** アタシは技出してないもん。

**篠社長** でも会場に若い大学生が来ていて、もぉ狂喜して喜んでましたよ。「プロレスって面白いですねぇ！ こんなに面白いとは思いませんでしたよ!!」って。メイン観て感動してるわけですよ!! でも、「悪いんだけど田村（欣子）vs日向あずみ（＝久住智子）の試合は観ていて退屈だった」と。すごいことしてるけど、メインと比べると普通なんですよ。

**京子** アタシはプロレスの王道行こうと思ってたよ！ 貴子があぁいうことをやるから、そういう試合になっちゃったんだよ（笑）。

**篠社長** でも！ あれで普段プロレスなんか見ない世間の人たちには説得力あるわけですよ！

――一騎討ちに至るまでの一連の抗争にしても、本当に興奮しましたもん。見てる方としては。

**京子** みんな、ホントに仲悪いのを知ってるから（笑）。

――正直な話、面白くてしょうがなかったですからね（笑）。

**篠社長** フジテレビのスタジオ・マッチも面白かったですよ。バックステージで揉めてたから、近くにいた人しかわかんないんだけど（笑）。

**京子** 「なんで辞めたお前がセコンドに付いてるんだよ！」とか言って貴子につっかかっちゃった（笑）。だってわざと小声で言ってくるんだもん!! 「ブス！」って（怒）。

――ああいうリング外の小競り合いを含めたものがプロレスですよね。

**篠社長** でも最後、「ああ～いいなぁ、ふたりのもつれた糸はやっぱり解けたんだぁ」って、その瞬間ですよ！

**京子** タイミングの悪い人が約1名入ってきてブチ壊しですよ（笑）。

――堀田祐美子さんですね。間が悪いですからねぇ～、あの人いつも（笑）。

京子　天性の間の悪さがあるよねぇ。

――そのへんのナマの感情が堀田さんとの試合でも出れば面白いですね。

京子　たとえば「あんたなんか堀田祐美子だよ！」って言われたとするじゃない？　それはもう「バカ！」って言われてるのと同じだからね（笑）。

――「間が悪いよ！」とか（笑）。

京子　そう（笑）。「ああ、今日は堀田祐美子だったよ！　スイマセ～ン」って（笑）。もうね、いろんな意味が混じってるから……。だから堀田祐美子なんだよね！　まあ、堀田とはいずれやるんだろうなぁ……。

――7月に噂されるシングル対決は楽しみですね。京子さんは絶えずどこかと遺恨をつくっておくべきだと思うんですよ。

篠社長　遺恨の女（笑）。

京子　え～っ!!　（かわいこぶって）いい子ちゃんだから、アタシ（笑）。

――ダハハハ！　話を貴子さんに戻しますが、あの試合で文字通りの電撃和解と考えていいんですか？

京子　ウ～～～ン……。まあ、アタシの中から、悪い感情は削除されましたね。「（コンピューター声で）削除しますか？」「はい」みたいな（笑）。




――正直言って、このカード決まったとき僕はあまりノリ気ではなかったんですよね。京子さんは強さを売りにしてるけど貴子さんは違うから、それで試合をやっても意味がないかなとは思ってたんです。ただ！　これがきっかけで和解して、ふたりで吉田万里子さんをイジメにいけば抜群に面白いと思うんですよ！

京子　アハハハハ!!　結局、仲直りして吉田をイジメるんだ（笑）。

――それを期待してたんですよ。ボクも昔から紙プロ本誌でW井上は取材してきましたけど、この2人は組めばパワー倍増しますからね。

篠社長　2人とも持ってるものが違いますけど、目指すところは一緒ですからね。

京子　結局、どっちも目立ちたがり屋なんだよね。

――だから噛み合うんですよね。いろんな選手をインタビューしてきましたけど、女子で一番破壊力があるのはW井上ですからね。パワーが違いますよ、もう。本音もズバズバ言いますからね。

篠社長　タイプがまったく違うから面白いんでしょうね、タッグとして。

――お互いのいい部分も悪い部分も増幅されるんですよ（笑）。

篠社長　井上貴子と組むことで、井上京子はより自分の強さをアピールできるし、貴子は華麗な部分を……。



――あと、邪悪さもね（笑）。

京子　ふーん。そうなんだ？　で、また、こんな話していたら何ヶ月か後にはW井上、組んでるんでしょ（笑）。

篠社長　ネオは『紙プロ』中心に動いているから（笑）。

京子　知らないよ～。もう！

――2人でアルシオンに乗り込むべきですよ！　タッグを組んだほうがいいですよ、絶対に。

京子　あのぉ～、だんだんそうやって周囲の声が大きくなったときには多分、そうします。

――さっきも言ったんですけど、京子さんは強さを売りにしていて、いまは吉田万里子さんも強さを売りにしているわけですよね。同じなんですよ、売りが。

京子　誰とですよ（笑）？

――京子さんと。

京子　吉田が？　ワァオ！（笑）　アハハハ。アタシの中で吉田万里子ってまったくない（キッパリ）!!　アタシが、あの吉田にラリアットしたら、ダメになっちゃうよ！　ホントに。

――アルシオンが方向性をちょっと間違ってるかなと思うのは、プロレス技を受けられるのか心配になっちゃうような身体を作って、それでプロレスをやってることですよ。肉体改造で贅肉を削いだりして。

京子　なんかさぁ、気持ち悪いよね。関節技をやってたのにいきなりルチャやったりして、「なに、気持ち悪いこれ～！」って観て思った。まあ、アルシオンとも試合をやれたらいいけどね。

――イデオロギーは全然違うけどお互い強さをウリにしてるんだから、ハッキリさせたほうがいいですよ！　で、アルシオンの話が出たところで、ちょっと聞きづらい話題をお聞きします。先日、試合中の事故がもとで亡くなってしまった門（恵美子）さんの話なんですけど、ある意味で京子さんの発言が予言していましたよね。

京子　な、なに？？？？

――いや、「吉田万里子はアタシのラリアット食らったら死んじゃうよ」って本誌15号で発言してましたよね。つまり、「プロレス技を受けられる身体じゃない」って意味じゃないですか。

京子　（表情が急に暗くなり）う～ん……あんなに体重落としちゃってね。うん……だからアルシオンと何かやるっていってもねえ……。いいけどさぁ、やっぱり怖いよね……。

――パンクラスの渡部謙吾選手みたいにしたかったのはわかるんですけど、デビュー戦でいきなりアジャさんとシングルで当たるていうのも、ちょっとどうかなっていう。

篠社長　でも、あれは練習してないってワケじゃないでしょ？

――それはわかるんですよ。ただ、やっぱりプラム（麻里子）選手の事故のときに、「2度とああいう事故が起きちゃいけない」って言われたけれど、実際は根本的な問題が何も解決してないんじゃないかって思うんですよ。

京子　でも、昔は……事故が起きないのがおかしいくらいの、今日は頭痛いとか、目が回るとか、全然焦点合わないってヤツにも、「根性だぁ！」って言って、やらせてたわけでしょ。でも、その

# W井上がいじめっ子ってイメージ？いじめられる方に原因がある！

事故があってから、「頭が痛いのはまずいな」って意識がみんなあって、「じゃあ、少し休んでな」とか、言うようにはなってますよ。あとは「もっと首を鍛えよう」とか、「技をくらってダメだったら、もっと身体を大きくしよう」とかしないとっていう。

—女子の場合は体重差が大きいと思うんですよね。やっぱり軽量級で軽い人は本当に軽いし、重い人は重いし。それでも男子みたいにヘビーとジュニアの差もなく試合をするわけじゃないですか。

**篠社長**　そこをちゃんと区別しないといけませんよね。

—アルシオンなんかはそうすべきだと思うんですけどね。この間の門選手が亡くなってから初めての後楽園大会でも新人がポンと、派手にデビューして、勝っちゃったわけじゃないですか？　もしかしたら、そういう構造に問題があるんじゃないかなあ、と思うんですけどね。

**京子**　最近は以前よりデビューが早くなってるからね。アタシが思ってるのはやっぱり、プロレスは受けてナンボっていうか、「普通の人がやられたら死んじゃう」っていう技でも、「これだけ強いんだぜ！」って受けちゃうのを見せるのがプロレスラーって思ってるから、やっぱり身体つくるのはほんとに大事なことだと思うし。

—それが正論なんですよね。

**京子**　いまのアルシオンの話であったけど、たとえば吉田ぁ？　全女にいたころより体重が減って、まあ筋肉が変わったっていえばそうなんだけど、絶対ウェイトって大事だと思うの。レスラーならレスラー脂肪っていう脂肪がついてないと、受身取ってもなにしても効いちゃうと思うのね。それでアタシと試合したときに、あの人は丈夫でいられるのかな？って心配だね。アタシとやったときに、どうなのかって考えたら、あの人たちはもっといろいろ身体のことを考えるんじゃない？



吉田万里子とは、過去いろいろな問題を引きずる井上京子。W井上を相手に、生まれ変わった吉田万里子はどう闘うか、非常に見てみたい！

—そういう警告の意味も込めて、とりあえずはアルシオンに乗り込んで欲しいんですよ（笑）。

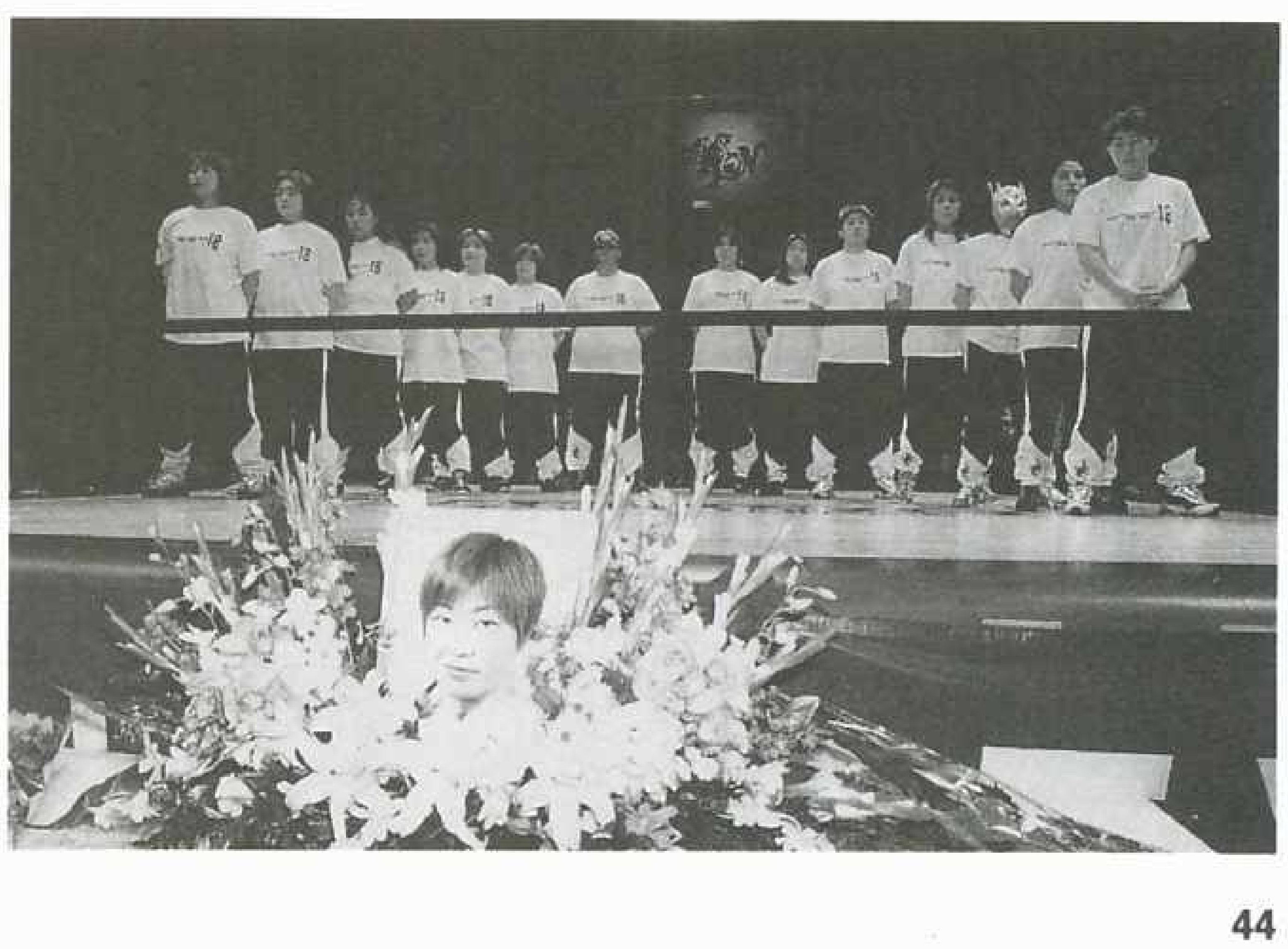
**京子**　アハハハハ！　そうだねぇ、吉田って、いまチャンピオンらしいじゃん？　なんかアルシオンっていうと、こういう（とアルシオンの選手がよくやる筋肉ポーズ）イメージがない？

—コメント取ってても面白いらしいですよ。昔のままの吉田万里子の感じでコメント出してて、でも写真撮るときは、こうするっていう（とアルシオンの選手がよくやる筋肉ポーズ）（笑）。

**京子**　アハハハハハ！　「えっとぉ……」とか言うんでしょ？　「えっと、アタシ、あ、やっぱりダメだ……」とかって（笑）。

—素の部分をさらけ出してほしいんですよ（笑）。それが観たいんですよね。W井上vs吉田&誰々なんて試合は抜群に面白そうだと思うんです。全女でイジメられてたけど向こうで上がってる人vsW井上っていうのが、一番ハッキリするじゃないですか。

**京子**　やっぱりW井上ってイジメっ子ってイメージあるんですか？　でも、イジメられるほうに原因があんだよ、本当に（キッパリ）。



故・門恵美子さんの若過ぎた死は非常に大きな問題を女子プロレス界に投げかけた。この事故を考え再発を防止することが、プロレス界がすべき供養である。

—冷たいようですけど、原因は必ずありますよねぇ。

**京子**　ダハハハハハ！

**篠社長**　試合は不可能な話じゃないし、本当に近い将来、あるんじゃないですか？

—いいですねえ。とにかく女子プロ界を面白くしてほしいんですよ。

**篠社長**　面白いことでも、いい意味でお客さんを裏切っていかないと、お客さんも来ないですよね。だから、僕らの敵は全女でもなくて、もちろんアルシオンでもなくて、対世間ですよ。

—ちなみに京子さん的には、対世間のためには何をしたらいいと考えてますか？　たとえば誰と戦いたいだとか。



# 蘇れ!! W井上伝説

**京子**　う〜ん…………、なにも考えてない！　アハハハハ！　あ〜ん、パリンヤーのときみたいな感じ？　う〜ん……考えてなかったなぁ。
—マグマグと戦ってみたいとか？
**京子**　あはぁぁぁん、マグマグと組みたいよぉ〜っ!!　アハハハハ！　アタシはいっしょにこうやって（マグナム風の腰振り）入場することが、いま一番の目標だよぉ！
—腰振りタッグですか（笑）。
**京子**　あのダンスを覚えなきゃ（笑）。
—では、すっかり話は変わりますが、最近はストリートファイトの方はやってるんですか（笑）。
**京子**　え？　酒を飲んでるときでしょ？
—あるプロレスラーが、新宿で目撃したって言ってましたけど。
**京子**　あれ？？？　馬乗りになって男をボコボコ殴ってたってやつ？
—いや、そのときは男相手でいい試合をしてたらしいですよ。
それ聞いたときは「カッコイイ！」と思いました。
**京子**　絶対してないよ〜（笑）。ひょっとしたら憶えてないっていうのはあるかもしれないけど（笑）。いや、アタシの中では記憶がないけど、記憶のないときの、もう一人の井上京子がいるから。それが怖いのよ（笑）。
**篠社長**　この前は六本木で人をひっぱたいたんだよね。からかい半分で「叩いてください！」って人が来たから、猪木さんがファンの人にやるみたいにビンタしたら、その人は吹っ飛んで歯が折れてしまったらしいですよ（笑）。



いのうえきょうこ■昭和44年4月22日、山形県南陽市出身。昭和63年10月10日、後楽園ホールにて因縁深いvs井上貴子戦でデビュー。全女の頂点WWWAシングルチャンピオンにまで登り詰めるが97年8月に退団。一部では、退団の原因は貴子にあると言われたが真相はいまもって謎。井上貴子とは”W井上“として、第100代のWWWAタッグチャンピオンにもついたことがある。このたびの一騎打ちで決着はついたので、W井上復活となるか？　166センチ、95キロ。

**京子**　アハハハハハハハ!!
—ホントにプロレスラーですねえ（笑）。
**篠社長**　「大丈夫じゃないっスけど、すみませんでしたぁ!!」って言ってましたよ。さすがプロレスラーだなぁって感心してたみたいですね。
**京子**　面白ぉい〜！（笑）。アタシ、そんな楽しいことやってんだ？
—なんでそんな他人事みたいに言ってるんですか（笑）。
**京子**　アハハハ、だって憶えてな〜い（笑）。
—じゃあ、知らないで男とケンカしてる可能性も多々あると（笑）。
**京子**　でも、アタシも何人かに言われたよ、「歌舞伎町で道路で馬乗りになって、マウントポジションで上から殴りつけてた」って。なんかホントに昔のプロレスラーみたいだな。酒は飲んでケンカして金遣いは荒いし……。
—プロレス幻想が男子のなかでも薄れてる中で、女子なのにそこまでやる姿勢は立派ですよ!!
**京子**　暴れん坊じゃん！
—それに、いじめっ子だし（笑）。
**京子**　ああ〜、だんだん井上京子像が崩れていくぅ……。
—全然ノー問題ですよ。その調子で突っ走ってください！

**【99年5月10日、新宿・ネオレディース事務所にて収録】**

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――(ネール元インド首相の娘への手紙)

吉田文豪人生劇場

# 書評の星座 PART2

**「おい、吉田豪!!　少しはShow氏の『オーバー・ザ・シュート』の手腕を見習えよな。オモチャの本(悶プロ)なんか作ってねえでよお。バーカ!!」などとペンネーム「nWo野郎」君に怒られてしまった(同様0通)「スーパーダメバイザー」(命名／nWo野郎君)がお送りする、nWoファンを喜ばせる気なんてあるわけもない昭和世代のための書評コーナー。**




## オーバー・ザ・シュート 最強プロレス＝格闘技読本 (監修・Show／メディアワークス)

そういうわけで噂の「プロレス＝格闘技読本」第2弾は、なぜか山口日昇も含む豪華メンバーのインタビュー集。橋本に船木、さらには大仁田から鶴田までブッキングできるShow氏の手腕は素直に評価してあげるべきだし、不快さも以前(『紙プロ』本誌時代)に比べれば薄れてきているのだが、やっぱり気になる点は多々あり。

まず、**「シュートを超えたものがプロレス＝格闘技」**だと断言しておきながら無防備に橋本と小川を同時に肯定してしまう、その強引さだ。

高田は**「いまのプロレスは全然、シュートを越えてないんだよ。要するに、俺がヒクソンに負けたりしているでしょ?」**と呑気に語っているが、そもそも過去のプロレスというか「シューティングを超えたものがプロレス」と最初に口にした馬場自身は本当に超えていたのか?

そういうことを一切考えることなく、ただ馬場発言の尻馬に乗るだけのShow氏は問題だと思うんだが、そういうボクもnWo野郎君によるとインタビューで「くだらねえ5流のツッコミ」を入れているそうなので、ここは大いに反省して書評でも遠慮なく5流のツッコミを片っ端から入れていくこととしよう。

まずは、1・4ドームUFO襲撃事件で小川に頭を蹴られたことについて、**「もし俺があそこで脳内出血をしていたら(猪木を)殺しに行こうと思ってたんだから」**と言い放つ破壊王・橋本からである(聞き手は『週プロ』佐藤正行記者)。

この発言には、さすがドン荒川に「やっちゃえ!」と煽られて新日に戻ってきたばかりのヒロ斉藤を骨折させるまで蹴り飛ばし、控室で長州&マサに制裁された過去を持つ男だと痛感させられる次第なのだが、その事件についてのコメントも別枠で掲載されている(構成はShow氏)。

**「長州さんに対しては、いつまでも根に持ってた。ホントあの時は殺してやろうと思ったんだから。あとで戦下がよれてきて荒川さんに『なんだこれ?』って言われたから、『殺してやろうと思って』とか言ってね」**

こんな興味深い話を聞いても現場で突っ込まず、**「話の内容から察すると、戦下になにか凶器を忍ばせていた、ということなのでしょうか」**との文を後から付け加えてしまうShow氏の編集センスには本当に苛立たせられるわけなのだが、気にせず話を続けてみよう。

これらの経験から、破壊王は**「シュートだったら、怖くて受けられませんよ」**(これは「技を」という意味なのだが、「試合を」という意味にも聞こえるから不思議)と素直に断言し、周囲の「痩せろ!」という声すらも**「俺は"破壊王"として体重を武器にしている男だから。誰が軽量級になった俺の姿を見たいわけ?」**とキッパリ否定。

この相変わらずのトンパチ(豚パチ)ぶりには、ボクもシビレを感じずにはいられないのである。

**「プロレスラーだから外車を乗り回して、おいしいもんを食ってるわけだから。それのなにがいけねえんだ?」**

**「俺は子どもの頃、家庭が裕福じゃなかったから、俺は絶対に強くなって、いい家に住んで、いいもん食って、外車に乗って……というのが夢だったんだよ」**

TVで「破壊王、生き別れの父親と涙の再会」を見た者であれば、これだけで何も言えなくなってしまうこと確実だろう。

エンセンについても**「いい総合力を持っているよね。ただ、あんまりカッコよくはねえよな」**と臆面もなく語る破壊王のズバ抜けた破壊力は、欠場中でも相変わらずなのであった。

ところがカッコよくないはずのエンセンは、その橋本を**「ちゃんとトレーニングしたら痩せると思うよ。いまは、ちょっと太りすぎ(苦笑)。プロレスファンは頭が飛んでる人ばっかりだから(苦笑)、橋本さんが一番強いと思っていたんだろうけど、あの身体を見たら、ちゃんと手入れをしていないよ」**とカッコよく一刀両断!

そのくせ、皮肉なことに電気屋・大仁田のことを**「性格とか心は厳しい人だと思うよ。絶対、格闘技のできる人だよ、心は。好きよ、彼」**と、なぜか大絶賛してしまうわけなのである。

おまけに**「馬場さんは死ぬ前も男だったけど、死んでさらに男になったね」**などと、馬場がエンセンのお気に入りフレーズ「男で死にたい」を実践していたという衝撃事実までブチあげるから、さすがはエンセン。男である。

古き良き昭和のプロレスラーそのものだとしか思えない、**「私の目の前で『シューティングは弱い』とか『選手がくだらない』とか『八百長だ』とか言う人がいたら殴ります」**という発言も、もちろん文句なしなのだ!

ただしShow氏のあとがきだけは、文句どころか理解の範疇を超えていたのである。

医大時代に「御遺体様」を解剖したことがあるというShow氏は、**「いまだに、その時の自分がした行為への整理がついていません。それに関しては追々、活字にする日もくるでしょう」**だのと、いちいち宣言。そんなことをなんでボクらが読まされなきゃいけないのかサッパリわからないのだが、さらに前田を解剖体に見立てていたUWF増刊号の広告を『週プロ』誌上で目撃しただけで、**「こんなことで神聖なる『御遺体様』を茶化されたら、自分のしていることに対しての言い訳が成り立たなくなる!」**との理由で抗議の電話まで入れたのだそうである……。で、そのとき電話を受けたのが佐藤記者だった、と。

最近も、自衛隊発砲騒動の原因となった北朝鮮の不審船が「逃げ切れなかったら自爆しろ」という日本の特攻隊チックな作戦行動を取っていたと聞けば、**「かつて日本に存在していたものが他国に存在」**したことに驚いて、素直に**「それを普段から心掛けているという姿勢に感銘を受け」**たりしてしまう無防備な男・Show氏。

人体も解剖すれば抗議の電話もかけるし、自衛隊の発砲(シュート)騒動が起きれば北朝鮮に感銘を受ける。この男こそ、ある意味(＝悪い意味)ではまさしくシューターなのである。




## 馬場本 (ベースボール・マガジン社)

何かの使い回しとしか思えない「名勝負●●選」や目新しさのない年表ばかりで埋められた別冊が横行していることを思えば非常に良質な、元『週プロ』市瀬記者の企画・編集協力による一冊。

とにかく再録インタビューが抜群に面白いので(なお、聞き手のターザンは「オレにギャラは入らないのか!?」と絶賛炎上中)、どうせなら野球時代や『月刊プロレス』時代も含む馬場のインタビュー集にするべきだったとボクは思う。

実際、NWA幻想を打ち砕くフミ・サイトー原稿や、ラジャ・ライオン幻想を打ち砕く元・全日広報による内幕暴露なんかは非常に興味深いのだが(I編集長は別格)、それよりもボクは馬場自身の声を聞きたいわけなのである。

たとえば天龍革命当時、つまりSWS誕生前に**「天龍がなぜいいかと言うと、彼は人に迷惑をかけていないでしょう。だから信頼と言うかね、俺は天龍が謀反を起こすなんてことは、この小指の先すらも考えていないよ」**と呑気に語る馬場。

新生UWFだけは異常人気ながらもマット界は不況だった当時、大好きな「水戸黄門」への出演依頼があって浮かれていたためなのか、**「馬場さんにも今、外側から大きなプレッシャーがかかっているんです。わかります?」**とUWF問題について聞かれれば、**「水戸黄門に出演することか?」**と呑気に即答する馬場。すべてが最高なのだ。

個人的には、昭和30年の『ベースボールマガジン』に掲載された**「これまで巨人なるがゆえに起こした出来事で一番困ったことは?」**なる失礼な質問に、**「高校時代、バスケットのゲーム中、相手選手の足を踏んだら、その選手の足がつぶれて、病院に通わなければならなくなったとき」**と答える、その頃からすでにプロレスラーらしかった呑気なキラーぶりに心から震えたね、実際。

高校時代の馬場は喧嘩になっても相手の上にただ乗るだけだったとのことだが、それはきっと本気を出したら相手が壊れるからだったのでは? と勝手に妄想が膨らみまくる、シュートを超えた馬場らしい見事なエピソードなのだ。

還暦を迎えたときも、松山千春に**「ビルの2階や3階から落ちたって大丈夫」**と全日ならではのバンプの技術と身体の丈夫さを自慢していたという話もたまらないんだが、それでも外部ではなく内部からのダメージには勝てなかったというわけなのだろう。とりあえず合掌。

## 強くて優しい男たち (永沢光雄／筑摩書房)

幻の優良雑誌『レッスルボーイ』掲載の上田勝次インタビュー(『悶プロ3』で絶賛した傑作)に始まり、『おとなの特選街』掲載の渕正信に木村健悟、そしてタイガー服部のインタビューまで収録しているだけで買うべきだと断言できる、人選も内容も本当に素晴らしいコクのありすぎる一冊。

著者・永沢光雄(『AV女優』や『風俗の人たち』で知られるノンフィクションライター)は**「プロレスはおろか格闘技全般にまるで無知」**とのことなのだが、無知ゆえにAV女優や風俗嬢への取材とおそらくやり方をほとんど変えることなく、家庭環境からじっくりと話を聞いていくのである。

そうやって過去のドラマを聞き出されてしまうのは、修斗時代に取材された佐山も同様だった。

**「三人兄弟の末っ子だったが、兄と姉とは母親**




**が違っていた。父親の前妻は胃ガンで亡くなっていた。佐山が子供の頃、家では夫婦ゲンカが絶えなかった。本当に、毎日のように父と母はケンカをした」**

そのために、佐山は母の実家に何度も預けられ、家に居づらいばかりに外で遊び回ったため、体力に自信を付けていった、と。

そんなこれまで聞いたこともない過去の伏線が、佐山のドラマに深みが加えていくわけなのだ。

続いて、父親に**「プロレスなんかしょせん八百長なんだぞ」**と言われながらも上京した佐山は、**「キング・オブ・スポーツ」**だと信じていた新日に入門。だが、やがて父の言葉が重くのしかかっていくこととなるわけである。

**「プロレスこそ真の格闘技だ。なぜなら真剣勝負だから」と言った佐山に、ある先輩レスラーが薄笑いを浮かべながら、『じゃあ俺にボディスラムをかけてみろ』と言った。相手はベテランレスラーである。佐山が必死になって向かっていってもビクともしない。『もう一回やってみろ』と先輩レスラーが言った。今度は見事に決まった。先輩レスラーが佐山のかけたボディスラムに、自分からかかってくれたのだ。『な、プロレスは協力のし合いっこなんだよ。プロレスなんてしょせんショーさ』。信じていた思いが強いほど、それを裏切られた絶望感は重い」**

このショックを他人にも味わわせるべく、佐山はデビュー戦直前の前田にプロレスの「仕組み」を教えて泣かせたわけなのだろうか?

佐山はデビュー後、**「最初の四十から五十試合は連敗した。すべて営業サイドから『負けろ』と指示されたからである。しかし佐山のプライドは傷つかなかった」**。それでも耐えられたのは、打・投・極から成り立つ格闘技部門を新日内に作るという理想があったためだという。

それにしても引用するこっちが恐ろしくなるほどの物騒極まりない内容は、格闘技に無知でなければ書ける代物ではないだろう。

挙げ句の果てには知識の無さゆえ、新日離脱時に佐山が猪木を批判したことについても**「彼は決して人を呼び捨てにするような人間ではない」**と、一度会っただけで証言してしまう始末なのであった。当然、そんなわけもないんだが。

なにしろ当時の佐山に言わせれば、旧UWFにおける前田との不可解な金的蹴り試合は**「ショーでも真剣勝負でもない。ただの駄々っ子を相手にしているような試合内容」**でしかなく、**「しょせん、あのUWFに集まったレスラーたちはプロレスというショーがやりたかったんですよ」**とまで言い切ってみせるほどなのだ。

前田ならずとも、思わず「ゴッチさんに謝れ！」と言いたくなる暴走ぶりもいま読むと凄いが、ここまでブチ撤けていた佐山を許しきってUFOに入れてしまった猪木の懐の深さには、改めて感服する次第なのである、本当に。

それに比べると、**「今でも小説を書いている。最近はジャンルを広げミステリーやSFものも書いているそうだ」**という意外な面もある男・渕は徹底して呑気そのもの。入門早々アメリカ修行の話を先輩から聞くと、**「さっき入門を許されたばかりなのに、もう俺の頭の中には自分がアメリカでベルトを取って、女を両手に抱えて凱旋帰国する姿が」**浮かび、実際に海外遠征が決まると**「嬉しくて、それまでつき合ってた女と全部手を切ってアメリカに飛んだ」**だのと、いまも独身貴族の割には女のこと以外は一切考えていないのである。

だが、帰国すると**「タイガーマスクのような派手な試合が全盛でね、俺みたいなゴキブリのようなプロレスはなかなかファンにアピールしなかったんだな。でも日本人って本物が好きでしょ」**。そんな理由で、ゴッチイズム溢れる試合を続けていたということなのだ。ゴッチさん、ありがとう！

しかし、最もしみじみさせられたのは元祖クラッシャー・木村健悟の話なのである。

**「僕が物心ついた時には、もう家には母親はいませんでした。後から知ったんですけど、僕を産んですぐに母親は父と別れて大阪で再婚してたんです。だから僕は、ひとりっ子ですけど、異母兄弟は三人いるんです。貧乏でした。オヤジは自営業というか、鉄クズなんかを安い値段で買って来て業者に売る、今でいえばリサイクルですか、そんな仕事をしてました」**

これだけでもすでに貰い泣きしそうになるというのに、隣の家が母の実家だったため盆や正月に帰省する実の母と会えば、**「お母さんの顔なんか知るわけもない。優しいおばさんだなと思ってました」**と。そこで**「こんな人がお母さんだったらいいのになあと思いました。そして、子供心にボンヤリと、もしかしたらこのオバサンが僕のお母さんかもしれないと思いました。すぐに、そんなことは夢だと思い直しましたけど」**と続けられた日には、みんなもう泣くしかないって！

男なら誰もが心の底に隠し持っている維震軍魂がこれだけで思わずうずき出すはずなのだ。

淡々と**「僕って、スター性がないんですよね。だから便利屋みたいに使われちゃう。僕って本当に運の悪い星の下に生まれちゃったんだなって」**とボヤく健悟と、同じ様な家庭環境ながらスターになり、便利屋を否定する道を歩んだ佐山。

個人的にはどちらも大好物ではあるんだが、とりあえずこの本のおかげで健悟の方がいい人だということと、いい人なだけではこの世界では大成しないのが事実だと思い知らされた次第なのである。

## 修斗読本 **（日本スポーツ出版社）**




ズバリ言うなら、もったいない本である。

売り物のはずのルミナ対数見&エンセン対美憂という二大対談にしても、前者が当たり障りのない中身で、後者は美憂へのアドバイスが中心と、どちらも『ゴン格』本誌向きの企画でしかない。

そこで**「美憂選手はいろいろ理由があって山本姓に戻りましたが、これから心機一転頑張ってください」**と最後にまとめる司会者に**「私もちょっと美憂に対して、頑張っちゃおうかな（笑）」**と答えるエンセンは最高なんだが、どう考えても修斗初の公式ムックなら選手の人間性や考え方を読者に伝えるべきであり、2人は単独ロングインタビューにするべきだったのである。

12人しか答えていない観客アンケートをデータにしてインタビューしたり、佐山インタビューだけ再録だったりと不満なポイントもまだあるんだが、自然児・桜井マッハ速人の自然体なロングインタビューがあるだけでボクは許す。

そしてプロレスファン的には、浦田コミッショナーが佐山のUFO解任事件について語っているだけでも必見なのである。

それによると、UFOの**「パーリ・トゥードのプロレス」**に**「一番屈辱を感じて」**いた**「株一つ持ってない代表」**で**「人寄せパンダのような社長」**の佐山は、誰になのかは謎だが**「大衆の面前でものすごくプライドが傷つけられたことを言われた」**ために、UFOの打ち上げパーティーで大爆発したそうなのである。

そんな佐山も、近頃は**「ルミナの試合はどう見ています?」**という新たなる問題提起を始めたそうで、これは浦田コミッショナーによると**「話し合いか何かがあったということに見えたんですよ、6秒の試合が」**とのこと。つまり八百長だ、と。

プロレスに続いて修斗の幻想まで順調に破壊しつつある佐山のミスター・ケーフェイぶりは、もう誰にも止められないのである……。

## 【青春自伝】熱き握り拳 **（小橋健太／ぶんか社）**




正直言って『紙プロ』読者に熱狂的小橋ファンという人種は、ほとんど存在しないと思う。

それも結局、**「熱く生きていれば、それを笑う人もいるかもしれません。でも、結果は必ずついてくると思います」**だのと前向きなことしか言わない爽やかスポーツマン系イメージが強いからなんだろうが、ボクに言わせれば小橋は断じて単なる爽やか野郎じゃない。

**「自分が物心ついた頃にはすでに両親の仲が悪かったので、ほとんど父親は家に帰ってこない状況になっており、覚えていることといえば親父とお袋の喧嘩する声がよく聞こえてきたことぐらい。とにかく父親に対する思い出というのは……、何回か酒を飲んだ親父に殴られたことぐらいでした」**

**「うちは自転車はもちろん、電話もなくて緊急の用事があれば近所の家に呼び出してもらい、ラジカセ、レコード・プレイヤー、カメラなどはもちろんなく、あったものといえばテレビぐらい」**

**「本当にボロボロの家でした。柱のところどころがシロアリに食われ、自分が2階ではしゃいでいた時に、1階の天井に穴が開いたことすらありました。それでも、住む家があるだけでもマシだと子供心にも思えたんですから、皆さんにもうちのおかれていた状況がわかってもらえると思います」**

これらを踏まえた上なら、工員だった小橋がスラム街出身のタイソンに触発されて退職し、プロレスラー目指してトレーニングを開始する気持ちもわかろうというものなのである。

それだけではなく、せっかく生み出した必殺技を『週プロ』佐藤正行記者に「健太ッキーボム」と名付けられたことや、全日ガチャの人形が自分と似ていないことなどにトークショーでは怒りを爆発させているらしい小橋が、その無闇なまでの熱さを活字に託してグーパンチを次々と炸裂させていくのだから、まさに熱き握り拳。とりあえずマスコミ批判が多いようなので、『週プロ』のバックナンバー片手に軽く検証してみよう。

92年7月には**「パトリオットと組んで自分がやり始めたことを、一部のマスコミ（市瀬記者？）が批判」**し、その影響でタッグ解消になったことに**「怒りにも似た思いを覚えました」「納得がいきません」**と、まず激怒。

93年10月、武道館への前哨戦として川田による小橋バッシングが始まると、佐藤記者が**「要するに小橋の試合は、その場その場で面白くても、あとに引きずるような余韻に乏しい」**と川田の発言を勝手に要約して試合レポートに書き加えたためなのか、これにもまた激怒。

**「あるマスコミは川田さんの発言をそのままストレートに受け取り、自分を批判するような記事を書いていたし、別のマスコミは事実だけを欠き、その展開を見届けたいというように書いていました。マスコミの人たちが試合を盛り上げるためにそういった部分を強調して書くことは別に構いません。でも、人間そのものを否定するような書き方だけはしてほしくない、それがプロレスラーと記者の人たち、取材する側とされる側の最低のルールだと思います」**

他にも**「会社がどういうつもりでこういうカード（モスマンと組み、グラジエーター&保坂とタッグで対決）を組んだのか、自分には何の説明もなかったのでわかりません。もちろん、組まれればそれに従って試合はちゃんとします。でも、ファンの期待をないがしろにしてほしくない」**というマッチメイク批判や三沢革命支持宣言など、社内体制がどうなるのか見えなかった執筆時期を考えると十分に過激だと思えるんだが、最も意外だったのはこの発言なのである。

**「自分はUWF系の試合ができない、もしくは苦手だとよく書かれることがありますが、学生時代にずっと柔道をやっていましたし、空手の有段者やキックボクシングのプロ経験者の方に教わったり、今でもそういった練習は怠りません。むしろそのようなスタイルは好きな部類にも入ります。馬場さんの〝プロレスとはシューティングを超えたものである〟という言葉を自分も信じています。また、それを実証する時がいつ来てもいいように、そういうトレーニングを今でも欠かさずやっています」**

そう、実は小橋こそがオーバー・ザ・シュートだったというわけなのである！

※『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNo.4までは完売しました

# 紙のプロレス RADICAL Back Numberのお知らせ




モデル／今や第0試合の男としてブレーク中のサバイバル飛田選手（埼玉プロレスリング）

## No.5 ★打倒ヒクソン！「最後の刺客」

**高田延彦**ロングインタビュー




◎**猪木、Puffyほか有名人33人が**
高田vsヒクソンを大予想
◎読者人気爆発!!ストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。
伏せ字だらけの超過激対談パート2
**ドン荒川vs藤原喜明**
◎全てはここから始まった!
開始前から話題騒然の新連載!
**前田日明**の人生相談
『人生は語らず』
◎世界格闘技連盟を語りたおす!
食い倒す?『ケーキクェイ』
**佐山聡（タイガーキング）**インタビュー
◎"活字プロレスの悪魔（**ターザン山本**）"が語る高田vsヒクソンの意味!

## No.6 ★特集「"プロ"と"レス" 融合か分裂か!」




◎俺たちが世界を支える!
nWo総帥**蝶野正洋**ロングインタビュー
◎**前田日明**の人生相談&パンクラス問題に日明兄さんプチッインタビュー&前田のイラダチ頂点に達す!!
リングス大会終了後の共同会見完全再録
◎ゴリさんこと**アレクサンダー大塚**のみちのくひとり旅日記'97
◎**TAKAみちのく**
毒舌爆発インタビュー
◎高田×ヒクソン戦直後、
**Puffy**に独占インタビューを敢行!
◎打倒!八百長論議!
**ザ・グレート・サスケ**が素人相手にお説教!
◎**井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司**インタビュー

## No.7 ★特集「反骨の剣」

**田村潔司**ロングインタビュー




◎読者もシビレまくり!
黒いパンツの心意気・激白**木村健悟**
◎三禁なんてクソ食らえな大型不良新人!
**中原奈々**インタビュー（現在失踪中）
「凶器しか使わないプロレスをしたい!」
◎みちプロ経営危機の真実を
**ザ・グレート・サスケ**が独占告白!
◎……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載!
**前田日明**の「人生は語らず」
◎祝!　復帰記念
**モハメド・ヨネ**インタビュー
◎ラジカル初登場2連発!
**冬木弘道／MEN 'Sテイオー**

## No.8 ★特集『格闘技世界大戦前夜!!』

◎戦闘スマイル全開**桜庭和志**ロングインタビュー
◎**アントニオ猪木**「元気」と「気づき」のロングインタビュー




◎ヒクソンとの再戦が決定!
**高田延彦**の意気込みを聞け!
◎「プロレスラーはホントは強いんです」
記念! 格闘家から見たプロレス
**エンセン井上／村浜武洋**
ロングインタビュー
◎波動砲!　**前田日明**の人生相談
『人生は語らず』
◎必読!黒いパンツの心意気PART2
**木村健悟**が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る!
◎業界内外で話題騒然
**吉田豪**の書評の星座PART2

## No.9 ★「アントニオ猪木・闘魂連鎖! 無礼講大特集!!」

**前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番**
久々に大炎上!　**ターザン山本**／
燃える情念!　**石川雄規**
◎衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
◎見てみぃ、この面ッ!!
**高阪剛**ロングインタビュー
◎**前田日明**ラス前ロングインタビュー&炸裂人生相談
◎日プロOB**吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海**
◎各方面で大反響!!
『格闘家からみたプロレス!』**朝日昇**
◎大ブレイク!
**谷津嘉章**ロングインタビュー




## No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」大和魂は連鎖する!!




◎**前田日明vsエンセン井上**
スクープ対談!
◎とにかく元気!　**高田延彦**
ロングインタビュー
◎またもや大爆発!
**谷津嘉章**インタビュー第2弾!
◎社長&会長対談
**ザ・グレート・サスケvs松永高司**
◎『紙のプレイボーイ』発進!!
**ダイアナ&宮内美穂**
◎大噴火!!　**ターザン山本**の
プロレスマスコミ表紙批評!!
◎『紙のプロレス』
スーパースター列伝　**北沢幹之**
◎**冬木弘道**（金村ゆきひろ&伊藤薫）
ロングインタビュー

## No.17




★特集1「格闘MAKE JUNGLE」ジャングルを守るよりジャングルを作る!!
◎UFO襲撃三昧本格襲撃開始記念『知ってるつもり』
**小川直也**インタビュー
◎**桜庭和志／高田延彦inUSA／アントニオ猪木／豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔／宮戸優光**
★特集2「新生リングス Bone&Blood」
**前田日明／山本宜久／成瀬昌由／ランディ・クートゥアー**
★「新日FIRST CONTACT」
◎『紙プロスーパースター列伝』**タイガー・戸口（キム・ドク）／矢口壹琅／『怪物通信・K通』**
◎「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

## No.11 ★特集「格闘Viagra'98」

◎**高田延彦vsエンセン井上**
エネルギーエクスチェンジ烈談!!




◎**前田日明**ラストマッチ後・初インタビュー
◎良くも悪くも大反響!**ターザン山本**のプロレスマスコミ表紙批評!
◎「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」**佐山聡／スーパー宇宙パワー**（木村浩一郎）／**福田雅一**インタビュー
◎**ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本**
インタビュー
◎バトラーツ両国進出記念特集
**石川雄規／トンパチ・マシンガンズ／岡本衛／マッハ純二／土方隆司**
◎SWSの真実がいま初めて語られる!
「S多重アリバイ」**アポロ菅原**

## No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」

◎ヒクソン戦直前!
何かが違う**高田延彦**暴走ロングインタビュー




◎「プロレスファンよ踊れ!　そして祭り囃子を鳴らせ!!」**浅草キッド**登場
◎人気大炸裂!「S多重アリバイ」第2弾
**アポロ菅原**インタビュー
◎**桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一／神取&北尾／八木淳子／ダンプ松本／志生野温夫**インタビュー
◎猪木イズム世界一決定戦
**石川雄規&ザ・グレート・サスケ**
◎格闘王から相談王へ**前田日明**
人生相談「人生は語らず」堂々復活!!
◎話題騒然!! What is プロ格闘家?
**菊田早苗&郷野聡寛**インタビュー

## No.13 ★特集「四角いジャングル RADICAL」




◎実写版『1・2の三四郎』降臨!
**アレクサンダー大塚**インタビュー
◎『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
◎**高田延彦**がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
◎**前田日明・エンセン井上**が語る
『高田vsヒクソン戦』!!
◎**谷津嘉章**（プロレスラー代表）・**島田裕二**（レフェリー代表）・**浅草キッド**（プロレスファン代表）から見た
『10.11 PRIDE.4（その他）』
◎大反響!　SWSを徹底再検証
『S多重アリバイ』第3弾
**ケンドー・ナガサキ**
◎**ボブ・バックランド／松永光弘／リッキー・フジ／堀辺正史**インタビュー

## No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」

◎**前田日明**独占ロングインタビュー／これが**カレリン**の発した言葉だ!! ／**池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談**／"人類最強の男"に関する証言ファイル




◎連勝街道爆進中!
**金原弘光**ロング・インタビュー
◎RADICAL版　ゆく年くる年'98－'99
座談会　マット界へ愛をこめて
◎舌好調! **谷津嘉章**のマット界、目ぇつぶって30秒!!　'98年マット界総括編
◎『高田道場1999!』
**高田延彦／桜庭和志／佐野友飛／松井駿介／豊永稔**インタビュー
◎幻のSWSを再考察
『S多重トンパチ』第4弾**折原昌夫**
◎『虎の尾を踏む男たち'99』
**小路晃／4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫**

## No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る**小川直也with.S.S**インタビュー／「乱闘?あれはね、強い者イジメ!!」**佐山聡／4代目タイガーマスク**／UFO襲来緊急座談会




★特集2「格闘LAST VOYAGE」
◎**前田日明**USA特訓を直撃!／本物降臨!!　**アレキサンダー・カレリン**／**浅草キッド**の前田日明熱烈応援文／**アニマル浜口親子**のハラワタ対談!
◎「馬場さん、目を覚ましてください!! 」
**ジャイアント馬場**追悼特集
◎みちプロ分裂直前**SASUKE**
インタビュー&デルフィン退団記者会見
◎マサ・サイトー引退記念座談会
『語ろう**マサ・サイトー**!』
◎夢の団体SWSを徹底検証2連発!
『S多重アリバイ』**佐野友飛&Mr.K**

## No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」

◎修斗ヘビー級王者**エンセン井上**、
プロレス雑誌の表紙奪取記念インタビュー




◎**田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／村上一成／マーク・コールマン／石川雄規／ザ・グレート・サスケ**
インタビュー

★特集2「それぞれの旅立ち'99」
◎マット界の環境問題を語る
**アントニオ猪木**ロングインタビュー
◎**前田日明**引退後初の
独占ロングインタビュー!
◎大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
『語ろう**ジャンボ鶴田**』
◎大反響!　SWSを再検証せよ
『S多重アリバイ』第7弾 **石川孝志**

**【バックナンバーの購入方法】**
●お申込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
**〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702**
**（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係**まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
**00130−3−769154（株）ダブルクロス**まで。

代金は創刊号＝610円　2号＝660円　3号〜10号＝680円　11〜17号＝780円
送料1冊＝310円　2冊＝340円　3冊〜4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円

**●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店**
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ

いまひとつ入り込めない人のための

# 多重アリバイ

″S″の黒幕がついに登場!!

STRAIGHT AND STRONG

SWS

multiple ALIBI ″S″



## 第8回 将軍KYワカマツ

一回の休載を経て、『S多重アリバイ』がパワーアップして帰ってきた！　今回は先日、北海道芦別市議会議員に見事当選した“時の人”将軍KYワカマツ氏の登場だ！　SWSでは旗揚げからの中心人物であり、プロレス業界に田中八郎メガネスーパー社長を引っ張ってきた張本人でありながら、なぜか終盤は表舞台から姿を消してしまった。SWSの崩壊で運命が狂ってしまった多くのレスラーの中でも、最も狂い咲きした人といえるだろう。

バトラーツに出場する予定だったのに、政務が忙しくてキャンセルしてしまったほど多忙をきわめるワカマツ氏に何とか時間をつくってもらい、電話でロングインタヴューを敢行した!!

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

**俺も決して頭は良くないけどね、政治家みんなムチャクチャ頭が悪いんじゃないかな**

——今日はよろしくお願いします。

**ワカマツ** あのね、すいませんがね。

——なんですか？

**ワカマツ** ちょっとね、トイレにいきたいんですよ。

——ダハハハ、わかりました（笑）。

**ワカマツ** もうちょっとしたらね、電話をかけ直してくれませんか。ちょうどね今帰ってきたばかりで着替えをしてたんだ。

——ま、すっきりしてからお話しましょう。

（一旦電話を切り、かけ直す）

——では、さっそく続けさせていただきます。まずは当選おめでとうございます！

**ワカマツ** ありがとうございます。

——ホントにビックリしましたよ。選挙に出た時点で本当にビックリしましたけど、当選したのはもっと驚きました（笑）。とりあえずは、選挙に討って出た理由は何だったのかについてお聞きしたいんですが。

**ワカマツ** 私の故郷は北海道の芦別ってとこなんですけどね、まあ世の中がちょっとズレてんじゃないかと思うわけです！

——ズレてる！ そういえば以前、ワカマツさんに取材したときも、世の中に対する怒りみたいなものを訴えてましたよね。

**ワカマツ** 怒ってるわけじゃないんだけどね。やっぱし国自体が、政治家にしても決して良くはないですよね。世の中のためになる人間が少ないね。俺はずっと世の中を見ているけれども。まぁ、俺は吉田茂さんとか、いろいろ批判はされるけど田中角栄さんとかがマトモな政治家じゃないかなと思う。

——昔の政治家はパワーがありましたもんね。

**ワカマツ** そうです。力がない人間が自分のためにやってるような連中は政治家じゃないですよ。力があってこそ政治家であってね、力のないものがなんだかんだやるのはおかしいですよ。

——力のない人間の主張が世間に届くわけがないですからね。ワカマツさんは以前から、スタッドレスタイヤが引き起こす公害の問題なんかも切実に訴えてられましたよね。



シンプルなデザインだが、顔のインパクトがもの凄いのでノー問題。“ワカマツ”のひらき方がナイス!!

**ワカマツ** フへへへ。よくご存知ですな（笑）。

——知ってますよ（笑）。一回ウチの取材（『紙プロ』特別監修の単行本『トンパチ』芸文社刊）のときにいろいろ伺ってますから。

**ワカマツ** 今回の市議選に当選しなかったら、公開討論しようと思ってたんだよ（この後約15分間、公害問題に関する活動についてワカマツが熱弁を振るう）。

——はあ。要するに、そっち方面でも積極的に活動されてきたわけですね。

**ワカマツ** そうです！ フへへ（笑）。

——議員になって早々、そんなややこしい問題を解決しようとしているわけですか？

**ワカマツ** なんていうのかねぇ？ いま、政治家はみんな頭悪いんだ。

——ダハハハ、悪いですか（笑）。

**ワカマツ** いやいや、俺も決して頭は良くないけどね、みんなムチャクチャ頭が悪いんじゃないかな。道民はみんな怒ってますよ。日本全国の国民も事情を知れば怒るんじゃない？

——北海道には問題が他にもいろいろ問題があるんですか？

**ワカマツ** ムチャクチャです！

——芦別市に建ててたテーマパークも問題が多いらしいですね。

**ワカマツ** そう！ よく知ってますね〜っ!?（この後約15分間、テーマパークに関する問題に熱弁を振るう）。

——はあ。要するに、そっち方面でも非常に問題が多いんですね。

**ワカマツ** その件で市長と市議会議員19名に、アンケート用紙を渡してね。アンケートを記入してもらおうとしたんだけど、市会議員は7名しか返してこない！ 市長はもちろん返してきたんだけど、これもまったく納得のいかない答えが返ってきてね。これじゃあこの町は大変なことになると思いまして。それが今回、選挙に出たキッカケです。

——俺が一肌脱がなきゃいけないと。

**ワカマツ** この人たちじゃどうにもなんねえなと思ったから。市会議員の連中にね「給料を返せ！」って言ったんだよ。いままで何もしてねぇんだから。市民の血税を遣ってね、何も仕事してねぇなんてとんでもねぇ！ 俺は仕事がプロレスだけどね、リングに上がんなかったらね、仕事しなかったらギャラはくれないよ。そんなようなことを言ってやりましたよ。だから嫌われてます。

——嫌われてますか（笑）。

**ワカマツ** 俺が市会議員に当選して、みなさん戦々恐々としてるんじゃないですか？

——また余計なこと言われるんじゃないかって（笑）。ほんとに日本のジェシー・ベンチュラって感じですよね。やっぱり選挙に出たのはジェシー・ベンチュラに影響された部分が大きかったんでしょうか？

**ワカマツ** ジェシー・ベンチュラに影響されたというかね、「ベンチュラ当選」の報道が、たまたま今年の1月の毎日新聞の夕刊に出てたんですけどね。

——一般紙に出てましたもんね、

**ワカマツ** 影響が全くないと言えば嘘になるけど、ジェシー・ベンチュラが出たから自分もということでもないんだよね。確かにその記事でひらめきみたいなものがあったんですけどね。

——きっかけみたいな感じですかね、前からそういう思いがあって。

**ワカマツ** たまたまこういうことになるようになってたんじゃないですか。それで私の名前も市政と書くからね。

——市政といえばワカマツということですよね（笑）。ベンチュラ選手との接点というのはあったわけですか。

**ワカマツ** 昔ですね、日本にも来てますし、外国でも何度か会ってますもんね。

——当時からそういう政治指向みたいなのはあった人だったんですか。

**ワカマツ** いやあ、当時はそうでもなかったですけどね。自分はやっぱり日本人として、フェアではっきり物事言って変えて行かなきゃいかんと思うわけ。後世にわれわれの子供に何を残して行くのかってことですよ。みなさんは俺のこと異端児だとかね、変人だとか言うけどね。

——とんでもない言われ様ですね（笑）。

**ワカマツ** もともと改革する人間ていうのはね、普通の人から見たら、「ああ、アイツは頭がおかしいんじゃないかな」っていうような人間じゃないとね、それは例えば10年後には「ああ、あの人がいたからこういうようになった」って思えるときが来るんですよ。

——ガリレオとか、歴史上でも新しいことをする人は、みんなそうでしたもんね。そこで政治家・ワカマツさんにお伺いしたいんですが、政治家として猪木さんをどう思います？

**ワカマツ** 猪木さんは素晴らしい功績を残したんじゃないでしょうかね。スポーツによる外国との交流は素晴らしいものだと思うんです。

——じゃあ、猪木さんが今やってるUFOという団体についてどう思いますか？ UFO好きのワカマツさんとしては。

**ワカマツ** 俺はUFOにはうるさいですけど、時代の流れですから、あんまりそれを言うのもね。まあ、時代がそれを要求してるんであれば、それに沿っていかなければ、スポーツも取り残されますよね。

——プロレス側が押されてきてるようなイメージすらありますもんね。

**ワカマツ** そうですね。実際に1人でやる競技じゃないですからね。必ず観客がいなければならないもんですもんね。だから観客が何を求めているのかを事前にキャッチしなければ、今後は大変じゃないかなと思うんですよね。

——それを受けて最近、ワカマツさんが蛇の穴みたいな組織を作ろうとしているという噂があるみたいですよね。これは何なんですか、一体。

**ワカマツ** これはですね、組織というわけじゃないんですけどね。青少年の育成の一環の中で考えています。

——昔、猪木さんも青少年の健全な育成の為にプロレス学校を作るとかって言ってましたね。とりあえずワカマツさんは身近な所でやれることからやっていくと。国会議員を目指すとか、そういう思いはないんですか？

**ワカマツ** それは、やってみないとわからないです。

——本当にわからないですよ。今回の出馬にしても正直言って東京のほうでも泡沫候補扱いみたいな冷たい反応でしたけど、それでも受かったわけですからね。

**ワカマツ** まあ市民のひとりひとりと接触してる中でね、おばあさんなんかね、私と手を握り合って涙を流して訴えてるから。

——泣いちゃいましたか！

**ワカマツ** いまのこの時代のなかでね、もちろんいろんな問題がありますよ。お年寄りがひとりで暮らしていかなきゃならん、そんな状況を世の中が作っていること自体がおかしいんだよ！ 日本人が一番大事にしなきゃならんことがね、おろそかになってんですよ！ つまりいまの連中はね、当選するときだけさ、お願いします、お願いしますって、当選しちゃったら後は、胸張って威張ってるだけだから（苦笑）。そういう時代なんだよ。これからの若い人方に出てきてもらうキッカケになればね。芦別には20年連続議員やってる人もいるんですよ。

——20年！ 非常に閉鎖的なわけですね。

**ワカマツ** ええ。自分が今回こうやって騒いだ中で、結構新人が出てきましたよ。いい方向性になってきたんじゃないですか？ 悪いものは変えなかったらダメですよ。

——それでですね、ワカマツさんがそういう熱い思いを抱くまでになったきっかけとして、SWSっていうものもあったんじゃないかなって気がするんですけど。

**ワカマツ** （かすれた声で笑いながら）なんですか、それ（笑）。

——いやいやいや、あそこでいろんな人生経験をたっぷり積んで、こういう思想に至ったんじゃないかと思ったんですよね。

**ワカマツ** フヘヘヘ。要はね、人間生きているのはね、99％が辛いことだとか、せつないことだとか、わびしい、さびしい、いろんなことがあるんです。ごく1％だけ、「いいことがあったんだ、幸せなんだなぁ」って思えることがある。ねえ？ そうでしょ？

——そうなんですか？

**ワカマツ** 自分の親が死んでいくとか、そしたらすぐに誰か親の妹が死んでいくとか、そういう流れのなかでみんな生きているんだよね。

——はあ。

**ワカマツ** それは確かにいまおっしゃるようなことも「ない！」っていったら嘘になりますよ、これ。ありますよ。そうやって、積み重ねのなかで人間っていうのは生きていくんじゃないのかと、そういうふうにいまは感じています。それも、あなたからその話が出たから「なるほどな」と思ったんですけどね。

——思いましたか（笑）。

**ワカマツ** いや、おっしゃる通りですよ！ 間違いないです（笑）。それはねSWSのこともね、100あったらね何％かは積み重なってるかもしれませんよね。

——普通の人が10年くらいで経験することが、SWSの2年くらいの期間にあったんじゃないかという気がするんですよね。

**ワカマツ** いや、あのね、普通の人の10年……じゃないね俺の場合は。

——あっ、10年どころじゃないですか（笑）。

**ワカマツ** あぁ～ん、そうですよ。

——20年くらいだろうと（笑）。

**ワカマツ** いやいやいやいや、もう30年くらいには当たる！

——30年!! それは辛いですねぇ（笑）。ある意味では、いろんなことを考えるようになったのも当然の話というか。

**ワカマツ** その、なんていうか人間の信用だとか……もともと信用もないんだけれどね。

——そんな、そんな（苦笑）。

**ワカマツ** いろんなことが山ほど、山の山ほどありますよ。山がふたつみっつ出来ますよ。

——ふたつみっつは出来ますか（笑）。

**ワカマツ** ええ。ひとつの山じゃないよ。そういう中でこうして生きてきたからね、なんとか自分はこうなんだよってことを、どっかで証明しなきゃならんと思うんですね。そのためにもいままでご迷惑かけた人たちに、ケジメをつけなければいかんと思うんです。

——あれだけ人が集まれば、そりゃあいろいろありますよ。ウチの雑誌ではSWSを再評価しようということでずっとやってるんですよ。いままで批判的な意見が多すぎたじゃないですか、SWSって。だから、そんなことはないんじゃないかっていう新しい視点を提供したいと思ってるんです。

**ワカマツ** あのね！ なにもあんなにね、癇癪を起こすほど田中八郎さん（メガネスーパーの現会長であり SWSのオーナー）を批判すること


ワカマツとはよく一緒にUWFを観戦していた田中八郎（現・メガネスーパー会長）氏。ワカマツと田中氏のパイプからSWSが誕生した。

はないんじゃないかと思うんですね。もともとレスラーっていうのは、アメリカなんか特にそうですけれども、契約制だから！　1試合いくらとか、週給いくらっていう契約だから。それを2年何ヶ月も生活が保証されているんだから。なおかつ日本ではね、いままでなかっただけの待遇を受けているんだから。ね!?　俺は田中社長に感謝して当然だと思うんだ。

——その通りですね（笑）。

**ワカマツ**　あ〜、あのぉ！　俺も感謝されて当然だと思うんだけどね、団体つくったんだもん。

——ダハハハハ！　いや、まったくその通りです（笑）。

**ワカマツ**　だけど人間だからね、状況によっては勝手気ままなことをやり始めるんですよ。初めはいいんですよ。だけど団体の中に入ってしまったら、「自分が、自分が！」というようなことを言い出して、統率が取れないようになるのが人間なんですよ。ホントはみんな、感謝しなけりゃならんですよ、田中さんに。感謝をしなかったら、世の中ムチャクチャになりますから。

——世の中が（笑）。もともとSWSの発端は、ワカマツさんが選挙に出られたときと同じように「この世界を変えなければ！」という思いのような気がするんです。それでいい形になった部分もあると思うんですが、その頃、SWS時代のいい思い出というのは何かありますか？

**ワカマツ**　それは会社を設立した時にみんなが喜んだのがいい思い出なんじゃないですか。旗揚げに向かって一生懸命みんながやり出した頃ね。それはいい思い出に残ってますよ。例えば横浜アリーナで旗揚げ戦をやりましたね、2日連続で。

——『闘会始'90』ですね。それがだんだん変わっていってしまったと。田中社長の思い出はありますか。

**ワカマツ**　自分に対しては親身になっていただいた方ですよ。

——ワカマツさんがSを辞める頃までですか？

**ワカマツ**　はい、そうですね。

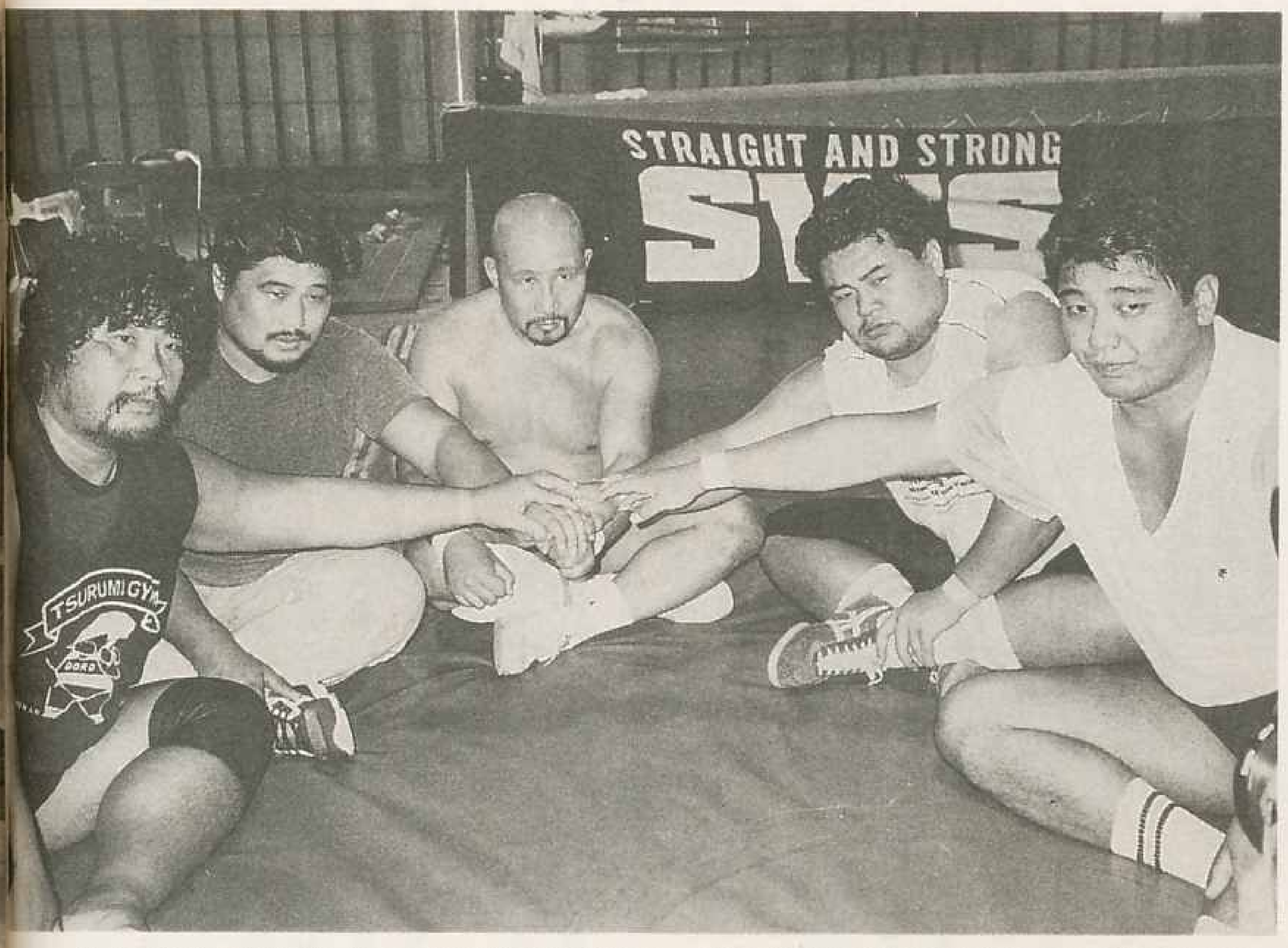
——Sで仲の良かった選手といいますと、どなたですか？

**ワカマツ**　いや、自分としてはみんな仲が良かったです。仲が悪いという人はいないですよ。

——ワカマツさんとはそうだったけれども、下のほうでいろいろ派閥ができちゃったということですね。

**ワカマツ**　派閥というんでしょうかね……ん〜。

——エゴはありますからね。ワカマツさんにとって仲のいい人同士が揉めるのは、見ていてつらい部分もあったんじゃないですか？　崩壊した後に『週刊文春』が書いたような法廷闘争も起きちゃったりとか。



ワカマツ主宰の「道場檄」は、全日＆国際の混合軍である。一癖も二癖もあるツワモノたちが、ここで汗を流していた。91年の秋頃から道場主は谷津に交代することとなる。

**俺も感謝されて当然だと思うんだけどね、団体つくったんだもん。**

**ワカマツ**　あれはごく一部の選手のトラブルでしょ。でも、人間というのは、悪い時になったらエゴが出るからね。

——SWSがそうだったんですかね。

**ワカマツ**　SWSの場合は何も悪い部分というのは、それぞれが個々に出しただけであって、会社自体は何も悪くないんですよ。

——それにしてもSは最初の構想を聞く限りはすごいなと思うんですよね。

**ワカマツ**　ええ。だけどね、レスラーって個性が強いから。「自分が、自分が」っていう人間が大半だから。そうじゃないとレスリングはできないからね。でも、他人を思う心を持っていかなかったら、これもまたレスリングできないからね。俺の持論ではそうなんですよ。

——最初に田中社長からお話を伺った時点では、ふたりでどういった団体を作ろうと思ったわけですか？　最初の構想がどうだったかっていうのが単純に気になるんですけど。

**ワカマツ**　最初の構想っていうのは、まずプロレスラーが生活していくのに、普通のスポーツからみたら経済的には低いんじゃないかと思うんです。それをいい形になるようにしましょうということです。

——最初はUWFの対抗団体にしようという話もあったみたいですが。

**ワカマツ**　そういう話が出たこともありましたけれどね。

——ワカマツさんとしてはそういう気はあったんですか？

**ワカマツ**　いえいえ、私もそういう気はありましたよ。

——あ、そうなんですか。

**ワカマツ**　ありましたけど、時間がなかったんですよね。というか、話の流れで新日本と全日本からみなさんこのぉー、決して自分が行って、引き抜きをしたわけでもないわけですよ。みなさん来るんだから！

——ダハハハハ、そうでしたか。

**ワカマツ**「入れてくれないか？」っていう話だからね。自然になっちゃったんですよね。

——声をかけたのは武藤（敬司）選手くらいなんですか。

**ワカマツ**　いや、彼にはね、最初に声はかけましたよ。だけど、ああいう人間ですからねえ。

——ああいう人間（笑）。

**ワカマツ**　きちっとした部分のある人だからね。それで……新日本に対する思い入れっていうか、いろんなものがあって一緒にやることはできませんでしたけどね。

——本人の中では揺れていたらしいですけどね。どうしようかと思って、永島（勝司・現取締役）さんに相談

# いまひとつ入り込めない人のための

したって言ってましたけどね。「これだけギャラをもらえるんだけど、どうしよう？」って。そういうことをオープンにしちゃう人なんですよ（笑）。

**ワカマツ**　ああ～ん、ねえ？

——それにしても部屋別制という発想は新しかったですよね。

**ワカマツ**　いやぁ、相撲と同じでね、選手を育てたかったんだよな。

——最初は格闘技的要素を強めるっていう意識もあったわけですよね。

**ワカマツ**　まあそういう形でやっていくってことで、スタートの時点では始めましたけれどね。

——カウント5にするとかいう話もありましたよね。

**ワカマツ**　ええ、そうです。いろんなルールをつくってましてね。

——実験的でしたよねえ。ワカマツさんが最初、スネークピットのレスリングを取り入れようとしたんですか？

**ワカマツ**　ええ、イギリスのマンチェスターに行ってね、ロイ・ウッドさんにお願いして来てもらって、それで始めたんですよね。

——それも早かったですよね。いまでこそ無我がランカシャー・レスリングをやってますけど。

**ワカマツ**　あれは大事なことだと思ってね。

——基礎的な強さはなきゃいかんということですよね。そういう姿勢はいま見ると興味深いですよね。それがなぜ専門誌にバッシングされてしまったのかですよね。

**ワカマツ**　まあ、経済がこういうような状況になったからしょうがないんじゃないですかねぇ。

——ワカマツさんも当時いろいろ言われていたじゃないですか。「大金をもらって変わってしまった」だとか。

**ワカマツ**　い～やいや、自分はねぇ、それは間違いですよ。声を大にして言いますけどね、自分は大金なんかもらってないですよ！

——そうなんですか（笑）。

**ワカマツ**　あのね！　それだけはどっかで俺、言わなきゃならんと思っていた。そんな大金なんかもらってないって、俺！　俺がそういう人間であればね、もうとっくに大金を持って、何かやってますよ。自分が一番金もらってなかったですよ！

——あっ、そうなんですか!?

**ワカマツ**　ええ。そりゃあ田中さんにはよくしてもらったですよ。それでも、いま考えてみたら、みなさんに払ってる額からくらべると、それこそ全然大金じゃない！

——そういった誤解が団体へのバッシングを生んだんでしょうね。

**ワカマツ**　そんなねぇ、金をもってたらね……貧乏してないですよ。俺もね、もうちょと自分を売り出さないと……　ずーっと貧乏クジ引いてますよ。

——ええ（苦笑）。

**ワカマツ**（ムキになって）いや、ほ～んとなんだよ！　みんな勘違いしてるんだ。山ほど金をもらってねえと思うんだ。俺は電車で通勤してたんだからね。

——そうなんですか（笑）。

**ワカマツ**　それこそバスのないところで4キロぐらいの距離があったとしますよね。普通、夏だったらタクシー乗りますよ。でも俺は歩いてるんだから。本当にね人間なんて、変わらないですよ。変わるものはなにもない。

——昔、会場でワカマツさんにお会いしたとき、帰りはファンだったボクらもタクシーで便乗させてもらったことがありましたけど。そういうワカマツさんの人柄を見ている限りはきっと昔から変わってないだろうと思うんですよ。

**ワカマツ**　他の人はね、それこそベンツの最新型の乗ったりね、高級車に乗ってましたよね。いろんな人がみんな車買い換えたりしてましたよ。それはそれなりに報酬があってのことだから、それは当然だと思うんだ。というのは、プロレスラーは夢を与える仕事だから。当然、そういう車に乗ったり、いろんなところにいってもね、まあプロレスラーだなっていうのを見せつけてますよね。人が見てますから。でも自分に関してはね、大して変わり映えのしないオヤジだからね（笑）。それこそいつも、ちっちゃなバッグ持って歩いてるだけだから。

——別にそんな夢を小さく売る必要もないですよね（笑）。

**ワカマツ**　自分は「みんなが夢を売れる体制になってよくなればいい」って思ってやったんだけども。それがなんていうか、まあ、ああいうようなカタチになりましたけれどね。

——最後は分裂して崩壊しましたね。

**ワカマツ**　それでも2年何ヶ月、3年近く。みんながプロレスという好きな仕事をして、いままでもらったことのない報酬をもらって、やってること自体というのはよかったんだなって思わなかったら、他に何があるのってことですよ。

——なるほど。ワカマツさんは最初は選手と道場主という立場を両立させていこうと思ってたんですか？

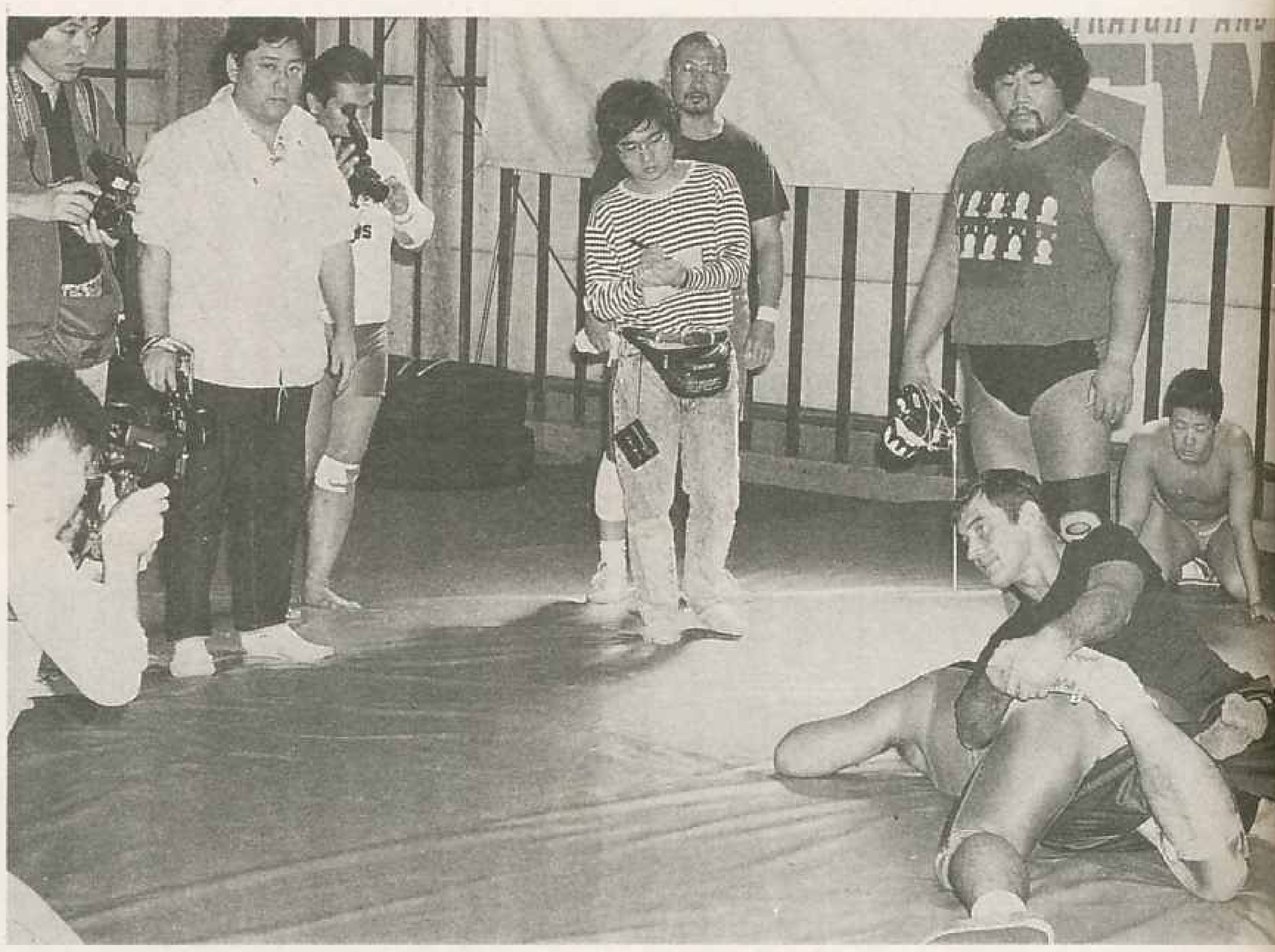
**ワカマツ**　ある程度の形を作るまでは、しないわけにはいかなかったんだな。というのは、やっぱり田中さんが自分に対しての思い入れもあったと思うんですよ。プロレスが好きなんだな、試合もしたいんだなという。それで田中さんから「部屋をやりなさい」って勧められたんです。だからゼネラルマネージャーとして、現場のことは全部まかされていたんだと思うんです。

——その延長線上に選手としての試合もあったと。

**ワカマツ**　そうですね。

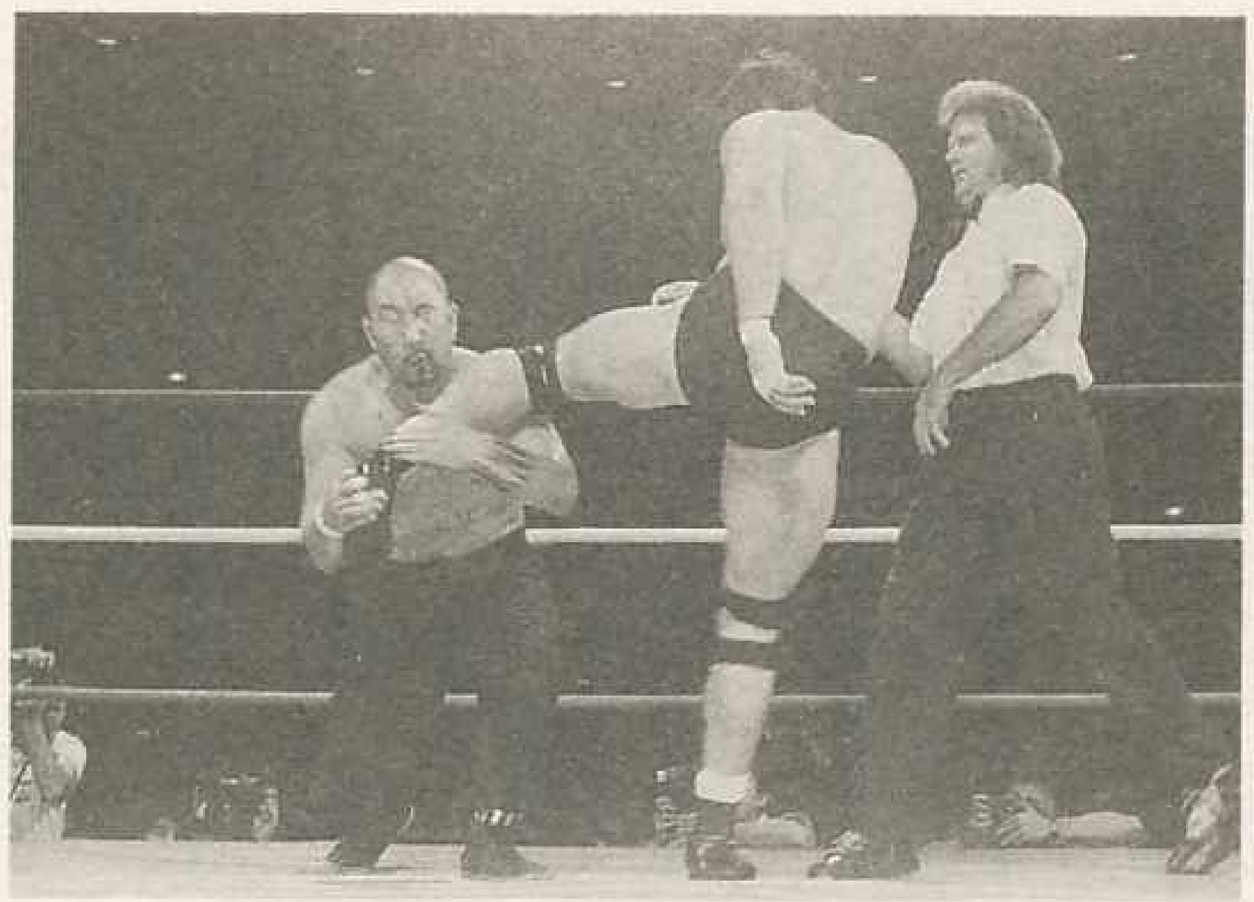
——でも、途中からワカマツさんもだんだんSとの関わり方が変わってきたと思うんですよね。まず道場主から一歩引かれたりだとか。

**ワカマツ**　それはねぇ、やっぱり谷津（嘉章）選手だとか、桜田（＝ケンドー・ナガサキ）選手だとか、けっこういい選手がいましたからね。当然、道場主を交代して、フロントの方の仕事をしないと大変だったんですよ。誰もする人がいないですか



わざわざワカマツがイギリス・マンチェスターまで飛んで、ランカシャーレスリングの総本山“蛇の穴”から、師範代ロイ・ウッドを招聘した。無我よりも、UWFスネークピットジャパンよりも早い、その着眼点は素晴らしいのだが、いかんせん時代が時代だったので、定着はしなかった。これも国際イズムか……。

ら。
——誰もする人がいない（笑）。その頃は会社的には多少の問題が出てきたころだったんですかね。
**ワカマツ** う〜ん、道場主が変わったころには、そんなに問題もなかったんじゃないかな？
——あの神戸の大会（'91・4・1）から、不協和音が出てきましたよね。
**ワカマツ** 不協和音っていうよりも……バブル景気がこういうような不景気になったから当然お金を出す人っていうのが、手を引きますよね。当たり前ですよ。どんどんどんどん深みにはまって、母体が危なくなることはしないですよね。だから危なくなる前に、撤退しなけりゃならんっていうのは、これは経営者として当然ですよね。
——はあ〜。じゃあSが倒れたのは、バブルがはじけたのが大きいと。
**ワカマツ** そうです、そうです。
——けっこう選手間の揉め事が原因だったっていう印象が強いですけど。
**ワカマツ** いえ、揉め事っていうのはね、先ほども言ったようにエゴですよ。そんな選手間の揉め事なんていうのは微々たるもんですよ。会社がね、「静かにしなさい。あなた方が一人一人のことはいってるような状況じゃないよ。ね？ このまま会社を続けていくから、協力しなさい」っていったら、協力しますよ。
——う〜ん、そうなんですか？
**ワカマツ** 団体がなくなったら、自分の経済的な問題も出てくるでしょう。
——バブルがはじけたんだから、エゴ通してる場合じゃないぞと。
**ワカマツ** そうです！ それはみんな一体になって頑張らないといかんっていうふうになるでしょう。
——それがならなかったんですか？
**ワカマツ** 撤退をするってことになってから、みんなそれぞれが勝手なこと言い出して選手間のことのいろんなことが出てきた。当然でしょう。
——なるほど。それが原因で選手間からいろいろ出てきたと。
**ワカマツ** そう思うんです。
——リング上では、そういったエゴのぶつかり合いが出てきたことがあったと思うんですよ。北尾（光司）さんと（ジョン・）テンタさんの試合とか。
**ワカマツ** う〜ん……（熟考）。なかなか、いろんなことが出てきましたからね（と言った後、長い沈黙）。
——大丈夫ですか、ワカマツさん？
**ワカマツ** いやぁ、けっこういろんな試合があったからね。だからあまり気にもしないんだけどね。
——ワカマツさんも、いろんな試合を間近に見てますよね。前田vsアンドレ戦もリングサイドで見ていたし、そういうところに必ず居合わせますね（笑）。
**ワカマツ** 自分のいるところにそういう試合が集まってくるんだ（笑）。
——集まってきますよねぇ、不思議なもので（笑）。間近で見ていた感想というのは、いかがですか？
**ワカマツ** いやぁ、ああいう試合があったって、何ら構わないんじゃないですか？ 試合だから。ただ、プロだからね！ お客さんあってのプロだから。お客さんのいないところであればさ、どうでもいいことでもあるんだろうけど。お客さんに見せるスポーツっていうのは、お客さんがあっての選手だからね。
——ええ。
**ワカマツ** 野球してても、いろいろ揉めることはあるじゃないですか。選手同士で殴り合いしたりさ。でも、そんな乱闘なんか見たくないでしょ、観客は。
——それが好きだって人もいますけどね（笑）。
**ワカマツ** いやいや、まぁ、それも好きだって人もいるでしょうけどね、それはごく一部でしょう。みんながみんな好きなわけではない。
——ええ（笑）。前田vsアンドレ戦のときなんかは、ワカマツさんは「アンドレが手を余すようなら俺が出て行かなければいけない！」とまで言われてましたが。
**ワカマツ** それはもう当然でしょう！
——当然ですか（笑）。
**ワカマツ** ええ、ええもう、当たり前のことであって。
——北尾さんやアポロさんのときも、ワカマツさんは「俺がリングに上がって収めよう」とか思ったりしたんですか。
**ワカマツ** それは、あるんじゃないですか。
——なるほど。SWS崩壊の頃になると、ワカマツさんは団体とどういう関わり方をされていたんですか？
**ワカマツ** 崩壊？ ああ、会社がもうやめるってなったときのことかい？ もうその時点で北海道に来てたんじゃないですか？
——その時点でですか。じゃあ、ワカマツさんとしてはSで続けていきたいとか……。
**ワカマツ** いや自分としては、まだ始まったばかりだからね、当然「続けていきたい」という気持ちはありましたよ。だけど自分の気持ちだけじゃあ、世の中どうにもならない部分ってありますから。あまりにこだわりすぎたらいかんですよ。
——そりゃ、そうでしょうねえ。
**ワカマツ** その中でこだわるばかりに、逆にまた迷惑を被る人もいるだろうからね。経済が大変なときにさ、どんなことをやってでもやっていきますよ、なんつったらね、最初からお世話になった人に対してね、もう大変な迷惑になるじゃないですか、これ！
——SWSっていう団体が徐々に形作られていった頃、当初ワカマツさんが考えていたものとのズレはあったんですか？
**ワカマツ** いや、ないです。
——それは理想通りに。
**ワカマツ** ええ、まあ練習生を朝から晩まで練習させて、自分も練習して。それで練習生に「これがレスリングだよ」というのを、夢を与えながらやってきたことだからね。後はもう、リングに上がってるような選手はそれなりに、自分なりに稽古をしてね。
——ワカマツさんがこうすればよかったと思うような点はありますか？
**ワカマツ** いやぁ、ないですね。
——では理想どおりにやれたんだけれども、エゴとバブルによって……。
**ワカマツ** いやぁ、バブルですよ！
——なるほど、すべてはバブルの責任と（笑）。あの『週プロ』の問題


'90・10・18横浜アリーナで行われた旗揚げ戦で、新倉史祐と対戦したワカマツだったが、パンチとキックで顔面が変形するまでボコボコにされた。そして、この翌日の試合前、「SWSは真剣勝負だから仕方がない」と、フロントがコメントしたという。


新日本プロレスの長い歴史の中でも一際異彩を放っていた将軍KYワカマツ。それがバトラーツ札幌大会に「大きな竹トンボで飛んでいく」と謎の襲撃予告をしていたのだが、前日になって市議会が入っていることが判明。結局、姿を現さなかった。蘇ってくれ！

# いまひとつ入り込めない人のための

はどうでした?

**ワカマツ**　『週プロ』って、週刊プロレス? 何かありましたっけ?

——ターザン山本さんがいろいろ書いてましたけれど（笑）。

**ワカマツ**　いいや、それはそれでさ、書かなきゃならんかったから書いたんじゃないですか?

——もともとワカマツさんと山本さんとは仲が良かったんですよね。

**ワカマツ**　あの人とは新弟子のころからだからね。もう30年くらいの付き合いじゃないですか。だから山本さんもプロレスが好きだから、それで書いたんでしょう。

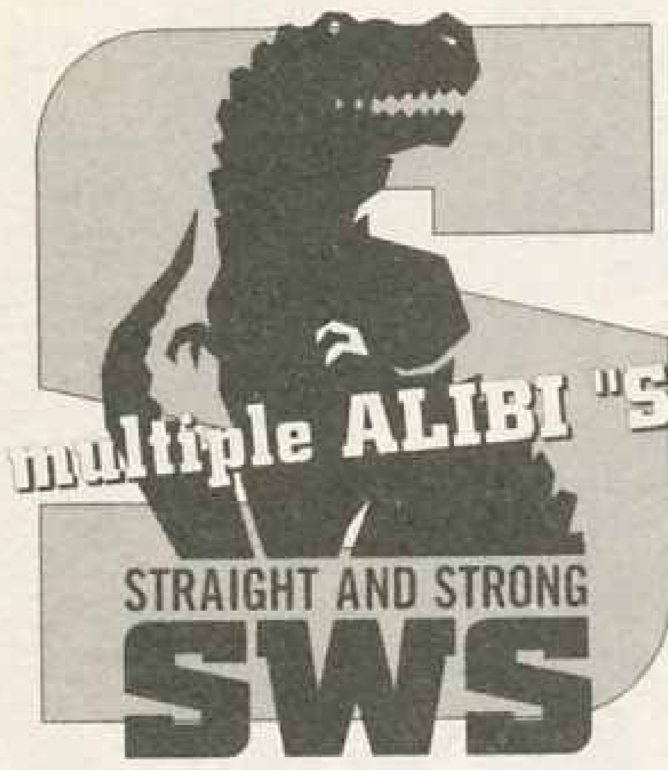
——ワカマツさんはすごいですね。恨みに思うことなく、物事をポジティブに捉えて。

**ワカマツ**　恨みっていうのはねぇ、これは自分がそのような状況にあるから恨みに思うんでね、自分が悪いんですよ、これ。自分がもう少しこうすれば、問題が起きないってことは山ほどあるんじゃないですか?

——すべては自分だと。

**ワカマツ**　そうですよ。ですからね、今回も選挙に向かってきたのも自分ですよ。当選したのも自分だし。これからこの町を変えていくのも自分だし。

——いいのも悪いのも自分であると。ポジティブですねぇ!




**ワカマツ**　うん、人間関係の中でひとりで生きて行けないですからね、絶対に。人間ってのは母親のお腹をかりて生まれてくるんだけど、生まれたときもひとりさ。じゃあ死ぬときもひとりであればね、必ずひとりで死んでいくでしょ。誰かいっしょに死んでくれるっていうのは、よっぽどの人でないといないよ（笑）。じゃあ、生きていくにはひとりで生きていけないのか? っていうのが私の人生の哲学ですよ。

——人生の哲学（笑）。ワカマツさんなんか、子供の頃からひとりで育ってましたもんねぇ。

**ワカマツ**　ええ、そうなんですよ（笑）。

（この後約10分間、教育問題について熱弁を振るう）

——なるほど……難しい話のようなんで話をまたプロレスに戻しちゃうんですけど、よろしいですか?（笑）。Sを作ったときにワカマツさんは、「昭和54年のオールスター戦みたいなことをやりたい」と言われてたんですよね。それはかなわなかったわけですけど、まだ何かそういうようにやりたいことってありますか?

**ワカマツ**　いまですか? いまはそこまで考えていないですけどね。

——以前、「格闘技に討って出ようかと考えているから、格闘技団体の連絡先を全部教えて欲しい」とか、ウチの編集部に電話をかけいらっしゃったことがありましたよね?

**ワカマツ**　あ〜あ、ハイハイ。そういう思いはいまでもありますねぇ〜。

——あれはどういう計画だったんですか?

**ワカマツ**　あれはねえいまのK－1とか、もうひとつ。何だっけ?

——アルティメットですか。

**ワカマツ**　そう、ああいうのをやってみようかなと思ったんですね。北海道を軸に、日本全国で展開して。

——面白い発想ですよね（笑）。それはぜひともやってほしかったです。

**ワカマツ**　なかなかねぇ。経済がこういうような大変な状況ですからね。

——それもやっぱりバブルが悪い、と（笑）。ワカマツさんなりに格闘技に対する熱い思いを持ってるのはわかりました。たとえば高田（延彦）さんがヒクソン（・グレイシー）に2回負けましたけれど、ああいうのは見ていてどうですか?

**ワカマツ**　負けても勝つまでやるっていう前向きな姿勢が格闘家だなと思いますよね。負けても、「これでもか、これでもか」っていう気持ちは格闘家の前に人間として必要なことじゃないですかね。何をやるにも一回負けたから、ダメになるっていうのはね、人間として失格ですよ。

——同じように「SWSで何かがあっても、そこでくじけないでガンガン行けや!」と。

**ワカマツ**　いや、そうですよ。何があってもね、生きてないとダメ。

——悩み出したらきりがないですからね。

**ワカマツ**　いや、そうですよ。

——ワカマツさんなんか、30年分の苦労を一気に味わって、普通に悩んでたら復活するのに30年ぐらいかかりますよね。（笑）。

**ワカマツ**　いやほんとね（笑）、頭はハゲるしね、白髪は増えるし（笑）。いまはね頭に毛は生えてきたしね、白髪もなくなってきたけどね。

——あっ、じゃあ当時は白髪になったり、脱毛症になったりで……。

**ワカマツ**　それが元気になってきて、皮膚細胞が若返ったんだろうね。

——そのメガネの苦労を経て、こうして復活されるまでには、何かきっかけっていうのがあるんですか?

**ワカマツ**　復活っていうことになるんですかね（笑）。

——ええ、完全復活ですよ。若返って、髪の毛も生えてきて（笑）。

**ワカマツ**　まあ、そうでしょうね。すぐまたこうやっているうちに、地獄に落とされるかもしれんけどね。でも、生きてるってことは楽しいじゃないですか（笑）。

——開き直りましたね、キレイに（笑）　いまふりかえってどうですか、Sをひとことで言うと。

**ワカマツ**　いやぁ、田中さんには、あれだけよくしていただいて、期待にむくえなかったことはね申し訳ないという気持ちでいます。ただ! この生きている中でね、なんとかお世話になった分、お返ししなければいけないなと思っています。

——そういう感謝の境地に至ったのには、やっぱり宇宙パワーとかサイババとかの影響もあるんですか?

**ワカマツ**　う〜ん、あの人方の前にくるものがあったんだよね、流れの中で。Sのことも少なからず、影響

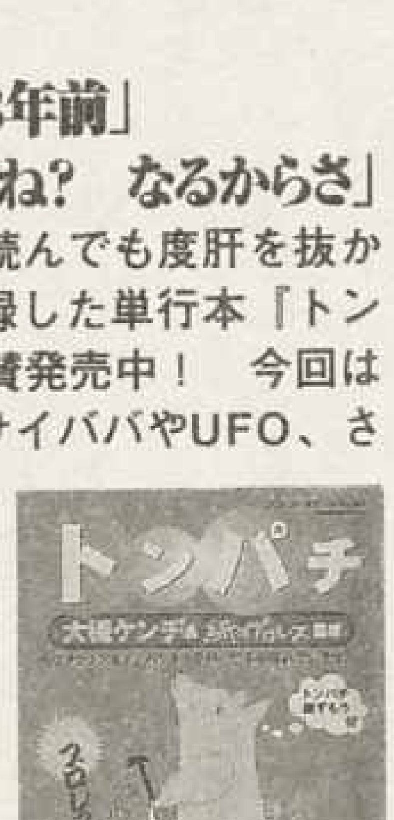


## ワカマツを読め!!

## トンパチ

**「俺の手相はサイババと同じ」**
**「宇宙パワーを使い始めたのは3年前」**
**「何年後かには、私の手が金に、ね?　なるからさ」**

などなど、数々の仰天発言がいま読んでも度肝を抜かれるワカマツのインタビューを収録した単行本『トンパチ』（芸文社刊・1575円）は絶賛発売中！　今回はあまり話題にあがらなかったが、サイババやUFO、さらには宇宙パワーまで無限に広がるワカマツの精神世界に同じくUFO＆オカルト全般のマニアである聞き手の大槻ケンジが切り込む!! 他にも折原昌夫、ジョージ高野らＳＷＳ勢のインタビューも収録！ これ一冊で、マット界の裏『オーバー・ザ・シュート』と呼べる内容になっている。



は大きいんじゃなですかね。

――ワカマツさんは最近、ダウジングにも凝っているという噂も聞きましたが？

**ワカマツ**　まあ、凝っているといえばあれですけど……。（と言った後、長い沈黙）。まあ、話を変えちゃうようで悪いけど、人間は極限のところまでいかなかったら、閃きだとかいろんなものが出ないですね。

――極限！　つまりSは極限状態だったんですね（笑）。

**ワカマツ**　いやいやいや、そういうわけじゃないけどね（笑）。まあ、人間いろんなことを経験しなかったら、いい形にはならないんじゃないかな？

――それにしてもワカマツさんは、ちょっといろんなことを経験しすぎですよね（笑）。

**ワカマツ**　無茶な人間だから（笑）。これは修羅の生き方だから。

――修羅！（笑）。

**ワカマツ**　〝修羅の会〟ってのが芦別にあって、俺はその中の1人だから。

――つくづく修羅の道を歩んでますよねぇ（笑）。

**ワカマツ**　フヘヘヘヘ。

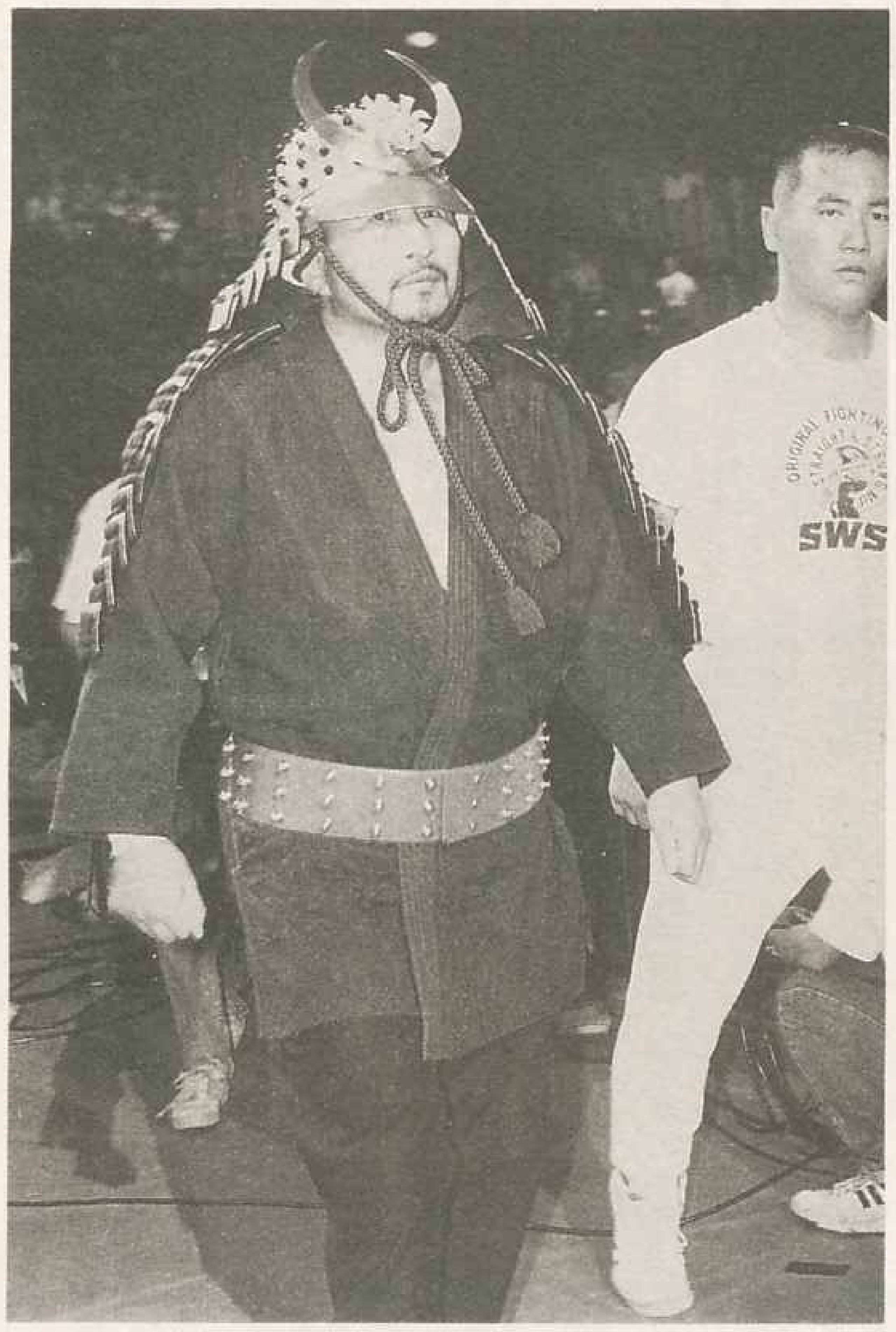
――そういえばつい最近、ワカマツさんがバトラーツにメッセージを送ったとか。

**ワカマツ**　うん。やはりプロレスも今後はやっていかなきゃならんなと思ってるからね、これ。

――道場「元気」で冬木軍とやって以来ですか、プロレスの仕事をするのは。

**ワカマツ**　そうです。冬木（弘道）選手っていうのはご存知のとおり、彼が18歳のときから一緒に国際プロレスとSWSで、まあSでは天龍選手の部屋でしたけれども。まあそういうなかで一番大事なことがお互いに通じるところがあるんじゃないですか？　自分もムチャクチャな人間だけど、理不尽大王もムチャクチャだから（笑）。冬木選手だけでなく、仕事で天龍選手がこっちにきたときも、話をしますよ。あの～、私は何もないですから。

――みんな仲良し、と。結局、Sに関しては一言でかたづけると、惜しいことをしたってことですね。



しょうぐん・けいわい・わかまつ■本名若松市政。昭和17年1月1日、北海道函館市出身。中学卒業後、電設会社に就職。その後、港湾荷役労働者となり、昭和47年に30歳にして国際プロレスに入社。しかしながら配属は資材部。その翌年プロレスラーとしてデビュー。国プロ崩壊後は自費でカナダに渡航、悪徳マネージャーとして成功する。帰国後は新日本プロレスでマシン軍団や故アンドレ・ザ・ジャイアントの悪徳マネージャーとして活躍する。SWS旗揚げの中心人物であり、現在は道場「元気」を主宰。平成11年4月、北海道芦別市議会議員に当選。

**ワカマツ**　そうね、惜しいことしましたよ。続いていたら大変な団体になったんじゃないですか？

――バブルを乗り越えていられれば、と。でも、もし続いていたらワカマツさんが政治の世界に打って出ることもなかったでしょうからね。

**ワカマツ**　あっ、そりゃないですよ！　SWSがあったらそのままレスリングをやってたんじゃないでしょうか、好きだからね。営業のほうをしてみたりね、いろんな仕事をできますよね、プロレスの中で。崩壊してもよかったという一言では片付けられないでしょう。いろんな言葉で表せれるような状態ですよね。

――実際、Sが崩壊して一番ダメージを受けたのはワカマツさんか、ジョージさんかというイメージが僕らなんかにはあるんですけども。

**ワカマツ**　確かに高野選手もねダメージを受けたんでしょうけどね、こちらは最初に始めた人間ですからね。

――「ストロング・マシーン・ナンバーワン！」とばかりに、ダメージもナンバーワンだと（笑）。

**ワカマツ**　まあ、誰がダメージを一番受けたかなんてのは言えないですけど、大変だったですよ。

――カブキさんに聞いてもSWSの話になるとすごい暗い顔になったり、皆さん辛そうなんですよね。

**ワカマツ**　じゃあ最初に誰が作って、誰が始めたのかという原点に戻れば簡単なことなんですけどね。新日本プロレスでも全日本プロレスでも。新日本プロレスを作ったのは猪木さんでしょ？　全日本を作ったのは馬場さんなわけですよ。やっぱりその人方を……。

――立てなきゃだめですね。

**ワカマツ**　当然、長として立てなきゃならんし、立てなきゃ大変なことになりますよね。ただそれだけじゃないで

――つまり、ワカマツさんが最初に作ったから、ワカマツさんが立てられるべきだったということですか？

**ワカマツ**　いやいやいや、違うんです。私ではなく、田中さんを立てなきゃならんと！　田中さんを大事にしていけばこういうことにはならなかったんですよ！

――それがどこかでずれてしまったと。非常に残念な話ですけど、ワカマツさんも議員になったりで、皆さん人生いろいろですよね。

**ワカマツ**　いろいろですよ。なんとしてでも生きていかなきゃならんからね。死んだらなにもならないしね。最近、亡くなってる人が多いでしょ。上田馬之助さんがよく言ってましたもんね。「結局、長生きした奴が一番強いんだよ！」って。

――馬場さんも亡くなったし。

**ワカマツ**　ええ。自分を大事にしながら世の為、人の為に生きていかないとだめですよ。

――それでこそ市会議員ですよね。

**ワカマツ**　そうです。もともとSWSもみんながよくなればいいということで始まったんですけどね。今度は政治に携わって、またみんながよくなればいいということなんですけどね。

――Sの理念ですね。

**ワカマツ**　みんながよくなればいいというのはどうでしょうかね？

――最高ですよ！　今度は失敗するわけにはいかないですからね。

**ワカマツ**　失敗するわけにはいかないし。やっぱり誠心誠意やれば分かるじゃないかなと思うんですよね。

――わかりました。本当にぜひともがんばって生き抜いてください。

**ワカマツ**　ありがとうございます。

――最後にひとつお願いがあるんですけど。全然関係ないんですけど、選挙のグッズが、メチャクチャ欲しいんですけど（笑）。みんな絶対欲しがりますよ、みんな。ほんとに（笑）。

**ワカマツ**　プ、プレミアつくことってありますかね（笑）。

――付きます、付きます（笑）。

**ワカマツ**　フヘヘヘ、それなら、そちらの会社に還元しなきゃならないですね（笑）。

――ダハハハハハ！　今日はどうも長々とありがとうございました。

**ワカマツ**　いやいやいや、かえってこちらこそ、あまりちゃんとしたことにならなかったと思いますけど。

――いやいや、そんなことないですよ。

**ワカマツ**　どうぞ今後もよろしくお願いします。

**【99年5月4日、東京・ダブルクロス↔北海道・ワカマツ市政選挙事務所の電話インタビューにて収録】**

## いまひとつ入り込めない人のための

# 青空AMERICANプロレス道場

## 教えて!! テイオー&杉作先生!!




いま、プロレスファンの間ではアメリカンプロレスが大人気！　特に最近のWWFなどは、もはや制御不能の暴走エンターテイメントとなりつつある。プロレスラーを中心に、プロレス関係者、マニアから初心者まで、熱狂的なアメプロファンが急増注意報発令中！　見てない人は「何がそんなに面白いの?」と思うかも知れない。だったら、熱狂している人に教えてもらえばいいじゃねえか！　というわけで、『紙プロ』が最高の講師陣を用意して、「アメプロとは?」「アメプロを見る上での心構え」「何をどう見るのか?」などを徹底的にレクチャーします！　あなたを「アメプロ嫌いの呪縛」からといてあげましょう。今回は日本のアメプロBIG2が手取り、足取り教えます!!

構成／坂井ノブ
Text by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo



試合中継は欠かさずチェック!!
熱き血潮のWWFマニア

# 杉作J太郎先生

**生徒A** そもそも杉作さんがアメプロにハマったのは、どういう経緯なんですか?

**杉J** え〜、プロレスラーの方に「いまWWFが面白いよ!」って何回も何回も勧められたんです。最初は「ショーみたいなもんだろう」って思ってたんですけど、ちょっと見たら、（力をこめて）むぉぉぉぉねぇぇぇ……ボクはいま世界に存在する物質の中で一番面白いものだと思います! 本当に奇跡的なものがここにあると思いましたよ（笑）。

**生徒A** 奇跡ですか!! そうすると、「具体的には日本のプロレスとどう違うんだよ!」って話が出てくると思うんですけど……。

**生徒B** 僕なんかは「ストロングスタイル」ってのに洗脳されてきた世代なんですけどね。

**杉J** 僕もそうですよ。新日、UWF、FMWと行きましたから。ただその後はPWCに行っちゃうんですが（笑）。

**生徒B** それなのに、引きつけられるものがあったんですか?

**杉J** たとえば日常生活でのウサ晴らしというか、仕事や恋愛とかで嫌なことがあったりして……それでヤワになりそうな自分が、WWFを見ると、ビシーッ!と元に戻るんですよ! それでいて、青少年の頃に味わったプロレスの味があるっていうんですかね、日常生活とダブって自分が取り込まれて、あの人達の中に飛び込んでいってしまっていますね。

**生徒A** テレビの時間が待ち遠しくてしょうがない、みたいな（笑）。

**杉J** 何か日本人の俳優さんとかが、もう遠い世界の人みたいな感じがします（笑）。WWFのレスラーってのは、もうすごく近い存在ですね。僕もじつは色々とジレンマがあったんですよ。

**生徒A** プロレスに、ですか?

**杉J** いや、「生きる」ということに（笑）。僕のことを知ってる人は僕をオナニストだと思ってると思うんですけど（笑）、まぁ実際も多分オナニストなんだけれど（笑）。いざ言われてみると「ホントに俺はオナニストなのかなぁ」とか思って（笑）。「それは商売でやってる部分もあるんだからどうなのかなぁ」とか思ってた疑問がですね、あの人達を見たらふっ飛びましたよ! 解放されました（笑）。「そう思われてんならそれでいいよ!」っていう感じですよね（笑）。

**生徒A** なぜ、そこまで悟ってしまったんですか?

**杉J** 最初にワッとハマったのはいいんですが、「これはバカが観るもんだ」と思ったんですよ。きっと見てるうちにどんどん頭が悪くなるに違いないと（笑）。実際問題、この半年で頭が悪くなってるんです（笑）。原稿も書けないし、漢字も忘れるし、人の名前も忘れる。「アスホール!」とかそういう言葉は覚えるんですが（笑）。ところが落ち着いて考えてみると、今度は恐ろしく頭がよくなってる自分に気が付いたんですよ!（笑）。

**生徒A** どのへんがよくなったんですか?

**杉J** 臨機応変にハデな動きができるようになりました（笑）。よく『トゥナイト2』とかに出るとショートドラマとかがあるんですが、殴られてふっ飛んでいったりする場面で、「ああ、こういう場合はソファーの後ろまでズルーッと滑っていったりする方がいいんだな」とか「足をピーンと伸ばそう」とか「ビンスだって頑張っているんだから、俺もやらなきゃ」と思ってます（笑）。

**生徒A** なるほどいろいろと含蓄があるんですね。

**杉J** あとアンダーテイカーに対してビンスが、「アイツはアンダーテイカーを演じてるうちに本当のアンダーテイカーになってしまった」と言ってたんですよ（笑）。これは凄い発言ですよ!! まず「アンダーテイカーは演じてたのか!」っていう驚きがありますよね（笑）。最初は、「WWFってそんなのも意識しちゃいけない位バカな人が観てんのか!」って思ってましたけど、ある時ふと「どこからが本当でどこからがウソなのか?」っていうのを改めて考えてみてですね、あの言葉は世の中のみんなに跳ね返ってくる言葉だってのがよくわかったんですよ! 僕も僕を演じてるうちに僕になってしまってますしね! そういう、人間の根本的な部分に触れてくるっていうのが、アントニオ猪木が新日で絶好調だった頃に似てるんですよ。

**生徒B** 昔の新日はもろにアメプロだったっていう見方もありますよね。

**杉J** ビンスを見てると、あれは猪木の要素は入ってますよね。カメラ用に顔が作れる。そこまでやってようやく「伝える」ってことができるのかもしれないですよ。プロレスに限らずね。で、さっき「身近だ」って言ったのは、距離感を感じないって話でしてね、WWFに上がってる選手はどんなスターよりもスーパースターに見えますね。客席で応援カード持ってる客までがスターに見えますよ（笑）。もうアメプロという言葉ではくくれないですよ。

**生徒A** 何ですか?

**杉J** 「面白いモノ」ですね……それじゃダメか（笑）。まあ、実際にどういうものか見てください!!

※ここで杉作氏特別編集によるWWFのビデオを教材にしながらレクチャー開始

（ビンス・マクマホンJr.登場）

**杉J** この人の表情が面白いですよね! 日本でこんな演技する俳優さん見たことないでしょ。とにかく表現者として素晴らしいんです。

**生徒B** マクマホンって相当ガメッツイのかもわかりませんけどね。自分なしではストーリーが進まないように持ってって、誰が移籍しても問題ないようにはなってる（笑）。そのへんは経営者としても素晴らしいですね。

**杉J** 中心人物を選手にしてると、その人が抜けたらエラいことになるわけですよ。今WWFはビンスさえいれば話は続きますからね。

（中継番組のオープニング場面で地下牢に幽閉されてるデニス・ナイト）

**杉J** これなんか『仮面ライダー』の1シーンみたいですよね! 視聴者の想定年齢がまったく読めない。日本のビジネスがいかにアマチュアか解ります。結局はターゲットなんかないのかもしれないし（笑）。とにかく、突っ込むだけヤボなことの連続です。いま、アナタの人間としての度量がためされてるんです（笑）。これから先の動乱の時代をのりきっていけるかどうかは……。

**生徒A** これを笑えるかどうかにかかっていると（笑）。

**杉J** ええ、私生まれて初めてアメリカに興味が持てましたよ! 学生時代の英語のテストなんか10点台しか取ったことないのに。

（ハデな衣裳で王冠を被ったジェリー・ローラー登場）

この人はDJ上がりだそうですよ! こんな大人いないでしょ（笑）。浅草演芸ホールとかに行けば、舞台の上に立つ側でいるかもしれないけど。他民族国家ならではの表現力ですね。

——観客席はメチャクチャ盛り上がっ



こいつがWWFブームの生みの親であるビンス・マクマホンJr.。最近は、レスラー顔負けのマッスルボディーで試合にも出場するはっちゃけ社長。

# ボクはいま地球上に存在する物質の中でWWFがいちばん面白いものだと思います!

生徒A：アメプロには興味があるが、衛星放送もケーブルTVもないのでもっぱら週刊誌で情報収集中のプロレスファン。
生徒B：バカがつくほどの新日ファン。衛星放送でのチェックも怠らないが、それでも昭和新日が大好きな男。




てますよね。

（ストーンコールドが試合に乱入）

**生徒A**　で、アメプロでは試合途中で乱入してくることが多いですよね。それが嫌だという人も多いですが。

**杉J**　しかも、入場するときにはなぜかテーマ曲がかかりますよね（笑）。

**生徒A**　想定してたかのように（笑）。

**杉J**　でも乱入だって曲付きの方がいいですよ。曲さえ付いていれば、新日に海賊男が現れたときも暴動になんかならなかったと思うんですよ（笑）。「やりすぎる」ことによって、反対する声を封じ込めていくんです。ホントに勉強になりますよね！　これはもう何にでも適応できると思いますよ。浮気するのだって、相手が2人や3人なら奥さんも怒るけど、例えば10000人位も浮気してたらおそらく怒らないでしょうね。

**生徒B**　「100人乗っても大丈夫！」というイナバの物置方式だ（笑）。

**生徒A**　現実感覚のマヒを狙ってるわけですね（笑）。

（吊された何かを殴るビンス）

**生徒A**　何やってるんですか？

**杉J**　冷凍肉を殴ってるんです（笑）。

**生徒A**　特訓のシーンだけは『ロッキー』みたいですね。

**杉J**　で、解説で息子が「オヤジは冷凍肉をバラバラにしたんだ！」なんて言ってます（笑）。誰も信じやしないでしょうけど、大ゲサなこと言えばみんな聞き流してくれるんですよ（笑）。中途半端なことやるとダメですけど。

（女子レスラーチャイナvsビンスの対戦）

**生徒A**　これって荒井社長とシャーク土屋が闘うようなもんですよね（笑）。

**杉J**　でも、「カード先にありき」なんでしょうね。決して「物語先にありき」じゃないんですよ。そこを間違えるとえらいことになるんじゃないですか？

（トイレでの集団リンチシーン、救急車が来て、ストーンコールドが運ばれていく）

**杉J**　ヤボなことは言いたくないんですけど……便所で敵にやられて救急車が来るということは、相当ケガしてるってことですよね？　それが無傷で帰ってきちゃうってのは納得いかんものもありますよねぇ（笑）。でもその方がお客さんは喜ぶから。

**生徒A**　結局、客が喜べば、もうOK、と。

**杉J**　自然不自然よりも、観客のことを考えているんですよね。だから誰も文句言うわけないんです。……例えば殺人犯人のヘルス嬢がいたとしましょう（笑）。でも、ものすごーくサービスがよかったとしたら、客は誰もその場では怒れないでしょう？（笑）「アンタ人殺してんじゃないか！」なんて（笑）。怒るのはヘルスに行ってない人ですよ。行ってない人にしたらただの殺人犯人だけど、行く人は、我が身を捨ててやってるわけですよ！

（アル・スノーが試合の挑戦者を募るが、誰も出てこないので「一人で」試合開始。自分で持参した消火器を浴びまくり、机にダイブしてブッ壊す）

**杉J**　これもスゴいですよね（笑）。一人で試合するってのはいいアイディアですよ。今思えば、高野拳磁は一人でこれをやればよかったですよね（笑）。一人の団体も、やってやれないことはないですね（笑）。

（ビンスが金網上6Mからダイブ）

**生徒A**　これで証明されましたねー。

**杉J**　アメリカのお客さんの偉いところはですね、これが日本だったら多分みんなビンスを褒めると思うんですよ。「悪い奴だがよくやった！」って……でもお客さんは喜んでますね！

**生徒A**　「ザマア見ろ！」って感じですね。

（ビンスが転落するシーン!!）

**全員**　うわぁー!!

**生徒A**　ものすごい勢いで落ちましたね！

**杉J**　でも、あれだけすごいことやっておいても、次の週には……（なぜかリングサイドにクマの縫いぐるみを持ってたたずむビンス。やがて泣き出す）クマ持って泣かれてもねぇ（笑）。上手いですよ。浮気がバレそうになったとき、全く別のことする男みたいなもんですよ、これは。前の話はすっかり忘れて別の話を始めるっていう（笑）。

（クマは燃やされてしまい、ビンス泣き崩れる）

**生徒A**　はあぁぁぁ。杉作さん的に、こういう試合以外の部分と試合はひっくるめて一つなんですか？

**杉J**　そうですね。ドラマばっかりじゃダメで、プロレスをやることによってレスラーは「実在の人物」になるんです。逆に言えば、「あんなにハデなドラマやってて、試合がなぜ浮かないのか？」ってことを考えるべきですね。あれで試合がしょっぱかったら絶対ドラマが一人歩きしますよ！　WWFのプロレスのレベルはすごく高いです！　それでも「アメプロ嫌だな～」っていう人がいるとしたら、そういう人はこれを「劇だ」と思ってるわけでしょう？　でもこれは、試合をより面白く見せるための演出なんですよ。真っ暗な会場では試合はできないでしょう？　当然リングにはライトが当たりますよねぇ。そのライトなんですよ、これは一つの。

**生徒A**　ああ、それはわかりやすいですね。

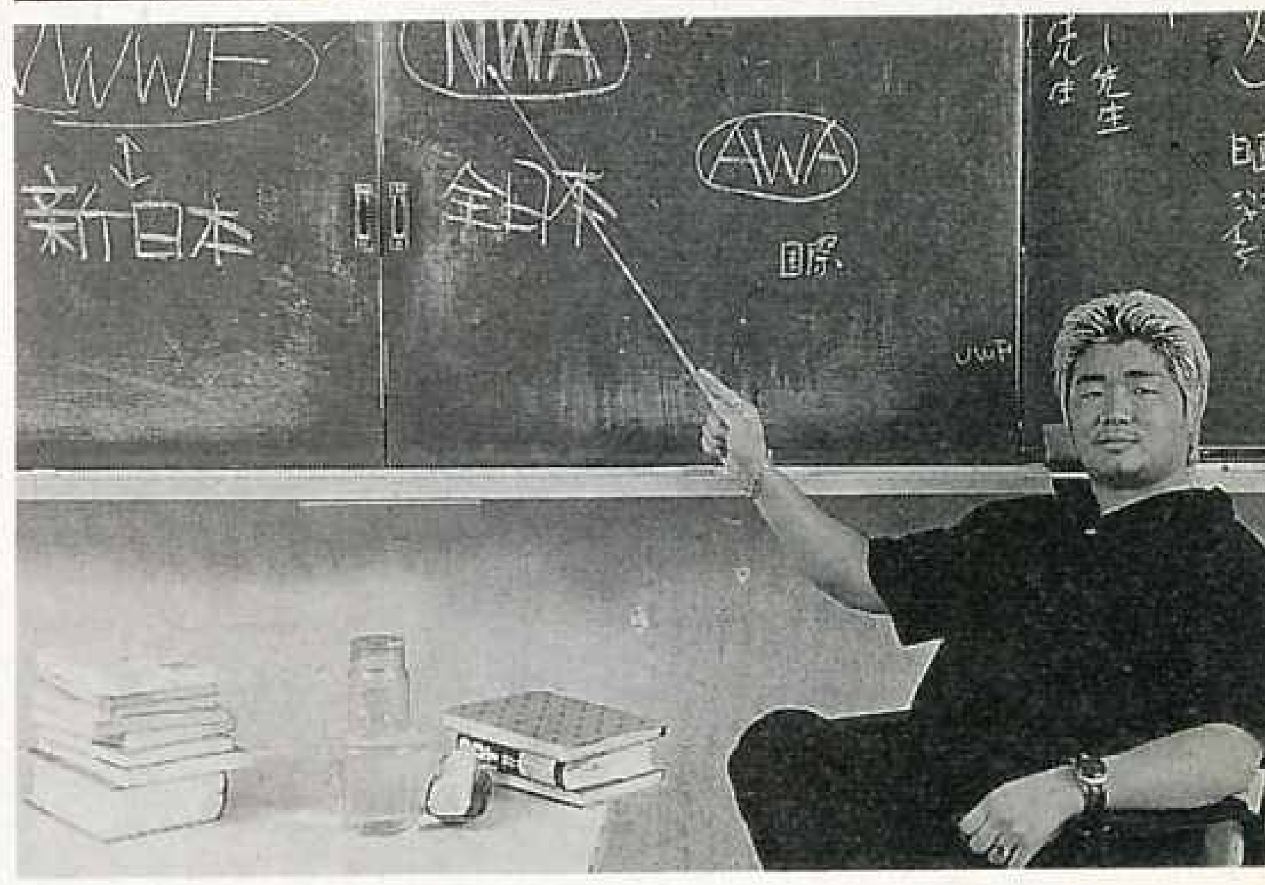
**杉J**　だからこれを「劇」って言葉で語るのは大間違いです。マジメなこと言いますとね、これはリングを照らす照明なんです。ちょっとハデな照明なんです（笑）。



「人前に立つときの姿勢をWWFから学んだ」というだけあって、杉J先生の写真の撮られっぷりは文句なしに最高！　ミスター・フォトジェニックである。


ストーンコールドのTシャツがアメリカではとにかくバカ売れ中だとか。現在のWWFの主役でもある、90年代を代表するアメリカのプロレスラーだ

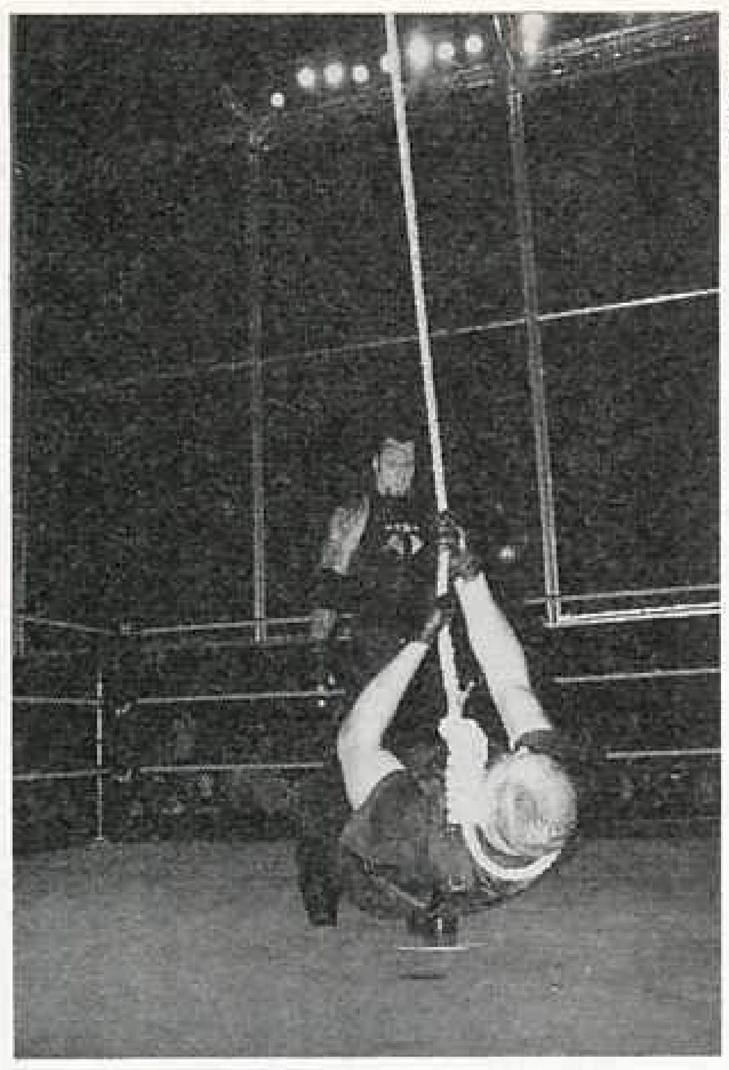
## こだわりのアメプロ帝王学
## 数少ない理論派アメリカンプロレスラー
## Men'sテイオー先生（みちのくプロレス）




**生徒A** テイオー選手は、去年はほとんど丸々WWFに遠征してましたよね。いかがですか、あちらは。

**テイオー** ええ。やっぱりスケールが違いますよね。資本力もさることながら、僕が出てた会場で言えば、武道館より小さい会場は一つもないんです。大体は2万人以上入る会場でしかも全部フルハウスなんですよ。いま、WWFはすごく好景気ですから。何ていいますか……だからもうプロレスではないんですね！ アレは。

**生徒A** ええっ？ プロレスではないですか!?



試合に負けて首を吊られてしまったビッグ・ボスマン。ここまでの過剰さがなければ、人には伝わらないということか

**テイオー** 僕の中ではね。プロレスと言っていいのかどうかわからない。あれはひとつのWWFというエンターテイメントなんですよ！

**生徒B** それだけプロレスとかけ離れてるのに、見てない人には何をきっかけに入ってもらえればいいんでしょうか？

**テイオー** プロレスを観ようと思わなきゃいいんですよ。映画を見るような感覚でいいと思いますね。プロレスを舞台にした映画であり、永遠に続く大河ドラマですよ。中途半端に知識を持ってると知識が邪魔しますよ。

**生徒B** 映画で先に役名覚えてから観る奴なんてそんなにいませんもんね。

**テイオー** 日本のファンはどうしてもプロレスを語る上で、「真剣勝負だ」やれ「ショー」だという大前提を考えてから入らないとプロレスを語れないっていう部分があるじゃないですか。冬木（弘道）さんじゃないですけど、僕は仮にひとつのエンターテインメントだったとしてもいいじゃないかと思うんですよ。映画なんてのは何10億かけて壮大な嘘を作り、それをみんなが見て涙を流す作品ができるんだから。WWFだって割り切って楽しめれば、「それでいいんじゃない？」っていう世界だと思うんですね。

**生徒B** なるほど。まず何も考えず観ろ！と。普通のプロレスだと思ってるとギャップがあるということですね。

**テイオー** そうです。たとえばプロレスのスタイルっていろいろありますよね。U系、新日スタイル、全日スタイル、デスマッチとか。WWFもそういう一つのスタイルといえばそうなんだけど、それにしてはあまりにスケールがデカすぎちゃうんですよね。だから、アメリカンプロレスとも違うし、プロレスとも違うという…WWFという一つのエンターテインメントなんです。

# アメリカンスタイルとは欧米人特有のオーバーなジェスチャーです

**生徒A** いまのWWFはアメリカンプロレスではない！ その違いをわかりやすく説明していただけませんか？

**テイオー** 全然違いますね。でも本来の「アメリカンプロレス」っていう言葉は「アメリカ人がやるプロレス」ですから、定義なんてないんですよ。

**生徒A** そもそもテリー・ファンクに代表されるような昭和のアメリカンプロレスっていうのは、派手なアクションで試合を見せていくっていう感じでしたよね。

**テイオー** 欧米人特有のオーバージェスチャーですよね。まったく意識してないのに、ちょっと水がこぼれただけで「オーゥ!!」（実演つき）とか、東洋人にはできない、自然に出てくるリアクションですよ。僕がいくらアメリカンスタイルが好きでも、そこまで真似できない。これは日本人の性ですね（笑）。僕よりプロレス下手なアメリカのレスラーはいっぱいいますけど、でも彼らはアメリカンスタイルなんですよ。見ててうらやましいですけどね。だから、アメリカンプロレスってのもそういうアメリカ人の気質から来てるんじゃないかなと思いますけどね。

**生徒A** 興味深い話ですね。

**テイオー** うん、これは一応講義だから真面目な話をしますけどね（笑）。

**生徒B** プロレスファンって「ストロングスタイルだから（プロレスに）興味を持った」という人が多いじゃないですか。特に昔の新日ファンは。

**テイオー** よく、みんなストロングスタイルとアメリカンスタイルを対比するんですよねぇ。ここ何十年の間に、マスコミがそういう風にしちゃったんですよ。でも、それは僕の中では別の次元の違う話だと思ってるんで。ストロングスタイルってのは単純に言えば強さを求める格闘技系のスタイルじゃないですか。で、アメリカンプロレスってのはアメリカ人のスタイル。じゃあ例えば「ボブ・バックランドはどっちなんだ？」という話になっちゃったとき、みんな答えられなくなっちゃうんですよね。

**生徒A** 難しいですよね、アマレスのバックボーンもあってああいうプロレスをする選手っていうのは。

**テイオー** 「アメリカンだけどストロングだよねえ？」とか言ってね。

**生徒A** アメリカンプロレスっていっても一概には定義できないんですね。

**テイオー** ボクは、ストロングの反対はショーマンだと思ってます。アメリカンだってストロングスタイルの人もいれば、ショーマンスタイルの人もいる。だからアメリカンと対比するなら、ジャパニーズスタイルですよ。

**生徒A** どこから「ストロングスタイル」と「アメリカンスタイル」が対比するようになっちゃったんですかね？

**テイオー** まぁ「アントニオ戦略」でも言いましょうか（笑）、猪木さんが発信したことをマスコミが勝手に作ってしまったんだと思うんですよ。でも、その概念は根底から違ってるんです。「新日本はストロングスタイルだ」って言ってたけど、思い切りショーマンスタイルも取り入れてるんですよ。猪木さんが毎シリーズ地方会場でシンとかにいじめられていじめられて、い



昨年、テイオー先生はカイエンターイの一員としてWWFマットで活躍した。日本人でここまでハマルのも、この人たちぐらいだろう。




じめられて……で、ビッグマッチで決着戦に持ち込むっていう、これはまさにアメリカの巡業スタイルですからね。

**生徒A** そういえば、武藤（敬司）選手も「猪木さんは超アメリカンプロレスだ」って言ってましたからね。

**テイオー** 昔は「新日本がストロングスタイルで全日本がアメリカンスタイルだ」って猪木さんも言ったし、マスコミも書いたんですけど「それは全然違う！」と僕は昔から思ってたんですよ（笑）。テリー、ドリー、ブッチャーって全日にアメリカンスタイルのガイジンレスラーは多かったですけど、「馬場さんはアメリカンじゃないよな」っていう疑問がボクにはいつもあったんですよ（笑）。

**テイオー** 馬場さんなんかのスタイルは逆に困っちゃいますよね。ストロングでもないしショーマンでもないですから（笑）。あれは馬場スタイルです。

**生徒A** 非常に独自ですよね（笑）。

**テイオー** それで自分なりに研究して着いた結論が、ストロングとアメリカンは対比されるもんじゃないということなんです！ アメリカンに対比するのはジャパニーズスタイルだっていうことです。そう考えると、猪木さんはストロングスタイルだけどアメリカンスタイルでもあるわけで、だからエンターテインメントでもあって実力もある、と非常に説明しやすいんですよね。

**生徒A** 一面だけではないですよね。

**テイオー** 今でこそアメリカンプロレスも日本である程度の市民権を得てますけど、昔はそんなものなかったですからね!! ストロングスタイルが蔓延してて、「ストロングこそすべて」「アメリカンプロレスなんて目じゃねぇ」と言われ続けてン十年ですよ（笑）。僕から見たら、どう見ても新日本の日本人選手こそがアメリカンスタイルで、全日本にはそんな人いないよな、と思ってましたけどね。

**生徒B** そうですか？ それは新しい意見ですね!?

**テイオー** う〜ん。ジャンボ鶴田さんはアメリカンプロレスに対応できる能力を持ってた人ですけど、鶴田さんが本当に認められたのは、ストロングスタイルをやってからなんですよね。あの人はやっぱり日本人じゃないんですよ。動きが限りなくアメリカ人に近いプロレスラーだったのに……ジャンボさんは早過ぎましたね（笑）。で、やっとWWFが日本で受け入れられてきた今こそ、「星パンツ履いてたころのジャンボ鶴田さんのビデオを観て下さい！」って僕は言いたいですよ。僕もテリー・ボーイの頃は意識しなくても足が痙攣したり、これをやったり（腕を回すアクション）して「テリーだ！」とか言われてウケてましたから、あの頃はちょっと僕もアメリカ人になりかけてたんですけど（笑）。

**生徒A** なりかけてましたか（笑）。

**テイオー** でも、やっぱり日本には「アメリカン＝ショーマン」という図式が根強かったですよね。それが尾を引いていると、これからWWFを見ようとしたときに抵抗感を感じるんだろう思うんですよ。

**生徒A** では、実際の試合の話をお聞きします。日本とは客質も違います し、変えていかなければいけない点もあったと思うんですが、苦労はありましたか？

**テイオー** 試合自体でも体の大きさが違うと、好きな技を好きなようにやるわけにはいきませんし。あと、フィニッシュホールドを大事に使うことですね……あれは勉強になりました。日本のプロレス技は「スキあらば激しく」「より高い所から」「よりキツい角度で」っていう方向に、進んでると思うんです。でも、この先どこまで行っちゃうのかなって恐怖感があったんですよ。

**生徒B** 死亡事故も女子では起こってますよね。

**テイオー** 昔はジャーマンが最高芸術の技だったのが、ドラゴンスープレックスができ、パワーボムに時代が変わりましたよね。もうネタは尽きてるから、僕ももう「技の発見」はないだろうと思ってたんですよ。でも最近はストーンコールドの得意技・スタナーが流行ってますよね。ところが……盲点がありました！

**生徒A** なんですか!?

**テイオー** 角度も高さも全く関係ない視点から「技」を見直しましたね。ザ・ロック（ロッキー・メイビア＝WWFのトップ選手）のピープルズ・エルボーですよ!! 見た瞬間に「これは使える！」ってホントに思いましたね（笑）。

**杉J** （身を乗り出して）いやいや、視聴者としてもまったく同意見です！

**生徒A** え、どんな技なんですか？ ボクらみたいなアメプロ素人にもわかるようにお願いします。

**杉J** 自分で「スポーツ界最高の技だ」って言ってるんですよ。

**テイオー** まずヒジのサポーターを外すんですよ。そこから見栄を切って（と指を振って実演）、ただ単にロープからロープまで往復で走ってエルボードロップするだけなんですけどね（笑）。（ハルク・）ホーガンの走ってやるギロチンみたいなもんで。だから危険度は少ないですよね。

**杉J** 完全に見た目の新しさはありますね。

**テイオー** あの指（と言って指を振りロックのマネ）の動きが僕にとってのアメリカンスタイルなんです！ 日本人がいきなりあの技を開発して使っても、カッコ付かないですよ（笑）。僕もね、ピープルズ・エルボーを日本で真似してみたことがあるんですよ。でも、見栄を切ったときに、声援がないと「ポッ」となりますよ（笑）。メチャクチャ恥ずかしいですよ。

**生徒B** まだまだ日本では、アメリカの技が浸透しきってないですからね。

**テイオー** それと、アメリカのレスラーはみんな自分のキャラクターと技をものすごく大事にしますよね。技も。その人の技はその人の技。勝手に使ったら怒られますね。さっき言ったように他人の試合もモニターで見てますから、勝手に技使われたら「シット!!」「サノバビッチ!!」って言ってますよ。

**生徒A** 怖ろしいですね。

**テイオー** 僕だって、ピープルズ・エルボーを日本で使うのに、一応ロックに聞いたんですよ（笑）。もちろんWWFでやることはできないですよ。ちゃんと日本進出してきたらもう許されないでしょうね。技ってのはファンに認知されるまでが大変ですから……シャムロックのアンクル・ホールドがファンに認知されるまでずいぶん時間がかかったみたいですよ。WWFでは関節技を使う選手が少ないから。

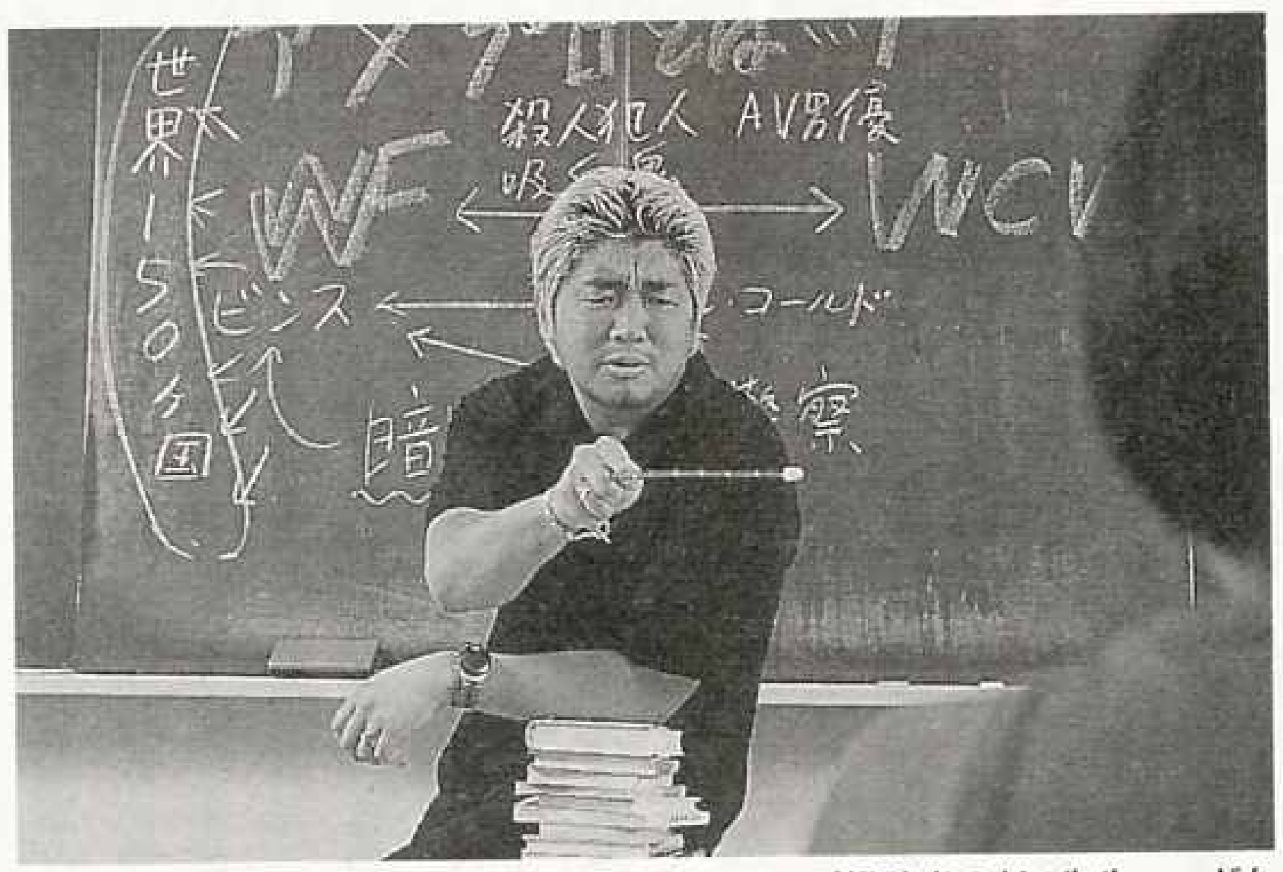
**杉J** でもあれも、ケン・シャムロックの「怖ろしい顔」がないとダメでしょうね（笑）。

**テイオー** ダン・スバーンなんかも実力的には甲乙つけがたいんですけど、どうもフィニッシュホールドが固定されないんですよねえ。なんでもフィニッシュ取れるんですけど、WWFではサブミッションスタイルは難しいですよね。

**生徒B** でもWWFはボクシングマッチとかも取り入れたりして格闘技路線にも力を入れてますね。

**テイオー** 「なんでもあり」の世界がやりたいんでしょうね。極端な話、面白くなると思えばなんでもいいんですよ。アルティメットでもミゼットでも女子でも。だからアメプロではなしにWWFだ、というのはそういう部分なんですよね。

**【99年5月11日 池袋コミュニテイカレッジにて収録】**



アメプロ実戦派のテイオー先生、マニアックなテレビ視聴者の杉J先生——どちらの先生の講義も、非常に説得力のある内容だった。好評だったら、次回以降も続けます！ 乞うご期待！

掟破りの舌好調！
『紙のプロレスRADICAL』
御意見番

# SPWF 谷津嘉章の マット界、目ぇつぶって30秒!! リアル版



構成&撮影／チョロ
Text & Photographs by Choro

**1号振りに帰ってきた「谷津嘉章の目ぇつぶって30秒!!」。電流爆破は既に終わってしまっているが5月8日に行われた「監獄デスマッチ調印式」があまりに面白かったので再録してお届けします。このメンツが揃って一筋縄で行くはずがない。オリャオリャオリャ！**

**【記者会見出席者＝谷津嘉章、高智政光、ターザン後藤、矢口壹琅、リングアナ鳴海剛】**

（会見開始時間を過ぎても一向に現れる様子のない後藤、矢口をよそに会見は始められた）

**鳴海**　西武ドーム球場下駐車場では、革新十字軍の矢口壹琅選手、そしてターザン後藤選手どちらも承認済みとして監獄デスマッチを行わせて頂きます。谷津さんの方からこの監獄デスマッチについて。

**谷津**　デスマッチはやるかどうかわかんないんだけど。デスマッチをやるというよりも、女子プロの世界でこんなこと（T・後藤がSPWFの女子レスラーをパイルドライバーで病院送りにした）やるなんて、とんでもないことなんだよな。それについて、一発ちょっとお返ししないと済まないからな。

**鳴海**　高智選手から一言お願いします。

**高智**　前回……、

（ここで突然、矢口、後藤乱入、後藤はビールをラッパ飲みしながら、矢口はチュッパチャップスを食べながら）

**谷津**　おぉ、なんだよあいつらよ。

**高智**　矢口、遅いんだよ！

**後藤**　テメェーこのヤロー。そんなんで呼び出したのかよ俺を、バカヤロー！　おい、谷津、デスマッチにな調印式もクソもねぇんだよ、バカヤロー！　何言ってんだ、お前。監獄！　このヤロー、お前は檻の方が似合ってるよ、バカヤロー！ 監獄って看護婦のケツでも触っとけ！

**高智**　お前ら遅れてきたくせに！

**後藤**　なに？　なんて言ったんだお前？ お前なんだ？　ボクちゃん（笑）。

**高智**　（怒りの表情で）あっ！

**後藤**　なにが「あっ！」だよ。お前、なに言ってんだコノヤロー！　お前、デスマッチの恐ろしさを知ってんだろ！　なぁ。どうせ俺達をここに呼ぶんだったらもっと凄いデスマッチかなんか考えろよ。なんだ監獄デスマッチって？

**高智**　考えたやんか。それ！

**後藤**　考えたって、お前、（半笑いを浮かべ）谷津らしいじゃねえか。監獄だって。バカじゃねーか、まったく（笑）。なにが監獄だよ！　ハハハハハッ。

**矢口**　監獄っていうんだったらよ…

**谷津**　（遮り）テメェーらのことは絶対許さんからな、コノヤロー！

**後藤**　お前に許してもらおうとは思ってねえよ。監獄デスマッチだってよ、お前よ、ただ、こうやって檻を作るだけだろう？　なにが監獄デスマッチだ。バカか、お前！　こんなとこ呼び出すんだったらお前、もっと広いとこに呼べよ、お前！ なんだこれ、お前。俺の座るとこが無いじゃねえか！　お前らばっかり座ってるから、おかしくてビール吹き出しちゃうじゃねえかお前、なぁ。チンパンジーじゃねえんだからよ。檻さえ用意すりゃいいってもんじゃねえんだ、バカヤロー！ お前、俺達はチンパンジーじゃねえんだよ。（谷津を指差



4月15日にSPWF道場で行われた「道場マッチ」。ノービールでの道場マッチとなったターザン後藤vs高智政光の一戦。後藤は、高智ばかりでなく、女子レスラーの岩井田までにもパイルドライバーを決め満足そうな笑みを浮かべていた。この結果によりSPWFは道場と看板を取られることとなってしまった。ちなみに、岩井田は全治1ヶ月、コルセットを巻いて現れた。

会見が始まり30分は経っていただろうか、道路の向こうから、どっからみても一般人には見えない大男2人&付き人1人が会見場に向かって近づいてきた。よくよく見ると、後藤はビンビールを片手に、そして矢口はアメを両手に持っていた。





会見時間の3時を過ぎても一向に現れる気配さえ見せないターザン後藤と矢口壹琅の革神十字軍。シビレを切らした谷津は、リングアナの鳴海に向かって「あと10分待ってこなかったら、調印式始めちゃえよぉ」と提言。



# 谷津嘉章、有刺鉄線電流爆破デスマッチに出陣！

し）まあ、お前は似てるけどな。ハッハッハッ！　それによぉ、調印式、調印式って言うけどな、デスマッチやるのに講釈はいらねえんだよ！

**谷津**　ガタガタ言うな。コラー！

**後藤**　講釈は要らねえんだよ。なにが監獄だ、お前！　どうせやるんだったら、爆竹みたいのババーンとやってやろうじゃねえか。電流爆破だよ、電流爆破！

**矢口&後藤**　（声を揃え）アッハッハッハッハッ！　アッハッハッハッハッハッ！

**矢口**　オイ、谷津！　お前、アメリカのジェイルを知ってんのか、オイ？　檻だけじゃねえんだよ。檻を抜けてもよ、塀でかこってあって、そこには有刺鉄線が巻かれてあって、高圧電流が流れてんだ、オイ。そこまでいって初めて監獄デスマッチだって言うんだよ！　わかるかぁ？

**後藤**　谷津、やるのかやんねえのかハッキリしろよお前、オラァー！

**矢口**　世・紀・末・監・獄・デスマッチって書き直せ、オラッ！

**後藤**　ちょっとお前、マスコミのみんなにも失礼だろ。延ばすだけ延ばしてだよ、やっとデスマッチやるっていったら監獄だって（半笑い）。こんなのをやるために来たんじゃねえよ、お前！　電流爆破をやるのか、やらねえのかお前ハッキリ返事しろ!!（立ち上がり、隣の部屋へ移動する谷津と高智）

**矢口**　鳴海、金網有刺鉄線電流爆破だ、オラァー！　これがホントの世紀末監獄デスマッチだ!!

**後藤**　（立ち上がり、谷津に向かって）監獄なんてセンスの無い名前付けんなよ。このなすび野郎（笑）。アッハッハッ！

**矢口**　まあ後藤さん、座ってください。

**後藤**　谷津が座ったところに座るとよ、栃木弁うつりそうだからよ！

**矢口**　谷津は甘いんだよ。そんなことしてたらインディーファンを裏切ることになるよ、そんなの。

**後藤**　せっかくやるんだったら、ねえ。なんだかんだ言っておいて、なにがデスマッチって。なんだかんだ言ってよ、ただ檻作ってそれで逃げようとしてるじゃねえか。なんか、谷津ってほらトンパチだろ（半笑）。面白いデスマッチを作んのかなあって思ったら監獄だってよ。あれよ、名前だけ考えてよ、どういうやり方か考えてねえぞ。アッハッハッ！　前科15犯みたいな面してよ。そうだろ、谷津は前科15犯みたいな面してるだろ、あれ（笑）。だいたいよ、カッコばっかつけてんだよな。なにが調印式だよ。

**矢口**　要求っていえば、火薬をケチるなってことですね。

## 所沢が吹っ飛ぶくらいの火薬の量にすればいいか（笑）

**後藤**　火薬？　その手もあるな。あいつケチだもんな。あと高智もよォ、京都弁なんだか知らないけどよ、ちょっとあれ、直さしてくれよ。「おまえら遅く来て」なんだあれ、気色わりぃ。谷津のアクセントもおかしいけどよ、高智のアクセントもおかしいな。あいつら日本人か。

**記者**　この間の道場マッチの復讐に燃えてるようなんですけど。

**後藤**　復讐？　だから復讐っていうのはな、ある程度実力が近い奴が言うことなんだよ。あいつは復讐なんて言うのはまだ、百年、二百年、三百年ぐらい早えんだよ！　どうせ谷津が一人でやるのが嫌なもんで、高智をまた連れて来たんだろうけど。高智と組んでやる限り、俺達に勝てるわけねえだろ。復讐もなにも、お前向こうが道場マッチやりたいって言ったんだから、俺は正々堂々と受けてやって、勝ったんだから。それで復讐っていうのは逆恨みもいいとこだよ。やっぱりアイツは、日本人じゃねえだろ！

**矢口**　宇宙人じゃないすか（笑）。

**後藤**　俺が聞いたのは、母親がカンボジアで父親がベトナムで、育ったのがモンゴルって聞いたけどな。そういう噂を聞いたな（笑）。

**矢口**　アイツら有刺鉄線とか電流爆破って漢字がわかんないんじゃないですか。

**後藤**　谷津は大学出てんだろ。

**矢口**　（谷津は）アマレスで出てますからね（苦笑）。

**後藤**　裏口じゃない？（笑）。

**矢口**　試験がタックルだったんじゃねえのか（笑）。

（隣の部屋から戻ってくる谷津と高智）

**谷津**　なにお前ら勝手なこと言ってんだよ。えっ！

**矢口**　谷津、火薬の量をケチるなよ。これが俺らの条件だ！

**谷津**　ハハハハハ！　火薬の量か。所沢が吹っ飛ぶくらいの火薬の量にすればいいか（笑）。

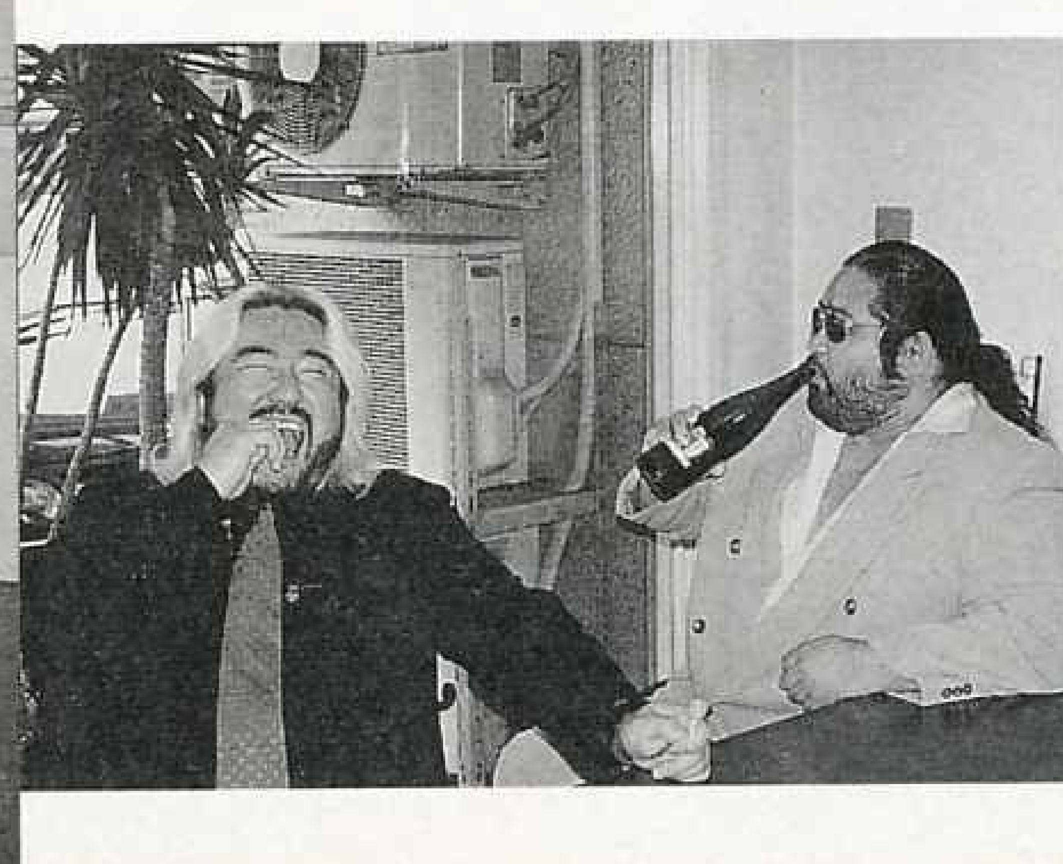
**矢口**　新日本でやってただろう！　アレの倍用意しろ。倍だ、倍！

**谷津**　んなもん、お前らが設置せい！　思い通りに。俺には爆破のことはさっぱりわかんないや。

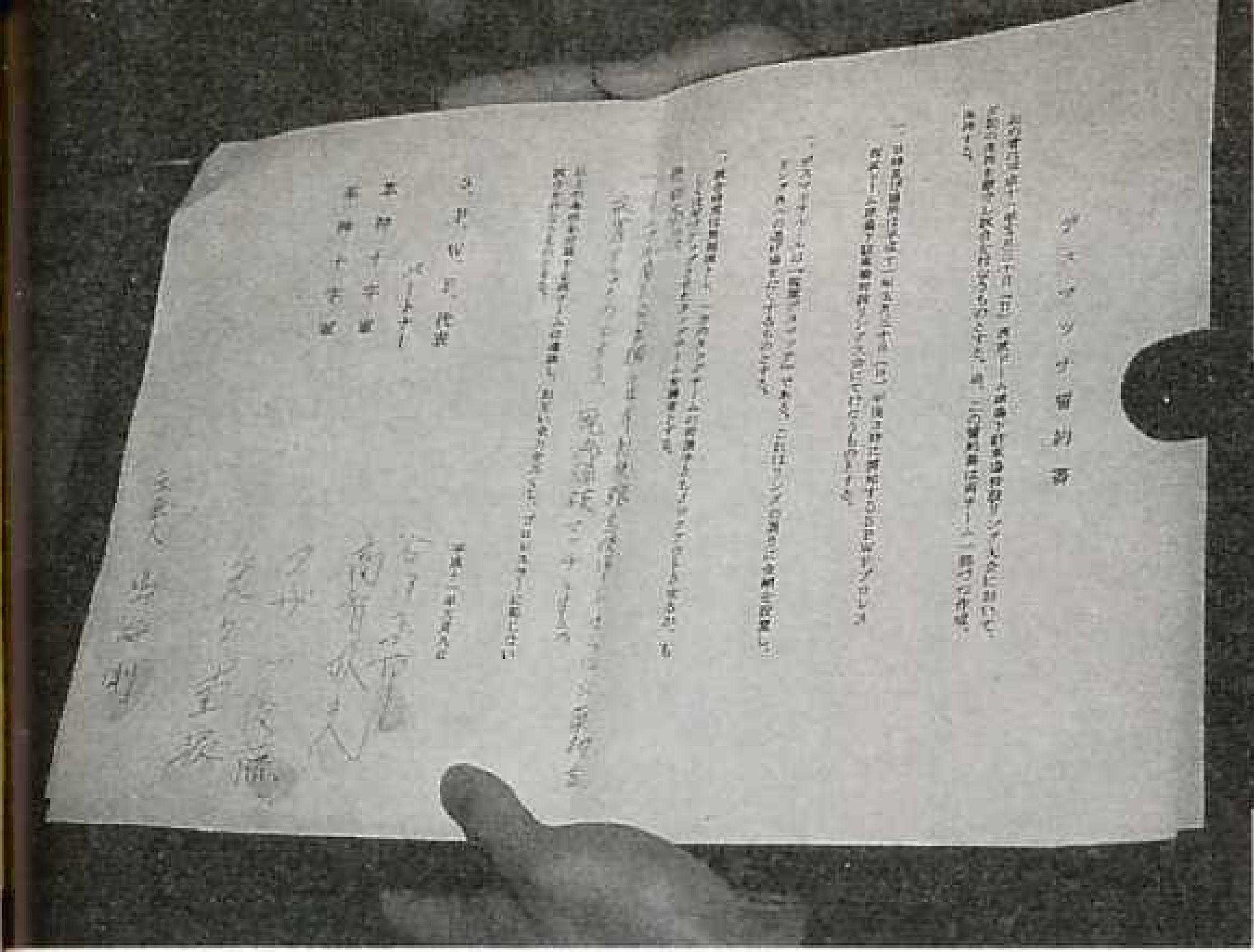
**後藤**　おう、俺が設置して

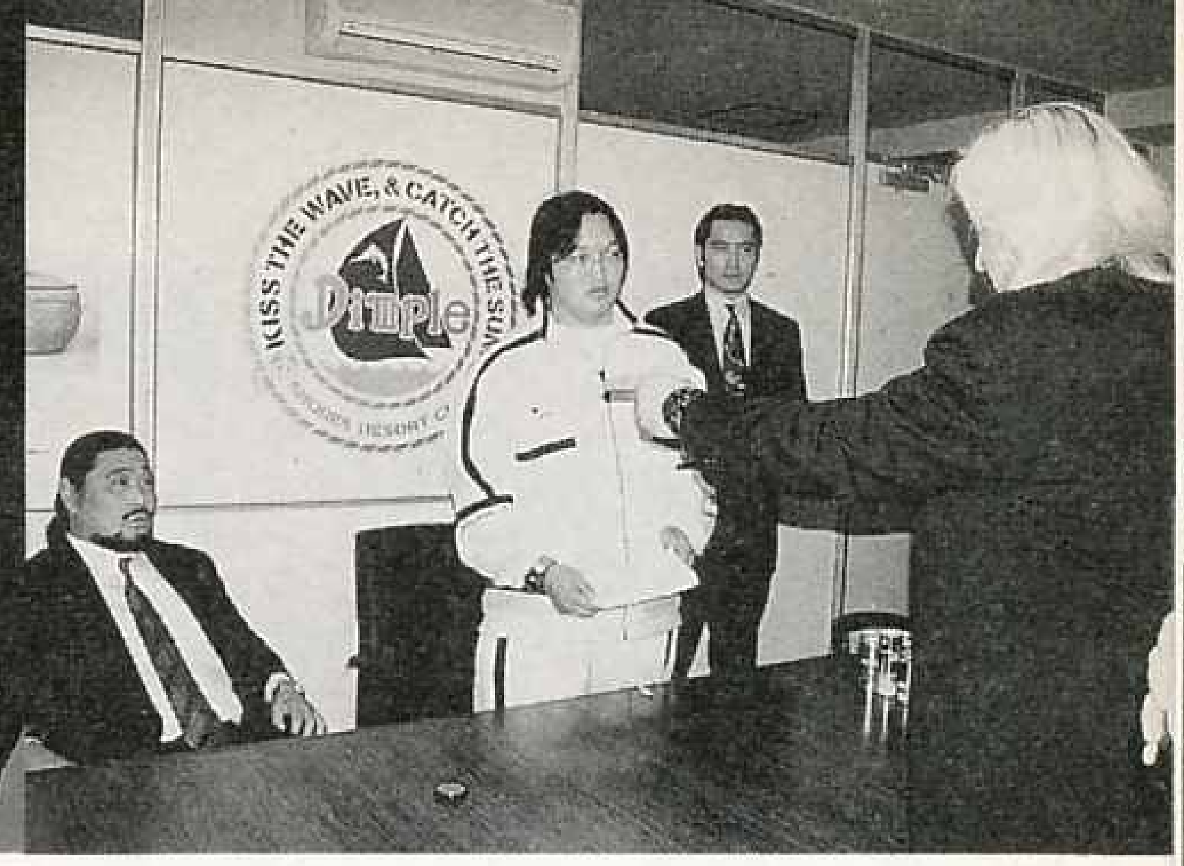
「オイ、高智アメ食うか？　泣きべそかくなよ」と矢口と後藤は、散々高智にちょっかいを出すが、高智は一言、二言言うのが精一杯で、会見後、谷津に「ああいう時でも上手くしゃべれるように練習しなくちゃいけないんだよ。それも含めてプロレスラーなんだからなっ」と愛の説教をしていた。











後藤と矢口の挑発に遂に谷津が立ち上がった。「いつまでも後藤なんかと関わりたくないんだよ。やりたいことっぱいあるわけだからな、もう後藤とはピリオド打たなきゃならないなっ。やってやるよぉ」と力強く宣言。とうとう谷津嘉章が有刺鉄線電流爆破デスマッチへの出陣を決めた。谷津のやりたいことっていうのは一体なんなのか？　非常に気になるところである。

# 俺は蝶野みたいな、あんな厚いコスチュームは着ないけどな（笑）

やるから。お前が払えよ、ちゃんと金をな。そこだけはっきりさしておこうじゃねえか。なんだかんだ言って俺らに経費も出させる気だよ。セコイ奴だなあ。よく覚えておけよ、鳴海!!　俺達がちゃんと仕掛けるから、経費は谷津持ちだぞ！　返事しろコラ！　聞いてんのか、お前！　なすび野郎！

**谷津**　お〜、上等だよ！

**矢口**　高智、アメなめるか？（笑）。一個買ってきてやったぞ。可愛い顔してほら、デスマッチ入れるのか？　インディーの意地を見せろよ！　ほら、高智、お前もサインしろ！　試合前に泣きべそかくなよ！　おかあちゃんのオッパイたんまり吸って、体をでかくしてこいよ。

**後藤**　おい、みんな知ってるか。谷津と電話で話すとよ、つぶやきシローとしゃべってるような錯覚がおきるんだけどよ。それは俺だけかな（笑）。鳴海、お前そう言ってたよな。

**鳴海**　いえ。私はそんなこと。

**後藤**　言ってたじゃねえか、お前！

**谷津**　（鳴海に向かって）こんなの帰らせろ！　もういいから！

**後藤**　帰らせろだ、このヤロー！　呼んでおいて帰らせろってなんだよ。本当にこいつは常識がないやつだな。言われなくたって帰るよな。オメェーはビール振ってんじゃねえよ、泡出てんじゃねえか、お前！

**付き人**　はい。すいません。

**後藤**　（ビール瓶から溢れ出す泡を見て）なんかこれよ、高智がよ、道場マッチで泡吹いたときと似てるな、アハハハハハ！

**谷津**　ごくろうさん。帰れもう！

（事務所を後にする、後藤と矢口）

**鳴海**　（ぶ然とした表情で）これにてデスマッチの調印式を終了させていただきます。ありがとうございました。

**谷津**　（高智に向かって）男にはどんなことでもやらなきゃなんない時がある。これは宿命だからな。ビビるなよ。

**高智**　ビビってないです。

**谷津**　俺がビビってるんだよ（笑）。

**記者**　谷津さん、当日はどんなコスチュームで？

**谷津**　いや、裸じゃできないね。怖くて。まあ、蝶野みたいなあんな厚いの着ないけどな（笑）。アレだったら俺も楽だけどなぁ（笑）。

**記者**　あの東京ドームの時の？

**谷津**　アレ着ていったらもぐりだけどな。有刺鉄線は怖くないけど、爆破が凄いからな。破片が飛んでくるからなぁ。初心者マークつけるか（笑）。29日試合があんだよね。そんでデスマッチが30日にだろ。それから先、休んでいい？（笑）

※そして、本誌の締切直前に一枚のFAXが送られてきた。

マスコミ各位
プロレス担当者様

本日（5月18日）午後1時より革神十字軍道場近くの千葉・一宮海岸にて、革神十字軍・ターザン後藤、矢口壹琅両選手の立ち会いの元、5月30日・西武ドーム下駐車場大会における電流爆破監獄デスマッチ（ノーロープ有刺鉄線電流爆破トルネード・デスマッチ）の爆破実験を行いました。実験台には丸ごと一羽の鳥肉を使用しましたところ、爆破の威力は想像以上ですさまじい爆音とともに肉片が四方に砕け散りました。実験後、T・後藤、矢口両選手は「所沢ではオマエらもこうなるんだ」と高智を威嚇し、勝利はもらったも同然とばかりに関係者の前で余裕の態度を示しました。

後藤選手は「オレが今まで経験した中で最大の威力の爆薬を用意した。当日は爆弾の量をケチるな」挑発した。

ただし、私個人の見解としては、このままでは死人が出るおそれがあるというのが実験を目の当たりにした正直な感想です。SPWFプロレスとしては、谷津代表と協議してどの程度の規模のデスマッチを行うか早急に検討に入ります。

S.P.W.F.プロレス（スーパー・プロ・レスリング・フェデレーション）
リングアナウンサー　鳴海　剛



難敵 **マーク・コールマン戦を突破!!**

# 高田延彦

**バーリ・トゥード系か、WWFのようなものか どっちかに分かれると思う。**

# 「真ん中」に存在するのは、非常に難しい状況になっていくと思うね

# INTERVIEW

聞き手/山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi
撮影&試合写真/森鷹博
Photographs by Takahiro Mori

**昨年10・11以来、約半年年ぶりに高田延彦がリングに帰ってきた。**

**ヒクソン・グレイシーに2度に渡る敗退。『プロレス界の「最強」から、バーリ・トゥード界の「最弱」へ』とも言われかねない勢いの酷評を浴びたこともあった。**

**マット界に大いなる問題提起を投げかけた高田が、4・29『PRIDE．5』で奈落の底から這いあがるチャンスを得た。初代UFCヘビー級王者、マーク・コールマン戦。**

**その奈落の底にはセリ上がり式のエレベーターは付いていない。スポットライトを浴びるには、自力で舞台まで這い上がり、再び大見得を切るしかないのである。**

**いろいろな意味で注目の一戦の結果は、約10ヶ月ぶりに高田が勝ち名乗りを受けた！　熱狂する観客席！　コーナーポストに上がり大見得を切る高田！**

**そしてそこに乱入してきた宇宙人・小川直也！**

**再び、高田の周辺に大きな波風が立とうとしている。**

**その高田延彦に、キッズ・ファイターたち（この日は、小学生低学年の子どもたち）が練習する高田道場内で、たっぷりと話を聞いてみた。**

——昨日の佐野（なおき）さんは凄かったですよ〜。

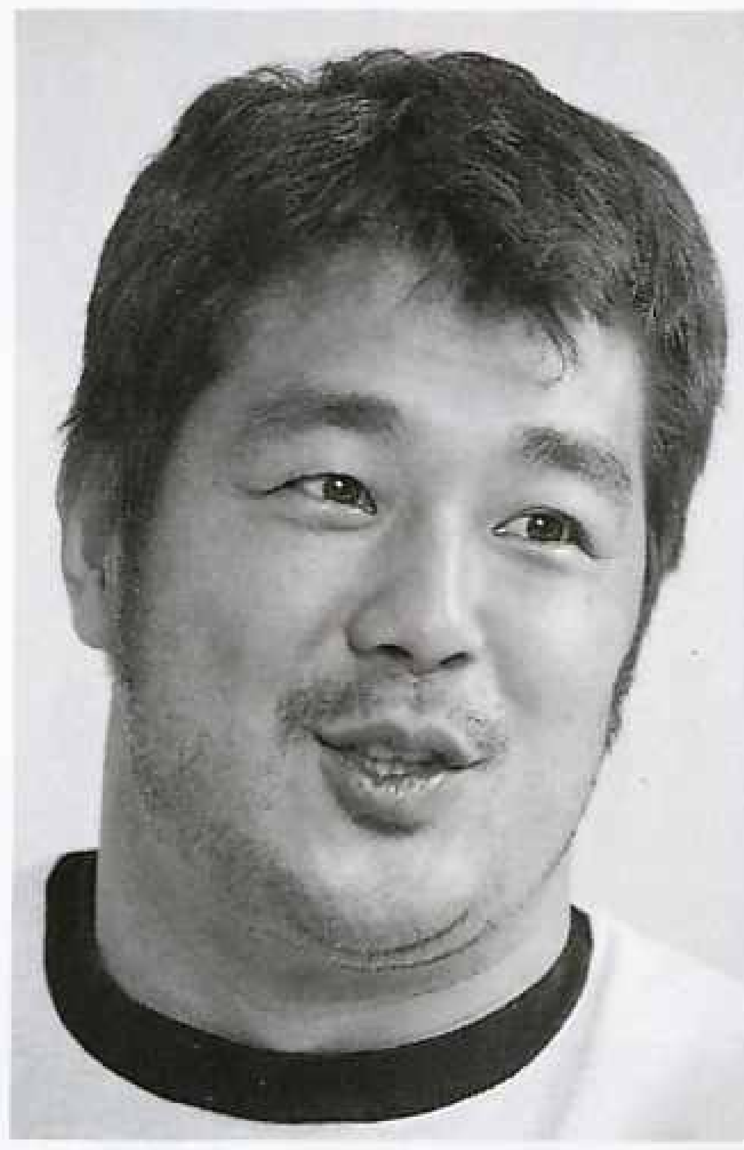
※インタビュー前日の5・14バトラーツ札幌大会で、高田道場の佐野なおき（友飛改め）が、FMW認定ジュニアヘビー級王座を奪取。

**高田**　よかった？

——もう、大拍手ものですよ！　迷いなくプロレスをやってくれたから気持ちよかったですね。

**高田**　あ、そう！（しみじみ嬉しそうに）。

——最近、バーリ・トゥードの世界では結果は出てなかったけど、その分を取り返したと言ってもいいですよ。ファンも佐野コールしながら祝福してましたからね。


**高田**　それはよかった。

——「お帰りなさい、佐野」って感じでしたよ（笑）。

**高田**　うん（ニッコリ）。

——取材陣からも拍手が起こってましたよ

# 桜庭のファイティング・スタイルそのものが、ひとつの問題提起になってるよね

（笑）。だって、トペやるわ、ジャーマンやるわ。

**高田**（身を乗り出して）うん！

——トップロープからのミサイルキックやるわ、タイガースープレックスやるわ。サンダーファイヤー・パワーボムなんていう、いまどきの技も繰り出したりしちゃって（笑）。

**高田**　う〜ん！　そう!!（つくづく嬉しそうに）。

——さすが佐野なおきって感じでしたよ。通常のプロレス・ルールではブランクがあるのに、あれだけやれるんですから。

**高田**　天才だからね。

——でも、ああいう風景を見ると「プロレスって広いなぁ」って思いますね。

**高田**　あらためてね（笑）。

——高田道場の長として、佐野さんを通常のプロレスの試合に送り出すことに躊躇はなかったんですか？

**高田**　どこでもってことではないけど、基本的には本人が出たいっていう気があるなら、道をつくっていく努力は惜しまないよ。

——そうすると、佐野さんの今後の路線はどうなるんですかね。

**高田**　本能のおもむくままに、自然体で行くよ。高田道場も、佐野も。プロレスとバーリ・トゥードの両方を行ったり来たりするっていう意味でね。それができるんだから、彼は。今回の試合は彼にとって、いいスパイスになると思うよ。ファンの声援を肌で感じることが一番の栄養剤になるわけだからね。それが逆に、反対側のバーリ・トゥードの試合にも活きてくると思うんだよ。励みにもなるし。

——せっかく出ていけるフィールドがあるんだから、使わない手はないっていうのはありますよね（笑）。

**高田**　佐野のプロレス人生なんだからさ。自分でそのフィールドを狭めることはないんだよね。やりたいならやればいいよ。それでファンが喜んでくれるなら、それでいいわけだから。

——で、実は奪ったタイトルがFMW認定のタイトルなんですよ（笑）。

**高田**　ん？

——FMWといえば！　あの大仁田厚が作った団体なんですけど（笑）。

**高田**　俺はバトラーツ認定だと思ってたら、違うんだ？

——バトラーツの田中稔選手が奪ってきたベルトを佐野さんが奪っちゃったわけです。はからずも（笑）。

**高田**　まぁ、でも、ベルトは持ってる人間によって価値が決まるから。でも、ビックリしちゃった、いま。初耳だよ、タイトル名は。

——高田さんはよく「縁があれば」って言いますけど、ヘタすると、これをきっかけに大仁田厚と縁ができちゃう可能性も……。

**高田**　それはない！

——高田延彦vs大仁田厚が実現となったら、天地がひっくり返りますけどね（笑）。

**高田**「先のことはわからない」と俺はいつも前置きして言うけど、それはない。断言できるね。

——断言できますか。佐野さん以外の高田道場勢は、高田さんを始めとして、『PRIDE．5』に出場しましたね。松井（俊介）選手は出ませんでしたけど。

**高田**　うん。

——まず豊永選手はイーゲン井上選手にチャレンジしたわけだけど、桜庭さんは、「あんな試合をするようなら、もうセコンドにはつきたくない」と、かなり辛辣なことを言ってましたね。高田さん的には、豊永選手の試合はどう評価しますか？

**高田**　試合的にはまったく評価できないよね。あくまでもあの舞台に、あのキャリアと実力で上がれるっていうこと自体が大きなお年玉みたいなものだから。そのチャンスを掴むの

か掴まないのかっていう部分は本人次第でしょ。勝とうが負けようがいいんだよ、まだね。

——キャリアから考えればそうですね。

**高田**　だから、いかに「豊永稔ここにあり」っていうのを見せるか。サク（桜庭）みたいな選手と毎日練習できるんだから、それをどう活かすか。要するに、彼のガンバリ次第では『PRIDE』から何度もお呼びがかかるようになるわけだよ。ただ、それが感じられなかった。なにがしたいのかわからなかったし。そのへんだよ。「試合に行ってるんだから、試合をせーよ」ということだね。

——高田さんから見ても試合になってなかった？

**高田**　もしも俺が客だったら、つまらないね。イーゲンの強さは見えたけど、豊永の選手としての良さっていうのは、ま〜ったく印象に残らない。

——本人も相当悔しいでしょうけどね。

**高田**　やっぱり、「2〜3年たったら、面白いんじゃない？」っていう部分を、ちょっとでも感じさせてくれるものを出さないと、プロのリングでは意味がないんだよ。反省もいいけど、反省が活きなきゃいけないしね。

——2〜3年後にはデカビタのCMを譲れるくらいの存在になってほしいところですよね（笑）。

**高田**　そうなってもらいたいね（笑）。

——その豊永選手を叱咤激励した桜庭さんは、野球でいえば、完投、完封、完全試合達成っていう感じの試合でした。しかも文句なしに面白い試合でしたからね。

**高田**　いまは中田（英寿）、桜庭だね！　俺から言わせたら。サッカーでは、中田。格闘技界では桜庭！　孫悟空だね、あいつは。そう思ってる、俺は。バーリ・トゥードという厳しい世界の上空をフワフワと気持ちよさそうに飛んでるから。

——自由自在に飛び回ってますよね（笑）。

**高田**　あの試合は、如意棒を持った孫悟空とダブらせながら見てたよ。縦横無尽ってやつだよね。如意棒持って相手を翻弄しながら闘ってるように見えたね。

——孫悟空といえば、お釈迦様の手の平の上なんですけど、それはつまり、高田さんの手の平の上っていうことですか（笑）。

**高田**　うん、そういうこと！

——ガハハハ！　さすがですね。みんなそこに気がつかなきゃいけないですよね。

**高田**　そうだよ（笑）。

——バーリ・トゥードでは膠着が多かったりつまんない試合も多い。でも、桜庭さんの闘い方は、バーリ・トゥードと興行、あるいはバーリ・トゥードと観客の関係を考えた場合、理想型ですよね。

## Nobuhiko TAKADA

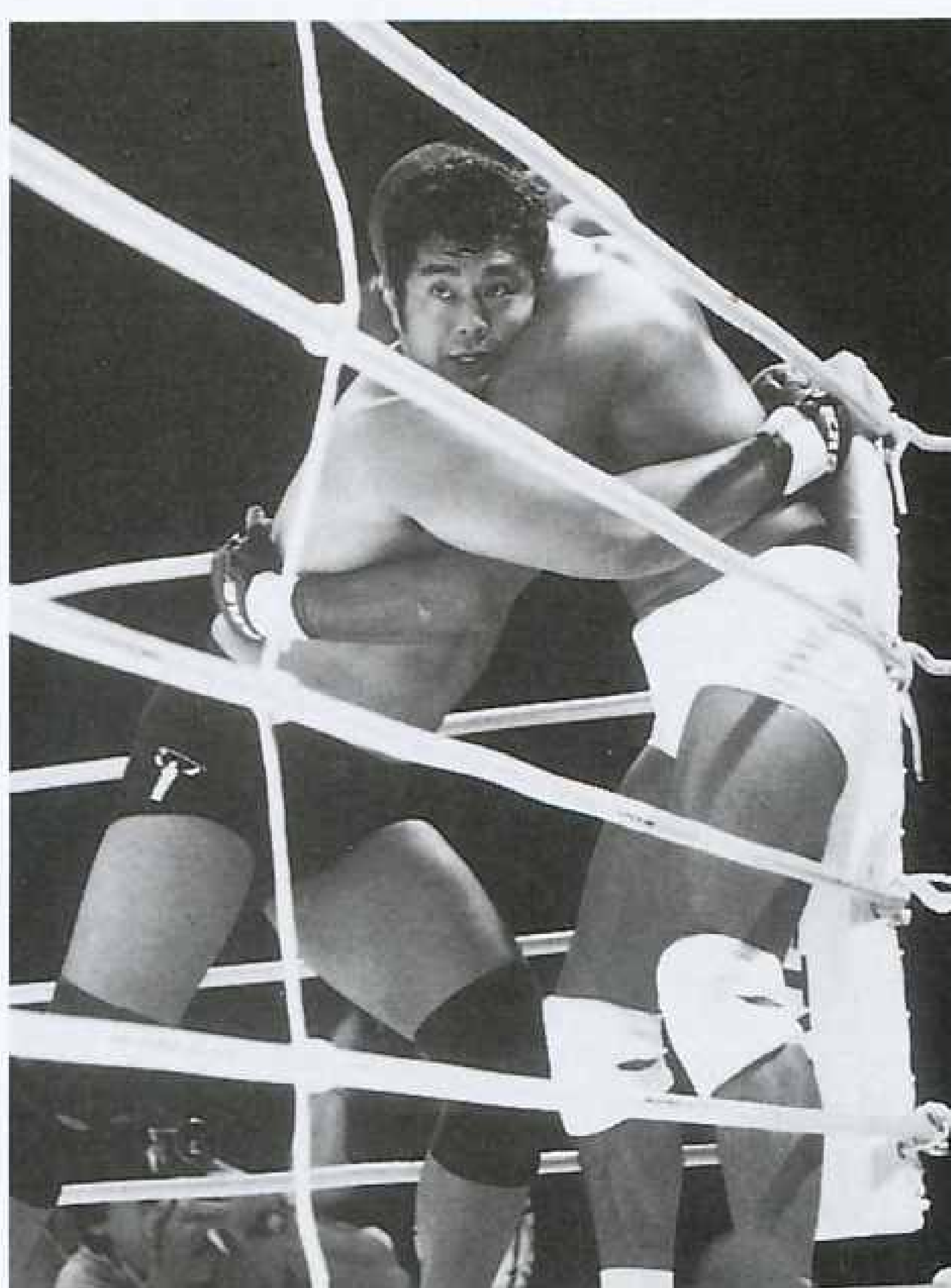
**高田**　そうだね。ただ桜庭が柔術家のトップ相手に見せてきたファイティング・スタイルができる選手は、おそらくいないと思うよ。ああいう試合が出てきて、試合内容もこれから少しずつ変わっていくような気がするね。ただ、寝て固まってりゃあいいっていうもんじゃない。こんな高等戦術もあるんだっていうものが、いままで材料としてなかったからね。

——なんせ、バーリ・トゥードの試合でローリング・ソバットですからね（笑）。驚きましたよ、ホントに。

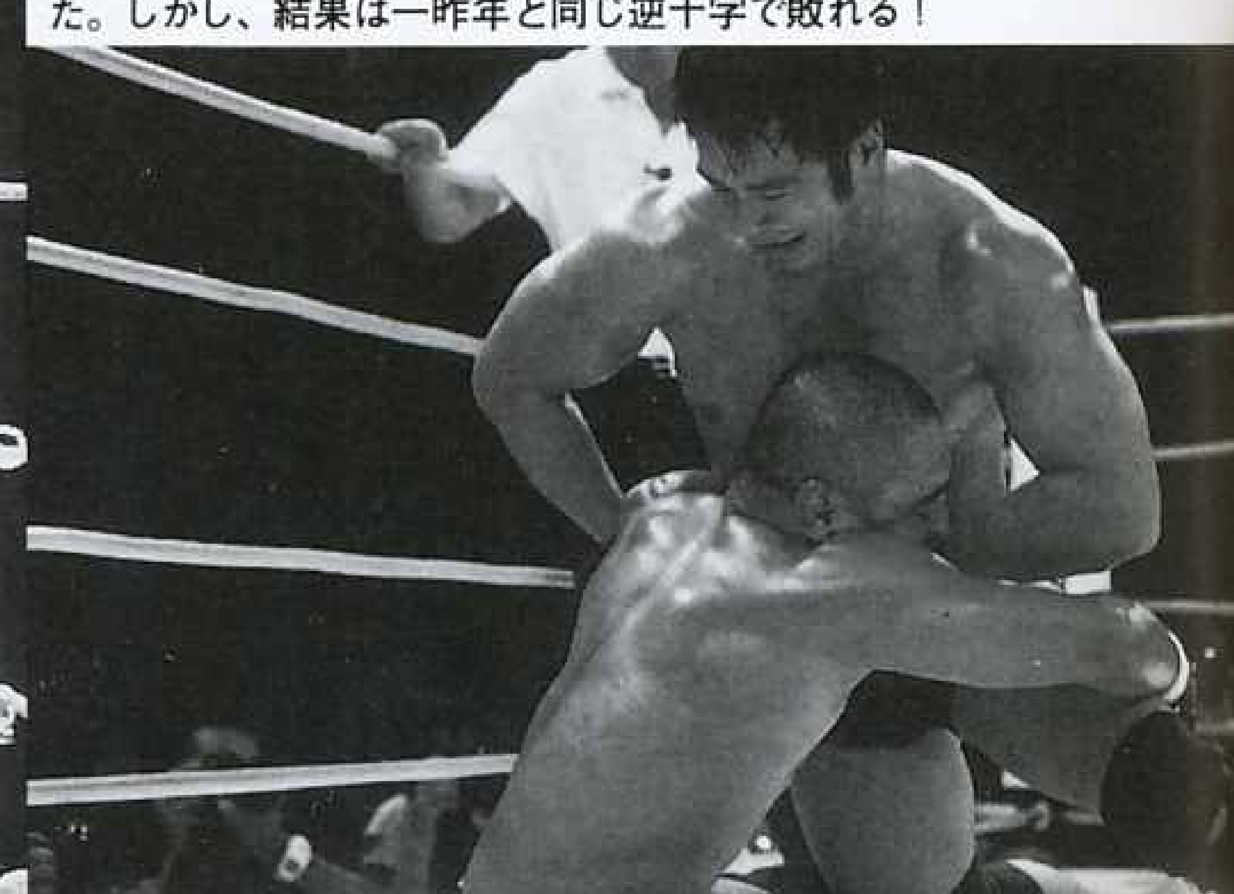
**高田**　桜庭スタイルの出現そのものが、ひとつの問題提起になっていくよね。

——ブラジル勢に多い「負けないための闘い方」っていうのはどう思いますか？

**高田**　プロとしては評価できないよね。面白くない。強い選手はたくさんいるけど個性がないし、だいたいみんな同じでしょ。だから、サクが柔術の強い選手を完封した中で、アグレッシブで、かつ面白い試合をしても、相手を封じ込めることが出来るんだ、ということが初めて見えた。そうすると、彼らのやってた試



ヒクソンに"世紀のリベンジ"を果たすために、昨年、10・11東京ドームのリングに立った高田。一昨年の初戦と違い、精神的にも戦略的にも"準備"して出ていったのが功を奏し、「打倒・ヒクソン」のヒントを散りばめた闘い模様となった。しかし、結果は一昨年と同じ逆十字で敗れる！



合というのは、プロとは呼べないのかなっていう考え方も出てくるよね。

――アマチュアの延長って感じですかね。

**高田**　アマチュアの延長がプロなんだよ。負けない試合をするのもプロ根性だよ。だけど、それだけじゃ、高いお金を払って見にくるお客さんが納得しないよね。要するに、意識の問題だろうね。「プロとは何か?」っていう。

**※高田道場のキッズファイターたちが「イーチッ、ニィッ、サンッ、シィッ」と、甲高い声で絶叫しながら、めちゃめちゃ元気に準備体操を始める。**

――ちょっと前までは「プロレス」や「格闘技」というと、"娑婆じゃない世界"でしたよね。

**高田**　シャバ?　ああ、娑婆ね。ヤクザな言葉を使うね、この男は（笑）。

――一般社会と隔絶した独特の世界を形成していて、それがひとつの魅力や凄みになってたんだけども、いまは、例えばうしろでうるさいキッズ・ファイターを見ればわかる通り（笑）、プロとアマチュアの境界線がなくなってきてますよね。解放されてるというか。

**高田**　そうだね。

――ただ、門戸開放して選手層が拡大していけばいくほど、その分「プロ」としては厳しい世界になっていくんじゃないかっていう気がしますね。「プロ」としてのレベルが本当に問われてくる時代というか。

**高田**　K―1より、このバーリ・トゥード系のほうが人材はたくさんいると思うんだよね。アマレス出身、柔道出身、柔術もそうだし、とにかく全世界に潜在的にもゴロゴロいるからね。そうなると、寝て固まっていればいいという人たちは淘汰されていく。つまらない試合をする人たちは、お呼びがかからなくなってくるだろうね。だから自分をもっとコーディネートして、どこにモチベーションを感じながら、プロとしてリングに上がるかっていうのは非常に大事だと思うね。

――勝ち方、闘い方が問われてくるということですよね。だから、これからどうなっていくんだろうっていう部分では、面白い時代なんですよね。

**高田**　面白いよね。いまはいろんな方向に転がっていってるような気がするんだけどね。例えばマーク・ケアーがウゴ（・デュアルチ）や（ペドロ・）オタービオに負けたり、あるいはサクがアラン・ゴエスに負けたりしてたら、おそらく一方の方向に転がってると思うんだよ。だけど、それとは反対の現象が起き始めている現在の『PRIDE』のリングは、そういった意味で、多方面にゴロゴロ転がっていきながら、その中でいらないとこは削ぎ落とされて、自然と肉付けされていってるところじゃないかな。

――ブラジル勢の試合は、例えつまんなくても、「強いんだから、つまんなくてもしょうがない」っていう雰囲気もあった。でも、「そうはいかねえぞ」ってとこですよね（笑）。

**高田**　俺は言える立場じゃないんだよ（笑）。

――僕は何も言ってないですよ（笑）。そんなこと言われたら、何を言っていいのかわからなくなりますよ。

**高田**　あなたとしゃべってると、いつも自虐的になるんだよね（笑）。そっちに持っていこうとしてない?

――1ミリたりともしてません（笑）。

**高田**　あ、そ。冗談だよ（笑）。

――そして、いよいよ高田さんの試合の話なんですが、「コールマンはヒクソンよりも強いでしょ」という言い方を前々からしてましたけど、実際に闘ってみてどうだったんですか?

**高田**　う〜ん、とんでもないね。

――とんでもない?

**高田**　とんでもない圧力!　いままであんな圧力は感じたことない。ただ、これまでの彼のUFCでの試合を見ると、その圧力が空回りしている場面が時々見えるんだよね。要するに、我慢できれば、空回りさせることは可能なわけだよ。そういった意味で自分の力を持て余してる部分があるのかな、とは思うけどね。

## いろんな意味で、重い時間を過ごしてきたから、（コールマンに）勝ったのは素直に嬉しかったね

――その圧力っていうのは、例えば高田さんも闘ったベイダーとは全然違うわけですか?

**高田**　いや、似た部分はあるよ。やっぱりパワーファイターだから。それでいてスピードもある。だから、圧力プラス、スピードで、タックルかけられると持ち上げられたり、すぐ倒される。それに加えて、そこから乗っかってくる技術は超一流でしょ。力があるだけじゃなくて、いつも自分のポジションのバランスがいいっていうのがあるから。下になったら、そうそうは脱出ができない。だから我慢するしかないんだよね。

――例えば、「簡単にコントロールされてるな」という感覚はありました?

**高田**　もちろん。ただ、下にいながら、コントロールされてるようでコントロールしてる部分もあったんだよ。パンチを喰らわないようにするためにね。だから、コントロールされてるように見えて、十分に抵抗はできてた部分もあったね。ただ、こっからもう立ち上がることはできないな、とは思った。それだけのベターッていう圧力があったから。

――それにしても、1Rでかけられた袈裟固めはキツそうでしたね。

**高田**　メッチャきつかった!　でも、残り時間を聞いてたからね。浅かったっていうのもあったんで、これで一本取られるってことはないという感覚はあったね。ただ袈裟固めの状態からのパンチがいやだったんだよね。目をやられると、視界が悪くなっちゃうから。

――パンチは頭の硬い部分にしかもらってなかったですよね。2月に前田（日明）さんが（アレキサンダー・）カレリンとやりましたよね。前田さんも、あのとき、カレリンの袈裟固めに苦しめられてるんですよ。前田さんは「袈裟固めでギブアップなんて新弟子じゃあるまいし、みっともなくてできるわけあらへんやんけ」って言ってましたけどね（笑）。

**高田**　新弟子はよくギブアップするね、袈裟で（笑）。でも、一歩間違えたら、俺も新弟子になってたよ。

――だから、前田さんとか高田さんクラスでも、一歩間違うと新弟子になりかねない厳しい世界というか、世界には化け物がいっぱいいるもんですね。

**高田**　そうだね。ただ、俺たちを新弟子にさせかねない人間の袈裟固めっていうのは、一級品の袈裟固めだからね。

――同じ袈裟固めでも違うと。

**高田**　全っ然、違う。

――実際、コールマンの圧力を感じる空気を振り払えたのは、やっぱり2Rに入ってからですか?

**高田**　1R終わったとき。正直ホッとしたよ。

――ああ、1Rを凌ぎきったとき。狭い押入れに閉じこめられて、やっとフスマを開けられたみたいな感じですかね?（笑）。

**高田**　凄い表現だねぇ。どっからそういう発想出てくんの?　昔、よく押入れに閉じこめられたことあるんじゃない?（笑）。

――ありました（笑）。

**高田**　押入れっていうよりも、布団でグルグル巻きにされた感じだね。

――修学旅行でよくやるような（笑）。

**高田**　布団蒸し!　それからやっと出してもらえたって感じだったね（笑）。だけどね、凌いだのはいいんだけど、握力がなくなっちゃったんだよ。あの体型を近づけないようにグゥ〜ッと離したり、パンチを出させないように腕を持ってたりするのはキツイからね。試合だから、余分な力が入り過ぎちゃったのもあるし。

――体型といえば、あのタックルなんかは、岩が飛んでくるみたいでしたね（笑）。

**高田**　うん、交通事故にあったみたいだよ（笑）。

――2Rが始まったときは、「イケるな」っていう感覚はあったんですか。

**高田**　イケるっていうか、向こうも疲れてるはずだから、こっちからドンドン仕掛けよう



っていうのはあった。どっちにしたってタックルで倒されるのはわかってるから、とにかく仕掛けようと思ってね。ゴングが鳴ったら行こうって。こっちが向かって行けば、精神的にもっと疲れるはずだってね。

――ロー(・キック)を打っていって、数発目に見事にタックル合わせられましたね。

**高田** 簡単にね(笑)。でもローキックにああやってタックルを合わせるっていうのは勇気あるね。

――決まり手はヒール(・ホールド)だったんですけど、足は狙ってたんですか?

**高田** 自分の中では、あれしかないよ。上に乗っかることはできないからね。(コールマンは)シューズも履いてるから滑らないし、一発勝負だったらヒールしかないよ。他は取れない。と同時に、一回空振りしたら次はかからないなっていう心配もあったけどね。

――シアトルでTK(高阪剛)やモーリス(・スミス)と練習して、いわゆる「TKガード」を試合の随所で見せたんですけど、もしTKガードを練習してなかったらどうしてました?

**高田** 相手の足の付け根に足の裏をベタッと付けて距離を取ろうとはしただろうね。クロスガードだと距離が近くなっちゃうから。

――高田さんにとって、シアトル行きはデカかったわけですね。

**高田** デカかったね。

――僕も行きましたけど、メチャメチャいい環境ですからね。

**高田** スミスっていうのは凄い選手だし、相手の力を殺す職人みたいなもんだから。彼がコールマンとやった試合は、自分にとって衝撃的な試合で、「なんでキックボクサーがここまでグラウンドをやれるの?」っていう驚きがあったからね。シアトルに行くまでは、下になったら、もう99%相手のパターンでいかれるんじゃないかなっていう意識があって、正直言って自信がなかったんだよ。それをひっくり返してくれたのがスミスなんだよね。「下になったからって全然不利じゃない。逆にチャンスはいっぱい転がってるし、何発かもらっても、そんなに当たるもんじゃない。冷静にちゃんとした捌きをしてれば、いくらでも勝つチャンスはある。その意識は絶対に変えろ」「下になって当たり前、下になったら冷静に自分のポジショニングを考えながら、時間が経過するのを待て」そんな言葉を僕にくれたんだよ。ただ、基本的なことかもしれないけど、スミスから言われたからハートに響いたんだ。

――コールマンとやってる本人からそう言われると心強いですよね。

**高田** それをやった人だからね。そのとき、パーッと光が見えて「シアトルに来てよかったなぁ」と思ったね(上を見上げながら)。TKもいいヤツだしね。

――試合が決まった後、高田コールが起きて、高田さんもコーナーポストに上ってファンの歓声に応えてましたよね。あのときの気分っていうのは?

**高田** う~ん……あの瞬間こそ、なんにも言うことないっていうかね。だから、マイク向けられて「ありがとうございました」って言ったけど、それすらも言いたくなかったくらい。

――感極まってた部分もあった?

**高田** 今回、4ヶ月ぐらい前から試合の準備してたから。相手も相手だったし。直前にシアトルで気持ちがひっくり返ったっていうのもあるしね。いろんな意味で、重い時間を過ごしてきたから、素直に嬉しかったね。

――そういえば、前々号だったかな? 取材申し込んで断られたんですけど、そのころは重い気分だったんですか?

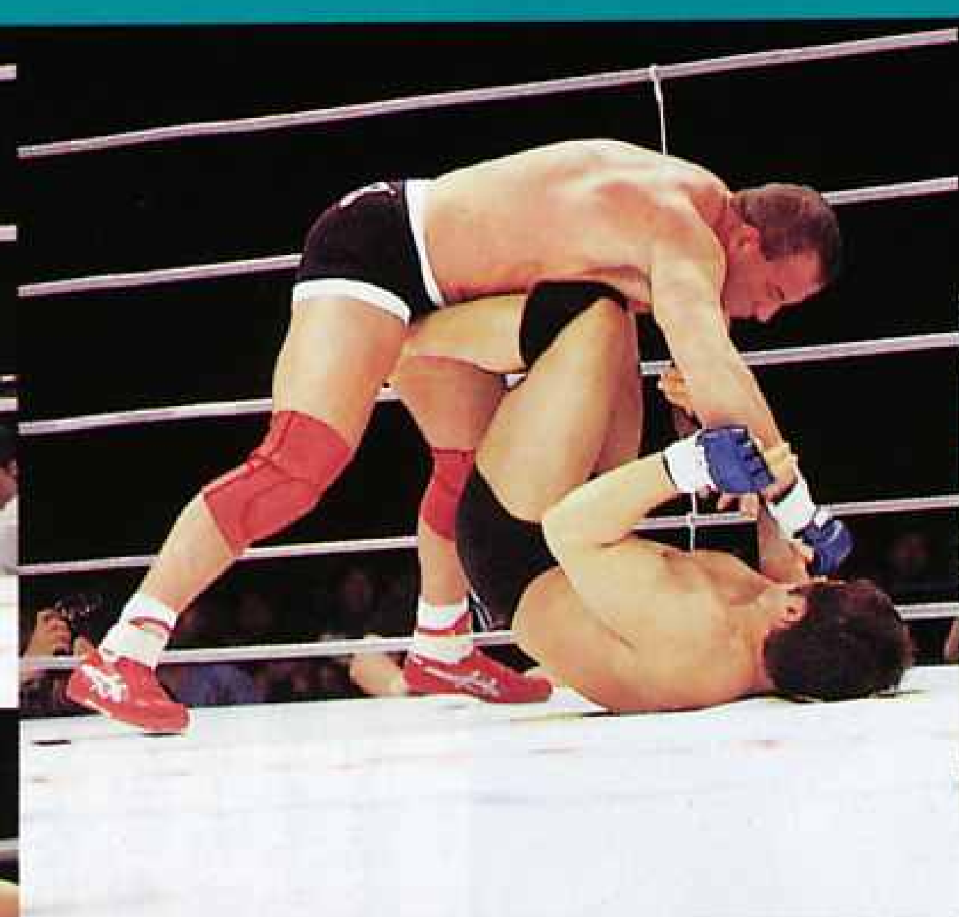
**高田** その頃は、前向きなことを言う気にならないし、ウソも言えないしさ、話すことないなぁって思ってね。だからホンット、シアトルに行ってよかったと思ってるよ。

――やっぱり、一足踏み出してみるものです

1R













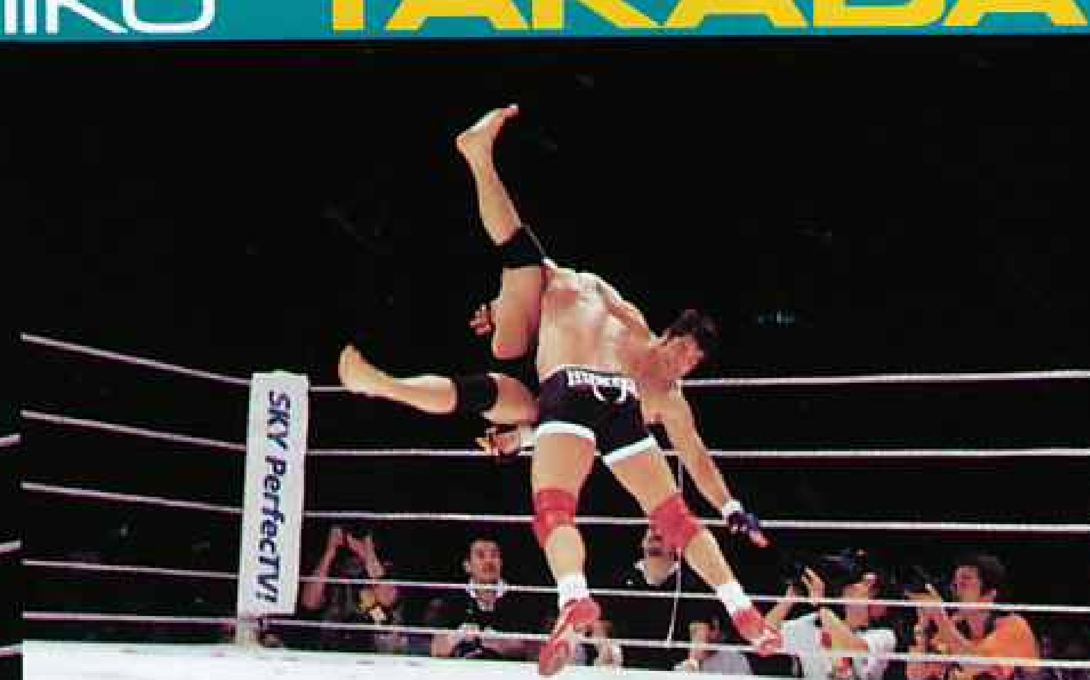


高田のセコンドにはTK(高阪剛)、ビクトー戦を終えた桜庭、松井が付く。1R立ち上がりから、コールマンのタックルに捕まった高田は、ルールで禁じられているロープを掴んでしまい、「注意」を受けた。マウントからのパンチを喰らい、たまらず"亀"になる場面や、戦慄の袈裟固めにヒヤリとする場面もあったが、高田は「TKガード」を駆使しつつ、コールマンのスタミナ切れを待った。コールマンのV1アームロックは汗で滑って極まらず。ここで1R終了のゴングが鳴った。

## Nobuhiko TAKADA

2R






2R開始。コーナーでスクッと立ち上がれないコールマンにかなりの疲れが見える。それを見逃さずに高田はUインター時代を彷彿とさせるローキックを打っていく。しかし、そのローに合わせて、コールマンが加速したダンプカーのようなタックル。またもや上になられた高田は身体を離しながら、チャンスを狙う。そしてシューズを履いたコールマンの足を取るや一発勝負に出る。ゴロリと回転して逃れるコールマンだが、高田は離さずにもう1回転。「これしかない」というヒールで極めた

か？

**高田**　うん（とびきりの笑顔）。

——コールマン戦の試合内容については満足してますか？

**高田**　俺ができることは、あれで精一杯。やれることはやったって気持ちだよ。いまの力ではコールマンの上になることはできないから、とにかく下で、どこまで辛抱できるかっていうのが戦略だったから。辛抱するには技術もいるしね。

——で、久しぶりの勝利の感慨にふける間もなく、試合後に小川直也に挑発されるという、とんでもない目にあいましたね。

**高田**　ああ（憮然とした表情で）。

——率直にいって、ああいうのは嫌いですか？

**高田**　嫌いだし、やるべきじゃないよ！　それまでみんなが一生懸命試合してきて、大事な空間を作り上げてるわけだから。選手にも失礼だし、そういう場所じゃないよね。一歩引いて、『ＰＲＩＤＥ』というリングを考えた場合にもそう思うし、選手として考えた場合にもそういう結論が出るしね。ワイワイ喜ぶ人もいるけど、俺自身はやってもらいたくなかったね。

——小川選手は「高田は普段プロレスラーを名乗ってるんだから、レスラーなら、ああいう形で挑戦されても逃げるな！」って言ってますね。

**高田**　俺がやりたいときは自分からアクションを起こして行くよ。そういう気持ちが生じれば動くし。「プロレスラーなんだから」っていう定義をこっちにハメ込まれても困っちゃうよね。一応、この世界で20年やってるんだから、自分のプロレスラー論というものも持ってるつもりだしね。オマエに「オマエ」って言われたくないよ。

——「呼び捨てにするな！」と（笑）。

**高田**　そういうこと。

——でも、佐野さんがＦＭＷの王座を取ったんだから、高田さんが小川直也とＮＷＡ王座を争うってこともありえなくないんじゃないですか？

**高田**　いまの段階ではありえない。１２０％ありえない。いろんな人から聞かれて、いちいち答えるの面倒臭いから、ハッキリ言っとくわ！　ありえない!!


——５００％ありえない？

**高田**　あんまり５００％っていうのはないから、ま、２００％でいいかな。

——ガハハハ！　懐かしの。

**高田**　安生（洋二）の専売特許だけどね（笑）。

——小川選手は「最初に高田さんが『東スポ』で船木（誠勝）・小川を指名した」と言ってますね。



## Nobuhiko TAKADA

**高田**　してないよ！　指名したら、俺は指名した責任を取る！

——あれは言い掛かりなわけですか？

**高田**　それは『東スポ』の記者が一番知ってるんじゃない？　なんでそうなったのか、俺にもよくわかんない。「二人とやる可能性はないんですか？」って聞いてきたから、「可能性としては、ありえなくはないんじゃないの？」って、ただそれだけだよ、答えたのは。俺からは名前は出してない。

——『東スポ』が「船木・小川」という名前を高田さんが出したように書いたと。

**高田**　そう。だから「選択肢としてはあるだろうね」っていう話をしただけなんだよ。それがいきなり「テメー、この野郎」でしょ？　どないなってんねん！って。

——そこから「チンピラじゃないんだから」という言葉が出てきたわけですね。

**高田**　一杯食わされたって感じだよね、東スポさんに。

——そういった騒動を抜きにして、小川直也という、いち選手の印象はどうなんですか？

**高田**　選手としては、そういう試合を見たことないから、まだ未知だと思う。

——いわゆるバーリ・トゥードですね。

**高田**　そう。でも弱いわけがない。俺は強いと思う。柔道で何回も世界選手権取るなんて、そうそうできることじゃないからね。力はあると思います。それは認めます。

——だけど、やる気にはならないと。

**高田**　それは生理的な問題で、強いヤツはまだ一杯いるしね。俺がもし、チャンピオンベルトを持ってるんだったら、いやがおうでも受けなきゃならない場合もあるだろうけど、俺は俺なりに自分のテーマを持って、やりたい相手を追っかけて、現役生活をまっとうするだけだよ。

——４・29の前に、Ｓｈｏｗ氏がつくった『オーバー・ザ・シュート』という本の中で「コールマン戦っていうのは一発勝負であって、先を見据えた闘いじゃない。ひとつの点としてあって最終的に一本のラインになっていけばいい」という発言をしてたんですけど、コールマン戦が実際に終わって、その「一本のライン」は見えましたか？

**高田**　見えない！

——そうすると、高田さんが今後バーリ・トゥードを続けていくテーマはなんなんですかね？　ホイス（・グレイシー）戦というのは以前から出てますけど。

**高田**　それはある意味で、自分に対してのニンジンじゃないけど、いま「点」を生きるためのひとつの目標であって、できるかできないかっていう保障はないわけだよ。だから、強い選手とのベストファイトを自分の力でつくり上げていくっていう作業をやっていけば、そ

のニンジンが近くなってきたりとか、次も強い選手とできるということになると思う。

――7月4日の『PRIDE.6』には出るんですか？

**高田**　まったく白紙です。いろんな意味で、その都度その都度、自分を見ながら歩いてるっていう状況だから。言ってしまえば、いまはなんにも考えてない状況だね。

――4・29では、ヒクソン（・グレイシー）も柔術のデモンストレーションをやりましたけど、いまのヒクソンに対する印象は？

**高田**　なんにもないね。彼との試合前の関係と、いまの関係に、あまりにも距離がありすぎて、客観的に見えすぎちゃうよね。まぁ、デモンストレーションでもなんでもやってよ。ただ、会場に来てる人は試合を見に来てるんであってね。はたして、あれを見て満足してるのかなー、とは思うね。

――「山篭りしてお坊さんや侍みたいなイメージを持ってるヒクソンに、幾分憧れみたいなものを持ってた」とも高田さんは言ってましたよね。

**高田**　うん。たくさんの人がそういう思いを持ってたよね。

――一部のマスコミをはじめとして（笑）。

**高田**　よく考えれば（アブドーラ・ザ・）ブッチャー、（タイガー・）ジェット・シンの山篭りと変わんないからね。

――ガハハハ！　ブッチャーとシンは山篭りしないと思いますけどね。

**高田**　要するにプロモーションっていうか、演出だよね。それも彼の武士道然としたものをつくっていく材料だったんだね。

――「そういったものに一番騙されてたのが1戦目（97・10・11）の俺だった」とも高田さんは言ってましたね（笑）。

**高田**「オマエが騙されてどうすんだよ！」って、自分で自分に突っ込みたくなるよ（笑）。

――2戦目の高田vsヒクソン戦が、もしも1戦目だったら、マット界もガラッと変わってたでしょうね。あ、別に責めてるわけじゃないですよ（笑）。

**高田**　いや、責めてる責めてる。まったく、この男だけは（笑）。

――いや、僕は誰よりも、高田さんの2度のヒクソン戦はマット界に大きな問題提起をしたと思ってますから。だから、いまのマット界も、ある局面によってガラッと変わることってたくさんあると思うんですよ。そういう意味で、小川選手が『PRIDE』に入ってきたのもいい起爆剤になれば、と個人的には思いますけどね。

**高田**　……俺にはわからないよ。

**※キッズファイターが「イーチッ、ニィッ、サンッ、シィィィ」と、またもや甲高い声で絶叫しながら整理体操を始める。とにかくキッズは元気だ！**

――では。高田さんが『PRIDE』のリングに上がる目的を、いまから5つ挙げる中から選んでほしいんです。

**高田**　オッ、面白いねぇ（笑）。

――①バーリ・トゥードの世界でトップを目指すため。②バーリ・トゥードを世の中に広めていく役割だと思っているため。③バーリ・トゥードというものを通過して、「新しいプロレス」を作っていきたいため。④プロレスと格闘技の壁を取っ払いたいため。⑤最終的にヒクソンへのリベンジを果たす、あるいはヒクソンに負けたというイメージを払拭していくため。この5つから選ぶとしたら、どれですか？

**高田**　（もう一度聞き直した上で熟考）全部！　全部だね！　ひとつも欠かすことはできない。

――じゃあ、バーリ・トゥードをもっと広めていきたいという思いも高田さんの中にはあるわけですね？

**高田**　そういう思いもあるし、自分が出ることによって必然的にそうなってくれればっていうのもある。いままで見たことなくて、自分がヒクソンと2回やったことによって、バーリ・トゥードというものを知った人っていると思うんですよ。だから、結果的にそういう役割をしてるんだよ。

# 一応この世界で20年やってるからね。オマエ（小川直也）に「オマエ」って言われたくないよ！

――高田さん自身は、グラウンドでの顔面パンチというものにはもう抵抗はない？

**高田**　どっかに生理的に合わない部分ってあるよね。ただ、その中に踏み込んだ以上は、正面から捉えて、自分をつくり上げていくしかないなという気持ちだね。

――世界に通用させていくには掌底ルールとバーリ・トゥードとどっちだと思いますか？

**高田**　ダメージでいったらそんなに変わんないから。ただ、ゲンコツで殴るほうが野蛮性は感じられるかもしれない。ただ死ぬまで殴るわけじゃないし、いまは、選手を保護するレフェリングがシッカリしてきてるから。それも含めたルールさえ完成していれば、ノー問題じゃない。

――初期のアルティメットとは違いますからね。

**高田**　そのへんがちゃんとできてれば、どっちでもいいと思うよ。

――高田さんは今後も『PRIDE』が主戦場になるわけですか？

**高田**　そうだね。

――佐野さんのように、従来のプロレスのリングに上がる可能性は？

**高田**　俺は「今後、これ一本でいく」とは宣言してないし、自分が闘いたい選手や、上がりたい団体があれば、上がらせてもらう可能性はありますよ。

――高田道場開設当初は「従来のプロレス団体と絡むことは考えてない」というコンセプトでしたけど、そこらへんは柔軟に「時の流れに身をまかせ」という部分もあるんですか？

**高田**　まあ、そのとき自分がなにをやりたいのかってことだよ。いまは『PRIDE』のリングを中心に高田道場は回転していくと思うよ。ただ、（豊永）稔がリングスやパンクラスにも出させてもらってるからね。『PRIDE』が中心にはなるけれども、スタンスとしては、ズッとニュートラルでいいと思ってるよ。佐野みたいなパターンもあるし。

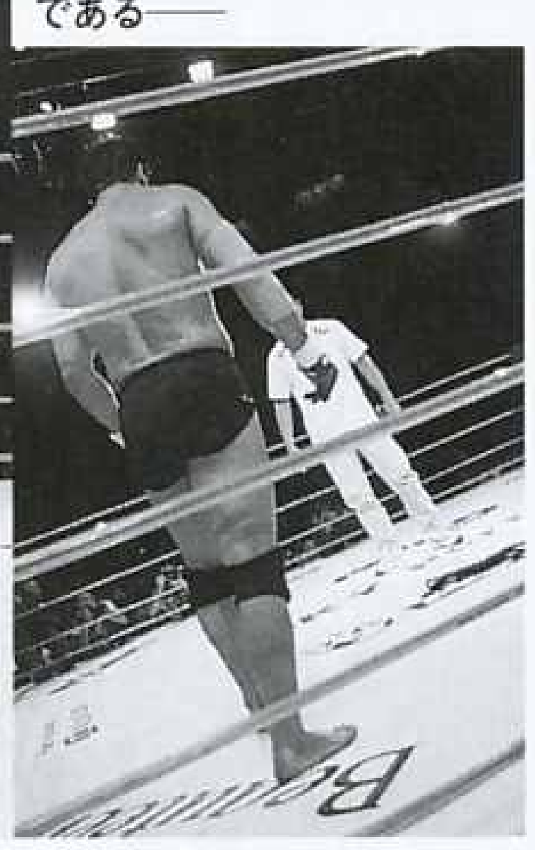
――そういう意味では高田道場は面白い形態ですよね。桜庭さんの中では、いまやってることが「新しいプロレス」という認識なんですけど、高田さんの中ではどういう認識ですか。

**高田**　『PRIDE』は、究極の「プロレス」のスタイルだよ。いまも含めて未来系のプロレスだね。一生懸命転がりながらつくり上げていく「プロレス」になると思うね。

――高田さんは「そういう時代のなかでプロレスラーは強いんだろうなという幻想が崩れた。プロレスは幻想が頼りだった」って発言もしてたんだけど、プロレスというのはこれからどうなっていくんでしょうか。

**高田**　どっちかに分かれると思う。未来形プロレス、要するにバーリ・トゥード系か、あるいはWWFみたいにストーリーを作ってドラマから入っていくようなものか、どっちか





高田が勝ち名乗りを受けているところに、マーズアタックを仕掛けたUFO・小川直也。「必ず実現させたい」と対戦アピールをする小川に対し、サッサと花道を引き揚げた高田は「ありえない」と明言。どう転ぶかわからないが、『PRIDE.』のリングのマグマが動き始めたのは確かである――

に。その真ん中に存在するのは非常に難しい状況になっていくんじゃないかと思うね。

──徹底した勝負か、徹底したエンターテイメントか。

**高田**　うん。

──例えば世間からは「プロレスなんてインチキだ」という声がある。そういう人たちを見ただけで黙らせるような闘いをしていくか、そう言ってる人も文句なく楽しませる方向に行くか。どっちかに分かれるということですか。

**高田**　そうなることによって「プロレスってこうなんだ」という定義が初めてつくられるんだよ。それは非常に大きいことですよ。ただ、そのふたつの場を行ったり来たりする選手がいてもいいんですよ。

──それ、佐野さんじゃないですか（笑）。

**高田**　そう（笑）。今月はこっち、来月はあっちとか、あっていいと思うね。

──高田さんがエンターテインメント方向に行くことはありえないですか？　コールマンもマーク・ケアーもWWFやWCWから声がかかってる。高田さんに声がかからないとも限らないわけですよね（笑）。

**高田**　ハハハハ。かかったら、ちゃんと交渉のテーブルには就くよ。WWFは、ボクらの少年時代の夢のリングだからね。

──だから、どっちも夢なんですよ。WWFも夢だし、いまの『PRIDE』みたいなリングも夢なんですよね。両方とも子どものころに見たプロレスのイメージなんですよ。

**高田**　エンターテインメントのほうも、盛り上がれば盛り上がるほど威張れるわけですよ。「面白いんだからいいじゃない」って。でも真ん中にいるところは、いつまでたっても定義がつくれないんだよね。定義がない世界って本当は存在しないんだよね。

──なるほど。それでは最後に。去年の9月にインタビューしたとき、馬場さんの高田さんに対する辛辣なコメントに対して、高田さんが馬場さんに辛辣なコメントを返したことがありましたよね。

**高田**　うん。

──ウチも、まさかあの後に馬場さんが亡くなられるとは思ってなかった。だから、元気な者同士のプロレスに対する理念のぶつけ合いだと判断して掲載したんですよね。結果的に高田さんにも心苦しい思いをさせてしまったんですけど、馬場さんが亡くなられたときは、なにを感じましたか。

**高田**　『紙プロ』が一瞬、頭に浮かんだ。

──あ、ウチが「言わせた」ということですか。

**高田**　いや、そういうのってあるじゃない？　でも、なにか言った相手が急に亡くなるとか考えてケンカしないからね。考え方とかの違いは誰にもあることだから。それぞれの思想、理念。それは先輩とか後輩とか関係なく、どの世界でもあることだから。自分の考えということに関しては、ウソ偽りないことをそのまま言わせてもらったということなんだよね。ただ、馬場さんがやってこられたことに関しては、日本の人たちに大きな夢を与える大きな仕事をされてきたわけですから、敬意を表してます。それに関しては本当に「お疲れ様でした」と言いたいです。

──決して高田さんは馬場さん個人を恨んでたわけではないですからね。仕事に対するイデオロギーの違いがあったということですよね。

**高田**　何回かお仕事もさせていただいてるし、会ってお話もさせていただいてるしね。そういう意味ではお世話になってるし、感謝してる部分もあります。それとは別の部分で若干のズレがあって、それを正直に言っただけなんですよ。

──馬場さんが亡くなって、高田さんと同世代の三沢（光晴）選手が全日本の社長になりました。高田さんも団体の社長を経験されている立場として、なにかメッセージがあれば。

**高田**　馬場さんの遺志を継いでみんなの力で守っていってください。それくらいしか言えないね。

──ありがとうございました。そういえば、さっき、キッズファイターに「『デコビタ』見たよ～」って言われてましたね（笑）。

**高田**　デコビタだからね（笑）。

──キッズに『さっきはゴメンね』とかからかわれたりしないんですか？（笑）。

**高田**　さっき言われた。「『ゴメンね』って言ってたねぇ」って（笑）。「いつも飲んでるんだ」とか「冷やして飲んでるよ」とか、いろいろ報告があるよ。

──ガハハハ！　いいですね。

**高田**　うん、かわいい。純粋で。俺もキッズの元気に負けないようにしないとね。

**【5月15日／東京・池上／高田道場にて収録】**




## （WWFから）声が掛かったら？ ちゃんと交渉のテーブルには着くよ。少年時代の夢のリングだからね

**本人が好むと好まざるに関わらず、高田が動けば、プロレス界には大きな波風が立ってきた。**

**再び光を放ちはじめ、7・4『PRIDE.6』では大物との対戦も噂される高田の今後の動向は、その周辺の声も含めてマット界全体に対する問題提起&キーポイントになっていくはずである。**

**そして高田が言うように、マット界は、バーリ・トゥード系と、WWFのようなスケールの大きいエンターテインメント系に二極分化していくのか。**

**マット界全体の方向性を占うヒントという意味でも、今後の高田の動向からは目が離せないのである。**

原始猿人

# 検証 ヴァーゴン

はたしてこいつは

## 人か？ 猿か？ プロレスラーなのか？

謎のベールに包まれたその存在を徹底分析!!



4月27日、みちのくプロレスが東京で久々にビッグマッチを行った。が、そこに集まったどんなビッグネームよりもファンの関心を一気にくすぐったのが…この原始猿人ヴァーゴンである!! 毛むくじゃらの怪奇派然とした奇妙なレスラーがなぜ、そこまでファンの関心を集めたのか？

それは名前のインパクトもさることながら、プロレスファンも共通体験として元祖・バーゴンの影響を受けているからだろう。え？「元祖・バーゴンなんか知らない」って？ では、教えて差し上げましょう。17年前に日本中を席巻した、科学では解明できない"未知の魔獣"原始猿人バーゴンの正体を!

構成／本誌ヴァーゴン特捜班（ノブ＆ジャイ子）
text by Nobu & Jai

ゴン のひみつ

17年前、川口浩に発見された
原始猿人 バーゴン

協力・資料提供／石川重徳
協力／鶴岡法斎＆秦野邦彦








50 忍者ハットリくん
00 霊感ヤマカン第六感 堀ちえみ 中島はるみ 中条きよし 尾形大作
30 水曜スペシャル「謎の原始猿人バーゴンは実在した!!パラワン島奥地絶壁洞穴に黒い野人を追え!!」恐怖!!人食いワニ・大蛇・女裸族毒矢の猛襲▽密林探索2400キロ 川口浩
8.51 ミニ招待席◇54回N
00 欽ちゃんのどこまでや

放送日（82年6月9日）の翌日、小学校はバーゴンの話題で持ちきりとり、ブサイクな女子には「バーゴン」というあだ名がついたそうである。じつに悲しい話だ




この頃のテレビ朝日は、プロレス中継もタイガーマスク人気でイケイケ状態だった時期でもある。この頃のTVは本気で子供心に掴みかかっていたから、熱気がいまとは違うのだ!!

**【検証】**
**フィリピンのジャングルで発見された**
**未知の魔獣**
## 原始猿人バーゴン

いまから17年前、原始猿人バーゴンはすでにその姿を日本国民の前に晒していた。テレビ朝日『水曜スペシャル』の枠内で放送された“川口浩探険隊”が、フィリピンで、その姿をカメラに収めていたのである。ここでは当時の貴重な資料を交えながら“バーゴン”と“ヴァーゴン”の違いを検証してみたい。

フィリピン・パラワン島の奥地に踏み入った川口探険隊は、資料によれば「人食いワニ、大蛇、女裸族毒矢の猛襲」の妨害にあいながらもジャングルの奥地を探険したという。そして探険隊は絶壁洞窟の中で、遂にバーゴンと思われる原人に遭遇!! ぼやけた映像の中に見えたのは、人間の姿形をした裸の原住民族のようだ。しかも手には槍を持っている！

体毛もなく、先日のみちのくに現れたヴァーゴンよりは、断然人間に近い。武器も使えるのだからＩＱも高いはず――この映像を見る限りバーゴンとヴァーゴンの間には、ダーウィンの進化論もひっくり返る、退化論とでも呼ぶべき進化の逆流が発生しているようだ。人間が17年間で猿になってしまうとは……まさに現代科学を超越した「未知の魔獣」（by川口浩）である。

“川口浩探険隊シリーズ”に造詣の深いフリーライター石川重徳氏は「この番組を『ドキュメンタリーじゃない』と怒る人もいます。『フェイクメンタリー』という人もいますね。でも、本物でもつくり物でも、そこだけにこだわるとつまらなくなりますよ」と語る。これはそのまま“プロレス”にもあてはまるのではないか？ 当時のバーゴンにしても、今回のヴァーゴンにしても、虚実の狭間を揺らめく幻獣である。実際、神の創造物なのか、人造物なのか、あるいは人間なのか、いまもって定かではない。しかし、見た人の心には、深く突き刺さって抜けない棘の如く、いつまでもひっかかり続ける――バーゴンは進化することだけを追い求めた人間社会とマット界に対して自然が送り込んだ警告かもしれない。

『ヴァーゴンと闘った男』
サバイバル飛田が語る
## 「オレとヴァーゴン」

**恐るべき原始猿人ヴァーゴンと唯一闘った人類・サバイバル飛田。2回に渡って「人間と猿人のリアルファイト」を繰り広げたサバイバルなこの男に本誌ヴァーゴン特捜班の紅一点・ジャイ子が直撃インタビュー！ 原始猿人ヴァーゴンの恐怖体験を語ってもらった。しかも!! 恐怖のためか、生まれつきか、飛田氏の声は終始ボソボソと呟くウィスパーボイスなのであった！**

……そもそもヴァーゴンはね、東江戸川大学の探険部の奴らが雲南省で見つけて、オレのところに「どうしたもんでしょう？」って相談してきたんでね、とりあえず連れてきて貰ったんですよ。探険部のヤツらもね、一人で電車に乗れないようなヤバいヤツばっかりなんだけど。探険だけはできて、動物と対話するのは得意なんだよな、みんな……他になにもできないくせに（ボソボソ）。

ちょうど旗揚げ戦の会場も押さえられたし対戦してみようかと。どんなもんか、わかんないまま試合しちゃって。どうにもなんないでしょ、アレは。ルールなんて通用しないからね。……ホント、力ばっかり強くて（ボソボソ）。試合後、大急ぎで麻酔を極秘ルートで手配してね、人間用の麻酔をとにかく濃くして大量に打ちましたよ。麻酔が切れたらまた大変なことになるでしょ？ すぐに檻ごとクール宅急便で雲南省に送り返したんですけどね、宛先不明で送り返されてきちゃったんですよ。とりあえず「危ないから凍らせよう」ってことになって。そんなときにサスケさんがなんか言ってきたんですよ。あれだって試合までに解凍できるか見当もつかないしね、

# 徹底検証 原始猿人 ヴァー

**【検証】**
**蘇った原始猿人**
**プロレス猿**
## 原始猿人ヴァーゴン

1999年3月29日、大田区民プラザ。埼玉プロレス旗揚げ戦のメインイベントでサバイバル飛田と対戦したのが、17年振りに日本国民の前に姿を現した、原始猿人ヴァーゴンである。

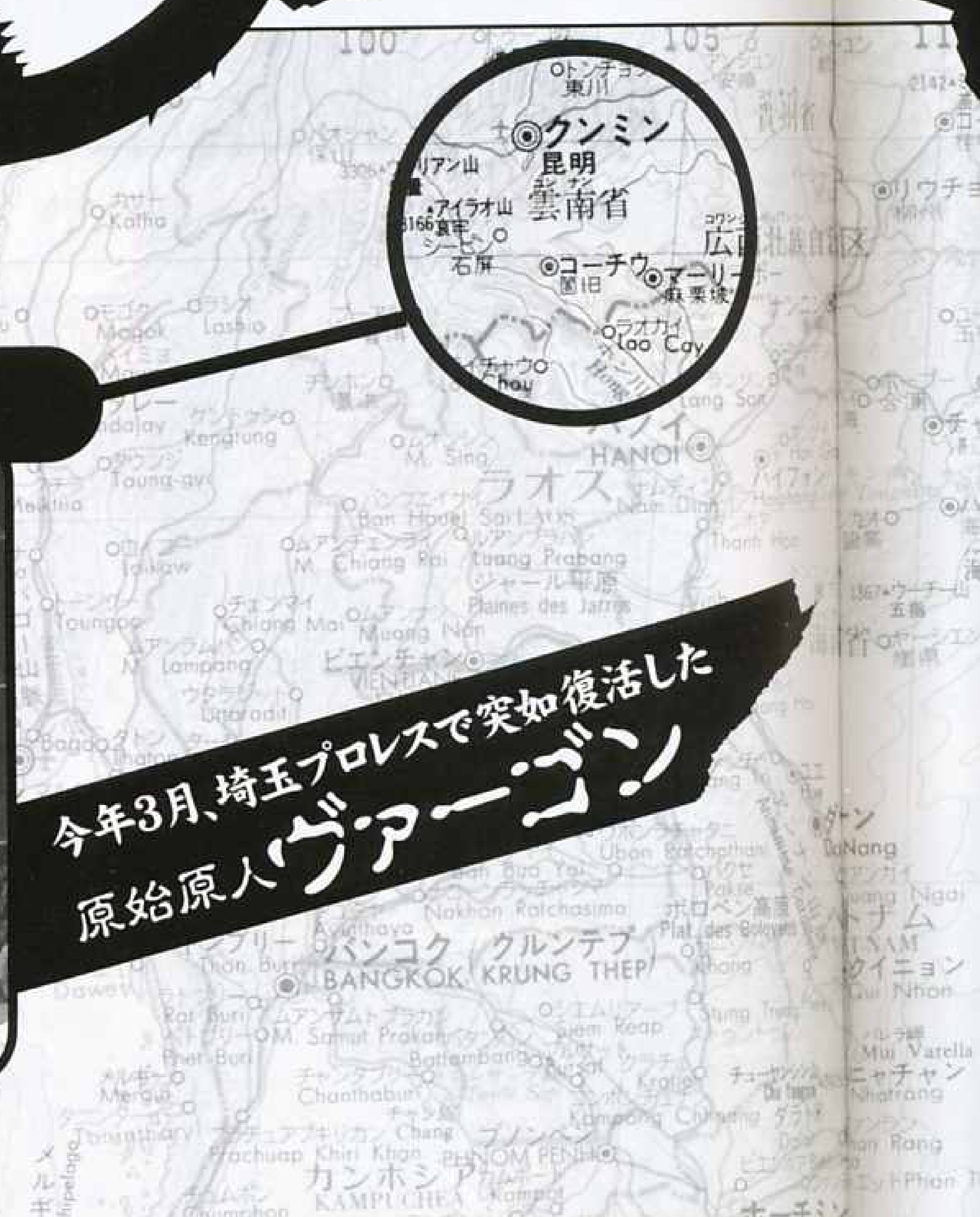
当初、集まった観客はただのマスクマンだと思っていた。しかしそこに現れたのは紛れもない猿人!! なにしろヴァーゴンはＩＱ０である。入場時も、リングに上ることすらままならない。飛田には目もくれず場外をひたすら走り回ったかと思えば、気が向くとコーナーポストに登ったりもする。すると、そのまま飛び降りて再び場外へ。結果、両者リングアウト。延長戦は飛田が強引にパイルドライバーを決めて勝利を飾り、旗揚げ戦は静かに幕を閉じた。ヴァーゴンはその後冷凍保存され、そのまま中国に返還されたのである（後に戻ってきてしまう）。

しかし、平和な時間は長くは続かなかった。突然、ザ・グレート・サスケが埼玉プロレスに噛み付いたのだ。当初はみちプロのマネをして地域密着型の団体を旗揚げしたことが気に入らない様子だったが、「見てみたいな、そのヴァーゴンとやらを」と、本音の部分では原始猿人に興味津々。そして４月27日、みちプロ大田区大会の第０試合で飛田vsヴァーゴンの再戦が決まった。

危険なため冷凍保存されていたヴァーゴンだが、その解凍中に一度だけ報道陣に公開された。しかし、あまりの異臭で早々に打ち切られたという。

結局、ヴァーゴンは当日溶けきらないまま檻に入れられて会場入りするというあわただしさだった。

ヴァーゴンは白い布に包まれて入場してきた。布を外されると大観衆に興奮したのか、前回以上の暴れっぷり。客席になだれ込んだり、サスケを投げ飛ばして失神させる姿には会場中に戦慄が走った。しかし、ＩＱ０なだけあって、成長の跡が見えないヴァーゴンはまたもや飛田のパイルドライバーでフォールを奪われ、再び祖国へ強制送還されることになった（現在は何者かに誘拐され行方不明）。




**中国・雲南省出身**



今年3月、埼玉プロレスで突如復活した
原始原人ヴァーゴン


迫り来る原始猿人の恐怖!!

東江戸川大学探検部の捜索隊が
中国雲南省で遭遇、格闘の末、
捕獲に成功。日本に第2大和丸で
持ちこまれる。その際、海上保安庁に
拿捕され、野苛島の東光特等少年院へ
移送されるも、模範囚として仲間からの
信頼を集めた。出所後、真面目にサラリーマン
として働くも、バブルの崩壊に伴い、職を失う。
身長170～185センチ前後
体重推定170キロ
やや怒り肩、ラガーマン体型。
右手薬指に三日月型の傷有り。

▲97年社員旅行、T部長と

埼玉プロレスの旗揚げ戦のパンフレットよると、ヴァーゴンの経歴は、雲南省→少年院→サラリーマン→バブル崩壊→現在は無職という、想像力をブッちぎる壮絶なもの



4月21日、解凍中のヴァーゴンが報道陣に公開された。都内の青果市場にこっそり隠したらしく、見つかるとやばいらしい。強烈な異臭が漂っていたという



サスケは率先して、搬入、運搬を買って出たうえにレフェリーまで務めてしまった。この男のアンテナに触れるということは、これからヴァーゴンがどこかでブレイクする可能性も……。

まいりましたよ。……溶けたからよかったけど（ボソボソ）。

ヴァーゴンが臭い、臭いってみんな言うんだけど、オレわかんないんですよ。……鼻が悪くって。ラッキーでしたよ。……ひぐまの匂いとひじきの煮すぎたヤツの匂い足して2で割ったような匂いって評判でしたよ。想像つかないでしょ　ま、獣特有の匂いです

普段、ヴァーゴンは体重１６０キログらいなんですよ。旗揚げ戦と大田区でパイルドライバーがかかったのはテコの原理。……支点、力点、作用点。そのバランスですよ。

これ以上置いといても危ないからＧＷのある日、船で晴海から中国に送り返そうとしたんだけど。冷凍庫付きの船の中に開かずの間があってそこに入れといたんだけど、翌日バールのようなものでこじ開けられてたんですよ。気付いたときはもぬけの殻で。……いま名探偵カゲマンに頼んで探してもらってるんですよ（ボソボソ）。

昔、『水曜スペシャル』の川口浩探険隊でもやってたって言われるんですけど、あれは「バーゴン」でウチに出たのは「ヴァーゴン」。似て非なるものですよ。「バ」と「ヴァ」が違うんですよ！　バーゴンはフィリピンにいたんでしょ？　だから体毛もないよね、フィリピンは暖かいから。育った場所で進化の過程が変わってくるんだとは思うんですけど（ボソボソ）。

結局ヴァーゴンとは2回闘いましたけどね、アレですよ！　ドラマとかで、ケンカして掴み合ったまま河原をゴロゴロ転げ落ちて、最後にお互い顔を見合わせて高らかに笑う、みたいな。それプラス動物愛。そんな感情が芽生えてきました。（談）

**【サバイバル飛田さんからのメッセージ】** オレは７月上旬の興行に向けて目下資金繰りに東奔西走中です。励ましのお便りください。切手とプリクラ同封の上『紙プロ』宛てに。あ、「サバイバル飛田のペンパルになってちょ」係にしましょう。よろしく。





# 緊急速報!（ほぼ月刊誌なりに）

# U.F.O. 小川直也に RINGS 山本宜久が挑戦表明!!

## 8・19RINGS横浜文化体育館で激突か!

**5・22RINGS有明大会を震源地に、マット界にまたもや地殻変動が起こった!!「世界最強の男はリングスが決める」がキャッチコピーのRINGS・山本宜久が「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」がモットーのUFO・小川直也に挑戦表明をブチ上げたのだ。**

5・22RINGS有明大会。直前になり「rAwチームとの交渉決裂」というハプニングがあり暗雲垂れ込める大会となったが、実際当日にも大ハプニングが続いた。

ダン・ヘンダーソンとのスペシャルマッチが流れた金原弘光は、ヴァレンタイン・オーフレイムにTKOで敗れ、UFCミドル級出場を希望する成瀬昌由は、ベテラン、ヴォルク・ハンの牙城を崩せなかった。

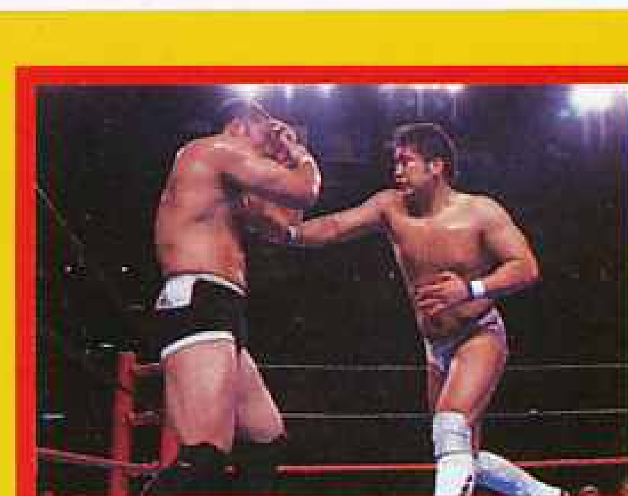
そして今や世界のTKとなった高阪剛相手に山本宜久はバチバチのシバキ合いを展開した末に、激闘を制した。

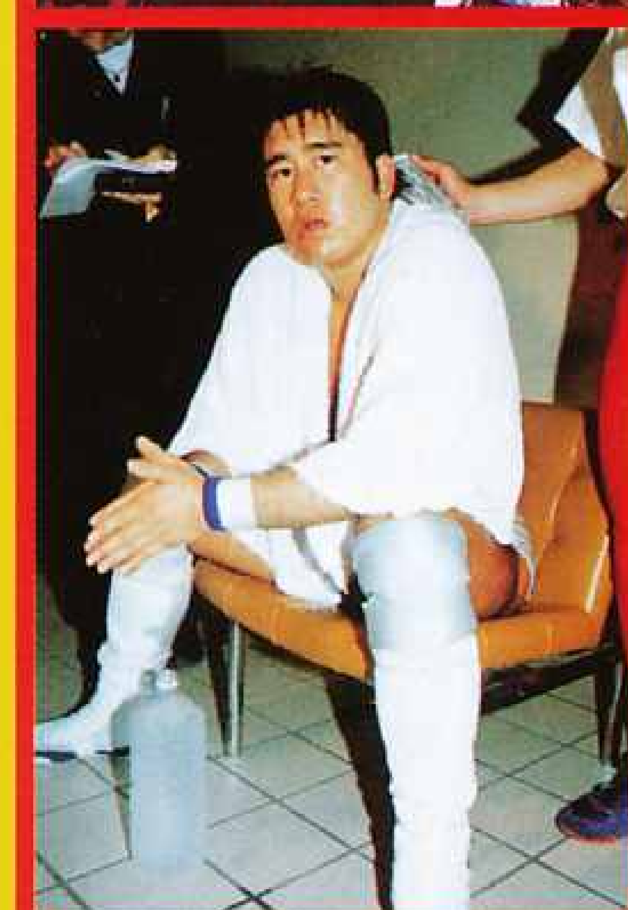
メインエベントは田村潔司がビターゼ・タリエルを裸絞めで下し、一年振りの無差別級王座に返り咲き。その瞬間会場は総立ちに近い状態となり大歓声に包まれた。

この日は全体的に旗揚げ当初のようなアーリー・リングスチックな激闘が繰り広げられたわけだが、メインエベントが行われている舞台裏では、ある意味リングスを象徴する存在の山本宜久が、UFO小川直也への挑戦をブチ上げていた!!



久々にベルトを腰に巻いた田村は、マイクを握ると「特にリングスジャパンの選手達、ボクと闘いたいと思ったら、一つでも勝ち星、実績を残して下さい。ボクはいつでもチャンピオンとして闘いを受けます」と、いかにも田村らしいアピール。





「話は変わるんですけど」、山本は高阪戦についてのコメントを終えると、自らこう切り出した。「今、小川直也選手がいろいろと発言してますけど、彼は柔道のチャンピオンで強いと言われてますので挑戦したいですね。彼は逃げないっていう方針を持ってますんで、ボクの挑戦を受けて欲しい」と突然の対戦表明をブチあげたのだ。

4月下旬の一部報道では、前田側の申し出により猪木・前田のトップ会談があったことが報じられ、「小川vs田村のUFO vs RINGS頂上決戦実現か?」と話題になった。実際名乗りを上げていたのは、田村ではなく山本宜久だったことを本誌はもちろんキャッチしていたのだが、それが遂に公式に表に出ることとなったのだ。

過去に小川の試合を見たことは? との問いに、山本は「橋本戦だけですね。見ても何とも思わなかった。怖さを感じたとかいうのも全然ない。やれば勝つ自信はもちろんあります。ボクとやることによって、彼は恐怖とかそういうのに変わってくるんじゃないですかね。ボクは（対戦が）決まったらタダじゃ（リングを）降ろさないし、絶対どっちかがブッ倒れるまで必ずやります!」と山本らしさ全開の言葉で締め括ると、「あとは前田さんに聞いて下さい」と言い残し控室へと姿を消した。

大会終了後、山本の発言を受けて前田CEOのもとへ報道陣が大挙押しかけた。

前田は交渉の事実は認めた上で、「でもUFOとの交流というと、ちょっと違うんですよ。ウチはプロレスには全く興味はないんですよ! ただ小川君は元柔道世界チャンピオンとか世界選手権を制してるし、それに小川君の発言とか読んでると、前向きにいろんなことやっていきたいっていうのを読み取れたりするんで、それだったら、やればいいんじゃないっていうね。8月の横浜文体でできたらいいなと思いますね」さらに続けて、「小川君は、良くも悪くも元気のいいことを発言して注目を集めてるんで、それをひっくり返したらいいトロフィーになるじゃないですか。グレート・ハンティングの獲物ですよ。グレート・ハンティングせえって感じですね（笑）」と対戦実現への手応えアリと思われる余裕の発言を繰り返した。

山本の発言を受けた小川は、さっそく5・25付けの『東スポ』にて「挑戦したいなら、それなりの行動があるだろう。UFOの6・29大阪大会に、挑戦状を持って来い。何ならオレの対戦相手を空けて待っててやろうか? そこでやってもいい」「彼はリングスのNO1ではないんだろう。UFOもナメられたもんだ。言った分はリングで責任をとってもらう。覚悟して上がってこい」と相変わらずケンカ腰の逆挑発に出た。

「PRIDE」から「RINGS」へと、小川の襲撃三昧生活は当分続きそうだが、そろそろ「PR」だけではなくリングで大暴れをする小川を見たいものだ。その相手が山本宜久相手だとしたらノー問題! 超大型日本人同士のVTか、シバキ合いか、それとも大型格闘芸術か。時を待て!

※この大事件の詳細は次号にてキッチリお届けしますのでお楽しみに。ジャイジャイ。

日本マットでもお馴染みのオーエン・ハートさんが「WWF」PPV収録中における不慮の事故により急逝されました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。
『紙のプロレスRADICAL』
編集部一同

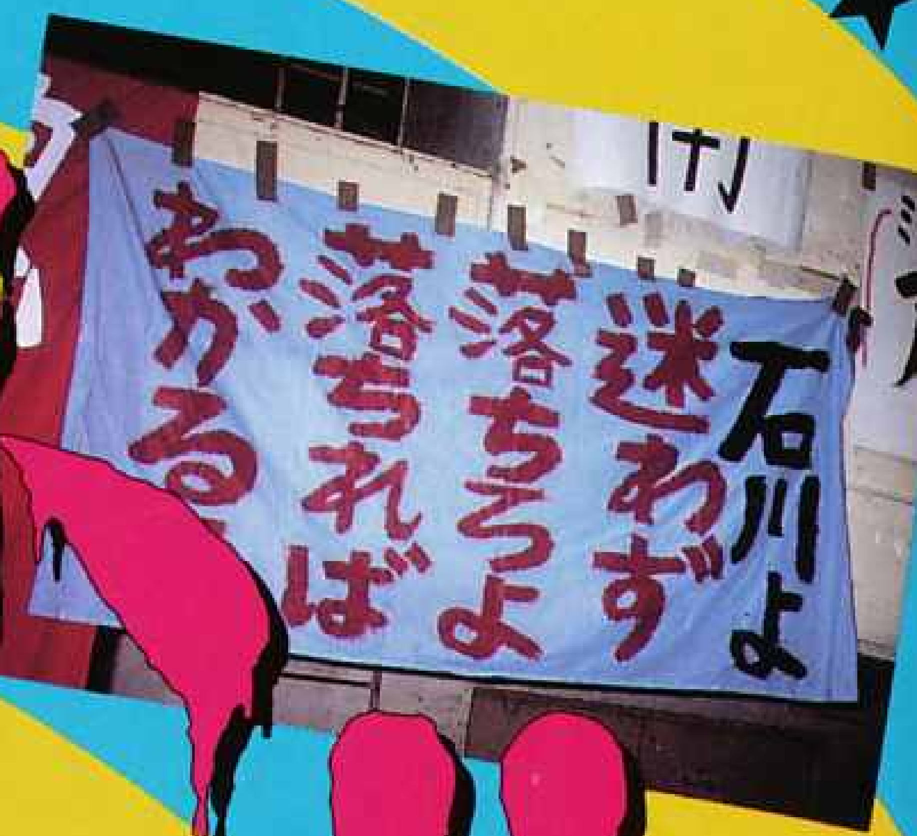


**大会直前になり「rAwチームとの交渉決裂」とのリリースがあり、金原弘光vsダン・ヘンダーソン、ヴァレンタイン・オーフレイムvsランディー・クートゥアーというマニア垂涎のスペシャルマッチがキャンセルとなってしまった。ファンからもブーイングが上がった、この「rAwチーム問題」。前田社長の5・22での公式コメントを再録してみよう。**

**前田** rAwチームは土壇場になって「ギャラ2倍にしろ」って言ってきてたんですよ。いろいろ調べたら、修斗でも同じことやってて、修斗もやっぱり蹴ったんですよね。それは正しい選択で、これ以上それでやっちゃうと、どこの興行団体も存在し得なくなるんですよ。それを誰も言えないっていうのはおかしな話なんですよね。それでrAwチームの言い分ではね、ドリーム・ステージ・エンターテインメント（以下DSE）から2倍のギャラの提示があったと。オレらにしてみれば、「なんだ、その横やりは」ってとこもあるんで、その件を含めてDSEに抗議に行きます! rAwチームにも抗議します! 現実にね、興行会社の試合の在り方として、マッチメイクの方が早いんですよ。今回も、クートゥアーの試合を組んで、そのあとに契約書送っても、なかなかサインして送られて来ない、と。で、一週間ぐらい前になって「サインできない」と。でもね、一番最初、クートゥアーに、5月の試合を「リリースしますよ」って言ったら「いいですよ」って言うんでこっちもやってるんですよ。それは口約束って言われるけど、この格闘技業界はそういう風にやらんとできないんですよ。こんなんはね、プロの選手として、マナーの部分で最低のことですよ、最低! 向こうは「契約書送ってないからいいじゃないか」って言うけど、じゃあなんでOKしたんだって。こういうことがあるとね、怖いんで使えないです。今回、金原もオーフレイムも可哀想やったけど、二人を組ませるしかなかったんですよね。ヘタしたら2試合キャンセルですよ。ウチらみたいに6試合、7試合しかやらない団体じゃ、それこそできないですよ。それでドタキャンしといて「8月に使ってくれ」とか、バカなこと言ってるんで、「寝言は寝て言え!」って言ってやりましたよ。

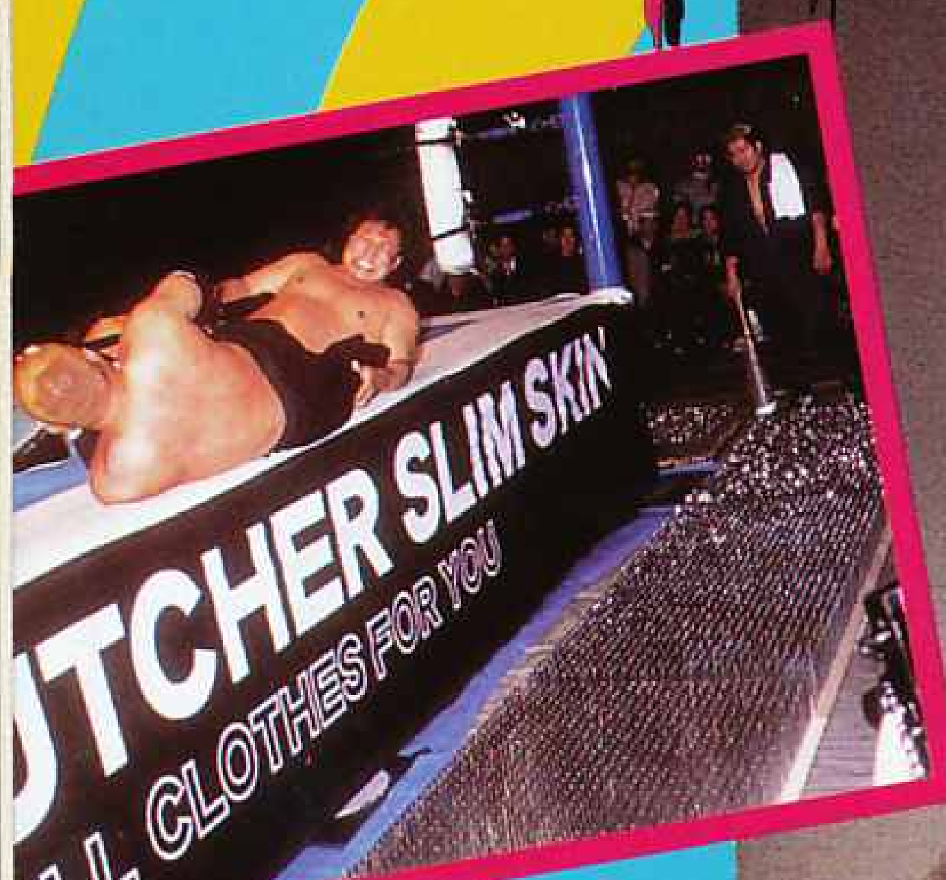
★5·14バトラーツ札幌大会『甦れ！ゴールデンタイム伝説』感想文！★

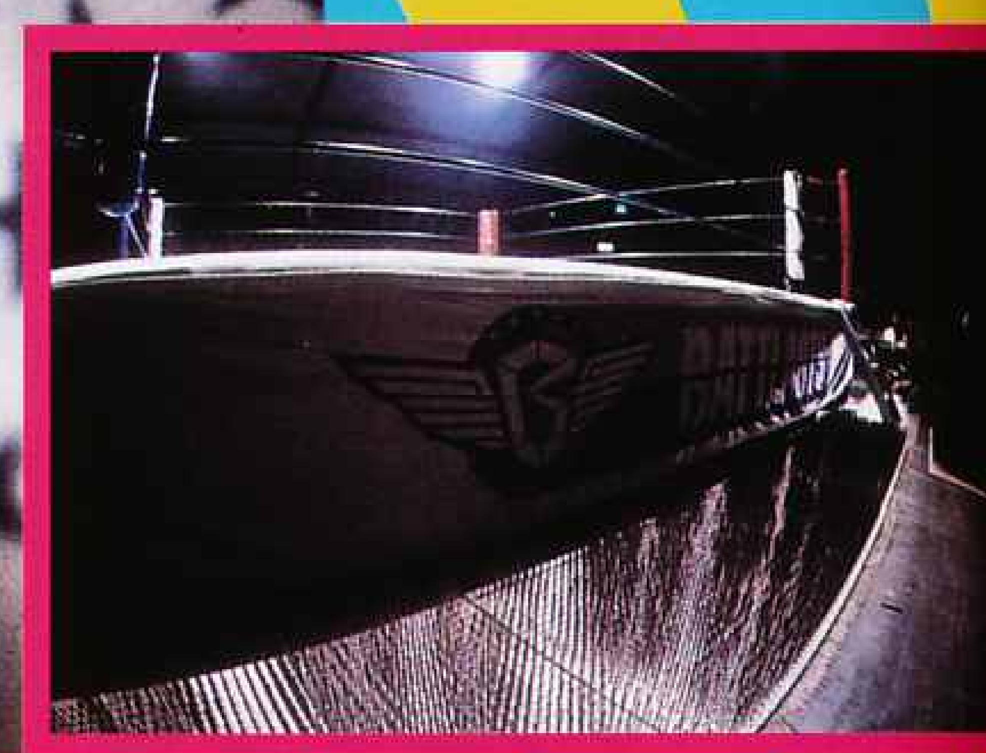
# 磁場、動いてるよ〜!!

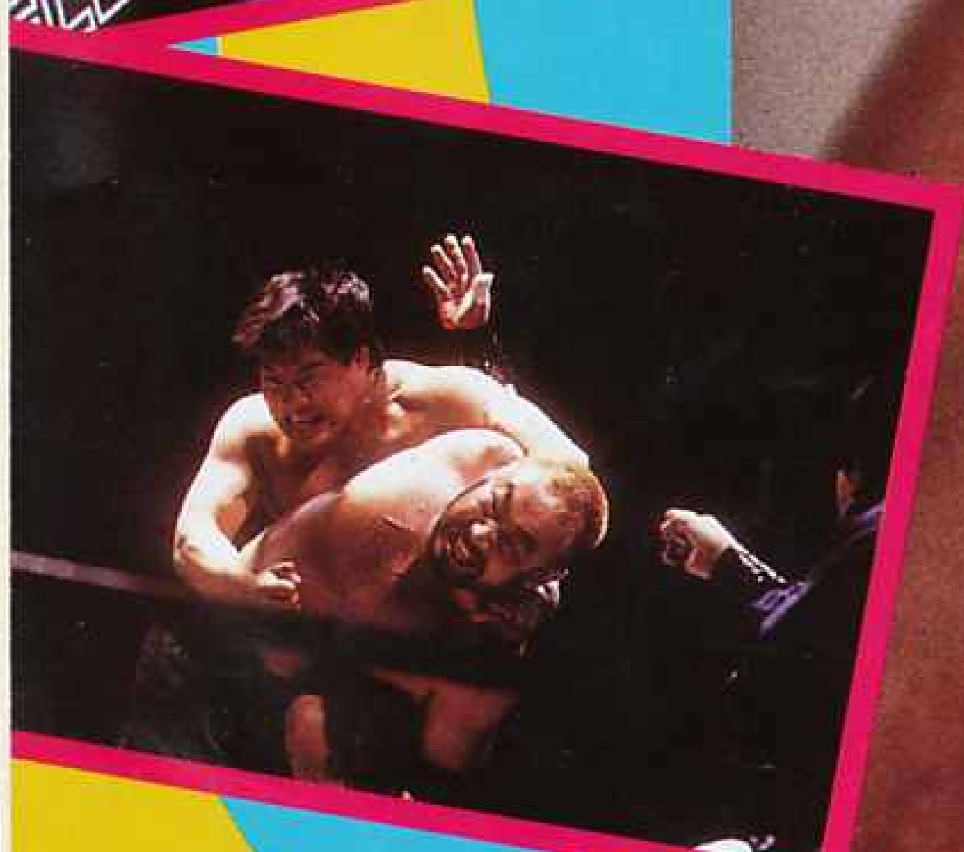


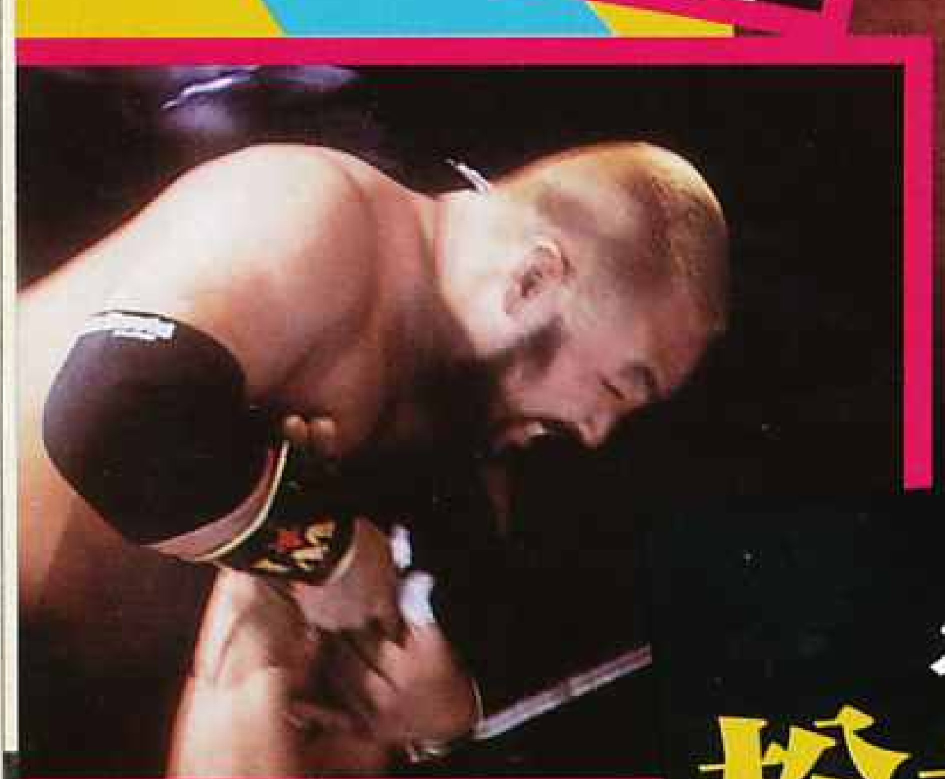












5·14札幌中島体育センター別館
メインイベント　五寸釘デスマッチ　無制限1本勝負
**松永光弘**（14分02秒 TKO）**石川雄規**

5·14バト札幌大会。「札幌大好き！〜金曜ゴールデンタイム伝説〜」と銘打たれたこの大会のメインは、石川雄規vs松永光弘の五寸釘デスマッチ。「落ちるのを楽しみにしているデスマッチの見方はおかしい！　俺は絶対に落ちない！」と試合前に豪語していた石川。そして本当に両者は一度も五寸釘地獄に堕ちることはなかった。このデスマッチが訴えかけたものとは何か？　&バト札幌大会が投げかけたものとは何か？　今回はそれが問題です。コッ！

# 石川雄規の「わかりにくい試合」は「赤ちゃんのおねしょ」か否か——

『紙プロ』なんていう雑誌を読んでる人には比較的多いかもしれないけど、よくいるでしょ？ 若い男の子とか女の子とかで。

「ワタシ（ボク）って変わってるでしょ？」っていう人種。

唐突ですが、オレ、そういう人キライです。

人がなんかしらを表現したい場合には、文章を書くにしても、絵を描くにしても、演技する場合でも、なんらかの「サイン」を出すわけですよね。で、その「サイン」をうまく出せない場合がありますね。お母さんにかまってもらえない赤ちゃんなんかは、うまく表現できないから、「おねしょ」という「サイン」を送るわけですね。

だから、表現はうまくできないけど、自分には振り向いてもらいたい。その材料として「ワタシ（ボク）って変わってるでしょ？」っていうことを持ち出すヤツ。つまりそれは、いい年して「おねしょ」してるのと一緒なわけです。

以上、これは『紙プロ』の小っちゃい頃に聞いた、糸井重里さんの話の受け売りです。

で、石川雄規は4・10東京ドーム、新日本プロレスのリングでも「わかりにくい試合」をしました。この5・14札幌でも「わかりにくい試合」をしました。

じゃあ、石川雄規の「わかりにくい試合」は「おねしょ」なのか、そうでないのかが問題になってきます。自分に振り向かせるためだけに、「ボクって変わってるでしょ？」と同じ意味で「わかりにくい試合」をしてるのかどうか？

松永光弘との五寸釘デスマッチに敗れ、血だらけになりつつも、試合後の石川雄規の目はギラついていました。そしてこう言ったのですよ。

「バカなファンのために落ちてたまるか！」

「凶器を使われたら、いくら鍛えていても痛い。それじゃ、なんのために鍛えてるのかわからない」

「デスマッチでも、もっとシャレの効いたデスマッチはないですかね？ リングの下にウンコをいっぱい敷き詰めたデスマッチとか（ニタニタ）」

つまり石川雄規は、デスマッチといえば、釘に落ちたりとか、有刺鉄線に飛び込んだりとか、実に「わかりやすい」刺激のみを期待する。そういうファンに対して挑発し続けているわけです。

挑発なき力は無能なり。力なき挑発も、また無能なり。

石川雄規は、自分の身体を賭けて挑発し続けています。

そして、この札幌の五寸釘デスマッチでは、一度も両者は釘板に落ちませんでした。

不満を漏らすファンはいっぱいいました。インターネットで文句をブーブー書きこむ人もいました。

でも、オレは面白かったもんね。ンムフフフ。

石川雄規はその日の夜、切り刻まれた額の傷に貼ったバンソウコウから滴り落ちる血をものともせず、ジンギスカンを口に運びながらこう言ったね。

「俺らがファンの頃は、たと

## マシン軍団!! 伝説の雨アラレ両リン!!



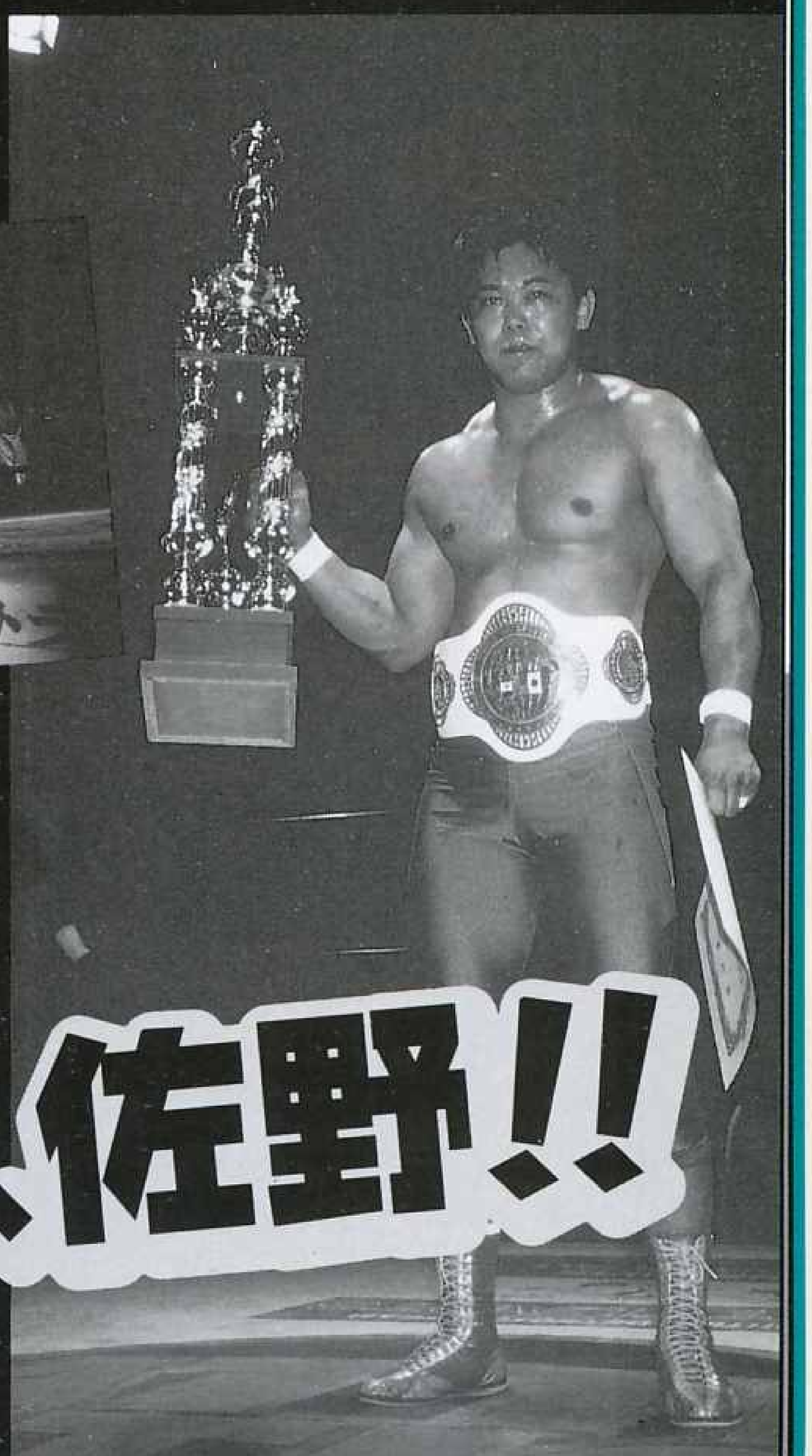
この日襲撃を予告した将軍K・Yワカマツは市議会議員業多忙のため、副将軍MJワカマッハなる謎のマネジャーがストロング・マシン99＆100号を先導して入場。副将軍はワカマツほど雄弁ではなく、実に無口！

S・マシン99＆100号の正体は、折原昌夫＆小野武志。この日は、マシンガンズならぬトンパチ・マシンズだったわけだ。臼田勝美＆山川竜司（酔いどれピストルズ）戦は両軍リングアウトという昭和チックな結末に



## お帰り、佐野!!





過去を甦らせるパワーを持つバト札幌大会で一番甦ったのは、高田道場の佐野なおき。いまや破竹の勢いの田中稔を破り、FMW認定ジュニアヘビー級王座を奪取した。バーリ・トゥードからプロレスへ振り子の玉を振った佐野は、プロレス・ルールのブランクをものともせず、トペ、ジャーマン、ミサイル・キック、タイガー・スープレックスなどを繰り出し、「偽りの人生」（byライガー）ではないところを見せつけた。プロレスの「広さ」を認識させる一戦である

え悪役の上田馬之助でも、（釘板に）『落ちるな』と願ったじゃないですか。いまのファンはおかしい！　落ちることだけを期待して感覚が麻痺してる！」

どうやら、石川雄規は、「わかりやすく」なりすぎて、デジタルな感情しか持てない世間に向かって、アナログな感情、微妙な感情を忘れるな！　と問い掛けている様子です。この男の敵は、やっぱり「世間」や「常識」なのです。

こりゃ、いまの「わかりやすいこと大好き！」なファンに受けるわけないわな。

そういえば、昨年11月の両国大会は『甦れ！　ゴールデンタイム伝説』という大会名でした。で、今回の札幌は『金曜ゴールデンタイム伝説』です。

石川雄規は、いったい何を甦らそうとしているのでしょうか。

両国では、石川雄規はボブ（・バックランド）さんと一騎打ちを行いました。それは例えばこういうことでしょう。

『紙プロ』に、とてもリスペクトできる〝伝説の文豪〟に登場してもらいたい。

でも、それがいくらリスペクトできる文豪であっても、いまじゃその人をよく知っている読者も数少ないし、原稿を書いてもらっても、あまりにも文体が難しすぎて古すぎる。

じゃあ、インタビューならどうだろう。しゃべり言葉の方がいまの読者も入りやすいし、むしろその方が、文豪の個性やリアリティを出しやすいかもしれない。

つまり、石川雄規はボブさんという〝伝説の文豪〟にインタビューを敢行したわけです。

それも一問一答形式ではなく、一つのテーマを掘り下げていく会話。時代と時代をリンクさせる会話。

石川雄規は、きっと、闘う方にも観る方にもアナログな感情が渦巻いていた、「その時代」そのものを甦らせたかったのでしょう。そして、よく考えろ、と言いたかったのでしょう。

石川雄規は5・14で、とても危険なシチュエーションの中、今度は同世代の松永相手にインタビューを敢行しました。もちろん、一問一答形式のインタビューではありません。濃い会話です。

それも、いまや流行りというか「常識」となった、〝ネタの掛け合い〟のようなハイスパートな会話ではなく、テーマをジックリと掘り下げていくような濃密な会話です。それが危険なシチュエーションの中、同世代の松永相手に成り立つのかどうかの壮大な実験＆観客への挑発でした。

さっきも書いた通り、案の定、「完成されたイベント」に慣れきった人たちからは、「つまんなかった」という声もありました。

石川雄規は「そういう奴らにわからせるのが先か、俺たちの身体がブッ壊れるのが先か——」とブツブツブツ言い続けてます。

というわけで、この日の興行は、「なんだかわからないけど非常に面白かった」です。「問題のない問題集」の「問題」を探すような面白さがありました。

ズバリ言って、石川雄規の「わかりにくい試合」は「赤ちゃんのおねしょ」じゃねぇんです。なぜって、そこには、度を超えた「情念」と「表現」が詰まり切っているからね。

は？　非常にわかりにくい？　なに言ってるんだかわからない？

「それをわからせるのが先か、俺たちの雑誌が潰れるのが先か」——『紙プロ』もブツブツ言い続けていこうと思います。言いますかーッ！　かしこ。

（Ｎｏｂｂｙ）

91・9札幌では急所付近に喰らったミドルキックで、高田延彦にわずか1分15秒でKO負けを喫しているボブ・バックランド（館内は暴動寸前）。昨年10月以来の再戦となったこの日の池田大輔戦でも、ヘッドバットを鼻骨に喰らい、ただごとじゃない鼻血で顔面を真っ赤に染めたままＴＫＯ負けを喫してしまった。ボブ・リフトもアトミック・ドロップも不発のまま。ボブさんの伝説は甦ることなく、札幌の悪夢が甦ってしまった



## 伝説に悲劇!!
## ボブさん、血ダルマ!!

## 築け！新虎伝説!!



初代が実際に着用していたオリジナル・コスチュームを身につけた、みちプロのタイガーマスクも参戦。この大会のコンセプトに必要不可欠だったタイガーは日高郁人と組んで愚乱・浪花＆望月成晃と対戦。惜しくも日高が浪花に取られたが、「新・猛虎伝説」スタート間近か——



メインの石川vs松永戦では、石川のセコンドに付いたアレク。松永の２度に渡るファイヤー・アタックにより危険を察知したアレクがタオルを投入し、松永のＴＫＯ勝ちとなった。遠征から凱旋したあとに、アレクvs松永のデスマッチが実現か!?



# アレク、〝東方大遠征〟土産はなんだ！

んむはぁ







昨年11月の両国ではロード・ウォリアーズに苦杯を舐めたアレク＆ヨネだったが、この日は存分に力を発揮！　子どもからおじいちゃん、おばあちゃん、オミズのお姉ちゃんまでが床を踏みならす大熱闘となった。最後はモハが黒田をピン！　アレクに負けずに気を吐いた。アレクが帰ってきてからの２人のライバル・レースが非常に楽しみになってきた

５・14札幌では、モハメド・ヨネと組み、ＦＭＷのハヤブサ＆黒田哲史組を迎撃。この日一番、客席をヒートさせる試合を行ったアレクサンダー大塚が、札幌の試合を最後に、〝東方大遠征〟に討って出た（東方に限ったことじゃないが）。５月18日には成田を発ち、プエルトリコ、メキシコ、アメリカなどを無期限で回る予定。

とはいっても、４・29には小川直也、村上一成とともに『ＰＲＩＤＥ.５』のリングを襲撃。「ＵＦＯとかに参戦してみて、考え方、進む道というものが、少し共通するものがあるのでここに来ました」と宣言したアレクのこと。無軌道な飛びっぷりを見せるＵＦＯイズムがいくらか染み着いている模様で、無期限とはいっても、突然帰ってくるかもわからない。「秋には『ＰＲＩＤＥ.』に参戦させたい」と島田裕二広報＆レフェリー＆ルール・ディレクターが発言していることからも、そんなに長期間の遠征にはならないかもしれない。

アレクの土産はなんだ（んむはぁ）。

# 甦れ、ミスター空中伝説!!

## 初代タイガー（佐山聡）も復活!! そして…



『ミスター空中7回忌追悼興行』

## 6・9（水）後楽園ホール

## 18:30開始

第一次UWFでレスラー兼レフェリーとして活躍、藤原組時代にはレフェリー＆ブッカーとして手腕を発揮。日本マット界のヘソ的役割をしてきた故・ミスター空中氏の「７回忌追悼興行」が、６・９後楽園ホールで行われる。この日は、別表のように藤原組チックなバトラーツの源流のようなカードが組まれ、マニアにはたまらない大会となりそうだ。新しいファンもぜひ観てほしい大会である。

この日は、UFOをアッという間に飛び降りて、北の地で活動を再開している初代タイガーマスク（佐山聡）が復活！　ズバリ言って非常に注目だ。

そしてズバリ言って非常に注目②は、バトラーツ初代営業＆放浪の格闘家、あの伝説の芳賀玄太が（＝イラスト／詳しくは本誌NO10参照）、遂にその勇姿を現す！　「むしゃしゅぎょー」の成果を観客の前で披露することとなった（いや、これホント！）。みんな、「来い！」（玄太調）。




【対戦カード】

空中レフェリー追悼記念試合
**石川雄規＆池田大輔vsジョー・マレンコ＆カール・グレコ**

FMW認定ジュニアヘビー級選手権試合
**〈チャンピオン〉佐野なおき（高田道場）vs〈チャレンジャー〉臼田勝美**

**初代タイガーマスク（佐山聡）vs日高郁人**

**タイガーマスク（みちのく）＆田中稔vs愚乱・浪花（みちのく）＆望月成晃**

バトラーツ提供カード
**モハメド・ヨネ＆マッハ純二vs小野武志＆土方隆司**

マレンコ道場卒業生マッチ
**内藤恒仁＆キャノンボールKAZUvsホーデンス・ミン＆橋部昌浩**

マレンコ道場生vs旧UWFドリームエキシビジョンマッチ（5分間）
**芳賀元太vs3代目マッハ隼人**

藤原組メモリアルマッチ
**ドン荒川vsつぼ原人**

★第４試合終了後追悼セレモニーを行う。
フロリダ・タンパより空中氏の遺族、妻ジェニー空中、娘ニーナ空中、息子のマサミ空中の３名がセレモニーに参加するため来日する。
★対戦カードは、５月21日時点での発表カードです。変更等があった場合はご了承ください。

主催・問い合わせ：リングスタッフ　0489-66-3222

個人輸入代行ページ

# 確かな効能、一段階上の効果を望むなら やはり健康食品よりもクスリ!!

**夜12時まで電話受付中**

今まで他の商品で満足できなかった方は、ぜひ一度**「アメリカで大ヒット中の生活改善薬」**をお試し下さい。医薬品なら健康食品と違い、確実な効果・効能が約束できます。尚、アメリカの薬局**「メイジファーマシー」**の協力により引き続き下記料金にてお求めできます。

※以下の商品はアメリカ国内で流通している正規の商品です。成分の違う値段の格安な同名商品とは異なりますのでご安心下さい。また、各商品とも数に限りがございますので、お早めに御注文下さい。

**飲む育毛促進薬**

## プロペシア
（メルク社）




試験では服用の83%の人が髪を増やす効果があったという。アメリカ国内で購入するには処方箋が必要で、それだけ効果が期待できる。

30錠（1ヵ月分）18,~~0~~00円→**16,000円**

**筋肉増強薬**

## アンドロステジオン
（ネーチャーズビジョン社）

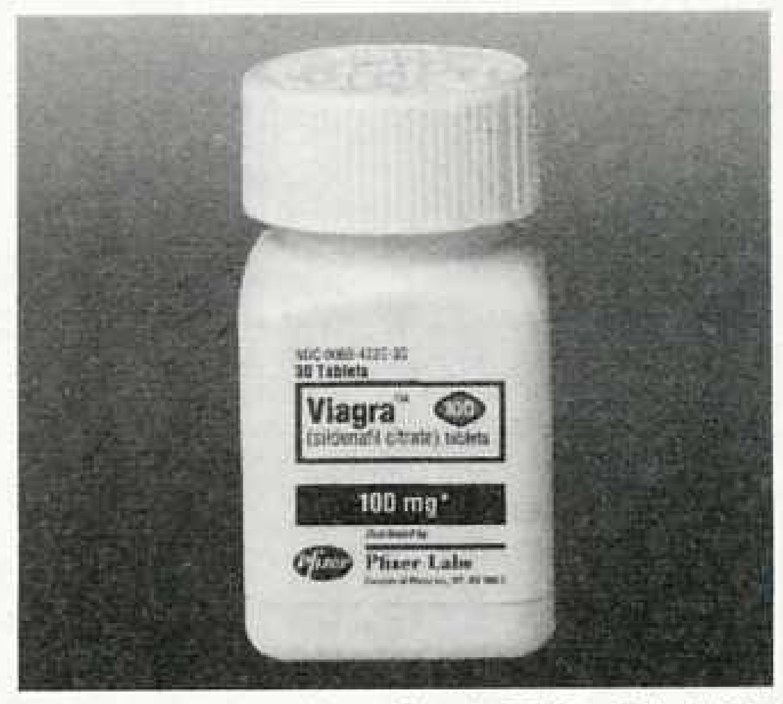



究極の筋肉増強薬として有名。米国内では補助栄養剤として市販されている。法律的に購入、使用は全く問題ないが、I.O.C（国際オリンピック協会）が禁止薬物として指定する筋肉増強剤なのでドーピング検査のある人は使用できない。

60錠（約2ヵ月分）18,~~0~~00円→**16,000円**

**勃起不全治療薬**

## バイアグラ
（ファイザー社）




アメリカ国内で購入の際には医師の処方が必要で、米国では保険の適用については議論が起きている。初年度で10億ドルの売り上げを超えた。

100mg 30錠 88,~~0~~00円→**63,000円**

**脳内薬**

## プロザック
（イリリリー社）




塩酸フルオキシンを原料としたうつ病の薬。欧米では健康な人にも気軽に処方されている。考え方をプラス指向にし集中力が高まり積極性が増す。又、自信を持って行動し、性格が変わり、明るくなるといわれている。

20g 30錠（1ヵ月分） 1箱 **25,000円** 2箱 **40,000円**

**ダイエット薬**

## テグテチム
（トンプソンメディカル社）




ダイエットしたい方、体重制限のある方に。脳に命令して食欲を減退させる薬。約3週間で効果が出るという。

20錠（20日分） 8,~~0~~00円→**6,000円**

**育毛促進薬**

## ロゲインエキストラストレングス
（P&U社）




「効き目がなければ返金します」というキャンペーンを行ったが返金を求めた客はいなかったという。1日に2回、頭に直接すりこむ。

（約2ヵ月分）18,~~0~~00円→**16,000円**

**禁煙用ガム**

## ニコレットガム
（P&U社）




たばこが吸いたくなったら、ガムを噛む。禁煙したときのイライラ、口寂しさを解消する。今月上半期、世界で1億ドル売上げた。以前は処方せんの必要な商品だったが、今は大衆薬に転用。

108粒 18,~~0~~00円→**16,000円**

**お申込みは通話料無料** フリーダイヤル **0120-680-214**

※個人輸入について：上記の商品はアメリカ国内で医薬品として開発・販売されており、日本では個人の責において輸入・使用できるものです。第三者への転売・譲渡はできませんのでご注意下さい。

※お支払いは代金引替か現金書留、商品のお届けは2～10日、ご不在がちの方は希望の日時を指定して下さい。料金は全て税別、送料は一律1,000円（沖縄、離島は2,000円）

### 1.電話によるご注文

受付センター
**TEL(078)242-6785**
〈年中無休〉AM 9:00～PM17:00
〈夜間受付〉PM19:00～AM24:00
FAXは24時間受付
**FAX(078)392-0214**

### 2.ハガキによるご注文

50 〒650-0004 神戸市中央区中山手通2-3-19-001 神戸32（株） 紙のプロレス

①商品名
②個数、金額
③住所
④氏名㊞
⑤年齢
⑥TEL 番号
⑦職業
⑧18才未満 保護者名㊞

### 3.前払いによるご注文

前払いの場合は
**送料無料!**
商品代金と消費税を足して必要事項を記入の上、左記住所までお送り下さい。現金書留でお願いします。

総輸入元
**神戸32（株）**
〒650-0004神戸市中央区中山手通2丁目3-19-001号
TEL(078)242-6785
FAX(078)392-0214

必読連載 第16回

# 石川雄規の『闘いの美術館』

## あるいは「最後の豪傑」

### 最後の豪傑～その1～

かつてプロレス界には豪傑と呼ばれる人達が数多く存在した。伝説を聞く限りむしろ豪傑者しかいなかったと言っても過言ではない。現在我々の世代になってからは、残念ながら以前ほどそういった話は聞かなくなった。だからといって全くいなくなったということはないが、少なくとも私のまわりにはいなかった。そう、彼と出逢うまでは。ただし、彼の場合は少し違った意味での豪傑であったのだが…。

『おい、石川。なんであんな奴入れたんだ』

『えっ？ 俺、テスト落としましたよ。それで「お前、残念だけど不合格だ。帰る前に藤原組長に挨拶だけはしていけよ」ってそう言ったんですよ』

『なにぃ？ あいつ、「今日からお世話になります小坪です。よろしくお願いします」って言うから、てっきりお前が合格させたのかと思って「わかった」って言っちまったよ』

『ええ～っ！ 俺、合格だなんて一言も言ってませんよ～』

『まぁいいや。そのうち逃げ出すだろう』

しかし彼は我々の期待をよそに、その後もずっと道場に居座り、リング外での台風の目となっていったのだった。

彼は人に自分の生尻を見せるのが大変好きであった。そしてその格好の餌食、いつも犠牲者になったのは当時入門したての米山聡であった。

『おーい、ヨネーっ。トイレの扉が壊れて開かないんだ。外から開けてくれ～』

『はーい。いいですか、開けますよ』

『おう。頼むぜ』（ヨネ、扉を思い切り開ける）

『あああぁぁぁぁ……！！！ こ、壊れてないじゃないですかぁ～』

そこには和式便所にしゃがんで用を足している小坪の姿があった。尻を出したまま後ろ向きにしゃがむ彼は、肩越しに首だけで振り返り、呆然と立ちすくむヨネに軽く手を振った。

『よっ、元気？ 見てみぃ、生きとるやろう？』

と訳のわからぬ問いに、ヨネは何も答えられなかった。

『聞いてくださよ～』

ヨネの報告を聞いた我々は相談をし、なんとか彼を逆に驚かそうと考えた。その結果、彼は攻めると強いが、いざ守りに入ると結構恥ずかしがって弱いんじゃないかという意見にまとまった。

何日かして小坪がトイレに入り、大をするというチャンスが訪れた。計画実行の絶好の機会である。我々はその扉を突然開けてしまうことにした（その扉はコインで外側からカギを開けられる構造であった）。そしてその扉を開ける役はやっぱりヨネだった。我々は少し離れた物陰から事の成り行きを楽しみに見ていた。

『（ガチャガチャ）すいませ～ん、失礼しま～す』

勢いよく扉を開けたヨネの前には、うろたえる小坪の姿があるはずだった。しかし彼は、我々の想像を遥かに越えてくれた。そして聞こえたのはヨネの悲鳴だった。扉を開けたヨネの目前には、なんと自分の尻を拭いたトイレットペーパーを持った小坪が不気味な笑みを浮かべて立っていた。

『そんなに欲しいんか、これ？ 欲しいんか、えっ？』

それを鼻先に突きつけられたヨネはパニック状態になり、悲鳴をあげて逃げ出した。そして言うまでもなく我々も逃げ回り、道場は蜂の巣をつついたような騒ぎとなったのだった。彼の持ったトイレットペーパーが本当に尻を拭いたものかどうかは定かではない（ただ単に未使用の物をまるめただけかもしれない）。しかし彼のとっさの切り返しで、我々は一瞬にして恐怖のどん底に突き落とされたのである。

### 最後の豪傑～その2～

あれは忘れもしない福島県の船引町大会の夜のことであった。その日は、協力者のご厚意でその方の経営するペンションに選手一同宿泊させていただいた。十数人の大部屋での寝泊まりはなんとなく楽しく、修学旅行の時を思い出した。打ち上げパーティーが終わり、皆ほろ酔い気分で部屋に戻り明かりを消すと、小さな補助灯のみの明るさのなか各々床に就いた。

しばらくしてレフェリーの島田がトイレに立ったその直後に事件はおきた。小坪がガバッと起き上がりおもむろに全裸になると、島田の掛け布団をどかして枕方面に尻を向け、なんと四つん這いの体勢になったのだ。そして思いっ切り尻を高く突きだし、こう言ったのであった。

『ヨネ、はやく布団かけろ！』

かくして薄暗がりの中、島田の床は何やら怪しげな盛り上がりが出来上がった。

『よし、島田さん、もうすぐ戻って来るぞ。しーーっ！ 静かに！』

皆、布団の中で笑いを堪えるのに必死である。本当に苦しくて具合が悪くなりそうだった。そして島田が戻ってきた。何やら盛り上がっている自分の布団を見て何らかの悪戯を予感したが、まさかあれほどまでとは予想だにできなかったであろう。

『おい、誰だよ（笑）』

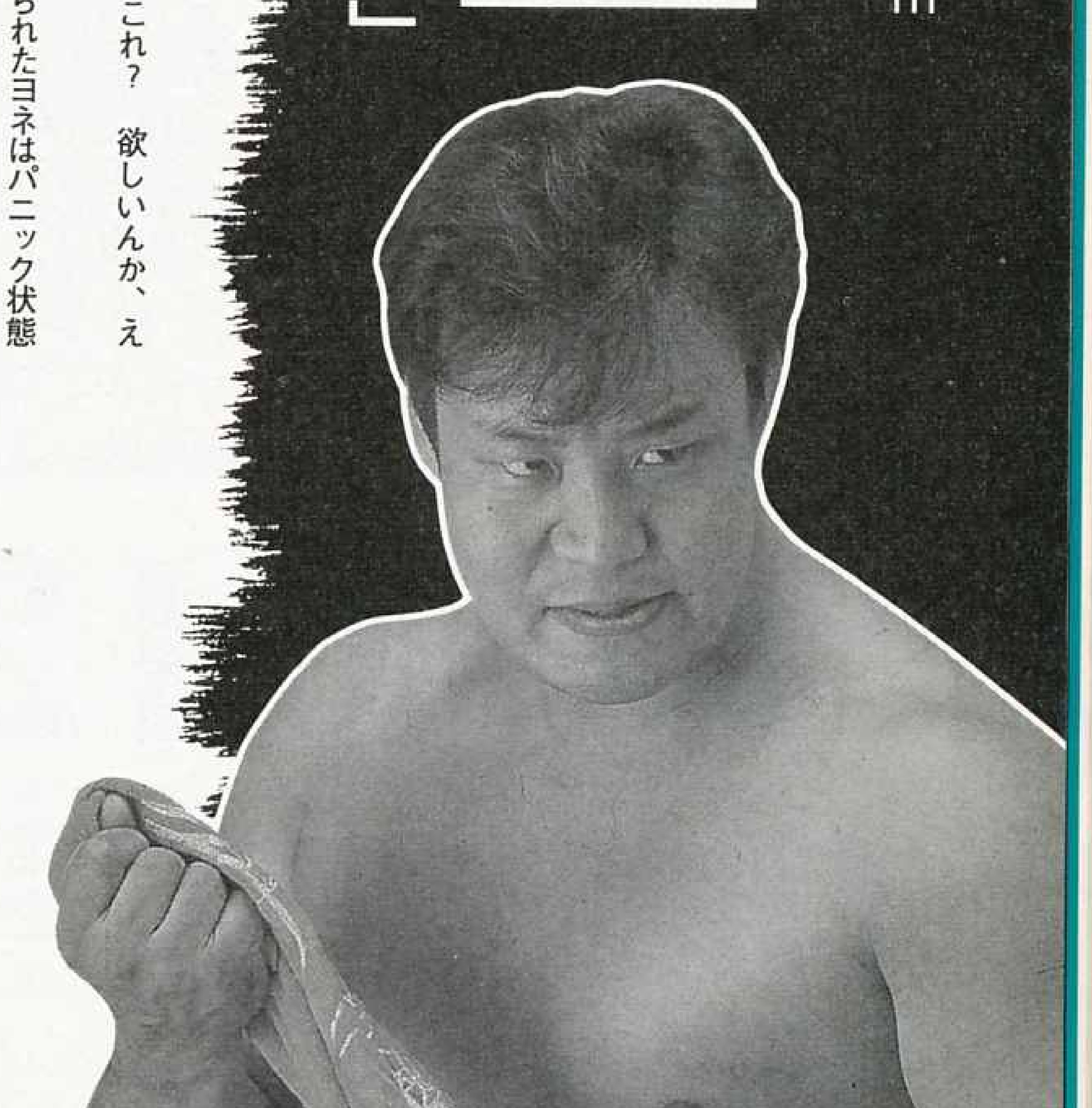
そう言って布団をめくると、あまりにもおぞましい風景がそこにあった。

『お願いしまっす！ お願いしまっす！ ホント、お願いしまっす！』

島田はあまりの衝撃に笑いころげ、呼吸困難におちいる寸前となり、それを見た我々も生まれてこのかた経験のない程の爆笑に襲われ、全員布団の中で息が止まりそうになっていた。皆の反応がよほど嬉しかったのか、小坪は全裸のまま次から次へと人の布団の中に乱入し、『お願いしまっす！ お願いしまっす！』と一人で跳びまわっていたのだった。この出来事は『福島に出現した〝お願いしますお化け〟事件』としていまだに語り継がれている。

### 最後の豪傑～その3～

バーミヤンスタンプというものをご存じであろうか。かつて藤原組道場で我々を恐怖のどん底に陥



# 愛すべき後輩の門出に心からのエールを送りたいと思う。頑張れ小坪！




藤原組時代の石川雄規と小坪弘良。ちなみにバーミヤンスタンプの被害者となっているのは、ちっちゃい頃の『紙プロ』読者にはお馴染みの成田メキシコ君である。

れたこの技は、まさに想像を絶する荒業なのである。今からその技について説明しようと思う。

藤原組道場の近くに自動車修理工場があり、そこに笹木さんという気のいいおじさんがいた。我々は親しみを込めて『笹木おやじ』と呼んでいるのだが、ある時その笹木さん（以降笹木おやじ）が我々若い衆にスッポン鍋を御馳走してくれることになって近所の鍋居酒屋に集まった。とにかく楽しくて皆酒を飲みまくり、笹木おやじも一緒になって大騒ぎとなった。

すると、やはり宴会の主役となったのはこの男である。小坪が例のごとくパンツを脱いで下半身はだかになり目を輝かせた。そして我々は誰からともなく皆でおやじを押さえ込むと、なんと小坪は笹木おやじの顔の上に、そのおぞましい生尻を押し付けたのだった。生暖かいモノをその顔に付けられた笹木おやじは恍惚となりはしなかったものの、そのネタに大受けし、抵抗しながらも皆と一緒に大爆笑した。そしてその爆笑の中、なぜか小坪はその尻をガラス窓にペタペタ付けて遊んでいた。尻の脂が窓に付き、それが桃の形を形成していたことから、その荒業は晴れてバーミヤンスタンプと命名されたのであった。

その日からである。道場でそれがはやりだしたのは。小坪がある音楽を口ずさむとその儀式の始まりの合図になった（なぜか、J・鶴田さんのテーマであった。ブッチャーのテーマだとチ○チ○をつけられる等さまざまな説が流れた）。近くにいる人間達が目配せをしてあったターゲットを即座に押さえ込み、小坪がパンツを脱いで近づいてくる。恐怖に引きつった犠牲者は必死に抵抗するが、レスラーに4人がかりで押さえ込まれたらひとたまりもない。そう、例えれば、改造を拒む仮面ライダーのシーンを想像していただくと分かりやすいと思う。連日繰り返されるこの儀式の一番の被害者はショー船木とやはり米山聡であった。こんなことをしていったい何になるのか全くもって不明なのだが、とにかく面白くてしょうがなかったのだからしかたがない。そしてある事件が起こるまでその恐怖は繰り返された。そう、忘れもしないあの事件である。

アレクサンダー大塚、本名大塚崇。今をときめくアレクも当時は無力な練習生であった。その日アレクは平和にちゃんこの片付けをしていると、扉の向こうからいつもの恐怖の合図が聞こえた。その瞬間その場にいた者達がアレクに襲いかかると、運命を悟った彼は『コッ！』そう言って例の儀式を受けることに観念をした。アレクにとってそれは初めての体験であった。

そして例のごとくアレクの顔面に尻を付けた小坪だったが、なぜかその時はすぐに立ち上がりその場を走り去った。アレクは恐怖の時間が短かったため、ほっとしたものの何か不穏な空気を感じとり皆の顔を見回した。他の者達も小坪の不可解な行動に疑問を感じつつ、アレクの顔を見た瞬間言葉を失った。何やら黄色いものがアレクのこめかみに付着しているのだ。一同、最初は感心した。『あいつ、すごい仕込みだ。手品師並だな。いつ洋がらしをくっつけたんだろう。全然気づかなかった』そう思ったが、それは一瞬のこと。やはりこれは異常事態であった。無言のうちに顔色が変わってゆく一同を見て、アレクはうろたえた。

『なんですか？　なにがあったんですか？　ちょっ、ちょっと、なにがあったんですか〜っ！』

アレクはこめかみの異物感に全神経を集中させざるを得なくなり、その場を動けずに、そう力無く言った。

『ク、クッ、クッ、クソだ〜っ！』

全員その現場から離れ、そう叫んだ。

『そっ、そんな〜』

あまりの絶望的な状況にアレクは言葉を失い呆然とした。洗い物をしていた船木はただただ固まって金縛り状態になっていた。すると小坪がティッシュを片手に駆け込んできた。

『悪い！　すまん！　ホントごめん！　屁をこうとしたら出ちゃった』

『そっ、そんな、無理に出そうとしたらクソも出ますよ〜』

最近のアレクのクソ度胸はこのときの事件のお陰ではないかと一部では言われているが、それはそうである。人にクソをかけられた人間にとって、それ以上の恐怖なんてきっと存在しないと思う。

ともあれ、この事件をもってバーミヤンスタンプは暫く封印されることになったのである。

とにかくおもしろい男である。人を笑わせる感性は常人の域をはるかに超越している。ばかばかしい事ばかりやっては大騒ぎしていたけれど、その一つ一つは常に素晴らしいトンチが効いていた。きっとお笑いの道にいったら間違いなく天下を取るはずだと誰もが口を揃え、実際にその関係のある有名な軍団からスカウトを受けたという噂もどうやら本当らしい。いま思うと彼は最高のムードメーカーであり、実はバトラーツのお祭り集団のルーツとなった人物であるような、そんな気がしてならない。

かつて忘年会の席で、『天下取りたい奴、この指とまれ！！！』そう叫んだ彼は、（誰もとまらなかったけど……）5年後の今、夢ファクトリーを経て独立をし、本当に自分のプロモーションを設立してしまった。6月1日には北沢タウンホールで旗揚げをするという。愛すべき後輩の門出に心からのエールを送りたいと思う。頑張れ小坪！

そして読者の皆さん。どうか彼の門出を応援してあげてください。




聞き手&撮影（宇野）／チョロ
interview & photographs by Choro
撮影（小路）／大森大祐
photographs by Daisuke Ohmori



3A-Gym
小路晃

# 慧舟會魂炸裂!!



和術慧舟會
宇野薫

## オイッオイッオイッ これがオレ達の 生き方じゃあ!!

4・29「PRIDE.5」で“北の最終兵器”イゴール・ボブチャンチンと対戦した小路晃。セコンドには宇野薫の姿が。Vカットに剃り込み、気合い十分の小路は、I・ボブチャンチンを相手に不利は承知で殴り合いを挑んでいったが、結果的には判定負けとなり、小路の「PRIDE」不敗伝説にピリオドがうたれた。しかしながら小路の男気溢れる特攻ファイトは観客の心を激しく揺さぶりまくった。

一方、人気実力とともに急上昇を続ける宇野薫は、以前から憧れの選手として名前を挙げていた佐藤ルミナとの対戦が遂に決定した。しかも与えられた舞台は修斗10周年記念大会のメインである。テレビCMにも出演、知名度もガンガン上がっている2人に話を聞いてみた。慧舟會魂炸裂!!

――「PRIDE.5」も終わって、久々に実家（富山県魚津市）に帰ってたみたいですけど、好物のホタルイカは一杯食べてきました？（笑）。

**小路**　はぁい（微笑）。一杯食べてきました。朝から、カニの刺身と、アジの刺身と、イカの刺身と、あと味噌汁にもなんか魚が入ってました。

――さすが「魚津市」って感じですね（笑）。この間の（イゴール・）ボブチャンチン戦は結果はともかく、ホントに素晴らしい試合でしたね。

**小路**　向こうの体重が20キロぐらい重かったんで、いろんな作戦を考えてたんですけど。……やっぱ延長までいって勝ちたかったですね。自分はまだもうちょっとスタミナもあったんで……、ボクの作戦ミスですね。

――試合前に極真の塚本（徳臣）さんのところで練習して、打ち合いはダメって言われてましたけど（笑）。

**小路**　はぁい（微笑）。でも試合が始まったら、やっぱ冒険でちょっとはやってみたいなっていう気持ちがあって…。少し打ち合ってみました。

――あのボブチャンチン相手に、一歩も引かなかったですからね。その辺は小路さんのプロ根性ですよね。

**小路**　はい（微笑）。でも、なんかボクの悪い癖なのかわかんないですけど、打撃の人だったら打撃でやろうって気持ちになりますし、レスリングが得意な人だったらレスリングでやってみたいなという気持ちがあるんで…。でも本当はもっとちゃんと寝技に誘って…、やりたかったんですけど。やっぱ腰が凄く重くて、なかなか寝技にいけなかったです。

――威圧感は今まで闘った選手の中で一番感じたって言ってましたね。

**小路**　ヘンゾ（・グレイシー）とか（ヴァリッジ・）イズマイウより全然上でした。もしまたやる機会があるんだったら、もうちょっと打撃をしっかり練習してからやりたいですね。

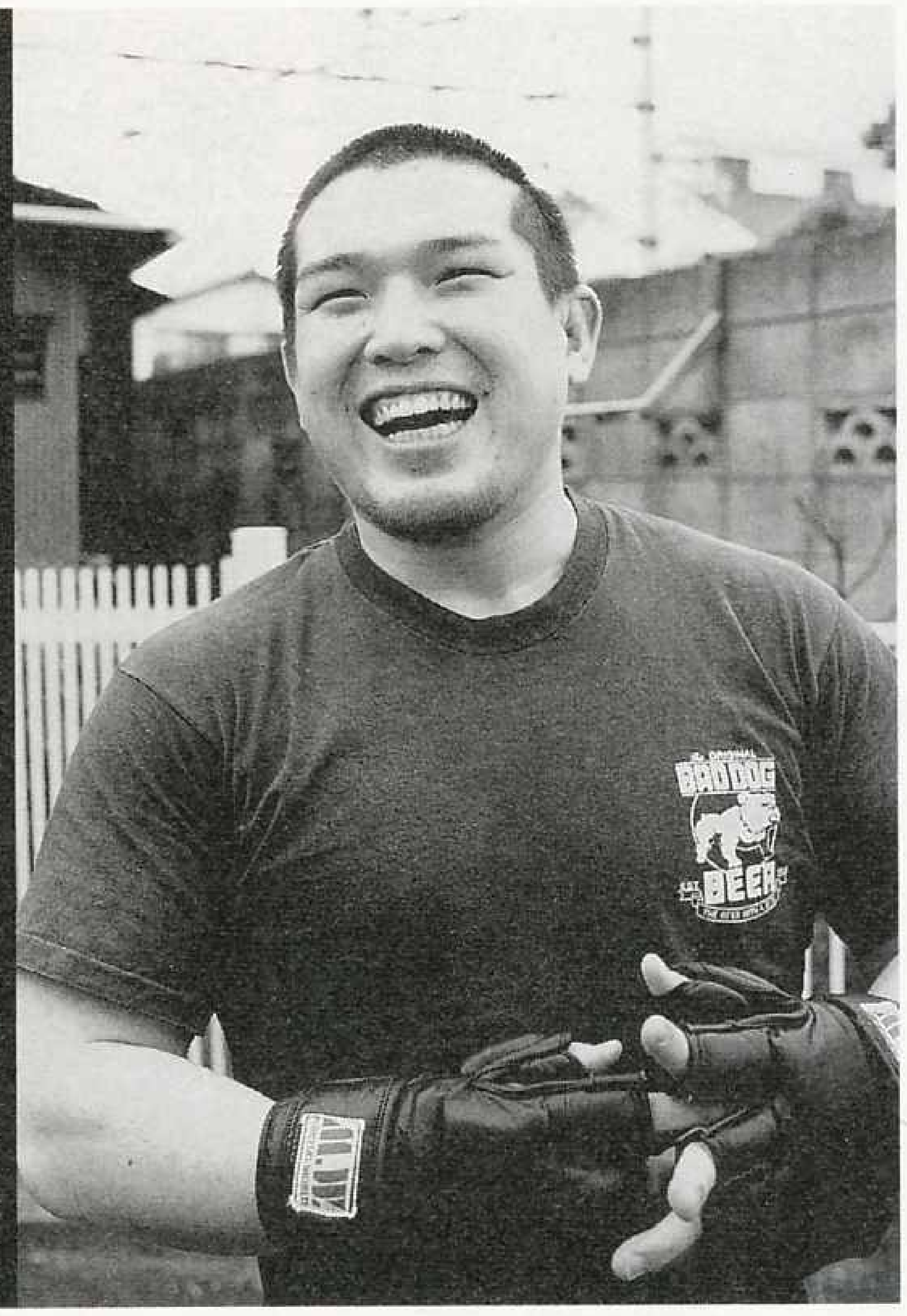
――エンセン（井上）さんも、「小路は〝殺す気持ち〟を持ってる選手ネ」ってよく言ってますけど、やっぱり小路さんも相手を〝殺す気持ち〟を持って試合に臨んでいるんですか？

**小路**　…そうですね。持ちますね。（ちょうど練習に来たジム生に向かって爽やかに）こんちわーッス（微笑）。

――ヒャハハハハ、なんかアットホームなジムですね。



# A³-Gym
# 小路晃
## やるんだったら純粋なプロレスがやりたい!



**小路**　はい（微笑）。でも普段はいつもこんな感じなんで、これで試合に出たら、やっぱりまずいですからね。やっぱ試合前は気持ちを変えてやります。……でも桜庭さんみたいな、ああいうナチュラルでソフトな感じも凄いなぁって思いますね。

――でもボブチャンチンの強さっていうのが一部の格闘技ファンにしか伝わってなかったんで、もったいなかったなって思いましたね。あんないい試合だったのに盛り上がりがイマイチだったのが悔しかったですよ。

**小路**　そうですよね。ボクはボブチャンチンのビデオは、バーリ・トゥードで優勝した時のとか、たくさん見てたんで。ボクの中ではヒクソン選手より強いんじゃないかなって思ってたんで。

――ホントあのパワーは、まさに〝北の最終兵器〟って感じでしたね。

**小路**　ホント、ちっから強かったですね。やっぱ最終兵器でした（苦笑）。

――小路さんは、キャッチフレーズの〝白い稲妻〟って気に入ってるんですか？

**小路**（小さい声で）そろそろ変えたいなぁ、と（微笑）。

――でも小路さんには、〝ミスターPRIDE〟っていう素敵なものもあるじゃないですか？

小路　アレもいつの間に高田（延彦）さんが〝ミスターPRIDE〟って言われるようになってたんで（苦笑）。

――「安さにプライド」とか（笑）。

**小路**　はぁい（微笑）。ホント『紙プロ』さんで、なにか新しいの考えて下さいよ。

――まかせて下さい。それじゃ〝北の最終兵器〟系のカッコいいヤツを読者から募集しますよ。

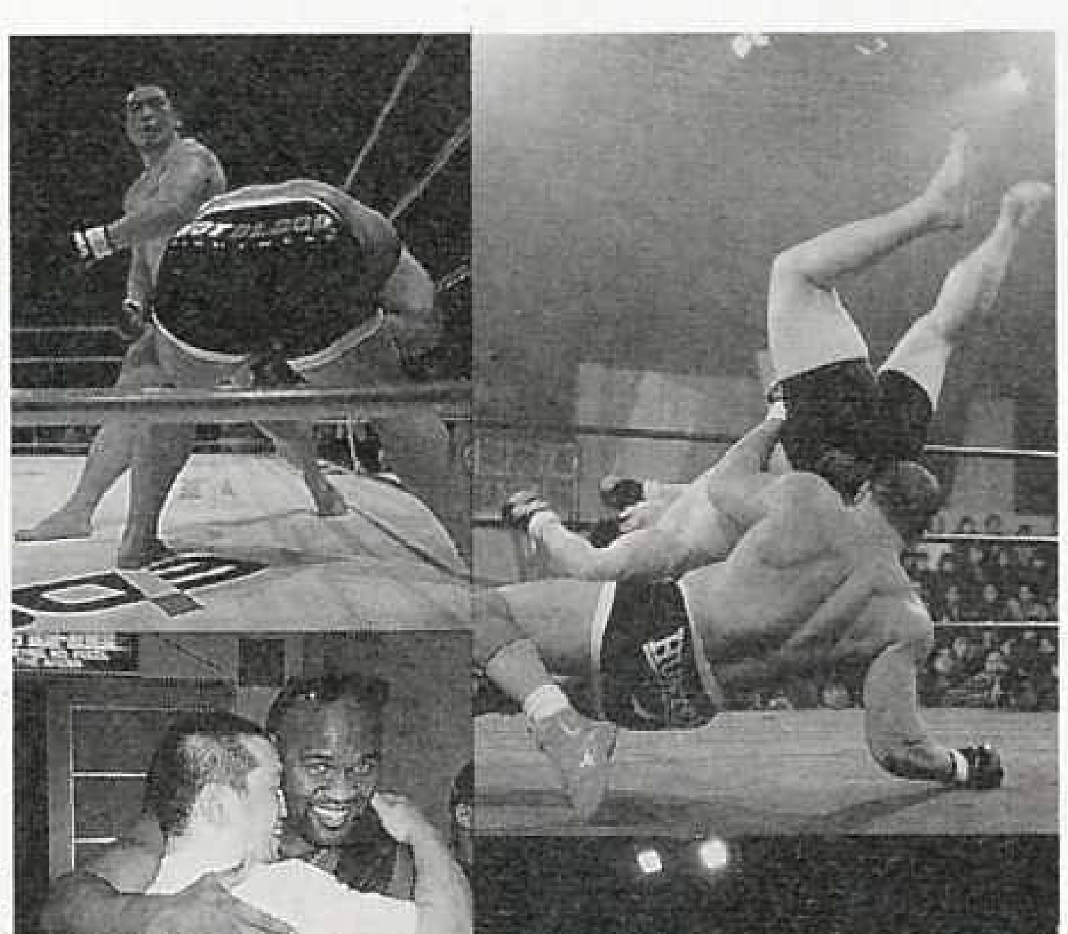
**小路**　お、お願いします（微笑）。

――自分の試合以外で、「PRIDE.5」のベストバウトっていうと誰の試合になりますか？

**小路**　やっぱり桜庭さんですね。ボクも桜庭さんとは、一緒に練習やってるんで、自分もなんかファンみたいな気持ちで見てましたね。

――そっか、小路さんとか宇野（薫）さんは高田道場で練習してるんですよね。どれぐらいのペースで練習しに行ってるんですか？

**小路**　だいたい週1ぐらいですね。一人で行ったり、宇野君とか高瀬（大



『SRS』『藤原紀香FINAL』で行われた小路晃とM・コールマンのエキシビジョン。元プロレスラーとプロレスラーになりたい人？とのエキシビジョンはさすがに見応えのある闘いとなった。（写真右上）「PRIDE.5」での対イゴール・ボブチャンチン戦。序盤からボブチャンチンの最終兵器級のパンチがビュンビュン火を噴いたが、小路は下がるどころか、敢えて打撃で打ち合った。ボブチャンチンが判定で小路を破った。（写真右下＆写真左上）ボブチャンチンに惜敗した小路の健闘を称えるグッドリッジ。聞けば、この二人は「PRIDE1」から「PRIDE4」まで控室が一緒だったというのが縁で『ミスター・プライド』同士の友情が芽生えたという。（写真左下）

樹）と行ったり。「こんちわーッス」って言って（微笑）。

——高田道場では誰と練習することが多いんですか？

**小路** 桜庭（和志）さんと松井（駿介）さんですね。あとは豊永（稔）君が多いですね。それで練習が終わった後、いつも豊永君が作ったチャンコを食わしていただくんですけど（微笑）。

——豊永さんのチャンコの腕前は黒帯らしいですからね（笑）。

**小路** マルコ・ファスが絶賛してたって本人も言ってましたけど（微笑）。

——自分で言ってましたか（笑）。それで、いろいろと言われてますけど、小路さんは高田vs（マーク・）コールマン戦はどのように見ましたか？

**小路** はい、面白かったです（微笑）。

——小路さんは『SRS』の「藤原紀香卒業マッチ」で実際にコールマンと闘ってますからね。

**小路** はい。自分は一回組み合ったことがあるんで……。

——でも、コールマンとの公開スパーは見所満載でしたね。小路さんはキレ～イに投げられてましたからね（笑）。やっぱり自分の役目を果たしたっていう充実感はありますか？

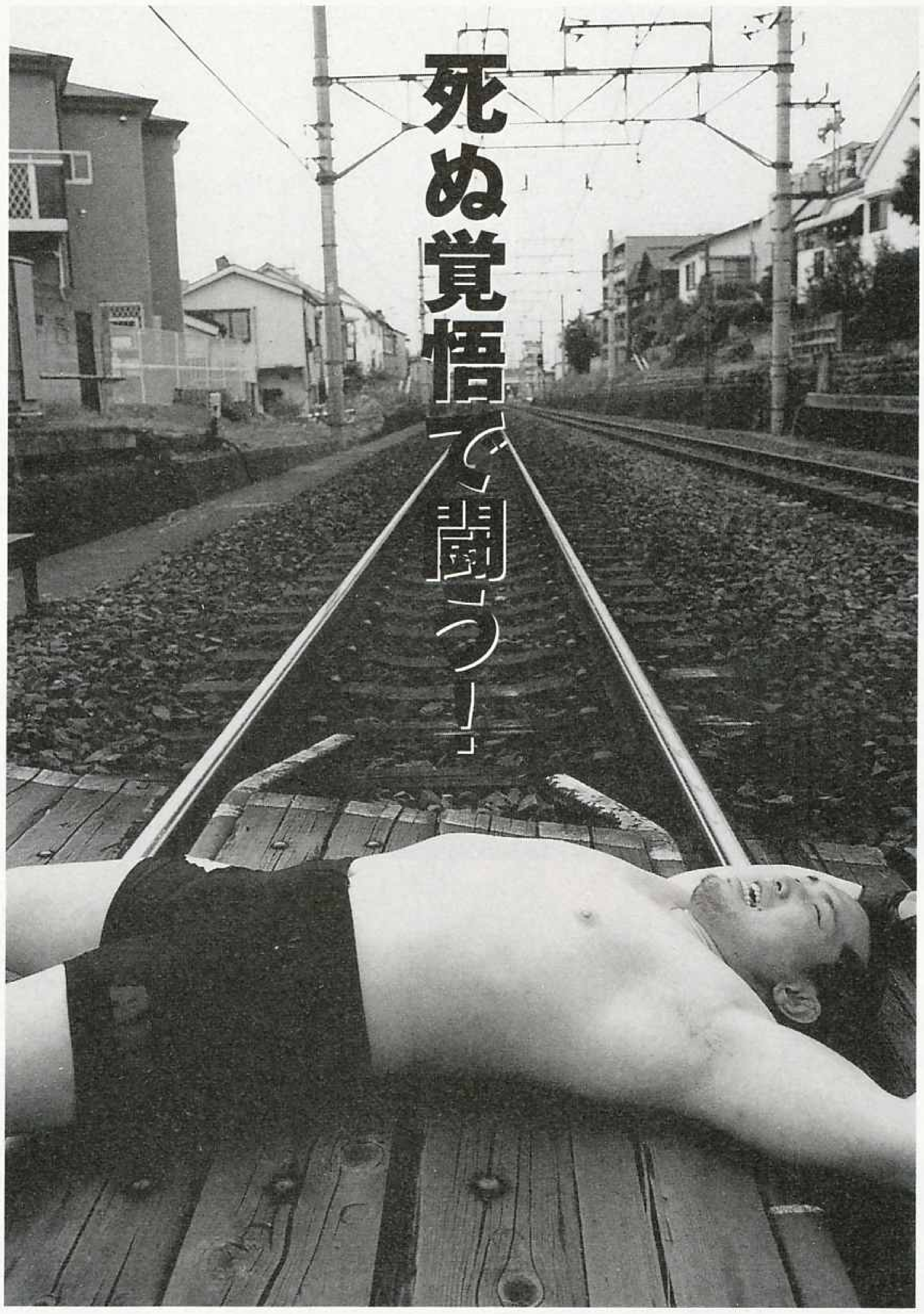
**小路** ありますあります（微笑）。一仕事終えたっていう男の充実感がありました（微笑）。

——ヒャハハハ。実際、コールマンは組んでみてどうだったんですか？

**小路** 本当にパワーは凄いッスよ。だから、ボクはコールマンの力強さを実際に肌で感じてるんで、高田選手は大丈夫かなって思ってましたね。試合見ながらでも「あっ、そこ離れなきゃダメだ！」って思いながら見てましたから。それで高田さんが勝った瞬間なんてボクも一緒に手をあげてました（笑）。

——自分が勝ったかのように（笑）。

# 死ぬ覚悟で闘う！」



**小路** はぁい（微笑）。

——それで高田さんの試合後に小川（直也）さんが乱入してきて、高田さんを挑発したわけですけど。

**小路** あの時はちょうどトイレに行きたくて、控え室から出て、トイレを探しに会場をウロウロしてたら、ちょうど小川さんがマイク掴んでて、「おおぉ～、スゲェ～！」って思って見てました（微笑）。

——個人的には凄く面白かったんですけど、小路さん的にはどうだったんですか、いろいろと答えづらいところもあるでしょうけど（笑）。

**小路** いや、ボクは面白かったですよ。小川さんがヒクソンになんかやるんじゃないかって新聞に出てましたからね（微笑）。なんかやってくれるんじゃないかなと思ってちょっとドキドキしてました。昔、こういうの猪木さんがよくやってたのを思い出しました（微笑）。

——小川さんの乱入とかも含めて、「PRIDE」にプロレス的な要素が多くなってきたことで、「面白い」って言って喜んでいる人と、格闘技側の選手に多いんですけど、「ふざけるな」って怒ってる人もいるんですよね。

**小路** ボクは面白いものは面白いって受け止めてるんで…。だから例え、プロレスとごっちゃになっても、それはそれで会場が盛り上がればいいとは思いますけどね。

——小路さんはそういう考えですか。

**小路** （大きな声で）でもボクは刺身のツマにはならないぞ！という気持ちです（微笑）。

——ヒャハハハ。そういえば、小路さんは「PRIDE」のパンフレットに「試合の順番をいい加減上げて欲しい」って書いてましたよね（笑）。やっぱりそれは感じているんですか？

**小路** 今回も最初は、第2試合目になるとか聞いてたんで。

——さすがにそれは納得いかないぞって思ってたんですか？

**小路** やっぱ試合順は上の方が評価が高いじゃないですか。

——それだけ実績を重ねてきたっていう自覚も、もちろんあるでしょうしね。

**小路** はい。

——小路さん的には、小路晃対イゴール・ボブチャンチン戦は、第何試合目がふさわしいと思ってたんですか？

**小路** えっ、3試合目です。

——そのまんまじゃないですか（笑）。

**小路** はぁい（微笑）。

——でも、選手として試合に出るんだったら、当然メインを取りたいっていう欲はありますよね？

**小路** ありますけど、桜庭さんやエンセンさんの後にやるのはまだまだだと思います。桜庭さん、エンセンさん、次にボクぐらいじゃないですかね。

——それ位の位置がシックリくると？

**小路** はい（微笑）。

——次の「PRIDE.6」が7月4日にありますけど、基本的には出場の予定なんですよね？

**小路** そうですね、はい。

——UFCとか、海外の大会に出て行きたいっていうのはあるんですか？

**小路** 是非出てみたいです！

——力強いお答えですね（笑）。なんか期待してよさそうですね。ということは、これからは「PRIDE」と、UFC及びノールール系にもドンドン進出して行くわけですね。

**小路** そうですね。

——ノールールって言えば今プロレス界でも……。

**小路** パンクラスとかですか？

——いや、みちプロとか！

**小路** えっ、みちプロでノールールやってるんですか？

——みちプロだけじゃなく、今プロレス界では原始猿人ヴァーゴンとか、コンビニ強盗とか出てるんですよ。それこそノールールですよ（笑）。

**小路**　ハハハハハ！

——是非、小路さんにもノールールのプロレスをやって欲しいんですけど（笑）。期待してもいいんでしょうか？

**小路**　（即座に）期待して下さい！

——でも実際、話があったらやってみたいとは思ってるんですか？

**小路**　はい（微笑）。希望としては、やらせてもらえるんだったら純粋なプロレスをやりたいですね。

——やっぱり元プロレスラーとしては、やるからには、しょっぱい試合はしたくないでしょうからね？

**小路**　そうですね（笑）。やるんだったら、猪木さんじゃないですけどお客さんを掌の上で転がしたいですね。

——プロレスは勝敗に関わらずアピールは思う存分出来ると思うんで。

**小路**　ハハハ。そうですよね（微笑）。

——ボクの希望としては、みちプロで、夏に「ふく面ワールドリーグ戦」っていう、世界各国から覆面レスラーが集まる大会があるんですよ。そこに未知の強豪として小路さんに出て欲しいんですよ。アブダビ代表とか（笑）。

**小路**　面白そうですねぇ（微笑）。

——当たり前ですけど、そんな権限はボクには全くないんですけどね（笑）。

**小路**　でもボクもホント素直に楽しみたいってだけなんですよ。特に「俺が俺が」っていうのはないんですけどね。

——今でも試合前とかプロレスごっことかしてるんですか？

**小路**　やってますやってます（微笑）。アブダビでもやってましたよ。

——アブダビでも（笑）。王子様は見てなかったんですか？

**小路**　見てなかったですね（微笑）。

——小路さん、ボクはこれでもサスケ組の一員なんですよ。

**小路**　えっ、そうなんですか。

——サスケ社長は『紙プロ』読んでるらしいですから、このインタビュー見ていきなり小路さんに話が行くかもしれませんよ（笑）。

**小路**　よろしくお願いします（微笑）。

——ヒャハハハ。今となっては、出るんだったら素顔がいいわけですか。

**小路**　できれば素顔で（微笑）。でも、もうなんでもこいで。

——ボクとしてはやっぱり誠軍団1号で出てもらって、マスクを剥がされて欲しいんですけどね（笑）。

**小路**　ハハハハハ。でもそこで誰にも気付かれなかったら嫌ですね（笑）。

——「誰だよ、お前！」って言われたら嫌ですよね（笑）。

**小路**　そこで、「シ～ン」ってなったら悲しいですよね（泣）。あっそうだ。でもボクはチームタンクですから。

※昨年10月29日、下北沢某所で行われた、日本で唯一のUFC・オフィシャルカメラマン長尾迪さんの写真集出版記念パーティーで結成されたのが「打倒！　ブラジル同盟・チームタンク」である。

——あっ、そういえば、ありましたね。チームタンクで一番偉いのは高橋（義生）さんなんでしたっけ？

**小路**　そうです。そうみたいです。ということは、チームタンク対サスケ組の激突ですね（笑）。

——そ、それは強敵ですね。チームタンクって確か、渡部謙吾さんと本間（聡）さんと……。

**小路**　朝日（昇）さん、マッハ（桜井速人）、（佐藤）ルミナさん……。

——あれっ、ルミナさんもチームタンクなんですか？

**小路**　（首を傾げながら）っていう風に聞いてるんですけど（微笑）。

——なんだかチームタンクは統制がとれてないみたいですね（笑）。

**小路**　いや、全然とれてないですよ！　自分もその日に一回言われただけなんで（笑）。

——ボクも一回言われただけなんですけどね（笑）。でもチームタンクって強そうですよね（笑）。

**小路**　あっ、あと平（直行）さんもチームタンクですね。

——えっ、平さんはこの間、サスケ組に加入したんですけど。それと村浜（武洋）さんもサスケ組なんですよ。サスケ組パワーアップ！（笑）。

**小路**　えっ、そうなんですか！

——オクタゴンでサスケ組 vs チームタンクの全面対抗戦やりましょうか（笑）。

**小路**　はい（微笑）。あっ、そういえば（青柳）館長は元気なんですか？

——元気だとは思いますけど、館長のことだったら小路さんの方が詳しいと思いますよ（笑）。

**小路**　はぁい（微笑）。名古屋に住んでた時、館長によく連れてってもらってた焼肉屋があって…。

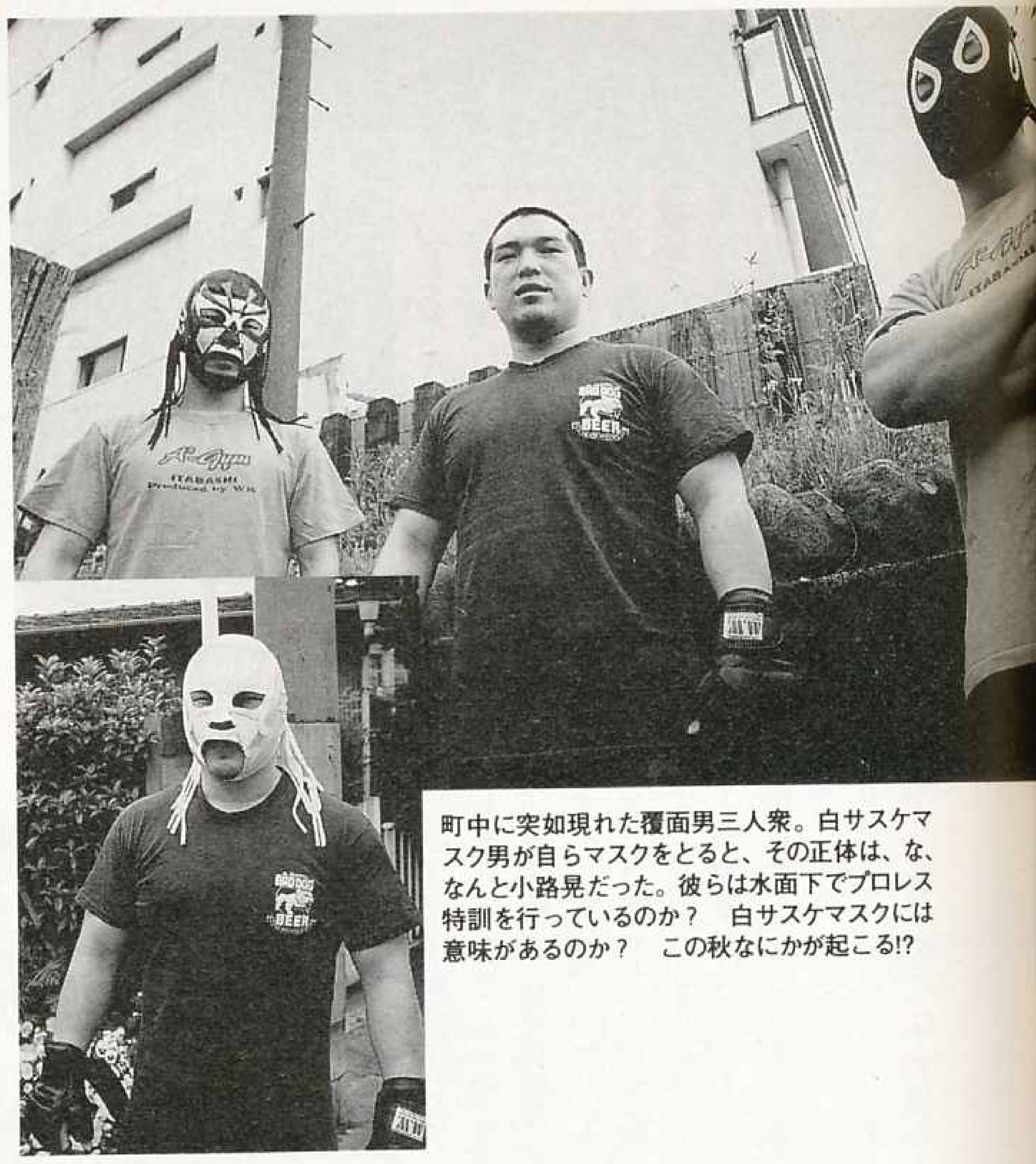
——名古屋っていうと、大学時代そして誠軍団1号時代ですね（笑）。

**小路**　はい、第二の故郷です（微笑）。それで館長とこの間電話で話してたら、そこの焼肉屋の肉を送ってくれるって言ってて。館長は「俺が送った肉を食って元気をつけろ！」って。

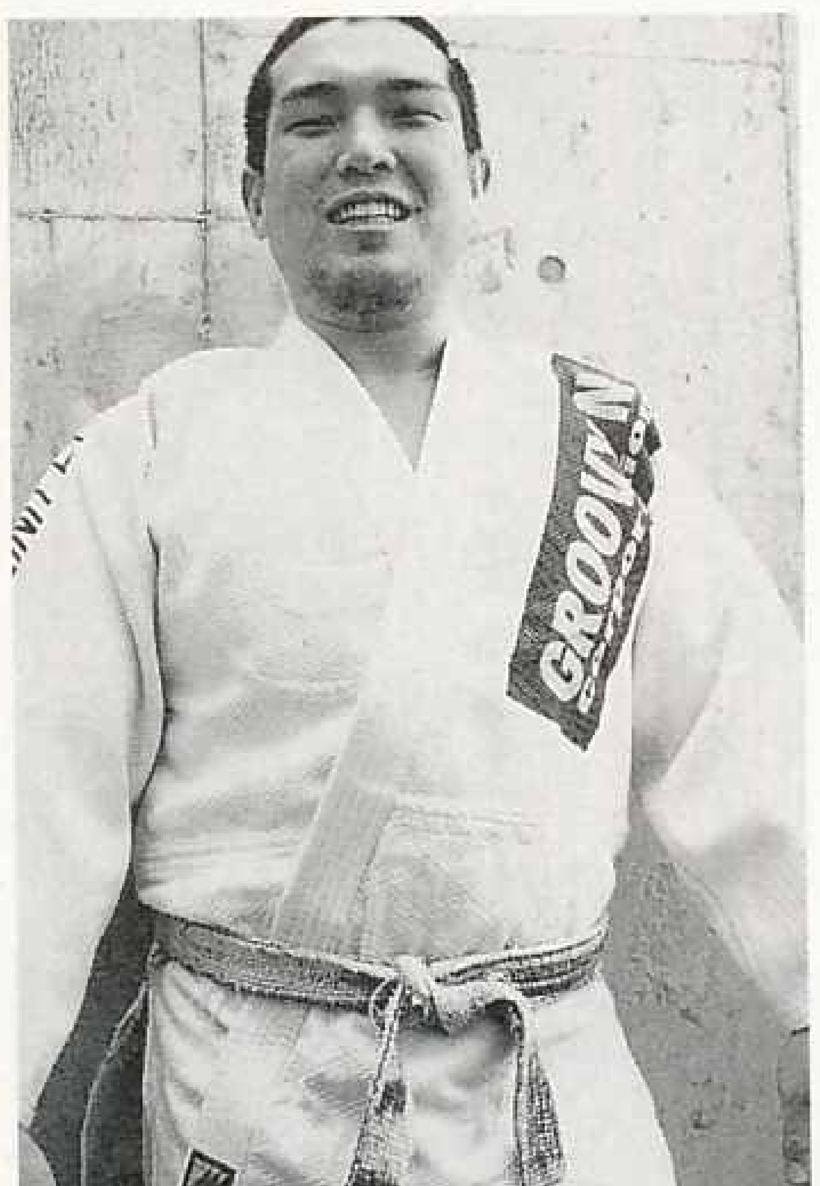
——まだ届いてないんですか？

**小路**　それがまだなんですよぉ。そのお店の牛ホルモンが凄くおいしくて。（大きな声で）館長、早く牛ホルモン送って下さい（微笑）。

**【5月10日／A³—Gymにて収録】**



町中に突如現れた覆面男三人衆。白サスケマスク男が自らマスクをとると、その正体は、な、なんと小路晃だった。彼らは水面下でプロレス特訓を行っているのか？　白サスケマスクには意味があるのか？　この秋なにかが起こる!?

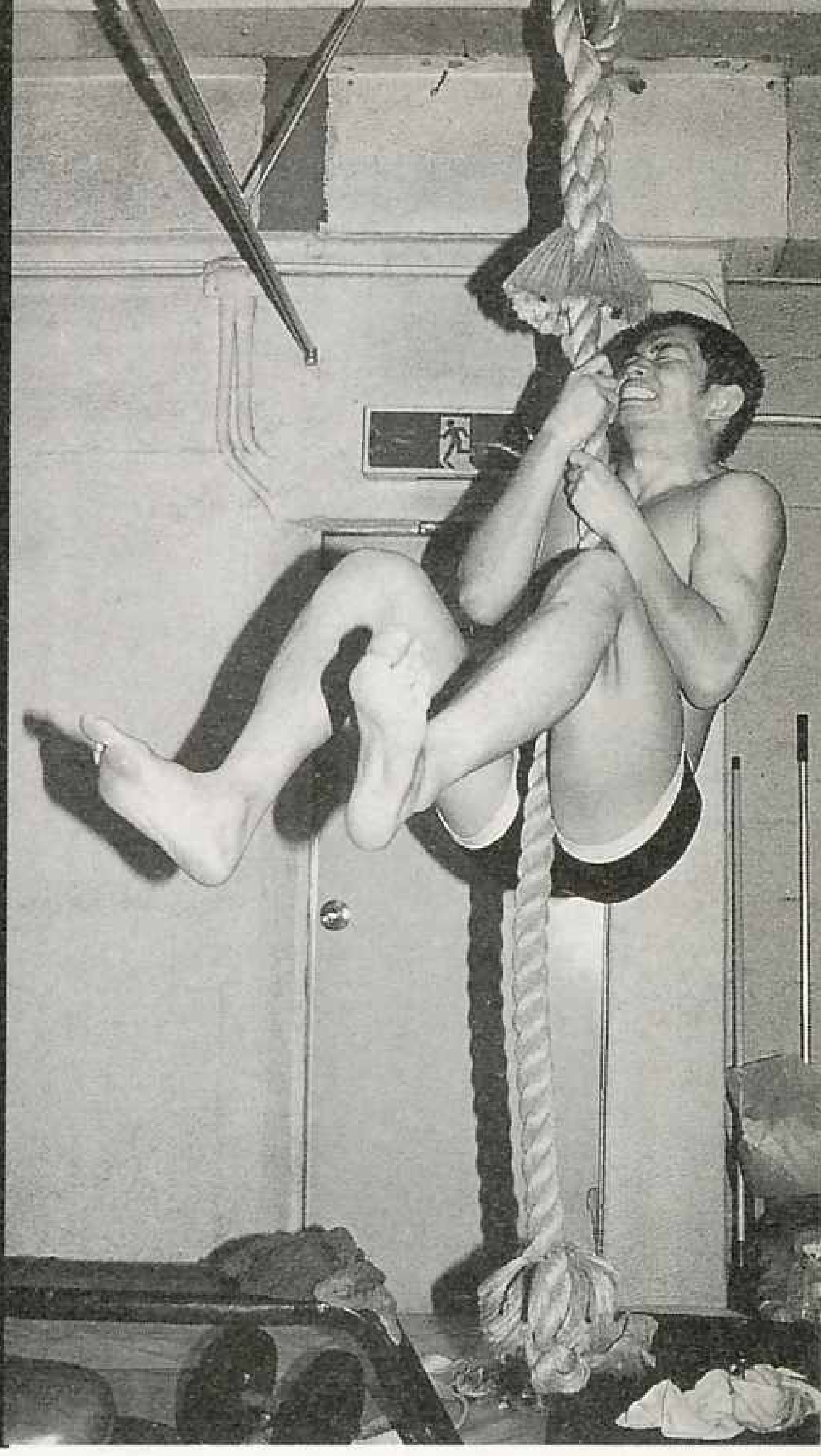


【しょうじ・あきら】1974年1月31日、富山県魚津市出身。172cm、85kg。誠軍団1号＆マスクド1号として東京プロレス、大日本プロレス等で活躍。「ＰＲＩＤＥ１」でヘンゾ・グレイシー相手に大健闘、引き分けに持ち込むと、それ以降「ＰＲＩＤＥ」シリーズ唯一の皆勤賞ファイターとなる。東京・成増にて「Ａ³—Ｇｙｍ」を主宰する特攻一番機。

**【なあ～、みんなぁ、オレのキャッチフレーズを考えてくれ～！】**本文中にもある通り、小路晃選手の〝白い稲妻〟〝ミスターＰＲＩＤＥ〟に続く、カッコいいキャッチフレーズを大募集！　その中から、小路さん本人に選んでもらいます。選ばれた方には小路晃特製プレミアムグッズを差し上げます（予定）。宛先はＰ１４３参照。合い言葉は「手羽先大好き」です。




【マスク協力】アイドール（アイドールでは恒例のプロレスグッズオークションを今夏に開催予定。更にオリジナルＴシャツも発売予定）問い合わせ　03・3371・5211





和術慧舟會

# 宇野薫

## ボクはUFCにも出たいと思ってるんで練習！練習!!練習三昧!!!

——『紙プロ』でTシャツ（144P参照）作ったんですが、どうですか？

**宇野**　おっ、カッコいいッスね。イラストは誰が書いたんですか？　あっ、花くまさんですか。面白いですねぇ。

——ありがとうございます。宇野さんにそう言ってもらえれば百枚は余計に売れます（笑）。よかったらどうぞ！

**宇野**　えっ、ホントですか。嬉しいッス。海岸でこれを着て馳選手のマネします（笑）。ボク得意なんですよ。

——この号が出る頃には終わってますが、ルミナ戦へ向けて意気込みを？

**宇野**　今回のルミナ戦は、総合格闘技を3年間やってきたことの集大成っていうか、自分がどれだけ成長したかのかを測る絶好の機会だと思うんですよ。ベルト云々じゃなくて中量級のプロとしての自分の位置を測るつもりでルミナ選手と闘うっていう感じですね。

　ボクは勝ち負けより、いい試合を見せたいって思ってますから。でも勝とうと思うと負けるんで、勝ちは意識しないようにして、緊張しないことが一番の前提ですね。結局、試合では練習の成果をどれだけ出せるかだと思うんですよ。それを出し切って通用しなかったら、練習が不足してるだけのことであって、ルミナ選手が一枚上手っていうか、練習が多かったのかなってことだと思うんですよ。

　あっそうだ。ボクは（横浜）文体ってレスリングのデビュー戦の会場なんですよ。高校一年で初めて文体のマットでレスリングをやって、それでボクは相手を初めて押さえ込んで勝ったゲンのいい会場なんですよ。

　それで、この間パンクラス（4・18横浜文化体育館）に高瀬（大樹）のセコンドとして行って、パンクラスのリングでボクと阿部（裕幸）さんとでスパーリングを始めちゃったんですよ（笑）。せっかく同じ文体のリングだからって思って、かなり激しいスパーリングやってたんですけど。気がついたらパンクラスの選手がみんなこっち見てて（笑）。「何でコイツら二人でやってんだ！」って見てたと思いますよ（笑）。

　あとこの間の「PRIDE.5」は小路選手のセコンドに付いたんですけど、ホントにきつい練習をやってたのを知ってましたから余計に感動しました。負けても悔いのない試合をしたんじゃないかと思いますし。

　あとは桜庭選手の試合が素晴らしかったですね。桜庭選手に関して言えば、あの冷静さっていうか。ボクは高田道場さんに練習しに行ってるんで、いつもニコニコしてる桜庭選手を見てますから（笑）。最近は桜庭選手みたいな選手になりたいなって思ってますね。ボクもタイプ的に言えば、桜庭選手みたいに試合を凄く楽しむ方だと思いますから。

　それで桜庭さんに試合前に通路であったら、「宇野く～ん」とか声掛けてきてくれて、ボクも「頑張って下さい」って言ったら、桜庭選手はニコニコしながら「この間あげたTシャツ、乾燥機にかけるとちっちゃくなるから、またあげるね」って言ってました（笑）。

　今回の「PRIDE」に関しては凄く勇気みたいなものを頂きましたね。だって2日間ぐらい練習を潰して行くワケじゃないですか。でもそれだけの価値があったと思いましたから。帰ってきてから練習に対する心構えも違ってきましたし、名古屋でも、いても立ってもいられなくてホテルの階段を30階まで行ったり来たりしてましたから。途中で高田選手とか、桜庭選手とかが帰ってきたんで「こんにちわ」とか挨拶したんですけど、ボクはダッシュしてたんで一人で汗かいてましたね（笑）。

　すいません取材時間あんまり取れなくて、ルミナ選手との試合が近いんで、なるべく練習したいんですよ。あとから、あの時やっとけば良かったっていうのを無くしたいんで。いろいろ考えるといくら時間があっても練習が足りない感じがするんですよ。

（守山）代表にも言われたように「毎日ヘトヘトになるまでやればいいじゃないか」って感じで、開き直って逆に毎日ヘトヘトになるまで練習したいって思ってますから。すいませんでした。時間あんまり取れなくて。

——練習中に、すいませんでした。

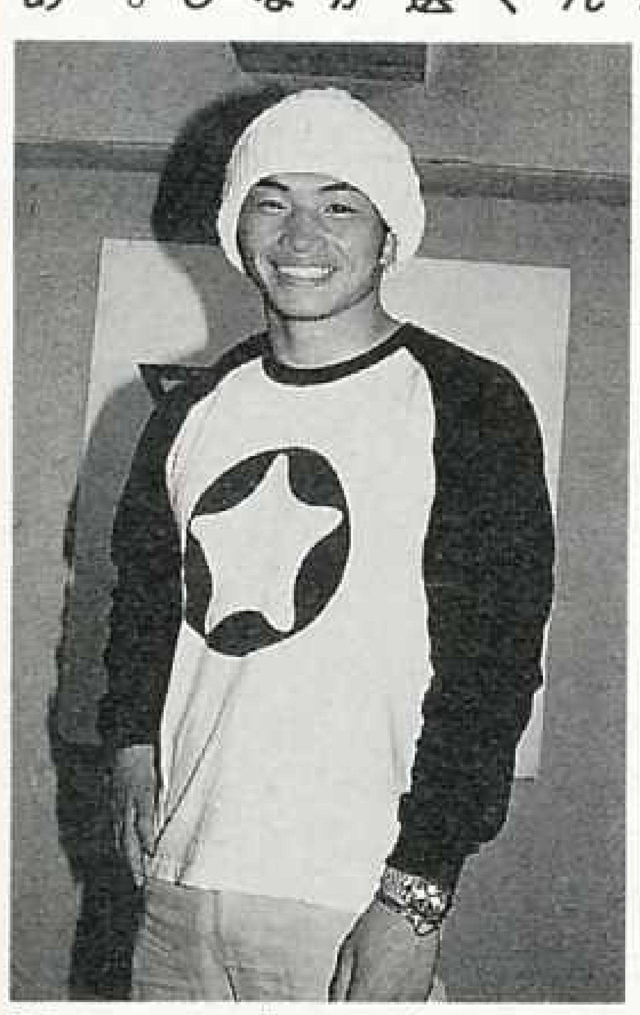
**【5・10／慧舟會東京道場にて収録】**







（写真上）アブダビコンバット76kg以下級、一回戦でジョン・ルイスを破ると続く準々決勝も突破！　準決勝ではチーム・タンクのエディ・ルイスをチョークで絞め落としガッツポーズ！決勝ではジアン・マチャドに完敗したものの、大いに名を挙げた。（写真中）「PRIDE.5」桜庭和志がビクトーをくだし花道を引き上げてくると、そこには一緒に練習をしている宇野の姿が。（写真下）５月11日に行われた『修斗横浜文体記者会見』。席上でNEWチャンピオンベルトが披露された。はたしてベルトはどちらの腰に？（マッハは除く）



【うの・かおる】1975年5月8日、神奈川県横須賀市出身。身長170cm、70kg。高校のレスリング部の同期にパンクラスの渋谷修身がいる。２月のアブダビコンバットでは76kg以下級で準優勝に輝く。５月29日の佐藤ルミナとウェルター級王座決定戦を控え、練習三昧の生活。神出鬼没の宇野商店（フリマ）は、カオルコなら各自調査！

# ECW

EXTREME COLUMN WRITERS

## HARD CORE WRITING

RADICAL観戦記 『バウトレヴュー』

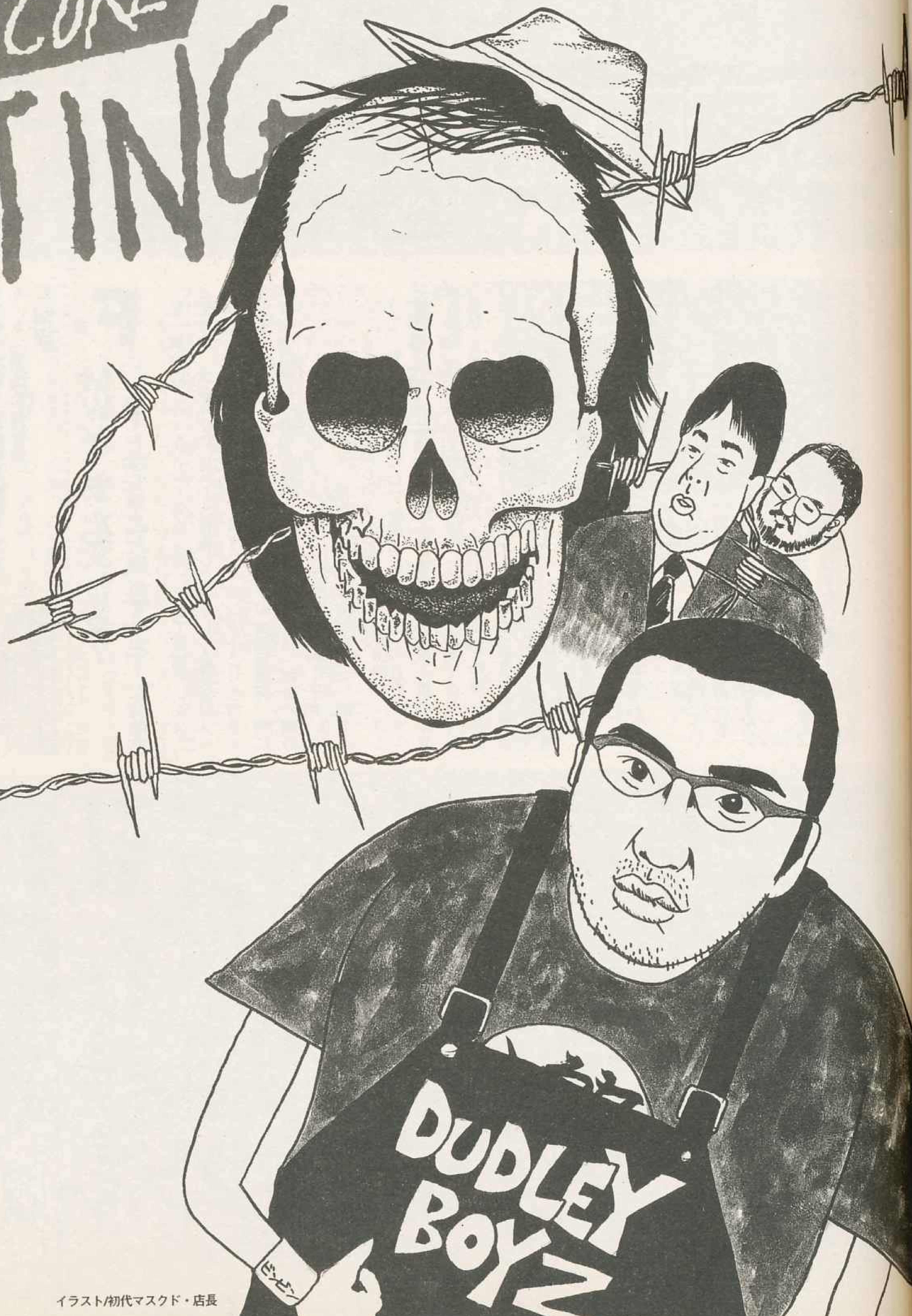
花くまゆうさく 『リングの汁』

梵婆家の店長 『魁！裏ビデオ御開張』

プナニ酒井（エンセン井上マネージャー） 『もうひとつの大和魂』

杉作J太郎 『プロレスを見て女にモテろ!!』

椎名基樹＆せきしろ 『ザ・検証』

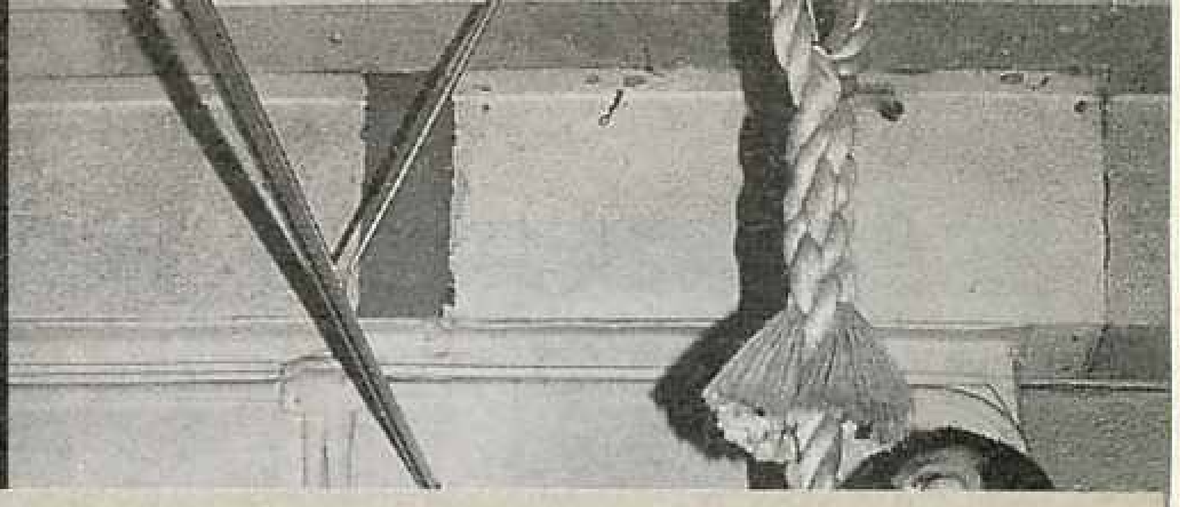



『激本』の挑戦？ こざかしい!!
よりによって一番弱いヤツが相手だ!!

イラスト/初代マスクド・店長

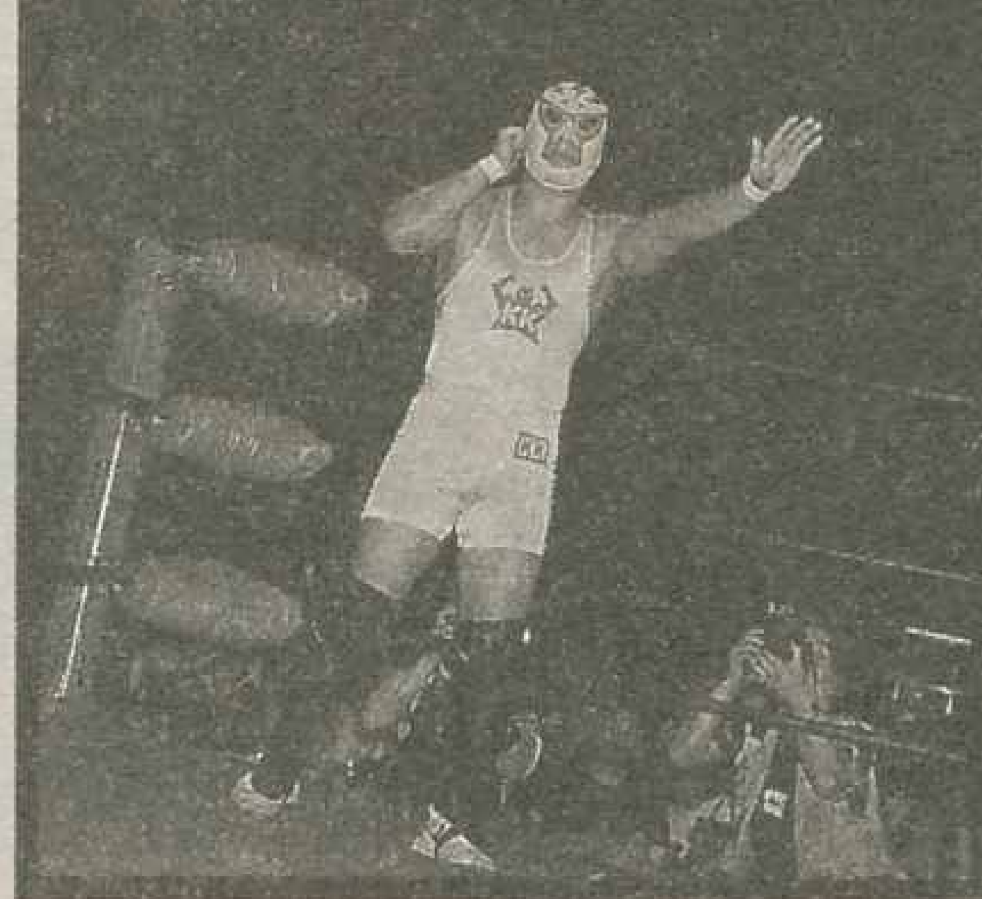
――『紙プロ
参照）作った
宇野　おっ、
ストは誰が
花くまさんで
――ありがと
にそう言って
売れます（笑
宇野　えっ、
ス。海岸で
ます（笑）。

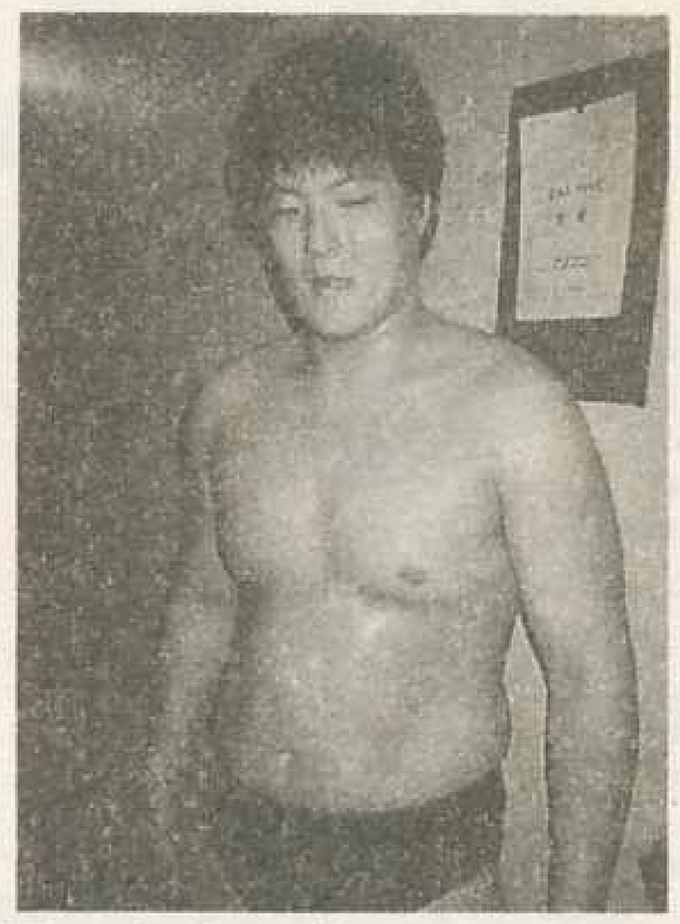




# RADICAL BOUT REVIEW

# 紙プロ的観戦記





『ENTERTAINMENT WRESTLING POWERLIVE』
5/5（横浜文化体育館）
FMW

極私的ベストバウト
1位　冬木弘道vs黒田哲広
2位　邪道vs外道
3位　佐々木嘉則vs森嶋猛

## FMWが、また変わる？「シュートなモメごと見せてやる！」（by冬木）

第一試合のアルマゲドン1号＆2号、そして突貫マンモスこと佐々木、全日本プロレスから参戦した若くして全盛期のジャンボ鶴田体型の森嶋などなど、メインイベンターよりもガタイのいい選手がゴロゴロしていたこの日のFMW前座前線。特に佐々木vs森嶋は、森嶋の足のケガもあり一部では「試合が噛み合ってない」という評価もあったようだが、とにかくデカいヤツらがゴツゴツぶつかる、最近ではなかなか味わえない試合だった。どちらも将来が楽しみないい選手だと思う。

さて、賢明なる『紙プロ』読者の皆様ならこの日のメインが物議を醸したのは先刻承知のことと思うが、軽く説明します。メインの冬木vs黒田にカウント2・9の応酬でギリギリの攻防を展開する全日プロレス（©I編集長）を期待した観客と、去年までの「エンターテイメント・プロレス」をやろうとしたチーム・ノーリスペクトのギャップがモロに出て、結果的に観客が怒り狂った。

今年に入ってから試合以外の部分の過剰さが影を潜めた感のあったFMW。さんざん「試合の前後を変えるんだ」「プロレスっていうのはアメリカンプロレスのことなんだよ」と主張していた冬木が舵を取っていなかったのだろう。

試合後の冬木は「これからはホントにオレが引っ張っていくから。（略）ちょっとでも内情を知ってる人間は面白いぞ。シュートなモメごとをみせてやるから！」舞台裏でのせめぎあいをリング上に持ち込むのか？

そんな贅沢で物騒な抗争劇がこれから行われると、レスラー自身が宣言しているのだから見に行かないわけにはいかないのである。

（坂井ノブ）



『Golden Gate～starting over～All in One』
5/5（川崎市体育館）
ネオ・レディース

極私的ベストバウト
1位　井上京子vs井上貴子
2位　脇澤美穂vs元気美佐恵
3位　試合後ジャイ子に「お姉さん、猛毒隊に入んない？」と誘ってきたシャーク土屋

## 「嫌い、嫌いも好きのうち」は正解だった！

「そんなに煽ったって、絶対やらないよ」って思ってました、正直言って。だって京子と貴子ってどう見ても憎み合ってるようにしか見えないんだもん。他人のケンカは面白いけど、ジャイ子だったらホンットに大っ嫌いなヤツとはケンカするのもイヤ。「一番冷たい視線は無視」っていうしね。嫌いなヤツには「一番冷たい視線」を浴びせてやろうじゃねぇかって思うよ、女なら（ジャイ子だけかなぁ？）。

だから対戦が決まったときは驚いた。でも決まったとなれば俄然気になる。京子はツブすのか、貴子は秘密兵器を出すのか、そもそも試合は成立するのか。成立しなくてもそれはそれで面白いじゃん！　むしろ、そのほうが見たい！　いろんな不謹慎な想像を巡らせて会場に向かいました。

結果からいえば、二人は「ケンカ」ではなく「試合」をしました。でも意外なことに全然がっかりしなかった。貴子がスタンガン出したときはドキドキしたし、ボクシング特訓の成果も京子の顔面をボコボコ殴って披露してくれた。京子は受け続けパリンヤー戦を彷彿とさせるタフさを見せつつも最後はナイアガラドライバーでキッチリ仕留めた。これが、この二人のプロとしてのプライドなんだ、きっと。

試合後、京子は貴子を認める発言をした。貴子も京子について「やっぱ、いいヤツだった」。ま、「W井上」復活宣言はリップサービスしすぎだけど。2年近く憎み続けたことも、それを1回試合をしただけで水に流せることも、モノ凄いパワーが必要。「嫌い、嫌いも好きのうち」という言葉が頭をよぎった。この言葉、あんまり好きじゃないんだけど、間違ってないみたいね。

（ジャイ子）





『CHIKASHITSU MATCH Vol.7&8』
5/4（新宿ＡＣＢホール）
キャプチャー

極私的ベストバウト
1位　石井智宏vs你好
2位　北原光騎vs矢口壹琅
3位　タノムサク鳥羽 vs小泉幸彦

## 愛の伝道師、キャプチャーで「愛」を叫ぶ!!

編集部の写真整理をしてたら、矢口壹琅の写真がむやみにたくさんあった。貧乏会社としては写真の撮り過ぎ程度でも命取りになるので注意してるんだけど、矢口がリングに上がるとつい「撮らなきゃ」という気になるから不思議。そんな〝Mr.フォトジェニック〟矢口がキャプチャーのワンデー・トーナメントに初参戦。キャプチャーマットでも愛を叫ぶのか、北原光騎相手に叫ぶ余裕はあるのか。

そんな心配は無用とばかりに、矢口は試合前の選手紹介式（キャプチャーでは選手一人ずつがプロフィールを紹介される）では跪いて祈ってる、かと思えばギターを掻き鳴らすポーズ。やっぱりシャッターを切ってしまう。

注目の北原戦は昼興行のメインで行われた。試合開始早々、北原をツブしにかかる矢口。こんな狭い会場で場外乱闘なんて……と思ってる間もなく、北原が血祭りに上げられた。キレた北原にスリーパーで絞められＴＫＯとなったが、そこで引き下がるわけもなく北原に襲いかかり、北原もちゃぶ台と傘を手に応戦。なんでちゃぶ台と傘？　なんて思う余裕もないぐらい怖かった。でもいまは気になる。なんで？

この日一番光ったのは、ＷＡＲの石井智宏。1回戦ではダッシュで向かってくる小泉幸彦を張り手で吹っ飛ばし、準決勝では你好と4Ｒまで壮絶な殴り合い。3位決定戦があるから勝っても負けてもお互いもう1試合あるのに。結局石井は3位。前日、福岡で飲み明かし、朝東京に戻ってきたって話はホント？　なんて頑丈なんだ。3試合したあと平気で撤収作業してるし。ジュニアの試合もいいけど、こういうスタイルの試合をもっともっとやって欲しい選手です。（ジャイ子）



『D.J.Battle 2nd』
4/27（北沢タウンホール）
DDT

極私的ベストバウト
1位　三上恭平 vsタノムサク鳥羽
2位　高木三四郎&エキサイティング吉田&黒影vs大作&勇作&高井憲吾
3位　アジアン・クーガー vs三上恭平

## 打倒！　ラウル・ロメロ なんてどうですか？

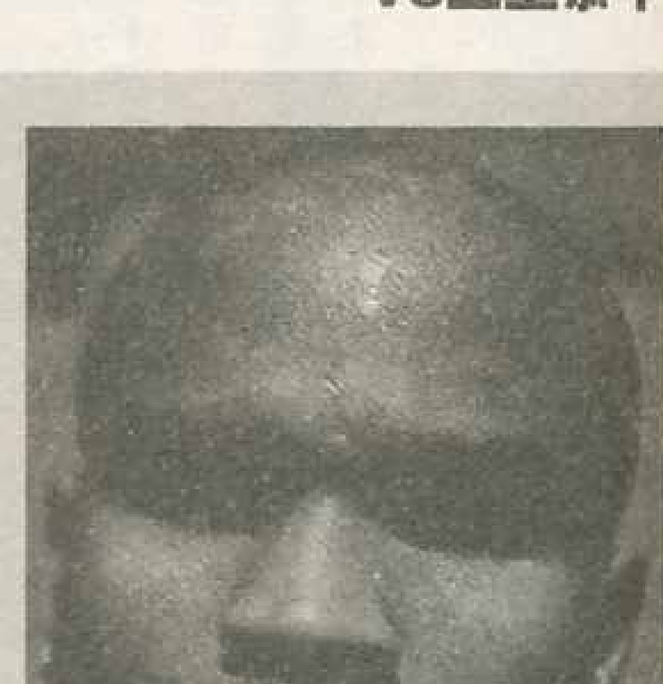
昨年に続き2度目となるインディーJr界、春の祭典「ＤＪバトル」が今年も開催された。今回の出場選手はインディー界で確かな評価を得ている怨霊。千春の出産&結婚問題からしばらく振りに素顔で登場のＮＯＳＡＷＡ。ガチガチの本命かと思われたアジアン・クーガーなど、誰が勝ち上がってもおかしくないメンバーが景気よくズラリと並んだ。

トーナメント一回戦の第2試合目、テーマ曲とともにコーナーから小走りで入場してきた三上恭平は、何の前触れもなく、オープンフィンガーグローブを付けバーリ・トゥーダー仕様でリングイン。ご丁寧にも「ＨＵＮＴＥＲ」パンツまで着用するという念のいれよう。レスラーとしてはかなり小柄な部類に入る三上だが、グローブとパンツいっちょで、体つきから顔つきまで、その筋の人に見えてくるから不思議なもの。ゴングと同時に、三上が飛びつき腕十字をキメると、タノムサクは、そっちがその気ならと、いつもより余計に激しい打撃を繰り出していった。三上は何度もダウンを繰り返しながらも、最後はマウントからの三角絞め、そして腕十字に移行してタノムサクからタップを奪い一回戦突破。

準決勝からは通常のプロレススタイルに戻した三上は、気がつけばクーガーを丸め込みＤＪバトルの頂点に立っていた。

試合後、三上は、「体が小さいんでナメられてるところがあるんで、木村（浩一郎）さんのところで、プロシューターの方から泊まり込みで指導を受けてきました。でもまだ、長い時間やるとボロが出るんで」と謙遜していた三上。

華麗な空中殺法も捨てがたいが、たまには今回のような華激な格闘殺法もお願いしたい所だ。（ちょろ）



『K-1 REVENGE '99』
4/25（横浜アリーナ）
K-1

極私的ベストバウト
1位　ゲーリー・グッドリッジ vs武蔵
2位　レイ・セフォー vsアンディ・フグ
3位　フランシスコ・フィリョ vsアーネスト・ホースト

## ゲーリー・グッドリッジとジャイ子は同じ穴のムジナ

『ＰＲＩＤＥ1』ではオレッグ・タクタロフにＫＯ勝ちし、『ＰＲＩＤＥ4』では〝北の最終兵器〟イゴール・ボブチャンチンにＫＯ負けしと、勝っても負けても豪快なゲーリー・グッドリッジが『Ｋ―1』に初参戦した。

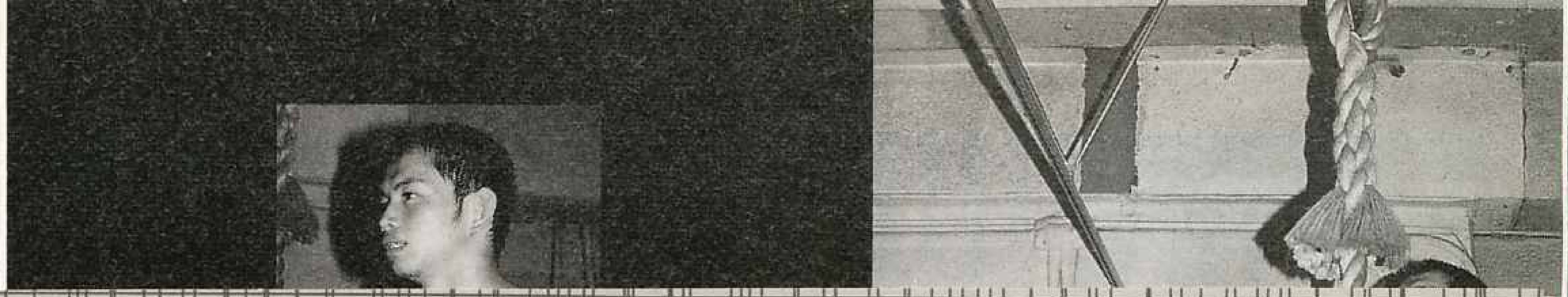
試合前にはオーロラビジョンで『ＰＲＩＤＥ』での試合をダイジェストで流したわけだが、これだけでもうお客さんは興奮状態。凶悪な顔をしてマウントパンチを振るうグッドリッジに「怖ェ～！」とか「強いじゃん！」とか、ザワザワとささやき合って期待感は高まるばかり。その最中にグラサンかけたグッドリッジが登場して会場はもう絶頂一歩手前。

対する武蔵だが、狂暴な黒人そのままのグッドリッジにリングインと同時に気圧され気味。

キックの技術で言えば明らかに武蔵の方が上であるはずなのに、観客にも武蔵本人にも「なんだかヤバイな」と思わせてしまう、単純だが強烈な説得力がグッドリッジにはあったというわけだ。

なにせ、試合開始数分後、武蔵のローキックで押し込まれたグッドリッジが、怒りの形相でズンズン前に出てきただけで客はわいたし、武蔵は後ずさるし。

キックや空手関係者にはまったく不評だったグッドリッジだが、見た目一発のインパクトだけで言えばこの日一番。初参戦というのを差っ引いてもちょっとケタ外れだったのだ。「怖ェ～！」って思わせる見た目の重要性を改めて認識した闘いだった。バトラーツの会場などでジャイ子人気が高いのも同じ理由。つまりは怖いもの見たさ。〝「怖い怖いも好きのうち」は正解だった〟。ジャイジャイと。（ブチ）



――『紙プロ
参照）作っ
**宇野** おっ、
ストは誰が
花くまさんで
――ありがと
にそう言って
売れます（笑
**宇野** えっ、
ス。海岸で
ます（笑）。

爆走！　妄想一番星な作文

# リングの汁 RADICAL

花くまゆうさく




蒲田行進曲風に言えば、客を呼ぶスターの銀ちゃんが高田で、大部屋のヤス達が桜庭や松井なわけである。階段落ちをやるのはヤス達だ。毎回あまりに素晴らしい階段落ちをやるヤス（桜庭）に評価が高まってきているのだが、それでもあくまで客を呼ぶのはスーパースターのこの俺だと銀ちゃん（高田）。そこへ興行主が次の公演から客演をブッキングしてきた。それがいま売り出し中の新鋭スターのスーパー銀ちゃん（小川）、スターでありながら自分で階段落ちもやる（しかも抜群にうまい！）常識破りの新しいスターで、ただいま人気急上昇中だ。そのスーパー銀ちゃん（小川）が、銀ちゃん（高田）の楽屋にあいさつに来て絡む。

「次から俺も出ますんでヨロシク！　いやあ楽しみだなあ。次は一緒に階段落ちしましょうよ！　みんなやってるじゃないですか！　ねっ、やりましょうよ！」とポンと肩を叩き出ていく。

「ちっ、なんだよアイツ。まともに挨拶もできねえのかよ。大根のくせして！　ったく、どんな教育してんだよ奴の師匠はよぉ。この世界もおかしくなっちまったもんだ」とヤス達に文句言う銀ちゃん（高田）。ニガ笑いのヤス（松井）……こんな感じでしょうか今回の『プライド5』。

桜庭には心打たれた。私は柔術好きだけど、ココロから素直に桜庭を応援しました。素直にひょいと、ひとつずつ試合をこなしミドル級世界最強に王手をかけた桜庭は本当に素晴らしいです。長年高見の見物を決め込み、オイシイところをもっていこうと狙っていた船木は、だいぶ差をつけられてしまったか？

プロレスと格闘技の壁を蹴りまくってブチ壊しているように見えたあの姿には心揺さぶられました。本当に強い奴らがトップにいるプロレス界にしてほしいです。

そんで小川だ。『プライド4』で『新・四角いジャングル』の始まりを感じたが、この日現れた小川のオーラに、この物語の主役は小川だったのかと痛感したと同時に『ヒクソン物語』の終盤も感じました。

まずは小川に高田をトップの座から引きずり降ろしトップの座に立ってもらう。そして小川vsヒクソンだ。柔道日本一の小川こそヒクソン物語のクライマックスに最適でしょう。そしてまたもや木村vsエリオの再現となり、グレイシー一族は一旦フェードアウトする（そして数十年後にまた浮上）。そしてその後に残ったのは、桜庭、高阪、エンセン。ケアーに、ガム噛むグッドリッジ、松井や村上&アレクに小路が手にマイクを持っている、金原も来てた、平もいた、モーリスにフランク、海の向こうには黒い番長・ランデルマン、ブラジル新世代、ロシアの骨太野郎達、オランダケンカ軍団（ハマカーやナイマンのようなオランダ版ガキ帝国復活せよ）、これらが加わればまさに格闘スターウォーズだ。そんなマット界にしてくれ小川、『プライド』もしくはアブダビ王子よ。




**はなくまゆうさく■**ウルフルズのTheピーズのカバーが素晴らしい。村田卓実くん、本買ってくれてありがとう。

# 魁！裏ビデオ御開帳

**大庭敏幸（「梵婆家」店長）**

## 第四回　90年8月3日　新日本プロレス・後楽園ホール　長州力vs橋本真也

後楽園7連戦というのは今では考えられない大盤振舞のシリーズを組んでいた頃ですね。単純に後楽園で7連戦やるよりも、両国で3回やった方が効率は全然いいんでしょうが、そういうムチャが見たいなあ。などとファンのワガママですね。実際にこの頃の新日は良心的なマッチメークが多かったんで良かったんですよ。それが時を経て、みなさん、最近の新日のマッチメークはどう思いますか？　日本人がほとんどでガイジンをあまり呼ばないという、ある意味現在の新日本の基本フォーマットがこの後楽園7連戦から、しっかりと出来ています。しかし、最近は言っちゃなんですが長州のような試合が多すぎます！　この頃を思い返してください、マッチメークは独特で、一歩間違えば「適当に決めてるの？」という感じのマッチ・メークですが、それが逆にいい方向に作用します。その象徴的な試合がこの橋本vs栗栖です。



この試合中、栗栖が最前列に座っていた野末珍平さんのイスを取って、それで橋本をボコボコにするという貴重なシーンがありまして、ちなみにその隣の隣にはボクが写ってます。それはどうでもいいことなんですけど、とにかく栗栖がFMWで体験した荒っぽいプロレスをそのまま橋本にぶつけるのがすさまじいです。ハートは昭和・新日、やってることはFMW、しかも元・国士舘大学の応援団長ですから、これは凄いですよ。痛そうな金属部分で頭をブッ叩くという、思わず1・4のvs小川戦がフラッシュ・バックするプロレス道にもとる攻撃です。このとき、橋本は手をひどく骨折してしまいます。その後の橋本は蹴りのみで、手は使いません。それが響いてvsトニー・ホーム戦があんな試合になってしまったらしいですね。

しかし、橋本というのは不思議な選手ですよね。武藤（敬司）のように決して試合内容は安定はしてませんから。

ボクにとっての1・4はどう考えても橋本なんですよ。もちろんオーちゃんも素晴らしいけど、やっぱり昔からのプロレスを引きずってるプロレスラーは好きですから。橋本と小川の再戦をやらなきゃ世間が許しません！　なんて言ってますが、また同じ結果になる可能性もありますけどね。村上vs飯塚とか、高岩vs4代目タイガーとか、それに付随していろいろ見たいカードが実現してくれるといいんだけど。

ところで、橋本が大減量してるという記事を『東スポ』で読んだんですが、ウルトラマン・ガイアに出たときはさほど痩せてなかったらしいですね。でも、急に痩せられても困るなあ。痩せこけてフラフラした橋本なんて見たくないですね。

最近気づいたんですが、だいたい裏ビデオの約80%は前田日明、長州力、橋本真也が何らかの形で試合に絡んでいます。それだけトラブル・メーカーなんですね。この人たちに共通するのが、さっき言った「いいときと悪いときの差が凄く大きい」ということ。そういう強い男の系譜にいるんだから、橋本よ頑張ってくれ！

**ぽんばいえのてんちょう■**「梵婆家」はプロレスのビデオが表・裏を問わず圧倒的に揃っている居酒屋です。現在オリジナルTシャツ制作中。お問い合せはTEL、03-3323-5629まで。

ECW HARD CORE WRITING



賢い野蛮人エンセン井上のマネージャー日記

# もうひとつの大和魂

プナニ酒井

## 第4回　エンセンの涙

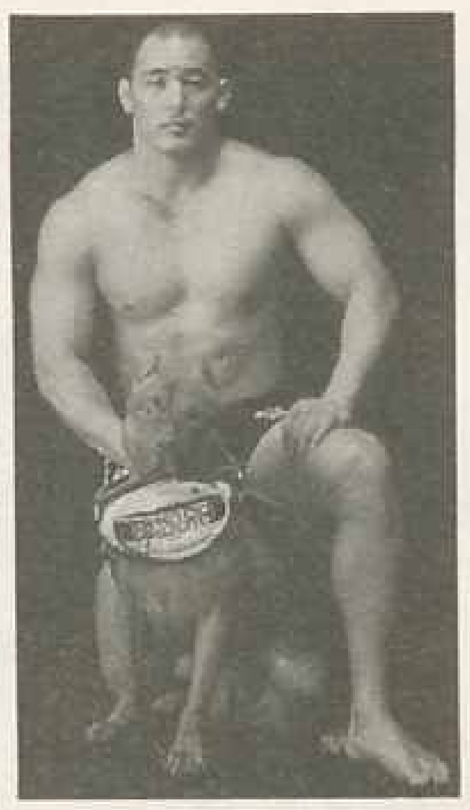
「マーク・ケアー『PRIDE.5』を欠場」という知らせが届いた瞬間、エンセンはひどく落ち込んでいました。「あんなに練習したのに、なんでヨ！『ケアー殺したい』の気持ち、どうすればいい!?」怒っているのと悲しいのが一緒になって、エンセンはこっちが「試合できるの？」と心配になるぐらい、落ち込んでしまいました。『笑っていいとも』の楽屋でも、桜庭選手に「信じられないヨ！」と散々、やりきれない気持ちをぶつけていたようです。それを聞きながら桜庭選手は、あのニコニコ笑顔で「大変だねえ」と話を聞いてくれたそうです。

そして、対戦相手は西田操一選手に決まったわけですが、ご存知のようにその試合でエンセンは手を骨折してしまいました。試合直後、控室に戻ってきたエンセンは「骨が折れたかも」と言ってましたが、翌日に病院でレントゲンを撮ったらその通りでした。

さて、今回のテーマは「エンセンの涙」です。

エンセンは、いつも試合の時に「相手の心を折りたい」と言ってますが、エンセンの心も何度か、折られたことがあります。ケンカやイタズラをしているエンセンも楽しいですが、そんなエンセンを紹介するのもたまにはいいんじゃないかと思うので紹介します。





エンセンのマネをして写真を撮ってみました。犬は私の愛犬モコです。修斗くんにはケンカで負けました。

エンセンが涙を流したのを最初に見たのは、忘れもしないムサシが死んだときです。ムサシとは、エンセンが来日してまだ友人も少なく、本当に寂しい日々を送っていた頃に買った柴犬のことです。現在の修斗くんのかわいがり方を見れば、エンセンがどれだけそのムサシをかわいがっていたかは想像がつくでしょう。

そのムサシが、ある晩にスキをついて逃げてしまったのです。いつもなら、逃げても必ず見つかるはずのムサシが見つからなかったのでした。

それでも諦めずにエンセンは明け方にもう一度探しに出たのでした。そのとき、エンセンは最も避けたかった光景に出会ってしまったのです。

ムサシは車に轢かれて死んでいました。

それでもエンセンは「ムサシのこんなかわいそうな姿を誰にも見せたくない！」と考えて、そのまま遺体を担いで近くの川まで行き、ひとりでムサシを埋めました。その中にムサシの好きだったオモチャや大好物だった食べ物を一緒に入れてあげたのでした。それから約1週間、エンセンは冗談も言わず落ち込んでいましたが、時が経つにつれて元気になり、今度はお兄さんのイーゲンが飼っている犬の子供を一匹もらって飼いはじめました。それが修斗くんです。

修斗くんが大きくなるにつれて、エンセンも少しずつ大人になってい……ませんね。まだまだ、子供みたいなエンセンです。というわけで、修斗くんの子供と、子供なエンセンの3ショットで締めさせていただきます。



先日、誕生した修斗くんの子供です。なぜかエンセンまで子犬のような表情です。

**ぷなに・さかい■**修斗くんの子犬を希望される方で、その生涯をワンオーナーで飼育できる方に限り販売します。問い合わせはTEL・0493-54-5515修斗くんクラブ、やなせ迄。

エンターテイメント・レスリング・コラム

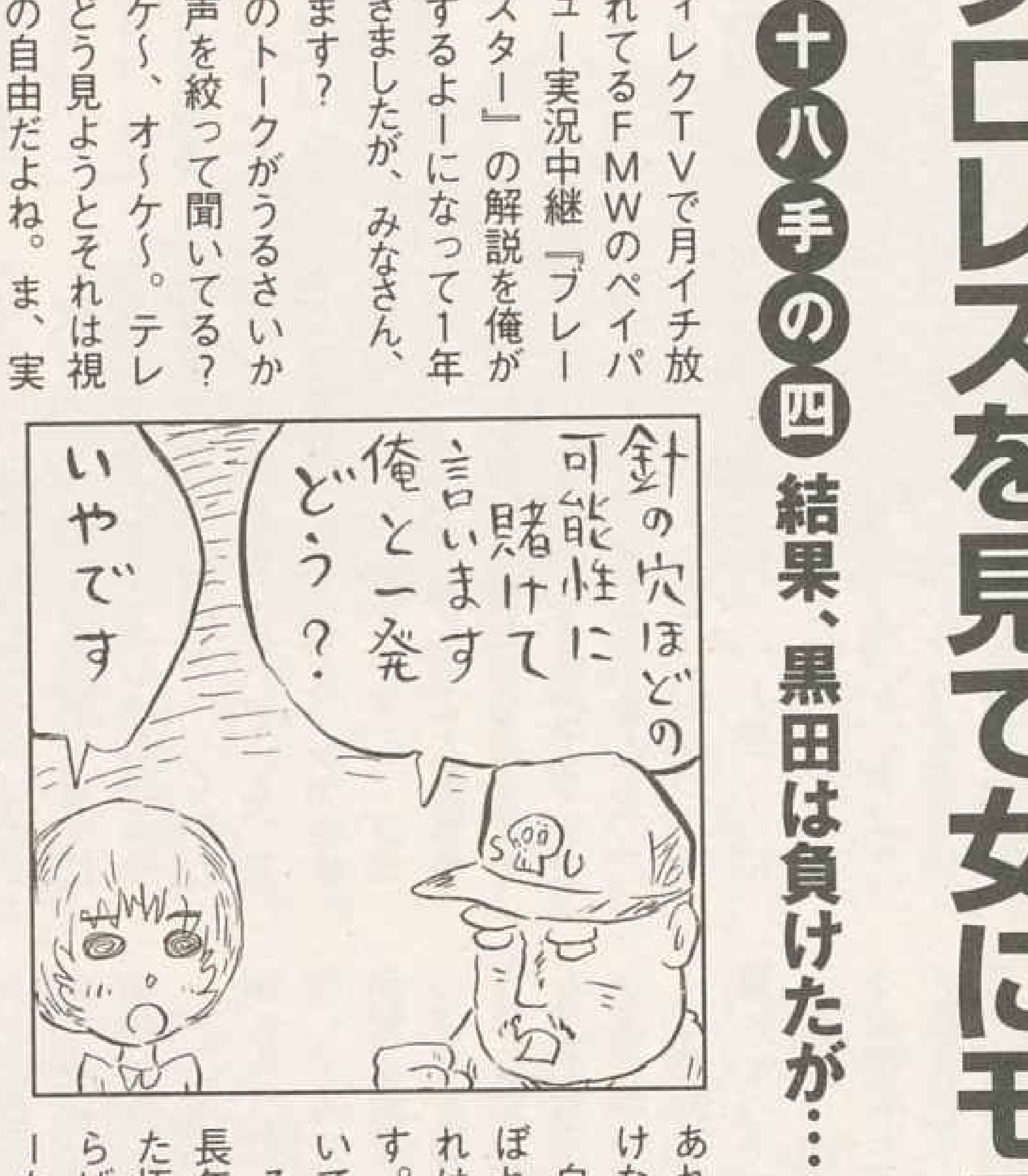
# プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

## 四十八手の四　結果、黒田は負けたが……の巻

ディレクTVで月イチ放送されてるFMWのペイパービュー実況中継『ブレーンバスター』の解説を俺が担当するよーになって1年が過ぎましたが、みなさん、見てます？

俺のトークがうるさいから音声を絞って聞いてる？　オ〜ケ〜、オ〜ケ〜。テレビをどう見ようとそれは視聴者の自由だよね。ま、実際、うるさいし。とくに先日、5月5日に横浜文体で開催されたエンタテインメント・スーパー・ライブはうるさかった。俺も留守録しておいたテープを家に帰ってから見たんですが、我ながらウンザリしちゃったよ。うるささではジェリー・ローラーを越えたね！　でもうるささの中にも真実はある。黒田哲広が集団リンチ状態となったメインの冬木×黒田戦。冬木、雁之助、邪道、外道、金村、非道、中川たちによってたかって暴行を受け、まさに万にひとつも黒田の勝ち目はない地獄絵図が展開された。もー俺も腹がたって、いても立ってもいられなくなってしまったんですが、俺はストーン・コールドでもなければ、ボール・ワイトでもないからね。歯ガミしながら放送席にかじりついておりました。ホント、黒田が勝つ可能性は全然ないんですよ。少し優勢になると雁之助たちがリング外から登場して黒田をボコボコにするし、やっとの思いでフォールしてもレフェリーの伊藤豪は超スローモーションでカウントを取りやがる。立ってもボコボコにされるだけなんですが、それでも黒田は立つ。もー立たないでくれ……そんな思いも頭をかすめたんですが、ほとんど無意識に、俺は絶叫してました。「こーなったら相手全員やっつけりゃいいんだ！　ほんの少し、針の先ほどでも可能性があれば、男はやらなきゃいけないんだ！」



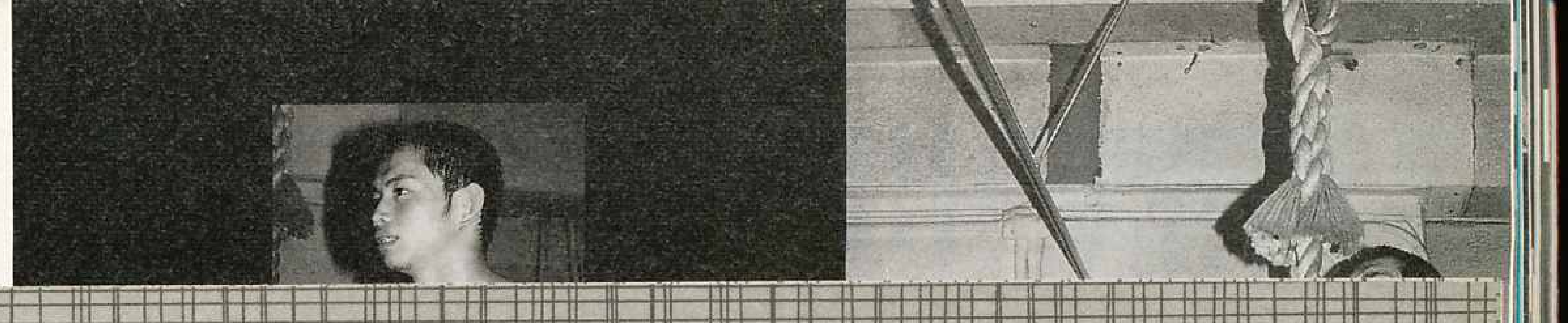

自分で絶叫してて涙がこぼれてきましたけどね。これはホントのことであります。とくに男女の関係においては……。

そうです！　これは俺が長年の修行の果てに会得した極意なんですが、本来ならば俺とは釣り合わないよーなマブいスケに出会った時。知的でハクいスケに出会った時。絶対にうまく行くとは思えないが、あきらめない限りなにがあるかわからない。それが男と女。それが人間。自分で言うのも図々しいが、まさに真実であります。そ〜ゆ〜エッセンスも込められているわけだから『ブレーンバスター』は必見のプログラムであると俺は言いたい。

なお、当日一番うるさかったのはセミで行われたFMWとバトラーツの全面対抗戦のゲスト解説として放送席に乱入した島田裕二！　もーうるさいのなんの！　休む間もなく、実況の斉藤充さんや俺とガンガンかみまくりながらしゃべり倒しであります。で、なにをしゃべっているかというと、いかに自分とこの選手が素晴らしいかということのみ！　図々しさの極致とも言えるが何度も何度も繰り返し聞いてるうちにうなずいてしまいそうになるから不思議だ。島田マジックだよ。これも男女関係に応用できると実感した次第。

**すぎさく・じぇいたろう■**今回は島田マジックを利用して自分自身のことをヨイショして書いてみました。『ブレーンバスター』は東芝EMIからビデオになったりもしてますんでそっちのほうもヨロシク！

―『紙プロ
参照）作っ
宇野 おっ、
ストは誰が
花くまさんで
―ありがと
にそう言って
売れます（笑
宇野 えっ、
ス。海岸でこ
ます（笑）。



### 椎名基樹&せきしろの

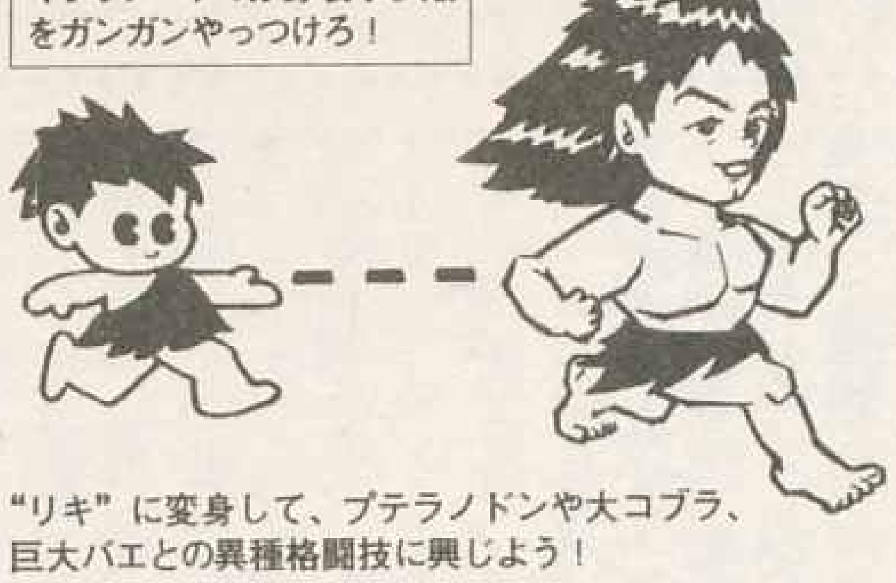
# ザ・検証

**「フライにでかい顔されるのに腹が立つ。やりたきゃ次は開幕から来いって。プロレスの巡業についてこさせて、ヒーヒーいわせてやる!」（越中）。というわけで懲りずにひっそりと始まったザ・検証。無理難題を強引に検証しますよ。どんな検証でもドンとこいだよ。椎名基樹とせきしろで、ドンとこいって。チームワークは何も心配ないね。ドンとこいだよ！　今回もガタガタ言うよ！　今のうちにほざいておくって！**

**検証【その1】……byせきしろ**

## プロレスは市民権を獲得したか？

**オタスケマン“リキ”**
リキマークをとると、スーパーオタスケマン“リキ”に大変身。Bボタンの連打で、リキラリアートの分身攻撃。敵をガンガンやっつけろ！






“リキ”に変身して、プテラノドンや大コブラ、巨大バエとの異種格闘技に興じよう！

「新人類」というファミコンソフトを皆さんは覚えているだろうか。覚えていようが覚えていまいがそんなことは無視して話を進めていくが、このソフトのイメージキャラクターとしてあの長州力が起用されていたのだ。確かテレビCMにも出ていたと思う。このゲーム自体はありがちなアクションゲームで、面白味も何も無いのだが、ゲーム内容よりも注目すべきは解説書なのである。なんとこの解説書で長州がワンポイントアドバイスをしているのだ。しかもその中で長州が驚愕すべきある説を唱えている。

「僕らのヒーロー、長州力からゲームがうまくなるためのメッセージが届いてるぞ」というインチキ臭いアオリのあとに「やあ、みんな、毎日元気に遊んでいるかい？　ちゃんと勉強もしてるかな？　遊んでばかりでも、勉強ばかりでも、ヒーローになれないぞ！」と、まずは体を使う仕事をしている人にありがちな注意でアドバイスは始まる。「ここで、リキがキミだけにゲームがうまくなる方法を教えてあげよう」と驚くべきことに一人称が“リキ”になっているのだが、先に述べた驚愕すべき説はこの後である。「ファミコンも体力だ、ってこと。青っちょろいモヤシっ子は、いくらゲームだけやってもダメ。まず外に出て、サッカーでもやって体力をつけろ。キャラクターのフットワークも見違えるように軽くなるぞ」とプレイヤーとゲームキャラクターのフィジカル面でのシンクロ説を唱えているのだ！　つまり、マリオをやる前にあらかじめ自分自身のジャンプ力をつけておくと、マリオのジャンプ力もアップするということである。驚きだ！

この説の真偽はともかく、当時はファミコンの全盛期、誰もがファミコン名人を目指していた時代だ。ゲームが上手になりたいチビッコ達は素直に長州のアドバイスを鵜呑みにし、長州が言うところの「サッカーでもする」チビッコ達が増大したに違いない。それが日本のサッカー人口を増やし、Jリーグの誕生、そして日本のW杯出場の原動力となったのではないだろうか。

またこのゲームには「リキマーク」なるアイテムがあって、これを取るとスーパーオタスケマン〝リキ〟に大変身する。Bボタンの連打でリキが分身し、画面上の敵をリキラリアートで一気にやっつけてくれるのだ。ほとんど無敵状態であるから、これほどチビッコ達にうれしいアイテムは無い。まさに長州はチビッコ達のヒーロー！　おまけに「プロレスラーは強い」という観念を潜在的に植え付けてもいる。

プロレスラーの強さを見せ付け、チビッコ達の支持を集め、そして日本サッカー界の発展に貢献した長州。この功績を見ると、プロレスが市民権を得るために大いに貢献したと思われる。しかし、ここで「プロレスは市民権を得た」と断定するわけにはいかない。なぜならこの話の半分、特に後半は私の想像であるからだ。

レスラーのメディア露出という視覚による一般社会へのアピールの例を強引に検証してみたわけだが、今度は聴覚のアピールの例を挙げ、これまた強引に検証してみよう。

以前新日とUインターの対抗戦が行われていた頃、代々木体育館で試合があった。この時、会場近くのファーストフード店では「UWFのテーマ」が大音響で流されていた。

この話の表面だけをみると、何てこと無い、ただそこの店長がUインターのファンであったために流した、そんな微笑ましいエピソードに感じることだろう。しかし実際にはそれだけでは終わらなかったのだ。

代々木体育館は原宿駅の近くにある。原宿といえばおしゃれ情報の発信基地だ。過疎の村がうらやむくらい多くの若者が歩いている。であるから店頭に置かれたラジカセから流れるUWFのテーマに、プロレスファンはもちろんのこと原宿を歩くおしゃれな若者たちも足を止めたことだろう。絶えず流行アンテナを張っているその手の若者たちのことだ、「このアップテンポかつパンチの効いた曲は何？」と思ったに違いない。パンクでもテクノでもソウルでもR&Bでもない、初めて耳にする音楽。やがてその曲が何であるのか探し出す若者たち。そしてプロレスラーの入場テーマ曲に出会う……。一見微笑ましいエピソードが、実は多くの若者たちの音楽観に影響を与えていたのだ！

同じような事例が他でも見られる。私が良く行くパチンコ屋では二時間おきに橋本と三沢のテーマが流れ、近所のスーパーでは安売りタイムになると武藤のテーマ曲（♪ビールをまわせ〜、みたいな曲調のヤツ）が流れるのだ。（ちなみに新宿のメガネスーパーでは、なぜか「UWFのテーマ」が流れている時がある。UとSのクロスオーバーだ！）

「客の血を騒がせるにはプロレスラーのテーマ曲」という新たな商法が、プロレスファンではない年配の女性の購買意欲を高め、財布のひもをゆるめる。それにより日本の経済が活発になっていく……。

いかがであろう、プロレスラーの入場テーマ曲が、未来を担う若者に影響を与え、かつ経済大国日本を支えているのだから、これはもうプロレスは市民権を獲得したと言っても過言ではないだろう！　と言いたいところだが、残念ながら過言だ。なぜならこの話も半分は私の妄想が含まれているのだから。

というわけで、今回は2つの事例からプロレスの市民権について検証してみた。果たしてプロレスは市民権を得たのか!?　残念ながらその答えを導き出すことができなかった。しかし確かなことが一つだけある。それはプロレスに市民権があるかどうかは知らないが、プロレスラーに被選挙権はあるということ。将軍KYワカマツ、当選おめでとう！

以上、相変わらず結論あやふやなままにして、私（平成の越中番）の喫茶店トーク（工業高校の文化祭の模擬喫茶店トーク）を終わりにするとしよう。



# 検証【その2】……by椎名基樹

# ストーカー佐山





イラスト／藤本康生

前田日明の新日本入りのキッカケは、ご存知の通り、公園で前田の空手の師匠・田中正悟が練習をしていたら、たまたまそれをみていた佐山サトルが、「いっしょに練習していいですか？」と声を掛けたこととされている。

その出会いをキッカケに、田中が佐山に前田を紹介し、その素質を見抜いた佐山が新間寿に連絡、そしてスカウトとして大阪を訪れた新間が前田にステーキを食わせてそのうまさで驚かせ、田中の激しい説得もあり、前田は新日本入りを決意したのである。

この話は、プロレスに何の興味もなかった、大阪のケンカ屋の青年が、不思議な縁でプロレスラーとなり、後に格闘王と呼ばれる。パワー・オブ・ドリームな一種のサクセス・ストーリーの重要なファクターである。また、後に佐山と前田が旧UWFでシュートマッチを行い、そして別々の道をたどり、互いに日本の総合格闘技の祖となったことを考えると、この公園での出会いは、単なる偶然を超え、もはや伝説とさえ言えるだろう。

まさに、武道の神様のイタズラとしか思えないほど、佐山&前田の出会いと、それからの運命は出来過ぎている。出来過ぎているからこそ、我々ファンはファンタジーを感じる。しかし、その反面、G馬場の「風呂場でコケたことが、プロレス入りのキッカケ」同様、「本当かな？」と思わざるを得ないのも事実だ（馬場の最後の著書『オレの人生・プロレス・旅』では風呂場の転倒シーンが省かれている。なぜだ？　なぜなんだ〜？）。

そして、日本スポーツ出版社の『UWF世紀末読本』は、その「本当かな？」をますます強める内容だった。この本は、UWFに関する今まで知らなかった話が続出する、素晴らしいインタビュー本であるが、特に2カ所「ぬな？」と驚く記述があった。

まず最初の箇所は「俺は二子玉川園の本屋にしょっちゅう行ってたからね。（略）で、その本屋とかで佐山と会って、〝入んない？〟とか来て。〝デビュー戦の前に泣いた、あの気持ちは何だったんだ？〟とか言って（笑）」という部分だ。これは、前田が新日本から旧UWFに放り出された形で路頭に迷っているとき、その前にタイガーマスクとして引退した佐山が、タイガージムを設立し、「いっしょに格闘技やろう」と持ちかけるという、前々から聞いていた話だ。前田がデビュー戦の前にプロレスの仕組みを知って泣いたというのは初耳だったが、それ以外はプロレスファンの多くが知っている逸話だろう。そして、多くの人が「この2人は本当に偶然出会うなあ……」と思ったのではないか？　しかし、この出会いは本当に偶然だったのだろうか？　もう一つの箇所を読んで欲しい。

もう一つの部分は山崎一夫の話だ。インタビュアーが「UWFに参加するキッカケというか、その前の段階で佐山さんといっしょに新日プロを退団して……」という問いに、山崎はこう答えている。「じつはそうじゃないんです。まったく佐山さんとは関係なく、あの頃、自分で思うところあって新日本を出る決心をしていて……（略）で、本当に偶然なんですけどね、僕がこう歩いていた所に佐山さんが車で通りかかって……（略）〝タイガージムっていうのをやるんだけど〟と。〝そこでインストラクターを探しているんだけど、もしよかったらやってくれないか〟と」。

前田だけではなく、山崎まで佐山と偶然出会ってるなんて！　しかも、旧UWFが確立されようとする同時期に。前田の2度の偶然、山崎の1度の偶然、合わせて3度の偶然。さらに、直接UWFストーリーとは関係ないが、聞いた話によると北原光輝もタイガージム時代、自宅マンションで偶然佐山に出会っているそうだ。これはもはや、偶然とは呼びにくいのではないか？　すご〜く怖い話だが、佐山が待ち伏せしていたと考えるのが、妥当ではないだろうか？　思えば、新日本時代の佐山の趣味は、のぞき。待ち伏せはお手の物だ。日本の総合格闘技は、佐山のストーカー趣味によってリードされていたのか!?

先に上げた『UWF世紀末読本』で、もっとも衝撃的だったのは、「前田の親父はヤクザで組の金をクスねて狙われている。前田自身も借金の返済で困っている。約1千万円くらい必要だ」と言って、田中正悟が浦田旧UWF社長から金をだまし取った話だ。しかし、その悪徳ぶりから考えると、最初に新日本に前田を売り込んだのは、田中正悟ではないだろうか？　と勘ぐってしまう。で、格闘技を見る目がある佐山が調査に飛んだ。そして、新日本が欲しかった人材とは、格闘技路線の延長、つまりUWF構想を担える人材だったのではないか？　と、勝手に妄想すると、佐山の周りで起こった偶然はすべて必然に見えてくる。

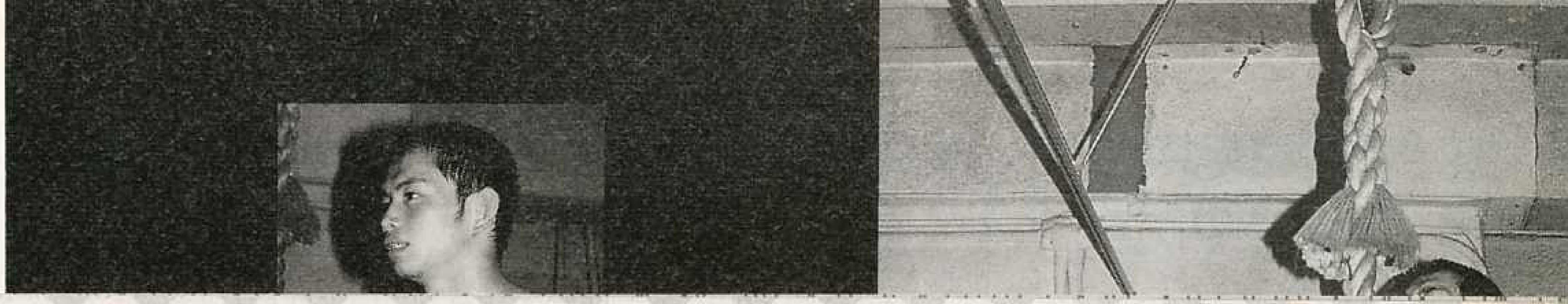
とはいっても、その後2人に起こった様々なこと、旧UWFも、新生UWFも、グレイシーの出現も、修斗を含むバーリ・トゥードのムーブメントもまったく想像していなかったことだろう。やはり大きな目で見ると、2人の出会いは神様のイタズラと思えるほど、数奇な偶然だ。2人はあたかも、ジョーと力石のように、一つの時代をもつれ合うように生きているように見える。

## ザ・検証コラム

行ってきました！　プライド5。食ってきましたよ、名古屋の手羽先。うまい！

に、しても、強〜よ。強すぎ、桜庭。ビクトーあれじゃあ、イジメられっ子ですよ。股をあんなに内出血させちゃって。ビクトーきっと、家に帰って、お風呂に入るとき、お母さんに真っ赤な太ももを見つかっちゃって「ビクトー、お前どうしたの!?」ってなことになって、お母さん学校に乗り込んじゃって、それをキッカケにイジメもエスカレートですよ。かわいそう〜。でも、あれなら一本取られた方がマシなんじゃねえか？　周りの評価は、ビクトー弱い、ニュートンは強いって評価になるような気がするけど。あとは、小路。ごめん。俺、お前強いと思ってたけど、あんなに強いと思ってなかったっス。負けた試合でこんなこと言うと失礼かもしれないけど、本当運動神経いいね〜。やっぱ、柔道家なのに、ケブラーダ出来る人って運動神経いいね〜。それと、エンセンは拳を骨折しちゃったんだって？　残念。あの試合で骨折するなら、5月29日の修斗で、ポール・ジョーンズとタイトルマッチして欲しかったって、ファンとして単純に思うけど……マーク・ケアー戦楽しみにしてます。で、豊永？　なんであんなんで、人前で試合してんだ？まったく変な若者だよ。で、最後に元最強の現アイアムプロレスラーさん。客をバカにするのもいい加減にしてください。本当白けるわ、奴の試合。とりあえず、金返してくれよ。チケット代の1万円は桜庭の試合でおつりがくるからいいけど、新幹線代の2万円返してくれよ。だって、お前のためにわざわざ、名古屋くんだりでやったんだろ？　だって、東京でアレやったら、大ブーイングじゃねえか。半勃ちのチンポ見せびらかして、喜んでんじゃねえよ。どうせならビンビンでお願いしますよ、ビンビンで。それとも、ドリーム・ステージだけに、夢芝居って駄洒落なのか？

――『紙プロ
参照）作った
宇野　おっ、
ストは誰が書
花くまさんで
――ありがと
にそう言って
売れます（笑
宇野　えっ、
ス。海岸で
ます（笑）。



『PRIDE.0』初代殿堂入り　武田いづみの



# げんこつ山のパルチザン日記

# ジャイジャイ日記



**あの武田いづみちゃんが女子大生になって帰ってきましたぁ。「いづみちゃん？　誰？」っていう腑抜けな輩に軽く説明しとくと、読者投稿コーナー『PRIDE.0』で5戦勝ち抜き、初代殿堂入りとなった、水道橋博士も大絶賛の女子高生（当時）。いづみちゃんのキャンパスライフを知りたいみんなのために、本誌独占いづみちゃんの日記を公開しま〜す。（ページが半分になってちょっぴりご機嫌ななめなジャイ子）**

## 4月某日

駅のホームを歩いていると、キオスクに並ぶ雑誌の中に眠気も醒める表紙コピー発見。邪!?　あっ！　なるほど。大仁田の「〜じゃ！」って、「じゃ！」ではなく「邪！」だったのね。へぇー…これってどうなの？　いまさら合点してるあたしがおくれてんの？　常識？　知らなかったよ。なんにせよこの表記、お気にいり邪。

## 4月20日

バイトの面接。場所は東京ドームのグッズショップ。あわよくばイベントの盗み観＆盗み聴きを狙う。でも面接でそれを言っちゃいかんことはわかるのでお口にチャック。全力でいい子を演じる私。「野球は好きですか？」「ハイッ（笑顔）」「どこの球団が好きですか？」「巨人です（笑顔）」。そしてまんまと採用決定。ごめんなさい。野球は観ないし、巨人の選手もよく知りません。でもドーム場外の店に決まったので、野望かなわず。チッ！

## 4月29日

初出勤。仕事の説明を小冊子なぞ見つつ、受ける。「不自然な脱色、染色はいっさい認めません」のところで社員の人が私を見る。調子に乗って髪にピンクのヘアマニキュアをした私を。結局、一週間以内に直せとのこと。けっこう懐せまいよな、（株）東京ドーム。成長しないよ（暴言）。直すけど。

## 5月1日

2度目のバイト。仕事中、同じバイトの友達が来て、「さっき外国人に英語でなんか言われて困っちゃった」と言う。周りを見ると、ジョニー・エースがいる。「ジョニーが来た!!　ジョニーが来た!!」。私は興奮した。ジョニー・エースをナマで見たことなんかより、「ジョニーが来た」ことに。でも残念。『ジョニーへの伝言』なんてない。あぁ、ジョニーが来たのに伝えることがないなんて!!　と、ひとしきり自分の中で楽しんで飽きたころ、ジョニーはなにも買わずに去っていった。ジャイアンツの帽子でも買えや!!　馬場さんをしのんで!!

## 5月3日

今日もバイト。店の商品にジャイアント灰皿というのを見つける。べつに、馬場もアンドレもカブリコもロボも台風も関係なし。ただでかい（ジャイアントな）灰皿。4・10に永島氏はこれ持てばよかったのに。あんなギネスに挑戦する商店街が作った厚焼き卵のフライパンみたいのじゃなく。だって『特大灰皿』っていうからさー、ほんとにでかい灰皿想像してたのしみにしてたのにさー。新日の器量を疑うよ（？）。

## 5月7日

昨晩録画しといたＳＲＳで『ＰＲＩＤＥ．５』を見る。武田家はスカイパーフェクＴＶに加入してないので、『ＰＲＩＤＥ．５』のＶＴＲはこの日はじめて。見終わってからエンターテイメントについて考える（ヒマだから）。みたまんまのもの（やっぱりね！）と見たかんじとあまりにちがうもの（マジで？）は、あたしの中ではエンターテイメント。どっちも性質はちがうけどおもしろいから。だから西田操一。失礼だが試合観る前、「大丈夫か？」と思った。そして案の定、ファールカップを忘れて戻り、そのあとエンセンにボコボコ殴られ、キュッと絞められた彼は、みたまんまの結果をのこし、エンターティナーとなった。あくまで私の中だけど。24秒、おつかれさん。

もう一方、つまりマジで？　の方はいまさら言うまでもなく対戦相手より細くて白肌でニコニコな桜庭。やることなすことエンターテイメントだよ。『ＰＲＩＤＥ』いいねぇ、おもしろいねぇ。…ふと、始めのほうによく出てたブランコ・シカティックを思い出す。Ｋ－１選手じゃいちばん好きだったのにな、ブランコ（いまはマット・スケルトン）。

**たけだ・いづみ**
1980年6月30生まれ　東洋大学短期大学部日本文学科1年生　趣味・古着屋巡り　プレイスポット・新宿　好きなレスラー・藤波辰爾　好きな団体・無我（未観戦）
もうすぐお誕生日のいづみちゃんに欲しいものを聞いたところ「現金書留！」と元気よく答えてくれましたぁ。あと、いづみちゃん宛てのファンレターは『紙プロ』編集部まで。

## 4月25日

GAEA後楽園大会＆闘龍門クラブチッタ大会。やっと闘龍門が見れる、嬉しい〜、とニコニコで会場に入ったとこで天敵に遭遇。ヤツの名はテッド・タナベ（大仁田風にカメラ目線で）。会うなり殴る、蹴るの暴行を受け、お気にいりのニセドラえもんキーホルダーを壊され、恐喝され（120円）、巨乳（巨人の乳の略）を鷲掴みにされた。みちプロ分裂の記者会見ではいい人ぶって号泣してたクセに。あれ、ぜ〜ったいウソ泣きだよ。騙されちゃダメ。そんなテッドは、淋しいときジャイ子の携帯に電話してきます。ジャイ子困ってんだけどね。これって書いてよかったのかなぁ？　ダメだったらごめんね、テッド。



犬、猿人の次は龍！　ジャイ子の新しい彼、ウルティくんで〜す。ラブラブでしょ。（撮影　テッド・タナベ）



ウルティくんとのアツアツぶりに嫉妬したテッド、キレる！「助けて、ウルティ！」……あれ、知らんぷりされてるぅ（泣）。

今日一番ビックリしたことは、マグナムの入場のとき踊りまくってたギャルが、踊り終わった瞬間に「ジャイ子さん、頑張ってください」と普通に話しかけてきたこと。ギャル、踊りながら「あ、ジャイ子だ」とか思ってたのかなぁ？　踊ってんのに。意外と冷静なのね、ギャル。あと、知り合い（男）が踊り狂ってたのも発見。見なかったことにした。

## 4月26日

バトバト後楽園大会。今日から『紙プロ』Ｔシャツの販売で〜す。物販クイーン参上って感じぃ？　表記はBQ³ね、グフフ。となりでは島田レフェリーの奥さんのゆうこちゃんがニコニコして五寸釘の受付やってた。岡本魂（ケガで療養中）にやって欲しかったなぁ、なんとなく。

## 4月27日

みちプロ大田区大会。今日もＴシャツ販売のため、開始3時間前に会場入りしたんだけど、平日の昼間だっていうのに、もうお客さんが並んでんの。仕事はどうした？　そんなにヴァーゴン見たいの？　ジャイ子の場合、みんなと違ってヴァーゴンに襲われたこともあるしね。知らない仲じゃあないんだよ。羨ましい？　いい気になってたら、ヒマを持て余したテッド・タナベに暴行される。

## 4月29日

みんなは『PRIDE.5』見に名古屋に行っちゃったけど、西東京在住のジャイ子は家の近所で呑気に試合見ることにした。PPVもあるし。昼は総合格闘技TAMAの国立大会。会場に行ったらなぜかDDTのマネージャー、ナオミ・スーザンがリングアナだった。まだ日本語がわからないナオミちゃんに、家の近所だから見にきたことをジェスチャーで伝えるのに1時間。

夕方、Ｋ－Ｕ昭島大会、初のキック観戦。フゥ〜（ため息）。プライベートで行って大正解。ホンットわかんなかった。会場で出会った『紙プロ』読者にも「どうせわかんないでしょ？」と笑われた。「打撃なんて当たんないとわかんないじゃん！」と軽く逆ギレしてみるも、そうなのか？　自分の見る目のなさにしょんぼり。家に帰ったらPPVは録画できてないし。気晴らしに深夜ひとりでドライブ。3回ぶつけた。ジャマだよ、標識。

## 5月4日

キャプチャー新宿ACB大会。今日は昼夜興行。嬉しい♥　単純に「試合がいっぱい見れる」という理由で。ジャイ子、長い興行とか、試合数多い興行とかって途中でお腹すくし、大っ嫌いなんだけど、キャプチャーだけは別。何試合でもやって〜って感じ。試合後、北原選手に感想を聞かれて舞い上がったジャイ子は「昨日の晩、楽しみで眠れなかったんです〜」と、ド素人炸裂の発言をしてしまい猛反省。ジャイジャイ。

マット界の情報玉手箱

# 紙のプロレスNEWS




## 読めば知識の泉湧く!

### チャンネル合わせて、本誌編集部の特選情報をキャッチせよ!

**マット界に転がっている有象無象の情報たち。ハッキリ言って、そんなに情報を重視しないで誌面を作っていた『紙プロ』だったが、これからは、この手のページも盛り沢山でお届けします！　そんなこんなで、団体関係者の皆様！　これからは、『紙プロ』にも情報ページが出来たので、プレスリリースをガンガン送ってくださ〜い。これさえ読めば前後1ケ月の出来事はもう大丈夫!!　ノー問題!!**

※私の進行の不手際で、発売が遅れ、若干情報が変更になった部分もあります。誠に申し訳ございません。ご了承ください。（坂井ノブ）

を下して防衛。試合後、「あの人（天龍）は全日本の畑で育ってるからね。そういう部分で、夢かもしれないけど、その先には全日本プロレス…三沢とか川田がいたよ」とコメント。夢じゃないかと思うことが、最近次々と起きているので、実現に向けて動き出して頂きたい。
■この日、襲撃予告をしていた大仁田厚はいつまでもカードを組まない新日に業を煮やして福岡行きをキャンセル！　会場では大仁田コールまで起こったそうだ。「おそるべし、大仁田フィーバー!!」である。次の新日登場はニタなのか？それとも、素顔で武藤と対戦？

## 5月7日（金）全日本プロレス

**東京・キャピトル東急ホテル**
**「遂に三沢政権が正式に発足！ 四天王が全員取締役に就任！」**
■馬場さんの引退試合が終わり、ようやく新人事が発表となった。代表取締役が三沢光晴、取締役副社長が百田光男＆川田利明、取締役に名を連ねたのが、元子夫人、渕正信、田上明、小橋健太、選手会長に田上が就任した。三沢と元子夫人の握手シーンもあり、王道継承がようやく決着した。おめでとう、三沢社長！❼

## 5月10日（月）大仁田厚

**『駿台高校スポーツ大会』埼玉・駿台高校グランド**
■この日行われたソフトボールで投手を務めた大仁田。共闘を口にする蝶野に対して「いまは中間テストの勉強で忙しい」と、かわした。果たしてテストの結果や、いかに!?

## 5月13日（木）大仁田厚自主興行

**『邪道生還』東京・後楽園ホール**
■メインで有刺鉄線マッチで天龍組と激突した高校生となって以来、初の試合に臨んだ大仁田。新日本プロレス永島取締役が来場したにもかかわらず、挨拶なしに帰ってしまったことに激怒！　「俺には時間がない！」と煮えきらない態度の新日本プロレスと縁切りを宣言した。本当に縁切り？　となるのか、どうかは神様と大仁田のみぞ知るところだが、まだまだ今後の展開はありそうな予感。

## 5月15日（土）テレビ朝日

**『リングの魂』「深夜に衝撃走る！」**
「ここがヘンだよ大仁田厚」と題した討論会が繰り広げられ、最後は水道橋博士とターザン山本の大乱闘で幕を閉じたのだが、衝撃はその後に走った！　なんと、『リンタマ』に全日の若社長・三沢光晴が登場するとのテロップが!!　文字だけの告知だったが、インパクトは500%。全日中継にナンチャンが出たお返しか。三沢革命がダイナミックに転がり始めたぞ！　TVからも目が話せない!!

## 5月16日（日）日本テレビ

**『全日本プロレス中継』**
**「武藤が三沢とツーショット実現！ それを放映する日テレ！ みんな最高！」**
■ついに、全日の中継に現役ＩＷＧＰ王者・武藤が登場した！　プロレス記者クラブ写真展で実現した三沢と武藤の２ショットが放映されたのだが２人とも終始、ゴキゲンな笑顔だった。特に武藤は興奮気味で「ずっと片思いだった人に、ようやく巡り会えた。オレの乙女心に火がついた。でもホモじゃないから（笑）」と、トークでもバク進してます!!

## 5月17日（月）新日本プロレス

**「橋本、遂に立ち上がる！」**
■橋本真也が６月武道館大会で復帰戦を行うことを発表した。対戦相手は、ミスター・プロレスこと天龍源一郎。あえて名前は挙げなかったものの「やりたいヤツがたった一人だけいる」と発言、暗にvs小川戦を要望した。「以前の体重を恥じてはいないが、練習方法を変えたら落ちた」と18キロの減量成功を語った。それでも120キロあるらしいが…。行け、破壊王！

## 5月18日（火）『週刊プレイボーイ』

**「三沢光晴＆蝶野正洋が超絶対談！**
**『交流戦は俺たちが実現させる！』と宣言！」**
■この日、発売された『週刊プレイボーイ』誌上で、新日本プロレスの蝶野正洋と全日本プロレスの三沢光晴が対談した。気になる内容だが、昨年に電話番号を交換して以来何度か電話会談はしているというだけに、終始友好ムードで交流戦（or対抗戦）の展望が語られた。特に三沢は、今回話した内容は「全日本プロレスの看板を背負ったままだと、しゃべる内容が制限されてくる」という理由で「ひとりのレスラーとして」語っている。お互いの印象については、蝶野が「トップレスラーの条件は大事な場面でコケないこと。そういう意味で三沢さんは最高のトップレスラーだと思う」と語れば、三沢は「蝶野選手は入場してきただけで、“何か”を期待させてしまうレスラー。うちの田上（明）に見習わせたい（笑）」と三沢節で切り返す。先日の武藤との対面のときもだが、こういう場に出てくる三沢は肩の力が抜けて嬉しそうに見える。
■山崎一夫の長期欠場も明らかになった。気管支拡張症と肺挫傷のためで、全治６ヶ月と診断されたという。無数の毛細血管が切れており、試合後に吐血や気分が悪くなることが多かったという。胸で打撃を受けまくるプロレスラーだけに、一日も早い完治と復帰を望みたい。ヤマちゃん、ガンバレ！

## 5月22日（土）テレビ朝日

**「垣根を超えて…三沢光晴『リンタマ』に初出演！」**
■ナンチャンが全日のドーム大会で解説席に着き、そしてこの日は三沢がテレ朝に出演！　ここ１週間、怖ろしいスピードで次々と越境企画が実現していく両メジャー団体＆両テレビ局。三沢の意欲的な姿勢がものすごく伝わってくる。ここでは「Ａ・猪木」「三銃士」「小川vs橋本」「ヒクソン・グレイシー」「交流戦」について大いに語った。贅沢な時間である。

### 試合情報

## 告 6月4日（金）全日本プロレス

**『スーパーパワーシリーズ』**
**北海道・札幌中島体育センター（18：30）**
【主な対戦カード】
さよなら札幌中島体育センター記念試合
**三沢光晴＆田上明vs川田利明＆小橋健太**
アジアタッグ選手権
**（王者）ハヤブサ＆新崎人生vs**
**大森隆男＆高山善廣（挑戦者）**

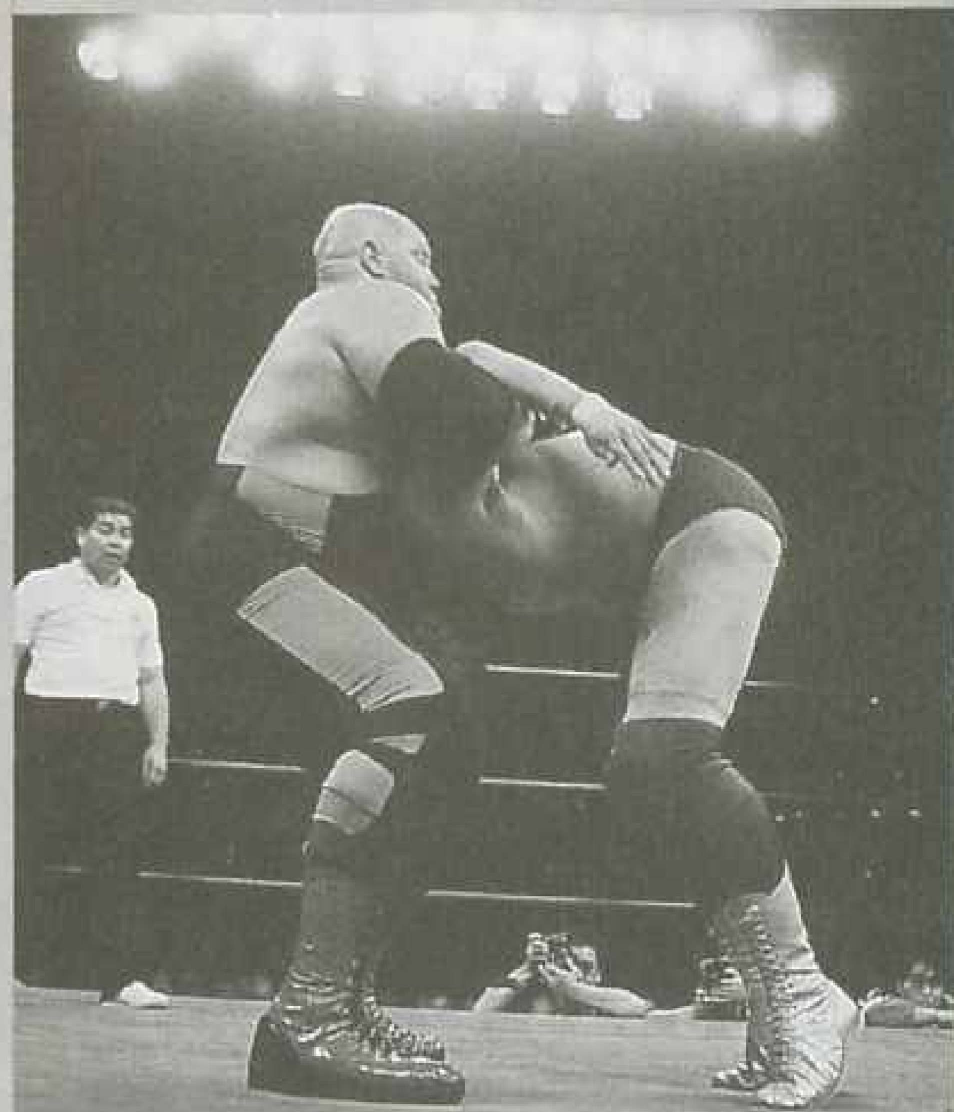
## 告 6月8日（火）新日本プロレス

**『BEST OF THE SUPER Jr.』最終戦**
**東京・日本武道館（18：00）**
【主な対戦カード】
破壊王、ついに復活!!
**橋本真也vs天龍源一郎**
『BEST OF THE SUPER Jr.Ⅵ』優勝戦
**武藤敬司＆小島聡vsＤ・フライ＆蝶野正洋**
**越中詩郎vs後藤達俊**
**中西学vs永田裕志**

## 告 6月11日（金）全日本プロレス

**『スーパーパワーシリーズ』最終戦**
**東京・日本武道館（18：30）**
【主な対戦カード】
三冠ヘビー級選手権
**（王者）三沢光晴vs小橋健太（挑戦者）**
**ベイダーvsバート・ガン**
**秋山準vsジョニー・エース**


❺サスケの右肩には、ＩＷＧＰの文字が刻まれたベルトが掛かっている！　開国路線はどこまで進むのか？　メジャー団体も、いろんな団体と選手の思惑が入り乱れた戦国状態に突入した感がある。


❻三沢はベイダーのパワーに苦戦したが、最後にはキッチリとエルボーでピンを取り、馬場さん引退試合に花を添えた。疲れ切った試合後の三沢の表情が非常に印象的だったが、ガンバレ三沢社長！


❼終始和やかなムードで進んだ新人事発表記者会見。交流戦の可能性については、「前向きに検討したい」と明言は避けたが、今後に含みを持たせた。


❽６月某日　新日本プロレス／「ファッション誌『GETON』（学習研究社）で蝶野新連載が始まった！」。新雑誌『ケンファー』がプロレス誌のファッション革命という運動をスタートするなど同時多発でファッション・ムーブメントが進行中。格闘技に触発されたのかな？

# 紙のプロレスNEWS

# 新日本／全日本／大仁田厚

チョイスマン　ノブ



❶28000人の弔問客が訪れたビッグなお別れ会。素朴な中にも、レスラーでしか、ジャイアント馬場でしか作り得ない世界があったことは間違いない。まったくもって感服するしかない。



❷タイツを毎試合変える「オシャレさん」としてもその名を馳せたリック・ルード。最近はＷＣＷで、ｎＷｏの用心棒をしていたが、あまりに早すぎた死だった。合掌。



❸絵になる男たちが集まった！　ここに大仁田が合流するという噂もあるが、ますます目が離せなくなる。



❹最近デビューした森嶋、橘とこの丸藤はいずれも溢れんばかりの才能を感じさせてくれる、将来が楽しみな逸材である。要注目だ！

## 4月12日（月）大仁田厚

**『駿台学園入学式』東京・駿台学園**

■３年Ａ組に大仁田厚君（41）が元気に入学式に参加した。ブレザー姿だが、その内側にはでっかく「邪道参上」の刺繍が入っていたとか、いなかったとか。

## 4月13日（火）新日本プロレス

**『ストロングエナジー1999』開幕戦**
**宮城・宮城県スポーツセンター**

■蝶野との電流爆破マッチを終えた大仁田は、しつこくＩＷＧＰチャンピオンとの対戦を要求、すると王者・武藤は「オレって、好奇心旺盛じゃん。電流爆破のリングに入っても構わない。ムタvsニタでもいいよ」と、意外にもすんなり実現するかと思われたが、5月19日現在、見通しは立ってない。

## 4月16日（金）全日本プロレス

**『チャンピオン・カーニバル』最終戦　東京・日本武道館**

■ベイダーが小橋を破って涙の初優勝。「ガンバッテクダサ〜イ！」が武道館にこだました。全日のベイダータイムはまだまだ続く！

## 4月17日（土）全日本プロレス

**ジャイアント馬場お別れの会『ありがとう』東京・日本武道館**

■坂口征二、グレート小鹿、ミスター高橋、ドン荒川、北沢幹之、ターザン後藤、ザ・グレート・カブキ、浅野起州、キラー・カーン、江川卓、千葉茂、百田敬子（力道山未亡人）、三遊亭楽太郎、早坂好恵、桂文福、笑福亭鶴瓶といった馬場さんゆかりの各界著名人が弔問に訪れた（敬称略＆順不同）。しかも、司会は徳光さん！　プロレス関係者およびプロレスファン総勢28000人が、武道館に足を運び、故人の冥福を祈った。供物は、会場中央に置かれたリングに投げ込むという、馬場さんの如くスケールの大きなお別れ会となった。合掌。❶

## 4月某日力道山ＯＢ会＆プロレス

**「新人事発表！　吉村道明氏が新会長だ！」**

■力道山ＯＢ会＆プロレスでは、芳の里会長ならびに馬場最高顧問の死去に伴い、新人事を発表した。会長は「誰やったっけ？」「これからはどんどこどんどこ死ぬぞぉ」と本誌9号で物騒な発言を残して話題となった吉村道明氏。副会長にグレート小鹿氏＆山本勝（小鉄の本名）氏。最高顧問に名を連ねるのは、猪木寛至（アントン）氏、岩田浩氏（本誌9号参照）、千両役者ユセフ・トルコ氏、エンコーこと遠藤幸吉氏。運営委員長はビッグ・サカこと坂口征二社長が選ばれた。現在は、芳の里前会長追善を兼ねた『第２回メモリアル力道山格闘技大会』の開催を検討中だ。しかし、吉村道明の予言が図らずもズバリと当たってしまっているのが怖ろしい。くれぐれもＯＢの方々には長生きして、素敵な昔話を聞かせて頂きたいのだが……。

## 4月20日（火）リック・ルード

**「腰クネダンスよ、永遠に!!」**

全日＆新日に参戦経験のあったリック・ルードがアメリカ・アトランタ市内の病院で急逝した。享年40歳。'92年の『Ｇ１クライマックス』では準優勝を遂げ、プロレス界に腰クネブームを巻き起こした張本人である。ステロイドの過剰投与による副作用からくる内臓疾患が死因と見られている。ここ日本では、まだまだその犠牲者はいないものの、いずれ起こらないとも限らない。日本のプロレス界では完全にタブー視されているこの話題について、正面切って語れるプロレスラーがいればいいのだろうが。「レスラー辞めますか？　それとも人間辞めますか？」では、あんまりな人生だ。ご冥福をお祈り申し上げます。腰をクネらせながら、合掌（涙）。❷

## 4月21日（水）新日本プロレス

**『ストロング・エナジー1999』熊本・熊本市体育館**

■蝶野が「俺のベスト・フレンド」ドン・フライを紹介すると、光ものをチャラチャラさせながら私服姿でベルトをぶら下げてフライが登場。ＵＦＣ王者がシリーズ参戦する新日という団体のスケールの大きさを改めて実感。❸

## 4月22日（木）全日本プロレス

**「小橋の新野望！　ウォリアーズを倒して米国進出だ!」**

■この日発売の『東スポ』によると、小橋は『チャンピオン・カーニバル』の決勝戦でだいぶ落ち込んだらしい。しかし、「ドームで対戦するウォリアーズを倒して、何かのキッカケに出来れば」と話している。バーニング（小橋、秋山、金丸、志賀）の米国進出、なるか？　しかし、狙いはＷＷＦ？　それともＥＣＷ？　どんなプロレスをやるのか、興味は尽きない。

## 4月23日（金）全日本プロレス

**「5月2日に向けて強化合宿を張る三沢」**

■付き人の丸藤を伴って、三沢が山梨県大月でミニキャンプを張った。最近の全日本はオフの間のちょっとしたキャンプの写真がいい。昨年あたりから始まった、この傾向はファン的にも嬉しいはず。いずれは「バート・ガンのパンチ対策に火炎槍をよける小橋」「高阪とスパーリングをする秋山」「ケビン・ヤマザキさんのところで科学的なトレーニングを積む田上」などなど、トレーニング面でも夢のある開国政策が進めば面白くなるだろう。❹

## 4月30日（金）全日本プロレス

■馳浩議員の働きかけにより、有馬文部大臣から故・ジャイアント馬場に感謝状が贈られた。でも、国民栄誉賞じゃないのか？　競技は違うが、元・広島カープの衣笠よりも現役年数、出場試合数は多いし、何といっても知名度は群を抜いて抜群なのに、だ。しかし、それでもやはりプロレスラーがこの感謝状をもらうのも異例中の異例な事態だそうだ。

## 5月2日（日）全日本プロレス

**『ジャイアント馬場引退記念興行』東京・東京ドーム**

■三沢はベイダーの“恐竜パワー”に苦しめられたが、エルボーでベイダーを破り三冠王者に返り咲いた。“ようやく勝った”といった感じのつかれはてた表情が印象的だった。

■この日のテレビ解説には、懐かしの竹内宏介（週刊ゴング編集人）氏、そして『リンタマ』の司会・南原清隆氏。「なぜ、ナンチャンが？」と思ったが、これが伏線となって後々いきてくるのである。

■ドームのオーロラビジョンいっぱいに「ＩＷＧＰ」の文字が映し出されると、会場全体がどよめいた。みんな期待していたし、至極当然なリアクションだった。みんな刺激に飢えているのは間違いない。重要なのは、そのサジ加減だろう。サスケは夢の懸け橋となった。❺久々のテレビ解説を務めた竹内さんだが、サスケの入場シーンで肩からぶら下げているベルトを「ＩＷＡ」と発言してしまったのは、ブランクから来る緊張のせいなのだろうか？　グーッと盛り上がる最高潮のところでのミスだったので、非常にもったいない！　でも、懐かしの竹内節が聞けたのはうれしかったですねぇ〜（竹内調で）。

## 5月3日（月・祝）新日本プロレス

**『ストロング・エナジー』最終戦**
**福岡・福岡国際スポーツセンター**

■ＩＷＧＰヘビー級選手権が行われ、武藤敬司が天龍源一郎

ロレスファンの皆様、目を覚ましてくださ〜い。
■予定されていたエンセン井上vsマーク・ケアーというダイナマイト・カードがフッ飛んだのは非常に残念だが、桜庭和志vsビクトー・ベウフォート戦（というか、桜庭）が予想を大きく上回るコーフンを与えてくれたのでノー問題。PRIDE.初参戦のエンセンもケアーの代打、西田操一相手に怖さを十分見せつけた。ファール・カップとマウスピースを忘れ花道を引き揚げるという大ボケぶりを発揮した西田の入場、エンセンのNEWテーマ曲、そして絵に描いたような秒殺と続き、「これは完成されたリアル・コントか？」と思えてしまうほどの恐怖の一戦だった。やはり恐怖と笑いというのは紙一重である。怖いと笑っちゃうということもあるし。❹
■メインでは、大物マーク・コールマン相手に高田延彦が久しぶりの勝利。その瞬間、客席の熱狂度は宇宙に届くほど。が、その宇宙からUFO飛来！　メイン終了直後の高田への挑発！　高田は小川のマーズアタックに「受ける理由がない」と冷め気味だが、「プロレス」「格闘技」分け隔てなくUFOの襲撃三昧は続く。小川とヒクソンの第一次接近遭遇（小川がヒクソンに花束贈呈）には緊張感が張り詰めた。
■“裏ミスター・プライド”小路晃も、“北の最終兵器”イゴール・ボブチャンチン相手に激戦を展開。『PRIDE.』シリーズでは、ヘンゾ・グレイシーと引き分け、ヴァリッジ・イズマイウを殴り倒し、ブラジルキラーぶりを発揮する小路だが、イゴール相手に打撃で向き合うそのプロ＆格闘家根性には脱帽。殴り負けてしまった本間聡とは明暗を分けることとなった。（その他の試合＆出来事は今号で各自調査）

## 4月30日（金）『PRIDE.』／UFO

**「小川激怒 もはや高田はプロレスラーじゃない」／5月2日付東京スポーツ**

■『PRIDE. 5』から一夜明けて、小川が高田を再挑発。「あの人はいつも、『オレはプロレスラーだから』と口にしているだろう。挑発されて逃げ出すなんて、レスラーのすることじゃない」「『PRIDE.』から逃げ出しても、どこまでも追っ掛けるし、高田さんが試合をするなら、どこにでも出没するぜ。ヘビみたいにしつこく追い回して、イヤがらせをするからな」と放言三昧。「さっきはゴメンね」と、まさか高田から謝るわけにもいかないだろうし、どうする、ノブ！❺

## 5月7日（金）UFO

**「小川、怒濤のNWA防衛戦サーキット」**

■小川直也が5月21日から6月6日までの17日間、NWAテリトリーをサーキットすることが発表された。ハワード・ブロディNWA会長の要請により、3・14横浜で奪取した世界ヘビー級王座の防衛戦ロードを米国で行うもの。ペンシルバニア州ピッツバーグを皮切りに、フロリダ州タンパまでの全8戦すべてが防衛戦になる可能性もある。サムゥ（ワイルド・サモアン）、グレイグ・ピットマン（95年「ＶＴ―Ｊ」に来日、中井祐樹に敗退）、ダグ・ギルバート、そして前王者ダン・スバーン他、非常におもしろい面子が挑戦者としてリスト・アップされている。2戦を除き村上一成も参戦する予定で、プロレス黄金時代さながらの「UFO・米国NWAサーキット」が展開される模様。「目を覚ましてくださ〜い inUSA」がはたして見られるか？

## 5月7日（現地時間）UFC

**『THE ULTIMATE FIGHTHING CHAMPIONSHIP（第20回アルティメット大会）』**
**アメリカ／アラバマ州バーミングハム市／バウトウエル・オーデトリアム**

■前号の「Ｋ―通」に登場した“ジャングル番長”ケビン・ランデルマンがバス・ルッテンとUFCヘビー級王者決定戦を争い、延長線の末、2―1の判定で敗れた。非難轟々、賛否両論湧き起こる微妙な判定だったが、ルッテンが辛うじてヘビー級王者の座に就いた。判定が出た瞬間、ルッテン・ジャンプをする新王者に対し、ランデルマン側は抗議＆不満三昧。“ジャングル番長”は咆吼しながら引き上げていった。日本で見たいゾ、ランデルマン。他にペドロ・ヒーゾがトラ・テリグマンを右ストレートで見事にKO。昨年10月、ブラジルで行われた第18回UFCでＴＫに敗退したピート・ウィリアムスがトラヴィス・フルトンを下し、ヴァンダレイ・シルバもトニー・ペタラをKOで破った。❻

## 5月10日（月） 前田日明

**「『噂の真相』六月号で、前田日明の暴露風記事掲載」**

■前田日明に個人的“逆恨み”を抱えた人間がリークしたと思われる情報を元に、Ｋ―1の暴露風記事を手がけたこともある西田健とかいう人物がまとめた、「小林よしのりとの接近で狂い始めた前田日明の『リングス』大暴走の真相」なる記事が、この日発売の『ウワシン』に掲載される。「前田の愛人が社内で女帝化！」とか「現在のリングスは、まさに旧日本軍化している」とか、刺激的につくり直した笑える話が満載なものの（こっちに聞いてくれれば、いくらでももっと笑える話を聞かせてあげたのに）、よく読んでみれば、『噂の真相』が長い間抗争を繰り広げる小林よしのりを叩くための材料として日明兄さんがスケープゴートにされただけ。最近、その小林よしのりを始め、猪瀬直樹や呉智英など俗にいう“右寄りの文化人”、つまり『ウワシン』と仲の悪い人たちと対談したりしてる日明兄さんが恰好の“生け贄”に見えたのだろう（怖）。別に小林さんや猪瀬さんが大好きってわけじゃないけど、対談して何が悪いねん、このボケナス（この書き方は隙がありすぎるかな？　ンムフフフ）。
■しかし、人間の本質を見ずに、思想の片鱗と行動の断片だけ捉えてバッシングを繰り返す芸風、子どもが刃物を振り回すように、自分たちのイデオロギーをやたらめったらに振り回して「ビジネス」にするという手法は昔から変わっていないんだなぁ、この雑誌。ギャグをギャグとしてじゃなく「真剣に見せる」というところは、プロレスチックで面白いけど、そのやり方が非常に時代がかってるというかね。その割に最近の記事は妙に若者言葉を使ったりして非常に無理をしているというか。素直が一番！　ンムフフフ。ちなみに日明兄さんは、「『噂の真相』は元々ああいう雑誌だから『アホがまたやってる』でいいけど」と前置きしながら、個人的に許せない箇所を読み上げてくれた。要するにライターの主観が入ったその箇所は「批判はいいけど、侮辱だけは許さない」という日明兄さんの発火点に触れた模様？（再び怖）。知〜らんど知〜らんど。『女子便所説教事件2』近日公開？
■本誌とも何かと縁のある、自称メジャー雑誌『ウワシン』。最近では『噂の真相の真相②』という総集編的別冊の中で、小っちゃい頃の『紙プロ』が『ウワシン』のプロレス暴露風記事に噛みついたことも忘れずに掲載してくれてたし、以前はご高名な岡留安則編集長自ら『紙プロ』の名前を何回も上げてくれたりもしたし、「ちゃんとマジメにやれば『紙のプロレス』は部数が伸びるはず、ともスタッフの面々にいっておこう」な〜んて誌面を通じてアドバイスをくれちゃったりと、実に至れりつくせりなのだ。この場を借りてお礼を言っておきます。あ、最後に。「ちゃんと笑える雑誌にすれば『ウワシン』は部数が落ちるはず。だから、キミらはキミらで、いつまでもビジネスとしてマジメ（風）にやってなさい、ともスタッフの面々にいっておこう」――ま、今日はこんなところでいいですかーッ（アントン調）❼

## 5月20日（木）UFO

**「小川、NWA防衛ロードに旅立たず」**

■小川直也が「米国・NWAサーキット」に旅立つ予定だったが27日前後に延びた模様。いつ何時、何を起こすかわからないのがUFO。いちいち報告が気になる遠征である。

## 5月22日（土） RINGS

**『RISE 3rd』 東京／有明コロシアム**

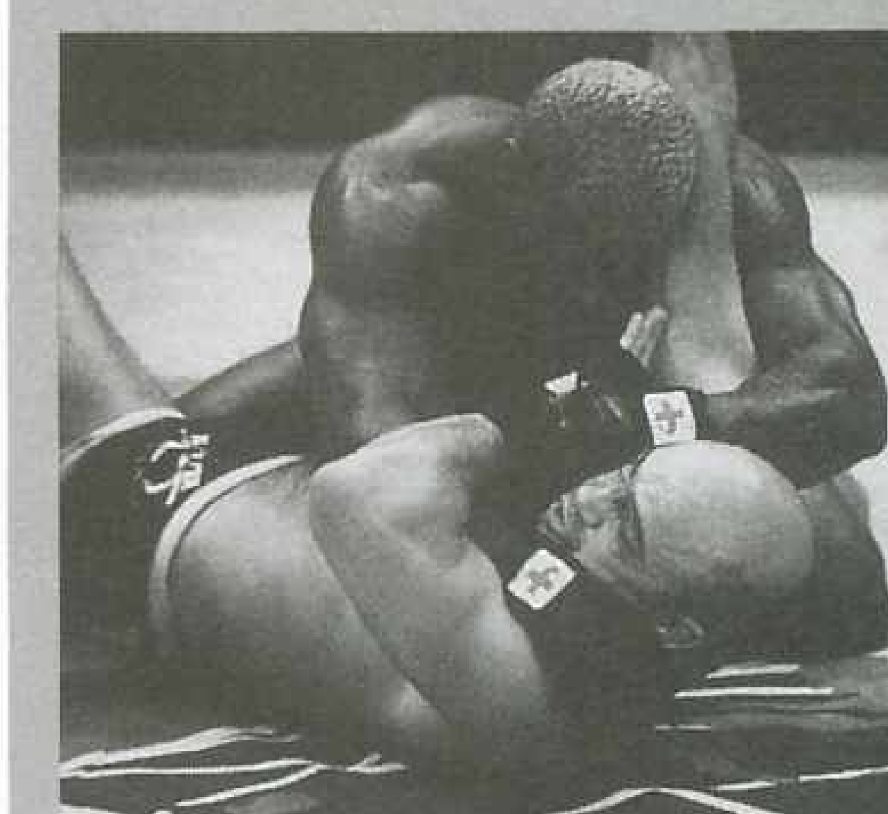
■rAwチーム来日が直前になって中止。暗雲垂れこめた有明大会だったが、田村のビターゼ・タリエルを破っての無差別級王座奪還劇にはファンが総立ち状態で歓喜！　カーロス・ニュートン、アラン・ゴエスを破り第17回UFCミドル級トーナメントを制覇したダン・ヘンダーソンと対戦するはずだった金原弘光は、ヴァレンタイン・オーフレイムに苦杯。そして山本宜久がＴＫを破り、小川直也に挑戦をブチ上げた！



❹バツグンに面白かった『PRIDE. 5』の中でも、角度は違うながらもズバリ言って、バツグンに面白かった西田操一。尊敬するエンセン相手に秒殺された西田は、試合後感極まって涙。素敵だ西田！ＶＴでガンバ西田！




❺小川の高田に対する再挑発を報じる東スポ。ヒクソンに仕掛けなかった真相を話したり（Ｐ2〜参照）、無軌道な飛びっぷりを見せるUFOの最終目的はマット界侵略なのか？



❻UFCが売り出すバス・ルッテン（写真下）が、ケビン・ランデルマンを判定ながら下し、ヘビー級王座を獲得。手数ではルッテンだが、ランデルマンが上になることが多く、判定には観客からもブーイングが飛んだ（撮影・長尾迪）



❼これが問題の『噂の真相』六月号。「噂レベルの話」を「真相」としてネタを紡ぎ上げていく「芸風」は相変わらずな『ウワシン』。いまだそれを「芸風」ではなく「真実」として受け止めてしまうヘタレな感性の読者によって支えられている（中にはリアリティある記事もありますけどね）

# 紙のプロレスNEWS

# RINGS／UFO／PRIDE.
# PANCRACE／UFC

チョイスマン　Nobby



❶ＴＫがギルバート・アイブルにまさかの敗戦。バーリ・トゥードの技術さえもマニュアル化する中で、アイブルの野性味溢れるファイトは魅力。まだまだ「四角いジャングル」には未知の野獣がいるものだ



❷とにかくネタを提供してくれることにかけては一番のUFO。これも猪木イズムの一端。清く正しく「格闘技をやる人たち」には理解できないだろうが、「プロ」としてはノー問題（か？）




❸菊田早苗が、フリー時代につくった「Free`sTシャツ」。「フリー」へのこだわりと「フリーズ」（膠着って意味でね）しっ放しの自分の試合をクロスオーバーさせた絶品Ｔ（なのか？）。入団しても「フリー」な気持ちと「フリーズ」しないように、ガンバ菊田！

## 4月22日（木）RINGS

**『RISE 2nd』大阪／大阪府立体育会館**

■全世界のフリーファイト系マニアが注目する田村潔司vsフランク・シャムロックという一戦をメインに据えたこの大会。それにしては空席が目立ったものの、試合は白熱のタイムアップドロー！（Ｐ127参照）。このカードで、この内容で満員にならなかったら、どうしようもないで、ニッポン（日明兄さん調）。団体も興行戦略も選手もマスコミの扱いも、このところ、俗にいうＵ系周辺には、なんだかボタンの掛け違いが多すぎる。緑は大切！　だけど、「ジャングルを守るだけじゃなく、ジャングルを作りゃあいいじゃねえか！」（by アントン）ということかもしれない。ボタンの掛け違いといえば、この日は、高阪“ＴＫ”剛が、“黒い暴風雨”ギルバート・アイブルにまさかのドクター・ストップ負け。後日、『PRIDE. 5』でＴＫと話した際には、「あいつ、ロープ掴んで蹴ってるの、アレ反則ですわ」と笑いながら言っていたが、心中、静かに熱くリベンジを誓っているはず。アイブルはいきなりランキング１位に躍り出た。初来日の時点から“大したタマぶり”を発揮していたが遂に大ブレイク！　今後のアイブル絡みのカードは面白い（6・20オランダで行われる『RINGS GARA』では、あのセーム・シュルトと対決！）。前号でインタビューに登場してもらった成瀬昌由は、クリストファー・ヘイズマンに敗れランキング圏外へ。“成瀬革命”がリング上から立ち昇る日はいつか。❶

## 4月某日～某日　PANCRACE

**「船木vsブラガの試合リポートと解説が大反響だチョンマゲ」**

■4・18に横浜で行われた船木誠勝vsエベンゼール・ブラガのパンクラチオン・マッチ（頭突き、肘打ちアリの原点的ノールール）。『週Ｐ』に掲載されたヤ●カク氏による試合リポート、『格闘コロシアム』での試合解説（Ｐ102～参照）がネット上で怒涛のごとく大反響。良心的or妄信的パンクラスファンも、劣勢＆攻め込む場面の少ないこの日の船木に対して、「やっぱり強い」「やっぱり凄い」という、あまりにも気持ちの良くないラブレター的解釈を贈り続けるヤ●カク氏には「色気」を感じず、そのネジのはずれっぷりばかりが目についた模様。船木も強いが、ブラガは強い。で、この日はブラガ優勢！　それはともかく、「強い奴と闘うのがロマン」という船木の考えが、あとからの補足なく、リング上の「闘い模様」から伝わったかどうかが問題なのだ。15分間、「ギブアップしなかった」という闘いよりも、ノールールだろうが、パンクラス・ルールだろうが、たとえパンチを見切れなかろうが、「勝ちに行く心」がより多く見える闘いぶりをファンは望んでるんではないのか？　誰か教えて、チョンマゲ。

## 4月23日（金）UFO

**「小川直也&村上一成のキック特訓」「アントン総帥、同窓会へ」**

■ＵＦＯの小川&村上が、東京目黒区にあるキックボクシングの伊原ジムでキック特訓を約２時間に渡って行った。練習終了後、小川はまたしても爆弾発言。『PRIDE. 5』で、実弟ホイラー・グレイシーと柔術デモンストレーションを行うヒクソン・グレイシーに対して「機会があればなにか仕掛けていきたい」と言い放った。襲撃三昧はヒクソンにも及ぶのか？　4・29が待たれる特訓&会見となった。❷

■テレビ東京系で放映された『同窓会』にUFO猪木総帥が出演。小学校の同窓会にアントンが出席するという番組で、アントン・エナジーは、久しぶりに会った同級生相手にも炸裂。とにかくアントンの笑顔を見ていると「元気が一番！」ということを再認識させられるんダーッ!!

## 4月25日（日）K－1

**『K－1 REVENGE`99』神奈川／横浜アリーナ**

■フランシスコ・フィリョが、「K－1グランプリ`97」覇者アーネスト・ホーストに戦慄のＫＯ勝ちを収めたこの日、今号でインタビューに登場しているゲーリー・グッドリッジが武蔵相手に恐怖のK－1初登場を果たした。金的攻撃による反則負けとはゲーリーの猛威ぶりが一番いい形で出た（のか？）。

■佐竹雅昭はマイク・ベルナルドを相手に烈闘を展開。シアトルでの自主トレを開始してから、いい意味で肩の力が抜けた佐竹が、まさに“根性”という死語を思い出させるほどの熱戦を繰り広げるのだから、“時代の波”を感知することが、いかに重要なことかがわかる（意味は各自調査）。佐竹は後日、『格闘技通信』に掲載されたインタビューで、「いまはチョンマゲを切った気分やね」と言っているが、いまは「プロレス」や「空手」、あるいは「格闘技」が“チョンマゲ”を切っている時代なのだ。というか、「時代」そのものが“チョンマゲ”を切っている。そこからどんな迫力とリアリティを紡ぎだしていけるのかが課題なのだが、いまの佐竹には、そのヒントがたくさん詰まっている。そしてこの日、佐竹のセコンドには「ケビン・ヤマザキさんの科学トレを受けた仲間」「モーリス・スミスジムで一緒に練習した仲間」の“ＴＫ”が付いた。マット界は確実に変化している。

## 4月26日（月）PANCRACE

**「菊田早苗、パンクラス電撃入団発表」／パンクラス東京道場「P`s LAB」**

■かねてから発表されていた、菊田早苗のパンクラス入団だが、この日、正式に会見が行われた。「自分はパンクラスが格闘技最強の団体だと思ってますので、そこで自分が強くなるために入団を決意しました」と抱負を語る菊田。実力者の割には、「強い」ということをプロの試合で表現できなかった菊田だが、今後どう変わるのか。それともパンクラス入団によって“ますます”変わらないのか。本誌もキッチリと注目させていただきます。❸

## 4月28日（水）UFO／RINGS／PRIDE.

**「猪木総帥、今夏、小川vs田村戦実現を予言!?」**

■小川直也が、またもや襲撃三昧!?　この日、米・ロスアンゼルスに“帰国”した猪木UFO総帥が、成田空港で「前田（日明）が小川とやりたいと代理人を通じて言ってきた」と衝撃発言。翌日発行（４月30日付）の「東京スポーツ」には、「UFOvsリングス頂上決戦今夏開戦か　小川vs田村」という見出しが踊った。本誌の調査では、猪木サイドと前田サイドが接点を持ったのは事実で、８月あたりに小川がリングスマットに上がる可能性は十分ある。だが、当初交渉の際に挙がっていた小川の相手は田村ではなく、山本宜久。マット界にまたもや風穴が開くか？　今後の成りゆきに要注目だ。

■しかし同日、リングスから、予定されていた６月19日の愛知県体育館大会が諸般の事情により中止され、代わって６月24日に後楽園ホール大会が開催されることが正式発表された。これを規模縮小と取るか、大爆発の予兆と取るか。ファンも「能力と体力」をフルに使ってリングスの今後を見ていく必要がある。

■またまた同日。ヒクソンがナゴヤドームで行われた中日―阪神戦の始球式に登場！　見事にストライクを取り、侍ジャイアンツならぬ侍ドラゴンズぶりを発揮。また、この始球式が終わったあと、本誌はヒクソンに初遭遇インタビュー（Ｐ136～掲載）。グレイシーなぁ（嬉しいなぁ）。寒ぶ……。

## 4月29日（木）PRIDE.

**『PRIDE.5 in NAGOYA』愛知／名古屋市総合体育館レインボーホール**

■『PRIDE. 5』は、バツグンに面白い興行だった。「熱狂」しつつ「観察」できる贅沢さという点では『PRIDE.』シリーズは群を抜いている。しかし、客席は埋まりきらない。プ

関する問い合わせは0570-037-816（スカイパーフェクＴＶ!カスタマーセンター）まで。携帯電話、PHSからは045-332-8100へ❻

## 5月18日（火）修斗

**東京新聞に『大和魂Ｔシャツ』掲載される！**

■東京新聞の朝刊裏面の“東京解剖図鑑”という囲み記事で、エンセン井上の『大和魂Ｔシャツ』がカラー写真で掲載された。ついに一般紙レベルにまで大和魂が届いたわけだ。凄ぇゼ、エンセン！

とは言っても“大和魂”“大和撫子”“一撃”“大世紀末”などの「メッセージＴシャツがいま若い男女に人気を呼んでいる」「格闘技は近年にない盛り上がりを見せているが、それだけでこの現象を説明するのは難しい。不透明な時代が明快なファッションメッセージを欲しているのだろうか」と、あくまでメッセージの部分に注目を置く、ピントのはずれ具合は一般紙らしい。だけど、どんな解釈をされようが“届かせる”ことには意味がある。ところで“大世紀末”って何？

## 5月21日（金）高田道場

**『高田道場』の今村雄介が『レスリングアジア選手権』の日本代表に**

■４月17～18日に行われた『アマチュアレスリング全日本選抜大会』フリースタイル97kg級で３位となった今村雄介が『レスリングアジア選手権』の日本代表となった。結果については次号で伝えるが、21日からウズベキスタンで開催されている同大会で闘っている。

### 試　合　情　報

## 告 6月6日（日）K―1

**『K―1　SURVIVAL'99』（真駒内アイスアリーナ）に長井満也と安生洋二の参戦決定!!**

■これまでK―1では負けっぱなしの長井が地元札幌で初勝利をあげられるか否かが注目されるところ。今回こそは勝ってほしいが、対戦相手のトファン・ピラーニはプロデビュー以来いまだ負けなしとまたもや強敵。ガンバレ“闘うお父さん”！　さて、一方の安生は宮本正明の負傷欠場により急遽組まれたカード。とは言っても体調万全、練習も十分。期待したいが相手のトミー・グランビルは北米スーパーヘビー級チャンピオンとやっぱり強敵。北海道でもマシン軍団が復活したことだし、２００％マシンも復活だ（意味不明）。モーリス・スミスのセコンドにはいったい誰がつくかも注目。

【全カード】

第6試合
**ピーター・アーツ（メジロ・ジム）vs**
**モーリス・スミス（モーリススミス キックボクシングセンター）**

第5試合
**ジム・ミューレン（フリー）vs佐竹雅昭（正道会館）**

第4試合
**トファン・ピラーニ（ファイティング・ジム）vs**
**長井満也（フリー）**

第3試合
**サイモン・ドール（レスターキックボクシングクラブ）vs**
**天田ヒロミ（フリー）**

第2試合
**トミー・グランビル（モーリス・スミス キックボクシングセンター）vs**
**安生洋二（フリー）**

第1試合
**ダンカン・ジェームス（ストライクフォース・ジム）vs**
**角田信朗（フリー）**

※発売の遅れにより、修斗の対戦カードは削除いたしました。ご了承下さい。

## 告 6月6日（日）アマチュアリングス

**『第6回アマチュアリングストーナメント開催』新宿・スポーツ会館**

■修斗の加藤鉄史（修斗５・29興行参戦）やアンソニー・ネツラー、キャプチャーの中村和信、バトラーツの島田祐二レフェリーもかつて参加した夢のような大会。一昨年の第４回大会では80kg級で優勝した鹿棘智樹が昨年６月20日のリングス後楽園大会に出場。郷野聡寛にボコボコにされたものの、プロへの登竜門としての道は着実に開かれている。また、第５回大会では60kg級でＩＷＡジャパンのレフェリー、マーティ浅見が優勝と誰が勝ち上がるか見ているだけでも面白い大会だ。場所は新宿・スポーツ会館４Ｆ総合体育館。試合開始は午前11：00から。

問い合わせ先は03･3461･0257（リングス）。

## 告 6月20日（日）アマチュアバトラーツ

**『アマチュアバトラーツ大会開催決定＆参加募集』TOKYO　FMホール**

■ＴＯＫＹＯ　ＦＭホールにおいてＡＭ11：00からバトラーツのアマチュア大会『グラップリングーＢ―全日本選手権大会』が開催される。試合形式は打撃なしのサブミッションレスリングスタイルでトーナメント形式。参加資格は18歳以上のアマチュア選手で参加費は５０００円。

問い合わせ先は0489･63･0005（バトラーツ事務所）まで。締切は６月12日。

ちなみにバトラーツジムでは現在入会キャンペーンを実施中。５月31日までにジムに入会申し込みすると入会金が通常のポッキリ半額と大出血サービスを絶賛展開中。

【入会金】一般会員２万円→１万円／学生２万円→8000円と学生さんはさらにお得だ。

月会費は一般１万円、高校生8000円、中学生5000円。

バトラーツ選手が丁寧に直接指導する夢のようなジムだ。ナーシャ！

問い合わせについては上記のバトラーツ事務所まで。

### 道　場　情　報

## 6月20日（日）高田道場

**『高田道場』新弟子入門テスト開催**

■『ＰＲＩＤＥ５』では高田延彦＆桜庭和志が勝利し、『５・14バトラーツ札幌大会』では佐野なおきがＦＭＷ認定ジュニアヘビー級ベルトを獲得と、ますます勢いが加速してきた『高田道場』で新弟子入門テストが行われる。

【日時】６月20日　後４：00から

【場所】東京都大田区池上４―27―13『高田道場』内

【年齢】15歳～25歳　【身長】175㌢以上

申し込み方法は履歴書に写真貼付の上、高田道場まで郵送。６月13日必着。

柔術家を倒すもよし、チャンピオンベルトを狙うもよし、ＣＭに出るもよし、とさまざまな方向性、可能性を秘めた『高田道場』に君も入門してみないか！　ね？

**『日本武道傳骨法會』武者相撲出稽古参加者募集中**

■日本武道傳骨法會では毎月第４土曜（後８：00～10：00）と日曜（後３：00～５：00）まで出稽古参加者を募集している。そもそも武者相撲とは戦国時代から面々と続く、日本古来の実戦的ポジショニングを体系化したものだ。参加資格は柔道、レスリング、柔術、サンボなど組み技経験者。参加費用は無料で特典としては技術指導及び大会への優先的参加資格などが与えられる。希望者は事前に電話連絡の上、参加を申請。問い合わせ先は03･3362･0010。

**『鶴見五郎スポーツジム』では会員を募集中**

■総合フィットネスクラブに加えて「ランカシャー流レスリング教室」も開催中の鶴見ジム。教室では“蛇の穴”ビリー・ライリージム３代目師範ロイ・ウッド直伝のシューティング技術をこってりと教えるものだ。

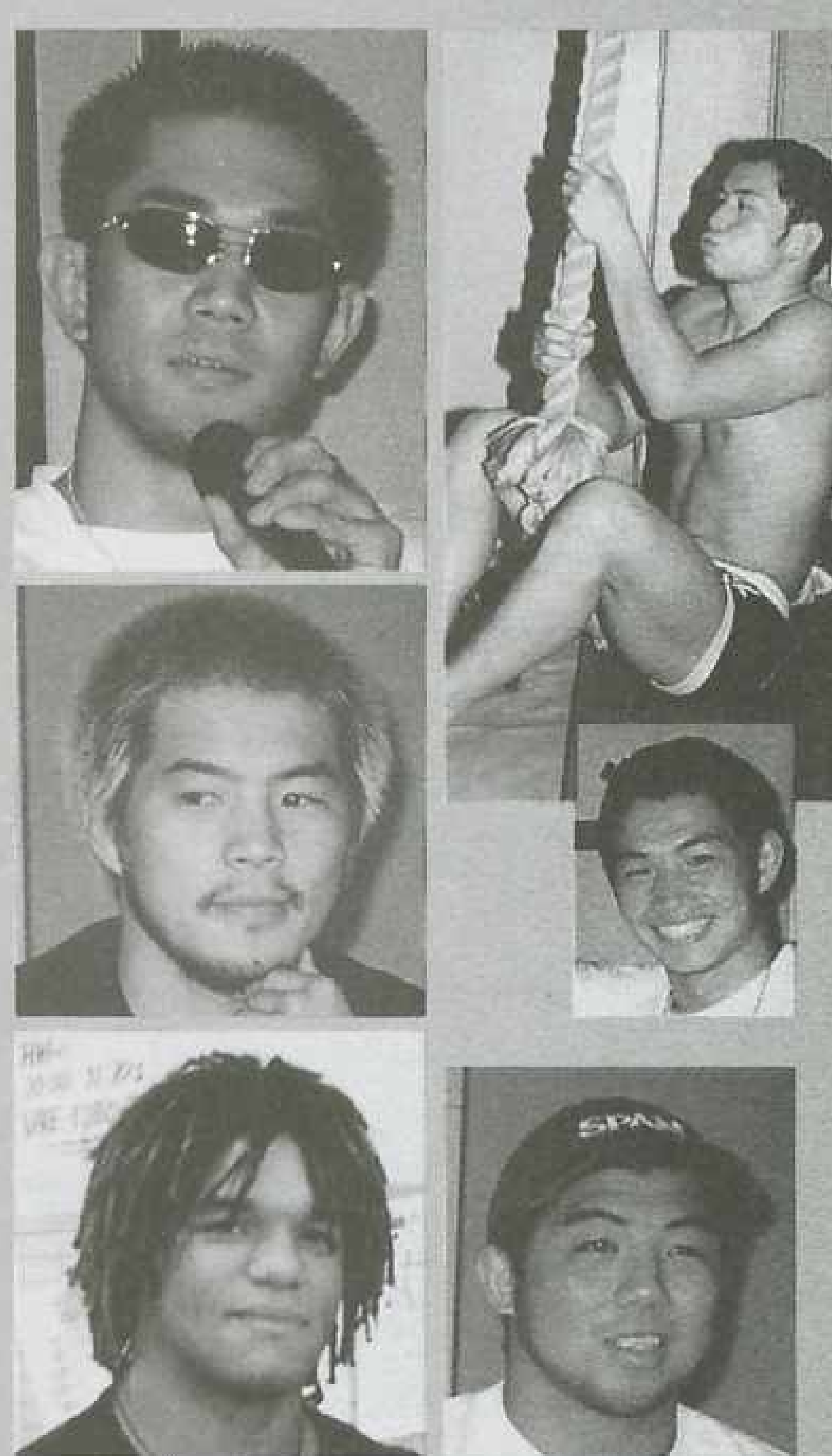
問い合わせは0467･86･0197　神奈川県茅ケ崎市幸町20―14鶴見ジムまで



❺ピュアブレッド大宮での祝勝会から。ホームパーティーのような自然に溶けめるノリでゲストのニュートンも楽しそう



❻５・29修斗の記者会見ではニューデザインのウェルター級チャンピオンベルトも披露された。ルミナが持ってるのがそうなんだが、たぶん小さくてよく見えないと思う。当日会場にいけば確認できるというかね。行けば、わかるさ（ゴメン）



❼５・29のメインでウェルター級のベルトをかけて闘うルミナ（写真左上）と宇野（写真右上）。マッハ（写真中段）はノンタイトル戦ながら、かつてドローとなったマセロ・アグアと対戦。ニュートン（写真左下）は川口健次と、加藤鉄史（写真右下）は中尾受太郎とそれぞれ対戦する

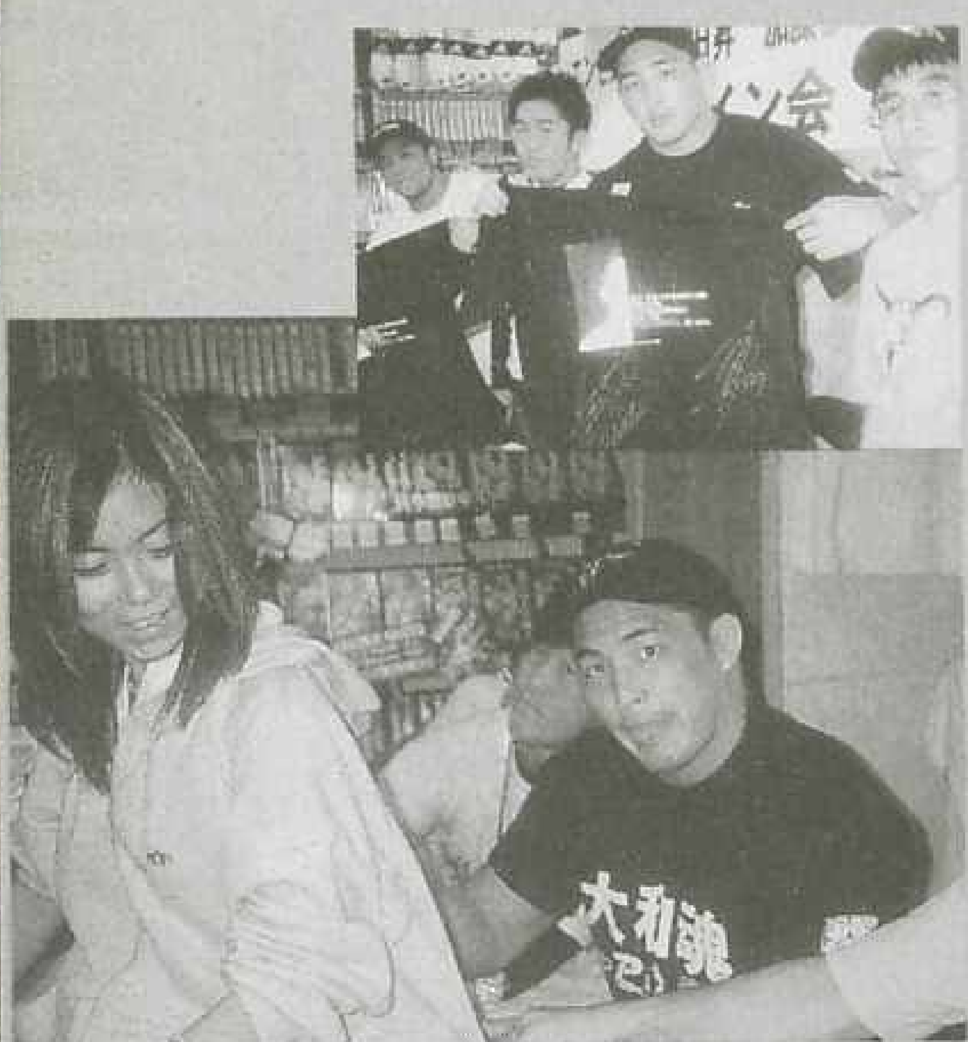
# 紙のプロレスNEWS

# 修斗／和術慧舟會
# プロの登竜門的道場

チョイスマン　ブチ




❶マッハが表紙に起用された『POPEYE』5／10号。会場で行われた人気アンケートじゃ一位になったし、修斗公式戦じゃ負けなしだし、どこでも寝るし、人気と実力を兼ね備えた花も実もある野性児。



❷盛況だったサイン会。こういう時に積極的なのはやはり女子。背中にサインをせがまれて一瞬戸惑うエンセンだったが、次の瞬間にはニッコリ。男だね。



❸スパーリング大会には女子も参加して高校生ぐらいの男子と対戦。残念ながら一回戦負けだったが、かなり頑張った。男子とすればやりにくいような、嬉しいような。



❹『PRIDE5』の二日後、しかも右手骨折のままラケットボールの試合に出場したエンセン。惜しくも試合は一回戦負けだったが、男にもほどがある。

## 4月22日（木）

『SRS』フジテレビ

■番組後半は新アシスタントの畑野浩子がピュアブレッド大宮でエンセン＆修斗クンに取材。ところが畑野がジムに入った途端、朝日昇が「練習してるんだ、邪魔すんなッ！」と罵声を浴びせて奇人ぶりを発揮。まあ、ドッキリ取材ではあったのだが、畑野を涙目にするまで追い込む、このタチの悪さをぜひとも試合にも出してほしい。いや、ホント。

■同日、桜井速人が表紙になった雑誌『POPEYE』が発売され、修斗特集がオールカラーで10ページに渡って掲載される。桜井＆宇野薫の特写、修斗クロニクル、修斗Tシャツカタログ、エンセン井上らのトレーディングカードなど盛り沢山の内容だ。ちなみにルミナボーグというフィギュアがメディコムトイから発売されることが決定（店頭販売なし）。問い合わせ先は03･3467･7676。❶

## 4月23日（金）

『格闘コロシアム』テレビ東京

■4・18パンクラス文体特集。船木誠勝VSエベンゼール・ブラガ戦を、あの安田拡了氏が解説したのだが、やはりというか興味深い発言が多々あったのだ。マウントを取ったのちフェイントを入れてから船木の顔面を痛打したブラガに対して「このフェイントを出すくらいですから、ブラガの焦りが見えますね」だとか、船木をコーナーに押し込んでいるのに「ブラガ選手は船木選手をなかなかギブアップさせることができませんね」などと目からウロコが飛び出るような発言の連続。ヒイキの引き倒しにならなければいいがとこちらが心配になるほど試合以上にスリリングな解説だったのだが、案の定、放送直後からインターネット上でヤスカク大論争が巻き起こることに。やれやれ。

## 4月24日（土）

『エンセン井上、朝日昇、池田久雄、加藤鉄史サイン会』
渋谷・ワールドプラザ渋谷WEST店

■エンセン、朝日ら『ピュアブレッド大宮』所属選手によるサイン会がファイアー通りにあるワールドプラザ渋谷WEST店で行われた。1時間以上にわたって若者たちが途切れなく並び、修斗人気の高さを改めて実感。ちなみにこちらのお店では修斗及びK－1など格闘技系のTシャツ＆グッズ、猪木闘魂塾Tシャツ独占販売などプロレス＆格闘技の品揃えが充実している。問い合わせは03･3462･1001。❷

### 同日、『POWER OF DREAM』にて第2回スパーリング大会＆ちゃんこ会開催

■スパーリング大会は道場練習生によるトーナメント戦。意外と言っては失礼だが、ズブの素人がたった何ヵ月かでこれだけデキるようになるのかってぐらい、思った以上に質の高いものであった。優勝は割田佳充さん。ちゃんこ会ではヘルシーな薄味ちゃんこが出場者、見学者にふるまわれ、大ナベ二つがアッという間に空に。味よし、技よしのグレードの高いちゃんこ会＆スパーリング大会であった。❸

ちなみに『POWER OF DREAM』では入会者を募集中。

【練習日】
火曜日～土曜日　16：00～22：00
日曜　13：00～18：00
【入会金】一般／10000円　学生／6000円
【月会費】一般男性／10000円
一般女性／8000円　学生／6000円
小・中学生／4000円
＊見学・一日無料体験入学は随時。問い合わせは03･5734･5354（パワーオブドリーム事務局まで）

## 4月25日（日）K－1にグッドリッジ参戦

『K－1 REVENGE』横浜アリーナ

■『PRIDE1』でオレッグ・タクタロフをKOしたゲーリー・グッドリッジが、この日、武蔵と対戦。結果は武蔵の金的を蹴ったゲーリーが反則負け。だが、ゲーリーの凄さと怖さは観客にしっかりと届いた試合だった。詳しくはバウトレビューにて。

## 5月1日（土）

エンセン井上がラケットボール日本選手権に出場。

■『PRIDE5』で右手を骨折したエンセン井上がそのたった二日後ラケットボールの試合に出場した。もちろんまわりは止めたのだが、「左手でやる」と言い張ってきかなったらしい。かつては日本選手権でも優勝したほどのエンセンだけに、左手だけでも勝つかもと思っていたが、やはりそれは難しかった模様。一回戦で敗退してしまったが、ともかくムチャな男だ。（詳細は20ページに）❹

## 5月9日（日）ピュアブレッド大宮

エンセン井上『PRIDE5』祝勝会IN大宮ジム

■「『PRIDE』でオレが稼いできた金をみんなに還元するネ」（byエンセン）という、男気あふれる飲み会が『ピュアブレッド大宮ジム』で開催された。参加者は朝日昇らジム所属の選手に練習生。さらには5・29のために来日中のカーロス・ニュートンや、エンセンの練習仲間かつ飲み仲間の金原弘光、高山善廣も参加と豪華かつ賑やか。テーブルには酒や烏龍茶、寿司やらピザやらが並び、いくらでも追加注文し放題とこちらも豪華だ。皆、気持ちよく飲んで食ってイイ感じで酔いがまわったところでジャースチャーゲーム開始だが、ここでエンセンがお茶目なタチの悪さをいかんなく発揮。女子練習生へのお題が“ウンコ”あるいは“セックス”と、もうセンス抜群。飲み会心をよく理解するクレバーな女子たちは程よい照れを入れながら、それをきっちりこなす。飲み会とは女子のこういう細やかな心遣いが盛り上がりを左右するわけだ。また、賞品に電化製品がズラリと並んだ豪勢なクジ引き大会では金原がゲームボーイをゲット。ところが金原は「ソフトもよこせ」とダダをこねて欲望まる出し。男も女もプロもアマチュアも、食欲と物欲を満たし切った人間味あふれるイイ飲み会だったわけだ。❺

## 5月11日（火）修斗

『5・29修斗横浜文化体育館大会記者会見』
渋谷・東邦生命ビル

■横浜文化体育館で行われる5・29修斗興行の全カードを発表。詳細は興行情報を参照してほしいが、佐藤ルミナ、宇野薫、桜井速人、カーロス・ニュートン、郷野聡寛ら修斗プロ化10周年記念大会らしい豪華なメンバーが出揃った。セミファイナルでマセロ・アグアと再戦する桜井は、「前回（97年の『バリジャパ』で引き分け）の反省点は克服したか」との質問に「ケガと風邪に注意してやります」と体調万全なら負ける相手ではないといわんばかりのコメントで頼もしい限り。メインは佐藤ルミナと宇野薫のウェルター級王座決定戦。「格通」で「6秒未満で宇野を倒す」と語ったルミナは「スパーリングの時でも1秒、2秒で極まる時があるんで不可能ではないと思います。ともかく判定勝ちはいらないんでKOかギブアップを狙います」と発言。対する宇野も「ボクも判定になるよりは一本を狙う姿勢でいきたいです。はい」と両者とも意欲満々。ただ勝つことよりも勝ち方にこだわるプロらしい姿勢が素晴らしい。

ちなみにこの興行は『SKY PerfecTV』でPPV（ペイ・パー・ビュー方式）で生中継される。視聴料は1500円。PPVならびに『SKY PerfecTV』に

## 5月3日（祝・月）CMLL・JAPAN

**「マスカラスがやってきた、ヤア、ヤア、ヤア」**
**東京・Champion水道橋店**

■CMLL・JAPANの8月シリーズに来日するマスカラスがプロモーションで来日。マスクか、チケットを買った人にサイン会を行った。エレベーターからいきなり現れたマスカラスに、ボクを含めお客さんも「え？」と、一瞬度肝を抜かれる。❺

## 5月4日（祝・火）、5日（祝・水）

■東京に初上陸したデルフィン派の『大阪プロレス』。ポリスメ〜ン、くいしんぼう仮面、怪獣ザガラウス、ブラック・バッファローなどなど、魅惑のマスクマンたちが登場！　この調子でガンガン新しいワン＆オンリーのマスクマンを誕生させてもらいたい。ディック東郷は例外としても、薬師寺正人、瀬野優、星川尚浩らは以前にもまして、イキイキしていたように感じた。なぜかデルフィンには厳しい野次が多かったが、団体としてはまずまずのすべり出しとなった。❻

## 5月5日（祝・水）FMW

**『ENTERTAINMENT WRESTLING POWER LIVE』**
**神奈川・横浜文化体育館**

■邪道vs外道の兄弟対決が実現。超がつくほどアメプロマニアの２人の対決は、動きから何からまるっきりアメリカン。この日まで、分裂していがみあっていたというストーリーがもっと伝わっていれば、肩の力を抜いて楽しめたのかも知れない。試合後は『週プロ』の記者を締め上げて、「これからはリング上でウンコしてやる」と宣言。まさに邪道！❼

■セミで激突したＦMWvsバトラーツの５vs５のイリミネーションマッチ。注目の石川は大矢ともつれながらオーバー・ザ・トップロープで失格。最後にはヨネ＆池田vs雁之助＆金村という図式になったが、池田が１人残りで勝利！　「オレタチが邪道だ！」と高らかに叫んだ。確かに、バトラーツもＦMWも“何でもあり”には変わりない。今後はどうなる？

■黒田vs冬木のメインイベントが非常に物議を醸している。『週プロ』誌上では、編集後期十１ページを使って宍倉次長が原稿を書いている。すわっ！『感動させてよ!!』復活か？と思ったシッシーマニアの皆様、残念でした。結局、ここ数カ月のＦMWは試合以外の部分に以前のようなコントなどがなくなった反動だと思う。「とにかくいい試合を見せろ！」というファンが、思いっきり怒るようなことをやり続けていくようなので、これからは楽しみだ。

## 5月11日（火）みちのくプロレス

**『GWシリーズ』岩手・岩手町トレーニングセンター**

■『GWシリーズ』に全戦参加したマグナムTOKYOは、シリーズ終了後「巡業の楽しさを味わいました！　みちプロを自分の就職先だと思って頑張ります」と語った。ちなみに入場時のチップで6ケタに手が届いたというから、マグナム人気おそるべし！　観客席の熱狂ぶりを見るにつけ今年の夏の主役大本命であろう。

■二瓶組長逮捕の余韻さめきらないうちに、渦中の偽サスケが女サスケを引き連れて現れた。これに激怒したサスケ、女子マネにアトミックドロップ＆お尻ペンペンを食らわせお仕置きした。「何ですか、ハレンチな！　フリフリのスカートをはいた女マネージャーなんてけしからん」と激怒。サスケはああいうことがメチャクチャ好きそうなんだけど、そうでもないのか？　ともかく、これにてサスケは夏の『覆面ワールドリーグ戦』への出場権を獲得した。なお、このリーグ戦には「カレーマン」なるマスクマンがインドから殴り込んでくることが決定した。北朝鮮から「テポドン・ナントカ」は飛んでくるのか、来ないのか？　今年の夏は、みちのくへ飛べ！

## 5月14日（金）バトラーツ

**『札幌大好き！　金曜ゴールデンタイム伝説』**
**北海道・札幌中島体育センター**

■襲撃予告をしていた将軍KYワカマツが、政務多忙のため欠席。代わりに副ショーグンMJワカマツが登場！　セミではボブ・バックランドが鼻を骨折、メインも火が飛び出るなど大荒れになった模様。詳しくはP77〜を読め！

## 5月15日（土）闘龍門

**『闘龍門2周年記念興行』メキシコ・アレナ・ナウカルパン**

■ＮＷＡ世界ミドル級のタイトルマッチに臨んだサスケが、スモー・フジの挑戦を退けて、防衛に成功した。

## 5月18日（火）バトラーツ

**「アレクついに海外遠征出発！　大きくなれよ！」**

■アレクサンダー大塚が、プエルトリコ遠征に出発した。ＩＷＡプエルトリコの大会に出場。そこにはWWFから20人以上のレスラーが参戦する。まずはプエルトリコでサスケと合流するアレクは、プエルトリコでの興行が終了した後のスケジュール調整さえつけば、小川のＮＷＡ王座防衛ロードに帯同する予定となっている。ＵＦＯ軍団は世界を股に掛けて大暴れするというから、今後の展開からますます目が離せない。

### 試　合　情　報

## 告 6月9日（水）リングスタッフ主催興行

**『ミスター空中７回忌追悼興行』**
**東京・後楽園ホール（18：30）**

■注目は久々のリング登場となる初代タイガー・マスク！　そして、高田道場の佐野なおきが北海道のバトラーツに続いて参戦！　そして、遂にベールを脱ぐ神秘の格闘家or元バトラーツ営業・芳賀元太！　マニアックなファンでも、そうじゃなくても十分楽しめそうな超コクまろマッチの嵐！　第４試合終了後追悼セレモニーを行い、フロリダ・タンパより空中氏の遺族、妻ジェニー空中、娘ニーナ空中、息子のマサミ空中の３名がセレモニーに参加するため来日する。本誌イチ押しの興行です！　見逃すな！

【空中レフェリー追悼記念試合】
**石川雄規＆池田大輔vs**
**ジョー・マレンコ＆カール・グレコ**

【FMW認定ジュニアヘビー級選手権】
**（王者）佐野なおき（高田道場）vs**
**臼田勝美（挑戦者）**

**日高郁人vs初代タイガーマスク（佐山サトル）**

**タイガーマスク（みちのく）＆田中稔vs**
**愚乱・浪花（みちのく）＆望月成晃（武輝道場）**

【バトラーツ提供カード】
**モハメド・ヨネ＆日高郁人vs**
**小野武志＆土方隆司**

【マレンコ道場卒業生マッチ】
**内藤常恒仁＆キャノンボールKAZUvs**
**ホーデンス・ミン＆橋部昌浩**

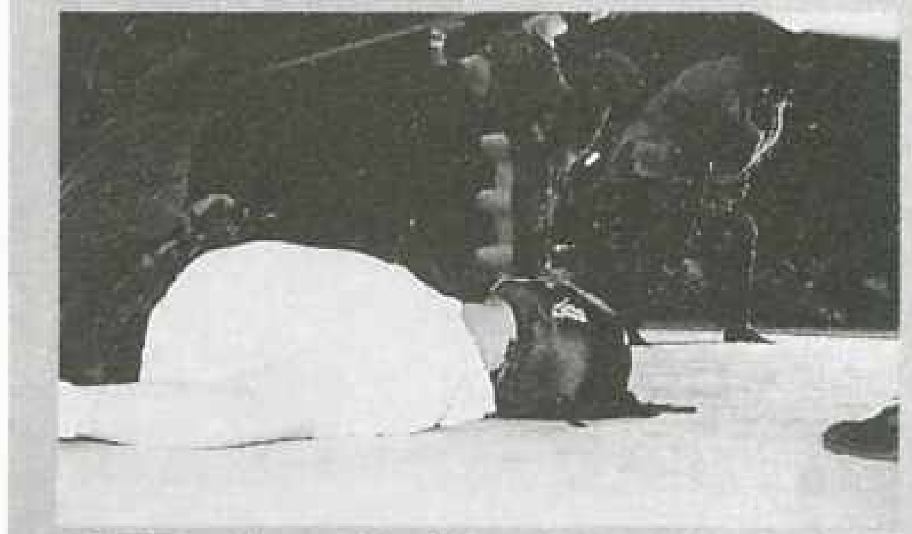
【マレンコ道場生vs旧UWFドリームエキシビジョンマッチ】
**芳賀元太vs3代目マッハ隼人**

【藤原組メモリアルマッチ】
**ドン荒川vsつぼ原人**

※試合形式は30分1本勝負です。第2試合のみ5分間です。

**【バトラーツ興行日程】**
**『FEELIN' COME BACHI〜BACHI』**

**6月18日（金）茨城・ひたちなか市松戸体育館**
**6月19日（土）静岡・アクトシティ浜松**
〜THE STARS IN TOKYO〜
**6月20日（日）東京・TOKYO FMホール**
〜THE STARS IN FURITSU〜
**6月25日（金）大阪・大阪府立体育会館第二競技場**
（19日は19：00、25日は18：00、それ以外は18：30の試合開始となります）



❸飛田vsヴァーゴンを裁いたサスケだったが、原始猿人のパワーの前に失神！　ジョー樋口状態に陥ってしまう。すかさず島田裕二サブ・レフェリーがリカバーして、試合は続行された。



❹リングサイドは超豪華なVIP席となった。何と言っても、圧倒的な存在感の真樹先生には客席から声援も飛んだ。



❺マスカラスが来た！　次の来日は8月のCMLLのツアーになる。マスカラスの他にも、メヒコのトップ選手が大挙来日する予定。詳しい日程は読者プレゼントページに載ってます。



❻薬師寺はブルース・リーよろしく、黄色いトラック・スーツを着用。入場のときにはヌンチャクを振り回すドラゴン野郎になっていた。女の子はデルフィンのエスコートガールのあきらちゃん♥



❼見事に仲間割れ→見事な仲直りという、じつに見事な裏切り劇を見せてくれた邪道＆外道。



❽ミスター空中氏は第二次UWFのレフェリーを務め、ゴッチさんやマレンコ道場と日本マット界のパイプ役として多大な貢献をした。バトラーツの源流を感じさせる興行になるだろう。

# 紙のプロレスNEWS

# FMW／みちのく／バトラーツ／闘龍門 大阪プロレス／CMLL・JAPAN

チョイスマン　ノブ



4月21日（水）みちのくプロレス
原始猿人ヴァーゴン解凍記者会見／東京・都内某青果市場■絶賛解凍中のヴァーゴンをサスケが視察。中国雲南省に返還しようとしたが、受け取りを拒否されたため、やむなく都内でひっそりと冷凍保存してあったのだという。あまりのグロテスクさと異臭に、「こりゃ危険すぎる……飛田、生き残れよ！」と言ったまま、サスケさえも絶句した。



❶一夜限りのU・ドラゴン復活!! 本格復帰はまだまだ先か？



❷右肩の負傷が予想以上に重症だったキッドは1年間の欠場。



4月26日（月）バトラーツ
『旗揚げ3周年記念　情念シリーズ』最終戦／東京・後楽園ホール■酔いどれピストルズの相方、臼田勝美の試合をビール片手に観戦した山川。札幌で対戦するトンパチ・マシンガンズの試合後に、臼田と2人で急襲！　札幌での必勝を誓った。ちなみに捨てぜりふは「ビールは、サッポロだ！　バカヤロウ、おぼえとけ！」

## 4月11日（日）イギリス・UWA

■イギリスマットに愚乱・浪花とタイガーマスクが遠征した。タイガーは英連邦ジュニアヘビー級のベルトを懸けて、ジェイソン・クロスという選手と激突、そして見事に勝利を収めた。また、この日タイガーに対してつっかかっていったダートバイク・キッドの『覆面ワールドリーグ戦』出場が決定した。タイガーはレスラー生活で初のベルト。おめでとう！！

## 4月20日（火）ＦＭＷ

**『ＦＭＷ統一機構最強タッグ決定リーグ戦』**
**東京・後楽園ホール**

■石川雄規がついにＦＭＷに乗り込んだ！　胸に「闘魂」とプリントされた、これ以上ない分かりやすいスタイルで、ＦＭＷファンの大ブーイングを浴びながら、入場する非道を襲撃テロ！　さらに、この日は5月5日のＦＭＷ横浜文体に参戦するメンバーが確定した。大日本との初接触の頃もそうだったが、大ブーイングを浴びれば浴びるほど石川の表情は嬉々として輝いていくからカッコいい。

## 4月22日（木）闘龍門

**『DRAGON FEVER～春の嵐～』東京・後楽園ホール**

■メキシコに本校のある闘龍門が日本に分校をつくることとなった。その名も「闘龍門ＪＡＰＡＮ」。一旦、メキシコを卒業したクレイジーＭＡＸの面々は、闘龍門ＪＡＰＡＮ所属になる。この日は、試合後に師匠ウルティモ・ドラゴンが乱入、卒業生にビンタのエールで送り出した。❶

## 4月25日（日）闘龍門

**『DRAGON FEVER～春の嵐～』最終戦**
**神奈川・クラブチッタ川崎**

■メインでジュードー・スワに破れたドラゴン・キッドが肩を負傷。約1年間の欠場を余儀なくされた。改めて空中殺法の危険性を考えさせられた。再起も危ぶまれる状態だそうだ。より強くなって、帰ってくることを願う。❷

## 4月26日（月）バトラーツ

**『旗揚げ3周年記念　情念シリーズ』最終戦**
**東京・後楽園ホール**

■サスケvs田中稔のNWA世界ミドル級選手権が実現！　ねちっこいグランド、華麗な空中技も飛び出し、白熱した内容になった。新日本の『ベスト・オブ・ザ・スーパー・ジュニア』に出場が決定している田中にとって、サスケ越えは恰好の試金石だったが、サスケもそうはさせず。新日本の層の厚いジュニア戦線で何を見せてくれるのか、要注目だ！

■池田vsアレクがメインイベント。3周年という節目の試合で、お互いが様々な場へ出ていって吸収した技をぶつけ合った。アレクは試合後のコメントで「自分の目が海外に向いている現状があるので」と敗戦のショックはないとコメント。この大舞台で、そのコメントを吐く肝っ玉に脱帽！　アレクはまだまだデカくなる！

## 4月27日（火）みちのくプロレス

**『みちのくエイドTOKYO for TOHOKU』**
**東京・大田区体育館**

■この日の第0試合では埼玉プロレスのサバイバル飛田vs原始猿人ヴァーゴンが行われた。注目のヴァーゴンは、超猿的な動きで会場中を恐怖のどん底に叩き落としたがルールを知らないのか、あえなく破れた。試合後のサスケは「飛田！もうパーティーは終わったんだよ」とどこかで聞いたようなセリフ。ここで、「ありがとよ！」とならないのが飛田の飛田たるゆえん。「人間と猿人の命を懸けたリアルファイトをパーティーだとぉぉぉ？」と激怒！　飛田、相当きちゃってる！❸

■全日本プロレスから浅子覚、金丸義信、丸藤正道が参戦、タイガーマスク、カニ、グラン浜田を交えて6人タッグで激突した。多少、感覚的な違いはあったのかもしれないが、内容的には及第点を軽くクリアしている。これからの第2弾、第3弾の展開も期待できるだけに、目が離せない展開になりそうだ。

■第1試合の時間差覆面バトルロイヤルで優勝したパトリオット・ミニが突如マスクを脱いだ……と思ったら、中身はMen'sテイオー!!　観客に大日本プロレスでのブッチャー退治後、みちのくに戻ってくることを約束した。非常に粋な演出で大満足！！

■休憩時間に浦田元ＵＷＦ社長のみちのくコミッション入りが発表された。そして、本誌で絶賛連載中の本格格闘小説『無比人』でお馴染みの真樹日佐夫先生がリングに上がった！　花道を歩いてきただけで、観客があまりの凄味にどよめいたのだが、真樹先生からはさらに衝撃的な話が飛び出した。要するに、「夏の『覆面ワールドリーグ戦』で優勝しないと、虎の仮面を返上させる」という厳しいもの。どうする4代目！　ガンバレ、タイガー！❹

■本来ならばトークショーで参加するはずだった石川雄規。しかし、突然スーツを脱ぎだして「ボクもここでやりたい」と、勝手に“4.5試合”と称して土方隆司と試合を行ってしまった。イタズラで試合やっちゃいましたといった感じで、石川は満面の笑みを浮かべた。

■悪から善に戻ったサスケの禊ぎマッチとして行われた5年ぶりのサスケvs新崎人生。善戦したサスケだが、体格差はいかんともしがたく、人生が勝利を収めた。「頭打ちすぎて、鼻血が出てきちゃいました」とは試合後のサスケのコメント。大丈夫か、グレート！　どこまでも身体をすり減らしながら、危険な綱渡りを続けるサスケに乾杯！

## 4月28日（水）ＦＭＷ

**日本ハムvsダイエー　東京・東京ドーム**

■ハヤブサがこの日の始球式に登場、見事なストライクを決めた。投球フォームは女投げだったヒクソンよりもサマになっていたとの評判。運動神経が良いもんな、ハヤブサは。

## 4月29日（祝・木）バトラーツ

**『PRIDE.5』愛知・名古屋レインボーホール**

■この日、バスツアーのガイドとして参加したアレクがリング上へ。メイン後のＵＦＯ襲撃に参加した。リングで見ると、ホントに絵になる3人だ！（ピンナップ参照）

## 4月29日（祝・木）みちのくプロレス

**『GWシリーズ』新潟・新潟フェイズ**

■日高郁人を相手に英連邦ジュニアヘビー級選手権を防衛したタイガーマスク。マスク剥奪問題については、さすがにナーバスだったようだ。「マスクを脱いだら、もっとガチガチのものになると思います」とコメント。ガチガチ？　ということは、師匠・佐山聡のようにザ・タイガーになったり、スーパータイガーになったり、どんどん格闘志向になっていくのだろうか？

## 5月3日（祝・月）FMW

**『統一機構最強タッグリーグ戦』愛知・愛知県武道館**

■勢いに乗る黒田哲広＆田中将斗のコンビが優勝を遂げたその直後、タッグを組んでいたハヤブサと冬木が仲間割れ！今年に入ってからのシングルとタッグ、2つのリーグ戦が終了した直後の冬木の行動である。個人的にはチーム分けを無視したタッグ結成がいまひとつ腑に落ちなかっただけにこの仲間割れには、今後の期待が高まった。

# 紙のプロレス NEWS

# その他の団体

チョイスマン　ちょろ




❶4月23日（金）二瓶組■二瓶組長こと、二瓶一将（33）が脅迫による暴行容疑で、逮捕されていたことが明らかになった。それを報じる『中京スポーツ』4／30号



❷これがニセ大仁田こと、森谷俊之。直接対決が見たい。更にこの日、二瓶組長の逮捕問題について、代表の幻が「二瓶一将は必ずこのリングに戻ってきます」とファンに向かって説明すると「待ってるゾ」と多数の声が上がった。



❸地下室に突如現れた、アングリー、ニッコリー、クライのニコニコファミリー。ニッコリーはマットに登場すると、連続前宙を繰り返し、観客の度肝を抜いた。誰だ？




❹日本最終興行とも噂される、UNW6・14大会。何といっても注目すべきは、この日のスペシャル・リングアナウンサー。アンドレ・ザ・ジャイ子。その正体は？

## 5月1日（土）国際プロレス

**『IWA定期戦スペシャル・50回記念大会』**
**東京・駒沢オリンピック公園屋内球技場**

■UFC大会ではないが、第1試合からメインイベントまで全試合が、金網の中で行われた定期戦50回記念大会。金網デスマッチ・スクランブル・タッグトーナメントは「金網から脱出すれば勝ち」という単純明快なルールで行われた。1回戦、第2試合目のボーゴ＆デビルvsマミー＆幻の一戦は、UFC大会ではないが、なんと0分56秒でフィニッシュ。「ワイルドシング」で入場の“ニセ大仁田”こと森谷俊之には詰めかけた観客からたくさんのモノが投げつけ…られることはなく、大声援で迎えられた。金網デスマッチ・スクランブル・タッグトーナメント決勝戦は矢口壹琅＆エル・コマンドI組と鶴見五郎＆ゾンビアI組の間で争われ、エル・コマンドIが金網からの脱出に成功し優勝を決めた。優勝を決めた矢口は「これが愛の力だ！オレ様と鶴見さんには愛があるんだ！」と言うと、鶴見も「オレも矢口は認めるよ。でもなゾンビアには愛がないんだよ」とぼやく。すかさず矢口は鶴見に「お客さんには？」と聞くと「愛があるよ！」鶴見の頼もしいこの一言で会場は450人分の大歓声で包まれた。最後は矢口の「イーチ、ニーッ、サン、愛ダーッ！」で締め！❷

## 5月4日（火）CAPTURE

**『CHIKASHITSU MATCH Vol.7&8』**
**東京・新宿ACBホール**

■ダブルヘッダーで行われた初の地下室マッチトーナメント。ACBホールには超満員の観衆が集った。トーナメントは1回戦から、相変わらず何もそこまでという大乱打戦が続出。その中でも群を抜いていたのが石井智宏vsニーハオの一戦。両者、鼻血まみれとなりながらも膠着することなく動き続け、観客を静まりかえさせた。決勝は北原光騎とニーハオの師弟対決となり、師匠相手にも素早いタックルから何度も優位に立ったニーハオだったが、最後は逆エビ固めでどっしりと腰を落とされギブアップ。北原の優勝が決まった。試合後、北原は「地下室マッチはひょっとしたら今日で最後かもしれない」とコメントを残した。地上への進出は大歓迎ではあるが、地下室マッチは地下室マッチでゼヒ継続してもらいたいものだ。❸

## 5月6日（木）WAR

**『6・20WAR7周年記念大会記者会見』WAR事務所**

■天龍源一郎が記者会見を開き、7周年記念として開催される6・20後楽園大会はWARにゆかりのあるレスラーを招聘するということで、テーマは同窓会！　天龍はタッグ・パートナーに、ウルティモ・ドラゴンのカバン持ちとして、WARマットのリング設営もしていたというマグナムTOKYOを指名。先の新日本・福岡大会の武藤戦で見せた雪崩式フランケンシュタイナーはマグナムへのメッセージだったのか？　スパイダージャーマンは折原へのメッセージだったのか？　井上貴子のスタンガン使用はキム・ドクへのメッセージなのか？（意味不明）青鬼ことタイガー戸口の出場はあるのか？　また、WCWのゴールドバーグからWAR参戦の意志があることも明かされた。期待してカード発表を待ちたい。

## 5月8日（土）レッスル夢ファクトリー

**埼玉・所沢市サン・アビリティーズ**
**『夢一杯、ダブルで!～つなぎ合う手に愛をつないで～』**

■夢ファクが埼玉・所沢で5ヶ月ぶりの興行を行った。昼の部で、青柳館長はニーハオをハイキックでKO！　さらに夜の部でも藤崎忠優をハイキックでKOすると「夢ファクは死なず！　今日は東京ドームで闘った以上に感動した。これが本当の夢なんだ！」と力強くアピール。まさに『夢一杯、ダブルで！（KO）』である。

## 試合情報

### 告 6月1日（火）つぼプロモーション

**東京・北沢タウンホール『真実一路』（19：00）**

**小坪弘良vs竹村豪氏**
**ニーハオvs内藤恒仁**
**田村欣子vs元気美佐恵**
**カール・グレコvs正田和彦**
**小坪弘良＆竹村豪氏vs藤原喜明＆仲野信一**

【問い合わせ】チケットぴあ　03・5237・9999

### 告『世界のプロレス』旗揚げ第2弾シリーズ「黒船来龍■」日程

6月2日（水）福岡県・田川市武道館（18：30）
6月3日（木）熊本県・小国ドーム（18：30）
6月4日（金）熊本県・人吉スポーツパレスナ（18：30）
6月5日（土）福岡県・中間体育文化センター（18：30）
6月6日（日）長崎県・ncc＆スタジオ（13：00）

［参加選手］ペプシ・ボーイ、コーラ・キッド、相島勇人、水前寺狂士郎、アジアン・クーガー、ナックルズ・ネルソン＆エリック・スプラッチャ（ザ・ブラザー・フッド／NWA世界タッグ王者チーム）、ホーラス・ザ・サイコパス、ビル・アーウィン、ジェフ・マンゲル、SHINOBI、アルカンヘル・デ・ラ・ムエルテ、トリプルK1号＆2号、ほか

【問い合わせ】世界のプロレス　093・613・6008

### 告 6月12日（土）～6月16日（水）CAPTURE

**『キャプチャーと行く、ムエタイ修行の旅`99』**

選手と一緒にムエタイ特訓。他にもイベントが盛り沢山。「若い女の子の参加待ってます（笑）」（タノムサク鳥羽・談）

【参加選手】北原光騎、ニーハオ、タノムサク鳥羽、モンゴルマン。参加費9万円程度で衣・食・住と面倒を見てくれるそうです。女の子はそれ以外にも面倒を見てくれるかも？

【問い合わせ】キャプチャー　044・959・3333

### 告 6月14日（月）UNW

**東京・大田区民プラザ（東急目蒲線下丸子駅前）**
**『*Goodbye Day*～また逢う日まで～』**
**（18：30過ぎ位～19：00過ぎ位頃）**

アイアンマン・コンテスト巴戦【時間無制限1本勝負】
**幸村剣士郎vs内藤恒仁vsキャノンボールKAZU**

リアル・ワールド・ヘビー級、バージニア・ヘビー級、ダブルタイトルマッチ【UNWルール時間無制限1本勝負】
**（リアル・ワールド・チャンピオン）セッド・ジニアスvs（バージニア・チャンピオン）マーク・フレミング**

**★スペシャル・リングアナウンサー、『紙のプロレス』アンドレ・ザ・ジャイ子**

■当日、ジニアス君の「天才クイズ」を行います（受講料1000円）全問正解者の中から抽選で1名様をジニアス君自らが、あの旧ルー・テーズ道場にご案内！　さらに18：30より、セッド・ジニアス・トークショー「誰か真実を書く勇気がある真のジャーナリストはいないのか!?」が行われる。トーク内容は「鉄人の功罪」「当事者に1度も話を聞きに来ず、一方的に判断する一部マスコミのジャーナリスト感」「お金と人の命」「ナイタイスポーツの自殺報道にアイツは俺のストーカーとコメントしたN・T」等々、盛り沢山だ！❹

【問い合わせ】チケットぴあ 03・5237・9999

# 紙のプロレス NEWS

# 女子プロレス

チョイスマン　ジャイ子



❶GAEAファンの罵声をつまみに酒を酌み交わすSSU。ホントにみんなガブガブ飲んでた。つまみがよかったのか？



❷前泊の命令で「3回まわってワン」をさせられた石田リングアナ。レースのボレロの下はビキニの水着（スカート付き）。最後までボレロは脱がなかった。残念!!




❸本人たちがケンカ腰ならファンもケンカ腰？　この垂れ幕は前日徹夜で作ったそうです。京子ファンと揉めたりしなかったんでしょうか？



❹お互いをいたわり合う試合後のW井上。これを見て喜んだファンもガッカリしたファンもいることでしょう。アナタはどう思う？



❺他団体の選手をホントに出すんなら是非この二人を。5月5日にWWWA世界スーパーライト級王座に返り咲いたチャパリータASARI、最近すっかりコマンドさんオンリーになってしまったけど、ボリショイ・キッド。コマンドじゃないよ。キッドね。

## 4月14日（水）アルシオン

『STARLET'99』東京・後楽園ホール

■門恵美子選手の追悼興行となったこの日、門選手と同期の藤田愛がキャンディー奥津と組み、秋野美佳＆浜田文子組戦でデビュー。ファイアーバードスプラッシュで勝利を飾る。試合後奥津、浜田、秋野のチームに誘われ、「門も一緒なら」とチーム入り。晴れて5人ユニットとなる。

■後日、このユニットが『CAZAI』という名で7月にCDデビューすることが決定。奥津は作詞も担当しているとのこと。振り付けは？　乞うご期待！

## 4月18日（日）JWP

『「新」JWP OSAKA 2DAYS・1』大阪・IMPホール

■日向あずみがデビル雅美にシングルで2回目の勝利を上げる。試合後、デビルが「今日の負けは認める。ベルト、楽に巻けると思うなよ、本気になるで」とアピール。一方日向は「今日は本気じゃなかったのかなぁ？」と相変わらず呑気な発言。今後、デビルの動きが注目される。

## 4月25日（日）GAEA JAPAN

『THE DAY AFTER』東京・後楽園ホール

■4月4日、横浜大会の長与千種vsライオネス飛鳥戦での飛鳥の勝利によりGAEAの全権がSSUに移動。この日からマッチメイクはSSUが行った。「こうなったのも長与の責任」（飛鳥・談）ということで長与は第一試合前の「第0試合」ならぬ「前座試合」にテーマ曲もなしで入場、中山香里と対戦も秒殺。お返しとばかりに飛鳥はシュガー佐藤に代わって第一試合に出場、加藤園子を秒殺。「加藤は長与の匂いがするから嫌いなんだよ！」（飛鳥・談）

■最終的に前座試合以外はSSUの全勝となり、リング上で祝杯をあげる❶。その後、ホールの外階段に場所を移し報道陣を前に酒をあおり続けたところで、プチ事件勃発。GAEAファンと思われる客が階段の上から飛鳥にツバをかけた。激怒した飛鳥は若手に捕まえさせようとするも、下田美馬に「トモさ～ん、そういうときは『ありがとよ』ぐらい言わないとダメですよ～」とたしなめられ、ことなきを得る。

■後日、復帰に向けてリハビリ中だった2期生の松本麻依子が頚椎ヘルニアのため退団したことが発表された。

## 4月25日（日）LLPW

『春闘～美闘家パラダイス～』東京・後楽園ホール

■紅夜叉が試合後、引退を発表。腰痛の悪化と、結婚が決まったため。引退式は7月20日（火）の後楽園大会が予定されている。対戦相手は同期のキャロル美鳥になりそう。

## 5月4日（火）アルシオン

『ARS'99 TOURNAMENT』東京・後楽園ホール

■8選手参加のワンデー・トーナメントは準決勝で奥津を秒殺し、決勝で矢樹広弓を下した大向美智子が優勝。師匠でもあり、アルシオンの広報でもあった長谷川咲恵が体調不良のため退社となったため、長谷川への餞として大向が優勝トロフィーをプレゼントしようとするもアジャ・コングに「また使うから」と止められる。一方アジャは、16日の長与戦で頭が一杯なのか、はたまたファイティング・プロデューサー業が忙しいのか、1回戦で敗退。また、トーナメントに参加しなかった藤田・浜田・秋野は7月に迎える空中戦のトーナメントに備えてルチャ・ドーラとの6人タッグを行った。

## 5月5日（水）ネオ・レディース

『Golden Gate～starting over～All in One』
神奈川・川崎市体育館

■6選手参加のWWWA世界スーパーライト級トーナメントはチャパリータASARIが決勝戦でJd'の坂井澄江を倒し、再び王者となる。「今後も私が中心となってスーパーライト級を活性化させていきたい」（ASARI・談）。まずはみちプロ？

■噂の石田亜矢子リングアナの『なんちゃって聖子』としてのデビュー戦は、石田が松田聖子の『天国のキッス』をテーマ曲に泣きながら登場。石田にとっては地獄だったか？　リングに上がっても泣き止まない石田にキレたパートナーのクラッシャー前泊は「3回まわってワンと鳴いたら許してやる」と強要。❷その後あらかじめスタンバイしていたシャーク土屋をパートナーに、タニーマウス＆仲村由佳組をいとも簡単に撃破。リングを降りた石田はガ然元気になり、試合に乱入するも、キッチリお返しされる。

■注目のW井上対決ではこんな垂れ幕も❸。試合中、貴子はなんとスタンガンを出し、京子を威嚇。最後は京子のパワーに沈んだが、お互いを認めあい、試合後は抱き合う❹。W井上復活なるか？

## 5月8日（土）レッスル夢ファクトリー

『夢一杯・ダブルで！～つなぎ合う手に愛をつないで～』
埼玉・所沢サン・アビリティーズ

■一部で人気だった深夜ドラマ『仮面天使ロゼッタ』のヒロイン・ロゼッタが、5ヵ月ぶりに活動再開の夢ファクでプロレスラーとしてデビュー。ドラマでも敵対しているデュアトス（悪の軍団）の吸血鼠魔女デビラッツと対戦、空中殺法を操りデビラッツを仕留めた。天使と鼠と怨霊と死神と無我が一度に見られる夢ファクの次回興行は、次回7月の予定。

## 5月16日（日）GAEA JAPAN

『WIPE OUT』東京・後楽園ホール

■アジャが長与と2年ぶりのシングル対決。試合に向けて「2年間溜りに溜まったものを吐き出す」と語っていたアジャが、素手での裏拳から長与をフォールしAAAWシングル王座を奪取。丸腰になった長与は、試合後飛鳥から「負けたペナルティーとして23日の大阪大会は謹慎」と言い渡される。

## 試合情報

### 告 7月10日（土）・11日（日）全日本女子プロレス

『格闘女神アテナPRESENTSお台場W　EXPLOSION』

東京・フジテレビ内7F屋上庭園（17時）
全女夏のビッグマッチはフジテレビでの2DAYSに決定！
他団体の参戦アリ、もちろんタイトルマッチも行われます。
チケットは5月29日発売。
問合せ　全日本女子プロレス03・3449・6541

### 告 7月25日（日）アルシオン

『HYPER VISUAL FIGHTING TOURNAMENT SKY』
東京・後楽園ホール（12時）

空中殺法の使い手8選手によるトーナメントを開催。他団体の選手も出るかも❺　問合せ　アルシオン03・5720・5217

### 告 ネオ・レディース

『Neo Japan CUP '99』のお知らせなど

■所属7選手全員による総当たりリーグ戦『Neo実力ナンバーワン決定リーグ戦・Neo Japan Cup '99』が開催されることが決定。日程は随時発表、秋までに終了する予定。

【参加選手】井上京子／チャパリータASARI／元気美佐恵／田村欣子／遠藤紗矢／タニー・マウス／仲村由佳

■DDTとの業務提携を発表。5月5日の川崎大会から試合提供を開始している。埼玉プロレスの試合提供も始まり、5月15日にはコンビニ強盗Xにサバイバル飛田が5600円の入った財布を奪われた。

**最強最後のレスラー降臨!!**

本格格闘プロレス小説

# 無比人

**虚構と現実が交錯する**

**壮大な格闘ロマン**

*Mubito*

Illustration/中川雅博

**プロレス専門誌発行人である千堂は、万無比人の生まれ持った格闘センスを見抜き、なかば強引にプロレス界へと引きずり込んだ――昨年の無比人は目標として掲げた異種格闘技戦路線でもある程度の成果を収め、さらにダーク・ジャガーというもう一つの顔でも暴れ回った一年であった。しかしマット界を見渡してみれば、バーリ・トゥードでのレスラーの度重なる敗戦の影響か、業界全体は低迷を続けていた。プロレス最強伝説を取り戻す為ヒクソン戦を決意した無比人ではあったが、実現までの道のりは長く険しいものだった。**

(36)

　白覆面の魔王ザ・デストロイヤーが、そしてウエスタンラリアットで鳴らしたスタン・ハンセンが、またそれぞれに輝ける実績を持つ往年の外人レスラー勢が続々と喪服に包んだ巨軀をリングサイドにしつらえられた祭壇へと運ぶ。

　故人が生前最後の試合をそこでしたとの思い入れからでもあろうか、祭壇を背後から支える格好で無人のリングがしめやかに広がり、その頭上、巨大な全身像の遺影が天井から吊られて参列者一同を見下ろしていた。

　四月十八日。

　北の丸の日本武道館で正午よりはじめられたジャイアント馬場とのお別れの会は、太刀川恒夫東京スポーツ社主、笑福亭鶴瓶らが弔辞を手向けた後に献花の運びとなり、まずは元子未亡人と遺族たち。引き続き空路はるばるやってきた、かつて故人と熱戦の数々を繰り広げた青い目のライバル一行が菊花一輪を手にするに到ったのである。

　参列者の席は館内一階、リング下に祭壇を見る正面だけに限られており、ざっと千人は集まっていようか。千堂も真澄と無比人を両脇に中程の通路近くに位置を占め、デストロイヤーの動きを注視していた。

　通路を献花に向かう外人勢にあって、白覆面のデストロイヤーの後ろ姿は下半身の肉が削げ落ち、ひと際老いが目立つようだ。足を悪くしたのか歩行もおぼつかない感じで、着席しているときは覆面のせいか往時とさして変わらず威風堂々として見えたのに、頼りないことといったらなかった。

(ザ・デストロイヤーことディック・ベイヤー……ジャイアント馬場にとって難敵中の難敵であると同時に無二の友でもあった、という以前に、かの力道山とも歴史に残る死闘を演じている事実を忘れてはならない。力道山の全盛期からかぞえてすでに四十年――老って当然ではあるのだろうが)

　と、そのように自分を納得させながらも千堂が傷ましさを拭えずにいると、通路寄りに坐る無比人の舌打ちするのが聞こえた。批難の眼差しを向けたら、彼の方でも見返って、

「フィギュアフォーレッグロックだっけ？　極まったが最後ギブアップするか骨折させられるしかないっていう必殺技・足4の字固めで売った恐怖の白覆面も年には勝てず、か。でもさー、どういうつもりなのかねえ。高価い航空チケットを買って、わざわざ老醜を晒しにくるとは」

「老醜を晒すのを承知で馳せ参じざるを得なかった、その已むに已まれぬ心情こそが――というふうには考えられんのかね、きみ」

　こっちの視線を目で追っていたのだろう、と斟酌しつつ千堂は言い返した。そんな受けとめ方しかできない無比人が情けなかった。

「それって、死んだ馬場の身になれってことじゃないか。無理だよ、そんなの」

「わかった、もういい」

　面倒臭くなって千堂は話を打ち切った。

　春浅くに六十歳で逝ったジャイアント馬場とのこのお別れの会は〝ありがとう〟と銘打たれ、正午から一時までの招待者の部を終えた後には一般のファンを入れる段取りになっていた。元子未亡人を差出人とする招待状は千堂と真澄、そしてニュー東都プロレスリング社長である無比人のところへも届き、つるんで出席することとなったのだった。

　真澄については交通事故死した夫が馬場のファンで、試合場へもよく一緒に足を運んだと千堂は聞かされており、そんなことから夫人とも付き合いが生じたのであろうか。三人が着いた時点で表には早くもファンの長い列ができており、人気のほどを窺わせた。

　外人勢二十人ばかりの献花が終わると日本人レスラーの番となり、千堂には馴染みの顔が次々に祭壇へ進んだ。しかしながら、アントニオ猪木の姿は見出せずじまいであり、

(ここに現れて、皆に先んじて花を供えていたなら、猪木株が急騰するのは間違いな

# 巨匠入魂 第16回

# 真樹日佐夫

かろうに……）

欠礼するからにはそれなりの理由があるのでは、としながらも猪木ゆえにプロレスに嵌まったといっても過言ではない身としては、甚だ残念な気がした。この場にいないから却ってその存在が強く意識された、ということでもあろうか。

千堂にすれば、マンションへ呼んだ氷見子にフェラチオをさせながら、その合間に、

――ひと働きといいますと、ど、どんなことをすれば。

――梶な、神州組組長の。

――彼が、なにか。

――店には相変わらず入り浸ってるか。

――ええ、それはもう。

――意のままに操れるな。

――はい、ご主人さま。

――では奴から一億の金を引き出せ。

――一億？

――そう、一億円だ。

――そんな大金を、な、なにに。

――ヒクソン・グレイシーのファイトマネーだ。万と試合をさせるためのな。文句があるか。

――い、いえ。了解しましたけれども、でも、お金のこととなりますと、どこまで諾いてもらえるか……。

――そうやって口でご奉仕しているところを写真に撮って、梶の奴に送りつけてもいいというのか。

――そ、それだけは、お赦しを！

――だったらなにがなんでも一億円出させる、いいな。

以上のやりとりを重ね、そうして実際に彼女を動かして、すぐには無理だが二、三ヶ月の猶予をみてかかればなんとかいけそうだとの感触を得ていたが、それはそれとしてほかにも腹案があり、こちらの方がより重要でそのためには猪木に会って助力を取りつけるのが急務かと思われた。

で、例によって佐山に橋渡しをしてもらうべく電話したところ、

――千堂ちゃん、実は俺、近々にUFO辞めるのよ。だから悪いけど、猪木事務所に連絡をしてアポ取って。力になれなくて、ごめーん。

とのことで、直接交渉を余儀なくされた。

## 本格格闘プロレス小説 無比人

UFO（世界格闘技連盟）はアントニオ猪木を実質上のオーナーとして旗揚げし、結成時から佐山がそこの代表を務めていたのだ。

言われた通りにして千堂は、四月に入ってすぐの昼下がり、六本木から白金に引っ越したばかりだというUFOのオフィスへ出向いて猪木と会見した。

――さっそくですが、ロシアのスポーツ界とは色々コネがおありですよね。

――それはまあ。

猪木は顎を引き加減に応じた。促すかのような目色を見せていた。千堂は電話では、力をお貸し願いたい件があるとしか告げていなかった。

――単刀直入に申します。先般来日して前田日明と対戦したアレクサンドル・カレリン、彼と是非パイプを繋げていただきたく、お願いに上がった次第で。

――カレリンね。パイプを繋いで、それからどうする。

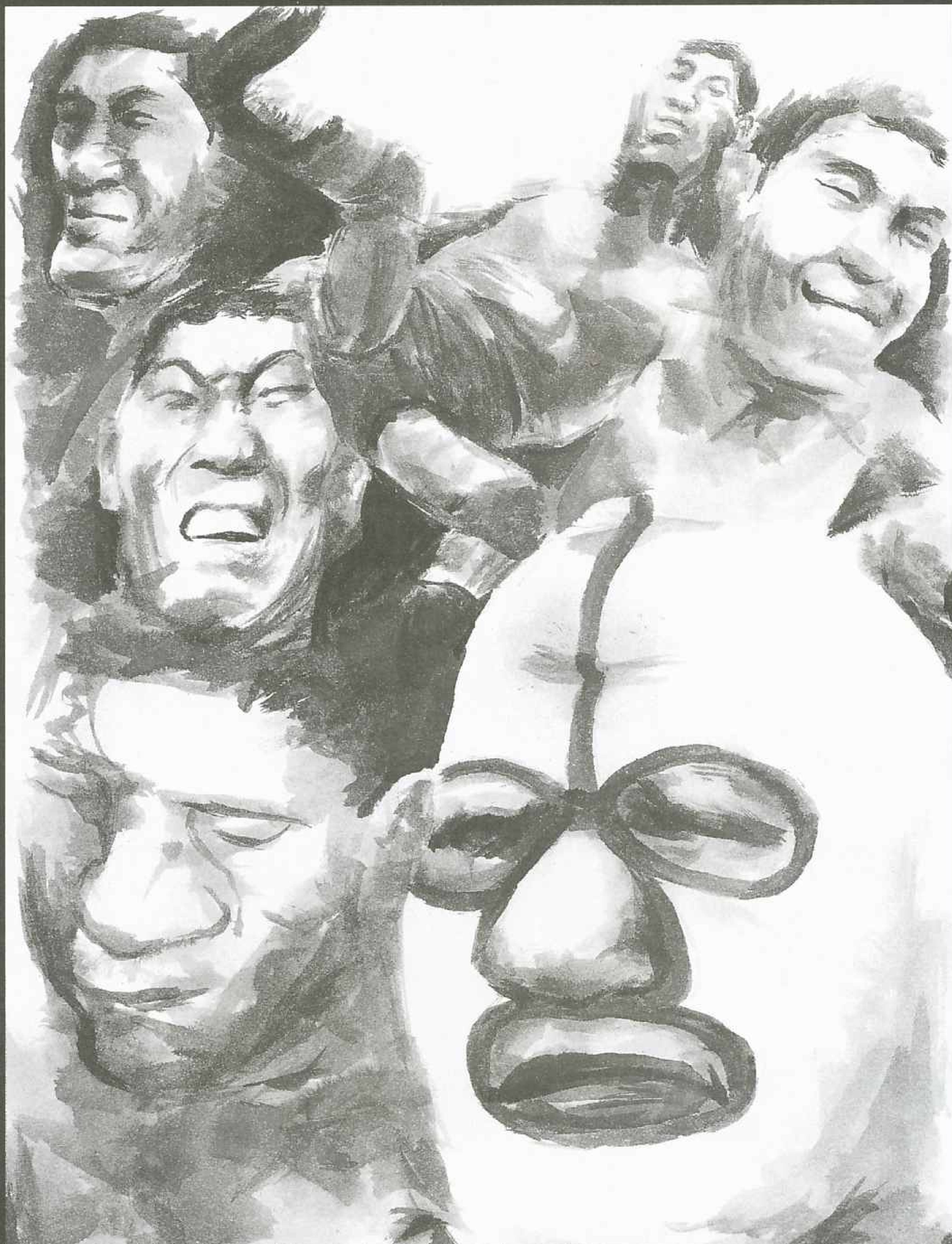
猪木の眉間に縦皺が刻まれ、上目ごしにひたと千堂を見据えた。UFOのオーナーに納まったのは永らく会長職にあった新日本プロレスと訣別したからだが、それかあらぬか一年ちょっとの間に険が増したように感じられた。

――うちの選手、いつぞやお世話になった万無比人ですが、これに稽古をつけてもらえたらと前田戦を観て痛感しまして。

――稽古をつける、本当にそれだけかね。

小川直也との公開スパーでは、格闘技マスコミが派手に報じて無比人の知名度を上げるお先棒を担がされた、今度もまたその伝ではないのかと猪木の眼差しは問うていた。

千堂が氷見子を操りヒクソンのファイトマネーを梶に都合させようかと考えたのは、カレリンと前田の試合を見ての帰りに無比人が、一億も積んでくれる奇特なスポンサーはいないものかと言っていた、それが意識下にあったからではあろうが、金ができたからといってさて先方が二つ返事で挑戦を受けるかどうか。そう自問してみて、



万無比人の戦績がいまひとつインパクトに欠けることが改めてはっきりし、そこで脳裡をよぎったのがカレリンというわけで、ロシア・ナショナルチームの一員である彼にパイプを繋ぐとなると、スポーツ平和党から出て議員経験もある猪木を措いて考えられなかった。

日本から出かけて行き、カレリンの胸を借りることができたとして、前田以上に頑張れたとなれば無比人にとって大変な勲章になろう、と目論んだのは事実だが、さすがにそこまでは明かしかねた。千堂は、まっすぐに猪木を視て、

——それだけです。お願いできますでしょうか。

——安請け合いはできんが、こうして足を運んでくれたことだし、動くだけは動いてみるとしよう。

——ご高配感謝します。

かくして一週間後、カレリンを含むナショナルチームの合同練習に万無比人を一日だけ体験参加させるよう手配した、という猪木の秘書からの電話連絡を受けるに到った。

〝ヒクソントーナメント〟にはパンクラスの船木のほかにも、UFOにあってダン・スバーンを降しNWAのベルトを奪取した小川、修斗のエンセン井上らの出場も噂されていたが、カレリン相手に無比人が善戦し、それが報じられれば梶の線が駄目になった場合にも小川や井上と並ばせることはできよう、と腹積もりをして千堂は、ひとまず肩の荷を下ろした思いがした。ロシアへは五月の連休に入るのを待って発つ手筈になっていた。

一時近く、千堂、真澄、無比人と並んで献花をし力道山亡き後、猪木と共に日本のプロレス界を支えてきた一代の英雄に別れを告げた。

（37）

シベリアに春の訪れは遅い。

カレリンの住むノボシビルスク市近郊の山々には、まだ至るところに雪が残っており、日本人の感覚からすればまさしく冬景色であった。

朝陽に白銀が眩いドーム状の山の斜面を、いましもトレーニングウェアの一団が駆け足で登って行く。総勢三十名ほどのナ

本格格闘プロレス小説

# 無比人

巨匠入魂 第16回

## 真樹日佐夫

ショナルチーム、その先頭に立って引っ張るのはカレリンで、彼のすぐ後ろに無比人、そして殿は千堂。一人だけ喘ぎ喘ぎ肩で呼吸しており、膝は笑ったような状態だ。

千堂はこちらへきて初めて知ったのだが、カレリンはロシア・レスリング協会副会長にして、ナショナルチームのヘッドコーチも兼ねていた。

――その節は、どうも色々と有難うございました。

前日に市内のホテルに旅装を解き、ナショナルチームがキャンプを張る場所へカレリンを訪ねてインタビューに応じてもらった礼を述べたら、じきに思い出した様子で笑顔を見せた。

アントニオ猪木とは前に一度紹介されて会ったことがあると言い、千堂が無比人を引き合わせると、

――そんなに小さくて、本当にプロレスラーが務まるのか。

信じかねるといった表情でしげしげ見入った。カレリンは愛称でもあろうか、〝サン・サヌィッチ〟とチームメートに呼ばれて親しまれているようだった。

無比人は、いつもの茫洋として掴みどころがない物腰のうちに、グレコローマンの世界王者と握手を交わした。ナショナルチームの練習に参加し、そこでカレリンと手合わせしたことをリークしてヒクソン戦実現のための布石とする、と千堂が出発を前にして切り出したとき、

――あのスタイルには打撃も絞め技も関節技もないんだよね。前田戦はフリーファイトってことだったから、敵も結構えぐい攻撃をしてたけど、練習中だとすりゃグレコ一辺倒でくるんじゃないの。そうなった場合、こっちも合わせなくちゃならないとしたら、はっきり言ってちょっと付け入る隙はないねえ。

と彼にしては珍しく自信なげに言っていたが、

――練習試合にしろなんにしろ、はじまってしまえばあとは勝つか負けるか、だ。グレコで歯が立たないというのであれば、背に腹は替えられん、なんでもありの万流もしくはダーク・ジャガー流に活路を見出すしかない。違うかね？ が、ここで肝に銘じておかなくてはならんのは、カレリンはサンボニストとしてもロシアでは一流で、さらには父親がボクサーで二年ほどだがボクシングの経験もあるという事実。即ちバーリ・トゥードのスタイルに持ち込んだとしても、依然というか、なおかつというかヒクソンにも優るとも劣らない強敵であることに変わりはないという、そこのところをだな。

強弁すると見る間にふっ切れた顔になり、にやっとしてこう豪語した。

――そういうことでいいなら、とことん引っ掻き回して人類最強の男とやらにひと泡吹かせてやるとするか。

山頂まできたところでランニングを終え、樹間に広がる平坦な地でスパーリングのイメージトレーニングに移った。これは一人一人でさまざまなシチュエーションを想定しながら動くもので、ボクシングのシャドーにも該当しようか。

その後にカレリンは全員を横一列に坐らせ、そこで改めて無比人へ顎をしゃくって起たせた。イメージトレーニングに一時間は費やしたろうか、千堂も列中にいてすでに息も絶え絶えだったが、カレリンと無比人が相対峙するのを見て疲れも吹っ飛ぶ思いがした。

見合ったままの状態がしばらく続き、突然、無比人の方で仕掛けた。極度の前傾姿勢から両足タックルにいくのを難なくカレリンは外し、バッグを取るや反り身を見せた。グレコに高く投げるスープレックスがあるのは千堂も知っていた。手に汗を感じた。

無比人の躰は四百キロの背筋力に乗せられ、抜けるような蒼天に抛物線を描いた。

〈以下次号〉

# 近視手術

**RK2000例とPRK2000例を越える**
**屈折矯正手術の実績で信頼を得る松原クリニックの本**




ワニの本

松原クリニック院長
松原正裕・著

定価…840円（本体800円）

**好評発売中**

K・Kベストセラーズ
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-22-7
電話03（3364）9121㈹

---

## ■第1章
## 眼科医、自らもPRKを体験！

エキシマレーザーが日本に最初に入って来たのは1988年。その頃、僕は埼玉医大で、日本で最初にエキシマレーザーを使ったスタッフの一人だったわけです。

手術をするなら信頼できる先生を選ぶのは当然のことでしょう。それは、医師である僕でも同じです。そこでお願いしたのが松原先生でした。

プライベートなことで受けて良かったなと感じているのは、マリンスポーツが以前よりも楽しめるようになった点です。

眼鏡やコンタクトレンズなしでは生活できない人であれば、長期間コンタクトレンズを使うよりも、眼のためには良い方法ではないでしょうか。

眼科開業医
眞鍋洋一　先生

## ■第2章
## RKの2倍の矯正力を誇るPRK！

RKはダイヤモンドメスを使い角膜に放射状の切り込みを入れることで角膜のカーブをゆるくする手術です。PRKはエキシマレーザーを使って角膜表面の形を変え、その眼に合ったレンズを角膜に作ってしまうのでより直接的な矯正が可能になります。

**もし格闘技など激しいスポーツをする人であれば角膜強度が保てるPRKをお勧めします。**



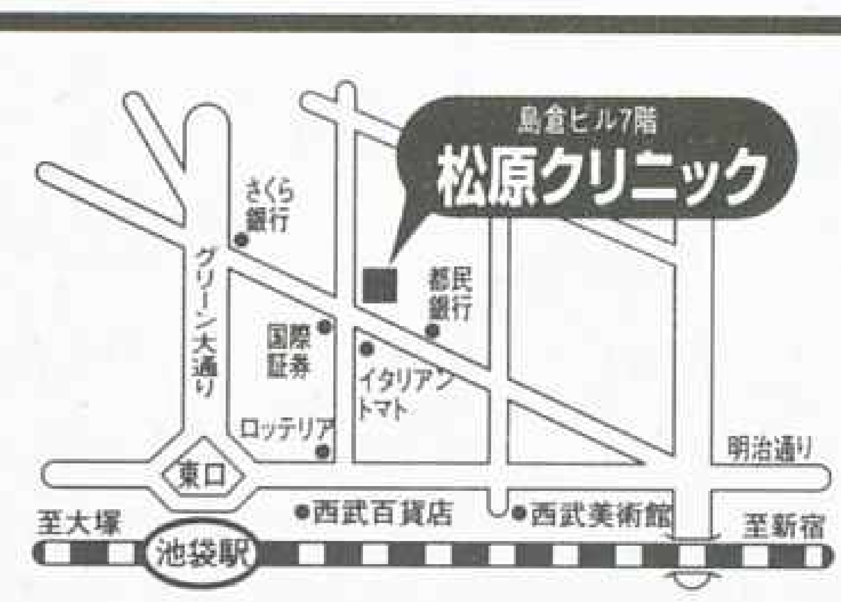
松原　正裕
〜Masahiro Matsubara〜
松原クリニック院長（東京・池袋）
米国眼科アカデミー会員
カナダ眼科アカデミー会員
ヨーロッパ眼科アカデミー会員
日本眼科学会会員
日本医師会会員

---

■内容に関するお問い合わせは

**眼科 松原クリニック**
院長　松原正裕
☎03-5391-4146㈹
東京都豊島区南池袋2-26-6　島倉ビル7階

■平日
AM10:00〜PM6:00
■日・祝日
PM1:00〜PM5:00
■予約制
■水曜日休診
■池袋駅徒歩3分



# 史上最大のページ争奪戦激化!!




## 松澤チョロが反撃! 熾烈なデッド・ヒートはまだ続く!

**【前回までのあらすじ】** そもそもの発端は不甲斐ないノブを見るに見かねたチョロが決起したことに端を発している!

**チョロ「もう読者ページはオレに任せてください!　だって、これが読者ページの流れじゃないですか!?」**

**ノブ「じゃあ、遠慮すっこたぁねえよ。力でやれや、力で!　オレと勝負しろ!」**

**チョロ「やりますよ!」**

**ノブ「オー、やれんのか本当に!?　バチン!(ビンタを食らわす)。オーケイッ!!」**

**チョロ「(前髪を切りながら) オレは読者ページに進退を懸けます」**

これが世にいう"飛龍革命"ならぬ、"卑怯革命"である。

というわけで、本誌の読者ページを担うのはどちらか?　こういうケンカに刃物はいらねえ。知恵のひとつもあればいい。というわけで、読者の皆様も、「こいつを応援したい!」と思った方にハガキを書いて送ってくれ!

(平成11年5月16日現在)

| | | |
|---|---|---|
| ノブ | 405枚 | |
| チョロ | 413枚 | |
| 抗議 | 14枚 | 「なめるのもいいかげんにしろ」等 |

【ルール】 7月発売号の集計終了時に総得点数の多い方が新担当となる!!




# ハガキ道場

## いまはオレが結核だ、なんて誰も思ってないでしょよ。

**ボク宛に読者の井畑ときゑさん（千葉県 30歳 ♀）から何かの錠剤が届いた。「坂井ノブ→結核に戻るためのダイエット日記をやってほしい」とのこと。「ありがたいなあ」、と涙がこぼれそうになるのをこらえて上を見上げた瞬間、意地汚い大巨人・ジャイ子が既に勝手に開封して自分でクスリを飲んでいるではありませんか!? その姿を見た瞬間、僕はもう過去を振り返るのはやめました！ これからは「（体重の）重さがプライド!!」ってことで、ノー問題!!**

構成／ノブちんこ




（東京都 伊藤智恵子 28歳 ♀）5点
で、中間テストの結果はどうなったの？

**学校**の友達で佐野なおき選手を思いっきしバカにするヤツがいます。「佐野は弱い」だの「格闘技から逃げた」だの、友達の中では最悪の評価です。なぜだ!? 去年、ホイラー・グレイシー闘った男がバトラーツの田中稔と闘うのが面白くないはずがない。日本のプロレスファンの皆様、今年は佐野に注目だ。オラ～!!
（大阪府 焦げる闘魂・清原弘行 ♂）5点
★よかったらしいですね、札幌の佐野選手。このままみちプロに上がらないのかなあ？ やっぱ佐野はプロレスだわ。

**ノブ**さんにとりあえず20枚ハガキを書けと指示されたので、書かせていただきます。話題はテレビ東京の『格闘コロシアム』です。4・18パンクラスの船木の試合をヤスカク氏が解説していたのですが、とにかくひどいのひとこと。あの日の船木の試合であそこまで船木を褒めちぎり、判定があったなら勝っていたであろうブラガをけなせるのは、呆れるのを通り越して笑ってしまった。あそこまでいくと「ホメ殺し」だね。もうパンクラスは「応援できないよ」と思っていたら、菊田早苗がパンクラス入団。少しショックだった（『紙プロ』読者で数少ないであろう菊田ファンとしては）。
（東京都 高島有治 29歳 ♂）4点
★「フェイントを出すのは焦っている証拠」というフレーズが個人的にはいちばんのお気に入りです。菊田は、まああれだけのこと言ったらプロレス雑誌に載ってる団体の中では「パンクラシスト」になるのも納得でしょう。新たなるパンクラシストの門出に、乾杯。

**自分**の言ったことに責任は持ちます。杉作J太郎さん――嫌いじゃないけど、愛せません。
（千葉県 神子佳世 16歳 ♂）
★凄いよ！ 杉作先生は。今号のアメプロのページを見てもらえれば分かるように、とにかくボディー・ランゲージとリアクションを取らせたら天下一品！ WWFイズムが注入されて、よりハイスパートになった杉作先生は無敵ですよ！ 佳世ちゃん！




（熊本県 塩本祐介 33歳 ♂）3点
遂に破壊王も立ち上がった！ 痩せたねえ！

**ノブ**様、「前号で「都合のいいときにデートでも」っていってましたが、オレは6月半ば以降ならいつでもいいです。ジャイ子の都合にあわせます。
（愛知県 キャプテン名倉 30歳 ♂）2点
★OK！ 日時が決まったら連絡するから。ここ、ハガキ道場ではジャイ子とあんなことしたい、こんなことしたいという希望を叶えます！ まずは相談にのりますんでハガキ道場までハガキをください。

**『紙プロ』**、ホントに月刊化しちゃうの？ 内容が薄っぺらにならないように祈ってます。
（鹿児島県 鮎川祐二 31歳 ♂）2点
★現在の"ほぼ月刊"っていう曖昧なポジションじゃ、ダメ？ 正直な感想待ってます！




（愛知県 キャプテン名倉 30歳 ♂）5点
桜庭って怖いですよね、ホント。バックのノブがいい味出してる

**前号**の座談会には原タコヤキ君がいたから面白かった。
（山形県 工藤秀行 33歳 ♂）3点
★他同様のハガキが15通来ました。旧『紙プロ』のダミー編集長だった、タコ兄さんの司会する姿から後光が差してましたよ。ヒントがたくさん詰まってました。旧『紙プロ』のキャラで、「あの人に会いたい」という希望があったら何なりとお申し付けください。精一杯がんばります。

**つま**らなかった記事：ノブさん好か～ん！（坂井ノブのことではない）。
（岡山県 和泉茂之 20歳 ♂）3点
★あなたのハガキを読むとだんだん自虐的になってくるよ。

**DSE**＝ドリームステージエンドーコーキチ。




（大阪府 英加直純 ♂）5点



（神奈川県 KTシザーズ 19歳 ♂）2点
なんだか新日のイラストばっかだね、今回は。

**エンコー＝エンドーコーキチ**
（埼玉県 アントニオ文朱 19歳 ♂）3点
★ガラクタ軍団のボスから、ガラクタ&脱力な新解釈が届きました。とてもくだらないけど笑っちゃいました。

**「正平」**&「元子」のペア・トレーナー販売を希望します！
（神奈川県 甲下雅也 29歳 ♂）1点
★講談社が選定する「日本のナイスカップル大賞」の特別賞を受賞した「正平」&「元子」のお二方。本誌選定のベストカップル賞は「ぴのこ」&「まっき」にたったいま決定！ 「勝手にやってろ、ボケチンども！」って感じですね。読者様から金取って、アツアツぶり見せてどうすんの？ なあ、どうすんの？ このままだと、ハガキ劇場はドボンやで！ さらに念のため言っておくけど、チョロはバイセクシャルだから（爽やかに）。

**NO.**16号の『ハガキ道場』に抗議させてもらいます。イラスト・ガラクタ軍団の中に「佐野夕日」というダジャレのイラストがありますが、それを書いたのは僕です。（東京都 西山昭二 19歳）ではなく、（横浜市 吉岡隆二 21歳）です。あんなくだらないダジャレはボクにしか書けません。間違いを提正してください。ノブはホントに役立たずだね。ちなみにボクはランキング9位の武富浩二さんの仲間です。ノブ、ちゃんと謝罪しろって！
（原文ママ）
（横浜市 吉岡隆二 21歳 ♂）2点
★さっき（というか16号）はゴメンネ、チュ、チュ、チュ……というわけで、以上、謝罪でした。で、「間違いを提正してください」ということなので、訂正します。さらに余計なおせっかいかもしれませんが、右の吉岡くんのハガキ中の間違いもついでに訂正しておきます。「NO. 16号」→「NO. 16」or「16号」。「提正」→「訂正」。以上の2カ所です。お金はいりません。安さがプライド！ ノー問題！

**優花**ぴょん参上!! 身内の仇討ちに参りましたぁ～っ!! 優花ぴょんキーック！ 優花ぴょんパーンチ！ 延彦（MyCat）キャノン～！ ア～、すっきりしたァ～。ノブ太君、この度はお騒がせしてゴメンナサイ。『紙プロR』これからも応援してるよ。山口さんの話はタメになる。奥が深いもの。
（神奈川県 優花 25歳 ♀）2点
★ノブぴょんキ～ック！ ノブぴょんパ～ンチ！ 以前、深夜にものすごい抗議の電話をかけてきた人（16号のハガキ道場参照）ですか？ どういたしまして。さっき（というか、この前）はゴメンネ、チュ、チュ、チュ……。




（愛知県 キャプテン名倉 30歳 ♂）5点
この絵の天山だったら、ちょっと惚れてもいいかな




（愛知県 キャプテン名倉 30歳 ♂）5点
ジャングルを守るよりも、ジャングルは作る！

**RA**DICAL観戦記の原稿を落とすのはけしからんが、落としたところを載せるというのは面白いので許す！
（愛知県 今村龍彦 31歳 ♂）3点
★さっき（というか前号）はゴメンネ、チュ、チュ、チュ……今号はこのネタばっかり。今号はゴメンネ、チュ、チュ、チュ……（以下、エンドレスで続く）。




（埼玉県 中川雅博 22歳 ♂）5点＋1点
画伯の点数も1点間違えてたみたいですね。ごめんなさい。




（愛知県 キャプテン名倉 30歳 ♂）5点
今号はキャプテンの独壇場！ みんな、イラストを送って！

# 打倒!! ハガキ劇場!!

⑥「ハガキ劇場」
単なる言語芸だけで言えば、ノブさんの方が
断然おもしろい。ツブすべし!

(千葉県　桑波田大　24歳　♂) 5点
うん、そうたね! オレはやるよ! ハカキ劇場はツフしちゃえ! カミソリ入りの手紙、不幸の手紙、なんたっていいや!




(大阪府　焦ける闘魂・清原弘行　♂) 1点
そりゃ間違いは多いけと、自分を売り込むことしか考えてないヒンホケ読者ヘーシてあなたはホントに満足てきるのか?

「ハガキ劇場」というのができたらしいですが、
「いざ坂井ノブ」って感じで駆け付けました!!
最近たくさんハガキを載せていただきましたが、親
にはまだ言っておりません。父と一緒に紙プロ読
んでるのに、一言も触れてくれません。もしかしたら
親の愛? それに気付いていないとしたら父は
1時間以上かけてどこを読んでいるのでしょうか。
ところで武田いづみさん!! 一本取られました。もう。
イッポンイッポンスッポンポンです。私の熱い想いを
サラリとかわすなんて!! フトコロ深すぎる!! でもまあ
いわゆる同郷なんて。千葉県だもん!! 落花生!!
それにしても先日のギルバート・アイブルのソバットの
ようなものはかっこよかった。「ハガキ道場」には
来たものの、金原Tシャツは欲しいです。トレード?
とんでもないっす。ノブさんがいる限り、ハガキ道場。
格闘技がある限り、花くまゆうさく先生。万歳!!




今、学校では名前の後に「ちんこ」
(「ちんぽこ」)をつけるのが流行中。
(例) 「ジャイ子ちんこ」
「ノブちんこ」「チョロちんこ」

(千葉県　神子佳世　16歳　♀) 5点
来ました、女子高生のハガキ道場生! しかも、話題は「ちんこ」!! いいねえ、いいねえ。これからハガキ道場も「ちんこ」制度を導入します。またハガキ頂戴!

## ドスコイ ハガキ道場番付表

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1位 | 中川雅博 | P | 82点 |
| 2位 | キャプテン名倉 | P | 74点 |
| 3位 | またあうヒマで | P | 71点 |
| 4位 | 塩本祐介 | P | 70点 |
| 5位 | 武田いづみ | S | 28点 |
| 6位 | ブルドッグ | S | 27点 |
| 7位 | 神子佳世 | S | 25点 |
| 8位 | 今井麻実 | S | 20点 |
| 8位 | 英和直純 | S | 20点 |
| 10位 | うしえもん | | 18点 |

Pはプロフェッショナル・ファイター(40点以上)
Sはシニア・ファイター(20点以上)の略です。
掲載されたらプレゼントあげるカモン、ハガキ!

# タレ込み情報局

町中で、試合会場で、あなたが見かけたプロレスラー情報や昔話を何でもいいのでタレ込んでください。

『PRIDE. 5』を見に川崎から車で5時間かけて名古屋まで行ったのですが、超一流ホテル「名古屋プラトンホテル」に宿泊しているカーウソン・グレイシー一派を発見しました。おい、DSE! 経費もっと削れよ。
(神奈川県　吉備津紘　♂) 3点
★毎号、いいネタを提供してくれる吉備津くん。ありがとう!

というわけで、『GET NAVI』6月号。そこには、なぜか肩書きが「実業家」になった田中正悟氏が登場! 自慢のスウォッチコレクション800本を見せびらかした。「空手で鍛えた豪腕にパテック・フィリップ。これがなかなか決まっている。」ということらしい。どーですか、日明兄さん!?




「格闘技界から身を引き、再出発を決意した矢先に、親友から送られた」時計(143万円!)を自慢!!

# 今月のガラクタ軍団




(埼玉県　アントニオ文朱　19歳　♂) 1点
ムキムキボディなのはよくわかった。でも、水野晴郎かと思ったよ

(大阪府　焦ける闘魂・清原弘行　♂) 3点
オレだよ、柴田恭平だよ、わかる?




前号でキャプテン名倉氏に「手下3号」に任命されましたが
「なってもいいけど何かするよ」

神子佳世ちゃん、「ギング・オブ・アキラ」って
どういうことだよ…オモシレーじゃねえか!!
飛び付き腕ひしぎ逆十字かけていいですか?
OKならその場で3回まわってワンって言って下さい。

(石川県　ブルドッグ　20歳　♂) 2点
相変わらずの暴走戦士ぶりを発揮しているブルドッグ。次号で新展開!?

## ★我楽多プレゼント★

姑息な手段で、ハガキ枚数を獲得したハガキ劇場に対して、こちらも対抗します。読者の堀江将司くん(栃木県　♂)がタイで偶然発見した、バッタもんの大和魂Tシャツです。よく見るとディテールが違うのだが、評判は上々。どうだい? というわけで、ハガキ道場にハガキを出してくれた人の中から1名様にこのTシャツをプレゼントしちゃう! いちばん面白いハガキをくれた人にプレゼントします。




## 感じたらハガキ出せ!! ハガキ道場に風穴をあけろ!! な募集

やばい!! 負けそうなので次号は大規模変更を検討中!!
引き続き、ハガキ道場ではご意見、ご感想、素敵なイラスト、壊れたイラスト、読者のみなさんのハガキなどを募集します。
発売間隔が1ヶ月なので、載せたいハガキは早め早めで送ってください。
宛先は〒151・0051　渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702(株)ダブルクロス
『ハガキ道場デコビタ』行で。
合言葉は「さっきはごめんね! チュ、チュ……」です。よろしくぅ〜。

# 劇場

## チョロの失恋レストラン

あるところに「ぴのこ・まっき」というカップルがおりました。ぴのこの仕事が忙しくなり逢えなくなると、まっきは別れ話を持ちかけてきました。ぴのこは受け入れました。一つの恋が終わったあと、まっきから読者ハガキが届くようになりました。




(東京都／まっき／女) 各10点・計30点★名前は書いていないが、上の3枚のハガキは、2ヶ月前、俺をふった「まっき」からのモノ。俺が言うんだから間違いない。「人をふっておきながら、どういう神経だ！」とも思ったが、面白かった＆参考になったのでノー問題！ 不快に感じる読者も多いと思うが、気にしない気にしない。ふられ気分でロックンロール！ってことでご勘弁。「プライベートで愛に飢えてるって何だそれ」って「お前のせいだよ！」と突っ込みたくもなるが、これまた面白かったのでノー問題！ これからも引き続き「ハガキ劇場」に投稿よろしく。




(愛知県／真下純子ちんこ／29歳) 5点★純子ちんこ？ 神子佳世ちんぽこちゃんのネタだね。流行先取り！

チョロさまへ　葉菜子は、どこまでもチョロさまについて行きます。ヒドイんだよ。最近愛するヤマケンの姿を見るコトができず淋しいハナちゃんは、同期のYくんからリングスのときのビデオを貸してもらい、早速見るコトに…（中略）「きゃ～あ、ヤマケ～ンかっこいい」と近所迷惑も考えずうっとり見ていた。すると電話が…「もしもしハナちゃん？ 今ねぇ、電車待ってるんだ…」とヤマケンと熊川哲也そして堤真一の次に愛するTくん。「そうなんだぁ…」と適当に返事をして5分位でTel切って巻き戻して愛するヤマケンを見た。「きゃあ～っ、ヤマケンかっこいい」（中略）「大切なものが違ってる!!」とTくんにフラれた。ヤマケンの良さもハナコの良さも分からないTくんが悪いんだぁ…。こんなにかわいい私を捨てるなんて…バカな男。チョロさんに責任とってもらうんだから!! ハナコ6月4日で24才になります。プレゼント待ってま～す。
(東京都／金崎葉菜子／女／23歳) 10点

★前号の葉菜子ちゃんのハガキをヤマケンに見せたら、「嬉しいねぇ。あい～や」って言ってました。それにしてもTクンはひどいねぇ。こんなに可愛い葉菜子ちゃんをフルなんて。責任取ってもいいんだけど、何の責任とればいいのかな。取りあえず俺についてこい！ プレゼントとして10点あげるよ。

## チョロの開眼物語!!

4・10の試合終了後にジャイ子とノブにアンケートされました。近くで見たジャイ子は、たいして大きくもないし、中途半端に太ってるノブにガッカリ。キャラ作りも大変ですね。だからオレはハガキ劇場派です。NO17では5年間口をきいてない逗子市の兄のハガキが掲載されていてビックリ！ 思いがけない再会になつかしさがこみ上げてくるはずもなく、生ツバをひっかけてやろうかと思いました。ハガキ劇場とは人生劇場だったのですね。チョロ万歳。
(東京都／笹原靖／男／20歳) 3点

★反大仁田ファンからは、「大仁田語」はウンザリと一刀両断されてしまった「ハガキ劇場」だが、今号の「ハガキ道場」の「チュ、チュ、チュ」という高田キャラも、毎日、大イビキを掻いて白目でポカ～ンと口あけて寝てるノブを見てるだけに相当見苦し！ いるのかしらないけど「ハガキ道場」ファンの皆さん、目を覚まして下さい！ ノブは寝てろ！ 原タコヤキ君って本当に面白いですかぁ？ どーですか、松澤さん？
(東京都／市橋芳伸／男／23歳) 4点

★前号で座談会の司会を務めた原タコヤキ君。「やっぱり『紙プロ』はおもろいなぁ」と自分が司会の座談会を5回も6回も読んでるみたいなん邪！「ハガキ獲得の為には読者に媚びへつらい、素晴らしいTシャツをエサに撒き、挙げ句自分の写真にまで5点を入れるという邪道魂全開の見苦しさが気に入った!!」チョロの〝いっぱいいっぱい〟な芸風がいつまで持つのか見届けてやるんじゃあ!! ちょっとしたイタズラ心で出したハガキだったのに、わざわざ誌面で謝らせちゃってごめんね、チョロくん。今号からチョロくんを応援します!!
(福岡県／アジャライオン／女) 5点

★NO17で、若造のボクに温かい指導をしてくれたY・Aがアジャライオンとなって「ハガキ劇場」に帰ってきてくれた。今回も「全くその通り！」と我ことながら感心してしまいました。応援して下さい。やって欲しい企画は「潜入！ 世界のプロレス」
(目黒区／安西直紀／男／18歳) 3点

★断言します！ 6月のシリーズに潜入してきます。九州地方の皆さん、誰か泊めて下さい。ついでにNO16の下川さん、酒おごって下さいね。いつのまにかハガキ道場の番付表から抹殺されているようなので、これからはハガキ劇場で頑張っていきたいと思うのでよろしくお願いします。
(茨城県／武富浩二／男／27歳) 3点

★ノブとは過去に色々とあった武富さんじゃないですか。ボクも武富士さんとは仲良くさせてもらってるから他人の様な気がしないね。一緒に頑張ろう。菊田早苗と抗争中のチョロのページにはあまり協力したくないのですが、金原Tが欲しいのでとりあえず。菊田と仲直りしてくれたら毎回「ハガキ劇場」にハガキを出します。
(東京都／高島有治／男／29歳) 4点

★高島さん、勘違いしてもらっちゃ困るけど、俺は菊田Tシャツを買うほどのキクターなんじゃ！ ノブは菊田選手あんまり好きじゃないみたいだけど。「ハガキ劇場」送られてきたハガキに対する大仁田風の受け答えがとんでもなく面白かった。次はアントン風にやって欲しいです。
(埼玉県／木村範行／男／23歳) 5点

★オイッ、オイッ、オイッ！ そんなこと言ってくれるのは、お前だけなんじゃぁぁぁあああ！ ありがとよ（大仁田風に）。お礼に何かおごってやるぜよ。それじゃあ、行きますかーッ！ イーチ、ニーッ、サン、待ち合わせ時間、午後5時！（カメラ目線で）。こんなんでよろしいでしょうか？ 面白かったのは「怪物通信」。カタブツ君もすっかり立派になって……「バカ日誌」作者が今あの調子なのだから皮肉なもんだ。
(栃木県／堀江将司／男／25歳) 2点

★最近調子にノッてるカタブツ君は、某雑誌の読者ページを担当することが決定（予定？）。「バカ日誌」作者は置いといて、カタブツ君と対決しようかな。つまんないのは「ハガキ道場」。原稿を落としたくせに、随分気合い入ってんじゃねぇか、このページ。
(札幌市／藤原章男／男／26歳) 5点

★俺はノブを否定する！ お前もノブを否定しろ！ ブルドック君の独り言。1枚目・川田がスゴイ体してました!! 2枚目・抱きしめたい
(石川県／ブルドッグ／男／20歳) 各3点・計6点

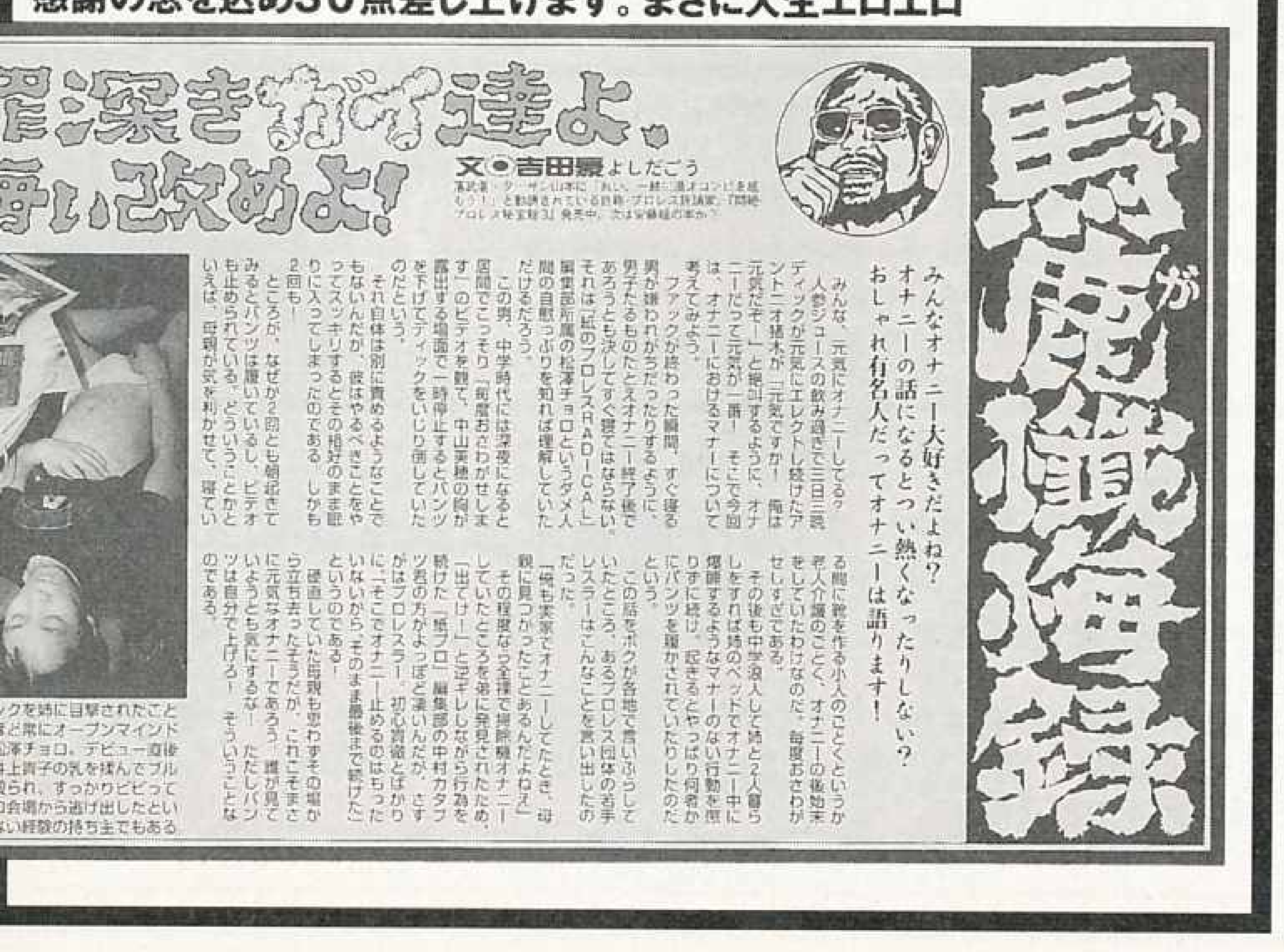
★ブルドッグ君は、NO17発売直後は「ハガキ道場」に大量に投稿してきたもんだからノブはデッ腹を叩いて大喜び。締切間近になって「ハガキ劇場」に10枚の投稿がありました。二枚舌健在だな。ブルブル。「ブルドッグ・20歳・男」には『テントでも張りやがれ』と伝えてください」
(千葉県／武田いづみ／女／18歳) 5点

★今号から連載開始「げんこつ山のパルチザン日記」の原稿に書かれていたメッセージ。前号の「武田いづみちゃんとタイマン張りたい」に対するものと思われる。どうするブルドッグ？（次号に続け）

## (坂井ノブの妄想シリーズ 第一弾) 本谷(現・美咲華菜)は絶対オレに惚れてる!!

## ありがとう、吉田豪さん (スーパーバイザー)

『アマチュアガールズ』というエロ雑誌で好評連載中・吉田豪の「『馬鹿懺悔録』罪深きガイ達よ、悔い改めよ！」。エロネタを提供して堂々エロ雑誌デビュー（ホントは２度目）。ファッション雑誌からエロ雑誌まで制覇。今日から俺もエロ有名人！ （なんだそりゃ）これもひとえに吉田豪先生のおかげ。感謝の念を込め30点差し上げます。まさに人生エロエロ






(東京都／渡辺ちなみ／21歳) 5点★ちなみに聞くけど、ちなみちゃんはジャイカー？

## ちっとちっと ジャイ子 淫タビュー (街頭)

### イケないジャイ子に19の質問！

1好きな食べ物　★お菓子ぃ。「こんがりショコラ」が大好きぃ。あと「ガルボ」。ジャイジャイ。
2嫌いな食べ物　★ピーマン。生まれつき嫌い。
3彼氏はいるの？　★グフフ、教えな～い。
4夢は？　★昼の11時に待ち合わせをして、サンリオピューロランドに行くのが夢。あと早くファ●クでもイケるようになりた～い。
5いま一番大切にしてる物は？　★ピーポくんのTシャツ。
6理想のタイプは？　★痩せててぇ、意地悪な人。金持ってればなお可。目は悪い方がいい。
7最近悔しかったことは？　★私のこといじめてた女の葬式に行ったのに泣けなかったこと。



8なんで嫌いな子の葬式に行ったの？　★嫌いな子の葬式でも、行けば悲しくなるかの実験。
9バストは何カップ？　★（即座に）Cカップ！　モノいっぱい詰めればだけどね。
10今日の下着の色は？　★黒！　何があるかわかんないからね。ムフフフ。
11初体験は？　★む～、高2の時。
12好きな体位は？　★む～、わかんな～い。
13デカイからバックとかは大変でしょ？　★でも大変って言われたことない…、あっ言っちゃったぁ（悔）。でも対面座位は嫌い（照）。
14好きな選手は？　★モッチー、ニーハオ、タノムサク。あ、みんなカタカナだぁ。
15好きな団体は？　★キャプチャー大好きぃ。試合の前の日は寝れないのぉ。
16抱かれたいプロレスラーは？　★スーパー宇宙パワーさぁん。ジャイジャイ。
17ジャイジャイ日記がつまんないって反響が多いけど？　★む～、そんなことないもん！
18タバコはなに吸ってんの？　★む～、吸ってないってことにしといて。お母さんに怒られるから。あの人機嫌が悪いと私のこと殴るの。
19ジャイ子はすぐカタくなるけどどうして　★む～、なぁ～んないよ！　機嫌悪くなんないじゃん！（怒）

# 投稿写真 デラックス

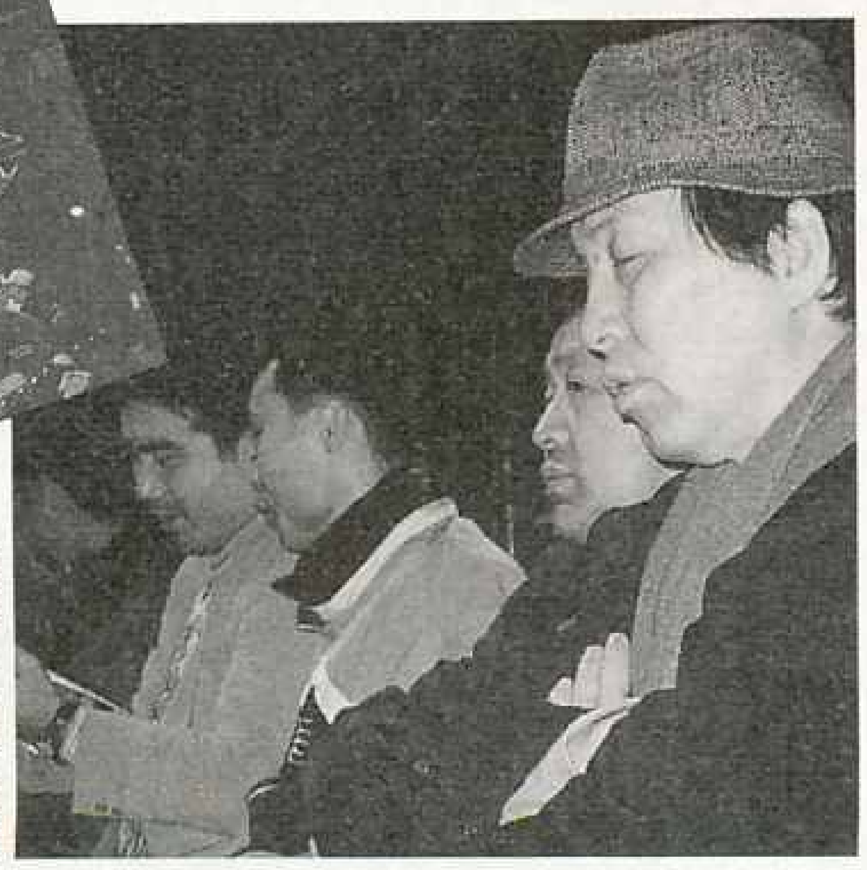
オイッ、オイッ、オイッ！ お前ら、レスラーか格闘家と撮った写真を「ハガキ劇場」まで送るん邪！ それと、それとな、写真と一緒に説明文を忘れるん邪ないぞぇ！ だが、しか〜し、作品は一切返却せん！

# ちょろのハガキ劇場



デヘヘ、（千葉県／中村カタブツ君／36歳）マイナス40点★バトラーツの会場で発見した「サウスポー」のモッチー（＆妹？）と記念撮影。モッチーお疲れ！ よく体洗ってね。





「わざわざ10時間以上もかけてアメリカまで来たのに、連日連夜試合中に"爆睡"を繰り返すターザン。しかも『レッスルマニア』の夜に行われた「語る会でも、WWFの話題にはほとんど触れず、約5時間に渡って"昭和プロレス"を語りまくる始末、一体この人は何をしにアメリカくんだりまで来てるんだ!? 山本さん、目を覚まして下さぁぁい!!!」（東京都／BOM−BA−YE／22歳）5点★さすがはターザン。実に見事な居眠りっぷりじゃぁぁああ！



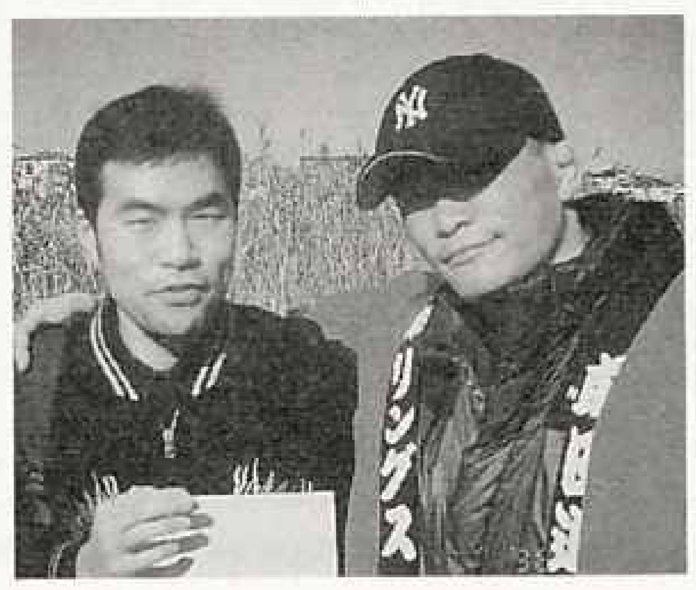

「ハガキ劇場」宛に、桜庭和志夫人の末和さんから「是非ぜひ金原魚Tシャツがどうしてもほしい。おもしろすぎるのでコレクションしたいです。お願いします」というハガキが届いたんじゃ！ ノー問題で「金原魚T」は末和さんにプレゼント決定！（中川画伯ありがとよ【大仁田風に】）。末和さんも向井亜紀さんも高見恭子さんもマルティナさんも「ハガキ劇場」は24時間年中無休で投稿を受け付けてるんじゃ〜！ おハガキまってるぜよ。




「小路選手と大向選手のTシャツはもう少しお待ちください。ほめられると調子にのります。お世辞でも。なっ！ちゃんさんもハガキ劇場にくればいいのにね。それとNO15でハガキ道場の自分のポイントは77点なのにNO17では76点になっちゃってたのでハガキ劇場に移ります。文句言うと点引かれちゃうしね。」（埼玉県／中川雅博／男／21歳）各10点・計20点★相変わらずゼニの取れるイラストを送ってきてくれる中川画伯。ホント菊田選手には期待してるんだけどね。もちろんアキラおじさんも頑張れ。今度『紙プロ』で中川画伯のイラストオークションを開催してみたいね。なあ、みんなぁ中川画伯デザインTシャツの第2弾があるらしいぞ！ それも小路晃選手と＆大向美智子選手Tシャツというから期待できそうだ。次号でガンガン紹介するんでお楽しみに。なっ！ちゃんも「ハガキ劇場」に来た方がいいよ。「ハガキ道場」は寝てる間に点引かれちゃうから。待ってるよ。邪い邪い。



去年のL−1の時に選手と間違えられた記念に撮ってもらいましたぁ。お似合いって感じぃ？（東京都／ジャイ子／22歳）0点★殺す！



（熊本県／塩本祐介）5点★塩本さん、「ハガキ劇場」改め「チョロの開眼物語!!」に投稿ありがとうございます。さっそく「チョロの〜」使わせてもらいました。



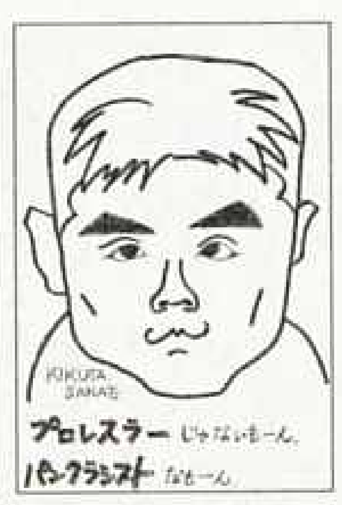



（東京都／市橋芳伸／23歳）2枚で5点★昨年12月、リングス餅つき大会の時に撮ったヤマケンとのツーショット。更に『紙プロ』スーパースター列伝にも是非登場して頂きたい佐藤昭夫（シンジャ）さん。



（大阪府／英加直純／男）8点★「たけしの誰でもピカソ」でグランプリを受賞した事もある英加さん。さすがの稲妻！




「キム・ドクは第2の谷津発見という感じで最高でした。オレも10点希望！」（愛知県／タコ／男／31歳）15点★キム・ドク（タイガー戸口）は予想通り大反響でした。オイッ、オイッ、オイッ、10点希望だと？ ムチャ言うなよ！……が、しか〜し、ハガキ劇場は読者の希望を叶えためにあるん邪！ 10点なんてセコイこと言わず合わせて15点くれてやる。




（福岡県／アジャライオン）3点★ボクの初めてのインタビューはダイアナさんでした。とっても綺麗な方でした。




## ちょろプレ




福井県の藤野敦さんのご厚意により、今回の「ちょろプレ」は懐かしチケットプレゼント！「世紀末だから、大事にとっておいた入場券をあげます」とのことです。上から「海外U.W.F.格闘熱帯ロード」、現在「海外UWF」関連グッズは入手困難。下は『新日本プロレス闘魂シリーズ』。カメラ目線のE・ギルバートに女の子も胸キュン必至の逸品。この二枚のチケットを今回はセットで一名の方にプレゼント。この機会に是非！ 応募は「ハガキ劇場」まで。

## あの人は今… 第1回 元LLPW 多和田初美さん…

1回目の今回は、早すぎた刺青天使・多和田初美さん 多和田さんは現在キック界で活躍しているそうです 今や、渡部謙吾や木村健悟（シール）、カイル・ストューションなど刺青モンスターは大量に生産されているが、当時はまたまた貴重な存在たった ホスターを見る限り、刺青は順調に増えているようた その他は各自調査（情報提供・市橋芳伸さん 10点）

## ハガキ劇場オフィシャルランキング

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 中川雅博 | 55点 |
| 2位 | ブルドッグ | 49点 |
| 3位 | 吉田豪 | 45点 |
| 4位 | 真下純子 | 30点 |
| 4位 | まっき | 30点 |
| 6位 | タコ | 23点 |
| 7位 | アジャライオン | 21点 |
| 8位 | 市橋芳伸 | 19点 |
| 10位 | 武田いづみ | 15点 |
| 10位 | 金崎葉菜子 | 15点 |

## 高校入学を期に、言葉遣いに注意し、なるべく「じゃ」は使わないことにしたんじゃ！ なハガキ募集

呼ばれて飛び出て邪邪邪邪〜んってことで「ハガキ劇場」では、本誌へのご意見、ご感想、イラスト、街で見かけたプロレスラー＆格闘家、投稿写真、あの人は今…、失恋レストランなどなど幅広くハガキを募集してるん邪い邪い！

宛先は…… 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「ハガキ劇場」係まで。

合言葉は、「ぴのこクラブ」です！

## シロウト勝ち抜き筆自慢！

# PRIDE.0（ゼロ）

**花くま先生も熱視線！「PRIDE.0」の“超新星”村田卓実くんは残念ながら敗れてしまいました。無念！ 村田くん、「もうちょっと強い相手（by桜庭）」を用意するので、また投稿してきて下さい。とかなんとか言ってる間に、“ミセスPRIDE”真下純子さんが4戦勝ち抜きを決め、振り向けば『紙プロ』殿堂入りまであと一歩となっていました。さて、真下さんは、このまますんなり殿堂入りとなるのでしょうか？ 誰か根性あるなら噛みついてみませんか？ お願いしました。**

### 前々号の最終結果！

- ライセンスナンバー11 **真下純子**さん **『シンデレラと呼ばないでチョンマゲ!!』128票**
- ライセンスナンバー15 **村田卓実**さん **『プロレスと生きる』92票**
- ライセンスナンバー14 **田上大統領を都知事に!**さん **『何でもありだが金はなし』81票**

| 前号の結果発表！(5/15現在) | 感想 |
|---|---|
| ライセンスナンバー11 **真下純子**さん **『プロレステラピー』** **85票** | ●「やっぱり根っからのプロレスファンでしょ！しかも家庭持ちながら！」（山梨県／笠井義明／31歳）●「アロマテラピーとは、うまく言ったもんです。でも埼玉プロは猿くさそう」（埼玉県／沼澤直樹／21歳）●「うちの嫁さんと交換してほしいですわ」（香川県／貞中要八／30歳）●「子供を健介ｏｒ天山カットにしないだろう人（親）だから。でもキャバクラさんも、名前と内容の関係性がキャバクラに来て「どうしてこんな所で働いてんの？」と説教するオヤジみたいでいいです」（東京都／知念恵美／26歳）●「プロレスを愛してる気持ちが良く伝わった」（神奈川県／新垣壽敏／23歳）●「『トタタ、トタタ』『塩の味を称した言葉』など、ボキャブラリーがステキ」（東京都／坂下梨奈／19歳）●「やさしい記事だ。この人の観戦記なら週Ｐの感情移入記事より良いのでは？」（愛媛県／岡田敬一郎／30歳）●「花を愛するのに植物学は不要である」（静岡県／横田賢／31歳）●「僕もマサになりたい。マシタ、サイコー！ ♪サイトーテラピー」（兵庫県／足利貴史／27歳） |
| ライセンスナンバー15 **村田卓実**さん **『おがわえらい』** **54票** | ●「村田卓実くんです」（千葉県／武田いづみ／18歳）●「タイトルが最高です。『えらいなー、この大きい人間は』は名言だ!!」（千葉県／神子佳世／16歳）●「この人、柔道家だそうで、とぼけた顔して桜庭みたいに、ものすごく強かったりするのかなあ？」（茨城県／武富浩二／27歳）●「『時代の先っちょ』をいく文体がたまらない。これぞ21世紀の日本語だ！」（川崎市／名執栄成／25歳）●「なんかよく分からない文だったので、もう一回違うものを読んでみたい。しかも菊田は……（以下略）」（北海道／倉岡宣仁／19歳）●「よく考えたら私より娘（８才）の方に年齢が近いんですね。応援せずにいられようか。「その他は各自調査」最高!!」（愛知県／真下純子／29歳）●「村田君は本物だ！」（東京都／吉田豪／28歳）●「村田くんは将来もの凄くビッグな人間になりそうな気がする」（大阪府／財前あずさ／25歳）●「ノブもこの姿勢を見習え」（埼玉県／小鮒芳行／25歳）※前号で村田くんの年齢を間違えて掲載してしまいました。すいません。村田くんは18歳です。その他は各自調査。 |
| ライセンスナンバー16 **キャバクラ冥府魔道**さん **『武道館観客概論』** **58票** | ●「顔が好き　自由な鳥って感じ」（埼玉県／中川雅博／21歳）●「みんなが心の底で思っていることをズバズバ言って気持ちいい。でもペンネームと顔写真のセンスが悪い」（長崎県／西岡克章／30歳）●「ボクも「百田ブーム」の頃の後楽園好きでした」（栃木県／堀江将司／25歳）●「笑っていいとも！では笑えません」（大阪府／村田忠陽／19歳）●「『プロレス愛が足らないのでしょうか？』とあるが全くそんなことはない。この人の文章はプロレス愛でいっぱいです」（岩手県／吉清水一也／26歳）●「おれの言いたいことを代弁してくれている」（高知市／桃井亮／20歳）●「こういうファンもアリかな、と、感じた作品。全日本への愛をカンジます」（兵庫県／石井佳恵子／18歳）●「先日の全日ドーム大会のファンも相当怖かったです」（福島県／結城彩美／22歳）●「三沢新体制となり、果たして『紙プロ』の全日取材は解禁となるか。時が来た!?」（神奈川県／佐山賢市／28歳）●でも走り過ぎ！！（大阪府／岡野慎也／28歳） |

**4戦勝ち抜き・5戦勝ち抜きまでマジック1**

ライセンスナンバー11

## 『難しい時期』

**真下純子（29歳）**




さて、このあいだの作文で、わたしは「プロレスに癒される」と書きました。今でもその思いに変わりはありませんが、ここ最近、今年に入ってからでしょうか、いえもっと前からでしょうか、見ていても今のプロレスが面白くないような、なんか以前のように楽しめなくなってしまっています。ほんの少し前までは、試合を見に行ってもTVを見てもビデオを見ても本を読んでも楽しくて楽しくて仕方ない、といった感じでした。

プロレスについて、わたしなんぞはまだまだ知らないことがいっぱいあります。まだまだ見たい試合も読みたい本もいっぱいあります。

知りたいのに見たいのに楽しめない、ひょっとしたらこれは学習のプラトー期というやつでしょうか。プロレスを好きなことは変わりはありませんが、ムキになれません。エンドルフィンを垂れ流すことができません。癒されてはいるものの、なんかこう残ってるようなすっきりしないような。なんぎです。

好きなレスラーはたくさんいますが、でも、聞かれて真っ先に好き、と言えるレスラーが実は、いません。もうちょっと前でしたら、いました。

そのレスラーが活躍していたころ、そのひとの強さと絶対性に猛烈にひかれていました。そして、同時にそのひとの持つ不思議なもろさ、頼りなさも猛烈にしびれました。あまりに好きだったので、その人の引退試合は見ていてもどこか架空のことのような、現実味のないような感じがしたくらいです。

今のプロレスを楽しめない理由のひとつは、そのひとがいない、という喪失感によるものかもしれません。

そのひとはたくさんの反乱を起こしてきました。

見ているわたしたちにも荒々しい闇を突きつけてきました。

今のプロレス界は闇は闇でも、ちょっと目をこらせば見通せる闇のように思えます。すいません、生意気なことを言って。でもそう思っちゃうもんですから。

今でも抜群に面白い仕掛けをするあのひとに、物凄く期待をしてしまうのはわたしだけではないでしょう。

きっといつかまた何かを突きつけてくれる、くれるといいな、と思います。それは妄想かもしれないけど、なんだかきっといつか必ず起こる現実のことのように思えてなりません。

さて、わたしには小学生低学年の娘がおります。

何かと難しい時期のようです。赤ん坊の頃から早く大きくなれ大きくなれと思いつつ育てて参りましたが、ここまで大きくなりますと本人にも色々考えることもあるのでしょう、反乱めいたことを起こしたりします。いちいちムキになって怒ったりしたりもしますが、反乱というのは気の済むまで起こさないと次の段階に行けないのかもしれません。

昔のことは忘れましたがきっと私もそうやって子供時代を過ごしてきたのだと思います。

今わたしがプロレスを楽しく見られない、と思うのもわたしなりの反乱なのでしょうか？ そうかもしれないし、全然違うかもしれないですが、とりあえずセンチメンタルな思い入れはしまっておいて今のプロレスを見ます。

楽しめない、という感情なんか、すっかり忘れる時もきっと来ると信じています。迷わず見ます、見れば判ります（多分）。

ちなみに、わたしがプロレスを好きだということを、娘は嫌がっているフシがあるようです。いいんですけどね。元気に育ってくれれば。「元気が一番」ですから。

娘は母のわたしをどう思ってるのかなぁ？

こんな思いかなぁ？

行きますかーーーッ。

おわり。

ライセンスナンバー17

## 『語ろう！ 辻義就』 木村繁（25歳）

先日、「筋肉番付・芸能人サバイバル」を見た。いやぁ相変わらず素晴らしい。誰のことかって？ 勿論ケイン・コスギなんかではなく古舘伊知郎に決まってますよ。でしょ？

古舘アナがプロレス実況を離れて十年余…。番組中、あの冴え渡る古舘節を聞くにつけ、「古舘、アゲイン（©梅図）！」と俺の中での古舘幻想は勝手に膨らむ一方なのだが、満を持した筈の昨年4・4、結果は意外にも不発に終わった。

「本来の古舘はこんなもんじゃない」誰もが思ったろう。腰掛け的にやったのが原因ならば、いっそ本格的に実況に戻って「感動させてチョンマゲ！」とヤスカク&シッシーならずとも願ってしまうわけなのである。

国民的タレントの彼にそんなわがままをついつい言ってしまう俺。まぁ非常に無理もない。逆に言えば古舘待望論の裏には、その後のテレ朝実況陣の駄目仕事っぷりが浮き彫りとなってくるのだから。

馬場・長谷川の逝去、前田・鶴田・マサの引退、そして破壊王のKOと、とかく暗くなりがちな今年のマット界に於いて唯一「こいつは春から縁起がいいや！」と思わせたのが、彼の降板。

彼とはそう、辻義就その人である。

彼がどれだけプロレスを理解してるのかは定かではない。例え理解していたにしろ、彼の実況を通しての狼藉はもはや放送事故級。欽ちゃんがシネマをジャックしちゃうのとは訳が違う電話ジャックぶり（スコ）。テレ朝の呑気なんだか寛大なんだか判らない報道姿勢が窺える。

そもそも古舘時代から本部席リポート役を任せられていた彼。古舘の厳しい目が光っている中でも、チゲ鍋カミングアウト前の長州のことを「パワー源はニンニク」と、命知らずなリポートを入れる等、度胸の良さだけは人一倍だったようだが、こんなのはまだ御挨拶。彼にとっちゃあ数年後の大暴走に向けてのほんのマクラにしか過ぎなかったのである。

遂にメインの座を掴み取った彼は、ケンスキーよりも遥か以前から新日版暴走戦士として狂い咲き続けることに驀進する。



思えば、かつてトニー・ホームに惨敗し傷心に暮れる試合後の破壊王に向かって「橋本」呼ばわりし、TVを観ていた特にプロレスに興味のない俺の親父を憤慨させ、或いは若き日のケンスキーが栗栖に張り手を見舞えば、「張れ張れ！ もっと張れ！ 闘いのハレルヤ！」と、もはや駄洒落なのか何なのか訳のわからないことを言い出し、これまたプロレスに興味のない俺の兄貴を苦笑させたりもしていた。とてもじゃないが一見客を掴む役割のプロレス中継のアナのやる仕業とは思えん。誰か止めてくれ！

しかし、止まらない。止められない。彼はそんな程度じゃズバリ言って止まんねぇんです！

新日に殴り込んだ彰俊に対し「プロレスナメくさり男！」

永田に片目を潰された安生に対し「醜い顔が更に醜くなっております！」

破壊王をKOしたオーちゃんには「ん～憎たらしい小憎たらしい小川の表情！」

お前が言うな。

人権に関わることまでズバズバぶった斬る彼。しまいにはプロレス中継内において己の拙い落語まで披露する始末。これには日明ならずとも「お前、誰にメシ喰わしてもろてんの？ なぁ。ブチ殺すぞコラァ！」なのである。

ズバリ言って俺が聞きたいフレーズは「暗闇脳天」であり「殺戮の微熱青年」であり「掌エイリアン」なのであって、決して「ときめきのバージンレッド」とか「ハチマキ元気印」とか「人生バックドロップ」じゃねぇんです！

ぶっちゃけた話、「おぉーっと！」が聞きたいんであって「ヒャッホー！」じゃねぇんですよ君！

そんな彼も1・4が終わり去って行った。いろいろあったが消えてしまえば文句無し。ノー問題。これでやっと平和が訪れる…。へ・イ・ワ・ダーッ！ そして感動させてよ真鍋！ と思っていたらあっけなく4・10で復活することに。フリー宣言は何処へ…。

三ヶ月早いハルマゲドンの到来。二十世紀は未だ終わらない。だがくよくよしたって始まらない。今は黙って春を待とうじゃねぇですか！

行きますかーっ！ やっぱり？

イーチ、ニー、サンッ

「やっぱりあの人とは合わない」

と、蝶野が言った。（佐山調）

リベ～ンジ

ライセンスナンバー14

## 『ノールール全面支持』 田上選手会長が三本じめ（5歳）




最近ノールールの闘いに挑戦し始めたパンクラス。試合だけではなく、試合後のマイク、リング外での行動もノールール！ というか何だか脱線しており、引き分けばかりが目立つ試合に比べて実に面白いことになっている。まずは先日の後楽園ホールでの船木のマイク。

「天国の長谷川ー、俺は最後までギブアップしなかったぞー」

お仏壇の長谷川、いや失礼、天国の長谷川選手もさぞ呆れたに違いない。団体のエースともあろう者が、いくら実力派とはいえ無名の外国人選手に、顔面ボコボコにされた挙げ句にマイクを持って「ギブアップしなかったぞー」と大威張りとは。まさしくノールールである。試合後の記者会見も最高！ 膠着状態が続くつまらないノールールの試合は、パンクラスルールの面白さを、観客に理解させる為にやっている。とまで船木は言い放っている。つまらない試合を見せられるお客さんはたまったもんじゃない。客を馬鹿にするにも程がある！ と怒ってみてもノールールなので仕方がない。恐るべしノールール。

引き分けばかりが続き決着がつかない（つけない）試合も、「ギブアップ取るまでチンタラ試合出来るか！」ということなのだ。今更ながらの番組タイトルの具現化。やはり船木には、猪木、テレ朝の血が流れているのか…。と考えずにはいられない。近い将来、解説者席に座る山田邦子の姿が目に浮かぶ。

さて、船木だけではなく鈴木からも眼が離せないのがパンクラス。実にカッコイイ写真集が発売されました。なんたってオールヌードの写真入り！ ノールールの面目躍如である。「闘わずして勝つ」という言葉を吐いた、鈴木らしい素晴らしい勝ちっぷりだ。これが噂の「風スペシャル」の、4コマ漫画の2コマ目とも解釈できなくもない。なんたって「この技を受ければ相手は失神確実！」とまで自信満々に鈴木が語る必殺技、そんじょそこらの関節技である筈がない！「風スペシャル」。もっとこの技に、皆注目すべきである。ぜひ『ゴング』には連続写真で分析してほしい。ヤスカクと『格通』は、「風スペシャル～世紀末に吹く男風！」なんて大特集を組みまくり、不必要なまでに盛り上げまくれ！

ということで、俺はパンクラスのノールール進出を全面的に支持する！ どう読んでも「贔屓の引き倒し」のヤスカクの原稿も、見事にノールールなのでOK！ リングス徹底無視、パンクラスとにかく絶賛中の『格通』も、腹が立つけど仕方がない。ノールールなんだから。

頑張れパンクラス！ 喋り倒せ船木！ 風スペシャルだ鈴木！ 書き散らせヤスカク&『格通』。この「ノールールトライアングル」が元気なかぎり、パンクラスは必ず面白くなる。僕も頑張る。船木も鈴木も、ヤスカクも『格通』も頑張れ（Show氏風）。頼むぜ、パンクラスさんよー（大仁田調）。わかった、やるって！（越中節）

（完）

# 男でイキたい 男で死にたい 男になりそう む～。(byジャイ子)

今回のプライド・ゼロはどうですかーッ！ というわけで今号参戦の三選手の中から一番良かったと思う作品と簡単な理由を書いて投票して下さい（応募方法はP144参照）。一番得票数を集めた選手は強制的に次号も参戦してもらいます。『PRIDE.0』では読者の皆様のメッタやたらと熱い投稿をお待ちしています。内容は、マット界に関することであれば何でもありです！ なお掲載者全員にもれなくアッと驚くプロレスビデオをお送りいたします。

参戦希望選手は、400字詰原稿用紙に一言～5枚程度、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（イラスト、影絵、福笑いでも可）を同封の上、

**〒151ー0051**
**東京都渋谷区千駄ヶ谷3ー11ー3ー702**
**（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部**
**「進化するおじさん」係**まで。

ただし、ページの都合上、文章を一部変更、割愛することもありますので各自注意！

●締切は6／15（フランク・シャムロックの結婚式当日）までです。（チョロちんぽこ）

Home Page:http//www.rings.co.jp　リングスキャラクターグッズ通信販売●お問い合わせ…☎03-3461-0257

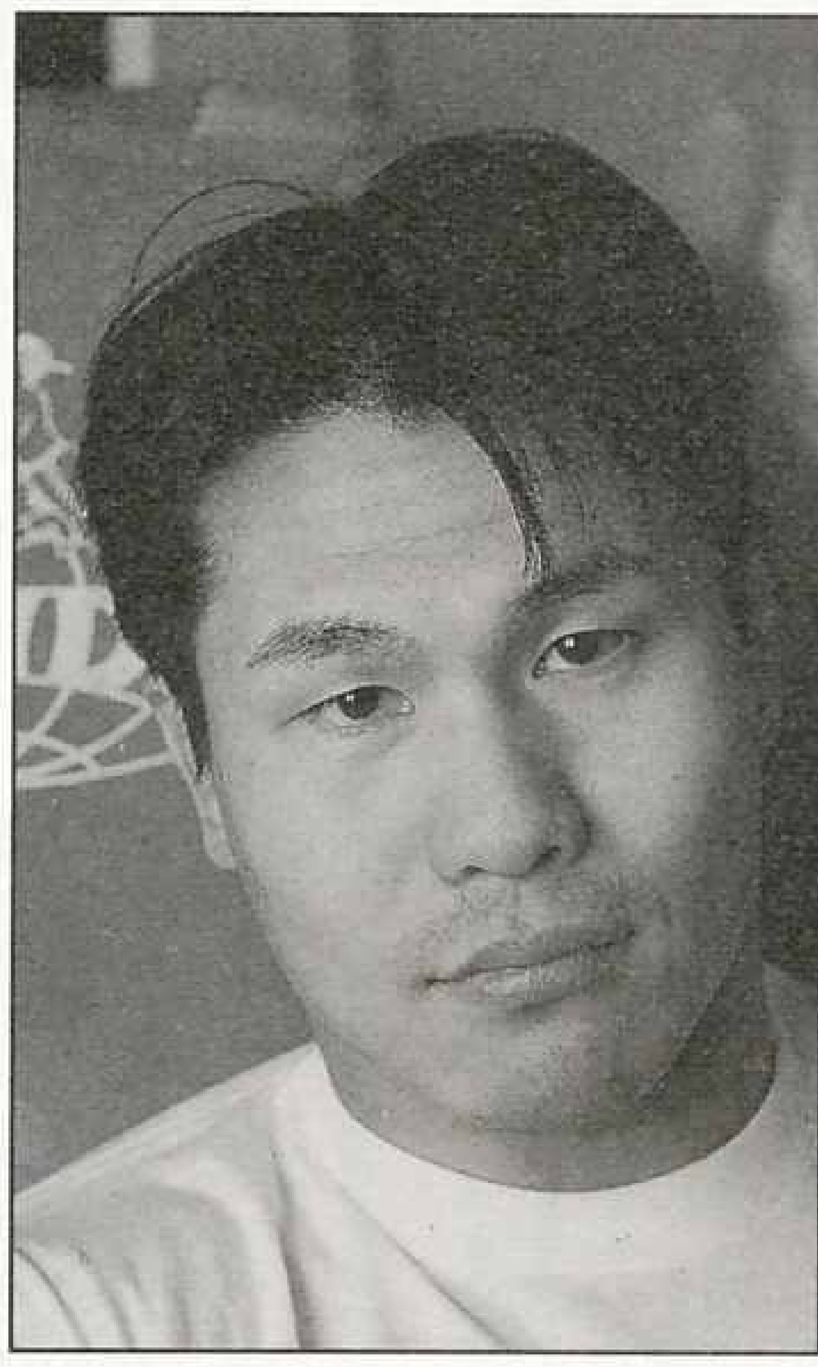
# 情報 RISE……4th

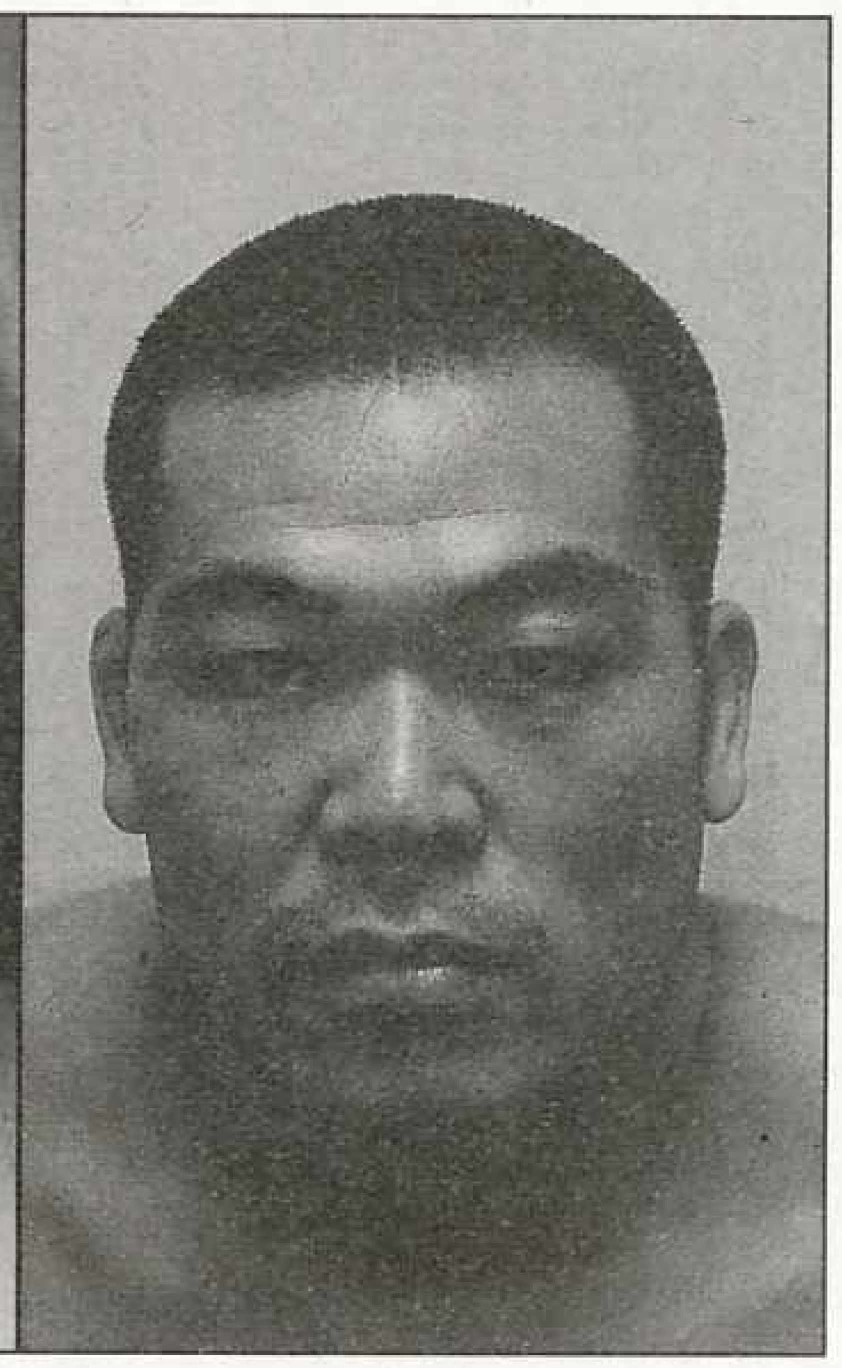
## 6.24(THU)後楽園ホール

チケット絶賛発売中!
OPEN 17:30
START18:30

# 新たなるスタートへ

## 5月30日(日)よりチケット発売









©森廣博

### 参加予定選手

田村潔司　髙阪剛
山本宜久　成瀬昌由
金原弘光　坂田亘
滑川康仁　上山龍紀
他リングスネットワーク選手等

**入場料金**
リングサイド席…¥12,000
S　席…¥ 8,000
A　席…¥ 5,000

●お問い合わせ オデッセー……☎03-3796-9999


**発売場所**
チケットぴあ☎03-5237-9999／チケットセゾン☎03-3250-9999
CNプレイガイド☎03-5802-9999
ローソンチケット☎03-3569-9900（Lコード37504）
オデッセー☎03-3796-9999／後楽園ホール☎03-5800-9999
レッスル渋谷店☎03-3464-0078／レッスル池袋店☎03-3989-0056
書泉ブックマート☎03-3294-0011／大山アメリカン☎03-3962-6443
ビデオショップ・チャンピオン☎03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店☎03-3265-4646

……お詫び……

6月19日（土）、愛知県体育館にて予定しておりましたリングス「RISE 4th」大会は
諸般の事情により日時・会場を変更する事になりました。
変更会場は6月24日（木）東京・後楽園ホールとなりました。
名古屋大会のチケットをお買い求めのお客さまに対しまして御迷惑をおかけすること、お詫び申し上げます。
なお名古屋大会チケットの払戻等に関しましてのお問い合わせは
●リングス名古屋大会事務局…052-290-9999　●株式会社リングス…03-3461-0257
までお願いします。

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
WOWOW BS-5ch
FIGHTING NETWORK RINGS



本誌初登場の嵐

# GAIJINさん IRASSHA〜I!!

最近、読者から「メジャーがダメなら外人を出せ！」「UFOもいいけど、ゴルドーはまだか！」「リングス外人勢のことをもっと教えて」「未知の強豪を探してこい！」「ジン・キニスキーはメチャ格好良かった」「セイブルを表紙に！」という声が数多く寄せられている。『紙プロ』はいつだって読者の味方だぜ!! ということで、やるときゃやります！ 外人！ 外人！ 外人三昧！ 皆さん、ご一緒に「ガイジンさん、いらっしゃい！」

ゲーリー・グッドリッジ
Gary Goodridge

**UFCからPRIDE、K-1まで、立ちはだかるヤツはブッ飛ばす！**

ゲーリー・グッドリッジはP130から

フランク・シャムロック
Frank Shamrock

**パンクラシストからノールールの申し子へ**

フランク・シャムロックはP122から

ヒクソン・グレイシー
Rickson Gracie

**「生きる400戦無敗」に遂に『紙プロ』がアクセス！**

ヒクソン・グレイシーはP136から

ギルバート・アイブル
Gilbert Yvel

**『怪物通信〜K通〜』No.3高阪剛を破った男**

ギルバート・アイブルはP134から

紙のプロレス RADICAL PRESENTS

モデル／フランク・シャムロックさんのフィアンセ
アンジェリーナ・ブラウンさん

GAIJINさん RASSHA~I!!







# 「ルールなんてない方がいいよ」

## フランク・シャムロック
## Frank Shamrock INTERVIEW

パンクラスマット卒業後、リングスでの高阪戦を経て、闘いの場をノールールの世界へと移行したフランク・シャムロック。VTJでエンセンを倒し、UFCで初代ミドル級王座を獲得するなど、その非凡な才能を十分に発揮し、その後も連戦連勝を続けている。

さらにフランクは、俳優としてハリウッド進出を狙っていることも発覚。プライベートではブロンドの美女との結婚も決まっており、とにかく何をやらせても順風満帆な男なのである。「強く」て、「凄く」て、「面白い」を地でいき、その上、「女にモテる」ときている。男として完璧だ！　まさに『男の憧れフランク・シャムロック』と言えるだろう。

世界中の格闘技ファンも注目の田村潔司戦を2日後に控えたフランクに話を聞いた。

聞き手／チョロ
interview Choro
撮影／モーリー
photographs by Morry
協力／リングス
special thanks RINGS

# ボクはシリアスな演技もできるアクターになりたいと思っているんだ

――フランクさん、『東スポ』に「俳優転向か?」っていう記事が出てましたけど、本当なんですか?

**フランク**　イエス（笑）。

――イエスなんですか！　でも現役を引退するってワケじゃないですよね?

**フランク**　もちろん。引退するにはまだ若すぎるしね（笑）。ファイターもアクターも両立することになると思うよ。

――一時期の（ハルク・）ホーガンみたいな感じなんですかね。

**フランク**　そうだね（笑）。でもボクはシリアスな演技もできるアクターになりたいと思ってるんだ。今はそのために勉強してる最中（笑）。最初のうちはアクションスターとして頑張るよ(微笑)。

――フランクさんは、ジャッキー・チェンみたいな俳優になりたいということですよね?

**フランク**　イエス（照）。ジャッキーみたいになりたいね。ジャッキーはちっちゃな頃から好きだったからね。

――以前上がっていたパンクラスには、船木（誠勝）さん、山田（学）さん、（ジェイソン・）デルーシアさんとか、ブルース・リー派が多かったですけど、フランクさんはジャッキー派だったと?

**フランク**　そうだね（笑）。ブルース・リーは、ボクにとっては時代遅れというか……、まあ世代の違いかな。ボクの世代はジャッキー派が多かったよ。

――でも俳優として売れっ子になっちゃったら、自ずと試合数も練習量も減ってくるんじゃないですか?

**フランク**　大丈夫。アクターは待ち時間が凄く多いからね。待ち時間にトレーニングをするから問題ないよ（笑）。

――ノー問題！（笑）。フランクさんは以前から「タムラと試合をしてみたい」って言ってましたけど、どういったところに魅力を感じていたわけですか?

**フランク**　ボクとタムラは身長も同じ、ウェイトもほとんど同じ、それにタムラは凄く才能のある選手だからね。しかもタムラの動きはベリー・クイックだから（笑）。タムラとやればスゴクいい試合になるような気がしてたんだ。

――結局、今回の田村戦のルールはRINGSルールということなんですが、フランクさんは、RINGSルールでもバーリ・トゥードでも構わないって感じなんですか?

**フランク**　そうだね。バーリ・トゥードだったらボクは誰とでも試合ができるんだけど、タムラの場合は、バーリ・トゥードはやりたくないみたいだから。それだったら、相手の希望するスタイルでやるしかないからね（笑）。それがボクにとって大きなチャレンジだと思ってるから。タムラがリングススタイルでやりたいと言うんだったら、ボクはそのスタイルに合わせるよ。

――フランクさんは、なぜ田村さんがリングスタイルに固執しているのかは理解できますか?

**フランク**　それはよくわかるよ（微笑）。ボクもパンクラスでやっていた時は、バーリ・トゥードでファイトしたいとはそんなに思わなかったからね。

――それはどうしてですか?

**フランク**　その頃はパンクラスとかでのファイトスタイルがカッコイイと思ってたし、どちらかと言えばボクはスポーツマンっていうイメージがあったと思うんだけど、今となってみれば、ボクもそうだしファンの人も、スポーツマンと言うよりはファイターっていうイメージの方が強いんじゃないかな。

――スポーツマンと言われるよりファイターと言われる方がシックリくると?

**フランク**　そうだね。でもそれはあまり気にはしてないけどね。多分、タムラもそういう感じなんだと思うよ。タムラはバーリ・トゥードに対して少しナーバスになってるんじゃないかな。

――それも少しはあるのかもしれませんけど、田村さんはやればできるんだけど、あえてやらないというところもあると思うんですよ。

**フランク**　うん。それもわかるよ（笑）タムラならバーリ・トゥードでも充分対応できると思うしね。

――現在のパンクラスについてはどのように思ってるんですか?

**フランク**　最近、ノールールスタイルを始めたみたいだね。まあパンクラス




これが日本全国のフランクファンを落胆させた(?)、『東京スポーツ』4／21号。「シャムロック弟が俳優に転向」という見出しとともに、婚約者のアンジェリーナさんとイチャつく姿がダイナミックに掲載された。

Frank Shamrock INTERVIEW

GAIJINさん IRASSHA~I!!

# ボクはエンターティメントのプロレスには行かないよ

に限らず新しいことにチャレンジすることはいいことだし、それでドンドン団体として進化していけばいいと思うよ。パンクラスでもチャンスがあれば試合をしてみたいね。

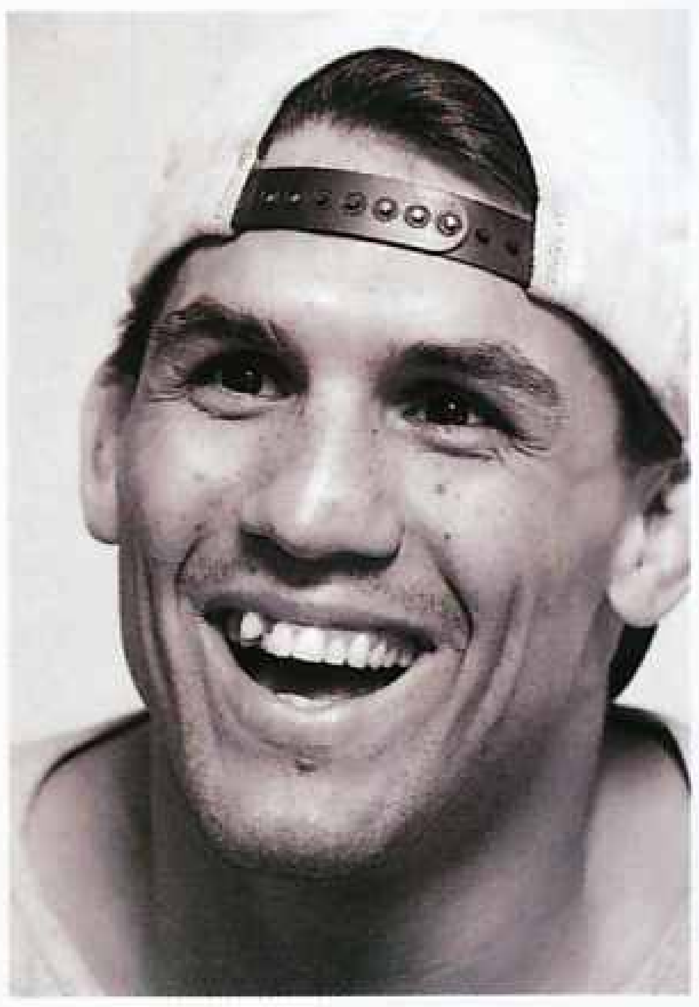
――その場合、ルールはパンクラチオンルールでもパンクラスルールでも構わないんですか？

**フランク**　できればノールールがいいけど、パンクラスルールでも構わないよ。でも、これは多分タムラも同じだと思うんだけど、フナキ（船木誠勝）達はサブミッションを中心としてやってきたファイターだよね。そういうファイターがバーリ・トゥード用の練習を集中してやったからといって、すぐに結果を出せるかと言ったら、それは難しいと思うからね。今までのファイトスタイルからバーリ・トゥードスタイルに変えるっていうこと自体が、たやすくないと思うし、やっぱり時間は掛かると思うよ。

――その場合、実戦経験が重要になってくるんですか？

**フランク**　サブミッションスタイルっていうのは、その範囲の中でファイトしてるわけだから。バーリ・トゥードっていうのは範囲を超えた怖さがあるし、対戦相手も自分も必要以上にエキサイトするものだし（笑）、その上危険が伴ってくるものだからね。その危険の中で自分の体調面も含めてリスクを負ってファイトするっていうことは、難しいことだからね。まあフナキに関して言えば、彼はノールールでも力を発揮できるファイターだと思うけどね。

――お兄さんのケン（ウェイン）・シャムロックや、バス・ルッテン、それ



にガイ・メッツアーもそうですけど、チャンピオンクラスになると、パンクラスという「サブミッションスタイル」を離れてUFCとかでファイトするっていうパターンが多いんですけど、それはやっぱりスタイル的に物足りない所が出てくるからなんですかね？

**フランク**　それはパンクラスに限らず、どこかの団体に所属すれば、当然一年に8回、9回と試合があるわけだよね。まあ、団体に所属するっていうのはそういうことだと思うんだけど、そうすると、例えばケガをしてもダマしダマしファイトしなければならないからね。

――やっぱり選手としては、ベストコンディションで、上がりたいリングで、闘いたい相手と試合をしたいっていうのが当然あるでしょうからね。

**フランク**　そうだね。団体に所属すると、ファイトしたくない時でもやらなきゃいけないことがあるから。バーリ・トゥードのファイトは、年に2回か3回だからね。バーリ・トゥードも非常にリスクは大きいし危険ではあるんだけど、それ以上の魅力があるんだ。それは人それぞれだと思うんだけど、ボクはノールールに魅力を感じているっていうことだよ。

――最近は、UFCで活躍したドン・フライとか、ケンとかが、新日本プロレスやWWFで活躍してますけど、フランクさんの選択肢にそういった道はあるんでしょうか？

**フランク**　アッハッハッハッ！ ボクはそっちの道にはいかないよ。WWFのようなエンターテイメントのプロレスに行くってことは、言ってみれば、サブミッションスタイルからバーリ・トゥードのファイターに変わってきたのが、またサブミッションスタイルに戻るような感覚だと思うからね。

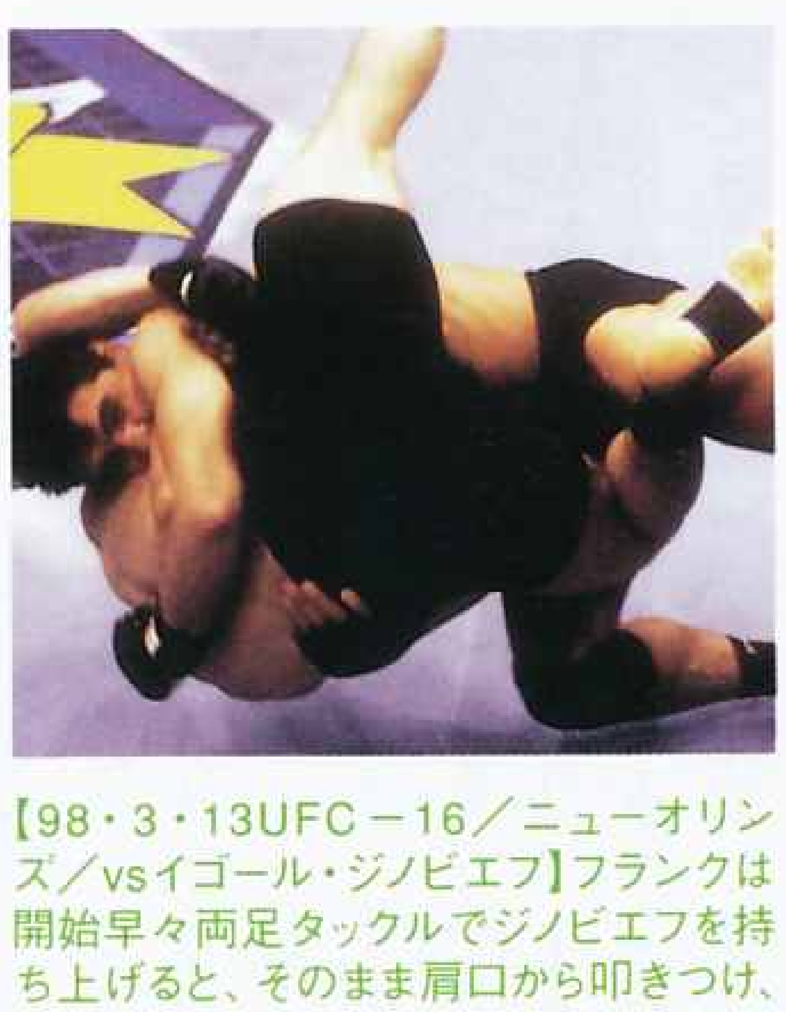
――それはどういうことですか？

**フランク**　それは、リングスもパンクラスもWWFでも一緒なんだけど、ど

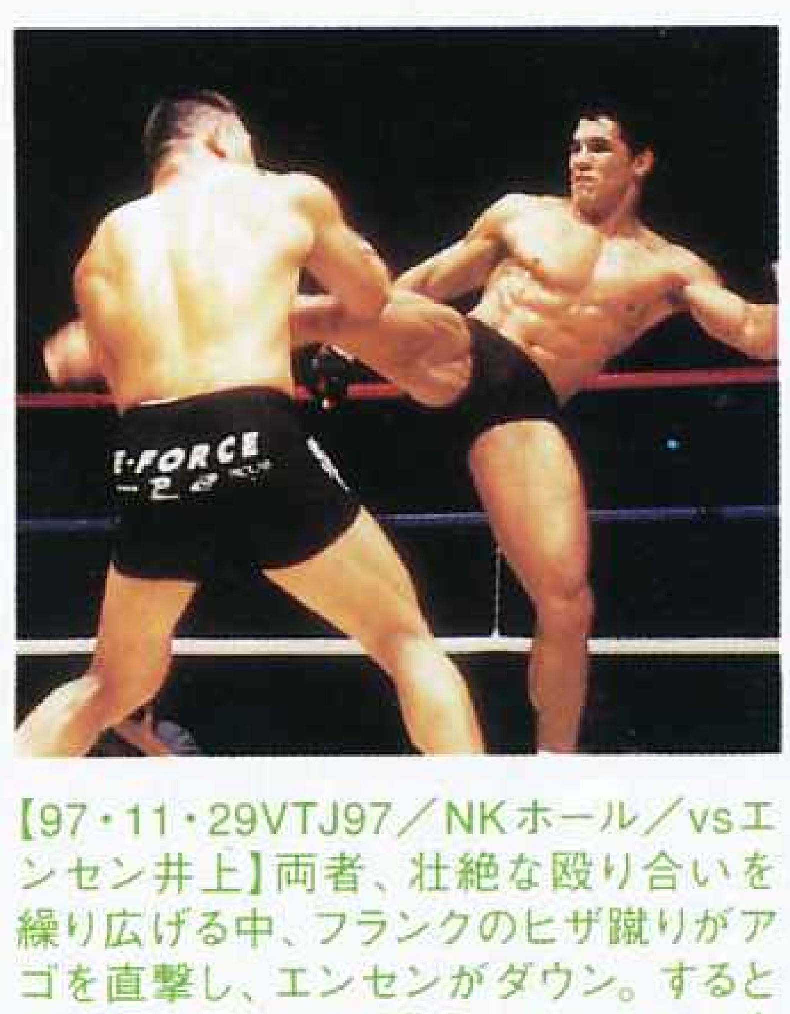
## フランク・シャムロック BOUT REVIEW



【98・10・16UFCブラジル／サンパウロ／vsジョン・ローバー】ノールール・初戦で判定負けを喫した相手ジョン・ローバーと再戦したフランク。フェンスに追い込み、膝蹴りをブチ込み、最後は首折り固めでタップを奪った。



【98・3・13UFC－16／ニューオリンズ／vsイゴール・ジノビエフ】フランクは開始早々両足タックルでジノビエフを持ち上げると、そのまま肩口から叩きつけ、ジノビエフを失神に追い込んだ。試合時間はわずか22秒！

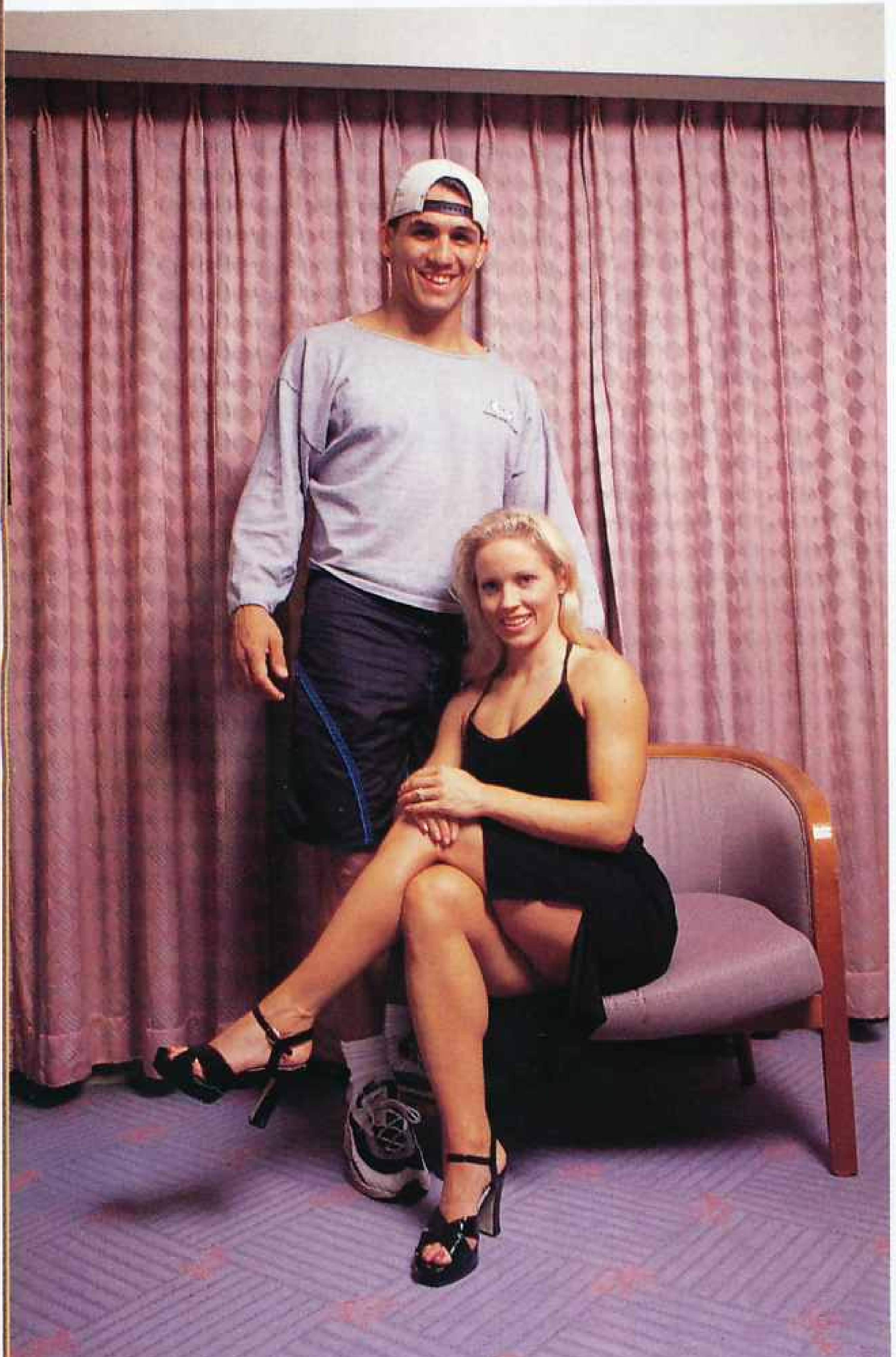


【97・11・29VTJ97／NKホール／vsエンセン井上】両者、壮絶な殴り合いを繰り広げる中、フランクのヒザ蹴りがアゴを直撃し、エンセンがダウン。するとすぐさまイーゲンが乱入。エンセンは失格負けとなってしまった。



【97・9・26RINGS／札幌中島体育センター／vs高阪剛】白熱の好勝負も、ネックロックでエスケープポイントを奪ったフランクの判定勝ちという結果に。試合後、フランクは「タムラとやってみたい」とコメントを残している。





俳優を目指すフランクと、モデル活動も考えているアンジェリーナだけあって、慣れない浴衣での撮影も嫌な顔せず様々なポーズをとってくれた。最後は頼みもしないのに熱烈なキスシーンを披露！



こかの団体に所属するっていうことは、同じようなことを何度も繰り返して、常にケガと付き合っていかなきゃならないってことだからね。それよりもボクは個人のファイターとして闘っていきたいって思ってるから。

――フランクさんは俳優を目指しているわけですから、WWFのようなエンターテイメントのプロレスの世界にも理解はあるわけですよね（笑）。

**フランク**　もちろん（笑）。仕事としては素晴らしいと思うよ。凄くハードな仕事だし、凄くハードなスケジュールだからね。ただ個人的にはリアルファイトの精神っていうのが大好きだからね。でも誤解してもらっては困るんだけど、その精神がサブミッションファイターにないって言ってるんじゃなくて、ボク個人はそっちが好きというだけなんだけどね。

――突然なんですけど、フランクさんはノールールのタッグマッチって可能だと思いますか。ボクはシャムロック兄弟とエンセン兄弟のタッグマッチを見たいと思ってるんですけど（笑）。

**フランク**　それは面白いね（笑）。でもエンセン（井上）とはもう一回やってみたいと思ってるよ。エンセンとの試合は、ボクの試合の中でもかなりエキサイティングだったしね。もちろん勝つのはボクだと思うけどね（微笑）。

――ウチの雑誌ではエンセンさんみたいな「強くて、凄くて、面白い選手はみんなプロレスラー」って言ってるんですけど、フランクさんはプロレスラーという呼ばれ方に抵抗はありますか？

**フランク**　全然構わないよ。サブミッ

GAIJINさん IRASSHA~I!!

# 顔面を殴ろうが、頭突きをしようが、なんでもオッケーのルールがベストだね

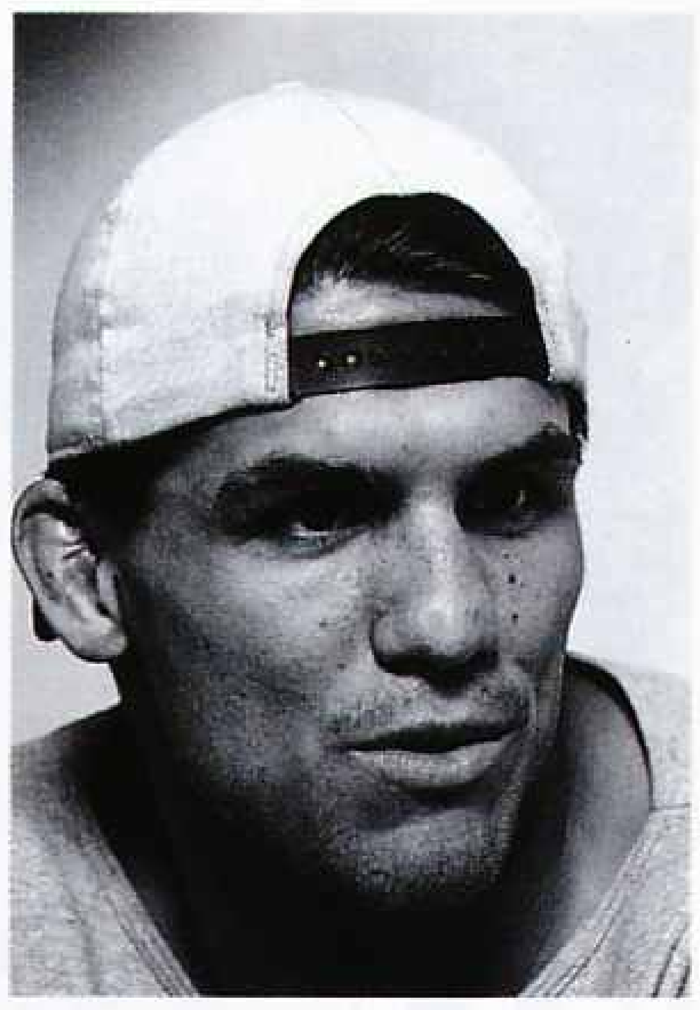
ションの練習をしてたらプロレスラーだと思ってるしね。

——はぁ、そういうもんなんですか。フランクさん的にはベストなルールはどういったものになるんですか？

**フランク** （即座に）バーリ・トゥード！　やっぱりノールールがいいよ。顔面を殴ろうが、頭突きをしようが、ヒジ打ちをしようがなんでもオッケーのルールがベストだね。でも今のUFCはルールが増えてスポーツに近づいてきているからね。まあそれはファイターのことを考えてという部分もあるんだろうけど、ボクはルールが増えるよりは、バーリ・トゥードでどんどんルールが少なくなればいいと思ってる（笑）。

——ルールはないにこしたことがないと（笑）。高阪（剛）さんなんかは「ノールールへの注目が終わったときに、浮き上がってくるのがリングスでやっているようなサブミッションスタイルじゃないかと思う」と言ってるんですが、フランクさんはどのようにお考えですか？

**フランク** ボクの意見はTKとは反対だね。ボクは逆に、サブミッションスタイルとかは、これからだんだんと下火になっていくと思ってるけどね。それで最後に浮き上がってくるのは、バーリ・トゥードのようなルールの制限がないスタイルだと思うよ。ボクは、サブミッションスタイルっていうのは、その場にいるファンの為のものだと思ってるから。確かにバーリ・トゥードは各州別でいろんな制約があるけど、その制約自体だって変わりつつあると思うし、いつ変わるかわかんないからね。



——「バーリ・トゥードをやりたい」っていうヤングマンは、フランクさんが経営する「ユニバーサル・サブミッション・アカデミー（以下USA）」にもたくさん来ているんですか？

**フランク** イエス（微笑）。バーリ・トゥードスタイルをやりたいっていう人は確実に増えてるよ。ただ結局、UFCにしろ、バーリ・トゥードにしろ、まだ始まって6年か7年しか経ってないわけだからね。だから、あと2、3年が勝負だと思うよ。その間に大きくなれるかどうかだよね。まあボクは大きくなると思ってるけどね（微笑）。今は、ケンにしろ、フナキにしろ、みんなそれぞれのスタイルを模索して拡げている最中だからね。ボクも「USA」で自分のやりたいスタイルを拡げているところだよ。

——その「USA」のマネージャーであり、婚約者でもあるのがビューティフルなアンジェリーナさんなんですね。

**フランク** アッハッハッハッ！　そうだよ。サンキュー（笑）。6月15日に結婚式を挙げて、その後、ハワイに1ヶ月のハネムーンに出るんだ（笑）。

——1ヶ月のハネムーン！　それはフランク・Jrも期待できそうですね（笑）。



フランク・シャムロック■1972年12月8日、米国・カルフォルニア州サンタモニカ出身。178センチ、89キロ。94年パンクラスでデビュー。その後、暫定ながらキング・オブ・パンクラシストに就いたフランクだったが、97年からノールール系の大会へと活動の主軸を移す。UFCではいまだ負け知らず（99・5・17現在）。今や世界有数のバーリ・トゥーダーとして認められている。

**フランク** アッハッハッハッ！　それは彼女に聞いてよ（笑）。

——最後にお聞きしますが、フランクさんでもコイツだけには絶対勝てないんじゃないかと思う選手って誰かいるんでしょうか？

**フランク** （隣にいるアンジェリーナを指差し）彼女！　アッハッハッ！　次の対戦相手は彼女だから（笑）。

——やっぱり彼女との試合もノールールなんですか（笑）。

**フランク** アッハッハッ。そう（笑）。

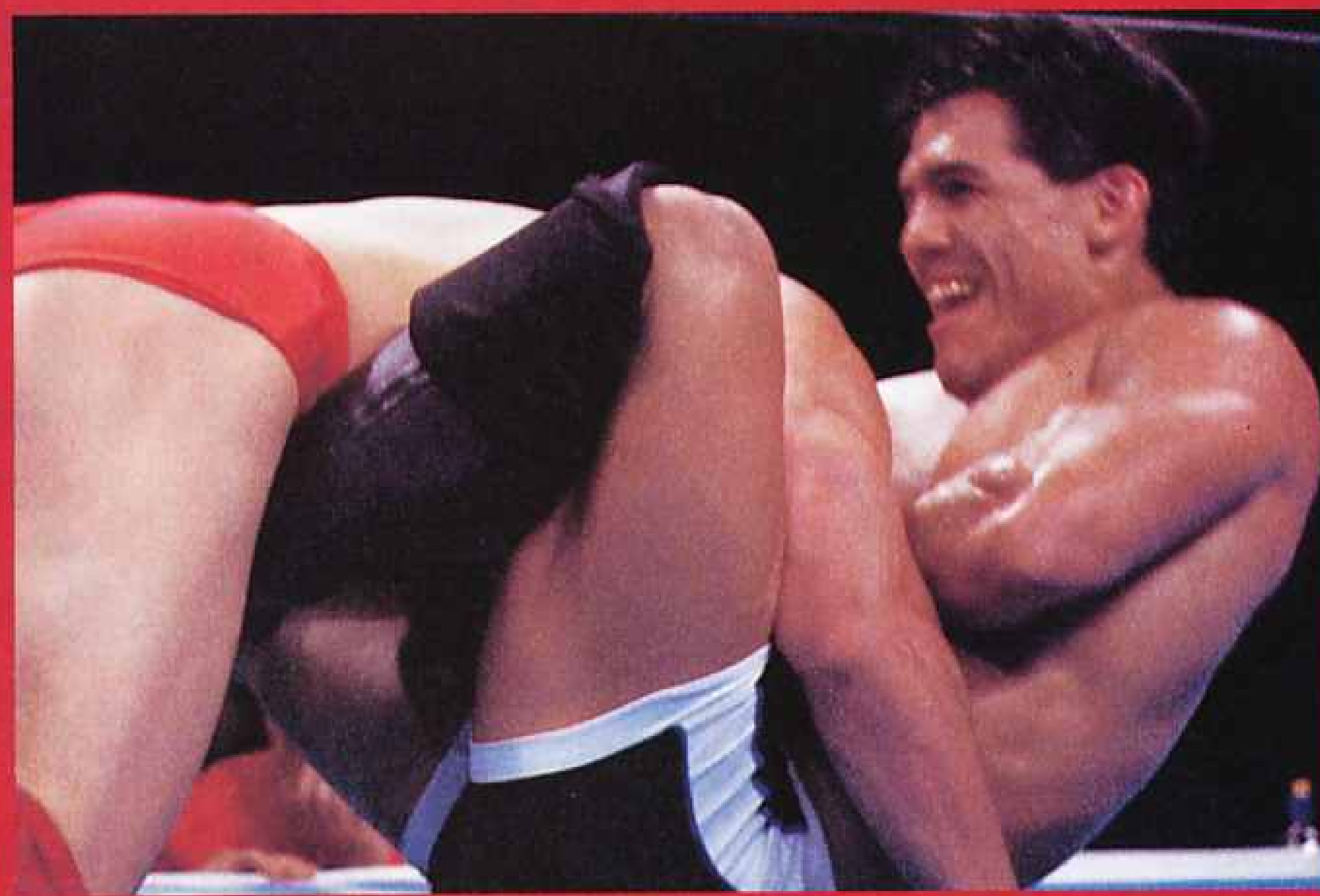
——ありがとうございました（笑）。

**【99年4月21日、京王プラザホテルにて収録】**

# 4・23リングス大阪大会 フランクVS田村戦プレイバック



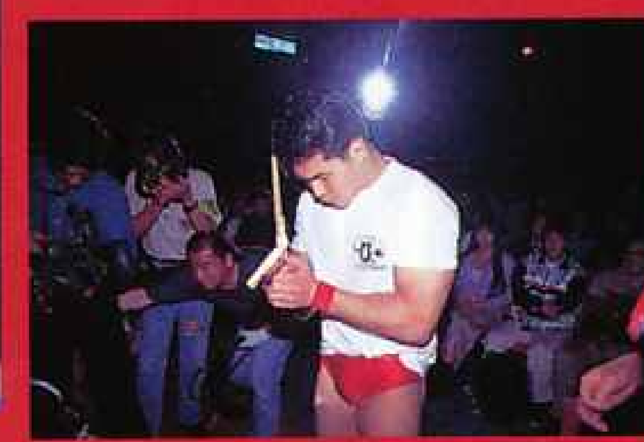
フランクは高阪直伝の"TK"シザース&ガードを駆使し、下からでも積極的に攻めていった。



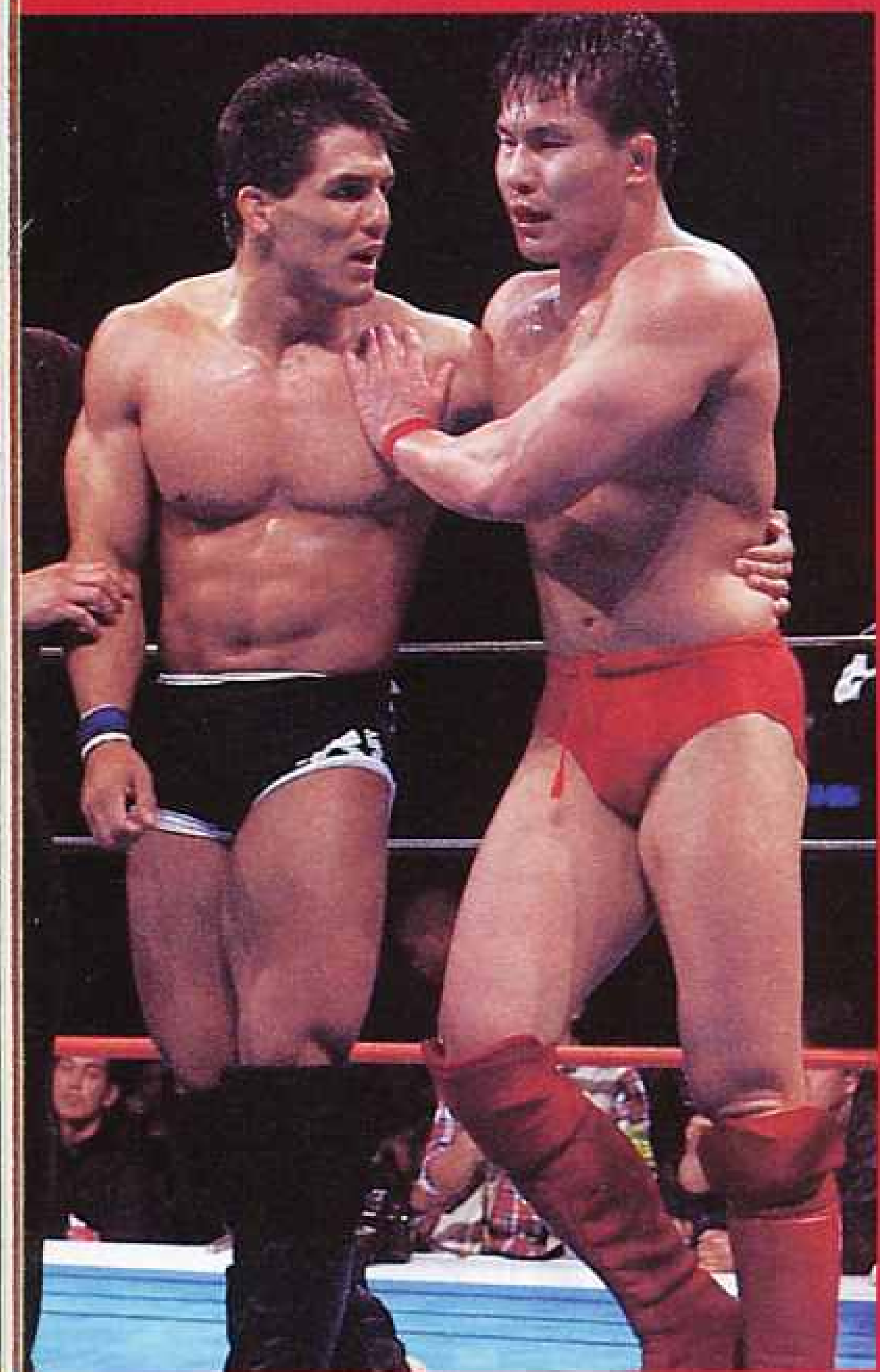
写真とは違うが、ゴング直後、グラウンドで下になったフランクの腕十字が田村を襲った。田村はすぐさまロープを掴み、エスケープポイントを与えてしまう。



米国での練習仲間、モーリスとTKとの3ショット。モーリスは何故か『無我』Tシャツを着ていた。



バトスミ戦等、ここぞという試合の時に持ってくる小太刀を手に田村はリング下で精神統一。



20分フルタイム闘い抜き健闘を称えあう両者。スクッと立ち上がりポーズをキメたフランクと対称的に、田村は横たわりながら厳しい表情を崩さなかった。試合後一人リングに残った田村は観客に手を合わせた。



15分前、フランクをガッチリとVクロスで捉えた田村。完璧に極まったかと思われたが、フランクは田村の口を塞ぎ、TKシザースでなんとか脱出に成功した。



フランクが強烈なハイキックをブチ込めば、田村もミドルで応酬。互いに積極的に攻め合った。



フランクは「下になることが多かった？　それは戦術。関節を取るには下からの方が有利なことが多いんだ」



試合後、田村は「勝たなきゃいけないっていう気持ちが空回りして…全然ダメですね」と好勝負にも不満顔だった。

★スペシャルマッチ（20分1本勝負）
**田村潔司**【D0・E1】（時間切れ引き分け）**F・シャムロック**【D0・E0・Y1】
※審議委員の審議による。

全世界の格闘技マニアが注目するこの一戦は、結果からいえばドローだったが、緊迫感溢れる密度の濃い20分となった。

立ち上がりから仕掛けは早く、ゴング直後に、フランクの下からの腕十字がいきなりカツンと入った。田村はエスケープで救われるが、闘っている両者も、観ている方も、一瞬たりとも息を抜けない試合展開が続く。

10分過ぎに田村はVクロス（袈裟固めの状態から首を極め、同時に相手の腕を両足で挟んで極める）で勝負を決める寸前までいくが、フランクはTKシザーズで大脱出！

16分過ぎには、ガード状態の田村に、両膝がマットに着いてない体勢からボディにパンチを打ったために、フランクにイエローカードが提示される。これでポイントはイーブン。白熱の攻防が続く中、そのままタイムアップとなった。

格闘技界の流れは「一本勝負」に傾きつつあるが、その「一本勝負」ならば、開始早々の逆十字でフランクの試合。しかし、逆に考えれば、その後の、両者共に「勝ちに行った」上での「ハイレベルな攻防」は見られなかったということにもなる。こういった攻防はなかなかお目にかかれるものではないからだ。

この試合は、「徹底した勝負論」と「興行論から派生した試合のゲーム性」の相関関係を考える意味でも非常に重要な一戦だった。

さらに重要なのは、この試合に格闘技の"肝"が立ち昇ったことである。この"肝"さえ見えればノールールであれ、リングス・ルールであれノー問題。そして、いつもの華麗な田村でなくてもノー問題！　というところまで時代は来ているということだ。

リングス・スタイルの「骨」を残していくためにも田村のシンドイ闘いは今後も続いていく。がんばれ、タムタム!!　（アンディ）

## RISE 4th.
## 1999.6.24（木）
## 開場17：30／開始18：30
## 東京・後楽園ホール

【入場料金】リングサイド席　¥12.000　S席　¥8.000　A席　¥5.000
【チケット発売所】
チケットぴあ　03・5237・9999／チケットセゾン　03・3250・9999
CNプレイガイド　03・5802・9999　ローソンチケット　03・3569・9900
【お問い合わせ】オデッセー　03・3796・9990

## <1999・6・20 リングスオランダ大会開催>

来る6月20日、オランダのウトラクトでリングスオランダ大会が開催されることが決定した。今回は先の3・22NK大会に出場したデイブ・ポパイ・デ・フェーン、ヴァレンタイン・オーフレイム、前回の4・23大阪大会に出場したサンドラ・トンハウザーの出場が決定している。また、第8試合ではサンドラ・マック・キリアンがビッグ・モータイと対戦。そしてメインでは大阪大会でTKを破ったギルバート・アイブルが、なんと、前キング・オブ・パンクラシストでもあるセーム・シュルトと対戦するのだ！ これは見逃せないぞ。さあ、みんなオランダへ向かえ！

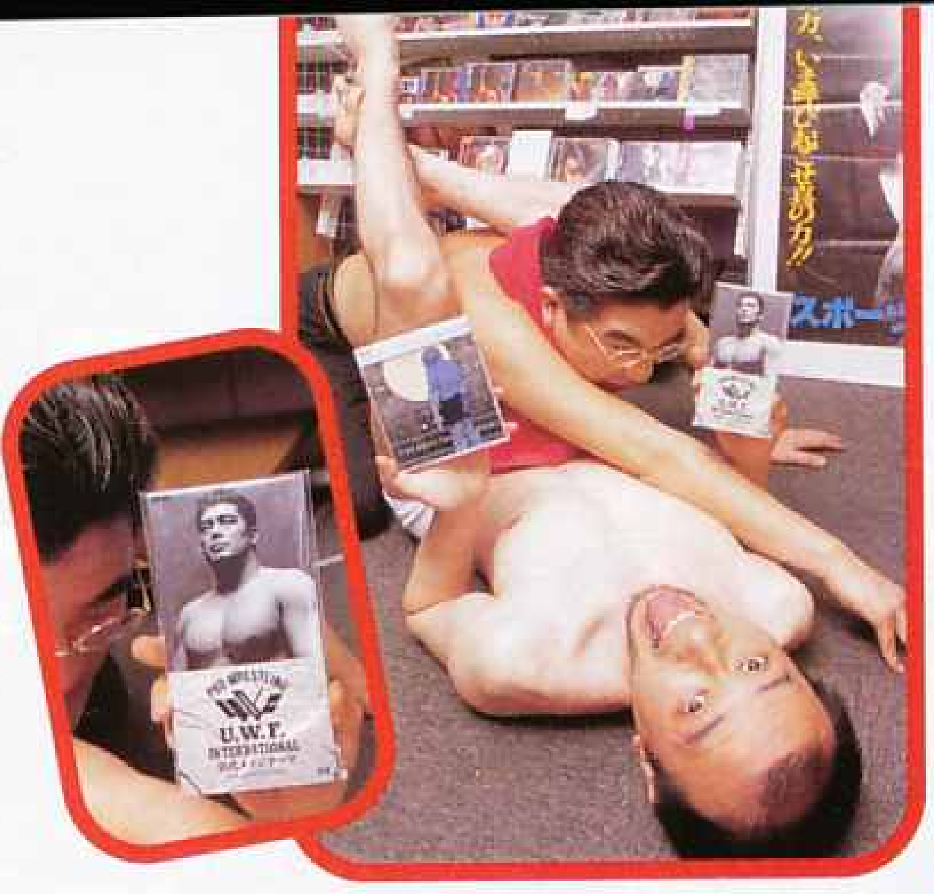
他全10試合を予定

# 世界最大（推定）のプロレスショップ『Champion』は闘いのワンダーランドだ!!

**キング・オブ・プロレスショップ『チャンピオン』に本誌・中村カタブツ君（36歳）が挑む!!**

ロレスショップ」の品揃え!!

ぬ




「ルミナみたいな三角締めがオレが得意技！」とばかりに、ノブ&ルミナのCDを手に余裕のポーズ。




偉そうにご無礼な恰好で入店してきたカタブツ。まずは読書でひと休み。ちなみに店内は禁煙です。








店には選手が使用したコスチュームも販売している！　渡辺氏はレザー・フェイスの五寸釘ブラシ、対するカタブツは松永光弘の五寸釘。圧倒的な釘の差で形勢逆転だ！




これ以上の横暴を許すわけにはいかない！『Champion東京店』の最終兵器・ケン渡辺が立ち上がった！　本業は優しい歯医者さんだが、その目にバーニング・スピリットが見える！　広い店内をリングにスクランブル・バンクハウス・デスマッチのゴングが鳴った！



『Champion』の売れ筋NO.1ストーン・コールドTシャツで顔を包み隠し、ナックルパートの雨あられ。それにしてもかっこいいTシャツだ。

プロレスファンの聖地——東京・水道橋の駅前に首都圏最大のプロレスショップ『マ●ア館』……じゃなかった『Champion』は存在する。後楽園ホールや闘強導夢からJR水道橋に向かう橋の上から見える、あの看板が目印のお店だ。

まずお店に入って圧倒されるのが、他店の追随を許さない圧倒的なビデオの在庫量。しかもレンタル可能という嬉しいシステムで、なかなか高くて手を出しにくかったビデオを気軽に楽しむことが出来る。マニマならずともヨダレが垂れる激レアビデオ、日本では入手不可能な輸入ビデオ、ライド・オン・タイムな最新作までズラリと取り揃えている。

もちろん男子なら気になってしょうがない女子プロレスラーのビデオだって、ミミ萩原の時代からからワッキー&納見まで完全網羅！「女子のビデオ」と聞いて興味のアンテナとアソコがムクムクと頭をもたげてきたのか、なぜか勝手に撮影に同行してきた中村カタブツ君（36歳）がひとこと。

「あれ、ここってエロビデオのお店じゃないの？」

何を勘違いしてるんだ！　この唐変木！　この店には何でも揃っているのだ。『Champion』にはビデオだけじゃなく、各団体のグッズ（Tシャツを中心にキャップ、キーホルダーなどなど）、プロレスCD、プロレス書籍、写真集、実際に使用したコスチュームやマスク、プロレスカード、フィギュアなど広く深い品揃えで、プロレスファンなら大満足。巨大な店内は底が見え見えの底なし沼（©I編集長）である。

近
デオ
が3

あるときなど、試合を終えたばかり

# いつ、何時、誰の注文でも受ける!!

**地方からも利用可能な**
**チャンピオン独自の便利なレンタルシステム!!**

**その1　店頭にてレンタル、店頭へのご返却**
**その2　店頭にてレンタル、宅配便でのご返送**
**その3　TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル**

※東日本地区にお住まいの方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店をご利用ください。
※通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまでご郵送してください。
※通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話、2ハガキ、3FAXにてご注文ください。代金は、代金引換になりますので、代金+送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。
※在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

**Champion東京店**
〒101−0061
東京都千代田区三崎町3−8−1西田ビル6F
TEL.03−3221−6237　FAX.03−3221−6267

**Champion大阪店**
〒556−0011
大阪市浪速区難波中3−3−23桧ビル4F
TEL.06−6645−5186　FAX.06−6645−5187

営業時間（東京店）　11:00〜22:20（年中無休）
Championホームページアドレス:http://www.champion-j.com

## 『Champion』千客万来計画!!

水道橋の達人、『Champion』の店員さんによる教科書では教えてくれない超ディープ水道橋完全攻略MAP




**1.Champion東京店**
言わずと知れた格闘技第二の聖地。レスラーや若手お笑い芸人も来ます。

**2.焼き鳥のオッチャンの出店**
2日に1回は、駅前で焼いている。おっちゃんの特技は競馬予想だ。

**3.パチンコ店・みとや**
換金率は等価。ごくまれにレスラーの姿を見ることも出来る。

**4.喫茶店・ルノアール**
お客さんが来たときによく打ち合わせをする。東京で有名な喫茶店チェーン。

**5.中華料理・たかの**
ラーメンセットは安くておいしい。上には某プロレス・ショップがある。

**6.ラーメン屋・さんぱち**
北海道の有名なラーメンチェーン店。量もたくさんあって美味しい。

**7.餃子の王将**
キングオブチャイニーズレストラン。2階に座敷があり、大人数でもOK.

**8.ラーメン屋・龍龍軒**
赤い屋根に髭のおじさんが目印のトンコツラーメン専門店。替え玉あり。

**9.フィギュアショップ・コレッキー**
休憩時間によく行くフィギュア専門店。昔のプロレスラーの人形もある。

**10.ステーキハウス・Mr.デンジャー**
プロレスラー松永光弘選手のステーキハウス。肉は柔らかく美味しい。

**11.定食・美満寿食堂**
新鮮な魚が食べられる定食屋。安くて旨い。塩サバ定食がオススメだ。

**12.洋食屋・キッチンジロー**
フライ物を中心とした洋食屋さん。当店スタッフは、よく出前をする。

**13.中華料理・ちよだ**
よく出前を頼む中華料理屋。毎週、手書きのイラスト入りメニューが来る。

**14.サウナ・アスカ**
元『週P』編集長のT・Y本氏もよく利用していたサウナ。

**15.ベースボール・マガジン社**
『週P』を発行している出版社。当店には『週プロ』はございません。

**16.黄色いビル**
でっかいビジョンモニターが目印。WINSとゲームセンターがある。

**17.青いビル**
ご存知、闘いの聖地でもあり、『笑点』もよく後楽園ホールで収録します。

**18.東京ドーム**
毎年、1／4は新日本プロレスが興行をする。5／2には全日本もした。

**19.東京ドームホテル**
超高層の大型ホテル。現在は工事中だが完成すれば、地方からも密航可。

**20.ジオポリス**
お土産屋さんがたくさん入っており、野球の他色々なスポーツグッズがあり。



★★★プロレス＆格闘技専門ビデオショップ★★★

# チャンピオン Champion

東京後楽園

〈広告のページです〉

“底が丸見えの底なし沼”

# 「キング・オブ・プロ 名に恥じぬ



そして仕上げは『Champion』伝統の「ビデオオススメ固め」でフィニッシュ！　ちなみに最近のオススメはWCWの『ウルフパック』、FMWの『ベリー・ベスト・オブ・ハヤブサ』古いビデオの充実ぶりもさりげなく表現する殺人技だ（？）。「こんなチン客をのさばらせたら10年持つ店が3年で潰れてしまう」とは渡辺氏の試合後のコメントだ。

あるときなど、試合を終えたばかりのジェイソン・ザ・テリブルが「アイム・ジェイソン！　ワタシノTシャツヲウッテクダサイ！」とTシャツを山ほど抱えて血を流しながら納品しにきたというから、その信頼度の絶大さが伝わろうというもの。

店員さんも気軽で優しく対応してくれるので安心。たとえば、今回モデルを買って出てくれた〝店長よりも偉いバイト〟渡辺さんにTシャツの値段を聞いてみた。

「買う前から値段のこと考えるヤツがいるかよ!?　買え、コノヤローッ!!」と闘魂タオルをしごきながら怒鳴られた上にビンタまで食らってしまった。

『Champion』——ここはJR水道橋駅から歩いて30秒の「もうひとつの『闘いのワンダーランド』」である!!


GAIJINさん
IRASSHA~I!!
ブン殴ってやる!!
BIG DADDY!!!
聞き手／チョロ
interview Choro
撮影／モーリー
photographs by Morry
通訳／吉積ジュリア
by Jyuria Yoshizumi
Gary Goodridge INTERVIEW

**『UFC』『PRIDE』『K−1』。勝っても負けても、グッドリッジほどインパクトのある試合を見せ続けてくれる男はなかなかいない。「殴って殴って殴りまくる!」「殺るか殺られるか!」という非常にわかりやすいファイトスタイルでファンのハートをガッチリ鷲掴みにしている男・ゲーリー・グッドリッジ。**

**『PRIDE.5』会場で発見した彼に、直撃インタビューを敢行!**

**"世紀末の破壊王"ゲーリー・グッドリッジのおでましだ!!**



グッドリッジは「PRIDE.5」のリング上から「俺にとって一番大事なイベントは、『PRIDE』なんだ。もっと多くの選手と闘って、もっと多くのノックアウト勝ちを奪ってやるぜ!」と、粋な御挨拶。

――目の前にすると、ちっと怖いんですけど、どうぞよろしくお願いします。

グッドリッジ(以下G・G) 大丈夫だ! オレは男には襲いかかったりしないから安心しろ(ニヤリ)。

――襲いかかるのは女だけ?(笑)。

G・G ガッハッハッハッ!

――ところで、「ミスターPRIDE」と呼ばれたゲーリーさんが突然K−1に出たんで驚いたんですけど、どういった経緯で出ることになったんですか?

G・G オレは基本的に人をブン殴ることが好きだからな(ニヤリ)、だから闘える場所さえ与えてくれりゃジャンルなんて関係ねえんだ。人をブン殴れるところであればどんなところでも構わない。相手がグラウンドでこようが、パンチでこようが、キックでこようが、とにかくそういう場に入りたかっただけだ。

――K−1での武蔵戦は、反則負けという残念な結果でしたけど、抜群に面白い試合でした。ゲーリー最高!

G・G アリガト、ゴザイマス(笑)。

――アハハハ。日本語、お上手(笑)。グッドリッジさん、K−1マットにはどういった印象を持ちましたか?

G・G ムサシはグッドファイターだったね。まあ最後に反則を取られちまったのは残念だったけど、非常に満足した試合だった。そこから学んだことも多いし、K−1のファンも素晴らしいファンばっかりだったんで、またチャンスをもらえるよう頑張るよ。

――それこそ「REVENGE」?

G・G まあリベンジってことには、そんなこだわるつもりはないけどな。ただオレは基本的に人をブン殴るのは大好きだからな(ニヤリ)。そういう機会があればドンドンやっていきたいよ。

――個人的には、ノールール系のリングの方がゲーリーさんの持ち味が発揮できると思うんですけどね。

G・G 確かに、K−1では相手がグラウンドに寝てしまったら思いっきりパンチを浴びせることができないだろ。反則を取られちまうからな。そういう意味では若干難しいルールだった。さっきも言ったけどオレはパンチで相手をブン殴ることを生きがいにしてるからな。相手がグラウンドになろうが、立っていようが、ブン殴ればそれでOKだ! それが「PRIDE」のルールだろ。だからオレは「PRIDE」のリングに情熱を傾けてるんだよ。

――ゲーリーさんといえばパンチってイメージが非常に強いんですけど、(カーロス・)ニュートンもいたサムライクラブで柔術の練習もしてたんですよね。

G・G ああ。でも今は自分のパワーをフルに活かしてパンチをするっていうのがオレの戦略だからな。今はどこかに所属してるってワケじゃないけど、パンチが好きな奴が集まってる秘密の場所があって、そこで練習してるよ(笑)。

――パンチ軍団ですか(笑)。ゲーリーさんは、ヒクソン・グレイシーのような寝技のスペシャリストとやっても戦法を変えるつもりはないんですか?

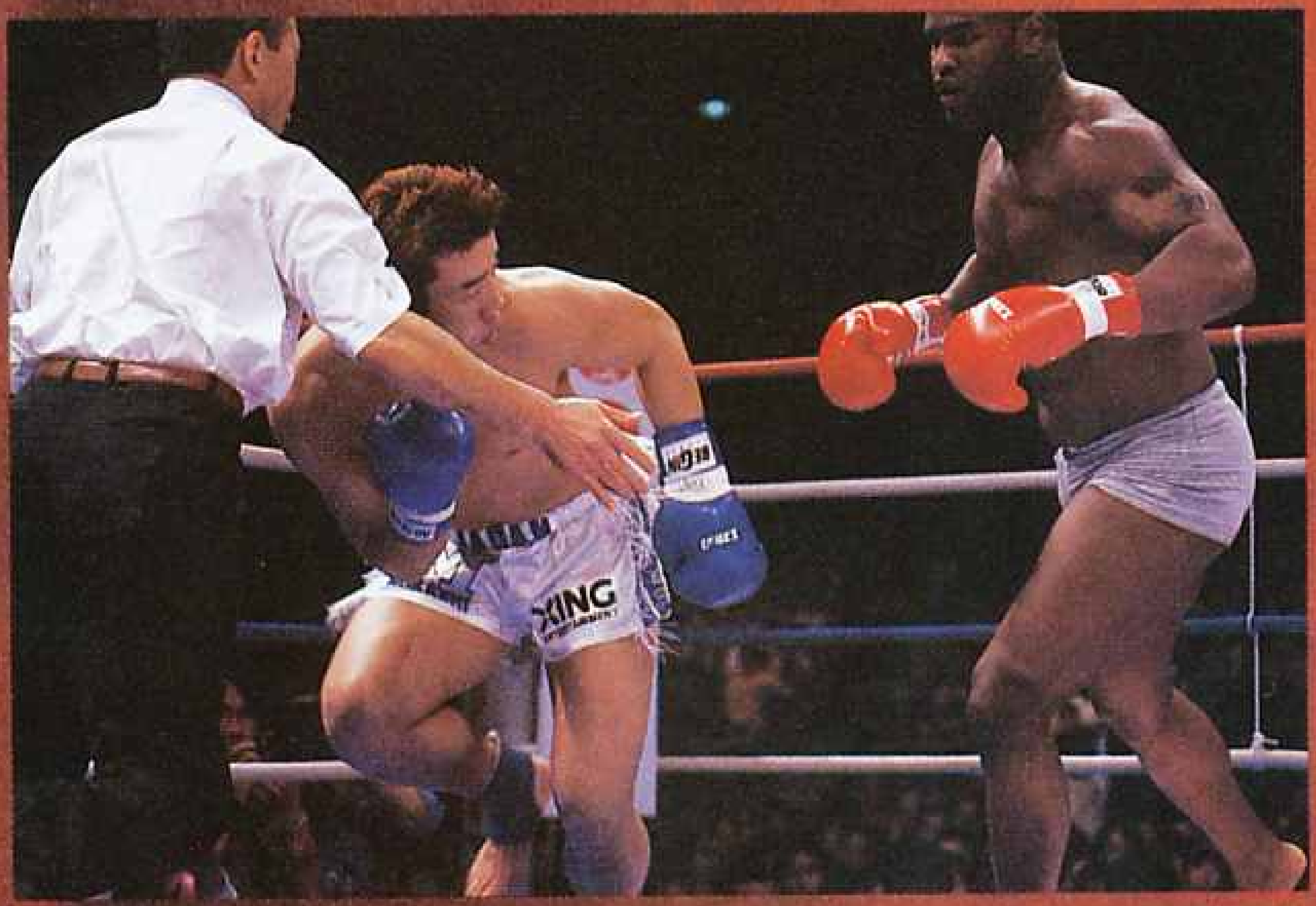
G・G ヒクソンっていうのは、ある意味、伝説のファイターであって、今の総合格闘技の世界を作り上げた男だと思ってるからな。そういう意味では尊敬してるんだけど、闘ったらもちろん勝つ自信はあるよ。もしオレがグッドコンディションで闘えれば、世界中のどんなヤツが来ても勝つ自信はあるからな(ニヤリ)。

――ゲーリー最高! それからゲーリーさんと同じようなファイトスタイルの選手で、タンク・アボットさんっていますよね。この間(UFC19で対戦予定だったが、アボットがインフルエンザのためキャンセルとなった)は残念ながら試合が流れちゃいましたけど。

G・G タンクとは二回、試合が流れてるんだけど、二回ともタンクの方からNOって言ってきたんだ。タンクもオレと同じように、いつでも、どこでも、誰とでもやってやるって言ってる

Gary Goodridge INTERVIEW

4・25横浜アリーナ。"ミスタープライド"グッドリッジがK−1に参戦ということで場内は異様な緊張感で包まれた。武蔵のローでグラつかされたグッドリッジは、面倒臭せーとばかりに武蔵を追いかけ回しブン殴りにいった。なんとか武蔵を掴まえたグッドリッジはヒザ蹴りをブチ込んだものの運悪く金的に入ってしまい、武蔵はダウン。グッドリッジの失格負けとなってしまった。



# オレが一番嫌いなタイプってのは臆病者なんだよ！

けど、なんだか知らねえがオレとはまだやってもらえねえな（苦笑）。

――やってもらえませんか（笑）。

G・G　オレとしては、タンクに限らず機会があれば、いつでも、どこでも、誰とでも試合をやってやるよ。

――タンクとやっても殴り勝つ自信はあるんですか？

G・G　自信？　いや絶対だよ！　タンクなんてブッ倒してやるよ！　そうなるに決まってるだろ!!

――……は、はい、そうですね。

G・G　それでな、オレが一番嫌いなタイプっていうのは臆病者なんだよ。もしオレのことを怖がる臆病者がいたら、オレはそいつを殴って殴って殴りまくって気絶させてやる！　そこまでのパンチも用意しているからな。

――……は、はい。ところで、ゲーリーさんも対戦経験があるドン・フライさんは、現在新日本プロレスに出ているんですけど、ゲーリーさんはプロレスには興味はあるんですか？

G・G　オレは今、仕事（ホンダでテストドライバーをしている）を持ってるからな。そっちがメインで、ファイトの方はパートタイムみたいなもんだから、そういう話があれば興味はあるよ。

――やはりファイトマネーで食べていければベストと思ってるんですか？

G・G　そうなればベストだけどな。オレもそうしていきたいと思ってるから、もっと自分をドンドン売り込んでいかなきゃいけないと思ってるんだ。

――例えば、WWFであったりエンターティメントのプロレスというものには偏見は持っていないんですか？

G・G　正直言ってWWFやエンターテインメントのプロレスにも興味はあるよ。でも今オレは、人をウチ負かしていくってことが情熱になってるから、殴り合いの真似事みたいなことはしたくねえんだよ。今はオレのこの熱い情熱を、素直に「PRIDE」とかのリングにブツけていきたいね。

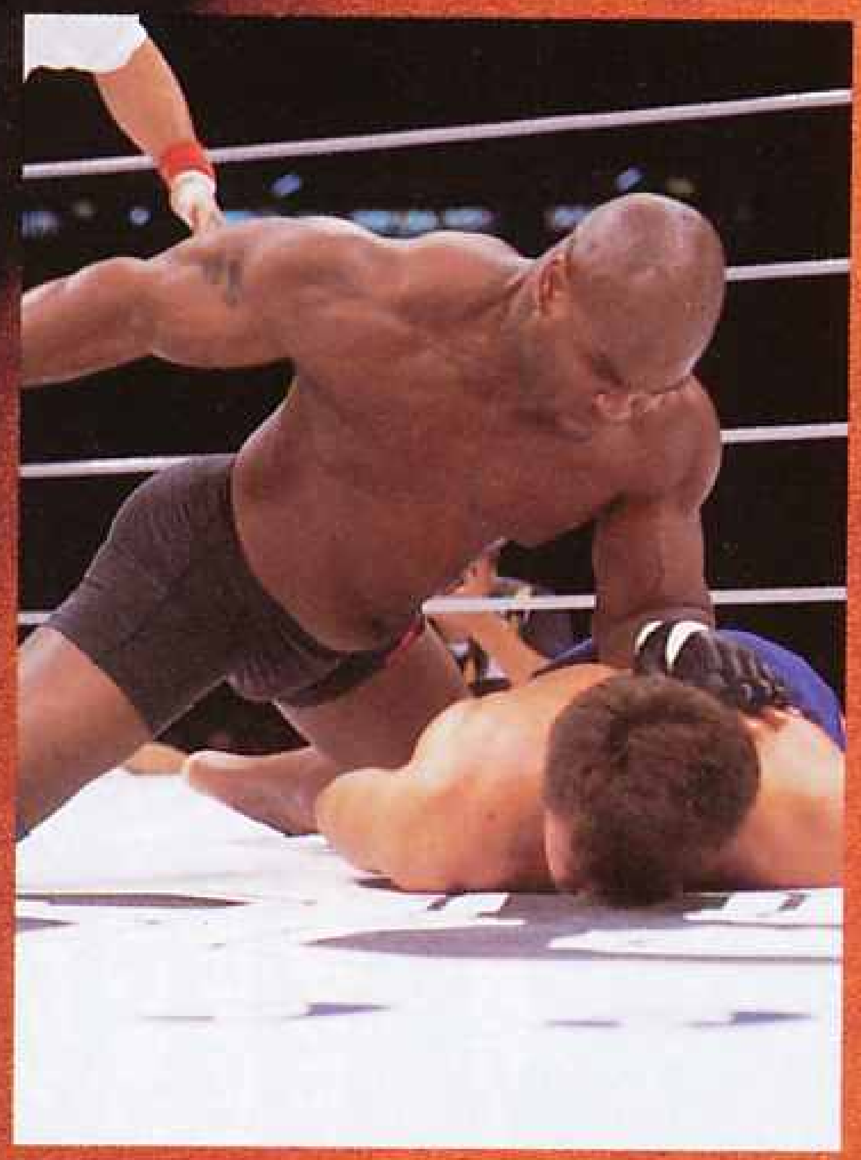
――まだ「PRIDE」では、日本人選手との対戦はないですけど、日本人選手で興味がある選手はいますか？

G・G　特に誰々っていう選手はいないな。何度も言うけど、オレは、好き嫌いなんて構わず、老若男女問わず、リングに上がってきた奴は誰でもブッ倒す！　そういうことだ!!

――は、はい、わかりました。そんなワイルドなゲーリーさんも、〝ビッグ・ダディ〟と呼ばれているように子供好きな一面もあるんですよね。

G・G　そうだ（ニッコリ）。キッズがいればオレはポンッとお尻を叩いてやるんだ（笑）。そうすると、そのキッズ達はオレのヒザの上に乗っかってくるんだよな（笑）。オレもキッズが好きだし、キッズもオレのことが好きみたいだな。








96・12・7「UFCオールスター戦」。日本でもお馴染みのドン・フライと対戦したグッドリッジ。11分18秒、戦意喪失となり敗れる。（写真上）。「PRIDE.1」で日本初登場のグッドリッジは大方の予想を裏切り、O・タクタロフを見事ノックアウト。（写真中）。「PRIDE.4」では引田天功と共に入場してきたグッドリッジ。しかし試合ではイリュージョンは起こらず。I・ボブチャンチンに敗れてしまった（写真下）。

ガッハッハッ！

――ちょっと小耳にはさんだんですけどゲーリーさんは非常に女性好きな一面もあるみたいですね（笑）。

G・G　ガッハッハッハッ！

――日本人女性はどうですか？（笑）

G・G　I LOVE ALL WOMEN！　なかでも日本のガールはスゴク好きだよ。素晴らしい！　オレはいつでも、どこでもガールを見てるからな（笑）。今オレは独身なんで女性はみんな大好きだよ。ガッハッハッハッ！

――ゲーリー最高！　素敵です（笑）。

G・G　オレは日本のガールも大好きだけど日本の文化もスゴク好きなんだよ。日本のファンはいつも自分を温かく迎えてくれるしな。ホントに日本をオレの第二の故郷したいと思ってるんだよ。

――歓迎しますよ！　それとゲーリーさんといえば、93年の腕相撲世界チャンピオンとしても有名ですけど、日本でも先日、『リン魂』っていうTV番組で、格闘家による腕相撲大会があって、それで優勝したのがエンセン井上さんなんですよ。ゲーリーさんとの腕相撲対決をゼヒ見てみたいんですけど。

G・G　ガッハッハッハッ！　笑わせるなよ。オレが負けるわけないだろ！

――し、失礼しました。左腕の「剛力」っていう刺青は、いつ頃、どういった理由で入れたんですか？

G・G　ああコレか、コレは三週間半前に入れたんだ。オレは日本でたくさんファイトをしてるし、自分自身のことを「剛力」と思ってるからな！

――ゲーリーさん、「コイツにはかなわないゼ！」って思う選手はいますか？

# オレは尻尾を巻いて逃げるようなことは絶対しねえ！

GAIJINさん IRASSHA〜I!!

**G・G** そうだな、「PRIDE」に集まっている選手っていうのは最高の選手ばかりだ。まあその中でも、いい選手っていうのと最高の選手っていうのは、小さな線で仕切られてると思うんだ。それで最高の選手っていうのは、オレが思うに、だいたい15人はいるな。その15人の選手っていうのは、いつでもどこでも勝てる選手だよ。

——その15人の選手っていうのは？

**G・G** トム・エリクソン、イゴール・ボブチャンチン、マーク・ケアー、マーク・コールマン、エンセン・イノウエ、ノブヒコ・タカダ、グレイシーファミリー、カズシ・サクラバ、そういった選手がその15人の中に入ると思うよ。もちろんオレも入るけどな（ニヤリ）。

——エリクソンとゲーリーさんの試合なんてゼヒ見てみたいですね。

**G・G** エリクソンはレスリングの130キロ級だろ。ケアーでもエリクソンにはかなわないだろ。まあオレがエリクソンとやったら、上からだろうと下からだろうと、ブン殴って勝つけどな（ニヤリ）。

——いや〜頼もしいですね。ところで今日の「PRIDE.5」で一番注目しているカードはなんですか？

**G・G** タカダvsコールマンだな。それと同じく、ベウフォートvsサクラバ、ボブチャンチンvsショウジ。これらのカードは素晴らしい試合になると思うよ。ホントならオレは4日前のK―1の試合で仕事は終わってるんだけど、今日の試合を見るために、日本に残ってるんだよ。

——そうですか。高田vsコールマン戦はどのような予想をされてますか？

**G・G** オレはコールマンとは試合したことがあるんでよく知ってるけど、彼は自分の闘い方を変えないからな。タカダをグラウンドに持っていったら上から思いっきりブン殴っていくだろうな。ただ、そういう状態にならなかったらタカダが勝つ可能性もあると思うけど、どちらかといえばコールマンが有利だと思うな。

——同じく桜庭vsベウフォート戦はどうでしょうか？

**G・G** これはサクラバが勝つだろう。サクラバというのは世界の中でも非常にインテリジェンスなファイターの一人だしな。モノ凄く判断力が早いしな。

——インテリジェンスな桜庭さんと闘うとしたら、ゲーリーさんはどういった戦法で闘うつもりなんですか？

**G・G** サクラバ以上に（自分の頭を指し）ここを使ってブン殴りにいくよ（笑）。でもサクラバは、パンチからでも逃げる戦略と技術をちゃんと持ってるからな。オレ以外のヤツとやってもサクラバは負けるってことはないだろうな。

——ドンドンいきます。小路vsボブチャンチン戦はどうですか？

**G・G** ボブチャンチンのパワフルなパンチに気をつけて、グラウンドに持っていければショウジの勝ちだろうな。ショウジはみんなが思っている以上の可能性を秘めたファイターだよ。

——ボクもそう思います。次の試合予定はなにか決まっているんでしょうか？

**G・G** 国に帰ったら仕事があるんだけどな。次の「PRIDE.6」には出る予定だ。「PRIDE」の環境は素晴らしいんで毎回やっていきたいと思ってるよ。相手は誰でもいいけど、柔術系のファイターよりは殴り合いが出来そうなヤツがいいな。あとは、K―1でムサシとリターンマッチをやる可能性もあるだろうな。

——それは楽しみです。これからも第二の故郷、日本でドンドン試合をして下さいね。

**G・G** オレとしてもそれは願ってるよ。オレのポリシーっていうのは、「絶対逃げない」ってことだからな。オレは尻尾を巻いて逃げるようなことは絶対しねえから、対戦相手は選んだりはしないよ。誰とでも、「やれ！」って言われたら絶対NOと言わねえよ。

——そしてそいつを殴り倒す、と（笑）。

**G・G** その通りだ！ オレは契約さえ結べば、相手がどんなサイズだろうと、どんなバッググラウンドがあろうと、どんなルールだろうと関係ない。いつでも、誰とでもオレは闘うよ（ニヤリ）。

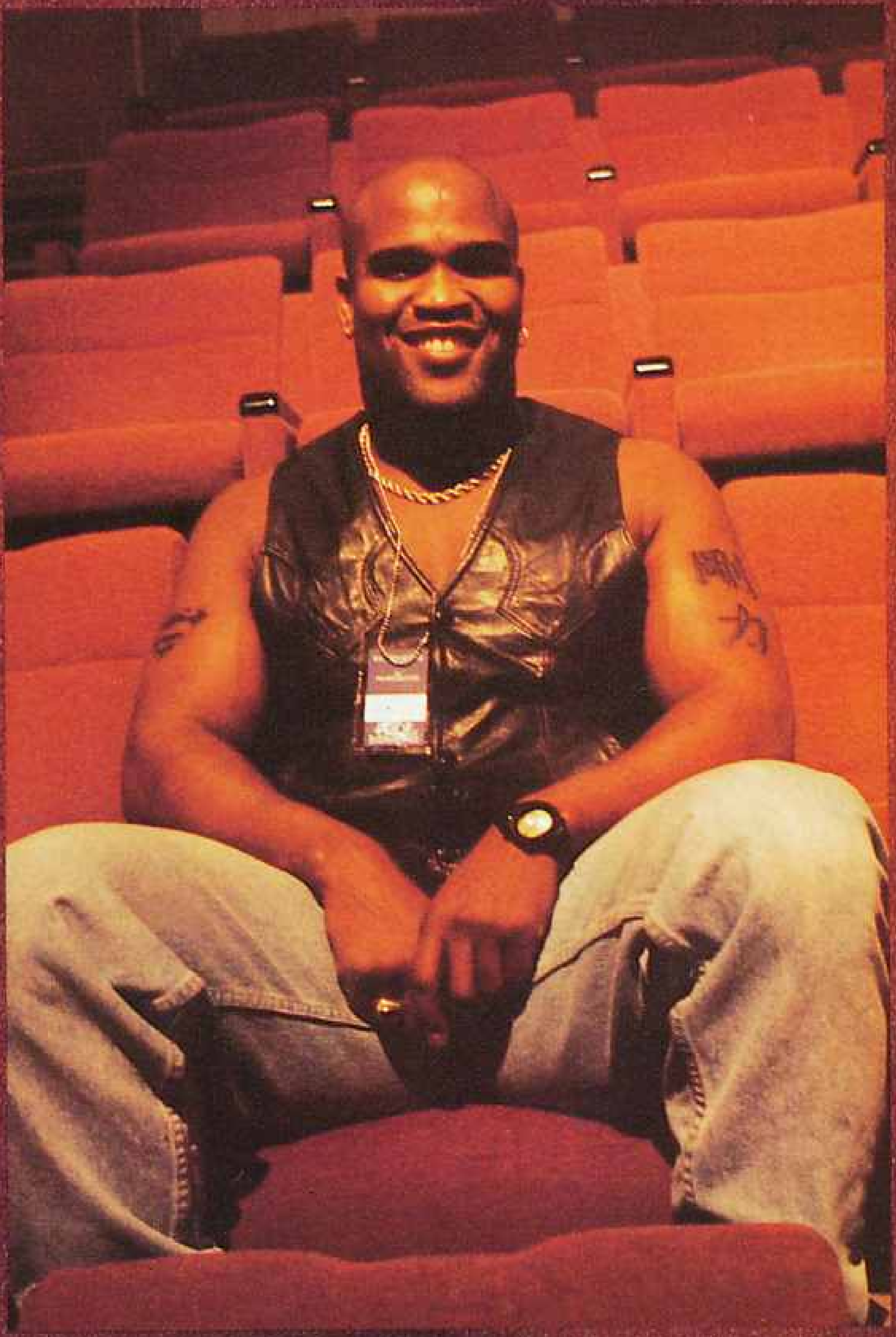
——これからも、殴って殴って殴りまくって下さい。期待してます。

**G・G** ノープロブレム！ 問題ない！ オレもそう思ってるよ。

——今日はありがとうございました。

**G・G** ドモ、アリガトゴザイマス（ニッコリ）。

**【4月29日、「PRIDE.5」当日、名古屋レインボーホール内にて収録】**

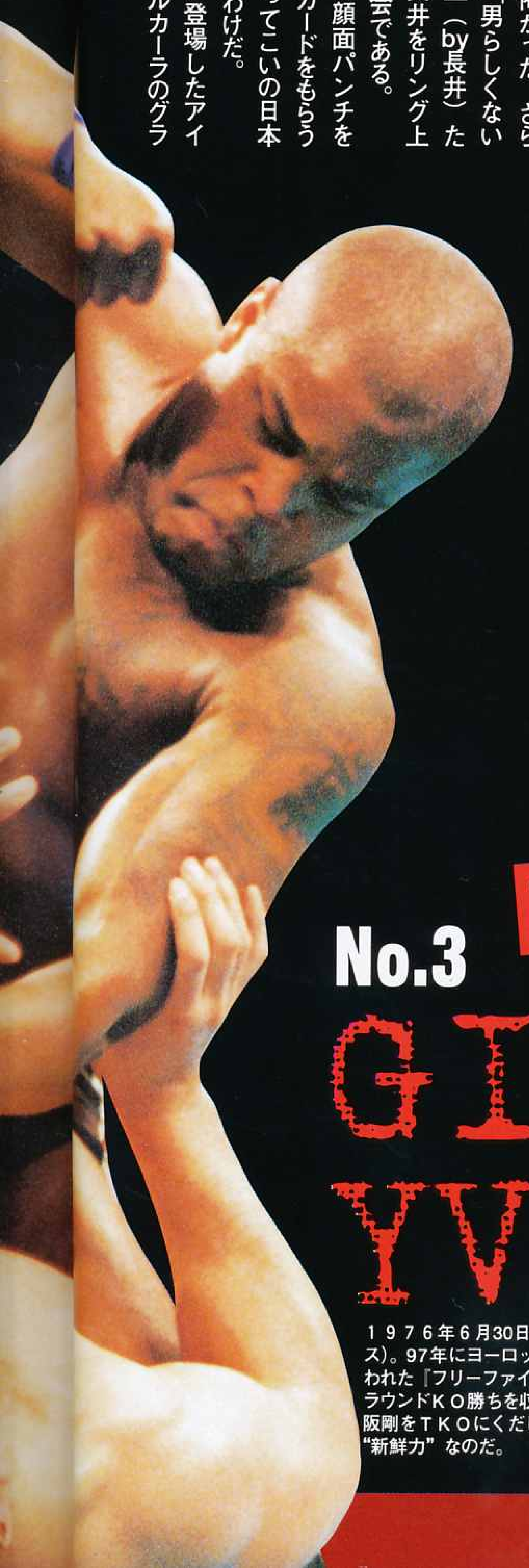


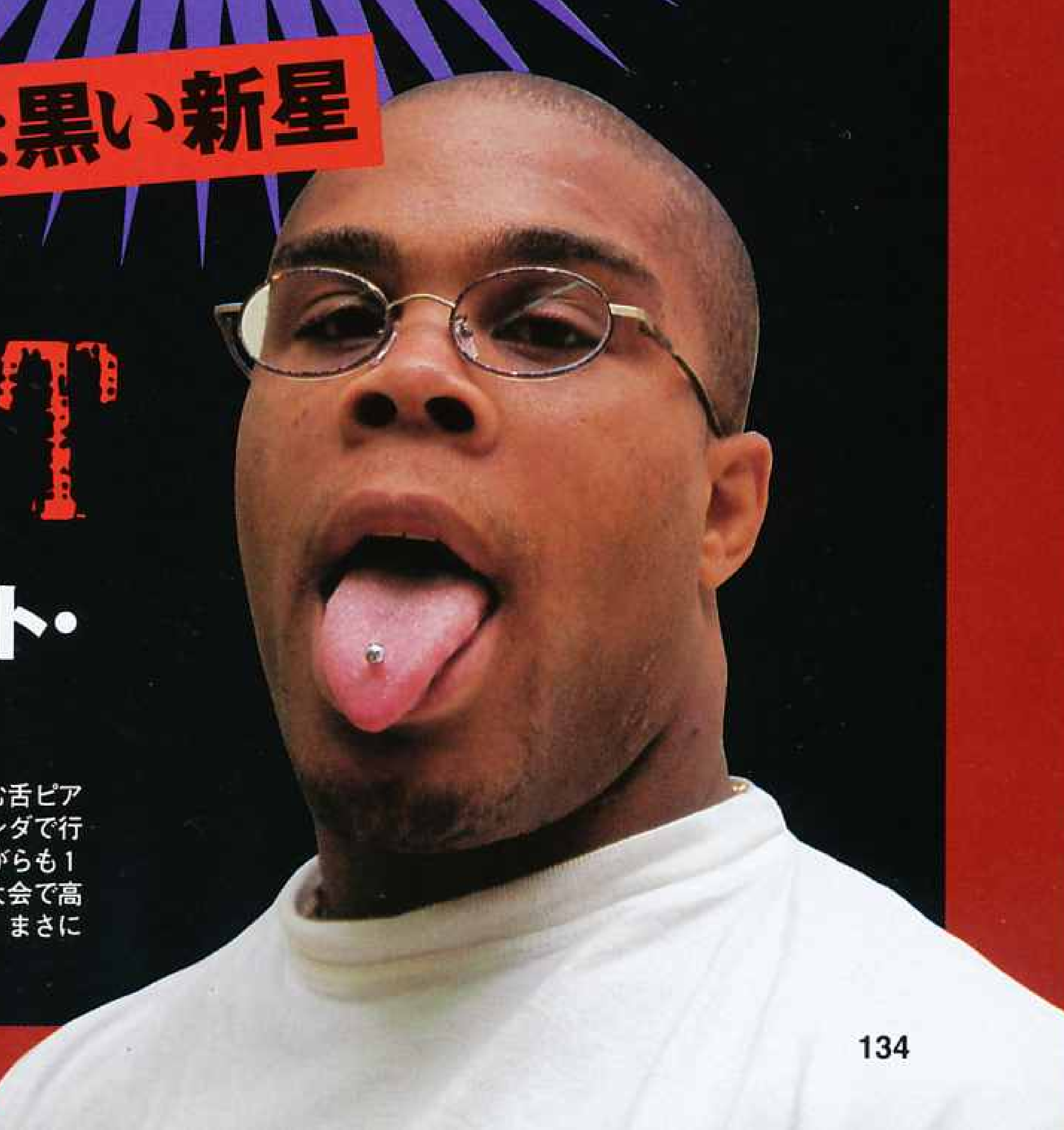
【ゲーリー・グッドリッジ】1966年1月16日、トリニダード・トバコ出身。世界腕相撲王者という肩書きを引っ提げ「UFC8」に出場。初出場ながら準優勝を果たす。「PRIDE.1」でオレッグ・タクタロフを失神KOするという衝撃の日本デビュー以降、「PRIDE」の常連外人となる。4月にはK―1のリングに参戦、武蔵相手に反則負けを喫するものの、その豪快な闘いっぷりは観客にも十分伝わった。とにかく人をブン殴ることが大好きな男である。

# 紙のプロレス RADICAL 怪物通信 K−通 MAGAZINE

## 高阪剛を撃破した黒い新星

## No.3 GILBERT YVEL ギルバート・アイブル





1976年6月30日オランダ・アムステルダム生まれ。187cm、94kg（含む舌ピアス）。97年にヨーロッパ・フルコンタクト空手重量級で優勝し、同年2月オランダで行われた『フリーファイト・ガーラ』にも出場。グラウンドありの試合、初体験ながらも1ラウンドKO勝ちを収めてその後2年間無敗。そして今年4・23リングス大阪大会で高阪剛をTKOにくだし、リングス・オフィシャル・ランキング第1位に輝いた、まさに“新鮮力”なのだ。

**最近来日した〝未知の強豪〟といえば原始猿人ヴァーゴンなのだが、海外にはまだまだひと目でド肝を抜くようなヴァーゴン並みのキャラクターと、人間離れした強さを発揮する怒涛のような怪物がウジャウジャいるわけだ。**

**〝人間と猿人のリアルファイト〟（©サバイバル飛田）のように、ファンタジーあふれる過激なパーティーにふさわしい化物外人を紹介する『怪物通信』。略して『K―通』（どうしてもオシャレに呼びたければ『Kファー』も可）。第2回目は既に〝未知〟ではないが、高阪剛をケダモノじみた攻撃でTKOに追い込んだギルバート・アイブル。**

**強くて凄くて面白い〝強者たちの狂宴〟にいち早く踊り出てきた飛び切りの男なのだ。Party is not over!!**

リングス参戦たったの6戦目で高阪剛をTKOし、観客のド肝を抜いたギルバート・アイブル。強烈な掌底で高阪からダウンを奪い、ロープを掴んでのメチャクチャ無理な体勢から飛びヒザ蹴り（高阪いわく「アレ反則ですわ」）を繰り出して目蓋をカットするなど、いかんなく狂暴性を爆発させた近年まれに見る素晴らしいケダモノだ。

ところでアイブルといえばやっぱり〝公開金冷法〟だろう。昨年7・20『前田日明リングス・ラストマッチ』でのことだ。リングス・オランダの盟友ヨープ・カステルが試合中にタマを蹴られるやいなや、突然ペットボトルの水をサオと言わず、タマと言わずかけまくってニコニコしてたのだ。

他人の不幸に同情するものの、次の瞬間には自分の楽しみに変換できる神経の野太さは文句なしに称賛できるだろう。人前で他人のタマに水をかけて喜ぶ、その根性。まさに大した〝タマ〟だ。

ちなみにその日、本人は第一試合に出場。対戦相手のアリョール・ベーコフの顔面ばかりを執拗にヒザ蹴りで狙うというデンジャラスな闘いっぷりでKOしている。自分の試合は殺伐に、人の試合は無邪気にかき回す、



タチは悪いがそのくせ憎めぬ得なタイプ。それがアイブルなのだ。

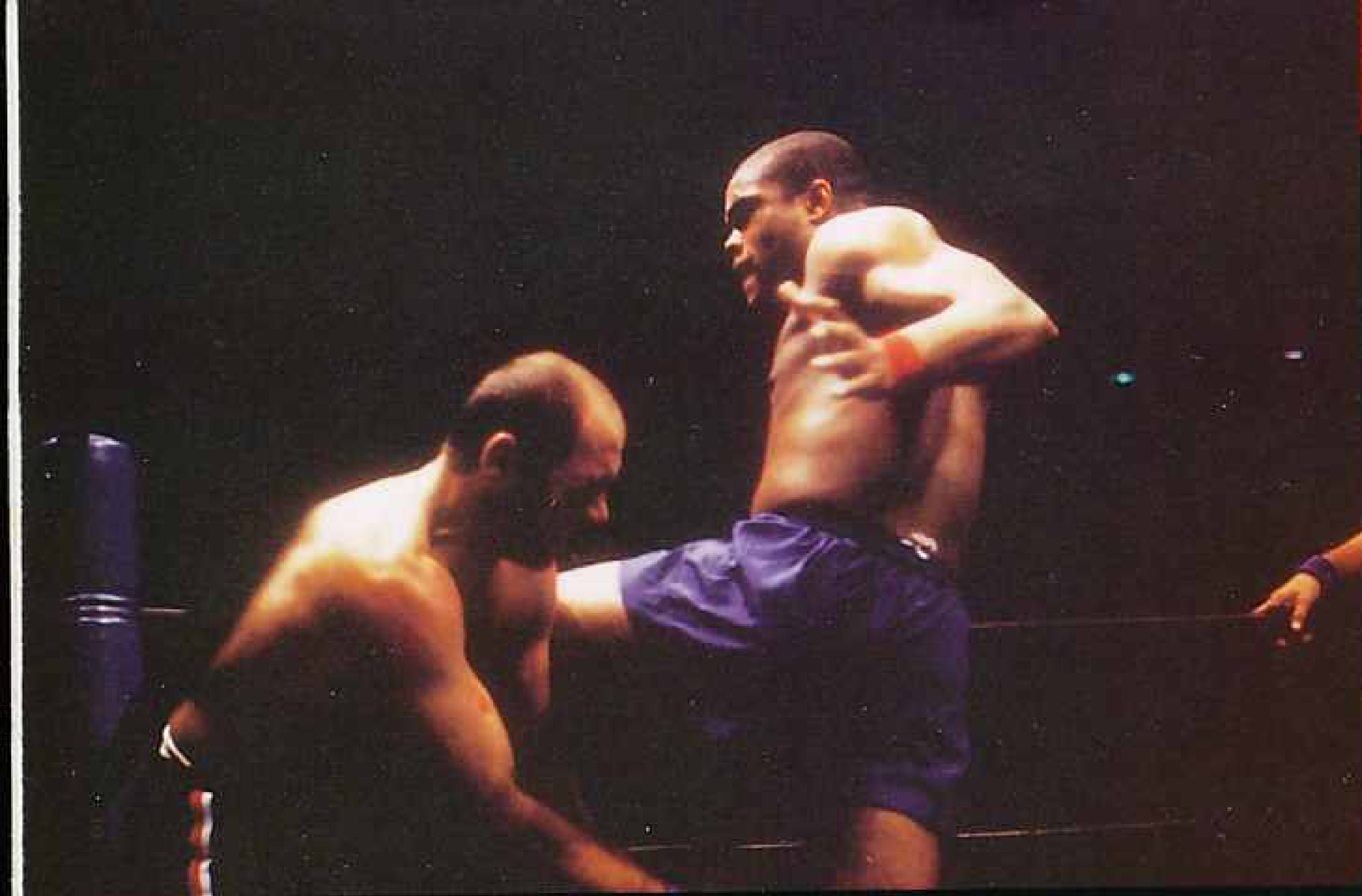
さて、97年11月20日のリングス大阪大会に、クリス・ドールマンの強力な推薦によってアイブルは初来日した。この大会はといえば前田日明vs長井満也戦が話題となった、いまとなれば〝長井満也リングス・ラストマッチ〟とも言える荒れた大会。

この日、古傷のある左ヒザを集中して狙いまくる長井にキレた日明兄さんは寒気がするほど怖かった。さらに試合直後、長井が「男らしくないことを言ってしまった」（by長井）ために兄さんは激怒。長井をリング上でハリ倒した、あの大会である。

つまり、試合ごとに顔面パンチを出しちゃあ、イエローカードをもらうアイブルにとってはもってこいの日本デビューの舞台だったわけだ。

この時も第一試合に登場したアイブルは相手のレフ・バルカーラのグラ

文／中村カタブツ君
text by Katabutsukun Nakamura



ウンドに一切付き合わず、レフェリーの死角をついて顔面パンチを入れるなどのダーティーな闘いを展開。キレたバルカーラはレフェリーを突き飛ばしてアイブルにハリ手をいれるのだが、逆にアイブルはニヤリと笑うのみ。

明らかに喧嘩なれの差だろう。試合再開後は得意のヒザ蹴り＆ボディーパンチをゴツゴツ入れてあっさりKO。リングス・オランダ特有の喧嘩強さをいかんなく披露したわけだが、この時は寝技ができない荒っぽい打撃系の選手としての印象しか残していないのがたまらなく残念。

そもそもアイブルは97年にヨーロッパ・フルコンタクト空手重量級で優勝した空手家であるが、オランダの空手界とは猛者ぞろいの初期極真會の中にあって“鬼”と形容された黒崎健時という強面中の強面が鍛え上げた、スゴ玉の男たちが群雄割拠する場なのだ。そのオランダで代表となり、ヨーロッパ選手権を制したのだから打撃の威力と喧嘩強さはその時点で申し分なしだ。

そして同じ年、オランダで行われた『フリーファイト・ガーラ』に初参戦。グラウンドありの闘いにも挑み、見事KOで初勝利。6月の第2戦ではパンクラス公式ランキング5位（5月14日現在）のリオン・ダイクにも勝っている。当時アイブルはグラウンドの技術をロクに知っちゃあいないのにだ。

オランダ格闘技界の重鎮にしてリングス・オランダの総帥クリス・ドールマンが「彼の才能は次代のリングス・オランダを背負うに足るものと確信している」とベタ褒めするのもうなづけようというもの。

# 暗黒の暴風雨!!

そして今年4月23日の高阪剛戦である。多少寝技の技術を覚えたところで高阪の勝ちは揺るがないと誰もが予想していたわけだが、アイブルはやっぱり野獣だった。全身のバネを使って一気に飛び込むヒザ蹴りを何度も高阪に叩き込み、グラウンドの展開に持ち込まれても一瞬の隙をついてパスガード（というか、暴れて逃げるだけなんだが）。しかも高阪のバックまで取ったりと寝技の対応も、強引ながらこなすようになったのだ。

技術のなさを天性の身体の柔らかさと運動神経の良さだけでカバーし、高阪のグラウンドをしのぎ切ったのだからそのポテンシャルの高さは底無し。

あの高阪がアイブルの上に乗っても、暴れ回るのを抑えるだけで精一杯だったのだから人間離れにも程があるだろう。

そして、ここでビッグニュース。

6月20日のリングス・オランダ大会においてギルバート・アイブルvsセーム・シュルト戦が決定したのだ。シュルトといえばやはり身長2m10cm。ラジャ・ライオン以来の巨大で、しかも空手ができるパンクラス所属の総合格闘家だ。先日の『パンクラス』のタイトルマッチではグラウンド状態で近藤有己の顔面を蹴ってポイント負けした危険な巨人。

かたや高阪を倒したアイブル、かたや船木誠勝を下したこともあるセーム・シュルトという文句なしの実力者二人が、“リングスvsパンクラス”という飛び切りの付加価値をつけて闘うのだから面白くならないわけがない。場所がオランダというのが残念だが、女房を質に入れても（別れた女房も可？）見にいきたいカードなわけだ。

リングスマット（オランダ大会も含めて）では6戦全勝。その前のキックの試合でも11連勝という“17戦無敗の男”アイブル。

強烈なヒザ蹴りを自在に操ってつぎつぎと対戦相手をKOに追い込む“わがままなヒザ小僧”。

それがギルバート・アイブルなのだ。






**【ギルバート・アイブル戦績】**

▼97年6月29日『FREE−FIGHT GALA』（オランダ）
○対リオン・ダイク（KO）
▼97年11月20日 リングス大阪大会
○対レフ・バルカーラ（10分47秒KO）
▼98年2月8日『FREE−FIGHT GALA』（オランダ）
○対ボブ・シュライバー（2R1分12秒アキレス腱固め）
▼98年6月『FREE−FIGHT GALA』（オランダ）
○対ヴァレンタイン・オーフレイム（36秒KO）
▼98年7月20日『前田日明リングス・ラスト・マッチ』
○対アリョール・ベーコフ（1R2分28秒TKO）
▼99年4月23日 リングス大阪大会
○対高阪剛（19分58秒TKO）


Rickson Gracie
GAIJINさん
IRASSHA~I!!

# 「生きる400(or 450)戦無敗」に
# 遂に『紙プロ』が
# アクセス!!
# Access To Legend

巻末 SPECIAL INTERVIEW

# ヒクソン・グレイシー

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Morry

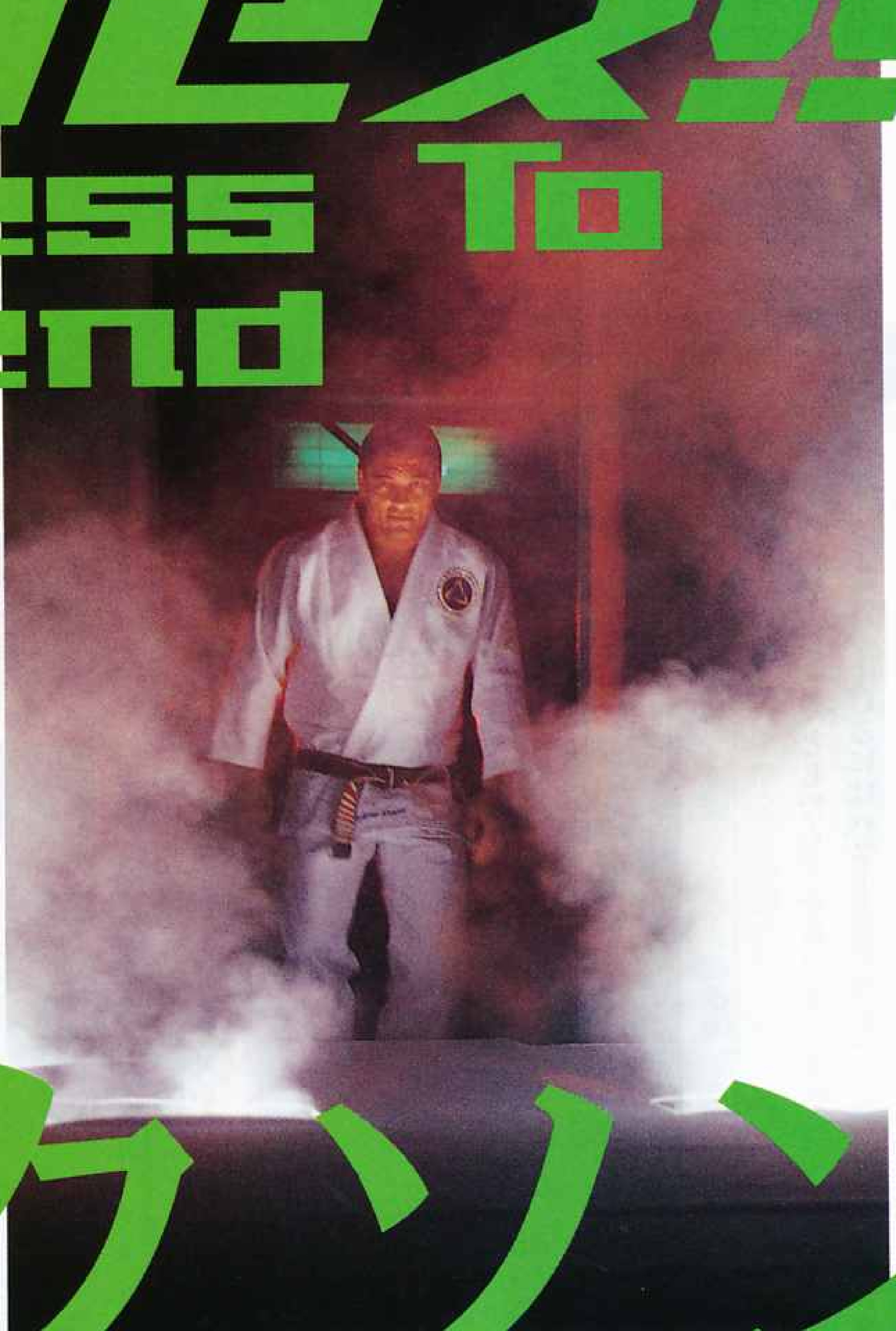
遂に「生きる伝説」とのアクセスに成功した!

ヒクソン・グレイシー。

94年の『バーリ・トゥード・ジャパン94』に初来日。以後、日本では西良典、ダビッド・レビキ、バド・スミス、山本宜久、木村浩一郎、中井祐樹、そして高田延彦に2度勝利を収め、無敗神話を保ち続けている。

いや、日本で無敗どころか、この男は「400戦無敗」あるいは「410戦無敗」、ところによっては「450戦無敗」なのである。

そんなヒクソンが、4・29『PRIDE.5』に柔術のデモンストレーションを行うために来日した。その前日には中日—阪神戦の始球式にまで登場。その始球式が終わった直後にヒクソンの宿泊先を訪ねることになった。試合がないためか、ヒクソンはリラックスした表情で我々を迎え入れてくれたのだった。



――ヒクソンさんは、将来アクションスターになることを目指して、アクターズ・スクールに行ってるという噂を聞いたんですけど、本当なんですか?

R・G　YES.

――目指すアクションスターは誰ですか?

R・G　クリント・イーストウッド、アル・パチーノ、ロバート・デ・ニーロだね。

――日本のアクションスターでは、ソニー・チバ(千葉真一)さんという方が有名なんですが、知ってますか?

R・G　いや、知らない。いくつか日本映画は見たが、名前を覚えているのはトシロー・ミフネくらいだね。

――ヒクソンさんにとって、人前で演技をするということは、どういう意味を持ってるんでしょうか?

R・G　そうだな。人前で演技をするときも、自分自身で全てコントロールできるので、緊張はまったくしない。というより、私は自分をどうやってコントロールすればばいいかということを闘いから学んでるんだ。アクターズ・スクールに通っているのは、ただ演技するために学んでいるということであって、それ以上でもそれ以下でもない。私にとって一番大事なのは、どうやって自分の心と身体をコントロールするかということなんだ。

――ところで、今日は始球式で見事にストライクが入ったらしいですね?

R・G　YES.(嬉しそうに)。

――マウンドからキャッチャーまでの距離は長く感じなかったですか?

R・G　速く投げると球が曲がってしまうから、ゆっくり投げるように気をつけたよ。

――野球はもともと好きなんですか?

R・G　ブラジルはサッカーがポピュラーだから、ベースボールはないんだ。だから昔はよくわからなかったけども、ロスに住むようになってからベースボールを知った。いまはそこそこ興味があるね。

――じゃあ、グラウンドでパンチやっちゃ

**GAIJINさん IRASSHA~I!!**

いけないのは知ってる、と（笑）。

R・G　YES.（笑いながら頷く）。

――これまで何度も来日されてますけど、日本で、ヒクソンさんのよく言う〝サムライ・スピリッツ〟を感じる人に会ったことはありますか？

R・G　もちろん、たくさん会った。名前を挙げるとしたら、まず、Mr.サクライ（桜井章一）。

――雀鬼ですね（ヒクソンとは雑誌などで何度か対談している）。

R・G　そう。マージャンという奥深いゲームの達人だが、彼は素晴らしい人生哲学を持った人物だと思う。格闘家でいえば、サトウ選手（佐藤ルミナ）、ショウジ選手（小路晃）、ナカイ選手（中井祐樹）、他にもたくさんいるが、彼らは非常に素晴らしい〝サムライ・スピリッツ〟を持ってると思うね。

――その中に高田延彦は入らないんですか？

R・G　YES.残念ながら、彼から〝サムライ・スピリッツ〟を感じることはない。

――それは非常に残念です。その高田選手との初対戦のとき（97・10・11）に、ヒクソンさんはもの凄いオーラを発してましたね。敵を威圧するオーラを醸し出すというのもヒクソンさんの戦術のひとつなんですか？

R・G　いや、戦術ではない。もし、オーラのようなものが出ているとしたら、それは自分の中にあるものが自然に出ているだけだと思う。

――2度目の高田戦（98・10・11）のときには、追い込まれたという感覚はまったくないんですか？

R・G　まず、1度目の試合は、彼は非常に混乱しているようだった。2度目は、精神的には準備してきたようだが、彼をテクニックやタクティクスの部分で危険だと感じるまではいかなかった。

――その2度目の対戦では、「ヒクソンのオーラが消えた」という意見もあるんですよ。

R・G　2度目の試合は自分にとって大きな意味を持った試合ではなかった。ただ自分は、ファイターとしてベストを尽くし、勝利を得るということに集中しただけだ。自分の内にある何かを示そうとしたわけではなかったので、そういう感じを受けたんじゃないかな。

――ヒクソンさんにとっては、1度目のほうが意味あいがあったということですね。

R・G　もちろん。タカダについて何も知らなかったので、1度目の試合は何が起こるのかわからなかった。だから、例えどんなことが起きようと対処できるように準備をしていたわけだ。そういう部分でも、2度目と意味あいは違ったね。2度目はタカダを既に知っているし、そんなに変わるものではないと思っていた。例えタカダが変わったとしても、1年間で私を倒せるファイターになっているとは思えなかったしね。

――2度目の対戦のときは、ヒクソンさんの腰が悪かったという話もありましたね。

R・G　腰を悪くしていたのは『PRIDE.4』の前だね。試合のときは万全ではないにしても、まったく影響はなかった。

――1度目の対戦のあと、高田選手の「仇を討つ」と言ったのが前田日明さんなんですが、前田日明にはズバリ言ってどういう印象を持ってますか？

R・G　もちろんリスペクトしている。もう引退したと聞いているが、日本でマエダ選手はとても人気があるし、多くの闘いの経験も積んでいると聞いている。でもこの先、マエダと私が闘うという事態は起こらないので、多くを語る必要はないと思う。

――前田選手と闘いたいと思ったことはあるんですか？

R・G　自分はどんなファイターとでも闘う準備はできている。もしもマエダ選手との闘いが実現したとしたら、それはよいイベントを作り上げるにはベストな試合になっただろうね。だが、今後の自分の闘いという部分では、マエダ選手のことは置いて考えなければならないだろう。引退した選手と闘うことはないだろうからね。私は私で違う相手とベストな試合をすることを考えていきたい。

――ヒクソンさんは、仇討ちやリベンジに、まっ先に手を挙げるタイプですか？

R・G　それは情況によるね。その人間がベストを尽くして負けた場合は、私がリベンジに立ち上がる可能性はあるけど、その人間がミステイクを犯して負けた場合は、「お前がもう一度やれ」と言うよ。

――話は変わりますが、『PRIDE』に参戦を表明した小川直也選手は知ってますか？

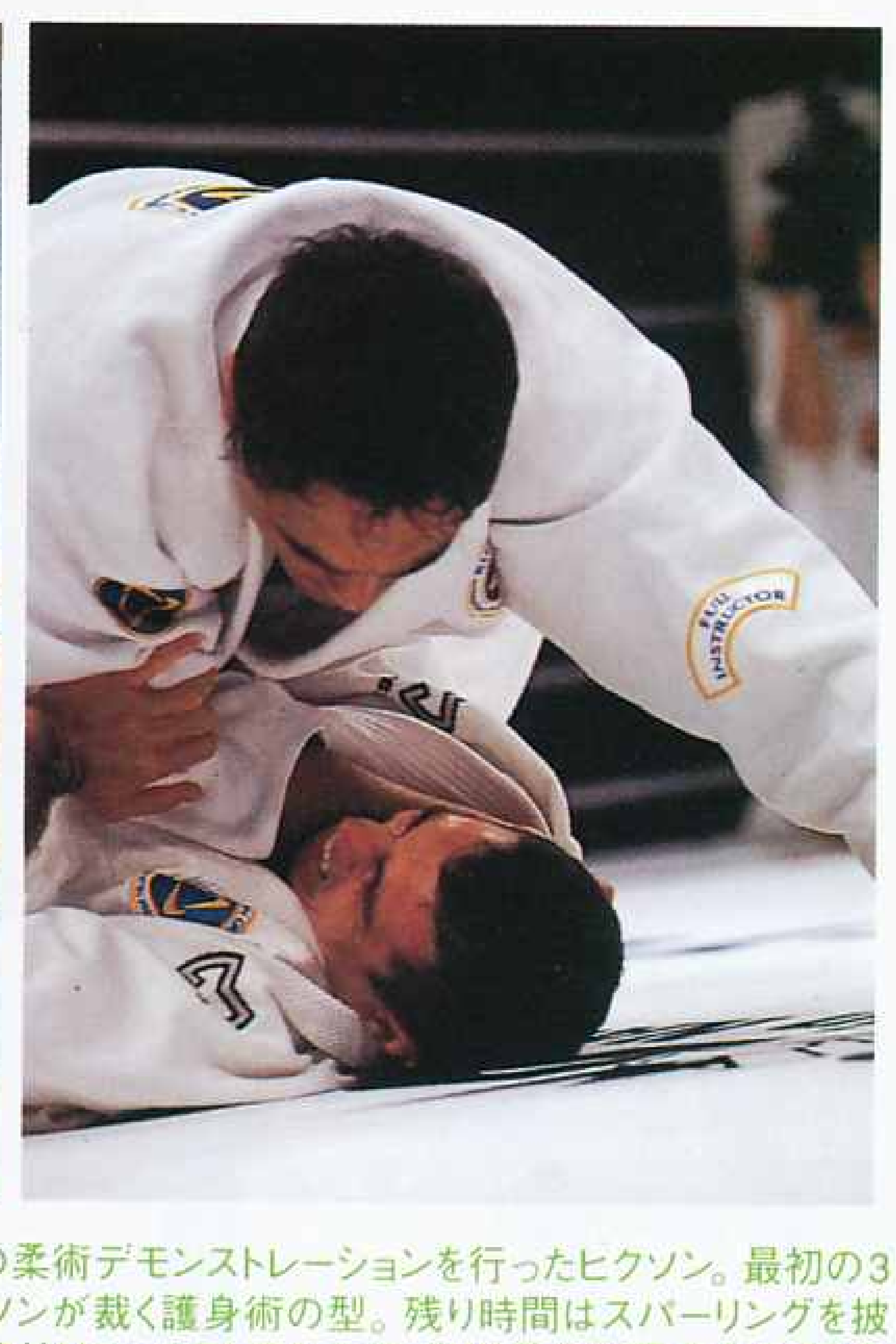
R・G　彼は素晴らしい柔道の選手ということは知っている。パワフルだとは思うが、私はバーリ・トゥードのルールで彼が闘うところを1度も見たことがない。スピリットとテクニックと肉体的な面を兼ね備えていて、総合的に闘える選手かどうかということまではわからないね。

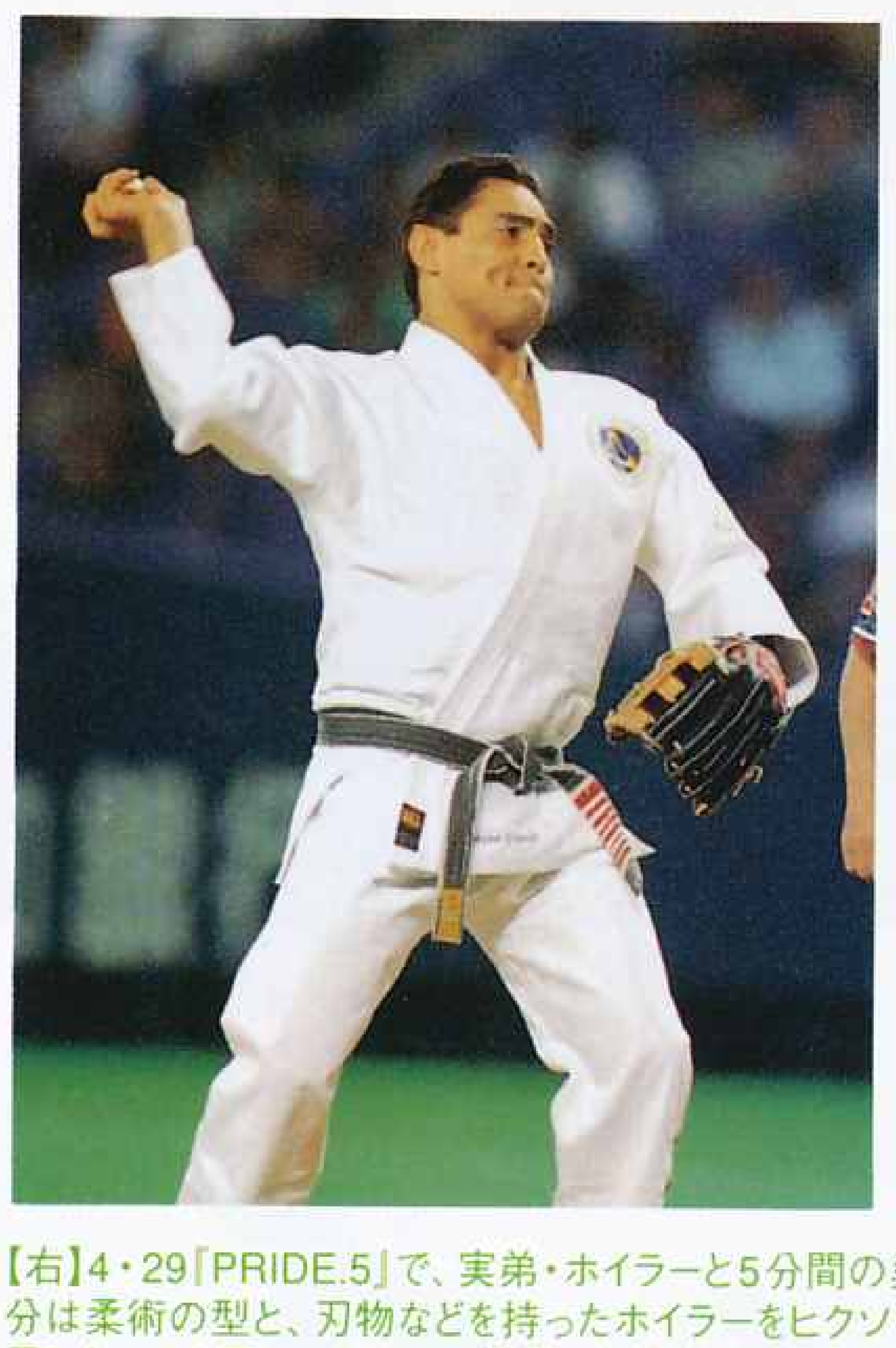
――柔道は近代スポーツですよね。スポーツと武道の違いを敢えて言うとしたらどういうところですか？

R・G　スポーツというのは、勝つために

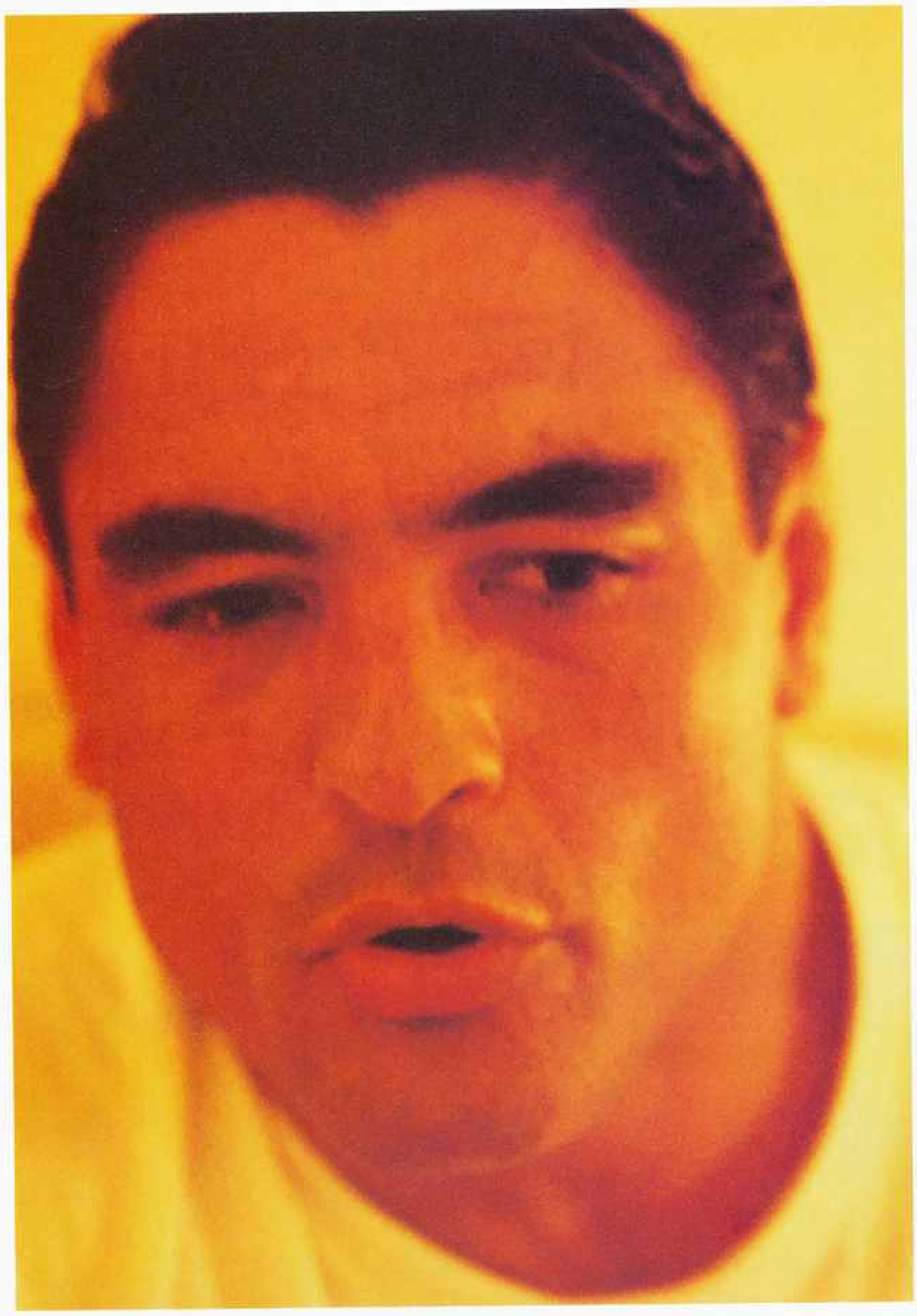
**Rickson　Gracie　INTERVIEW**

## Rickson in 4.28&4.29





【右】4・29『PRIDE.5』で、実弟・ホイラーと5分間の柔術デモンストレーションを行ったヒクソン。最初の3分は柔術の型と、刃物などを持ったホイラーをヒクソンが裁く護身術の型。残り時間はスパーリングを披露した。この日のヒクソンは花道でも笑顔を見せ、終始リラックスしていたが、小川直也が花束を渡すときだけはヒクソンの周囲にもピーンと張りつめた空気が漂った。【左】前日の4・28にはナゴヤドームの中日―阪神戦の始球式に、なんと「依（ぎ）」を着て登場した。このときはアクターとして投げたのか格闘家として投げたのか、それが気になる。



自分の〝動き〟のセンスを高めて発展させていくもの。武道は勝つための〝考え〟を発展させていくものだろうね。

――柔術の試合で、グレイシー一族とひと括りに呼ばれるホイラー、ホイス、ヘンゾと最近立て続けに負けてますね。

R・G　彼らはとてもよいアスリートだよ。人はたまには負けることもある。私は普段、彼らとトレーニングをしている。彼らが何をしてくるか、彼らの動きを読むことができる。彼らと自分は同じテクニックを持っているはずなんだ。なのに、私だけそういうことができるということは、何かが私に特別な才能を与えてくれてるんだと思うね。闘いというのは、単に技術だけではない。また、単に肉体的なものだけでもない。単に精神的なものでも、心理的なコントロールだけが大事なわけでもない。全てを合わせたものが闘いなんだ。

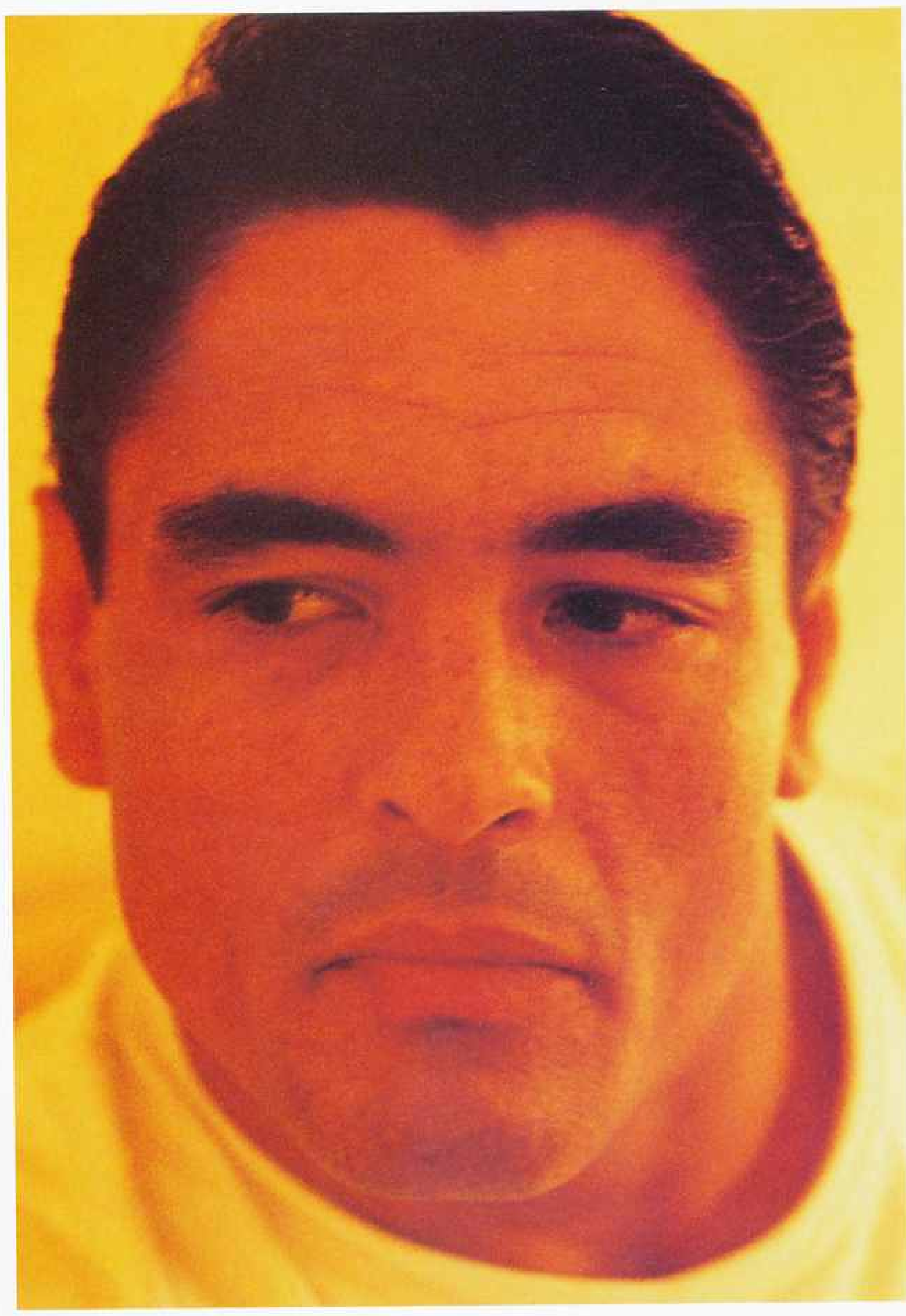
――日本では「グレイシー一族の危機だ」と一部では言われてます。ヒクソンさんには危機感はありますか？

R・G　NO．グレイシー・ファミリーはとても大きいファミリーだし、日ごとに新しい選手が育っている。負けている人間は、いま困難な時期にぶつかっているだけなんじゃないかな。

――ヒクソンさんに聞くのは妙かもしれないんですが、ブラジル勢の中には「負けないようにする」闘い方をする選手がいますよね。そういった選手が、自分から勝ちに向かって行かないのはなぜですか？

R・G　これは個人的な意見だが、私はブラジリアン・ファイターというカテゴリーで見てはいない。ブラジル人だろうが日本人だろうが、個人として見ている。それから闘い方の問題だが、敵のミスを見つけるためにディフェンスに徹しなければならないときもある。アグレッシブになることも必要だが、アグレッシブに向かって行くだけのファイターは、仮に10回試合をやったら8回は勝つかもしれない。だけど、2回は負けるだろう。10回とも勝つには、どれだけ自分のディフェンスとオフェンスのコンビネーションを取れるかを考えられるかにかかっている。

# （小川は）パワフルだと思うが、総合的に闘える選手かどうかはわからないね



――ギャンブルはしないということですか。

R・G　重要なことはどれだけ賢く闘うか、だ。例えばステロイドを打ってる人間は、例えそのときは強くても、何年かあとには健康を失ってしまう。それからもわかるように、ただ〝向かって〟行くだけではダメなんだよ。

――なるほど。非常に単純な疑問なんですけど、いまのヒクソンさんの肩書きは、柔術家、バーリ・トゥーダー、マーシャルアーティストのうち、どれですか？

R・G　マーシャルアーティストだ。なぜなら、自分の人生は全て格闘技なんだ。教えるときも、自分が闘うときもあるが、全てが格闘技に直結してるからね。

――そのマーシャルアーツのプロフェッショナルとしてリングに上がってますよね。

R・G　1年中、プロフェッショナルのファイターというわけじゃないけどね。

――ヒクソンさんのプロフェッショナルの定義というのはどういうものですか？

R・G　この仕事でマネーを得ることだね。

――そのお金の部分を除くと、例えば見にきたお客さんに何かを与えたいというタイプの選手と、徹頭徹尾、勝利に固執する選手、乱暴に分けると二通りのタイプがあると思うんですよ。ヒクソンさんはどちらですか？

R・G　私は、観客を気にしたことはない。闘いに集中しているからね。

――アントニオ猪木さんと対談したことがありますよね？

R・G　YES．彼のことは非常にリスペクトしている。

――その猪木さんが、「自分が計算していたことが途中で狂ってしまうと、それがストレスになる人間」と、「計算が狂ったら狂ったで『それも面白えじゃねぇか』と思える人間」、人間にはその二通りがあると言うんです。ヒクソンさんはこの二つだと、どちらのタイプですか？

R・G　おそらく自分は三つ目だろうね。自分がプランを立ててできなかったときは、

GAIJINさん IRASSHA~I!!

できないなりにベストを尽くす。そして自分が定めたゴールに向かって他のやり方で対応していく。もし、自分の計画どおりにできなくても、それを恥じたりはしない。

──なるほど、三つめのタイプですか。その猪木さんもヒクソンさんを認めてるんですね。ただ、「ヒクソンは日本では有名だけど、アメリカでは知名度が低い。もっとUFCでもなんでもブッ飛ばしていけば、世界が認めてくれる」と豪快に言ってたんですけど（笑）。

R・G　ホイスがUFCを去ってから、UFCはどんどんレベルが下がっているし、まったく魅力を感じない。UFCは私に対して、なんの興奮も与えてくれない。

──技術的なレベルが低いってことですか？

R・G　いや、イベントとしてのレベルの問題だ。

──ヒクソンさんは、猪木さんが言うように、もっと世界的に自分の知名度なりを広げていくという欲望はないんですか？

R・G　自分の名前というよりは、柔術を広めていきたい。でも、UFCに出て名前を広めようとは思わない。なぜなら、それはホイスが既にやってしまったことであって、自分は大きな柔術のアソシエーションを持っている（ヒクソン・グレイシー柔術アソシエーション）。セミナーも開いていくし、他の面で柔術を広めようとしているからね。

──いまヒクソンさんのファイトマネーは、おそらく日本でしか払えない額だろうと言われてますね。

R・G　それはプロモーター次第だろうね。プロモーターがどれだけ私を理解してくれているかに懸かってるんじゃないかな。

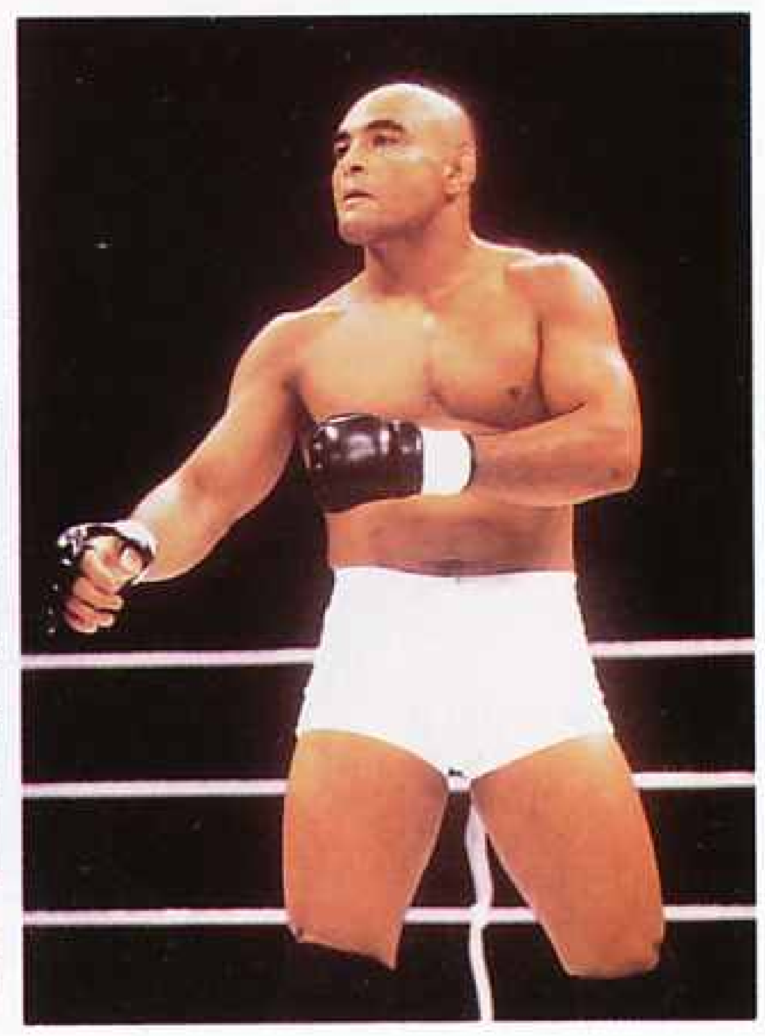
──ところで、ヒクソンさんが強いということは誰もが認めてますが、キャッチコピーとして「400戦無敗」と「450戦無敗」というのがあるんです。実際どっちなんですか？（笑）。





"世紀の敗戦"からちょうど1年。同じ日、同じ場所で、再度、高田がヒクソンに挑んだ。四つ相撲の体勢から膝を当てられて、ヒクソンもかなりの疲れた表情を見せていた。一度はダウンのシーンも見られたが（ヒクソン本人は「自分から寝技に引き込んだ」と否定）、1年前と同じ逆十字でキッチリとフィニッシュ





97・10・11、東京ドーム──。ヒクソンは、野武士的なたたずまいを持ってリング上で高田延彦と対峙。高田は、さまざまなものを背負ったプレッシャーと、圧倒的なヒクソンのオーラの前に、ヘビに睨まれた蛙状態となって、なす術なく敗れた。ヒクソンの「生きる伝説」ぶりはこの日からさらに過熱していった

## 400戦だろうが500戦だろうが、数にはこだわっていない。ただ、25年間負けたことはない

R・G　私は400戦だろうが500戦だろうが、数には全然こだわっていないよ。ただ、言えることは、私はいままで負けたことがない。そしてこれからも闘っていく準備はしている。だから、その数にはなんの意味もない。

──数が違うのは、単にマスコミがいい加減だからだということですか（笑）。

R・G　人というのは自分たちが訴えたいことばかりを言うからね（微笑）。

──佐山聡さんが最初にヒクソンさんと会ったときに「400戦ぐらい負けたことがない」とヒクソンさんに聞いた。そのときに「よし、それで行こう」と思って、「400戦無敗」と付けたと佐山さんが言ってるんですよね（笑）。

R・G　私は実際、この25年間、1回の引き分けもない。自分自身がカウントすることは不可能だから、「400戦ぐらいかな」と言っただけなんだよ。

──それを佐山さんがプロモーションしたということですね（笑）。大昔に2敗したと何かに書いてあったのを読みましたけど。

R・G　ハッハッハ。それは6歳と14歳のときの柔術の試合のことだよ。14歳のとき以来、負けてはいない。

──いまとなっては、その2敗は非常に貴重ですね（笑）。

R・G　負けたときは、なんとも思わなかったけどね。というより、子供心に悔しいと思って、自然とトレーニングをハードにして、強くなっていったんだろうね。

──今年は10月に試合をやるんですか？

R・G　いまはロスのほうで、自分の組織の中で大きなプロジェクトが動いているんだ。これからは世界中を回ってセミナーを開くことになると思う。いろいろやらなければならないこともあるから、試合をやるかどうかはまだ決めてない。が、2～3ヵ月以内には結論を出すと思う。

──日本の選手だと、エンセン井上、船木誠勝、そして小川直也らがヒクソンさんの相手として候補に上がってます。この中で誰か対戦したい選手はいますか？

R・G　特にはいない。誰とでも闘う準備もできているし、対戦相手を決めるのは自分ではなく、プロモーターだからね。試合が決まったら失望させないようにベストを尽くしてファイトするだけだよ。

──試合でも始球式のようにストライクを入れてくれるということですね（笑）。

R・G　そういうことだ（微笑）。

**【4月28日／名古屋観光ホテルにて収録】**


通訳を挟んだ正味40分のインタビューの間、ヒクソン・グレイシーは、やっぱりヒクソン・グレイシーだった。彼の話す内容はいつも同じトーンである。それが「生きる伝説」たる所以なのだろうか。

こうなると、違うトーンのヒクソンを見たくなるのが人の情けというもの（で、いいのか？）。

取材翌日に小川直也と握手した感触はどうだったのか？　桜庭vsビクトー戦をどう見たのか？　高田の復帰戦は？　エンセンの印象は？　今回の来日では確かめられなかったが、『PRIDE』自体のプレートが動き始めている現在、7・4の『PRIDE.6』を分岐点にヒクソンの周辺もまた騒がしくなるはずだ。そのときにまたゆっくりと時間を取って話してみたいものである。

ところでヒクソンのトーンを崩すという贅沢な瞬間を見せてくれるのは一体誰なのか？　小川か、船木か、エンセンか、それとも高田の3度目か──。願わくば、それが日本人であってほしい。

無敗の王者に敬意を表しつつ、潰しに行く奴、出てこ～い！（オーちゃん調）。


RICKSON GRACIE

# PURE-JAYKO PURE-PRESENTS JWP

## ジャイ子のワンダフルなプレゼントコーナー

みんなー、ピュアなハートを忘れてないかい？　あ、失礼。ムダに徹夜してハイテンションになってしまいました。取って付けたようだけど、今回もピュアハートでプレゼントを集めたのでピュアなキッズたち、応募待ってるよ。ところでピュアってなに？　おいしい？
（ジャイ子）

### エンセングッズ大集合!!




**エンセン井上サイン入りMDプレイヤー　1名様**
大宮ジムのビンゴ大会で本誌坂井ノブがゲット！　取材に行った身でビンゴに参加するのもどうかと思うけど、提供してくれたし、参加費払ったらしいので礼を言おう。ありがとう、エンセン！
【エンセン井上or坂井ノブ提供】




**大宮ジム新作Tシャツ　各１名様**
ついに登場！　男になりたいＴシャツ（白もアリ）、奇人Ｔシャツ、エンセンロゴＴシャツ、大和魂Ｔシャツ、修斗くんＴシャツで～す。男になりたいＴシャツ、奇人Ｔシャツは4000円、他は3000円で絶賛発売中。お問合わせはイーフォースジャパン☎047-378-6403まで。
【イーフォースジャパン提供】



**大宮ジム4選手サイン入りＴシャツ　3名様**
エンセン井上、朝日昇、加藤哲史、池田久雄の大宮ジム4選手サイン入り超豪華Ｔシャツをプレゼント。ほかにも新日、WCW、シューティンググッズがそろったワールドスポーツプラザは渋谷のファイアー通りにあります。お問合わせは☎03-3462-1001まで。
【ワールドスポーツプラザ提供】

### 祝・3周年バトバトグッズ大集合!!




**バトバトニューグッズ　各１名様**
バトバト３周年を記念してニューグッズがズラリと登場。バトマークＴシャツ、大ちゃんＴシャツ、４年目記念Ｔシャツ、キャップ、ワッペンで～す。個人的には「ぼてくりブルース」が非常に気になるところですが、みなさんどうでしょう？
【格闘探偵団バトラーツ提供】



**ザ・グレート・サスケ　アクションフィギュア　1名様**
ジャジャーン！　サスケ社長がこんなカッコいいフィギュアになりました。手足は可動式なのでカッコよく飾るもよし、恥ずかしい格好をさせるもよしのお得な一品です。どうする？　定価1万2千円で絶賛発売中。通販も受付中で～す。お問い合せはインスパイア☎0356709283まで。
【インスパイア提供】

### 新作ビデオ大集合!!




**『フェニックス～VERY BEST OF HAYABUSA』　2名様**
ハヤブサ初のオリジナル・ヴィジュアル・ビデオが完成！「ハヤブサ超必殺技大事典」「ハヤブサヒストリー」「ハヤブサin台湾」などのコーナーに釘付けになること間違いなし！　オマケに衝撃映像・素顔の江崎からハヤブサへの変身シーンも収録。見るっきゃない！
【東芝EMI提供】




**『サスケの新たな旅立ち』インパクト編、歴史編セットで　1名様**
この二本を見ればみちプロの流れがバッチリ掴めちゃいます。『歴史編』は98年～99年３月までの波瀾万丈のみちプロを振り返った一本。『インパクト編』はマジックマン迷場面集、変な覆面レスラー大集合他、愉快な企画満載。見たいでしょ？
【ピクソン提供】



**『PRIDE.5 in nagoyaオフィシャルビデオ』発売記念キーホルダー　5名様**
早くもビデオで登場！　全国のローソンで５月31日まで予約受付中（もちろん特典付き！）。試合前後の独占インタビュー、大会前のトレーニング風景など、このビデオでしか見れない秘蔵映像満載！　定価9500円で6月16日一般発売！
【メディアファクトリー提供】



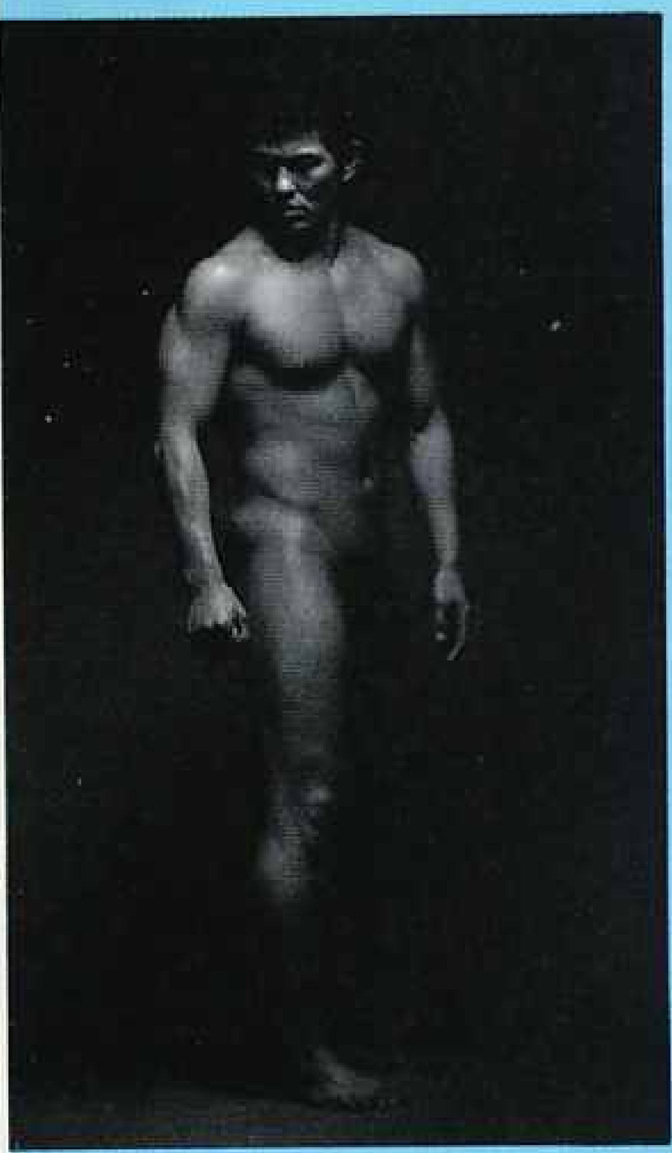

**『激震！新日本世紀末決戦！』『革命戦士長州力'87世代闘争の奇跡』『新革命戦士長州力'88～'91』　各２名様**
99年2月5日、6日札幌大会、14日武道館大会、マサ・サイトー引退興行を収録、もちろん大仁田の乱入シーンもバッチリ入ってる『激震！新日本世紀末決戦！』、87年2月の失踪から10月の復帰までを追ったドキュメントビデオ『革命戦士長州力'87世代闘争の奇跡』、88年から91年の長州ビデオ復刻版。猪木戦、ベイダー戦、オリジナル・ロングインタビューも収録の『新革命戦士長州力'88～'91』、どれも見逃せないね。
【東芝EMI提供】




**アントニオ猪木サイン入り猪木＆ルー・テーズポスター　1名様**
本誌ＳＶ吉田豪が『Tarzan』（マガジンハウス）取材時にゲットした、泣く子もだまる鬼レアグッズ。たまたま機嫌がよかったので提供してくれましたぁ。
【吉田豪提供】




**『IWGP列伝PART9』『NWO JAPAN Vスペシャル２』『天山広吉＆小島聡特集』『蝶野復活！』　各３名様**
大好評IWGP列伝シリーズの最新作！　第20代王者佐々木健介～24代王者武藤敬司までの選手権試合を一挙収録の『IWGP列伝PART9』、武藤＆小島によるスペシャルトーク、武藤のミネアポリスでの独占インタビュー、もちろん試合も満載な『NWO JAPAN Vスペシャル２』、NWO新世代コンビ天山＆小島の若手時代の貴重な映像、インタビュー、もちろん試合も大収録の『天山広吉＆小島聡特集』、復帰後の蝶野を追った『蝶野復活！』もちろん独占インタビューも収録です。アナタはどれが見たい？
【VALiS提供】



**鈴木みのる写真集『PROVE』発売記念ポスター　5名様**
キャーッ！　マグナムＴＯＫＹＯもビックリ？　鈴木みのる選手のセクシーなハイブリッド・ボディーが炸裂してま〜す。グフフほかにはどんなショットがあるんでしょう？　楽しみですねぇ。祥伝社より3800円で絶賛発売中！
【ビオン提供】




**ノーザンライトＴシャツ４種　各１名様**
本誌16号で大好評だったノーザンライトから新作が登場。今回はＳＷＳの白、ダイナマイト・キッド、阿修羅原、アルティメット・ウォリアーです。通販も受付中、お問合せはノーザンライト☎0422-20-9567まで。ホームページはhttp://www.ask.ne.jp/~nort/nwa.htmで〜す。
【ノーザンライト提供】




**PUNK DRUNKERS Ｔシャツ　各１名様**
国技Ｔシャツ、平常心Ｔシャツ、シュートボクシング協会Ｔシャツの３点。ＳＢＴシャツは会場限定カラーです。こちらの商品は千葉県柏市柏3-4-1石井ビル2ＦのTIME-SHOCKで扱ってます。通販も受付中。お問合わせは☎0471-67-3010まで。
【PUNK DRUNKERS提供】



**修斗**
**『The 10th Anniversary』Ｔシャツ　１名様**
オシャレキッズに大人気の修斗からは、５月29日の横浜文化体育館大会から限定発売される10周年記念Ｔシャツを。定価4000円で〜す。
【サステイン提供】




**ヒクソン・グレイシーサイン色紙、サイン入りポストカード　各３名様**
とってもシンプルなこの色紙はヒクソンさんのサイン。読めないけど、シンプル・イズ・ベストっちゅうことです。わかった？　ドリームキャストのポストカードにもサインしてもらいました。どっちが欲しいか明記してね。
【ヒクソン・グレイシー選手提供】




**水道橋博士サイン入り『ASAKUSAファイト』　30名様**
最近ではターザン山本乱入でお馴染み、浅草お兄さん会発行の『ASAKUSAファイト』をわざわざ博士が持ってきてくれました。いいでしょ。博士の日記が読めるホームページと合わせて必読！　アドレスはhttp://www02.so-net.ne.jp/~a-kid/で〜す。
【水道橋博士提供】




**フランク・シャムロックキャップ　１名様**
シャムロックの彼女が被ってたキャップをチョロが無理矢理いただきました。彼氏の名前入りキャップを被るなんて、さすがアメリカ〜ン！【フランク・シャムロックの彼女orチョロ提供】




**密売KGYダビッドソン『EARLY VIRGIN GIRL』　10名様**
本誌元スタッフでもあり、今号から復帰のデザイナー、『蒲田くん』ことトメオ兄さんのお見合い写真ジャケが秀逸なアルバム。メンバーは、Dr.トメオ、G.本誌絶賛非番中・ヤギケン、B.ヤマケンジム会員・もんち、Vo.KGYで〜す。KGYって誰だ？　外人か？
【密売KGYダビッドソン提供】



モデル・いつもプンプンのアングリーさん

**ニコニコファミリーＴシャツ　２名様**
アングリー、ニッコリー、クライのニコニコファミリーが団子になっちゃいました。腹ペコな貴方に。ジャイ子はアングリーさんのこと、ハングリーだと思ってて怒られちゃいましたぁ。こちらのＴシャツのお問合せはキャプチャー☎044-959-3333まで。ジム生も絶賛募集中で〜す。
【キャプチャー提供】

モデル・ちょっぴり照れ屋の菊澤光信さん



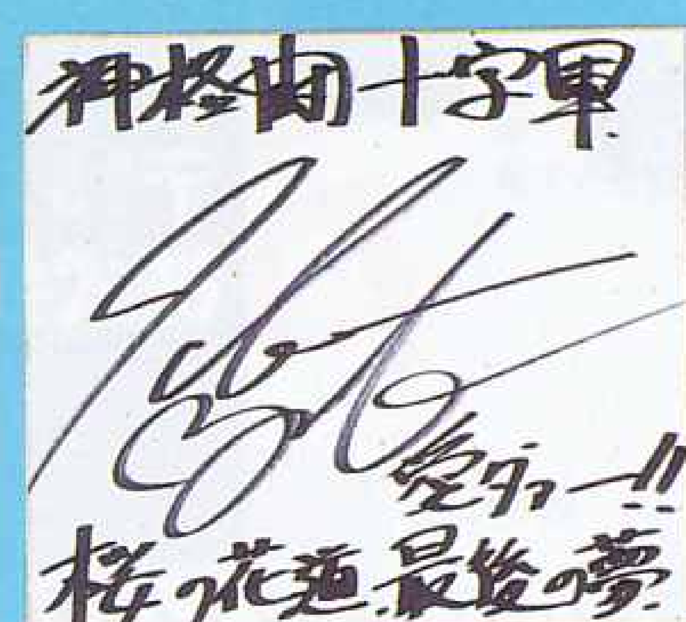

**ＥＣＷ Ｔシャツ　１名様**
ＤＤＴの菊澤選手が買付けしてきたレアＴシャツをいただいちゃいました。ホームページ「菊澤商会」ではいろんなグッズの通販もやってまーす。アドレスはhttp://www.os.xaxon.ne.jp/~kiku/index.htmです。菊澤選手の日記も読めるよ。
【菊澤光信選手提供】



**サバイバル飛田フィギュア　１名様**
みちプロ参戦で時の人となった飛田選手のフィギュア……じゃないような気がするんだけど、本人がそう言ってたのでそうなんでしょう。ヴァーゴンに続く選手（or猿人）は見つけられるんでしょうか？と思った矢先にコンビニ強盗との対戦決定という情報が入ってきましたぁ。乞うご期待。
【サバイバル飛田選手提供】




**つぼバカ一代、あしたのツボ２バッジ　各５名様**
６月１日、北沢タウンホールでの旗揚げ戦も迫ったつぼプロモーション特製非売品バッジ。小坪選手本人も持ってない激レアグッズ。旗揚げ戦ではまたまたトンチのきいたグッズを発売予定。気になるかたは会場へ。もちろん試合も必見だよ。
【つぼプロモーション提供】




**矢口壹琅サイン色紙　１名様**
愛を語らせたら右に出る者はいないと評判の矢口選手から愛のこもったサイン色紙をプレゼント。みんなで愛を叫べ！　そして呼べ！（ドリカム調）【矢口壹琅選手提供】

**ミル・マスカラスサイン色紙　３名様**
CMLLの８月シリーズに参戦決定のマスカラスさんからサイン色紙を。興行日程は８月８日京都KBSホール、10日クラブチッタ川崎、13日後楽園ホール、14日名古屋レインボーホール、15日大阪IMPホールです。
【ＣＭＬＬ提供】




**『オーバー・ザ・シュート最強プロレス＝格闘技読本』　５名様**




Show氏監修の豪華インタビュー本。破壊王、高田延彦、小川直也、アントニオ猪木、ジャンボ鶴田と並んで本誌山口日昇までインタビューされちゃってます。
【メディアワークス提供】

## 応　募　要　項

みなさ〜ん、希望商品は決まりましたか？
決まった人はハガキに右側の要領で記入の上送ってね。6月20日必着。OK？
※応募券のないハガキは無効。わかったぁ？　ジャイジャイ。
宛先は
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「落差のある人生はぜいたく」係まで

応募券

1. 郵便番号・住所・電話番号
2. 氏名　3.年齢・職業
4. 希望商品
5. 面白かった記事&その理由
6. つまらなかった記事&その理由
7. 『PRIDE.0』（P118〜）の勝者は誰？
8. 小川直也選手に上がって欲しい団体&その理由
9. 小川直也選手と闘って欲しい選手&その理由
10. 『紙プロ』に載せて欲しくない団体&その理由




**日明兄さんサイン入り『デラべっぴん』　１名様**
本誌山口日昇が前号取材時に日明兄さんにもらったものですが、山口日昇が使い終わったため、プレゼントします。こちらの応募は全国の山口君（女子も可）に限らせていただきま〜す。
【山口日昇提供】

# 紙のプロレス T-shirts

## スタンダードTシャツ新登場！

**要望の多かった赤TシャツのSサイズが新登場！　女の子でもジャスト・フィット！**

**Q.** さっそくですが間違い探しです。この2つのTシャツの中から間違いを探して、すべて挙げてください。




本家・『紙プロ』Tシャツ（レッド）

BACK




元祖・新日Tシャツ

**A.** 必死になって「ライオンマークが人になってる」「丸の中の文字が違う」「背中のところに四角いロゴが入ってる」「新日の方がかっこいい」「いやいや、『紙プロ』のもかっこいい」「『紙プロ』Tシャツってたしか、イエローとネイビーもあったよね？」「¥3500って高いのかな？　安いよね？」「っつうか、『岡本魂』Tシャツって売り切れたの？」「どうやらチャンピオン東京店に若干残っているだけらしいぞ」などと、いろんなことを考えながら間違いをさがしてくださった皆様、お疲れさまでした。正解は1つの間違いだけです。え？　うそつくなって？　だって、この2つを比較して間違い探しをやってるわけじゃないですもの。「この2つのTシャツの中から」だからね。この2つのTシャツの中に間違いは1カ所だけ！　それは各自調査。次回出荷分からは直っているかもしれないので、将来、初回出荷分は高値で取引されることになるでしょう。というわけで、『紙プロ』Tシャツは、お早めにお買い求めください！



イエロー　　ネイビー

全カラー、S（レッドのみ）M・Lとも **¥3500**（送料¥500）

## 通信販売の方法だす!!

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーもね！）を明記したメモを忘れずに同封してください。これがないと商品が発送できませんので十分にご注意を。すでに猛烈な勢いでバカ売れ中なので即ゲットが鉄則！　通販以外では「チャンピオン東京店&大阪店」と「リングパレス」で販売しているのみです。なお、新日のTシャツは小社では通販しませんのであしからず。

**〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702**
**株式会社ダブルクロス「紙Tヘックション通販係」**

【お客様お問い合せダイヤル】
**03-3403-5188**

岡本魂Tシャツ&バトラーツTシャツの通販受付は終了いたしました。チャンピオン東京店に若干残っているのみです。


紙のプロレス RADICAL

No.18

1999年6月25日発行

定価：本体743円＋税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）

編集兼発行人：山口日昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロ／八木賢太郎（ツアーの準備で非番）
スーパーバイザー：吉田豪
風雲！　広告嬢：佐藤恵美
助っ人：ジャイ子／恒遠バカツネ／中村愚乱／青柳スコラ氏／阿部哲也
デザイン：ツー・スリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、セッキー&グッチー）
早乙女の事務所（トメさん&はなえちゃん）
カメラマン：斉藤ユーリ／遠藤政文／森鷹博／戸成ぶつぞう／大森大祐
試合写真：平工幸雄／長尾迪
お勘定：林ヘックション一枝
ごはんとタマゴ：中村カタブツ君（36歳）
フィニッシュ：ツー・スリー／早乙女の事務所
印刷：図書印刷株式会社
印刷人：大杉すぎすぎ昌也




編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてね。ジャイジャイ。

**No.19は6月下旬発売予定!!**
**あとは各自調査!!**
※地域によっては3〜4日発売日が異なります

# 第2回 世界の時計市

アンティークから
現行品まで

## 5000点以上が勢揃い!!

ロレックスやオメガから
ブランド品時計まで
アンティークから新品までの
世界の腕時計が5000点以上
勢揃い。



❶K18WG パテック フィリップダイヤ取り巻き
（新品同様）¥880,000
❷エベル（ダイヤ取り巻き SS/クオーツ）
¥298,000



❶ブルガリ ブルガリ
（K18YG/クオーツ）¥380,000
❷クレドール
（K18YG/クオーツ）¥148,000

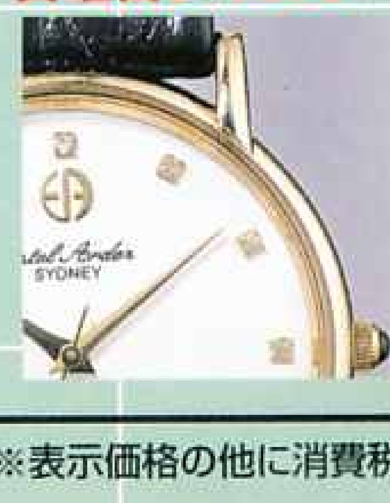


●オメガ（手巻き）¥20,000
●オメガ（手巻き）¥20,000
●オメガ（手巻き）¥20,000



❶ROLEX 6917（ピンク）¥260,000
❷カルティエ（コンビ　クオーツ）¥175,000
❸ブルガリ（コンビ　クオーツ）¥325,000
❹K18WG ピアジェ（手巻き）¥1,450,000
❺K18WG LONGINES（手巻　未使用）¥158,000
❻グッチ6300L（クオーツ）¥29,800
❼ROLEX（1960年代）¥168,000
❽カルティエ　サントス（コンビ）¥168,000

**日曜日タイムサービス（30日）**
**12時～**



限定各30本
¥5,000
白文字盤ダイヤ入り
（紳士・婦人）

**オープニング 限定品**

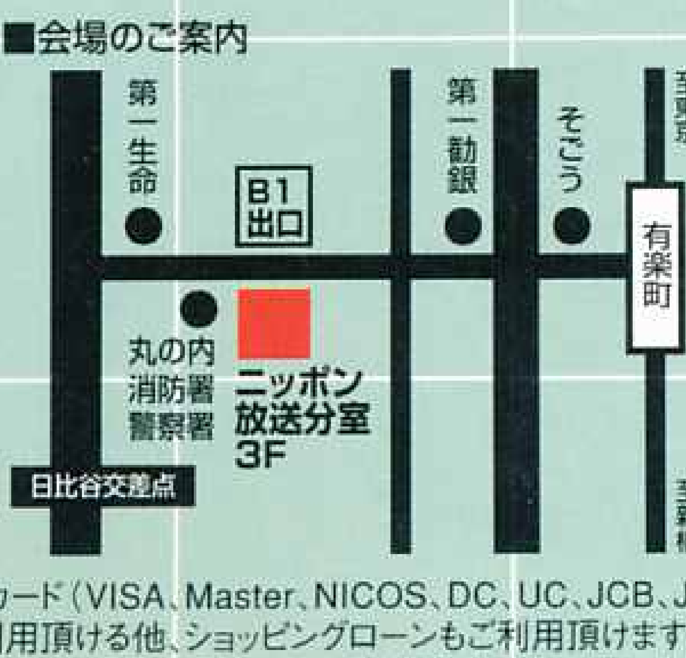



★ROLEX 10ポイント 69173G
¥350,000

※お一人様一本に限らせて頂きます。

5月28日（金）・29日（土）・30日（日）
10時～19時（最終日のみPM17:00まで）
ニッポン放送有楽町分室3F　銀河スタジオ
主催:ニッポン放送
協力:喜久屋商事（株）/（株）クリーン・エスケー/（株）メカ/アルファオメガ/スイートロード/アンチックハウス/ベティロード/ノース・ビレッジ/ カージデュエ

■会場のご案内




各種カード（VISA、Master、NICOS、DC、UC、JCB、JACCS）がご利用頂ける他、ショッピングローンもご利用頂けます。
お問い合せ:03-5500-1726　ニッポン放送（10時～17時　土日祝除く）

ニッポン放送

※表示価格の他に消費税5%を頂戴致します。

ﾜﾆのﾌﾟﾛﾚｽ WANIMAGAZIN MOOK 109 RADICAL 1999 No.18 サクラバが変化!!!
平成11年6月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体743円＋税



雑誌 69862-09
ISBN4-89829-560-6
C9476 ¥743E
9784898295601
1929476007438
印刷：図書印刷株式会社

# 感じたら殴り込め!! マット界に風穴を開けろ!!




小川直也PRIDE.参戦&アレクサンダー大塚海外ムシャシュギョー&村上一成遅ればせながらUFO入り
記念ポートレート


ゴン


蘇った
原始猿人
ヴァーゴ